

茨城県教育財団文化財調査報告第427集

ついで  
築地遺跡  
みやほらまえ  
宮原前遺跡 2

一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 30 年 3 月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所  
公益財団法人茨城県教育財団







築地遺跡 A区全景（南から）



築地遺跡 出土縄文土器



## 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴って実施した、茨城県常総市築地遺跡、宮原前遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、築地遺跡では縄文時代を中心とした竪穴建物跡や多数の遺物が出土し、縄文時代の集落であることが明らかとなりました。また宮原前遺跡では、平成21年度の調査につづき、平安時代の竪穴建物跡や井戸跡などが確認できました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大なる御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、常総市教育委員会をはじめ、御指導、御協力いただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成30年 3月

公益財団法人茨城県教育財団  
理事長 野口 通



## 例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成26年度、平成27年度に発掘調査を実施した、茨城県常総市大輪町字築地754番地の1ほかに所在する築地遺跡及び茨城県常総市大生郷町字宮原前3448番地ほかに所在する宮原前遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

### 築地遺跡

調査 平成26年4月1日～10月31日

整理 平成28年4月1日～平成30年3月31日

### 宮原前遺跡

調査 平成26年4月1日～10月31日（第1期）

平成27年2月1日～3月31日（第2期）

平成27年4月9日～4月30日（第3期）

整理 平成29年7月1日～11月30日

- 3 発掘調査は、調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

### 平成26年度

首席調査員兼班長 酒井 雄一

次席調査員 坂本 勝彦 平成26年4月1日～7月31日

平成26年9月1日～10月31日

平成27年2月1日～3月31日

次席調査員 作山 智彦 平成26年4月1日～6月30日

調査員 江原美奈子 平成26年4月1日～10月31日

調査員 近江屋成陽 平成26年7月1日～9月30日

調査員 根本 康弘 平成26年8月1日～8月31日

### 平成27年度

首席調査員兼班長 駒澤 悦郎

調査員 江原美奈子 平成27年4月9日～4月30日

調査員 皆川 貴之 平成27年4月9日～4月30日

- 4 整理及び本書の執筆・編集は、平成28年度が整理課長後藤一成、平成29年度が整理課長皆川修のもと以下の者が担当した。

次席調査員 江原美奈子 平成28年4月1日～平成30年3月31日

調査員 近江屋成陽 平成29年4月1日～6月30日

調査員 矢ノ倉正男 平成29年7月1日～平成30年3月31日

- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

江原美奈子 第1章～第3章3節1、第4節

近江屋成陽 第3章第3節2～4、第4節

矢ノ倉正男 第4章

- 6 本書の作成にあたり、昭和38年の築地遺跡の調査内容や調査成果について、慶應義塾大学教授の安藤広道氏、神奈川県立歴史博物館の千葉毅氏からご指導、ご教示いただいた。
- 7 本書の作成にあたり、築地遺跡出土の土製品・石器・石製品の一部の図化業務については、株式会社アルカ、特定非営利活動法人井草文化財研究所に委託した。築地遺跡から出土した土器の胎土分析、及び黒曜石の産地同定、アスファルトの同定については(株)パレオ・ラボに、石器・石製品の石材鑑定についてはバリノ・サーヴェイ株式会社、獣骨・魚骨、骨角器の同定については(株)イビソクに委託した。また宮原前遺跡から出土した人骨の鑑定については、バリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、それぞれの成果は付章として巻末に掲載した。
- 8 宮原前遺跡から出土した人骨については、整理業務終了後、結城郡八千代町沼森1130番地の瑠璃光山宝蔵院金剛寺にて、供養、埋葬した。
- 9 築地遺跡、宮原前遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は、一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

## 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、築地遺跡については $X = + 8,240 \text{ m}$ 、 $Y = + 11,640 \text{ m}$ 、宮原前遺跡については $X = + 8,240 \text{ m}$ 、 $Y = + 10,720$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 P - ビット PG - ビット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡・堀跡  
SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴 UP - 地下式坑  
遺物 B - 骨角器 DP - 土製品 M - 金属製品 N - 自然遺物 Q - 石器・石製品 W - 木製品  
土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は築地遺跡が 200 分の 1、400 分の 1、宮原前遺跡が 400 分の 1、800 分の 1 である。各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とし、築地遺跡の竪穴建物跡は 80 分の 1 に、その他種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉・朱墨		炉・火床面
	粘土・炭化物・灰層範囲		柱痕跡・柱あたり
●	土器	○	土製品
□	石器・石製品	△	金属製品
■	骨角器	- - - -	硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

- 7 遺構図の断面図は、アルファベット順に配列し、標高の表示については同一のものはその先頭のみ記載している。

- 8 今回の報告書で、整理作業の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

#### 築地遺跡

変更 SI 10 → 第1号遺物集中地点, SK 7 → SI 7-P45, SK11 → SI 12-P19・20, SK15 → SI 3-P25,  
SK25 → SI 7-P15, SK27 → SI 55-P 2, SK37 → SI 5-P53, SK43 → SI 37-P22・23,  
SK47 → SI 6-P 7・10, SK50 → SI 13-P52, SK62・86・87 → 第1号粘土探掘坑,  
SK95 → SI 60-P 8, SK96 → 第2号粘土貼土坑, SK97 → 第1号粘土貼土坑, SK101 → SI 8-P64,  
SK124 → SI 31-P38, SK145 → SI 31-P27, SK151 → SI 40-P 6, SK170 → SI 35-P88,  
SK172 → SI 35-畑7, SK173 → SI 35-P97・98, SK174 → SI 35-P94, SK175 → SI 47-P59,  
SK176 → SI 47-P58, SK177 → SI 47-P62, SK184・186 → SI 35-P109, SK188 → SB 1-P19,  
SK189 → SB 1-P 4, SK201 → SI 20-P50, SK205 → SI 60-P 2, SK206 → SI 60-P 1,  
SK207 → SI 60-P 3, SK222 → SB1-P 5, SK225 → SI 54-P16, SK226 → SI59-P11,  
SK227 → SI 54-P18, SK230 → SI 59-P 3・4, SK234 → SI 47-P 7, SK238 → SI 54-P 1,  
SK239 → SI 54-P 2, SK252 → SI 40-P17, SK257 → SI40-P11, SK258 → SI 40-P10,  
SK259 → SI 40-P12, SK262 → SI 40-P13

欠番 SI 17・21・26・33・38・50・52, SK 3・20・23・35・53・60・90・132・133・167・185・191・  
245・263・273, PG 1・4・12・14, UP 5

#### 宮原前遺跡

変更 SK82 → SB11-P 2, SK94 → 第1号粘土貼土坑, SK97 → SB13-P 8, SK114 → TP 3,  
SK122 → TP 4, SK128 → 第1号墓坑, SA 1-P 1 → SB12-P 8, SA 1-P 2 → SB12-P 9,  
SA 1-P 3 → SB12-P10, SA 1-P 5 → SB12-P12, SA 1-P 6 → SB12-P 1, SA 2-P 1 → SB12-P 7,  
SA 2-P 2 → SB12-P 6, SA 2-P 3 → SB12-P 5, SA 2-P 4 → SB12-P 4, SA 2-P 5 → SB12-P 3,  
SA 2-P 6 → SB12-P 2, PG 9-P18 → SB13-P10, PG 9-P19 → SB13-P 9, PG 9-P23 → SB13-P 1,  
PG 9-P24 → SB15-P 5, PG 9-P26 → SB13-P 2, PG 9-P28 → SB15-P 7, PG 9-P30 → SB15-P 4,  
PG 9-P31 → SB15-P 3, PG10-P10 → SB13-P 6, PG10-P12 → SB13-P 5, PG10-P15 → SB13-P 7



# 目 次

## —上 卷—

序

例 言

凡 例

目 次

築地遺跡 宮原前遺跡の概要 .....	1
第1章 調査経緯 .....	5
第1節 調査に至る経緯 .....	5
第2節 調査経過 .....	5
第2章 位置と環境 .....	7
第1節 位置と地形 .....	7
第2節 歴史的環境 .....	7
第3章 築地遺跡 .....	13
第1節 調査の概要 .....	13
第2節 基本層序 .....	13
第3節 遺構と遺物 .....	17
1 縄文時代の遺構と遺物 .....	17
(1) 竪穴建物跡 .....	17

## —中 卷—

(2) 土 坑 .....	299
(3) 炉 跡 .....	382
(4) ビット群 .....	383
(5) 遺物包含層 .....	389
(6) 遺物集中地点 .....	480
2 室町時代の遺構と遺物 .....	486
(1) 地下式坑 .....	486
(2) 土 坑 .....	495
(3) 堀 跡 .....	499
3 江戸時代の遺構と遺物 .....	503
(1) 掘立柱建物跡 .....	503
(2) 井戸跡 .....	504
(3) 粘土貼土坑 .....	505
(4) 土 坑 .....	507
4 その他の遺構と遺物 .....	509

(1) 粘土探掘坑 .....	509
(2) 土 坑 .....	511
(3) 溝 跡 .....	512
(4) 遺構外出土遺物 .....	514
第4節 まとめ .....	516

— 下 卷 —

第4章 宮原前遺跡 .....	531
第1節 調査の概要 .....	531
第2節 基本層序 .....	531
第3節 遺構と遺物 .....	538
1 縄文時代の遺構と遺物 .....	538
(1) 竪穴建物跡 .....	538
(2) 陥し穴 .....	542
(3) 土 坑 .....	543
2 古墳時代の遺構と遺物 .....	546
竪穴建物跡 .....	546
3 奈良時代の遺構と遺物 .....	550
(1) 竪穴建物跡 .....	550
(2) 井戸跡 .....	563
(3) 土 坑 .....	564
4 平安時代の遺構と遺物 .....	564
(1) 竪穴建物跡 .....	564
(2) 井戸跡 .....	585
(3) 土 坑 .....	589
5 室町時代の遺構と遺物 .....	594
(1) 掘立柱建物跡 .....	594
(2) 井戸跡 .....	597
(3) 粘土貼土坑 .....	598
(4) 土 坑 .....	599
6 江戸時代の遺構と遺物 .....	600
(1) 井戸跡 .....	600
(2) 墓 坑 .....	602
(3) 土 坑 .....	603
(4) 溝 跡 .....	605
(5) 道路跡 .....	612
7 その他の遺構と遺物 .....	614
(1) 掘立柱建物跡 .....	614

(2) 土 坑 .....	617
(3) 溝 跡 .....	632
(4) ビット群 .....	633
(5) 遺構外出土遺物 .....	635
第4節 まとめ .....	637
付 章 .....	641
1 築地遺跡出土石器・石製品の岩石肉眼鑑定	バリノ・サーヴェイ株式会社
2 築地遺跡出土黒曜石の産地同定	竹原弘展 (パレオ・ラボ)
3 築地遺跡出土アスファルト付着礫塊	藤根 久 (パレオ・ラボ)
4 築地遺跡出土土器の胎土分析	藤根 久 米田恭子 (パレオ・ラボ)
5 築地遺跡出土獣骨類・魚骨類の同定	(株)イビソク
6 宮原前遺跡の出土人骨について	バリノ・サーヴェイ株式会社
写真図版 .....	PL 1 ~ PL58
抄 録	
付 図	

## ついで 築地遺跡・宮原前遺跡の概要

### 遺跡の位置と調査の目的

築地遺跡と宮原前遺跡は、常総市の北東部に位置し、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地中央部から縁辺部にかけて立地しています。一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が、平成 26・27 年度に発掘調査を行いました。調査面積は、築地遺跡が 2,908㎡、宮原前遺跡が 10,446㎡です。



### 築地遺跡の調査成果

築地遺跡は、東西約 500 m、南北約 200 m の範囲で確認されており、今回の調査区はその東部にあたります。調査の結果、縄文時代の集落跡と、室町時代の堀跡や地下式坑、江戸時代の掘立柱建物跡や粘土貼土坑などを確認しました。



調査A区全景（北西上空から）



焼土が堆積している竪穴建物跡



厚く堆積する遺物包含層（第2号遺物包含層）



深い穴の底から出土した注口土器



土器が重なり合うように出土した土坑  
（第122号土坑）

縄文時代の遺構は、竪穴建物跡 69 棟、土坑 193 基、遺物包含層 2 か所などを確認しました。集落は中期前半から集落が営まれています。中心となるのは後期後葉から晩期中葉（約 3,500 ～ 2,800 年前）で、多くの遺構が重複していること、層厚 1 m 以上の厚い遺物包含層が確認されたこと、コンテナ 700 箱分の多量の遺物が出土したことなどが特筆されます。これらの特徴は、当期の関東地方で確認できる集落の一形態である「環状盛土遺構」に類似しています。重なり合う穴は、住居跡の柱穴や貯蔵穴、墓坑などの穴で、住居の構築と廃棄、整地行為などが断続的に繰り返された結果、遺物を包含する厚い層が生じたことがわかりました。穴の中には、径が 1.5 m、深さが 2 m ほどもある深い円筒形で、貯蔵穴と考えられるものや、浅い楕円形で、完形に近い土器が伏せられるように出土している墓坑と考えられるものなどがあります。深い穴の覆土中からはオオタニシやマツカサガイ、シカやイノシシなどの獣骨、ウナギなどの



様々な大きさの耳飾り



鹿の骨や角で作られた垂飾品や簪



土偶と耳飾り



アスファルトの付着した礫 (左) 遺跡から比較的多く出土する焼成粘土塊 (中央) と発泡体 (右)

魚骨が出土するものがあり、ごみ穴に転用されたものもあるようです。ごみ穴からは食べかすのほか、台地上の遺跡では残りにくい骨鏃などの骨角器や漆塗りの櫛の破片などが出土しています。特に彫刻の施された垂飾品や簪は希少です。また穴の底からは、ほぼ完形の注口土器が出土しています。注口土器は果実酒などの液体物を注ぐ土器で、供食儀礼などを通して社会的な関係性を強化する儀式などに用いられたと考えられています。特筆される遺物の一つにアスファルトの付着した礫や石鏃があります。アスファルトは接着剤として用いられますが、秋田県や新潟県などの一部でしか産出せず、縄文時代の遺跡からの出土も限られており、当時の交流や交易を考える上で貴重な事例といえます。



E・F区完掘状況

### 宮原前遺跡の調査の内容

宮原前遺跡は、東西約325m、南北約250mの範囲で確認されており、調査区はその北部にあたります。今回は平成21年度に調査した調査区の延長です。

調査の結果、縄文時代から江戸時代までの遺構を確認しました。奈良時代の堅穴建物跡の竈では、砂岩の切石で構築されていました。奈良・平安時代にはまとまった集落を形成して、稲などの収穫物を保管した側柱建物跡や役人が執務したと考えられる総柱建物跡も見ついています。また、平安時代の大型の井戸跡を確認しました。ここからは、「祝」などの墨書が出土しています。井戸を埋め戻す際に祭事が行われたことも想像されます。江戸時代の溝などからは、煙管の雁首、瀬戸の碗や丹波の播鉢などが出土しています。遠方との交流や喫茶の習慣などが伝わっていたことが窺えます。

調査は遺跡の一部でしたが、周囲を谷に囲まれた台地上で、周辺の自然地形を利用して農業を営みながら生活する、古代から近世の人々の生き生きとした姿がよみがえります。



第10号井戸跡完掘状況

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、首都圏へのアクセスを円滑にするために、常総市において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道の整備を進めている。

平成18年8月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無、及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成19年1月16日及び1月17日に現地踏査を実施し、続いて平成20年11月11～13日、及び平成25年9月18日に試掘調査を実施し、宮原前遺跡、築地遺跡の所在を確認した。平成21年1月16日、及び平成25年9月27日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に宮原前遺跡及び築地遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成21年1月29日、及び平成26年2月18日、12月9日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成21年2月24日、及び平成26年2月20日、12月22日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するように通知した。

平成21年3月6日、及び平成26年2月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成21年3月16日、及び平成26年2月21日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、宮原前遺跡及び築地遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、築地遺跡は平成26年4月1日から10月31日まで、宮原前遺跡は平成26年4月1日から10月31日、平成27年2月1日から4月30日まで、発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

築地遺跡の調査は、平成26年4月1日から10月31日までの7か月間、宮原前遺跡の調査は、第1期調査が平成26年4月1日から10月31日までの7か月間、第2期調査が平成27年2月1日から3月31日の2か月間、第3期調査が平成27年4月9日から4月30日までの1か月間にわたって実施した。築地遺跡は、調査前の現況でも縄文土器を中心に多量の遺物の出土が確認でき、また周辺地域の同様の性格を有する遺跡の調査例からみても、縄文時代後期から晩期の層厚のある遺物包含層を有する集落跡であることが予想された。そこで確認トレンチを設定して、遺物包含層の有無と遺構の掘り込み面を確認したところ、遺物包含層は20～120cmの層厚で、多量の遺物を包含し、A区・B区でそれぞれに確認できたことから、表層土を重機で除去したあと、A・B区とも遺物包含層の調査を開始した。遺物包含層は任意層位毎に掘り下げを行い、出土遺物は



層位や出土状況などを確認しながら記録し取り上げた。また遺物包含層上面及び遺物包含層中で遺構が確認できたものは、その都度調査して記録し、その後遺物包含層の掘り下げを続行した。なお、遺構の多くは遺物包含層除去後のローム層上で確認できたものである。以下、その概要を表で記載する。

築地遺跡 平成26年4月1日～10月31日

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■					
遺構調査			■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 注写真整理			■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収								■

宮原前遺跡 第1期調査 平成26年4月1日～10月31日

工程	期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査準備 表土除去 遺構確認		■	■					
遺構調査			■	■	■			
遺物洗浄 注写真整理		■	■	■	■	■	■	■
補足調査 撤収								■

宮原前遺跡 第2・3期調査 平成27年2月1日～3月31日、4月9日～4月30日

工程	期間	2月	3月	4月
調査準備 表土除去 遺構確認		■		
遺構調査		■	■	■
遺物洗浄 注写真整理		■	■	■
補足調査 撤収				■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

築地遺跡は、茨城県常総市大輪町字築地754番地の1ほかに、宮原前遺跡は、茨城県常総市大生郷町字宮原前3448番地ほかに所在している。

築地遺跡、宮原前遺跡が所在する常総市は、茨城県の南西部に位置し、市の東部を小貝川、中央部を鬼怒川、東仁連川、西部を飯沼川が南北に流れ、東部には沖積低地が開け、西部に台地が発達している。東部の低地は、約2万年前の海退期に、現在の小貝川・利根川の河道を流れていたとされる古鬼怒川が、古東京湾の堆積物である成田層群を開析して形成されたもので、約8,000～5,000年前の縄文海進期には、海水面が上昇し、河谷に沿って海が侵入していたと考えられる。この低地の堆積層は鬼怒川・小貝川の氾濫原に堆積した標高約12mの沖積層からなり、河川堆積物である砂礫層や、小貝川や鬼怒川の氾濫時に形成された厚い泥炭層の堆積が見られる。西部の台地は、結城市から常総市にかけての結城台地と、利根川に平行して古河市方面から取手市に伸びる猿島台地がある。結城台地は鬼怒川と飯沼川により開析された標高20～24mの平坦で比較的起伏の少ない台地で、古東京湾に堆積した成田層を基盤とし、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の層順が観察できる<sup>1)</sup>。

築地遺跡は、鬼怒川と東仁連川に挟まれた、標高約20mの結城台地の縁辺部に、宮原前遺跡は同台地の中央部に位置している。台地は幅2kmと狭く、低地面及び南に向かって緩やかに傾斜している。台地上は低地からの小支谷が複雑に入り組んでおり、築地遺跡の東側から北側にかけても、谷津が回り込むように入り込んでいる。宮原前遺跡の南側は、飯沼低地からの深い谷津が広がっている。両遺跡の立地する台地上と低地面との比高差は約7mである。

### 第2節 歴史的環境

築地遺跡及び宮原前遺跡が位置する台地上は、鬼怒川や飯沼低地からの支谷が複雑に入り込み、谷津に面した台地縁辺部を中心に多くの遺跡が確認されている。また、当遺跡周辺は、縄文土器や貝が散布するところとして古くから知られている。明治31年に坪井正五郎氏らによって編み込まれた『日本石器時代人類遺物発見地名表』<sup>2)</sup>にも当遺跡をはじめ瀧内遺跡(45)、天王原遺跡(21)、貝柄山遺跡(60)などの遺跡が掲載され、その内のいくつかは発掘調査も行われている。貝柄山遺跡は鬼怒川右岸の花岡町に位置し、かつては花岡貝塚と呼ばれていた遺跡である。昭和16年に江坂輝弥氏らの日本古代文化学会によって発掘調査が行われ、昭和17年の『古代文化』第13巻第9号にその成果が公表されている<sup>3)</sup>。標高約4mの低台地上にA～Dの4か所の地点貝塚が確認され、貝層下からは早期末の炉穴や堅穴建物跡も確認されている。最も大きいD貝塚は早期条痕文系の縄が島台式土器が出土し、ハイガイ・サルボウ・ベンケイガイ・マガキ・オキシジミなどを中心とした貝種組成が確認されている。そのほか大日遺跡(旧大日山貝塚)(6)、満蔵遺跡(15)、約6km北西で飯沼川に面する台地斜面部に位置し、関山I式期の堅穴建物跡と地点貝塚が確認できた鴻野山貝塚<sup>4)</sup>、約4km北西で飯沼川対岸の猿島台地上に位置し、関山II式期の地点貝塚や浮島II式期の堅穴建物跡が確認できた坂東市然山遺跡<sup>5)</sup>など、縄文時代早期から前期の地点貝塚が見られ、当時の海岸線を推定することができる。

北西1.5kmに位置する大生郷遺跡(34)は昭和50～52年に発掘調査が行われ、前期黒浜式期を中心とした竪穴建物跡が10棟確認されている<sup>6)</sup>。縄文時代中期の遺跡は、内守谷本郷遺跡や向地遺跡、貝置前沼遺跡など、市域南部の台地中央部で見られ、いずれも小規模な集落で、遺跡の継続期間も短いものが多いようである。当遺跡周辺では、北西に隣接する小支谷を挟んだ対岸に天王原遺跡がある。平成21年に発掘調査が行われ、阿玉台I b～II式期の竪穴建物跡3棟が確認されている<sup>7)</sup>。縄文時代後期から晩期では、六方遺跡(31)、金舌遺跡(28)、四ツ谷遺跡(29)がある。500mほど西の、谷津に面する台地上に立地する六方遺跡では、後期初頭の建物跡や土坑が確認されている。金戸遺跡は、「金戸貝塚」あるいは「大生郷貝塚」などと呼称が混乱しているが、齋藤弘道氏や鈴木正博氏が整理され、学史的には「金戸貝塚」とするのが妥当なようである。東仁連川に面して突出する舌状台地の先端に位置し、昭和45年から48年ころに行われた大規模な土取作業により湮滅してしまったが、その際の出土資料が渡辺明氏や鈴木正博氏、西本豊弘氏らによって報告されている。加曾利B3式期を中心とした資料から、古鬼怒湾最奥部の貝塚の様相をうかがうことができる<sup>8)</sup>。四ツ谷遺跡は、谷津に面する斜面部の畑地に、後期安行式期を中心とした多量の遺物が散布している様子が確認できる。

古墳時代の集落は、前・中期は河川に臨む沖積地や水田周辺の低台地周縁に多く確認され、後期になると丘陵上や谷津の周縁、台地の深縁部に分散している。築地遺跡から約1.5km北西の大生郷遺跡では、前期の竪穴建物跡12棟が確認されている。

古代の当地域は下総国岡田郡飯塚郷に属すると推測されており、同郡に属する坂東市然山西遺跡の竪穴建物跡では、「豊田」(904年に岡田郡から豊田郡に改称)の文字の線刻された軒平瓦が、竈の補強材に使用されている。築地遺跡から北に約4.5kmの国生地区には国生本屋敷遺跡があり、1986年に旧石下町による発掘調査<sup>9)</sup>、1988年には国立歴史民俗博物館による発掘調査が行われている。竪穴建物跡28棟や方形に巡る断面箱築研状の大溝などのほか、7世紀後半の方形に巡る溝跡と掘立柱建物跡が確認され、初期官衙的な性格付けがなされている<sup>10)</sup>。この国生地区内には、下総国司桑原王が創建したとされる延喜式内社の桑原神社もあり、国生本屋敷遺跡の遺構や出土物、周辺の地名などから岡田郡衙比定地とされている。10世紀以降は常陸平氏を中心に、平将門の一族及び他氏族間の抗争の地となり、数多くの伝説を残している。

周辺の主な遺跡として、奈良時代中期の集落跡が確認された大生郷遺跡、在地窯産と推測される須恵器の使用が確認された上谷田遺跡<sup>11)</sup>などがある。また9世紀後葉から10世紀前葉が中心の集落跡である六方遺跡では、炉壁材や鉄滓などが竪穴建物跡に廃棄され、周辺に製鉄炉の存在が示唆されている。同建物跡からは、緑青が付着している土師器坏なども出土しており、銅鋳造に関連する遺構の存在も想定される。また六方遺跡では、宮原前遺跡に特徴的な「砂岩切石」を用いた竈が確認でき<sup>12)</sup>、当遺跡との関係性が伺われる<sup>13)</sup>。

中世になると、当地域は豊田荘となり、豊田氏の興亡に大きな影響を受けている。豊田氏は下妻・小栗・東条・鹿島氏などの常陸平氏一族とともに源頼朝の軍勢と抗争を繰り返すが、鎌倉幕府開設後は、御家人として存続している。戦国期には、小貝川西岸の微高地に築かれた豊田城を中心に小田氏と連携して支配を強めるが、その後下妻の多賀谷氏に滅ぼされる。関ヶ原合戦時に豊田氏について多賀谷氏も領地を没収され、以後当地域は徳川幕府の直轄地や旗本領となる。小貝川西岸の古間木城跡(41)は、豊田氏の家臣でのちに多賀谷氏に属した渡辺氏の居城とされている。舌状台地の先端部を堀切で分断し、その内側を曲輪とする典型的な中世城郭で、その面影を現在に伝えている。

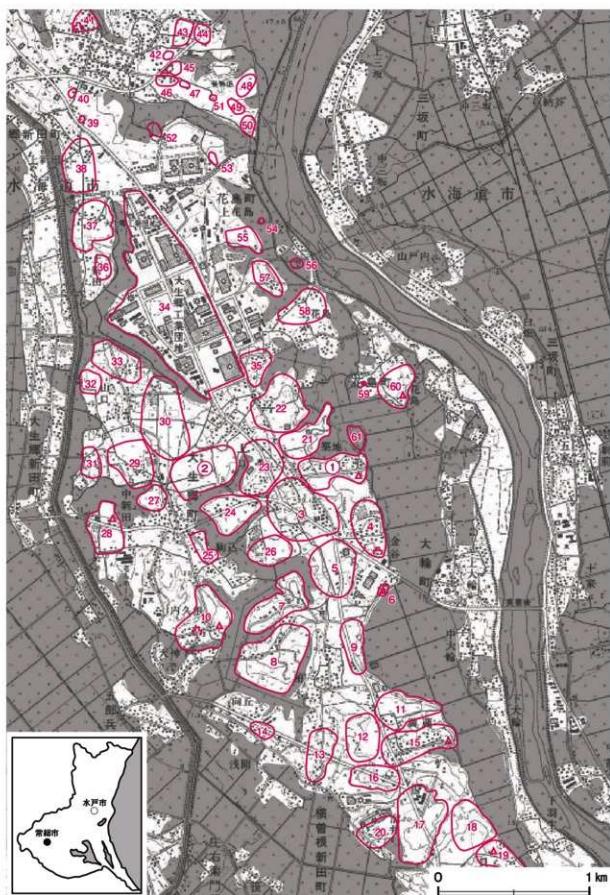
※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の該当番号と同じである。なお本章は既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』第335集を一部改編して引用している。

註

- 1) 水海道市史編さん委員会「水海道市史 上巻」水海道市 1983年3月
- 2) 坪井正五郎 野中完一「日本石器時代人民遺物発見地名表」東京帝国大学 1898年5月
- 3) 江坂輝弥「貝柄山貝塚」『古代文化』第13巻第9号 日本古代文化學會 1942年9月
- 4) 佐藤誠 常松成人 矢野文明「湯野山貝塚発掘調査報告書」石下町史編纂室 1987年3月
- 5) 小川貴行 田村雅樹 佐藤一也「然山西遺跡」『茨城県教育財団埋蔵文化財調査報告』第379集 2013年3月
- 6) 桜井二郎「大生郷工業団地内埋蔵文化財調査報告書-大生郷遺跡-」『茨城県教育財団文化財調査報告』Ⅻ 1981年9月
- 7) 小川貴行「天王原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第371集 2013年3月
- 8) 渡辺明 鈴木正博 西本豊弘 浪形早季子「金土貝塚の再吟味-古鬼怒湾最奥部における貝塚文化と骨角器・貝製品の新例」『動物考古学』第27号 動物考古学研究会 2010年5月
- 9) 川井正一他「国生本屋敷遺跡発掘調査報告書」『石下町史資料』第2集 石下町史編さん室 1987年3月
- 10) 阿部義平編「茨城県国生本屋敷遺跡発掘調査報告」『国立歴史民俗博物館研究報告』第129集 国立歴史民俗博物館 2006年3月
- 11) 江原美奈子「上谷田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第319集 2009年3月
- 12) 齋藤和浩「宮原前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第335集 2011年3月
- 13) 大久保芳紀「六方遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第417集 2017年3月

参考文献

石下町史編さん委員会「石下町史」石下町 1988年3月



第1図 築地遺跡、宮原前遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院25,000分の1「石下」「水海道」）

表1 築地遺跡、宮原前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	築地遺跡	○					○	○	32	山口遺跡	○		○	○			
②	宮原前遺跡	○			○	○	○	○	33	前中丸遺跡	○		○	○			
3	久保遺跡	○			○	○			34	大生郷遺跡	○		○	○			
4	大輪陣屋遺跡	○				○		○	35	大橋遺跡	○						
5	榎下遺跡				○	○			36	後中丸南遺跡	○						
6	大日遺跡	○							37	後中丸北遺跡	○		○	○			
7	小野台遺跡	○			○	○			38	古間木前遺跡	○		○	○			
8	柏木遺跡	○			○	○			39	山王B遺跡	○						
9	大塚遺跡	○			○	○			40	山王A遺跡							○
10	馬場遺跡	○			○	○	○		41	古間木城跡						○	
11	古寺家遺跡	○							42	稲荷遺跡	○		○				
12	安戸東遺跡	○				○			43	坊山遺跡	○		○				
13	入山遺跡	○			○	○			44	山中遺跡	○		○				
14	向山遺跡	○			○	○			45	淵内遺跡	○						
15	満蔵遺跡	○			○	○			46	大久保遺跡	○		○				
16	満倉北遺跡	○			○	○			47	鎌田遺跡	○						
17	満倉東遺跡	○			○	○			48	宮内遺跡	○		○				
18	貝塚乙遺跡	○							49	四ツ木遺跡	○		○				○
19	貝塚甲遺跡	○			○	○			50	古間木遺跡	○					○	
20	満倉南遺跡								51	寺田遺跡	○		○				
21	天王原遺跡	○							52	松山向遺跡			○				
22	高野台遺跡				○				53	霜田向遺跡	○		○				
23	大部堂遺跡	○			○	○			54	雉子尾遺跡	○		○	○			
24	中根遺跡	○			○	○			55	雉子尾前遺跡	○		○	○			
25	芝崎遺跡	○			○				56	香取遺跡	○			○			
26	南袋遺跡	○			○	○			57	鷺ヶ島遺跡				○	○		
27	中新田遺跡	○			○	○			58	薬師西遺跡	○		○	○			
28	金戸遺跡	○			○	○			59	下花島古墳群				○			
29	四ツ谷遺跡	○			○	○			60	貝柄山遺跡	○		○	○			
30	香取西遺跡	○			○	○			61	天神山遺跡	○		○	○			
31	六方遺跡	○			○	○											



第2図 築地遺跡調査区設定図（常総市都市計画図2,500分の1）

## 第3章 築地遺跡

### 第1節 調査の概要

築地遺跡は、常総市の北部に位置し、鬼怒川右岸の標高約20mの台地縁部に立地している。この台地には、鬼怒川低地及び飯沼川低地帯から延びる谷津が複雑に入り込み、当遺跡の周辺も、東側から北側にかけて回り込むように鬼怒川からの深い谷津が入り込んでいる。当遺跡はこの谷津に北面した台地上から台地斜面部に位置し、南側は県道高崎坂東線を越えてさらに南まで広がっている。今回の調査区は、遺跡全体から見ると北東部にあたり、谷津に平行するように台地上から斜面部にかけて設定されている。この台地の縁部は、現代の土取り作業により大きく掘削されており、本来ならば一連の調査区であるが、この掘削部分を挟んで東側を調査A区、西側を調査B区とした。A区は台地上から台地縁部に、B区は台地斜面部に位置しており、A区中央部の台地上部とB区南部の斜面上部では約1mの比高差があり、B区の斜面上位と下位では約2mの比高差がある。調査面積はA区が2,304㎡、B区が604㎡で、調査前の現況は宅地、畑地及び山林である。

調査の結果、竪穴建物跡69棟（縄文時代）、掘立柱建物跡1棟（江戸時代）、地下式坑6基（室町時代）、井戸跡1基（江戸時代）、粘土貼土坑2基（江戸時代）、土坑213基（縄文時代193、室町時代11、江戸時代5、時期不明4）、粘土採掘坑1基（時期不明）、竃跡3か所（縄文時代）、堀跡1条（室町時代）、溝跡3条（時期不明）、ピット群10か所（縄文時代）、遺物包含層2か所（縄文時代）、遺物集中地点1か所（縄文時代）を確認した。ピット群については、出土土器から縄文時代としたが、それ以降の可能性もある。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に700箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・鉢・付付鉢・壺・注口土器）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、陶器（碗・鉢・皿・甕）、磁器（碗）、土製品（土鍾・土器片鍾・耳飾り・土版・土偶・有孔円盤・動物形・匙形・貝輪状・土器片円盤・土玉）、石器・石製品（石鏃・石錐・石匙・磨製石斧・打製石斧・石皿・磨石・石鍾・砥石・礫器・玉類・石剣・石棒・独鈷石・五輪塔・茶臼）、骨角製品（骨鏃・栓状製品・簪・垂飾品）、木製品（櫛）、金属製品（煙管・釘）、銭貨、貝類、獣骨・魚骨などである。

### 第2節 基本層序

調査A区中央部の台地上の平坦面（B69区）にテストピットを設定し、土層の堆積状況を観察した。土層は9層に分層できる。土層観察は以下の通りである。

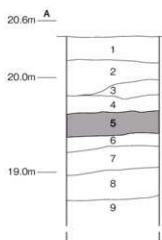
第1層は、極暗褐色を呈する耕作土である。ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子を少量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は20～30cmである。

第2層は、暗褐色を呈する縄文時代の第2号遺物包含層の一部である。ロームブロックをやや多く含み、焼土粒子・炭化粒子を少量含んでいる。また縄文土器等が多量に出土している。粘性・締まりともにやや弱く、層厚は20～40cmである。

第3層は、褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を少量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20cmである。

第4層は黄褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は





第3図 基本土層図

A' 20cmである。

第5層は暗褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は25cmである。黒色帯に相当する。

第6層は黄褐色を呈するハードローム層である。ロームがブロック状の部分があり、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は10～15cmである。

第7層は明黄褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は25cmである。

第8層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。ロームがブロック状の部分があり、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は30cmである。

第9層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強い。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は、第2層中及び第3層の上面で確認した。

B区については、安全面への配慮から、テストピットを設定することができなかった。そこで、台地斜面部上位のC4g5区にある第3号地下式抗掘削時に、遺構の壁面でローム層の堆積状況を確認した。B区では黒色帯下のハードローム層（テストピット第7層に対応）が、遺構の確認面となっている。明黄褐色及び黄褐色のハードローム層（テストピット第8・9層に対応）下の標高17.7m付近で灰白色の常総粘土層が確認できた。粘性・締まりともに極めて強い。層厚は60～80cmである。常総粘土層下は竜ヶ崎礫層に相当する黄褐色土層で、粘性・締まりとも極めて強い。標高16.6mまで確認できたが、以下は未掘のため本来の層厚は不明である。



第4図 築地遺跡遺構全体図 (B区) S = 1/200



第5図 菜地遺跡遺構全体図 (A区) S = 1/200

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 69 棟、土坑 193 基、炉跡 3 か所、ピット群 10 か所、遺物包含層 2 か所、遺物集中地点 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、遺物出土状況、及び遺物観察表中の分類は、第3節 1(5)遺物包含層で詳述する項目に準じている。

##### (1) 竪穴建物跡

###### 第1号竪穴建物跡（第6～16図 PL 4～6）

**位置** 調査A区南西部のC 6c3区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層 I-2 層上面及び I-2 層中で確認した。第2号遺物包含層の I-2・II 層を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第4・7・55号竪穴建物跡、第24・26・46号土坑とも重複しているが、土層からの新旧関係は不明である。出土土器からは、本跡が最も新しいと考えられる。

**規模と形状** 東部が第1号堀に掘り込まれているため、南北軸は 5.72 mで、東西軸は 4.80 mしか確認できなかった。平面形は不整隅丸方形で、出入口ピットが確認できないため主軸方向は不明瞭ではあるが、炉跡から N-0°と推定できる。壁は高さ 50～75 cmで、外傾している。

**床** ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

**炉** ほほ中央部に位置する地床炉である。火床面が2か所確認できたことから、作り替えの可能性がある。

###### 炉土層解説

- |                                   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・灰・骨粉少量 | 4 赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量       | 5 赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・骨粉少量、灰微量 |
| 3 赤黒色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量       | 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量   |

**ピット** 29か所。P 4・P 5は、深さや位置から主柱穴である。P 1～P 3は、第1号堀のなかで確認したものであるが、推定される床面からの深さや位置から主柱穴と考えられる。P 6～P 19は、径が 20～40 cmで壁際に巡っていることから、壁柱穴と考えられる。東壁際の壁柱穴と出入口ピットは確認できなかった。

###### ピット土層解説

- |                              |                                   |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量         | 7 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量       |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量            |
| 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 | 9 褐色 ロームブロック中量                    |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量       | 10 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量 |
| 5 褐色 ローム粒子多量                 |                                   |
| 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量         |                                   |

###### ピット深度表

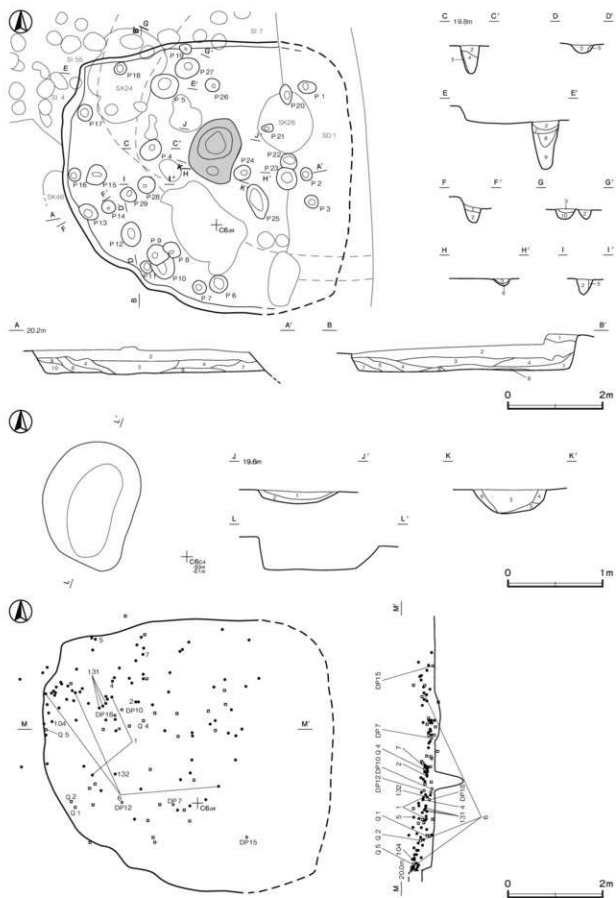
(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
深さ	90	66	67	58	99	13	18	12	16	15	5	20	31	18	17	21	9	51	20	16	16	13	7	15	9	14	23	32	19

**覆土** 10層に分層できる。遺物が多量に含まれているものの、レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

###### 土層解説

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量 | 6 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量  |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量          | 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量         |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量    | 8 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量          |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 9 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量          |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量    | 10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |



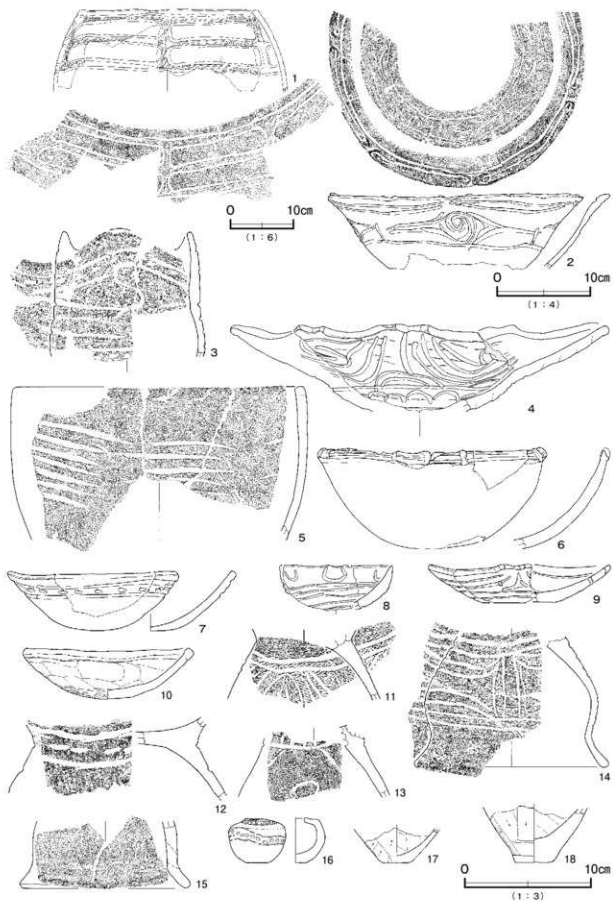
第6图 第1号竖穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 15,521 点 (237.23kg)、土製品 86 点 (土錘 1、土器片円盤 45、耳飾り 1、土版 12、土偶 14、有孔円盤 9、動物形 2、棒状 1、匙形 1)、石器・石製品 131 点 (石鏃 3、石錐 1、磨製石斧 13、打製石斧 3、石皿類 24、磨石類 49、石錐 3、砥石 12、礫器 1、玉類 1、石棒・石剣型 21) のほか、焼成粘土塊 12 点、発泡体 1 点、石核 24 点 (チャート)、剥片 168 点 (黒曜石 11、チャート 157)、獣骨類 75.2 g、出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが見られるが、主体となるのは第 8 群 (晩期中葉) で、約 51% である。DP10・DP11 は動物形土製品で、DP10 はイノシシの鼻部、DP11 は約 1/2 の残存であるが、イノシシの頭部から前肢の部分と推測される。

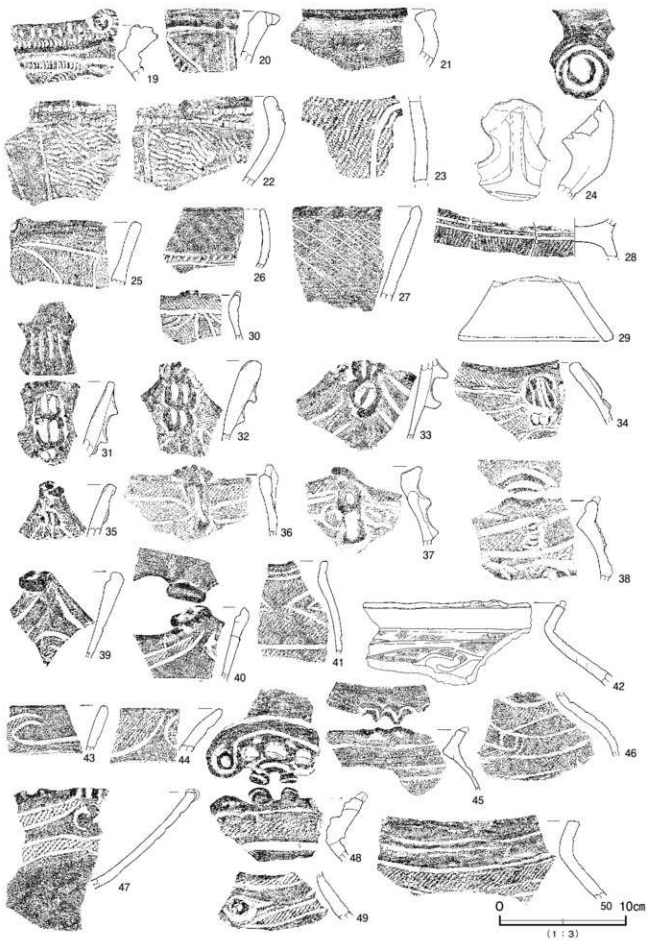
**所見** 時期は、出土土器から晩期中葉の安行 3 c 式期から安行 3 d 式期と考えられる。

### 第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 7～16 図)

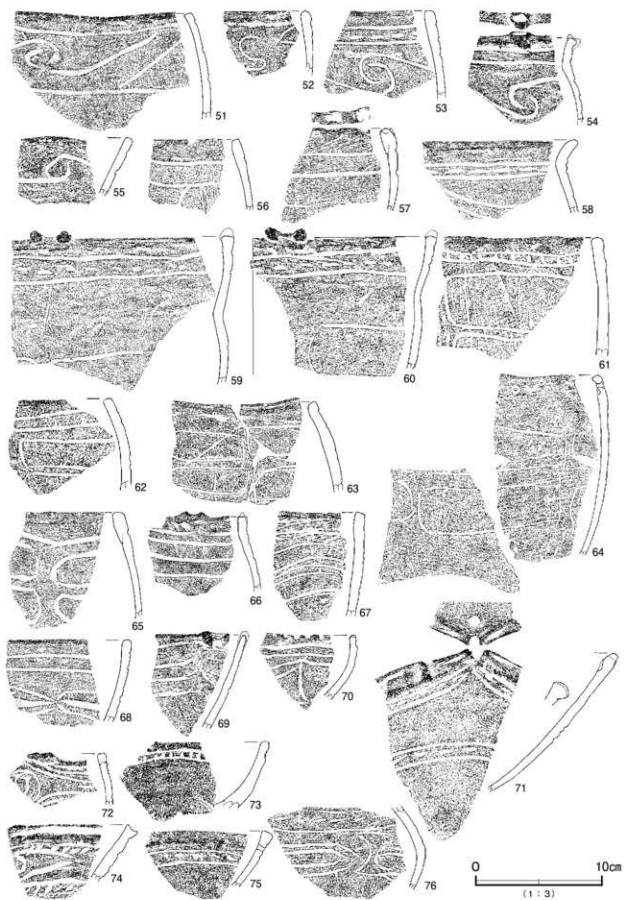
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	28(6)	(13.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	棒状文 外面磨き 内面ナデ	覆土中層	20% PL27
2	縄文土器	浅鉢	27.1	(7.9)	-	長石・石英・雲母	明 橙	良好	支線 4 単位 体部研磨	覆土中層	80% 内径 5 以内
3	縄文土器	深鉢	10(2)	(6.8)	-	長石・石英・礫	にぶい橙	良好	外・内面ナデ 一部発泡化	覆土中	10% PL36
4	縄文土器	浅鉢	29(5)	(6.8)	-	長石・石英・雲母	橙	良好	4 単位の波状口縁 内面磨き	覆土上層	10% PL36
5	縄文土器	深鉢	22(4)	(12.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面 7 単位の横波状口縁	覆土上層	20%
6	縄文土器	浅鉢	17.2	(7.9)	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	口縁部外面付文 4 単位 内面磨き	覆土上層	60% PL28
7	縄文土器	浅鉢	13.0	4.7	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中層	60% PL28
8	縄文土器	浅鉢	9(0)	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部ナデ 内面磨き	覆土上層	10%
9	縄文土器	浅鉢	14(2)	3.0	(6.0)	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	4 単位の波状口縁 内面磨き	覆土上層	20%
10	縄文土器	浅鉢	12.8	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面指環ナデ・底部磨き 内面ナデ	覆土中層	70% PL28
11	縄文土器	台付鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	10%
12	縄文土器	台付鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	5%
13	縄文土器	台付鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線周刻突文 内面ナデ	覆土中層	5%
14	縄文土器	台付鉢	-	(10.2)	(14.9)	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	菱形区画文 内面ナデ	覆土中層	20% PL36
15	縄文土器	台付鉢	-	(5.3)	(13.0)	石英・雲母	浅 黄	普通	外・内面ナデ	覆土上層	100%
16	縄文土器	ニシヤク	1.8	3.5	1.8	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ナデ 内面指環ナデ	覆土中層	10%
17	縄文土器	製塩	-	(2.7)	2.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	良好	外面閉り 内面ナデ	覆土上層	10%
18	縄文土器	製塩	-	(4.4)	3.0	長石・石英・雲母	橙	良好	外面閉り 内面ナデ	覆土中層	10%
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆起部上爪形文 内面ナデ	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中	
21	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	無筋 L 縄文・沈線周磨消	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面 L R 縄文・沈線文 内面ナデ	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部内面 C 字文 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部に突起 1 か所 外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 褐	普通	外・内面磨き	覆土中層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨部磨き 内面横位の磨き	覆土上層	
28	縄文土器	台付鉢	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面 L R 縄文・沈線 透孔 1 孔あり 内面ナデ	覆土上層	10%
29	縄文土器	台付鉢	-	(5.1)	12.3	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面縦位の磨き 内面横位のナデ	覆土上層	20%
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線 R L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文 内面ナデ	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → R L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
37	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
38	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	加 1	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文 内面ナデ	覆土下層	
42	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
44	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
46	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
48	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線 → L R 縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
49	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線・無筋 L 縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	



第7图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

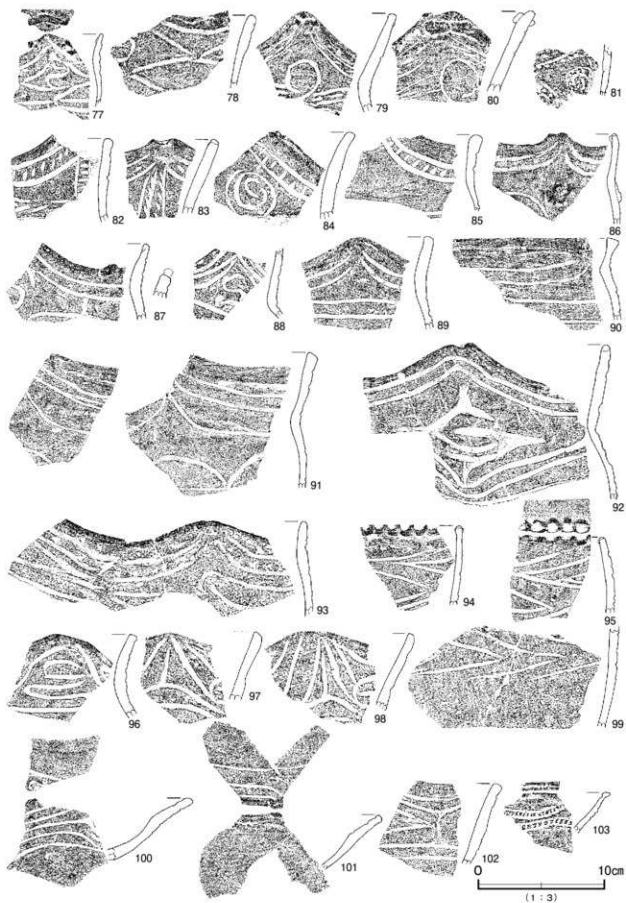


第8圖 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

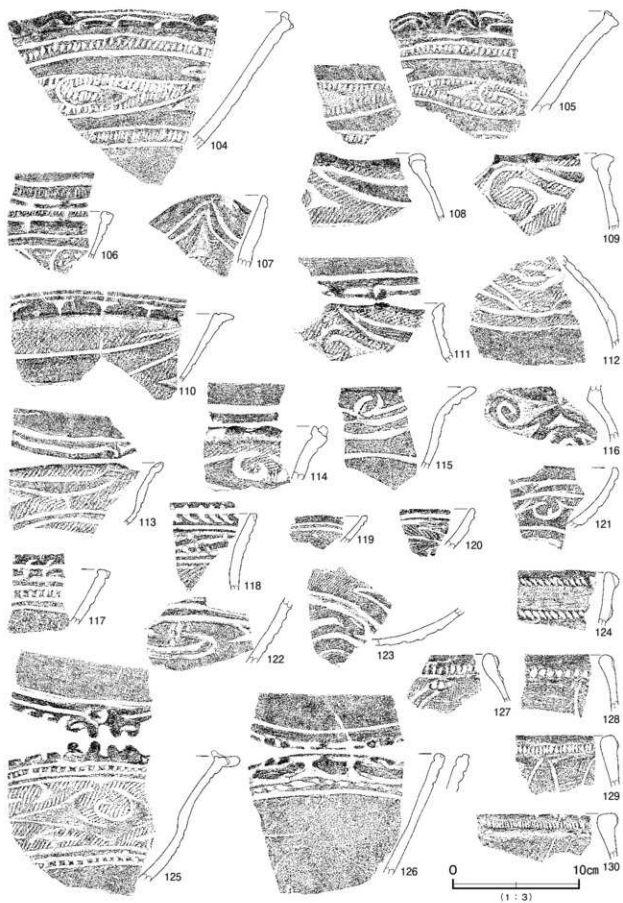


第9図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

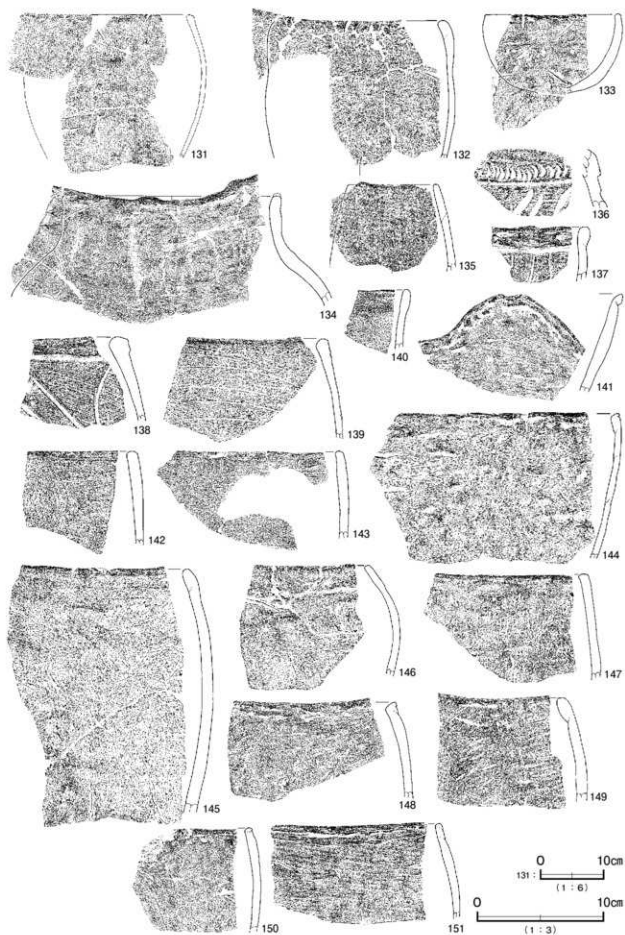




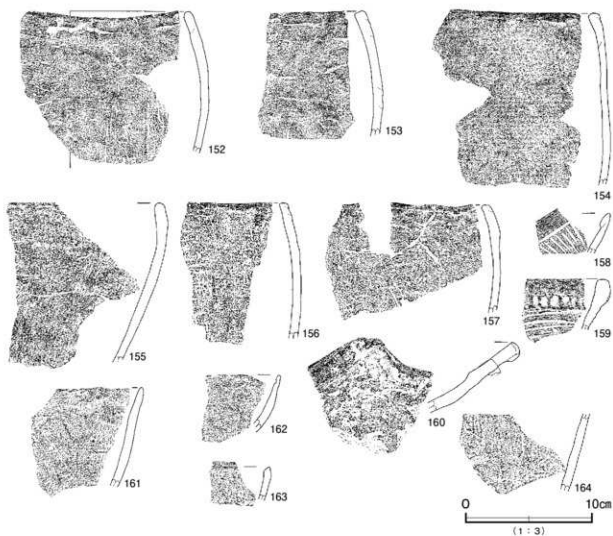
第10图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測图(4)



第 11 图 第 1 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)



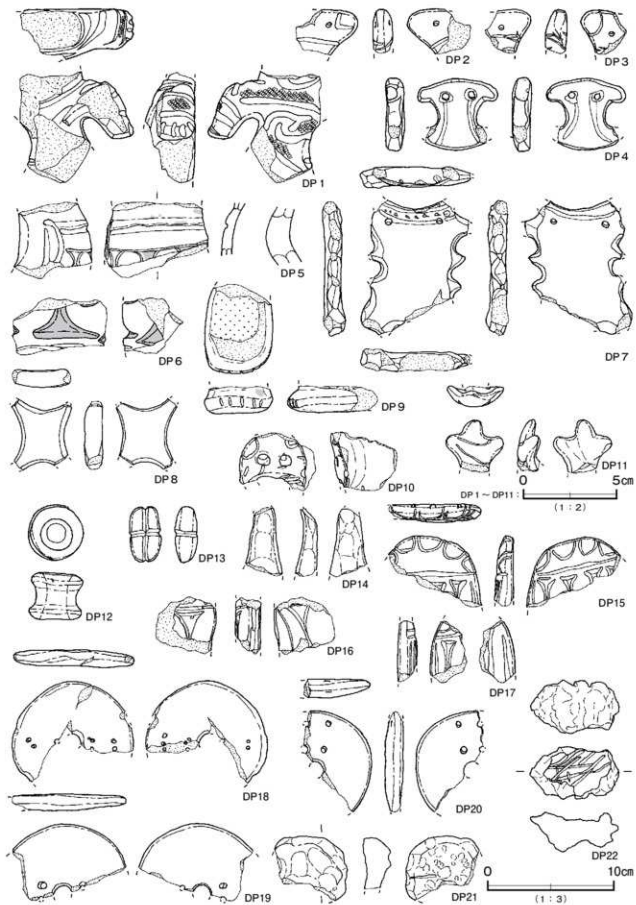
第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(6)



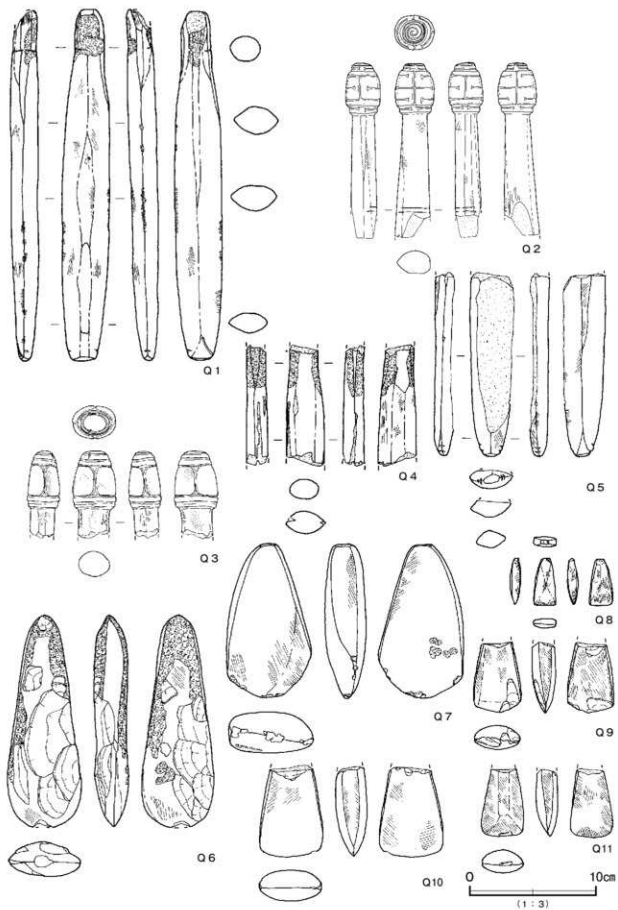
第13図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(7)

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(第7～16図)

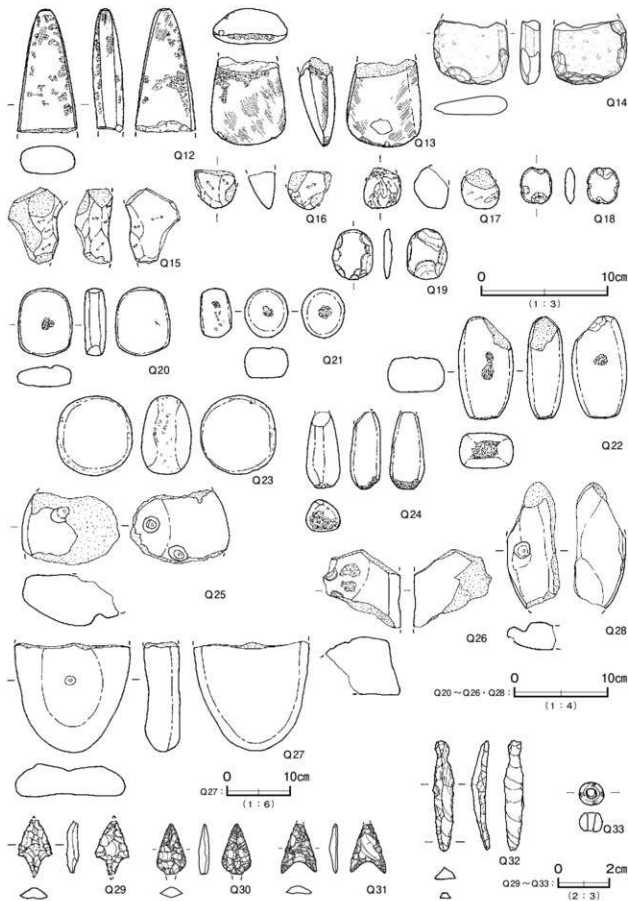
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
50	縄文土器	広口壺	-	-	-	灰-石片・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	ヌケツキ状入組文 外・内面ナデ	覆土下層	PL36
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面無文部ナデ 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	石片・赤砂・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中	
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→縦密沈線文 内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-石片・赤色粒子	橙	普通	外面磨り→ナデ 内面ナデ	覆土中層	
58	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-石片・赤色粒子	橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	60と同一
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	59と同一
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-石片・赤色粒子	橙	普通	外面横位沈線→刺突列 内面ナデ	覆土上層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-石片・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無文部・内面磨き 補修孔1か所	覆土上層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部山形突起 外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-石片・赤色粒子	浅黄橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土下層	
68	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄 灰	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
69	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部突起 外面沈線→磨き 内面ナデ	覆土中層	
70	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部刻み 外面ナデ 内面磨き	覆土中層	



第14图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図(8)



第 15 图 第 1 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (9)



第16图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図(00)

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(第7～16区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
71	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰赤褐色	普通	外面無文部・内面磨き 口唇部に沈線文	縄文中層		
72	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄文中層		
73	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き 内面磨き	縄土下層		
74	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き 内面ナ	縄土中層		
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面無文部・内面磨き	縄土中層		
76	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面無文部・内面磨き	縄土中層	PL36	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面菱形状刺突文 内面ナ	縄土中層		
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土中層		
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き 内面ナ	縄土中層		
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土下層		
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文 内面ナ	縄土中層		
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文 内面ナ	縄土中層		
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文 内面ナ	縄土上層		
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文 内面ナ	縄土中層		
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土下層		
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面ボタン状縦線付 内面ナ	縄土中層		
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土中層		
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土中層		
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土中		
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰赤褐色	普通	外面磨き 内面ナ	縄土下層		
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面対弧状文 内面ナ	縄土下層		
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面三又状入組文 内面ナ	縄土下層	PL36	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面ナ	縄土下層		
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面矢羽状文 内面ナ	縄土上層	95・99と同一。	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面矢羽状文 内面ナ	縄土下層	94・99と同一。	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面交互入組文。内面ナ	縄土下層		
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面三又状入組文 内面ナ	縄土中層		
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面三又状入組文 内面ナ	縄土上層		
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰赤褐色	普通	外・内面ナ	縄土上層	94・95と同一。	
100	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面三又状入組文 内面縦線文と三又文 磨き	縄土下層		
101	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰赤褐色	普通	外面ナ	縄土中層		
102	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	淡褐色	普通	外面無文部・内面ナ	縄土下層		
103	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	外面沈線→刺突文 内面磨き	縄土中層		
104	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き 内面磨き	縄土上層	105と同一・PL36	
105	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き 内面磨き	縄土上層	104と同一。	
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面沈線→刺突文・縦線沈線文→無文部磨き 内面磨き	縄土下層		
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文 内面ナ	縄土上層		
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面ナ	縄土中層		
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面ナ	縄土下層		
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土上層		
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土下層		
112	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰赤褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面ナ	縄土中層		
113	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面ナ	縄土上層		
114	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土下層		
115	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面三又状入組文 内面ナ	縄土中層		
116	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面入組三又文 内面磨き	縄土上層		
117	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→刺突文・ナ	内面磨き	縄土中層	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土上層		
119	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→L線文 内面磨き	縄土上層		
120	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰赤褐色	普通	外面沈線→L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土上層		
121	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土下層		
122	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土中		
123	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土下層		
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面縦線付 内面ナ	縄土上層		
125	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈線→無筋L線文→無文部磨き 内面磨き	縄土中層	PL36	
126	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	L線部外面にB突起 内面磨き	縄土上層		
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面沈線→縦線付→L線文 内面ナ	縄土下層		
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面付点縦線文 内面ナ	縄土上層		
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面縦線付 頸部区画内L線文充填	縄土上層		
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面縦線付→L線文→無文部磨き 内面ナ	縄土上層		
131	縄文土器	深鉢	[24.0]	[22.7]	-	長石・石英・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外・内面ナ	縄土中層	2%	
132	縄文土器	深鉢	[13.6]	[10.9]	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外・内面ナ	縄土中層	2%	
133	縄文土器	鉢	[10.8]	[6.2]	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外面ナ	内面磨き	縄土中	10%
134	縄文土器	広口壺	[17.2]	[18.9]	-	長石・石英・雲母	1.5灰褐色	普通	外・内面ナ	磨き	縄土中層	10%
135	縄文土器	深鉢	[7.3]	[6.9]	-	長石・石英・雲母	1.5灰赤褐色	普通	外面縦方向の磨き 内面縦方向のナ	縄土上層	10%	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5灰褐色	普通	外面縦線付出し 内面ナ	縄土上層		



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	にぶい	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	橙	普通	外面糸織→内面ナデ 口縁部付近磨き	覆土中層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	にぶい	橙	普通	外面ナデ→糸織 内面ナデ	覆土上層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	にぶい	橙	普通	溝状口縁 外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土上層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	普通	外面削り→ナデ 内面磨き	覆土中層	
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	黄褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄褐	普通	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土下層	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	にぶい	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土中層	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	橙	普通	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	橙	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土下層	
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	にぶい	橙	普通	外面削り→ナデ 内面ナデ	覆土中層	
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	普通	外面削り 一部磨き 内面ナデ	覆土中層	
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	橙	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	橙	普通	普通	外面削り 内面ナデ	覆土上層	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層		
154	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	橙	普通	普通	外面削り 一部ナデ 内面ナデ	覆土中層	
155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	普通	外・内面ナデ	P 5	
156	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい	黄褐	普通	外面削り 内面ナデ	P 5	
157	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	橙	普通	普通	外面削り 内面ナデ	P 5	
158	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	褐 灰	普通	普通	外面斜線文 内面磨き	P 23	
159	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・黒・粘り	橙	普通	普通	縁部磨き→糸織 内面ナデ	P 23	
160	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	橙	普通	溝状口縁 外面ナデ 内面磨き	P 17	
161	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい	黄褐	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	□B類
162	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明 褐	普通	普通	外・内面ナデ	覆土下層	□B類
163	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	橙	普通	普通	外面磨き 内面ナデ 口縁部打ち崩す状にへう切り	覆土中層	□C1類
164	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	普通	外面削り 斜線 内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP 1	土 甕	(5.9)	6.0	2.7	(68.4)	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	ミミズク 沈痾→紅・黒文→無文部磨き	覆土上層	30類
DP 2	土 甕	(2.4)	3.3	1.1	(6.9)	長石・石英	灰黄褐	X字状 表裏面ナデ		覆土上層	5d類
DP 3	土 甕	(2.4)	2.4	1.1	(5.4)	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	X字状 表裏面磨き	覆土上層	6e類
DP 4	土 甕	3.9	4.2	1.1	(16.2)	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	X字状 表裏面ナデ	覆土中層	6e類 P1,29
DP 5	土 甕	(4.1)	5.5	4.2	(54.1)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	中空 赤彩		覆土上層	5d類
DP 6	土 甕	(3.0)	5.0	3.2	(31.6)	紅・灰・粘り・粘り	褐 灰	中空 上部ソケット状 赤彩		覆土下層	5d類
DP 7	土 甕	(7.1)	(5.8)	1.2	(39.2)	長石・石英・角閃石	暗 褐	X字条 表裏面磨き 赤彩		覆土上層	6e類
DP 8	土 甕	3.2	3.1	1.0	(11.1)	長石・石英	にぶい	X字状 表裏面ナデ		覆土上層	6e類
DP 9	土 甕	(1.4)	3.6	(4.7)	(29.6)	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	ナデ調整 赤彩		覆土上層	5d類
DP10	動物形	(3.1)	(4.1)	(3.4)	(19.6)	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	イノシシ鼻部分 外面ナデ	覆土下層	PL44
DP11	動物形	(2.8)	3.1	1.2	(6.2)	長石・石英	橙	イノシシ		灰面	PL44
DP12	耳輪形	径4.2	-	3.7	58.8	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	表裏面磨き	覆土中層	11類 PL42
DP13	土 鉢	4.3	2.6	1.9	23.7	長石・石英	にぶい	黄褐	有溝 外面ナデ	覆土上層	
DP14	胎 形	(5.5)	7.0	1.8	(19.3)	長石・石英・赤色粒子	にぶい	黄褐	指掛による成形	覆土中層	
DP15	土 瓶	(5.7)	7.4	1.5	(52.3)	長石・石英・雲母	黒 褐	1字文 表裏面磨き		灰面	
DP16	土 瓶	(4.6)	(4.8)	2.0	(41.4)	長石・石英・角閃石	灰 褐	1字文 表裏面磨き		覆土下層	赤彩
DP17	土 瓶	(4.9)	(2.9)	1.5	(20.8)	長石・石英	黒 褐	1字文 表裏面磨き		覆土中層	
DP18	有孔円盤	径9.5	-	1.4	(75.8)	長石・石英・赤色粒子	明 褐	細かい貫通孔あり 表裏面ナデ		覆土上層	
DP19	有孔円盤	径11.0	-	1.3	(64.7)	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	貫通孔3か所 表裏面磨き	覆土中層	
DP20	有孔円盤	径9.6	-	1.5	(49.7)	紅・灰・粘り・粘り	にぶい	黄褐	貫通孔5か所 表裏面磨き	覆土中層	
DP21	底状土甕	5.1	5.9	2.2	(49.6)	長石・石英	明 褐	表面指掛による成形 裏面斜文		覆土上層	
DP22	底状土甕	7.0	4.3	2.2	(69.2)	長石・石英	灰 褐	表面沈痾		覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鉢・石甕	27.7	3.6	2.1	379.5	緑泥片岩	石剣 頭部磨きによる成形 研磨整形「高井東型」。	覆土下層	被熱 PL45
Q 2	石 鉢・石甕	(13.8)	3.1	2.7	(132.6)	粘板岩	石剣 研磨整形 1字文施文	覆土中層	被熱 PL45
Q 3	石 鉢・石甕	(7.0)	3.5	2.6	(87.5)	粘板岩	石剣 研磨整形 1字文施文	灰面	被熱 PL45
Q 4	石 鉢・石甕	(9.6)	3.1	1.8	(88.5)	緑泥片岩	石剣 頭部磨き成形 胴部研磨	覆土中層	
Q 5	石 鉢・石甕	(14.5)	3.4	1.5	(86.0)	粘板岩	石剣 研磨整形 下部磨面による沈痾文	覆土下層	被熱
Q 6	磨製石斧	16.8	5.7	2.8	(313.6)	ドレライト	未成品 表裏面に磨き整形	覆土中層	被熱 PL46
Q 7	磨製石斧	12.2	6.7	3.3	412.5	ドレライト	定角式 研磨整形 刃部に細かい沈痾	覆土下層	被熱 PL46
Q 8	磨製石斧	3.7	12.8	8.98		蛇紋岩	小形定角式 表裏面研磨整形	覆土下層	PL46
Q 9	磨製石斧	(5.6)	3.6	1.8	(59.2)	緑色岩	小形定角式 表裏面研磨整形	P 41	
Q 10	磨製石斧	(7.2)	5.0	2.5	(145.3)	ドレライト	定角式 表裏面研磨整形	覆土下層	
Q 11	磨製石斧	(5.5)	3.4	1.8	(47.0)	花崗斑岩	小形定角式 表裏面研磨整形	覆土中層	被熱
Q 12	磨製石斧	(9.7)	4.7	2.3	(149.8)	玄武岩	定角式 表裏面に敲打痕	覆土上層	
Q 13	磨製石斧	(7.0)	5.9	2.8	(177.1)	蛇紋岩	定角式 折損部に敲打痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	打製石斧	(5.1)	5.9	1.6	(638)	安山岩	分銅型	覆土下層	焼熱
Q 15	砥石	(6.1)	(4.3)	(2.9)	(68.7)	砂岩	砥面3面	覆土中	2a類
Q 16	砥石	(3.0)	(3.4)	(2.1)	(22.1)	砂岩	砥面2面	覆土上層	3類
Q 17	砥石	(3.3)	3.0	2.7	(24.1)	砂岩	砥面2面 棒状の研磨痕	覆土上層	1類
Q 18	石鏃	2.9	2.6	0.8	8.32	輝石アモサイト	長軸・短軸に縫製け痕	覆土上層	3類
Q 19	磨石	4.1	3.2	0.6	10.7	無理品質安山岩	両側面割離による刃部作出	覆土下層	
Q 20	磨石類	7.3	5.8	2.2	157.2	安山岩	表裏面光沢のある磨り面	覆土下層	2a類
Q 21	磨石類	5.3	4.7	3.4	117.0	安山岩	側面の一部に凹痕あり	覆土下層	焼熱 2a類
Q 22	磨石類	11.0	5.9	3.8	393.9	輝石安山岩	表裏面と下端面に凹痕	覆土下層	焼熱 2a類
Q 23	磨石類	8.5	8.1	5.2	518.4	輝石安山岩	表裏面光沢のある磨り面	覆土中層	1a類
Q 24	磨石類	(8.2)	3.7	3.4	(135.2)	ホルンフェルス	自然産の下端面に敲打痕	覆土下層	4c類
Q 25	石皿類	(7.8)	(10.6)	5.6	(610.9)	安山岩	表裏面に磨り面・凹痕	覆土中層	2類
Q 26	石皿類	(8.3)	(8.4)	6.2	(506.8)	安山岩	表裏面に磨り面 表面に凹痕	覆土中層	2類
Q 27	石皿類	(17.5)	18.1	5.8	(256.4)	安山岩	表裏面に磨り面 表面に凹痕	覆土下層	焼熱 2類 孔8
Q 28	石皿類	(13.6)	(5.5)	3.2	(326.2)	緑泥片岩	表面に敲打痕	覆土上層	焼熱 4類
Q 29	石鏃	(2.10)	1.4	0.5	(1.07)	チャート	有茎	覆土中層	PL47
Q 30	石鏃	(2.01)	1.16	0.42	(0.9)	瑪瑙	有茎 基部欠損	覆土下層	PL47
Q 31	石鏃	(1.96)	1.41	0.33	(0.6)	凝灰岩	凹基 先端部欠損	覆土下層	PL47
Q 32	石鏃	4.4	0.8	0.45	1.95	チャート	表面に黒石面残す 先端部磨滅	覆土下層	PL47
Q 33	玉類	径0.9	-	0.26	0.94	ネフライト	小玉 片面穿孔	覆土中層	PL46

## 第2号竪穴建物跡 (第17・18図)

**位置** 調査区A区北西部のB6h5区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層Ⅰ-1層下で確認した。第2号遺物包含層Ⅱ層を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第37号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。出土土器からは、第37号竪穴建物跡が新しい。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延び、また西部が第1号堀に掘り込まれているため、東西径4.0m、南北径3.8mしか確認できなかった。ピットの配置から径約5~6mの円形あるいは楕円形と推定できる。壁は高さ20cmで、ほぼ直立している。

**床** 台地の傾斜に沿って、北側に向かって下がっている。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 11か所。径が40~60cmで深さのあるP6~P8が、位置的に主柱穴の可能性がある。P6・P7では複数か所確認できることから、立て替えの可能性がある。P1~P4、P10・P11は、径がやや大きいものの、壁際に巡っている。

### ピット土層解説

1 褐色	ロームブロック中量	4 褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

### ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ	40	41	32	36	60	50	52	82	66	70	50

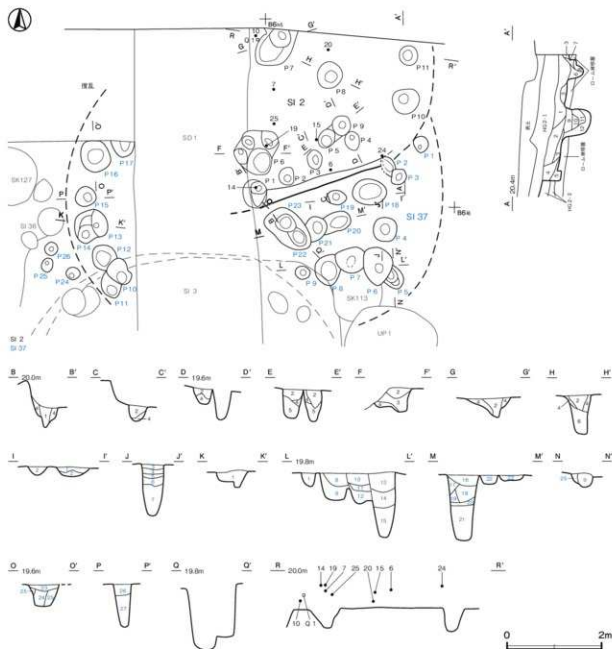
**覆土** 5層に分層できる。ローム粒子が少量含まれている土が、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

### 土層解説 (P10・P11含む)

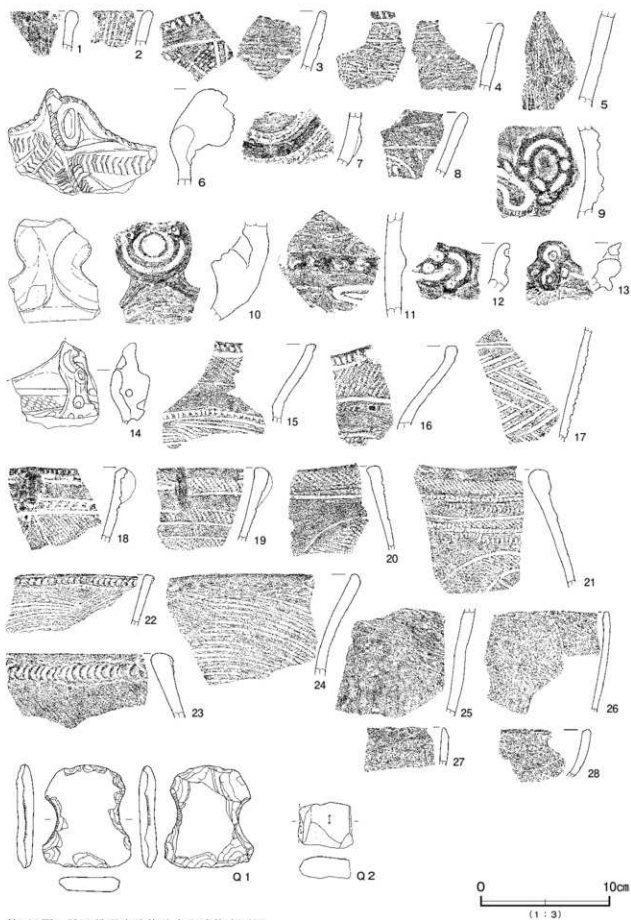
1 黒褐色	ローム粒子中量	7 暗褐色	ローム粒子少量 (P11覆土)
2 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子中量 (P11覆土)
3 暗褐色	ローム粒子中量	9 黒褐色	ローム粒子少量 (P10覆土)
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子微量 (P10覆土)
5 黒褐色	ローム粒子中量	11 暗褐色	ロームブロック中量 (P10覆土)
6 黒褐色	ローム粒子少量 (P11覆土)	12 暗褐色	ロームブロック多量 (P10覆土)

**遺物出土状況** 縄文土器片 817 点 (215.3kg)、石器 4 点 (打製石斧 1、磨石類 2、砥石 1) のほか、剥片 5 点 (黒曜石 3、チャート 2) が出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 3 群 (後期初頭) 24.4%、第 4 群 (後期前半) 30.9% である。

**所見** 時期は、土器の出土量と壁柱穴状の柱穴が巡っている建物跡であることから、後期初頭から前葉の可能性があるが、建物跡に主柱穴が確認できる点と、中期前半の大形破片も出土していることから、本跡は中期前半の建物跡と推測される。後期以降の遺物はその後の造成等により混入したものと考えたい。



第 17 図 第 2・37 号竪穴建物跡実測図



第18图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図

## 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面熱赤文し 内面ナデ	P 6	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面熱赤文R 内面ナデ	覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面区画文内に押印文 交点に管管文 内面貝殻赤文	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	灰 褐	普通	外・内面貝殻赤文 口径部刷毛	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面貝殻赤文 内面ナデ	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面爪形文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	隆帯屈折形文 内面磨き	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線間に刷突文 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面C字状貼付文 内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外・内面磨き 内面にC字状文	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面縁線貼付 J字文。内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄橙	普通	口縁部外面にC字状貼付文 内面磨き	P 6	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	口縁部外面にC字状貼付文 内面ナデ	P 7	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	口縁部沈線→RL縄文→無文部磨き 胴部LR縄文→赤線	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面胴部矢羽状文 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面刷毛貼付→屈折・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面刷毛帯貼付→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯貼付→屈折・RL縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯貼付→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条線→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外・内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	明赤褐	良好	外面閉り 内面ナデ	口C類	
27	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	良好	外面閉り 内面ナデ	口B類	
28	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面ナデ→沈線文 内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	打製石斧	7.9	6.9	1.15	101.0	融密安山岩	分銅形 両側縁磨り肌	覆土中層	被熱 PL45
Q2	砥石 (3.6)	(4.3)	(1.7)	(35.14)		砂岩	砥面表裏2面	覆土上層	被熱 4類

## 第37号竪穴建物跡 (第17・19図 PL12)

位置 調査A区北西部のB 614区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第113号土坑を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第2・3号竪穴建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。出土遺物からは、第2号竪穴建物跡よりも新しい。

規模と形状 第2号遺物包含層のⅡ層下のローム面で確認した。壁や炉跡、出入口ピットが確認できず、竪穴穴の配置から平面形を推定した。北部が調査区域外に延びるため、東西径7.0 m、南北径3.0 mしか確認できなかった。径約7 mの円形と推定できる。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 26か所。P 1～P 17は、径が25～80 cmで、円形に並んでいることから竪穴穴と考えられる。P 22・P 23は、位置や深さから主柱穴と考えられる。第2号竪穴建物跡としたP 5・P 9は、径がやや細いものの、位置的には本跡の主柱穴とも考えられる。いずれも2か所のピットが重複または隣接しており、立て替えの可能性がある。

ピット深度表

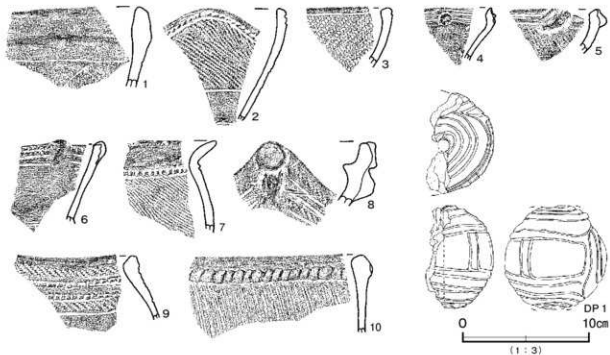
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
深さ	40	29	45	118	37	138	62	56	33	16	31	39	31	56	91	94	38	23	18	12	18	114	138	14	23	28

ビッド土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	17	褐色	ローム粒子多量
4	極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	18	極暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
5	極暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	19	黒褐色	ロームブロック中量
6	黒褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子・骨粉少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量	21	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	22	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
9	暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子少量	23	極暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量	24	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量	25	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量
12	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量	26	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
13	極暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量	27	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
14	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量			

遺物出土状況 縄文土器片 151 点 (254kg), 土製品 2 点 (土錘, 土器片円盤), 石器 1 点 (磨石類) が, 出土している。

所見 時期判断が可能な土器は少ないが, 第 4 群 (後期前葉) から第 7 群 (後期後葉) までのものが, 比較的まとまっている。よって時期は, 出土土器と建物跡の形状から, 後期後葉の曾谷式から安行 1 式期と考えられ, 後期初頭から前葉の土器群は, 第 2 号竪穴建物跡と同様, その後の造成等による混入と考えたい。調査では確認できなかったが, 第 2 号遺物包含層中から掘り込まれていたものと推測される。



第 19 図 第 37 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 37 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 19 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子にふい粉	普通	普通	外・内面磨き		P 4
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	外面沈線→R1, 縄文→無文磨き	内面磨き	P 16
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→LR, 縄文・内面磨き		P 4
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面磨き削り	内面磨き	P 6
5	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にふい粉	普通	外面沈線→磨貼付→R1, 縄文→無文磨き	内面磨き	P 4
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部外面に削み	内面磨き	P 16
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→削み→R1, 縄文・内面口縁部磨き	胴部ナシ	P 6

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土地	備考
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯筋沈線→RL.縄文 内面磨き	P 6	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・黒色粒子	灰黄緑	普通	外面隆帯筋沈線→刷毛・RL.縄文→無文磨き 内面磨き	P 4	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい焼	普通	外面糸線→鉄線貼付 内面ナデ	P 6	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土地	備考
DP 1	土 鉢	径(82)	-	(8.2)	(267)	長石・石英	にぶい橙	球状 片面穿孔	覆土中	PL44

### 第3A・B号竪穴建物跡（第20～22図 PL 6）

位置 調査A区北西部のB 6j5区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層第I-2層下で確認した。第1号地下式坑、第1号堀に掘り込まれている。第5・6・9・37号竪穴建物跡、第30号土坑とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。

規模と形状 東壁部分しか確認できなかったことから、出入口ピットと壁柱穴の配置から平面形を推定した。東壁と並行するように巡っているP 23・P 26～P 29・P 37～P 40を壁柱穴とする第3A号建物跡は、出入口ピットまで含めた長軸は8.3m、短軸は6.6mの隅丸長方形で、主軸方向はN-13°-Wである。また、その西側に巡るP 25・P 30～P 36を壁柱穴とする第3B号建物跡は、長径8.3m、短径7.8mの不整楕円形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁は高さ7～32cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 48か所。径が40～80cmで、深さのあるP 1～P 3、P 4～P 6が位置的に支柱穴の可能性があるが、それぞれのA・Bへの帰属は不明である。P 7・P 8、P 9・P 10は、位置と形状から出入口ピットと考えられる。P 11～P 40は、径が20～50cmで、位置と形状から壁柱穴と考えられる。

#### ピット土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	17	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2	暗褐色	ローム粒子多量	18	暗褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	灰多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	19	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	21	黒褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	22	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・貝片微量
7	黒褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	23	暗褐色	ロームブロック微量
8	黒褐色	ロームブロック中量	24	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
9	極暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	25	暗褐色	ロームブロック中量
10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	26	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
11	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	27	極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
12	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	28	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
13	極暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	29	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
14	黒褐色	ロームブロック少量	30	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
15	黒褐色	ローム粒子少量	31	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
16	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	32	黒褐色	ロームブロック中量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
深さ	83	81	51	54	73	156	104	73	146	16	33	15	33	11	64	14	69	41	52	69	69	60	40	130
番号	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
深さ	68	40	10	13	13	40	31	65	40	76	42	34	83	34	21	16	9	47	38	13	40	18	50	20

覆土 6層に分層できる。床面は地山ロームを掘り込んでいない。第1～3層は、焼土ブロックや炭化物が含まれている層が、ブロック状に堆積している。また、第4層はロームブロックがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。第6層は、第2号遺物包含層のII層に類似する土である。



第20图 第3号竖穴建物跡实测图



## 土層解説

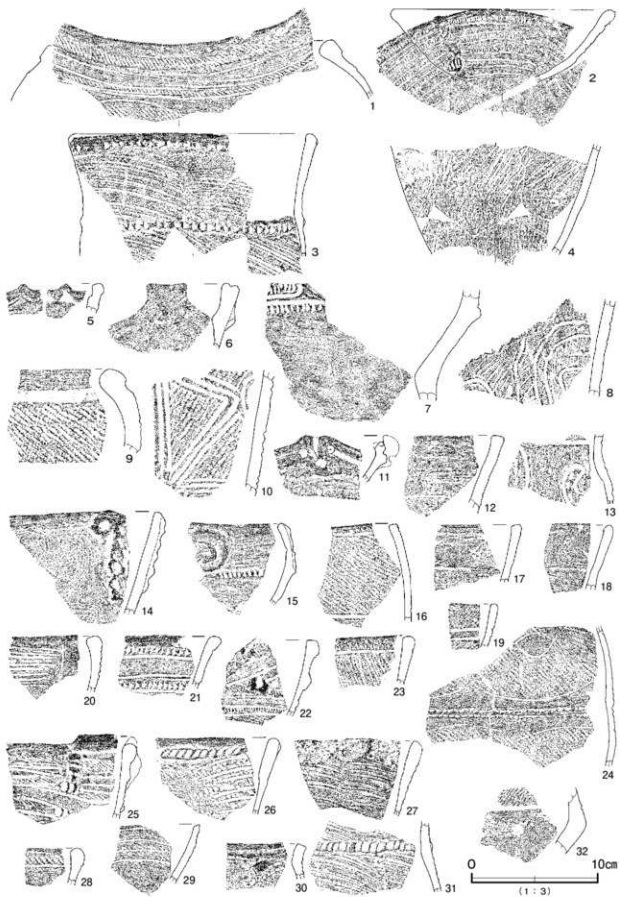
- |        |                         |        |                     |
|--------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量   | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色   | 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量      | 6 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量   |        |                     |
| 4 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |        |                     |

**遺物出土状況** 縄文土器片1,159点(1734kg)、土製品6点(土器片円盤2、耳飾り1、土偶1、有孔円盤1、棒状1)、石器・石製品7点(石鎌1、石皿類1、磨石類3、浮子1、石棒・石剣類1)のほか、石核1点(チャート)、剥片10点(黒曜石6、チャート4)、獣骨片46.0gが出土している。東壁際中央及び出入口ピット北東部に確認できた焼土と炭化物は、覆土上層から出土したものである。P6の覆土中から、イノシシの歯が出土している。土器は中期前半のものから見られるが、晩期の土器はほとんど確認できず、主体となるのは第3群(後期初頭)の21.5%、第4群(後期前葉)の25.4%と、第6・7群(後期後葉)の24.5%である。

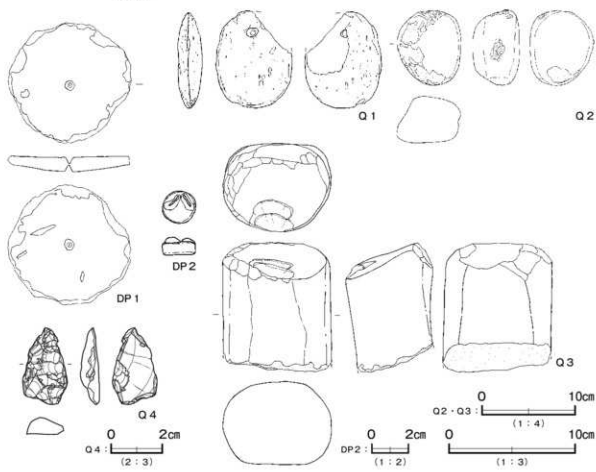
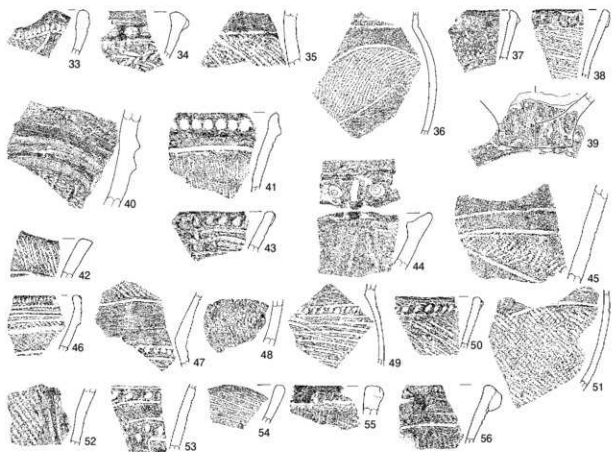
**所見** 時期は、出土土器と遺構の形状から、後期後葉の安行1式から安行2式期と考えられる。

## 第3号竪穴建物跡出土遺物観察表(第21・22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	[226]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面段帯流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層 5%	
2	縄文土器	浅鉢	[174]	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面段帯流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層 30%	
3	縄文土器	深鉢	[186]	(9.7)	-	長石・石英・赤色粒子	黒灰	普通	外面糸織→線織貼付	内面磨き	P4・P5 5%	
4	縄文土器	深鉢	-	(8.8)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面段帯流紋	下平磨き	内面ナデ P3 20%	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面内押文	内面磨り込み三文文	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面流紋部にも線織貼付	内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	口縁部外面に糸形文	内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒灰	普通	外面流紋→斜線文	内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	外面流紋→R.L.縄文	内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面0段3本のR.L.縄文→市管工による流紋	内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外面に流紋文	内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面横位流紋→磨石加工による糸織	内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	外面J字文	内面部磨き	胴部ナデ 覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面ナデ→磨石加工による糸織	内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外面にC字状貼付文	内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面磨り	内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面磨り	内面磨き	覆土下層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面LR縄文	内面ナデ	覆土下層 赤彩	
20	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面区画内に横位の流紋文	内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒灰	普通	外面段帯流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	外面段帯流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒灰	普通	外面糸織→付点線織文	内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面段帯流紋→R.L.縄文	内面ナデ	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面地縄文→糸織→線織貼付	内面ナデ	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面糸織	線織磨離	内面磨き	覆土下層
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面段帯流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	P3	
29	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	P3	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面2本の有孔流紋文	内面ナデ	P4	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面糸織→線織貼付	内面ナデ	P4	
32	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	P17	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面流紋→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	P5	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面地縄文→線織貼付・流紋文	内面磨き	P5	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	外面地縄文→糸織→磨き	内面部磨き	胴部ナデ P5	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面流紋→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	P5	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面LR縄文→糸織→線織貼付	内面磨き	P6	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面糸織→線織貼付	内面磨き	P6	
39	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面・底部磨き	内面ナデ	P6 10%	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面R.L.縄文→段帯磨き	磨き	内面磨き	P7
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面磨石加工による刺突文	内面磨き	P7	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒灰	普通	外面流紋→斜線文→無文部磨き	内面磨き	P7	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	外面地縄文→糸織→線織貼付	内面ナデ	P7	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	灰褐色	普通	外・内面ナデ		P7	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒灰	普通	外面流紋→R.L.縄文	内面ナデ	P7	



第 21 图 第 3 号竖穴建物跡出土遺物 实测图(1)



第22图 第3号竪穴建物跡出土遺物 実測図(2)

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第21・22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面北線→RL縄文 内面磨き	P 7	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	焼 灰	普通	外面北線→RL縄文→無文部磨き 断面RL縄文→沈着	P 7	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面斜突文 内面磨き	P 15	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面磨み→巻線 内面ナデ	P 15	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面RL縄文→紐線貼付→巻線 内面磨き	P 34	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面北線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 34	保存着
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい焼	普通	外面LR縄文→磨き 内面ナデ	P 21	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面北線斜突文 内面磨き	P 21	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	焼 灰	普通	外面斜線文 内面磨き	P 21	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面巻線→紐線貼付 内面ナデ	P 41	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨み→沈着→RL縄文→磨き 内面磨き	P 35	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	有孔円盤	9.6	9.8	1.3	121.7	紅土・赤土・粘砂子	にぶい橙	深鉢底部の転用 中央の穿孔は未貫通	P 6	
DP 2	真鍮円盤	径1.7	-	1.0	2.87	長石・石英	にぶい赤黒	ナデ調整	覆土上層	1 1期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	滓子	7.7	6.1	1.9	(24.5)	凝土	上部に貫通孔	P 6	PL47
Q 2	磨石類	7.9	6.8	4.9	371.9	安山岩	上部部と側面に凹痕	P 6	1a 類
Q 3	石皿類 (13.6)	11.5	9.2	(227.0)	輝石安山岩	丸形磨石の転用	下層は切断のまま 上層は切断後前面に利用	P 3	1 類 PL48
Q 4	石皿	3.06	1.79	0.77	4.1	チャート	未成品	覆土上層	

第4号竪穴建物跡 (第23～30図 PL 4)

位置 調査A区西部のC 6 b2区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の1層下で確認した。第5・7・19・55号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第1号竪穴建物跡との新旧関係は捉えられなかったものの、出土土器と遺構の残存状態から、第1号竪穴建物に掘り込まれていると考えられる。

規模と形状 不整隅九角形の掘り込みを本跡とするが、本跡では多数のピットを確認でき、また出土土器についても、大きく2つの時期のものが認められた。本跡は、南東部が第1号竪穴建物に掘り込まれているため、短軸は5.02 m、出入口部を含めた長軸は5.82 mしか確認できなかった。南部に出入口部と推測できる張り出し部を有する不整形で、主軸方向はN-2°-Wである。確認できた壁は、高さ25～30cmで直立しているが、土層断面から本来の壁の高さを推定すると、40～70cmほどである。

床 はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 長径65cm、短径53cmの楕円形で、床面のほぼ中央部に付設されている。深さ12cmの地床炉で、火床面の赤変硬化はほとんど確認できなかった。

土層解説

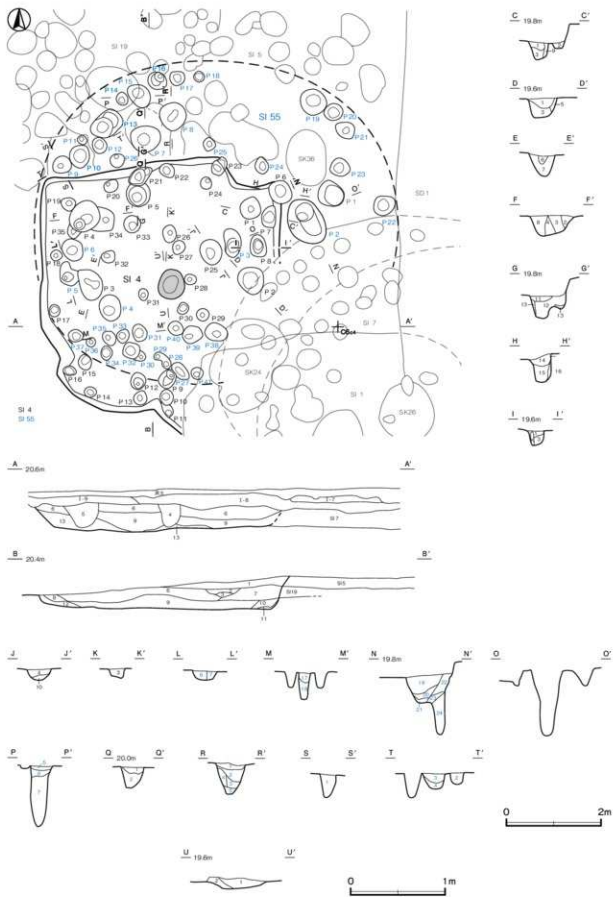
1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・骨粉 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量  
少量

ピット 35か所。P 1～P 5は、位置と形状・深さから主柱穴である。P 6～P 24は径が20～50cmと細く、壁際に巡っていることから、壁柱穴である。第1号竪穴建物跡のP 17・P 18、第7号竪穴建物跡に帰属するP 18～P 21・P 38は、位置から本跡の壁柱穴の可能性もある。出入口部は本跡南壁が張り出す部分と考えられる。第1号竪穴建物に掘り込まれ、ピットの痕跡は確認できなかった。

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	63	51	44	54	53	39	18	46	42	27	19	41	15	12	40	6	15	22
番号	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
深さ	13	36	31	33	14	44	23	19	10	10	13	20	9	26	41	3	22	



第23図 第4・55号竪穴建物跡実測図(1)

第4・55号建物跡ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 8 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 暗褐色 ローム粒子中量

第55号建物跡P7土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第55号建物跡P8土層解説

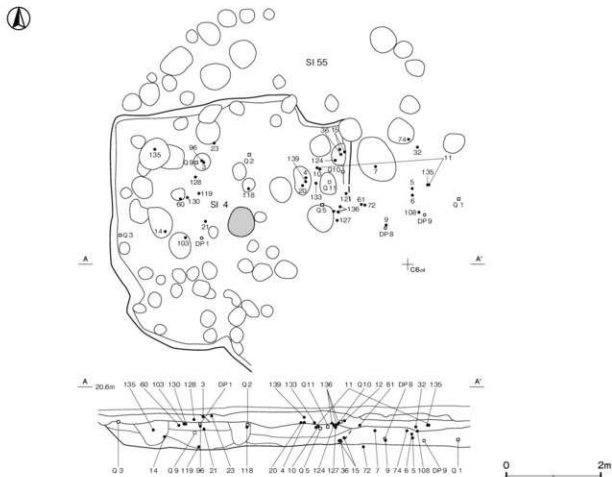
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

- 14 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 15 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 16 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 17 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 18 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 19 極暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量
- 20 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 骨粉微量
- 21 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 22 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 23 暗褐色 ロームブロック中量
- 24 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第55号建物跡P9・P10・P12・P15土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

覆土 13層に分層できる。ローム粒子や焼土粒子、骨粉が含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第4・5層はピット状の形状で、本跡上位の第2号遺物包含層中に別の遺構が存在する可能性がある。



第24図 第4・55号堅穴建物跡実測図(2)

## 土層解説

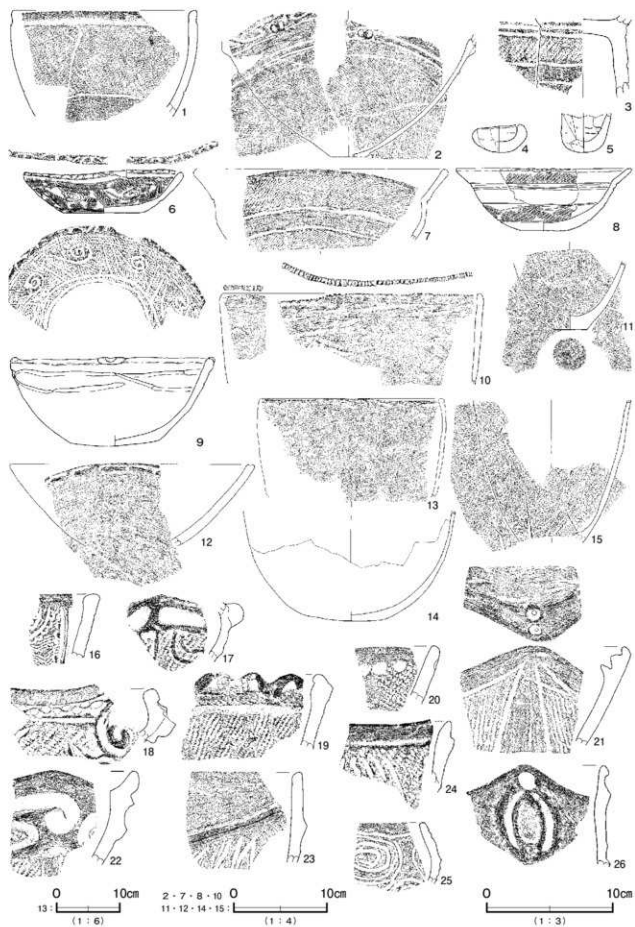
1 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	8 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
3 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、骨粉少量、炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量
5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量	13 暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 8,350 点 (129.2kg)、土製品 28 点 (土鉢 2、土器片円盤 7、耳飾り 1、土版 5、土偶 3、有孔円盤 2、匙形 1、貝輪状 5、棒状 2)、石器・石製品 70 点 (磨製石斧 5、打製石斧 3、石皿類 6、磨石類 36、石錘 2、砥石 9、礫器 1、石棒・石剣類 8)のほか、焼成粘土塊 6 点、発泡体 2 点、石核 19 点 (チャート 18、黒曜石 1)、剥片 29 点 (チャート 19、黒曜石 9、頁岩 1)、獣骨片 22.76 g (鹿角片 2 点、イノシシ歯片を含む) が出土している。遺物は主に覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、時期的なまとまりが見られるのは第 4 群 (後期前葉) 14.5%、第 5 群 (後期中葉) 18.8%、第 6・7 群 (後期後葉) 15.9%、第 8 群 (晩期前葉から中葉) 26.8% である。床面付近で炭化物の散布が確認できる。

**所見** 時期は、出土土器と形状から晩期前葉から中葉の安行 3 b 式から安行 3 c 式期と考えられる。4 群土器が一定量出土していることから、本跡の構築以前に、該期の遺構が存在していた可能性がある。

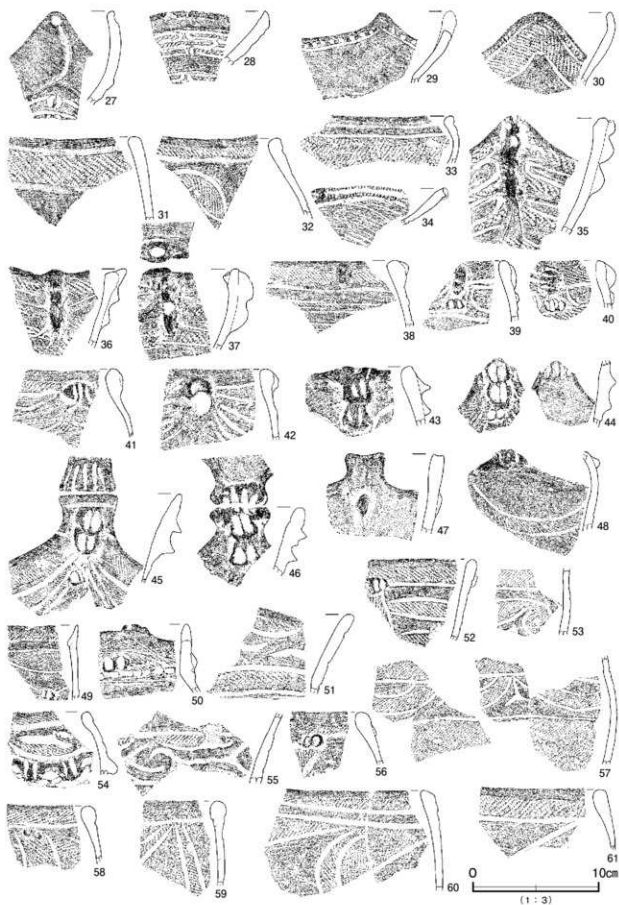
## 第 4・55 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 25～30 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[144]	08.4	-	長石・石英	赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文 内面ナデ	床面	二次焼成 20%
2	縄文土器	片口	-	(12.9)	[3.7]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	10%
3	縄文土器	片付鉢	-	(6.5)	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	100%
4	縄文土器	シナフ	3.1	2.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面指跡ナデ	覆土上層	100%
5	縄文土器	シナフ	-	(3.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面指跡ナデ	覆土下層	50%
6	縄文土器	浅鉢	12.4	3.5	6.8	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文 口唇部B突起 内面磨き	覆土上層	50%
7	縄文土器	浅鉢	[262]	7.5	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	10%
8	縄文土器	浅鉢	[182]	06.6	[5.0]	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	覆土中	20% PL28
9	縄文土器	浅鉢	15.8	7.0	7.0	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面 4 単位の特状文 磨き 外面磨き	床面	80% PL28
10	縄文土器	深鉢	[274]	09.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面磨り 口唇部に刷み 内面ナデ	覆土中層	10%
11	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	3.0	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面磨り 内面・底面磨き	覆土中層	30%
12	縄文土器	浅鉢	[256]	8.6	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部に沈線文 内面ナデ	覆土上層	10%
13	縄文土器	深鉢	[286]	(13.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ→粗い磨き	覆土下層	10%
14	縄文土器	鉢	-	(11.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	10%
15	縄文土器	深鉢	-	(13.6)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土下層	10%
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面無刷し縄文→竹管文 内面磨き	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 R.L.縄文→除帯刷付 内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面 R.L.縄文→除帯刷付 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面 R.L.縄文 内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面 L.R.縄文 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→無刷し縄文 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 R.L.縄文→磨き文→磨き文磨き 内面磨き	覆土中層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯下沈線文 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 L.R.縄文→磨き文 内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 L.R.縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面 C 字取貼付文 内面磨き	覆土中層	
27	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面無文部・内面磨き	覆土上層	口縁部に僅
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈線→刷み 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面刷部条線 内面磨き	覆土上層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外面隆起帯下沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯下沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	



第25图 第4·55号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

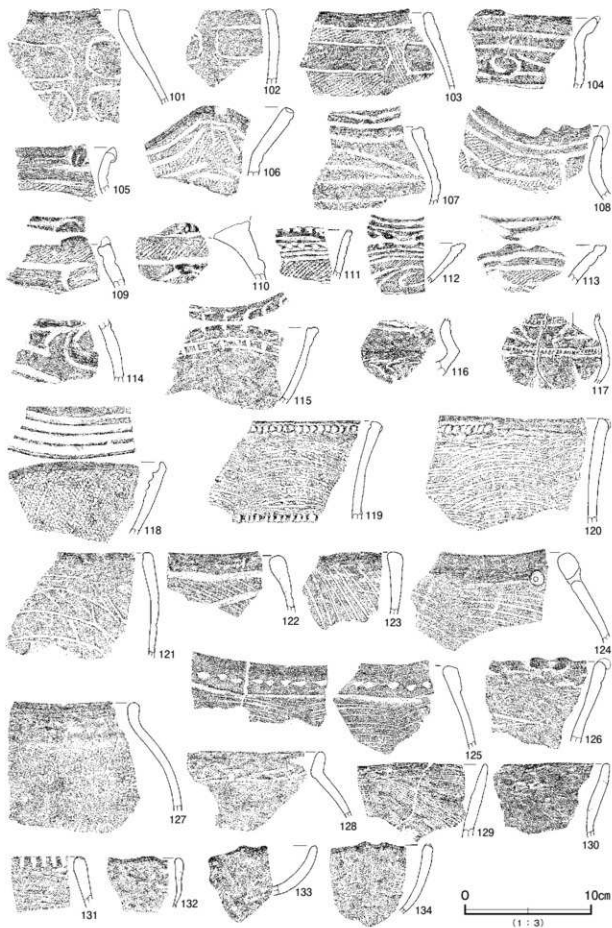




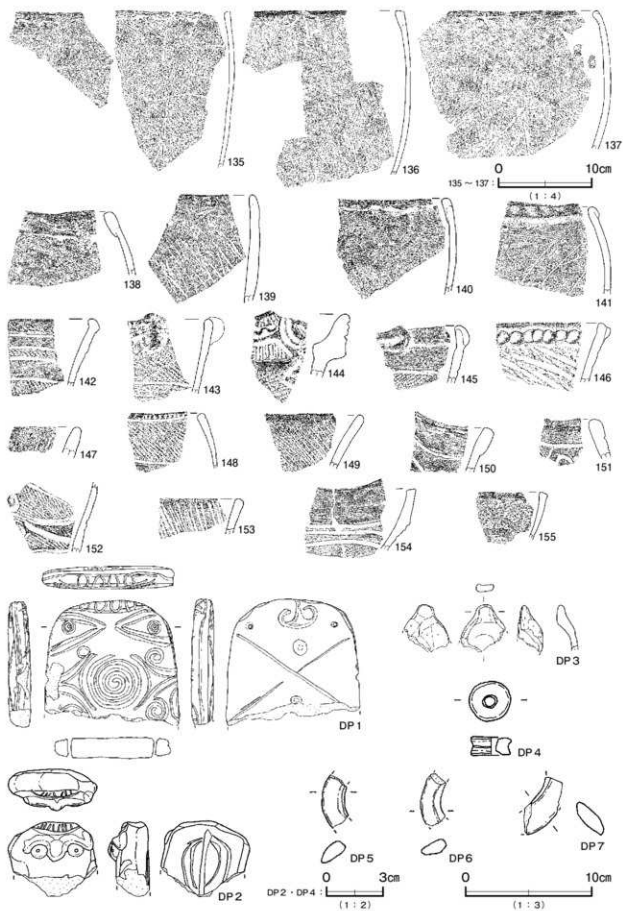
第 26 图 第 4・55 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



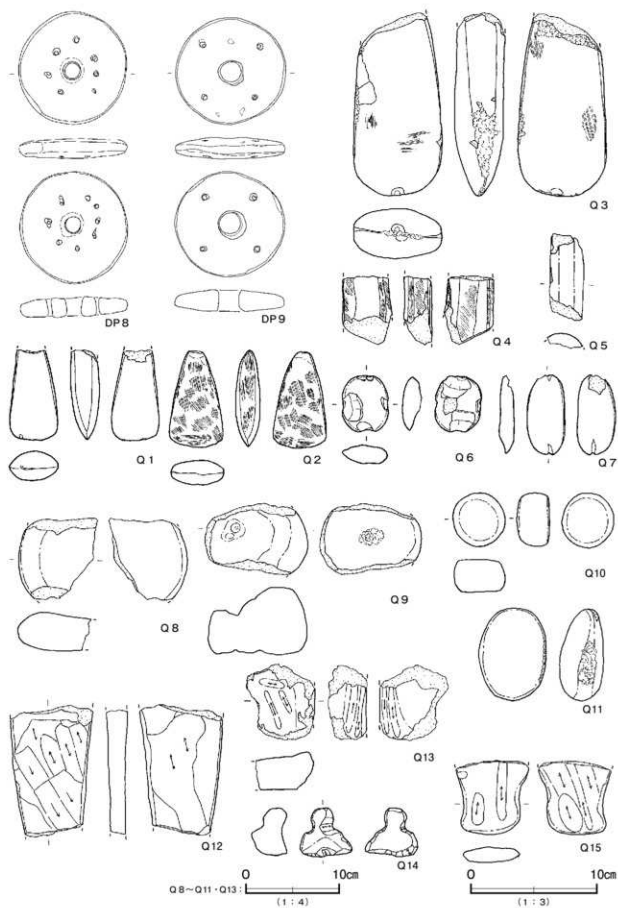
第27图 第4·55号竖穴建物跡出土遺物実測图(3)



第28图 第4・55号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)



第29图 第4·55号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)



第30图 第4・55号竖穴建物跡出土遺物実測図(6)

第4・55号堅穴建物跡出土遺物観察表(第25～30図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
37	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→瘤貼付→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	灰褐色	灰焼	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	灰褐色	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文	内面磨き	甕土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	灰黄褐色	普通	外面隆帯上.L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面隆帯沈凹→L.R.縄文→瘤貼付→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外・内面ナデ		甕土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	灰黄褐色	普通	口縁部外面に突起	内面ナデ	甕土中層	
48	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文	内面ナデ	甕土上層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	灰褐色	灰焼	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面瘤貼付→沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	灰褐色	灰焼	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中層
54	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石炭	灰褐色	灰焼	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中層
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰黄褐色	普通	外面沈凹→瘤貼付→L.R.縄文→無文部ナデ	内面ナデ	甕土中層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰赤褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文	内面ナデ	甕土上層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→ナデ	内面ナデ	甕土上層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→ナデ	内面ナデ	甕土中層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	橙	普通	外面染黒→沈凹→L.R.縄文	内面ナデ	甕土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰赤褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面成頂部押圧文	内面ナデ	甕土下層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文	内面磨き	鉢巻状胎付文	甕土中層
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	靑	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰赤褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	口縁部突起に小所	内面ナデ	甕土上層	
70	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	成頂部に鉢巻状胎付文	内面ナデ	甕土中層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中	PL.36
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外・内面磨き	口縁部に粘土線文付付	甕土下層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	灰褐色	普通	外面彫形刺突文	内面磨き	甕土中	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰赤褐色	普通	外面糸線	内面ナデ	甕土中層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・黄褐色	1.5灰赤褐色	普通	外面口縁部削り	胴部磨き	内面磨き	甕土中層
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰赤褐色	普通	外面無文部	内面磨き	甕土中層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面口縁部削り	胴部磨き	内面ナデ	甕土上層
78	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰赤褐色	普通	外・内面ナデ	内面に沈線文	甕土中	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面三叉状入組文	内面ナデ	甕土中	
80	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外・内面ナデ		甕土中層	
81	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹刺突文による施文	内面磨き	甕土上層	
82	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹刺突文による施文	無文部磨き	内面ナデ	甕土中層
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	口縁部外面に鉢巻状胎付文	内面磨き	甕土中層	
84	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰赤褐色	普通	外面無文部	内面ナデ	内面に沈線文	甕土中
85	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面三叉状入組文	外面沈線文・磨き	甕土上層	
86	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面風車文	内面沈線文・磨き	甕土上層	
87	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰赤褐色	普通	口唇部に沈線文	内面ナデ	甕土上層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面瘤貼付	細い刺突文施文	内面ナデ	甕土中
89	縄文土器	正口甕	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹刺突文による施文	無文部磨き	内面磨きナデ	甕土上層
90	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面成頂部に三叉文	内面ナデ	甕土上層	
91	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面無文部磨き	口唇部に押圧文	内面磨き	甕土上層
92	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→無筋L.縄文→磨き	内面磨き	甕土中	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰赤褐色	普通	外面沈凹→細密沈線文・磨き	内面ナデ	甕土上層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→細密沈線文・磨き	内面磨き	甕土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→細密沈線文・磨き	内面ナデ	甕土上層	
96	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈凹→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面沈凹→細密沈線文・磨き	内面ナデ	甕土上層	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面削り	内面ナデ	甕土上層	
99	縄文土器	付付鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰赤褐色	普通	外面1字文	無文部磨き	内面磨き	甕土上層
100	縄文土器	付付鉢	-	-	-	灰石・石炭	1.5灰褐色	普通	外面1字文	外面無文部	内面磨き	甕土中
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	1.5灰褐色	普通	外面杵状文	無文部	内面ナデ	甕土中
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石炭・赤色粒子	靑	普通	外面杵状文	無文部	内面ナデ	甕土中層

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→無面L縄文 内面ナテ	甕土上層	
104	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	甕土中層	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・榍石	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→無面L縄文→磨き 内面磨き	甕土中層	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・榍石	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→無面L縄文→磨き 内面磨き	甕土中層	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・榍石	明赤褐色	普通	外・内面磨成 口唇部沈澱文	甕土下層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈澱→無面L縄文 内面L部磨成 胴部ナテ	甕土中層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→L縄文→磨き 内面磨成	甕土中層	
110	縄文土器	内付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→磨成胎→無面L縄文→無文部磨き 内面ナテ	甕土中層	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈澱→L縄文→磨き 内面磨成	甕土上層	
112	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈澱→L縄文→磨成 内面磨成	甕土中層	
113	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→L縄文→磨成 内面磨成	甕土中層	
114	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈澱→L縄文→磨成 内面ナテ	甕土中層	
115	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面磨成 二溝間の底面 口唇部無文 内面磨成	甕土上層	
116	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面胴部ナテ 胴部矢状凹文 内面指頭ナテ	甕土上層	
117	縄文土器	壺	-	(5.6)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナテ	甕土中層	PL36 40% 赤彩
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面L縄文 内面内縦→磨成	甕土上層	
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面純縄文→縁部磨成胎→条線 内面沈澱→磨成	甕土下層	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→縁部磨成胎 内面ナテ	甕土下層	
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面ナテ	甕土中層	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→沈澱→口唇部磨成 内面磨成	甕土中層	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面磨成	甕土中層	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面条線 内面磨成 焼成後穿孔	甕土上層	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面縁部部分削り出し 内面ナテ	甕土上層	
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線 B突起 内面ナテ	甕土上層	
127	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面口唇部ナテ 胴部磨成 内面磨成	甕土上層	
128	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨成	甕土上層	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨成胎状工具による条線 内面磨成	甕土中層	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナテ	甕土上層	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線 口唇部磨成 内面ナテ	甕土中層	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面指頭ナテ 内面ナテ	甕土中層	
133	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・榍石	にぶい黄褐色	普通	外面削り 内面ナテ	甕土上層	
134	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削り 内面ナテ一部粗い磨成	甕土中層	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナテ	甕土中層	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面削り 内面ナテ	甕土上層	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	外面磨成 内面ナテ	甕土上層	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナテ	甕土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 口唇部指頭ナテ 内面ナテ	甕土上層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナテ	甕土中層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨成胎→条線 内面ナテ	甕土上層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・榍石	橙	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文→無文部磨成 内面磨成	P 6	
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外面磨成胎→沈澱→RL縄文→無文部磨成 内面磨成	P 9	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面指頭RL縄文 内面ナテ	P 23	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→L縄文→無文部磨成 内面磨成	P 25	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面縁部磨成胎→RL縄文→条線 内面ナテ	SE55 - P6	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面L縄文 内面ナテ	SE55 - P3	
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈澱→磨成胎→RL縄文→無文部磨成 内面磨成	SE55 - P3	
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈澱 内面ナテ	SE55 - P7	二次焼成
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈澱→磨成胎沈澱文→無文部磨成 内面磨成	SE55 - P8	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・榍石	褐灰	普通	外面沈澱→磨成胎沈澱文→無文部磨成 内面磨成	SE55 - P8	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨成 内面ナテ	SE55 - P8	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面ナテ	SE55 - P3	
154	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面無文部 内面磨成	SE55 - P10	
155	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面ナテ 口唇部外周ぎざざにへう切り	甕土上層	口C2類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土版	(100)	10.7	1.8	(2506)	長石・石英	灰黄褐色	上部に貫通孔2か所 表裏面に赤彩	甕土上層	PL43
DP 2	土版	(40)	4.7	2.2	(362)	長石・石英	橙	表裏面ナテ	甕土中層	無型, PL39
DP 3	土版	(38)	(3.6)	2.0	(115)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	表裏面ナテ	甕土上層	PL44
DP 4	耳飾り	径22	-	1.0	5.08	長石・石英・榍石	灰褐色	表裏面磨成	甕土中層	型1類
DP 5	耳輪状	(42)	2.2	1.8	(105)	長石・石英	浅黄褐色	表裏面ナテ	甕土下層	
DP 6	耳輪状	(42)	2.0	1.3	(93)	長石・石英	にぶい黄褐色	表裏面ナテ	甕土下層	
DP 7	耳輪状	(48)	2.9	2.6	(166)	長石・石英・赤色粒子	橙	表裏面ナテ	甕土上層	
DP 8	有孔円盤	径9.0	-	1.6	(1156)	長石・石英・赤色粒子	橙	表裏面・側面ナテ	甕土下層	PL43 二次焼成
DP 9	有孔円盤	径8.8	-	1.8	(1314)	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	表裏面磨成 縁縁磨成	甕土下層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(7.1)	3.8	2.3	(956)	ドレライト	定角式 表裏面研磨整形	覆土下層	PL46
Q 2	磨製石斧	7.7	4.2	1.9	96.3	凝灰岩	定角式 表裏面研磨整形	覆土上層	PL46
Q 3	磨製石斧	(14.5)	7.1	3.9	(6749)	閃緑岩	定角式 表裏面研磨整形 側面・刃部に敲打痕	覆土上層	
Q 4	磨製石斧	(5.4)	3.9	2.2	(868)	緑色岩	定角式 表裏面研磨整形	覆土上層	PL46
Q 5	石錘-石槌	(6.8)	(2.7)	(1.2)	(301)	粘板岩	石錘 研磨整形	覆土上層	被熱
Q 6	石錘	2.9	2.5	1.1	9.48	砂岩	打ち欠り4か所	床面	3類
Q 7	石錘	6.3	2.9	1.1	32.3	頁岩	長軸方向に切り目	覆土中層	2類
Q 8	石皿類	(8.5)	(8.3)	4.0	(2297)	安山岩	表裏面使用	覆土下層	1類
Q 9	石皿類	(7.4)	(10.6)	7.2	(5091)	安山岩	表裏面に凹痕	覆土中層	4類
Q 10	磨石類	6.5	5.3	3.4	167.0	輝石安山岩	表裏面磨り面	覆土上層	1c類
Q 11	磨石類	9.5	6.9	4.5	437.2	角閃石輝石安山岩	一側縁に敲打痕	覆土上層	2a類
Q 12	砥石	(10.4)	(6.6)	1.7	(138.5)	砂岩	表裏2面に砥面	覆土中	被熱 2類
Q 13	石皿類	(7.9)	(7.2)	4.0	(2682)	角閃石黒雲母花崗岩	表裏面磨り面 表・裏面に溝状の砥面あり	覆土下層	1類
Q 14	砥石	3.9	4.2	2.8	33.5	砂岩	側面に溝状の砥面	覆土中層	1類 PL48
Q 15	砥石	(5.8)	5.8	1.2	(444)	砂岩	表裏面に砥面	覆土上層	4類

### 第55号竪穴建物跡 (第23～30図 PL 4)

位置 調査A区西部のC 6b3区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の1層下で確認した。第4号竪穴建物跡、及び第5・19号竪穴建物跡としたピット群のうち、両跡に帰属しない弧状に巡る小ピットが確認できたこと、また第4号竪穴建物跡から出土した土器群が、後期後半と晩期前葉の大きく2時期あることなどから、第4号竪穴建物跡と別に本跡を想定した。第1・5・7・19号竪穴建物跡、第24・36号土坑と重複しているが、堆積状況での新旧関係は不明である。

規模と形状 弧状に巡る小ピット群から、南北径7.6m、東西径7.7mの円形と推定できる。壁は確認できなかった。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 41か所。P1～P8は、位置と形状・深さから主柱穴である。P1・P2、P4～P6、P7・P8などは、主柱穴の位置で2～3か所が近接していることから、立て替えの可能性がある。またP3は床面の中央に近い位置にあるが、深さがあることなどから、上層保持にかかわるピットの可能性がある。このほか、第4号竪穴建物跡のP2～P4なども、位置的には本跡に伴う可能性もある。P9～P21・P27～P41は径が20～50cmと細く、東部はやまばらではあるが、弧状に巡っていることから、壁柱穴と考えられる。南東部は第7号竪穴建物跡に帰属すると考えたP7～P9・P18・P19・P39～P43のうちの一部が、本跡に伴う可能性がある。南西部ではP31・P33・P35～P40と、P27～P30・P32・P34・P36・P37・P41の2条の壁柱穴が確認できることから、2回以上の立て替えの可能性がある。主柱穴の所見と整合する。

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	38	136	132	109	(57)	(61)	50	48	(52)	(27)	(24)	22	39	43	126	55	28	18	21	12	19
番号	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	
深さ	26	20	29	34	24	(31)	(32)	39	(43)	(62)	(63)	(80)	(53)	(68)	(47)	(97)	(62)	(57)	(67)	(50)	

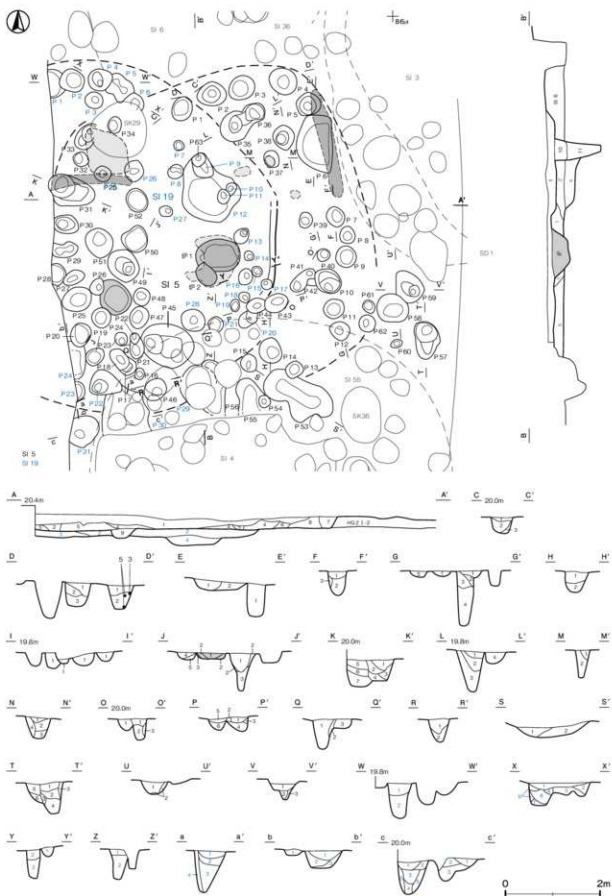
所見 第4号竪穴建物跡の出土土器は、晩期の第8群のほかに、後期後葉の第5～7群がまとめて確認されている。これらの土器と遺構の形状から、本跡の時期は後期後葉と考えられる。

### 第5A・B号竪穴建物跡 (第31～39図 PL 4・6)

位置 調査A区北西部のB 6j3区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層I～2層中で確認した。第19号竪穴建物跡を掘り込み、第4号竪穴建物に掘り





第31图 第5・19号竖穴建物跡実測图(1)

込まれている。第3・55号竪穴建物跡、第29号土坑と重複または隣接しているが、新旧関係は確認できなかった。

**規模と形状** 壁は確認できなかったが、炉と弧状に巡る小ピット群、出入口ピットから、2回以上の建て替えが想定できる。第5A号建物跡はP 55・P 56を出入口部とし、炉1を伴うもので、出入口部を含めた南北軸は7.5m、東西軸6.8mの隅丸方形で、主軸方向はN-0°と推測できる。第5B号建物跡は、P 53・P 55を出入口部とし、炉2を伴うもので、出入口部を含めた南北軸は7.7m、東西軸は6.8mの隅丸方形で、主軸方向はN-27°-Wである。第5A号建物跡と第5B号建物跡の新旧関係は捉えることができなかった。

**床** はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 床面のほぼ中央部で、2か所の火床面を確認した。炉1は長径98cm、短径68cmの楕円形で、15cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は長径50cm、短径40cmの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。いずれも炉底面は火熱を受け赤変硬化している。炉1・炉2の新旧関係は捉えられなかった。

#### 炉1土層解説

- |         |                                |        |                            |
|---------|--------------------------------|--------|----------------------------|
| 1 赤褐色   | 焼土ブロック中量、ローム粒子・灰・骨粉少量、炭化粒子微量   | 6 赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・灰微量      |
| 2 明赤褐色  | 焼土ブロック・灰中量、ロームブロック少量、炭化粒子・骨粉微量 | 7 ほぼ同色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・灰微量    |
| 3 におい褐色 | 焼土ブロック・灰中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 8 明赤褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック少量、炭化粒子・骨粉微量 |
| 4 暗赤褐色  | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・灰微量        | 9 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量      |
| 5 赤褐色   | 焼土粒子少量、灰ブロック・ローム粒子・骨粉少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量      |
|         |                                | 11 橙褐色 | ローム粒子ブロック少量                |

#### 炉2土層解説

- |        |                       |       |                         |
|--------|-----------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 橙褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 明赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量   |       |                         |

**ピット** 63か所。P 1～P 34・P 61・P 62は、位置と形状から壁柱穴である。東側のピット列P 1～P 15に比べて西側のピット列P 16～P 34のほうが径が小さいのは、西側のピット列の確認面が床面からやや下がった位置だったため、本来的にはP 1～P 15と同様の規模があったものと推測できる。P 53～P 56が出入口ピットで、P 55・P 56とP 53～55が組み合うものと想定され、第5B号のP 53～P 55は第5A号のP 55・P 56に対し、約27度西に振れている。主柱穴は、位置や深さからP 37・P 38、P 10・P 41、P 45、P 49・P 51などが該当するが、第5A号建物跡と第5B号建物跡のそれぞれの配置については明らかにすることができなかった。また壁柱穴の中にも深さがあるものがあり、主柱穴的な機能を有する可能性もある。

#### P 1土層解説

- |        |                       |
|--------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量               |

#### P 3土層解説

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色  | ローム粒子中量、骨粉微量             |

#### P 4土層解説

- |        |                       |
|--------|-----------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・灰微量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量     |

#### P 5・P 6土層解説

- |       |                |
|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、白色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量        |

#### P 7土層解説

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量        |
| 3 褐色  | ローム粒子中量               |

#### P 10～P 12土層解説

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子少量、炭化粒子微量   |
| 3 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 4 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量   |
| 5 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

#### P 14土層解説

- |        |                  |
|--------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量          |

#### P 22・P 47・P 48土層解説

- |       |         |
|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 |
|-------|---------|

## P 24・P 49 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量

## P 31 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

## P 35・P 36 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 灰褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

## P 37 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

## P 38 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、白色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

## P 41 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

## P 43・P 44 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 5 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

## P 45 土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## P 46 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

## P 53 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

## P 57 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量

## P 58・P 59 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	37	(99)	58	56	(92)	(42)	53	27	24	112	17	16	30	47	40	(46)	30	35	(34)	(60)	(60)
番号	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
深さ	(66)	(58)	15	(39)	39	(44)	(35)	(36)	(45)	(74)	(92)	-	91	(87)	(44)	(79)	(66)	(35)	(54)	(63)	(44)
番号	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
深さ	23	26	45	48	(31)	(42)	(99)	(44)	(66)	19	20	43	(48)	-	48	34	52	(42)	(30)	(36)	99

覆土 8層に分層できる。焼土ブロックや炭化物が含まれている層が、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。覆土上層から焼土がブロック状に、また炭化物を多く含む層が帯状に確認されている。特に東部で確認できた炭化物層は、際際に堆積しているようにも見え、壁材等が炭化したものの可能性もある。第9層はP 52の覆土、第10・11層はP 63の覆土である。

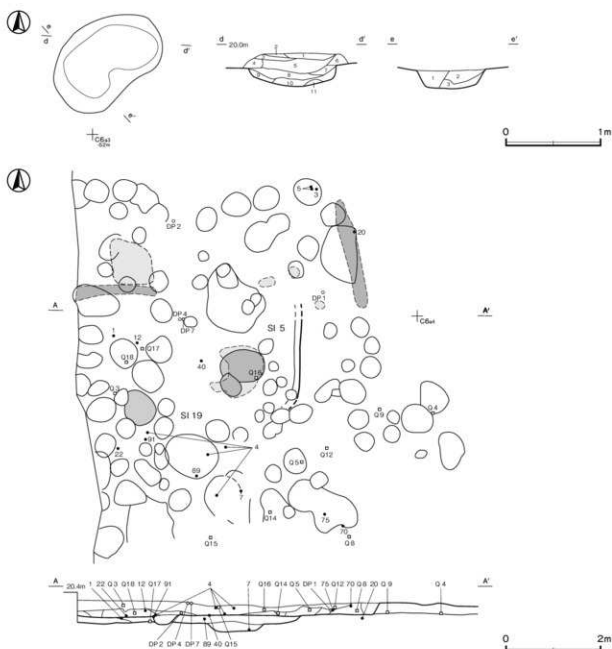
## 土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック中量
- 11 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物・ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片5,972点(296.7kg)、土製品17点(土器片円盤4、耳飾り3、土偶9、貝輪状1)、石器・石製品53点(石鏃1、磨製石斧2、打製石斧1、石皿類5、磨石類26、石錘2、礫器1、砥石7、石棒・石剣類8)のほか、焼成粘土塊3点、発泡体8点、石核6点(チャート)、剥片16点(黒曜石10、チャート6)、原石7点(チャート6、翡翠1)、獣骨片250.51g、鹿角片10.08gが出土している。P 9の覆土中

からは、オオタニシヤ、マツカサガイ、ヤマトシジミの細片が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、期的なまとまりが見られるのは第3群（後期初頭）14.3%、第4群（後期前葉）18.4%、第5群（後期中葉）15.5%、第6・7群（後期後葉）28.2%、第8群（晩期前葉～中葉）8.0%である。3・5はP4の底面付近から出土した。またDP1は、本跡から出土した頭部と重複する第19号竪穴建物跡から出土した胴部～脚部が接合したものである。

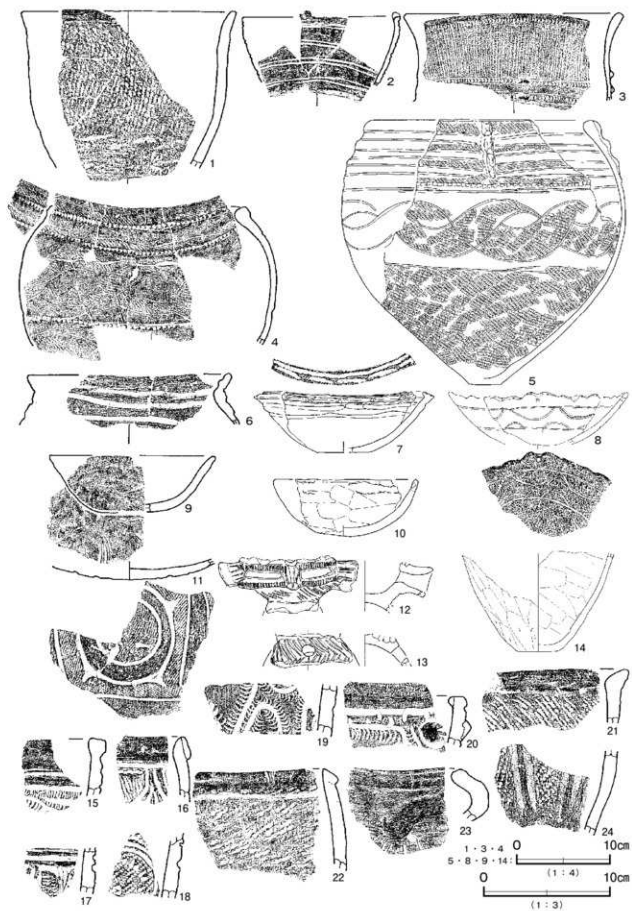
**所見** 壁柱穴が重複する部分が見られないことから、壁は大きく変更せず、出入口部と主柱穴を付け替えて建て替えをおこなったものと考えられる。掘方が明確でないため、それぞれに詳細な時期を判断することは困難であるが、出土土器や形状から、後期後葉安行1式から晩期中葉安行3c式と考えられる。



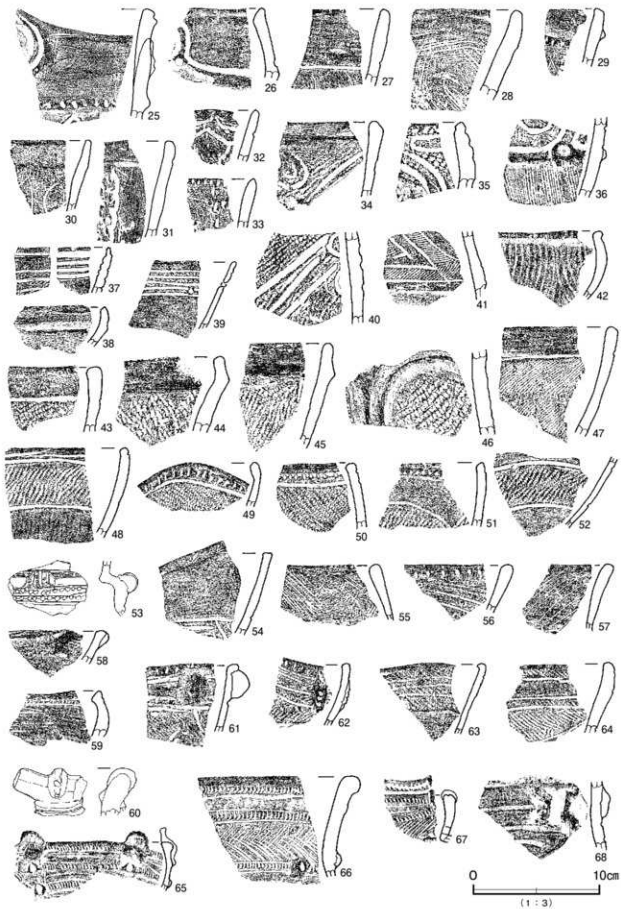
第32図 第5・19号竪穴建物跡実測図(2)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第33~39図)

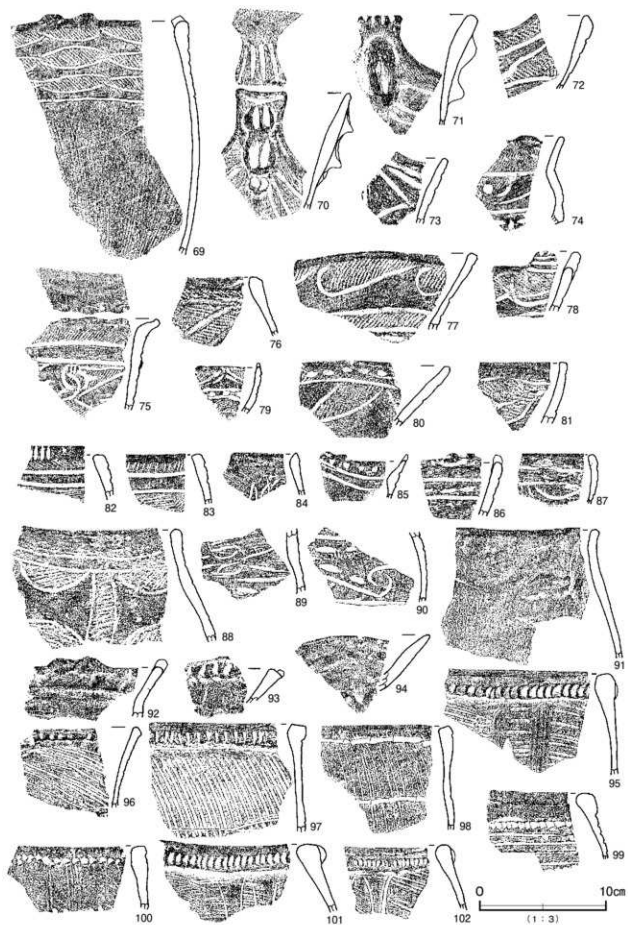
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	(226)	(168)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面無施	覆土下層	10%
2	縄文土器	壺	-	(129)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面口縁部沈線→L.R.縄文・無文部磨き	覆土上層	10%
3	縄文土器	台付鉢	(229)	(94)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面条線→沈線→刷み→磨貼付 内面磨き	P 4	10%
4	縄文土器	深鉢	(210)	(147)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面段形沈線→刷み→L.R.縄文 内面ナデ・磨き	覆土下層	10%
5	縄文土器	深鉢	(250)	29.0	3.4	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面段形沈線→L.R.縄文・無文部磨き 内面ナデ・磨き	P 4	70% PL27
6	縄文土器	広口壺	(158)	(40)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面無文部・内面磨き	覆土中層	5%
7	縄文土器	深鉢	(126)	4.9	(43)	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外・内面磨き	覆土下層	30% PL36
8	縄文土器	浅鉢	(186)	(55)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	山形突起・弧線文 内面磨き	覆土上層	20% PL36
9	縄文土器	浅鉢	(174)	6.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ナデ	覆土中層	3% 器形不明
10	縄文土器	浅鉢	(114)	4.5	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外・内面ナデ	覆土下層	40% PL28
11	縄文土器	浅鉢	-	(15)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	P 13	5%
12	縄文土器	異形台付	-	(45)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ナデ	覆土下層	2% 器形不明
13	縄文土器	異形台付	-	(26)	-	長石・石英	橙	普通	透かし孔4ヶ所 内面ナデ	覆土下層	10%
14	縄文土器	深鉢	-	(104)	4.8	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨り 内面ヘウ状工具によるナデ	覆土下層	10%
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面刷み→沈線 内面ナデ	覆土中層	-
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面無施L.R.縄文 内面ナデ	覆土下層	-
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面刷み→沈線 内面磨き	覆土下層	-
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縄文・竹管文 内面ナデ	覆土下層	-
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面異形文・沈線 内面ナデ	覆土下層	-
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→交互刷突文・異形文 内面磨き	覆土下層	-
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	靑灰	普通	外面無施L.R.縄文 内面ナデ	灰面	-
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤	普通	外面無施L.R.縄文 内面ナデ	覆土下層	-
23	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外面段形磨貼付の弧線文 内面磨き	覆土上層	-
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縄文→沈線磨き 内面磨き	覆土下層	-
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面口縁部C字状貼付文 磨き 内面ナデ	覆土下層	-
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面口縁部C字状貼付文 ナデ 内面磨き	覆土下層	-
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨突状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	-
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨突状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	-
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面口縁部磨貼付 刷部内面ナデ 内面磨き	覆土下層	-
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部無文部 内面磨き	覆土上層	-
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面竹管によるコンパス文 内口縁部磨き 刷部ナデ	覆土下層	-
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面刷突文・刷 内面ナデ	覆土下層	-
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面ハの字状刷突文 内面磨き	覆土上層	-
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→無施L.R.縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	-
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	橙	普通	外面L.R.縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	-
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段形→沈線→磨突状工具による条線文 内面磨き	覆土下層	-
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	-
38	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面口縁部磨き 刷部内面ナデ 内面磨き	覆土中層	-
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縄文→沈線 内面磨き	覆土中層	-
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	-
41	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面ナデ	覆土上層	-
42	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面集合沈線文 内面磨き	覆土上層	-
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 靑	普通	外面L.R.縄文 内面磨き	覆土上層	-
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面無施L.R.縄文 内面ナデ	覆土下層	-
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面L.R.縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	-
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面L.R.縄文→磨貼付磨き 内面磨き	覆土下層	-
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	-
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	-
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土下層	-
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土下層	-
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面ナデ	覆土中層	-
52	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土中層	-
53	縄文土器	壺	-	-	-	長石・雲母	灰 靑	普通	外面沈線→刷突利→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	-
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面刷部斜線文・内面磨き	覆土上層	-
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面条線→L.R.縄文 内面ナデ	覆土下層	-
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ナデ→条線→刷み 内面ナデ	覆土下層	-
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ナデ→条線 内面磨き	覆土下層	-
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外面口縁部磨貼付 内面磨き	覆土下層	-
59	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面条線→付点線線文 内面ナデ	覆土下層	-
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	現状口縁部段形突起 内面ナデ	覆土下層	-
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土上層	-
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縄文→沈線→刷み・磨貼付 内面磨き	覆土下層	-
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	-
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	-
65	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段形沈線→刷み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	-
66	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段形沈線→刷み→磨貼付 内面磨き	覆土下層	-



第33图 第5号竖穴建物跡出土遺物实测图(1)

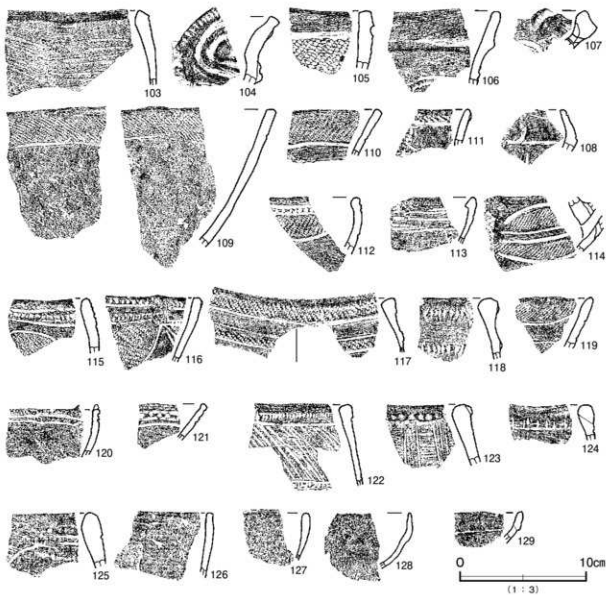


第34图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



第35图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)

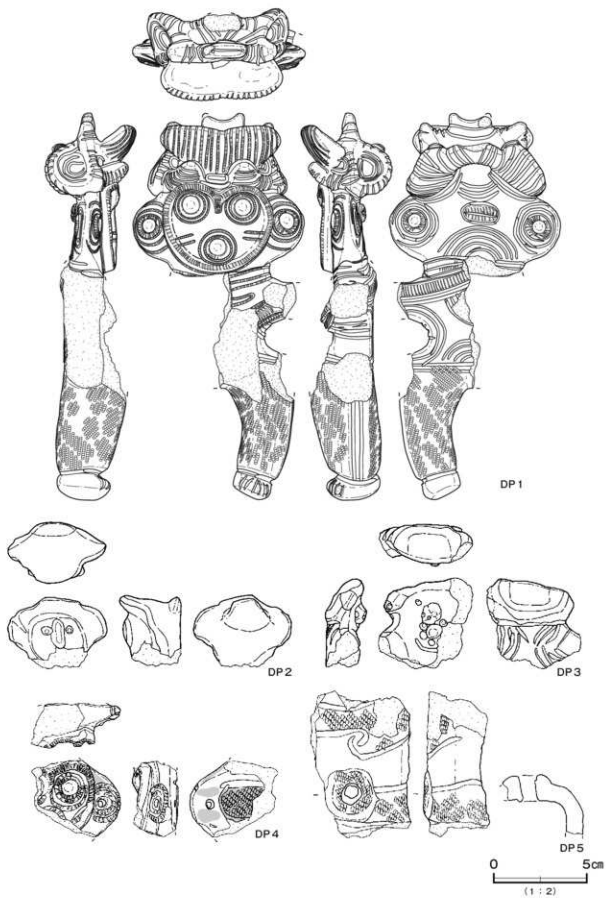




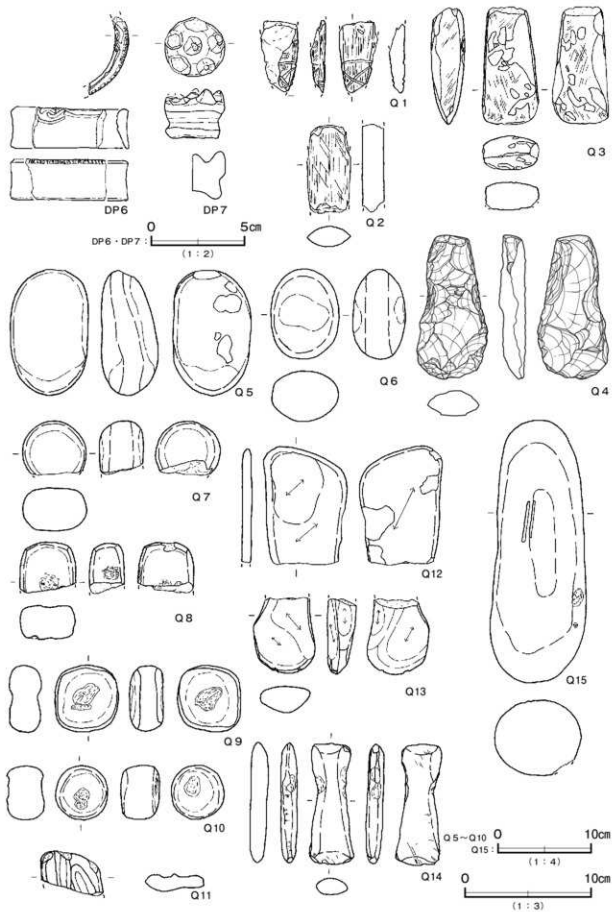
第36図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第33～39図)

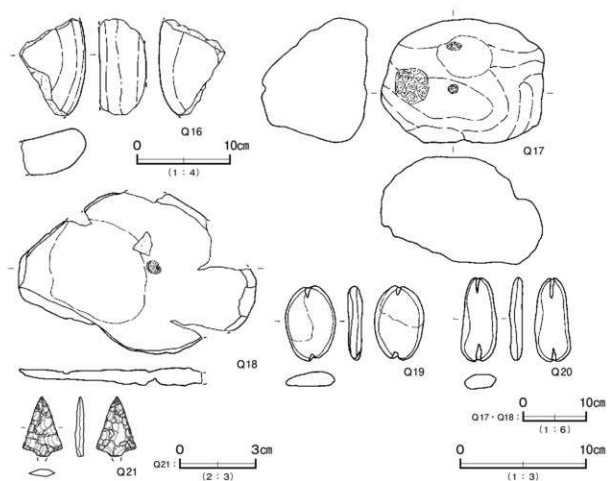
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	縄文土器	甕形台付	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→沈線→黒み 口有部沈線→黒み 内面磨き	甕土中	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 粗	普通	外面ナデ→縞貼付→沈線 内面ナデ	甕土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	甕土上層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	甕土下層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	甕土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 粗	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	甕土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	外面沈線→磨き 内面磨き	甕土下層	
74	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	甕土上層	
75	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	甕土下層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面赤線→RL 縄文→沈線 内面磨き	甕土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 粗	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	甕土上層	
78	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	甕土下層	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面ナデ	甕土上層	
80	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	甕土上層	
81	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	甕土上層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 粗	普通	外面沈線→細面沈線文→ナデ 内面ナデ	甕土上層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→細面沈線文→磨き 内面ナデ	甕土上層	



第 37 图 第 5 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)



第38图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(6)



第39図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図(7)

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第33~39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄緑	普通	外面ナデ→細密沈線文 内面ナデ	覆土上層	
85	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面刺突文・自突縁 内面磨き	覆土下層	
86	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部自突縁 内面ナデ	覆土上層	二次焼成
87	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線間刺突文 内面ナデ	覆土下層	二次焼成
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 橙	普通	外面沈線→細密沈線文・刺突縁 内面ナデ	覆土上層	PL.36
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	にぶい黄緑	普通	外面粗条状区画文 内面ナデ	覆土下層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 橙	普通	外面ステッキ状入組文 内面磨き	覆土中	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	覆土下層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部山形突起 内面ナデ	覆土上層	二次焼成
93	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面に削み 内面磨き	覆土上層	
94	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	橙	普通	外面条線→縦線貼付→縦線の磨き 内面に細磨き 裏面ナデ	覆土上層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土下層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	暗 灰	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線→押し引き文 内面ナデ	覆土上層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→削み 内面ナデ	覆土下層	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	にぶい黄緑	普通	外面条線→削み 内面ナデ	覆土上層	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→縦線文→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外面隆起帯上に削み 内面磨き	P 4	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面沈線→LR縦文 内面ナデ一部磨き	P 7	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面文磨き 胴部竹炭(土)による沈線文 内面磨き	P 45	
107	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部突起 貫通孔1か所 内面磨き	P 59	
108	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面口縁磨き 胴部削り 内面磨き	P 19	
109	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黄褐色	明赤褐	普通	外面沈線→RL縦文 胴部削り→粗い磨き	P 47	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
110	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	外面沈澱→LR.縄文→磨き 内面磨き	P 63	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・輝石	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面に緑釉貼付 沈澱→LR.縄文→磨き 内面ナデ	P 6	僅
112	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→磨み→LR.縄文→無文部磨き 内面磨き	P 58	
113	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面低位沈澱 内面磨き	P 43	
114	縄文土器	浅口	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→LR.縄文→磨き 内面磨き	P 51	
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈澱→磨み→RL.縄文→磨き 内面磨き	P 43	
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈澱→磨み→RL.縄文→磨き 内面磨き	P 51	
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面低位沈澱→LR.縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 4	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	橙	普通	外面低位部上帯期→無文部磨き 内面ナデ	P 8	
119	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き 内面磨き	P 13	
120	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐灰色	普通	口縁部外面緑釉付 内面磨き	P 45	
121	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐灰色	普通	外面口縁部二溝間の敷灰 内面ナデ	P 48	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線緑釉 内面磨き	P 11	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	橙	普通	外面条線→緑釉貼付・沈澱用器 内面口縁部磨き 裏部ナデ	P 9	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面付点線緑釉 内面磨き	P 4	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	普通	普通	外面条線→緑釉貼付 内面磨き	P 50	
126	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面内り 内面ナデ	Ⅷ土上層	口C1類
127	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面内側 内面ナデ	Ⅷ土上層	口C2類
128	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨きナデ	Ⅷ土上層	口B類
129	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面磨きナデ	Ⅷ土中層	口B類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	20.3	8.9	4.9	(314.6)	長石	橙	ミミズク 沈澱内に細小欠片・刺突 脚部RL.縄文	Ⅷ土下層	3a類 赤P.20
DP 2	土 偶	(3.8)	5.3	3.2	(43.0)	長石・石英	にぶい赤褐色	山形 表面磨きナデ	Ⅷ土下層	2a類
DP 3	土 偶	(4.3)	(5.0)	2.2	(35.6)	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	板状。裏面に弧線	Ⅷ土下層	4a類 PL.29
DP 4	土 偶	(4.0)	(4.7)	2.5	(32.5)	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	ミミズク 腹帯上・溝底に刺突 裏面RL.縄文	Ⅷ土上層	3a類
DP 5	土 偶	(7.7)	(5.4)	(3.6)	(76.7)	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐色	中空 沈澱→RL.縄文→磨き 彫形土製品の可能性あり	Ⅷ土下層	5c類 PL.29
DP 6	耳飾り	径16.3	-	2.1	(6.7)	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	外・内面磨き	Ⅷ土上層	V類
DP 7	耳飾り	径3.2	-	2.6	25.9	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	臼型で上面に突刺文 表面磨きナデ	Ⅷ土上層	Ⅱ2類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石・磁石	(5.7)	(3.0)	(1.2)	(21.8)	粘板岩	石割 先端部に文様 表面面研磨整形	Ⅷ土下層	
Q 2	石・磁石	(7.0)	3.4	1.7	(66.8)	結晶片岩	石割 表面面研磨整形	Ⅷ土上層	
Q 3	磨製石斧	(9.2)	4.5	2.6	(188.1)	輝緑岩	定角式 表面面研磨整形	Ⅷ土上層	
Q 4	打製石斧	11.4	5.7	2.1	135.1	ホルンフェルス	磨形	Ⅷ土下層	PL.45
Q 5	磨石類	13.4	8.3	6.1	988.6	安山岩	表面面光沢のある磨り面	Ⅷ土中層	1a類
Q 6	磨石類	9.6	7.2	5.5	579.0	輝石安山岩	表面面の一部を使用	Ⅷ土上層	1a類
Q 7	磨石類	(5.8)	6.8	4.7	(298.7)	凝灰岩	表面面光沢のある磨り面	Ⅷ土上層	披然 1a類
Q 8	磨石類	(5.4)	5.9	3.7	(204.3)	安山岩	表面・側面に凹痕	Ⅷ土下層	2a類
Q 9	磨石類	5.1	6.7	3.6	209.1	アイサイト	表面面に磨り痕と凹痕	Ⅷ土下層	2a類
Q 10	磨石類	5.8	5.5	4.1	177.2	安山岩	表面面に磨り痕と凹痕	Ⅷ土下層	2a類
Q 11	砥石	(3.4)	5.0	1.3	(19.6)	砂岩	表面に溝状の砥面あり	Ⅷ土上層	4類
Q 12	砥石	(9.4)	6.6	0.7	(76.4)	砂岩	全面使用	Ⅷ土上層	披然 2類
Q 13	砥石	(6.0)	4.8	2.2	(78.3)	砂岩	全面使用	Ⅷ土上層	3類
Q 14	砥石	9.6	3.1	1.4	44.4	砂岩	全面使用	Ⅷ土下層	4類 PL.48
Q 15	石皿類	28.3	10.4	8.1	(303.2)	安山岩	中央部に2条の筋状の砥面	Ⅷ土上層	披然 3類
Q 16	石皿類	(10.3)	(7.0)	5.0	(362.4)	安山岩	表面面磨り面	Ⅷ土上層	披然 1類
Q 17	石皿類	26.1	19.7	16.7	1348.0	閃緑岩	表面に磨り面と凹痕	Ⅷ土下層	2類
Q 18	石皿類	37.8	(25.9)	2.8	(307.0)	安山岩	使用による摩耗	Ⅷ土下層	2類
Q 19	石 鉢	3.9	3.95	1.1	36.8	輝石安山岩	長軸に切り目	Ⅷ土下層	保付者 2類
Q 20	石 鉢	6.65	2.8	1.1	30.1	緑色岩	長軸に切り目	Ⅷ土上層	2類
Q 21	石 鉢	(2.38)	1.57	0.36	(1.0)	チャート	有茶 基部欠損	Ⅷ土下層	PL.47

## 第19号竪穴建物跡(第31・32・40・41図 PL.4・8)

位置 調査A区西部のB6区2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層Ⅰ-Ⅱ層下で確認した。第2号遺物包含層Ⅱ層を掘り込み、第4・5号竪穴建物、第29号土坑に掘り込まれている。第55号竪穴建物跡との新旧関係は確認できなかった。

規模と形状 東壁の一部を確認したのみで、炉と弧状に巡る小ピット群、出入口ピットから推定した。西部が調査区域外となること及び南部が第4号竪穴建物跡に掘り込まれていることから、出入口部を含めた南北軸は7.7mで、東西軸は4.8mしか確認できなかった。円形あるいは隅丸方形の平面形で、炉と出入口ピットを通

る主軸方向はN-30°-Wと推測できる。壁は高さ20cmで、緩やかに立ち上がっている。

**床** ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 出入口部寄りの位置で確認した。長径80cm、短径58cmの楕円形で、12cmほど掘りくぼめた地床炉である。焼土ブロックや灰を伴うものの、火床面の赤変硬化はほとんど確認できなかった。

**炉土層解説**

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量

**ビット** 31か所。P1～P23は、位置と形状から壁柱穴である。第55号竪穴建物跡に帰属するP15～P18も、本跡の壁柱穴となる可能性もある。P29・P30が形状と位置から出入口ビットと推定される。P25・P28が、位置と深さから主柱穴と考えられる。

**P2土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子少量

**P4～P6土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量  
4 暗褐色 ロームブロック少量  
5 暗褐色 ロームブロック中量  
6 暗褐色 ローム粒子微量  
7 暗褐色 ロームブロック中量

**P15・P16土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量  
2 暗褐色 黒色土ブロック・ローム粒子少量  
3 黒褐色 ローム粒子少量

**P21土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**P22土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量  
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
4 褐色 ローム粒子中量

**P23・P24土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**P30土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**P31土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ローム粒子多量  
3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
5 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
深さ	12	73	39	47	23	29	41	16	23	25	50	16	50	22	19	62	34	34	40	53	39	87	14	39	62	28	24	56	38	21	72

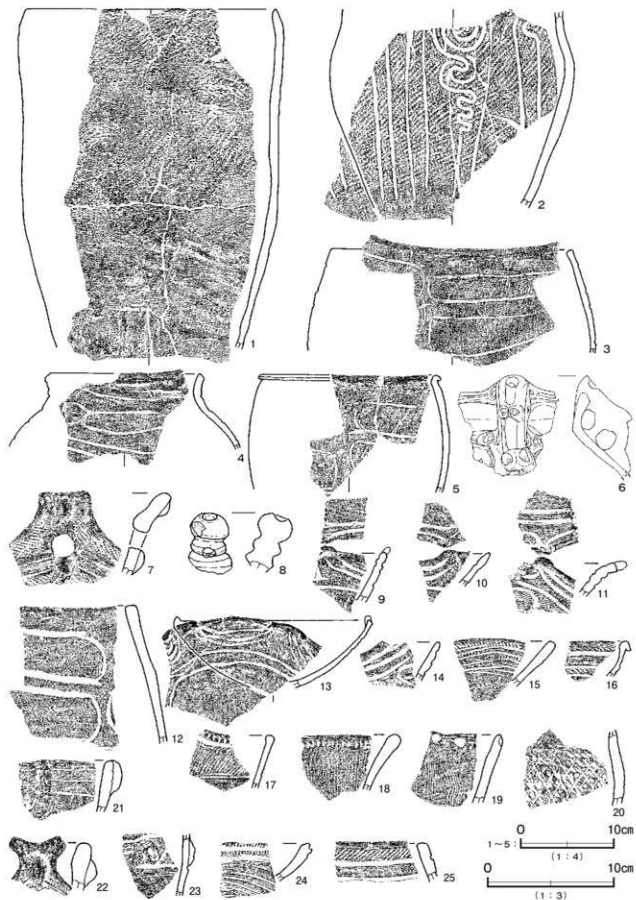
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層が、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。第4層はP12の覆土である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 4 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量  
5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

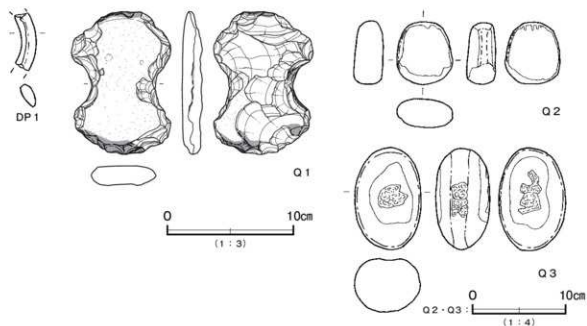
**遺物出土状況** 縄文土器片1,311点(2224kg)、土製品5点(土器片円盤3、貝輪状2)、石器・石製品5点(磨製石斧1、打製石斧2、磨石類2)のほか、焼成粘土塊2点、剥片6点(チャート4、黒曜石2)が出土している。土器は中期前半から晩期中葉まで出土しているが、多いのは第3群(称名寺式)19%、第4群(堀之内式)23.5%である。後期後葉から晩期にかけては、第6～10群合わせて25%である。

**所見** ほほ真北に向かって確認できる壁や、その他の弧状に巡るビット群からは、上記以外の建物跡が存在した可能性もある。時期は、出土土器と形状及び重複関係から後期前葉から後葉と考えられる。重複している第5号竪穴建物跡とほとんど時間差が見られないことから、本跡の廃絶後、大きく時を開けずに、やや位置をずらして第5号竪穴建物構築されたものと考えられる。本跡から出土した晩期中葉の土器群は、第5号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。また比較的大形の破片を含む第3・4群の土器群が一定量存在することから、



第40图 第19号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

本跡の構築以前に該期の遺構が存在した可能性もある。



第41図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第19号竪穴建物跡出土遺物観察表(第40～41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	(27.0)	(36.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文 結節あり 内面ナデ	覆土中	20%
2	縄文土器	深鉢	-	(21.2)	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面LR縄文→沈線文 内面ナデ	覆土中	20%
3	縄文土器	深鉢	(25.4)	(11.1)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面杵状文 内面ナデ	覆土中	20%
4	縄文土器	広口壺	(16.0)	(8.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面杵状文 内面ナデ 口縁部一部磨き	覆土中	20%
5	縄文土器	深鉢	(18.7)	(12.5)	-	長石・石英	黒	普通	外面杵状文 粗い磨き 内面ナデ	覆土中	10%
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	把手部 窩文沈線沈線文 外面磨き 内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面隆帯沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部突起 外・内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤い硝子	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外・内面磨き 内面に弧線文	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤い硝子	橙	普通	外面沈線→無筋LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	杵状文 内面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	浅鉢	(15.8)	(5.8)	-	長石・石英・赤い硝子	明赤黒	普通	4単位 液頂部に体巻状貼付文 内面磨き	覆土中	30%
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面三叉状入組文 内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤	普通	外面斜沈線→刷み 内面ナデ	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面隆帯帯筋沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	P 4	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面沈線→刷み・LR縄文→磨き 内面磨き	P 4	
18	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面刷み→条線 内面磨き	P 4	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨削状工具による条線文 内面磨き	P 2	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面LR縄文→格子目文→磨き 内面磨き	P 28	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面ナデ 口縁部にLR縄文 内面磨き	P 28	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面磨削貼付 隆帯上刷み 内面磨き	P 28	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外・内面磨き	P 28	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黄銅石	黒 灰	普通	外面口縁部沈線文と刷み 胴部条線 内面磨き	P 31	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	P 31	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	貝輪状	(4.6)	1.7	1.8	(11.9)	長石・石英	にぶい黄緑	ハツ状工具によるナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打製石斧	11.3	7.9	1.6	191	安山岩	分銅形 下部部に磨痕	覆土中	被熱 PL45
Q 2	磨石類	6.5	3.8	3.0	152.7	輝石安山岩	表面面研磨	覆土中	16期
Q 3	磨石類	10.6	7.0	3.6	336.1	輝石安山岩	表面面研磨 表面・側面に凹痕	覆土中	26期



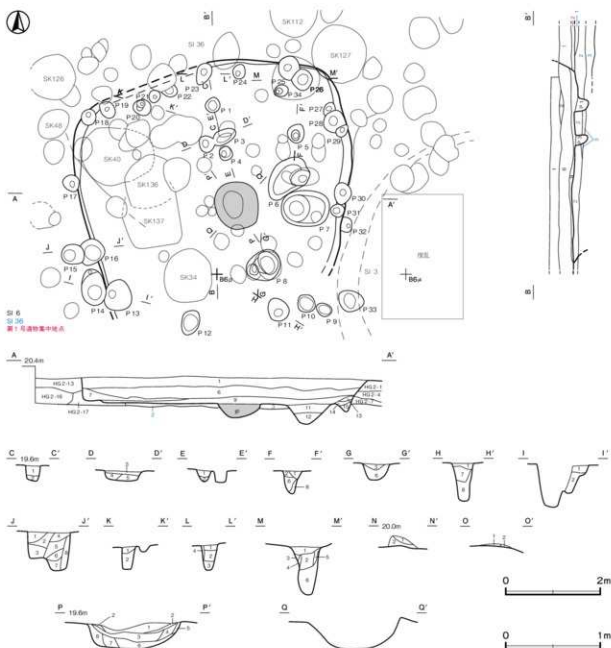
## 第6号竪穴建物跡 (第42～57図 PL 6)

**位置** 調査A区北西部のB6i2区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層中で確認した。第36号竪穴建物跡、第40・136・137号土坑を掘り込み、第34号土坑に掘り込まれている。第127号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 第2号遺物包含層を掘り下げ中に、焼土が帯状に方形に巡るように分布する状況が確認でき、精査したところ壁とピット、炉跡が確認できた。南部の掘り込みが不明瞭であるが、東西軸は5.90mで、南北軸はピットの位置から、約5.7mと推測できる。隅丸方形で、南北軸方向はN-17°-Wである。壁は高さ24～48cmで、外傾している。

**床** ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。



第42図 第6・36号竪穴建物跡、第1号遺物集中地点実測図(1)

炉 中央やや南寄りに位置する。長径 100cm、短径 82cmの楕円形で、火床面までの深さが 40cmの地床炉である。掘方内には多量の灰を含む焼土が堆積している。

**炉土層解説**

- |                              |                            |
|------------------------------|----------------------------|
| 1 淡赤褐色 灰多量、焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量  | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量      |
| 2 赤褐色 焼土粒子多量、灰中量、骨粉少量、炭化粒子微量 | 6 明黄褐色 ローム粒子多量             |
| 3 橙褐色 焼土粒子多量、灰ブロック少量         | 7 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 4 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量        | 8 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |

ピット 34か所。P 5～P 8は、位置と深さから支柱穴である。出入口ピットは確認できなかった。P 9～P 12、P 17～P 32は、位置と形状から壁柱穴と考えられる。P 13～P 16は、壁際に位置するものの、他の壁柱穴に対して径が大きく深さもあることから、別遺構に伴う可能性がある。

**P 1～P 5・P 8・P 11 土層解説**

- 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

**P 20 土層解説**

- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック少量

**P 23 土層解説**

- 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量

**P 13 土層解説**

- 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**P 26 土層解説**

- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
- 淡赤褐色 灰多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 灰中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**P 15・P 16 土層解説**

- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量
- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子少量
- 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ	20	20	20	24	46	56	40	72	13	8	78	14	(62)	(92)	(59)	(88)	(40)
番号	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
深さ	(60)	(60)	(86)	(47)	(40)	(89)	(68)	(94)	(33)	(51)	(62)	(54)	(41)	(52)	(19)	(31)	(61)

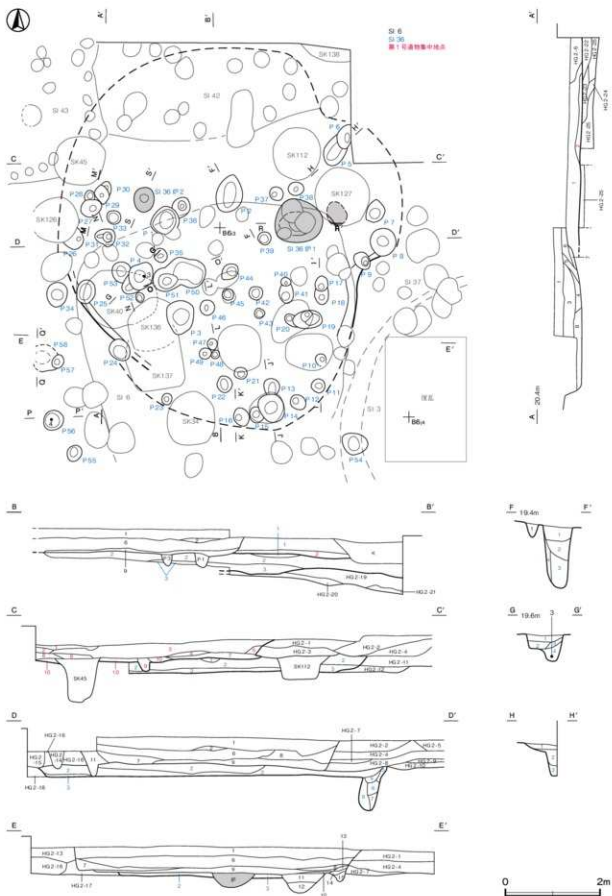
覆土 10層に分層できる。各層ともロームブロックや焼土粒子、骨粉が多く含まれ、また特に第1・6層では遺物が多量に含まれていることから、埋め戻されている。壁際の床面約5cm上では、焼土ブロックが多く含まれている第8層が堆積している。また北壁では、壁柱穴と焼土ブロックの間に炭化物を多く含む層が帯状に堆積しており、壁材等が炭化したものと考えられる。

**土層解説**

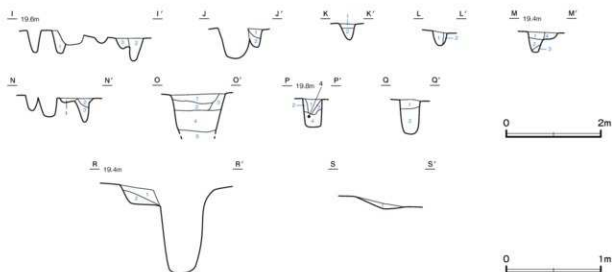
- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量             |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量     | 9 暗褐色 炭化物・ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量              |
| 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子・骨粉少量 | 10 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・灰少量               |
| 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物・骨粉微量    | 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 (P 7 覆土)        |
| 5 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・骨粉少量 | 12 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 (P 7 覆土)           |
| 6 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量   | 13 橙褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・灰少量、炭化粒子微量 (P 30 覆土) |
| 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、骨粉微量      | 14 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 (P 30 覆土)          |
|                                | 15 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量 (P 30 覆土)           |

**焼土土層解説 (第 44・45 図 N-N'、O-O')**

- |                              |                           |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 明赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量 | 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量 |
|------------------------------|---------------------------|



第43图 第6・36号竖穴建物跡，第1号遺物集中地点実測图(2)



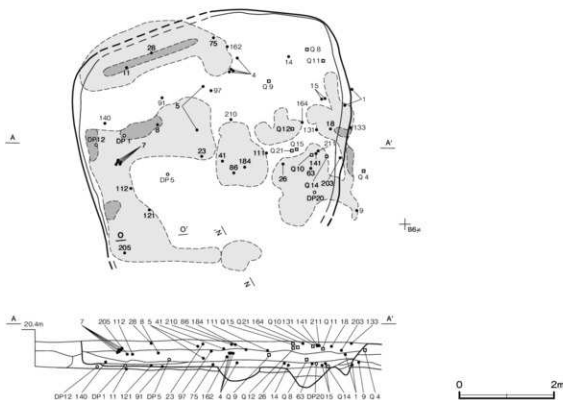
第44図 第6・36号堅穴建物跡，第1号遺物集中地点実測図(3)

**遺物出土状況** 縄文土器片25,272点(384.8kg)，土製品33点(土鍾1，土器片円盤10，耳飾り8，土偶10，貝輪状4)，石器・石製品72点(石鍾1，石鎌2，磨製石斧3，磨製石斧未成品1，打製石斧4，石皿類2，磨石類38，石錘6，砥石9，浮子1，石棒・石剣類5)のほか，焼成粘土塊8点，発泡体2点，石核14点(チャート12，石英2)，剥片93点(チャート47，黒曜石45，瑪瑙1)などが，出土している。また覆土中やP8・P28，炉跡内から，獣骨片や鹿角片が105.59g出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが，主体となるのは第4群(後期前葉)15%，第5群(後期中葉)38%と，第7群(後期後葉)25%である。復元可能な個体では，後期後葉の安行2式に比定できるものが多い。

**所見** 時期は，出土土器や遺構の形状から，後期後葉の安行2式期と考えられる。床面のやや上位から焼土ブロックが出土していること，壁材の炭化痕跡が認められることから，焼失建物跡と考えられる。

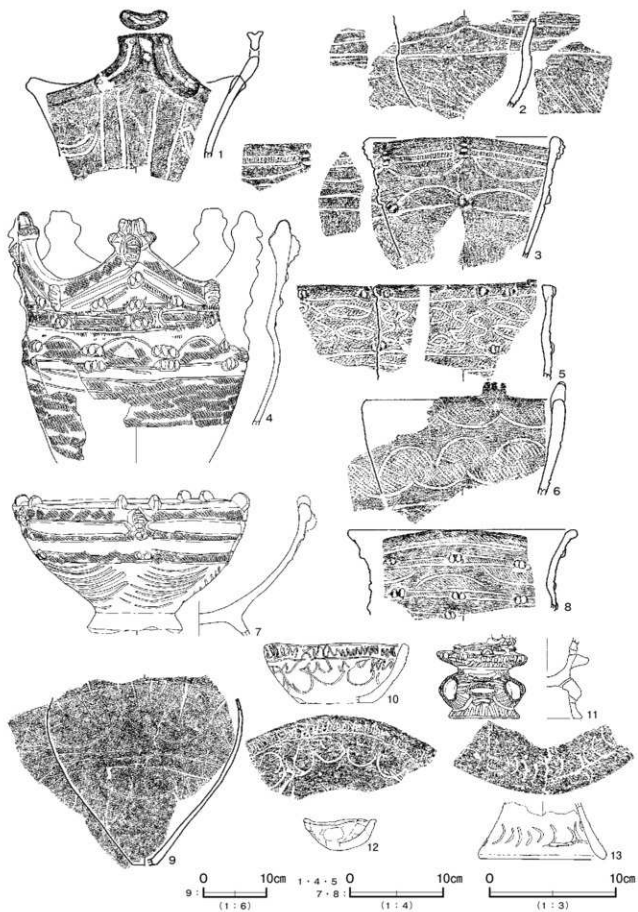
第6号堅穴建物跡出土遺物観察表(第46～57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	[21.6]	[13.3]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面輪状工具の刻文・無文部磨き	内面磨き	覆土下層	10%	
2	縄文土器	深鉢	-	[7.2]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→磨き	胴部糸線	内面ナデ	覆土上層	20%
3	縄文土器	深鉢	[15.0]	[9.6]	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨胎付→沈線→磨み→無文部磨き	胴部凹リ	内面磨き	覆土下層	10% PL36
4	縄文土器	深鉢	[24.6]	[26.3]	-	長石・石英	黒	普通	外面段帯筋沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	40% PL27	
5	縄文土器	深鉢	[18.2]	[9.9]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面無胎付	RL・縄文→磨胎付	内面ナデ	覆土上層	10% PL36
6	縄文土器	深鉢	[15.4]	[8.9]	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	僅 10% PL36	
7	縄文土器	付台鉢	24.3	[15.2]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	70% PL27	
8	縄文土器	付台鉢	[29.6]	[8.5]	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外面沈線→RL・縄文・磨み→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	5%	
9	縄文土器	深鉢	-	[26.3]	[4.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	10%	
10	縄文土器	浅鉢	[10.8]	4.8	[5.7]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ→北縄文	内面ナデ	覆土上層	40% PL36	
11	縄文土器	莖形付台	-	[6.4]	5.4	長石・石英	明赤褐色	普通	透かし孔3小所		覆土下層	20% PL30	
12	縄文土器	1.5cm? ヲ付鉢	5.5	2.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面磨胎付ナデ	内面ナデ	覆土中層	90%	
13	縄文土器	付台鉢	-	[4.5]	[9.8]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨胎付→灰黄褐色	内面ナデ	覆土中層	5%	
14	縄文土器	深鉢	[25.8]	[21.2]	-	長石・石英・赤色粒子・黒	黒	普通	外面糸線→段帯筋付→区画文開磨き	内面ナデ	覆土下層	10% PL36	
15	縄文土器	深鉢	-	[9.7]	3.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨胎付→段帯筋	内面ナデ	覆土下層	内面に僅 20%	
16	縄文土器	深鉢	[18.3]	[7.7]	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面糸線→目点線文	内面磨き	覆土中層	20%	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面内押文による風線文	内面ナデ	覆土中層		
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面RL・縄文→沈線文	内面磨き	覆土上層		
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨胎付沈線→矢羽状沈線→竹管文	内面ナデ	覆土下層		
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面O段多条のRL・縄文	内面磨き	覆土下層		
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面RL・縄文→段帯筋付	内面ナデ	覆土中		
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面LR・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層		

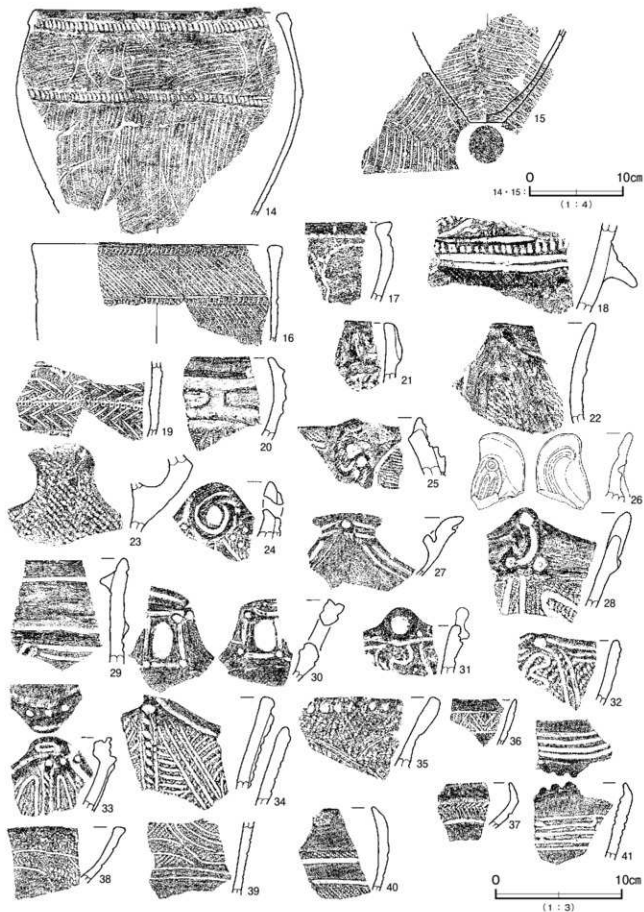


第45図 第6号壁穴建物跡実測図

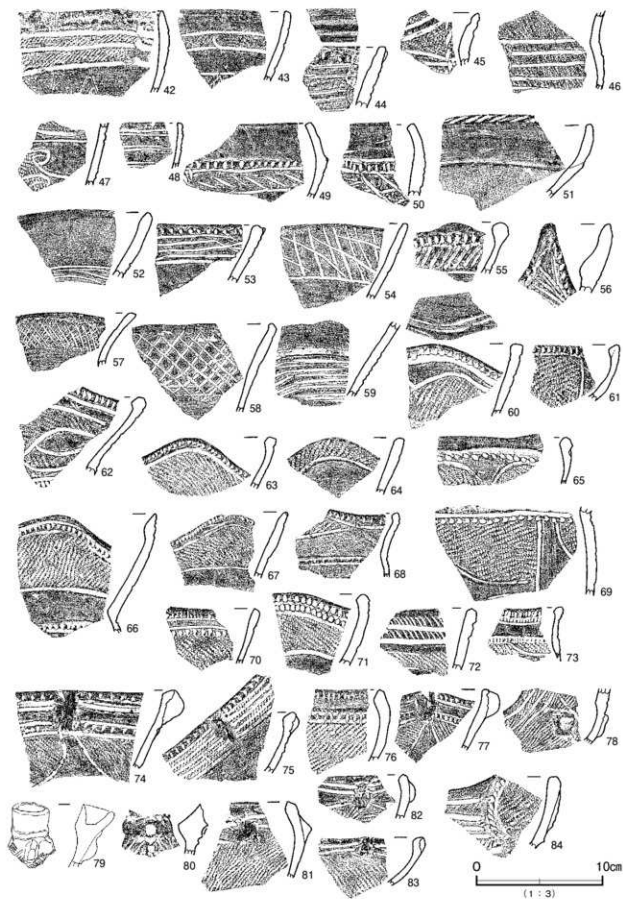
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	機状把手部 外面LR縄文 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面沈澱→R.L.縄文・新変文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈澱→R.L.縄文 内面磨き		覆土上層
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	にぶい橙	普通	外・内面磨き		覆土下層
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部肩部に沈澱文 内面磨き		覆土下層
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文→沈澱 内面磨き		覆土上層
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面磨き 内面に臺受け状の突起		覆土中層
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	口縁部に寓文並筋沈澱文 内面磨き		覆土中層
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄	普通	外面丁字文 内面磨き		覆土中層
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈澱 内面磨き		覆土上層
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面LR縄文→沈澱 内面磨き		覆土上層
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面LR地縄文→段帯貼付→沈澱 内面磨き		覆土下層
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	外面LR縄文→沈澱 内面磨き		覆土上層
36	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文→沈澱 内面磨き		覆土下層
37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	外面沈澱→R.L.縄文→堀み・無文部磨き		覆土中層
38	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外面LR縄文→沈澱→無文部磨き		覆土上層
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文→沈澱→無文部磨き		覆土下層
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面沈澱→R.L.縄文→無文部磨き		覆土中層
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面飾帯文 内面磨き		覆土上層
42	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	外面沈澱→無面し縄文→無文部磨き	内面網織	覆土下層
43	縄文土器	鉢	-	-	-	石英・雲母	橙	普通	外面沈澱→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外面LR地縄文→竹管文による沈澱 内面磨き		覆土下層
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐	普通	外面沈澱→R.L.縄文→無文部磨き		覆土中層
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	暗灰黄	普通	外面R.L.縄文→沈澱 内面磨き		覆土下層
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	赤黒	普通	外面LR縄文→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
48	縄文土器	皿	-	-	-	長石・雲母	明橙	普通	外面飾帯文 内面磨き		覆土上層
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄	普通	外面沈澱→堀み・斜線文→磨き	内面磨き	覆土中層
50	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母・赤粘土	暗赤灰	普通	外面沈澱→堀み→胴部沈澱文 内面磨き		覆土上層
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外面磨き 口唇部堀み 胴部斜行	内面磨き	覆土下層
52	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面斜行沈澱文 無文部磨き	内面磨き	覆土中層
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒褐	普通	口縁部外面横筋沈澱→堀み 内面磨き		覆土中層
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤粘土	にぶい黄褐	普通	口縁部外面区画沈澱→斜線文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層



第46图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

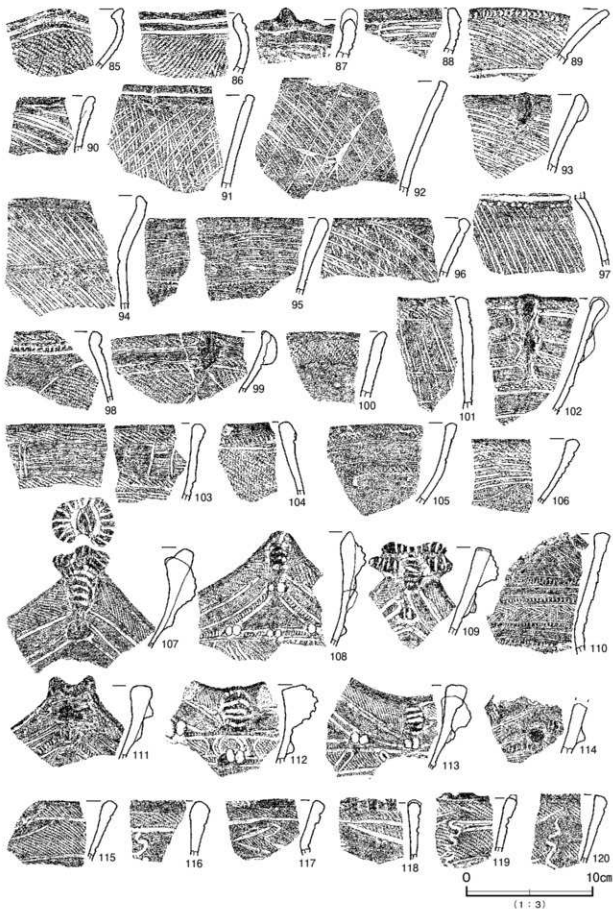


第47图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)

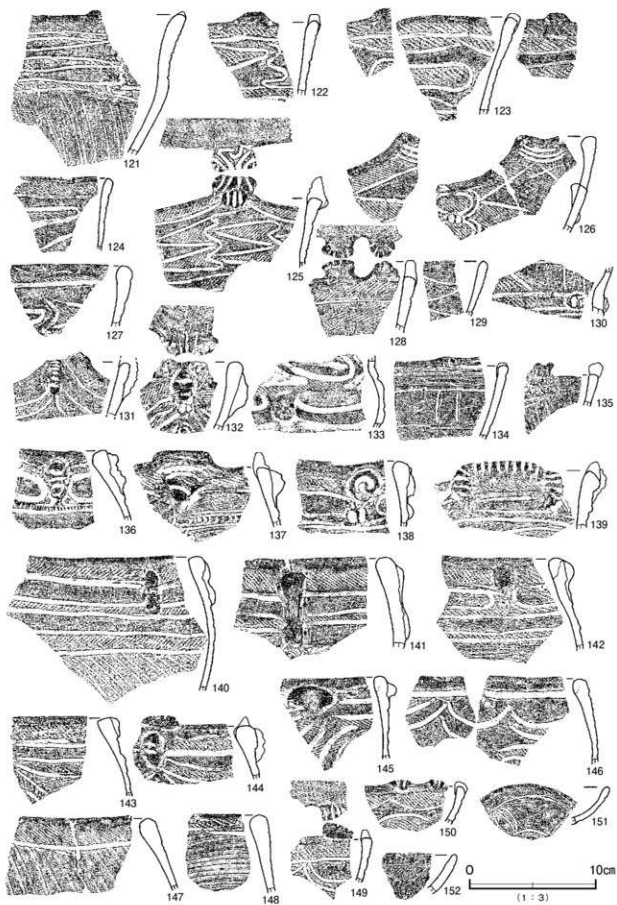


第48图 第6号竖穴建物跡出土土物实测图(3)

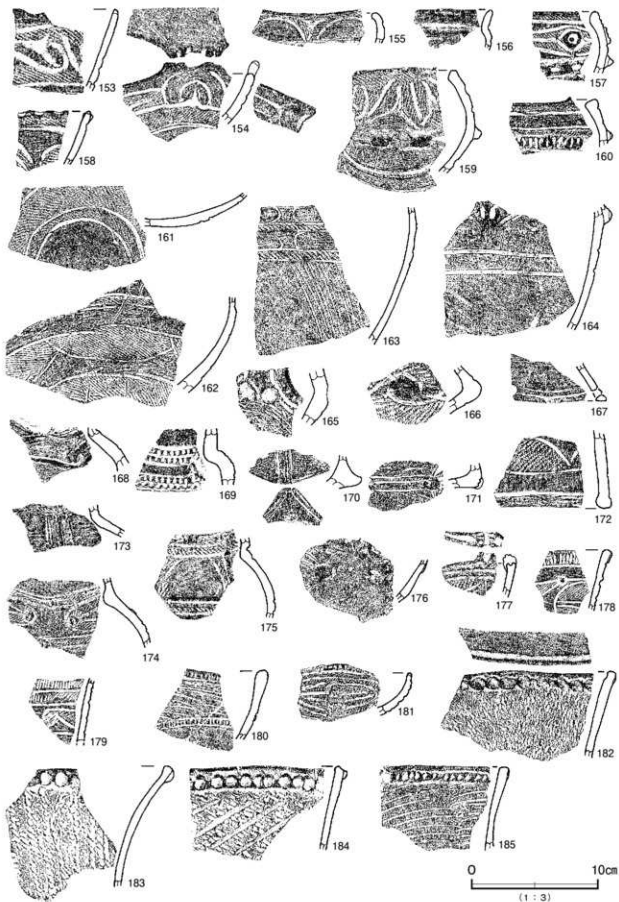




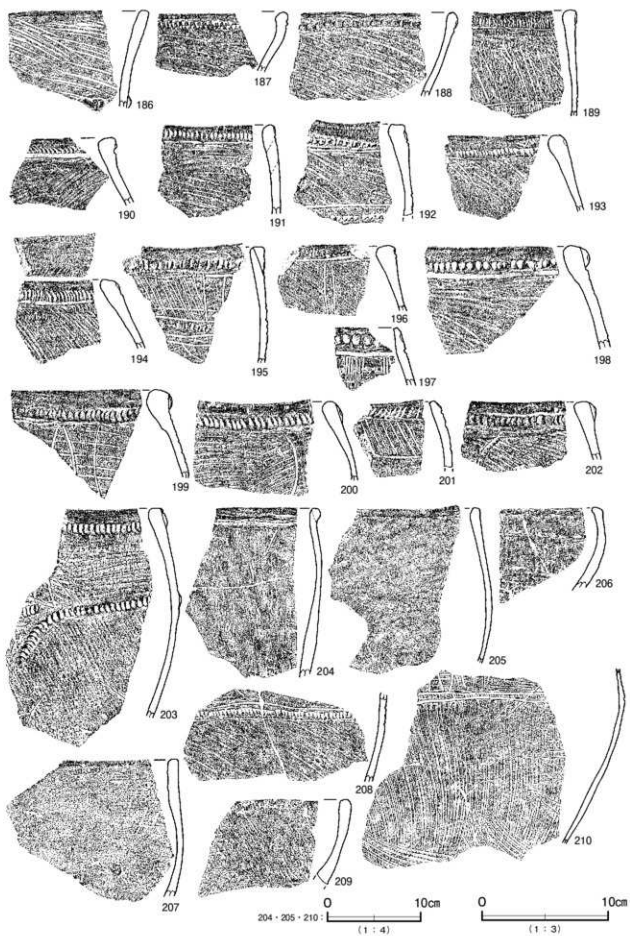
第49图 第6号竪穴建物跡出土遺物実測图(4)



第50图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)



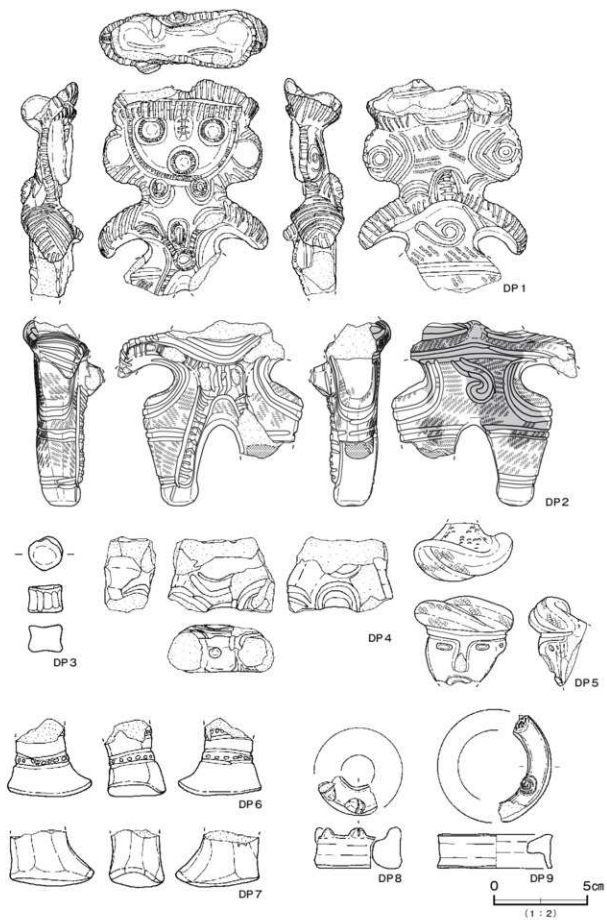
第51图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測图(6)



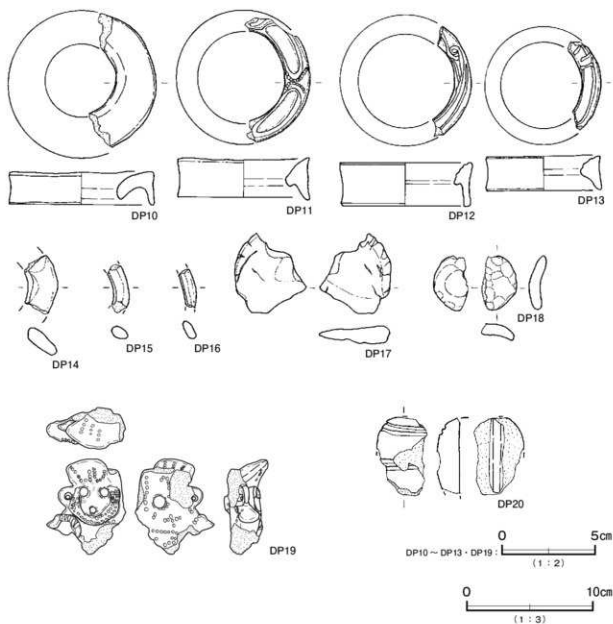
第 52 图 第 6 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (7)



第53图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測图(8)



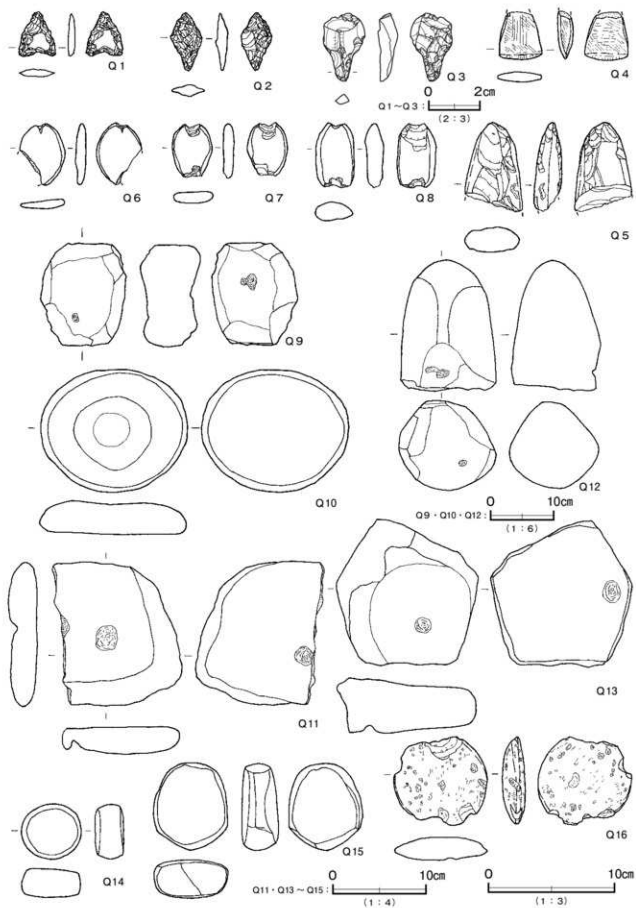
第54图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図(9)



第55図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図(0)

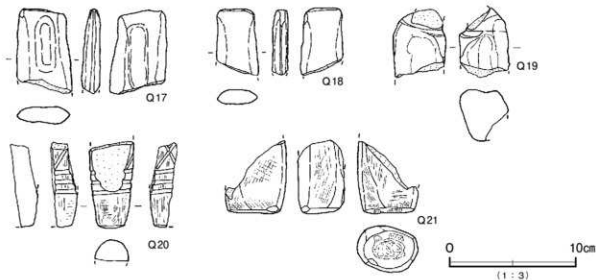
第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第46~57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	外面斜線文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒	普通	口縁部外面沈線→朝入→斜線文	内面磨き	覆土中層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	雲母	黒	普通	外面格子目文→頭部磨き	内面磨き	覆土中層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粘土	橙	普通	外面格子目文→頭部磨き	内面磨き	覆土中層	
59	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粘土	灰黄緑	普通	外面斜線文	内面磨き	覆土中層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒	普通	外面沈線→LR 縄文→磨き	内面磨き	覆土上層	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	暗赤黒	普通	外面沈線→RL 縄文→磨き	内面磨き	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→RL 縄文→磨き	内面磨き	覆土中層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	紅・赤黒	普通	外面 RL 縄文	内面磨き	覆土下層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粘土	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→磨き	内面磨き	覆土中層	
65	縄文土器	鉢	-	-	-	石英	紅・赤黒	普通	外面沈線→RL 縄文→磨き	内面磨き	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→磨き	内面磨き	覆土上層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒	普通	外面沈線→朝入・朝突文→RL 縄文	内面十字	覆土中層	



第56图 第6号竖穴建物跡出土遺物実測図(11)





第57図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図②

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第46～57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考		
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色砂子	黒	普通	外面沈線→刷み→R.L.縄文	内面ナデ	覆土下層		
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層		
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	黒	普通	外面隆起帯沈線→刷み→R.L.縄文→磨き	内面磨き	覆土上層		
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒灰	普通	外面沈線→L.R.縄文→磨き付	内面磨き	覆土下層		
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	にぶい赤黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色砂子	暗赤黒	普通	外面磨き付→沈線→刷み・R.L.縄文→磨き	内面磨き	覆土下層		
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面L.R.縄文→沈線	内面磨き	覆土上層		
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	外面隆起帯上刷み	内面磨き	覆土下層		
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄黒	普通	外面隆起帯磨き付	内面ナデ	覆土上層		
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面磨き	覆土上層		
82	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	灰	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
83	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	にぶい黄黒	普通	外面R.L.縄文	内面磨き	覆土上層		
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面L.R.縄文→磨き付→沈線	内面磨き	覆土中層		
85	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤	普通	外面R.L.縄文	内面磨き	覆土上層	二次焼成	
86	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒灰	普通	外面L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	にぶい橙	普通	口縁部外面交配・沈線	内面ナデ	覆土下層		
88	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面横線の沈線→縦位の弧縄文	内面磨き	覆土中層		
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色砂子	暗赤黒	普通	外面斜縄文→刷み	内面磨き	覆土中		
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒	普通	外面ナデ→斜縄文	内面磨き	覆土上層		
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	外面斜格子目文	口縁部に刷み	内面ナデ	覆土下層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面斜格子目文	内面磨き	覆土上層		
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面磨き付→赤線	内面磨き	覆土中層		
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面赤線→頭部磨き	内面ナデ	覆土上層		
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面赤線→頭部隆起斜交文	内面ナデ	覆土中層		
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色砂子	にぶい黒	普通	外面L.R.縄文→赤線文	内面磨き	覆土上層		
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面赤線→斜交文	内面磨き	覆土中層		
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	にぶい橙	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒砂	黒	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	外面R.L.縄文	内面磨き	覆土中層		
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	外面沈線→赤線→R.L.縄文	内面ナデ	覆土下層		
102	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面赤線→磨き付帯沈線→R.L.縄文→風縄文	内面ナデ	覆土上層		
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	外面R.L.縄文→付点縄文	内面磨き	覆土下層		
105	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	外面隆起帯帯沈線→R.L.縄文	内面磨き	覆土下層		
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄黒	普通	外面R.L.縄文→沈線	内面磨き	覆土下層		
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面隆起帯帯沈線→R.L.縄文→刷み→磨き付	内面ナデ	覆土上層		
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	外面隆起帯帯沈線→R.L.縄文→刷み→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層		
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい橙	普通	外面隆起帯帯沈線→R.L.縄文→磨き付	内面ナデ	覆土上層		
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→刷み→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層		
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	外面口縁部等に黒線及刷み・R.L.縄文	無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	明赤黒	普通	外面口縁部等に黒線及刷み・R.L.縄文	無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	赤	普通	外面隆起帯帯沈線→R.L.縄文→磨き付	磨き付	覆土上層		

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面隆起上翹み 内面ナデ	覆土上層	
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	明焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土中層
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰焼	普通	外面沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土上層
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	明焼	普通	外面沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土下層
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
126	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明焼	普通	外面磨削付→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→無筋L.縄文 内面ナデ		覆土中層
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰焼	普通	外面磨削付→沈線→RL.縄文→磨き	内面磨き	覆土上層
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰焼	普通	外面沈線→無筋L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒焼	普通	外面隆起帯筋沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰赤焼	普通	L.線部突起1小所 内面ナデ		覆土中層
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	焼	灰	普通	外面条線→付点筋線 内面ナデ	覆土中
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい焼	普通	外面隆起帯筋沈線→磨み 内面ナデ		覆土上層
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	外面隆起帯筋沈線→磨削付→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	焼	普通	外面隆起帯筋沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒焼	普通	外面隆起帯筋沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面磨削付→沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土上層
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・粘り・粘り	灰焼	普通	外面沈線→無筋L.縄文 内面ナデ		覆土下層
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面条線→沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土上層
148	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・粘り・粘り	にぶい焼	普通	外面条線→沈線→RL.縄文 内面磨き		覆土中層
149	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
150	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰焼	普通	外面沈線→RL.縄文 内面磨き		覆土下層
151	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中
152	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・燧石	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土上層
154	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
155	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層
156	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
157	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
158	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
159	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層
160	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰赤焼	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
161	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層
162	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層
163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	外面条線 内面ナデ	覆土下層
164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面磨削付 弦線文。内面ナデ		覆土上層
165	縄文土器	約手	-	-	-	長石・雲母	黒焼	普通	外面条線 内面磨き		覆土上層
166	縄文土器	深鉢	-	-	-	筋・粘り・粘り	暗赤灰	普通	外面沈線→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
167	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい焼	普通	外・内面磨き 補修孔1小所		覆土上層
168	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯筋による入組文 内面ナデ		覆土中層
169	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	焼	灰	普通	外面沈線→磨み 内面ナデ	覆土中層
170	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文 内面ナデ		覆土上層
171	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外・内面磨き		覆土上層
172	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・雲母	明赤焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
173	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰赤焼	普通	外面磨削付 無文部磨き 内面磨削ナデ		覆土上層
174	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→LR.縄文→磨削付→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
175	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
176	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面磨削付 内面ナデ		覆土上層
177	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	焼	普通	外面沈線→LR.縄文 内面ナデ		覆土下層
178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→磨み・無筋L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→磨み・LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
180	縄文土器	浅鉢	-	-	-	筋・粘り・粘り	にぶい焼	普通	外面沈線→磨み 内面ナデ		覆土中
181	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈線→磨削付→LR.縄文 内面ナデ		覆土下層

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面LR縄文→紐網貼付 内面ナデ	甕土下層	
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面LR縄文→紐網貼付 内面口縁部磨き 胴部ナデ	甕土上層	
184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面LR縄文→糸線→紐網貼付 内面ナデ	甕土上層	
185	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面地縄文→糸線→紐網貼付 内面ナデ	甕土上層	二次焼成
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面糸線→紐網貼付 内面磨き	床面	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面糸線→刷み 内面ナデ	甕土中層	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面地縄文→糸線→紐網貼付 内面磨き	甕土下層	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面糸線→付点線縄文 内面ナデ	甕土中層	
190	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰赤褐色	普通	外面糸線→付点線縄文 内面磨き	甕土中層	
191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面糸線→付点線縄文 内面ナデ	甕土上層	
192	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面糸線→付点線縄文 内面ナデ	甕土上層	
193	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面糸線→付点線縄文 内面ナデ	甕土上層	
194	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面糸線→沈泥→刷み 内面磨き 口唇部に刷み	甕土中層	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面横穴沈泥→刷み 糸線充填	甕土上層	
196	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面糸線→付点線縄文、区画文 内面ナデ	甕土中層	
197	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面磨面状工具による糸線→沈泥 内面ナデ	甕土中層	
198	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰赤褐色	普通	外面糸線→紐網貼付 内面ナデ	甕土中層	
199	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	黒褐色	普通	外面糸線→紐網貼付→弧線文・磨き 内面ナデ	甕土上層	
200	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面糸線→紐網貼付→弧線文・弧線文磨き 内面ナデ	床面	
201	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰赤褐色	普通	外面付点線縄文→斜線文充填 内面磨き	甕土中層	
202	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面糸線→紐網貼付→弧線文 内面ナデ	甕土中層	
203	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面糸線→紐網貼付 内面磨き	甕土上層	
204	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外、内面ナデ	甕土上層	
205	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面内リ 内面ナデ	甕土中層	
206	縄文土器	鉢	-	-	-	長石	にぶい赤褐色	普通	外面内リ 口縁部ナデ 内面磨き	甕土中層	
207	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面内リ→ナデ 内面ナデ	甕土下層	
208	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸線→付点線縄文 内面ナデ	甕土中層	
209	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面内リ 内面ナデ	甕土中層	
210	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面部糸線→付点線縄文、弧線文→磨面糸線 内面ナデ	甕土上層	
211	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面内リ 磨面 内面ナデ	甕土上層	□C2類
212	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面磨面 内面ナデ	甕土上層	
213	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈泥→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	P 3	
214	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰赤褐色	普通	外面糸線→沈泥 内面ナデ	P 7	
215	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	褐色	普通	外面磨子目文 内面磨き	P 10	
216	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面RL縄文 内面ナデ	P 10	
217	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面段帯胎土→RL縄文→無文磨き 内面磨き	P 8	
218	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面内磨→RL縄文 内面ナデ	P 8	
219	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸線→押引き付点文 内面ナデ	P 8	
220	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面磨面状工具による糸線 口唇部磨面 内面磨き	01	
221	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石	黒褐色	普通	外面沈泥→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	01	
222	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面RL縄文→沈泥→刷み貼付 内面ナデ	01	
223	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面糸線→付点文 内面ナデ	01	
224	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸線→紐網貼付→弧線文磨き 内面磨き	01	
225	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外、内面ナデ	01	
226	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面無文部、内面磨き	焼土跡	
227	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面口縁部横位の沈泥 内面磨き	焼土跡	
228	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面段帯胎土→RL縄文→無文磨き 内面磨き	焼土跡	
229	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	焼土跡	
230	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面内リ 内面ナデ	焼土跡	
231	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈泥→RL縄文→無文磨き	焼土跡	
232	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面糸線→紐網貼付 内面磨き	焼土跡	
233	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰赤褐色	普通	外面沈泥→LR縄文→無文磨き 内面ナデ	P 14	
234	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面紐網貼付→磨子目文 内面ナデ	P 14	
235	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈泥→刷み→RL縄文→無文磨き 内面磨き	P 14	
236	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面RL縄文→紐網貼付→糸線 内面磨き	P 18	
237	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面段帯胎土→RL縄文→無文磨き 内面磨き	P 28	
238	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面段帯胎土→RL縄文→無文磨き 内面ナデ	P 28	
239	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面磨面ナデ 内面ナデ	甕土中層	□A2類
240	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面内リ 内面ナデ	甕土中層	□A2類
241	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面磨面 内面磨き	甕土中層	□A2類
242	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	明赤褐色	普通	外面内リ 内面ナデ	甕土上層	□B類 P1,38
243	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明褐色	普通	外面割部内リ 内面ナデ 口縁部未調整	甕土上層	□B類
244	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	浅鉢状 外面内リ 内面ナデ	甕土上層	□B類
245	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面磨面ナデ 輪縁未成 内面ナデ	甕土上層	□B類
246	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	褐色	普通	外面内リ 内面ナデ 口縁部未調整	甕土上層	□B類
247	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・雲母	褐色	普通	外面内リ 口縁部磨面出し状 割部内リ 内面ナデ	甕土中層	□B類
248	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	にぶい赤褐色	普通	外面内リ 内面ナデ 口縁部未調整	甕土中層	□B類 P1,38
249	縄文土器	製塩	-	-	-	長石	褐色	普通	外面内リ 内面ナデ 口縁部未調整	甕土中層	□B類

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
250	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面割離 内面ナデ	口縁部未調整	覆土上層	口B類
251	縄文土器	甕	-	-	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面割り 内面ナデ		覆土上層	口B類
252	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部未調整	覆土中層	口B類 PL28
253	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部未調整	覆土上層	口B類 PL28
254	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・細礫	明赤褐色	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部未調整	覆土下層	口B類 PL28
255	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面割離 内面ナデ	口縁部ヘラ切り	覆土中	口C2類 PL28
256	縄文土器	甕	-	-	-	長石	橙	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部内側ぎ状にヘラ切り	覆土中層	口C2類 PL28
257	縄文土器	甕	-	-	-	長石	にぶい赤褐色	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部内側ぎ状にヘラ切り	覆土上層	口C2類
258	縄文土器	甕	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面割離 内面ナデ	口縁部内側ぎ状にヘラ切り	覆土中	口C2類
259	縄文土器	甕	-	-	-	長石	明赤褐色	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部外側ぎ状にヘラ切り	覆土中層	口C1類
260	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面割り 内面ナデ	口縁部外側ぎ状にヘラ切り	覆土下層	口C1類
261	縄文土器	甕	(24)	40		長石	橙	普通	外面割り 内面ナデ	底部本敷	覆土下層	5% PL28

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 甕	(11.4)	8.9	3.3	(168.6)	長石・角閃石	橙	ミズク RL 縄文 二次焼成	覆土下層	3e類 PL29
DP 2	土 甕	(9.8)	(9.8)	4.2	(190.2)	長石・石英・角閃石	橙	ミズク 無筋土縄文 左足欠損部ソケット状 赤彩	覆土中層	3e類 PL29
DP 3	土 甕	径 1.9	-	1.5	(4.5)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	耳栓 外面指頭ナデによる整形	覆土下層	1 2類
DP 4	土 甕	(4.0)	(5.7)	(2.7)	(66.3)	長石・石英・赤色粒子	橙	山形 腕部部分に刺突文	覆土中層	7a類
DP 5	土 甕	(4.8)	5.3	(2.9)	(40.9)	長石・石英・赤色粒子	橙	頸部に RL 縄文 後頸部に爪形文	覆土中層	7a類 PL29
DP 6	土 甕	(4.1)	(3.3)	(4.3)	(43.8)	長石・石英	赤褐色	山形	覆土中	2d類
DP 7	土 甕	(3.0)	(2.9)	(4.4)	(37.8)	長石・石英	黒褐色	山形 表面磨き	覆土中層	2d類
DP 8	耳飾り	径 4.6	-	2.2	(10.0)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	筒車型 ナデ	覆土下層	IV 2類
DP 9	耳飾り	径 6.1	-	1.3	(12.6)	長石・石英	明赤褐色	筒車型	P 10	IV 2類
DP10	耳飾り	径 7.8	-	1.8	(23.2)	長石・石英・雲母	橙	筒車型 ナデ	覆土中層	IV 2類
DP11	耳飾り	径 6.8	-	2.3	(18.8)	長石・石英・赤色粒子	橙	筒車型 椀口文間に刺突による対弧文	覆土下層	IV 2類
DP12	耳飾り	径 7.0	-	2.3	(13.3)	長石・石英	黒褐色	筒車型 表面磨き	覆土下層	IV 2類
DP13	耳飾り	径 6.2	-	1.8	(10.6)	長石・石英	にぶい赤褐色	筒車型 杵状文	覆土下層	IV 2類
DP14	貝輪状	(4.6)	2.6	1.2	(14.9)	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	表面磨ナデ	覆土下層	IV 2類
DP15	貝輪状	(3.6)	1.8	1.0	(6.2)	長石・石英	にぶい赤褐色	表面磨ナデ	覆土下層	
DP16	貝輪状	(3.0)	1.1	1.4	(4.4)	長石・石英	にぶい赤褐色	表面磨ナデ	P 15	
DP17	赤彩土器	(6.3)	(5.6)	1.4	(34.1)	長石・石英	にぶい赤褐色	粘土塊を押し出した状態	覆土中層	
DP18	赤彩土器	4.3	(2.8)	1.3	(12.1)	長石・石英	にぶい赤褐色	表面磨部顕微明瞭	覆土中層	
DP19	土 甕	(5.1)	(4.2)	2.3	(21.9)	長石・石英	褐色	ミズク 刺突文 赤彩	覆土上層	3e類 PL29
DP20	土 甕	(6.2)	(3.8)	(2.2)	(55.2)	長石・石英	橙	片面穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鉢	1.7	1.4	0.3	0.65	黒曜石	無染 表裏に古い割離痕	覆土中層	PL47
Q 2	石 鉢	2.3	1.2	0.5	0.91	瑪瑙	有染	覆土上層	PL47
Q 3	石 鉢	2.71	1.67	0.79	(2.7)	チャート	未成品	覆土上層	PL47
Q 4	磨製石斧	(3.8)	3.4	1.2	(26.1)	鮫枝岩	小形定角式 表面磨研部 欠損部に研蝕あり再加工の可能性	覆土上層	PL46
Q 5	磨製石斧	(7.05)	4.1	2.2	(86.7)	ホルンフェルス	未成品 磨製後加工後側縁部最終調整 刃部欠損	覆土上層	
Q 6	石 鎌	4.9	3.6	0.9	(13.9)	安山岩	長軸方向に切り目	覆土上層	2類
Q 7	石 鎌	4.2	3.1	0.9	16.5	安山岩	長軸方向に打ち欠き	覆土中層	3類
Q 8	石 鎌	5.1	3.0	1.5	39.6	緑色岩	長軸方向に打ち欠き 上下縁部に磨痕	覆土下層	3類
Q 9	石 磨盤	(16.4)	(13.7)	9.7	(284.9)	デイサイト	表裏に磨面と凹痕	覆土中層	2類 被熱
Q 10	石 磨盤	23.4	19.9	5.2	3879.9	輝石安山岩	表面中央部使用 裏面は使用痕あるいは平坦に加工。	覆土上層	2類
Q 11	石 磨盤	15.0	(13.5)	3.2	(80.6)	安山岩	表裏に磨面と凹痕	覆土上層	2類
Q 12	石 磨盤	(20.9)	15.2	14.2	(696.0)	輝石安山岩	表面3ヶ所と欠損部に磨面	覆土上層	2類
Q 13	磨石	(15.2)	(14.8)	6.4	(185.9)	雲母片岩	表面に磨痕 表裏面に凹痕	覆土下層	2類
Q 14	磨石	5.7	6.2	3.0	148.1	安山岩	表面磨痕	覆土下層	1c類
Q 15	磨石	(9.0)	(7.7)	(3.9)	(407.5)	角閃石基性花崗岩	表裏面・上下縁部に磨痕	覆土下層	1c類
Q 16	浮子	(6.9)	7.4	1.8	(31.2)	軽石	表面磨研による整形	覆土下層	
Q 17	砥石	(7.1)	16.5	1.4	(48.6)	砂岩	表裏に溝状の砥面	覆土上層	4類
Q 18	砥石	(5.3)	3.8	1.2	(26.4)	砂岩	両側縁を使用	覆土中層	4類
Q 19	砥石	(5.4)	4.0	4.1	(95.0)	砂岩	表裏2面の使用	覆土上層	3類
Q 20	石・石磨	(6.7)	(3.5)	(2.2)	(58.1)	泥岩	石棒 端部平直	覆土上層	PL45
Q 21	石・石磨	(5.8)	4.7	3.6	(135.8)	ホルンフェルス	石棒 端部平直 敲打痕	覆土上層	

### 第 36 号 竪穴建物跡 (第 42 ~ 44・58 ~ 61 図 PL12)

位置 調査A区北西部のB 6 区2区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 2 号遺物包含層中で確認した。第 6 号竪穴建物、第 34・40・112 号土坑に掘り込まれている。第 42・43 号竪穴建物跡、第 45・126・127・136・137 号土坑とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不

明である。出土遺物からは、第42号竪穴建物跡よりは新しく、第43号竪穴建物跡、第45号土坑よりは古い。

**規模と形状** 第6号竪穴建物跡の調査中に、下層から炉跡と多数のピットを確認したことから、竪穴建物跡の存在を想定して掘り下げを行った。壁は一部しか確認できなかったが、壁柱穴の配置などから、西側に張出部を伴う出入口ピットを有し、弧状に巡っているP10・P16、P24・P30、及び第42号竪穴建物跡の扉属としたP3・P4・P11・P12・P18を壁柱穴とする建物跡を想定できる。推測される規模は、南北径約8m、張出部を含めた東西径6.9mの楕円形で、主軸方向はN-115°-Wである。壁は高さ10～16cmで、外傾している。これ以外にも弧状に巡っているP17～P22などがあり、2回以上の建て替えが想定できる。

**床** ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 炉1は中央やや東寄りに位置し、大部分を第6号竪穴建物跡のピットに掘り込まれている。径100cmの円形で、深さ15cmの地床炉である。炉2は、中央やや西寄りに位置し、長径50cm、短径43cmの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。火床面の赤変硬化はほとんど確認できなかった。

#### 炉1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

#### 炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

**ピット** 58か所。P1～P4、P50・P51が、位置と形状、深さから主柱穴と考えられる。P40やP42も径が小さいものの、位置や深さから主柱穴の可能性もある。P5～P9は位置と深さから出入口施設に伴うピットと考えられる。壁柱穴の中にもP14・P24・P27など、径がやや大きく深さのあるものがあり、主柱的な役割を持つ可能性がある。P55～P58は本跡の調査時に確認したものであるが、壁外に位置していることや第6号建物跡の配置とほほ並行していることから、第6号建物跡に属する可能性も考えられる。

#### P2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 骨粉中量、ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

#### P27・P29土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

#### P4土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・灰少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

#### P32土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量（第6号建物跡P19覆土）
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

#### P5・P6土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

#### P46土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

#### P10・P17・P18土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### P50・P51土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 4 褐灰色 灰・貝片多量、ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

#### P13土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック多量

#### P56土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量

#### P16土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

#### P58土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量



ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	140	130	89	56	10	72	113	115	45	45	33	30	42	66	34	33	46	21	30	24	8	25	41	58	23
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	42	56	44	30	18	43	53	17	18	12	24	9	63	10	50	12	40	19	37	10	34	9	8	14	(80)
番号	51	52	53	54	55	56	57	58																	
深さ	75	25	41	15	15	59	41	73																	

覆土 3層に分層できる。各層ともローム粒子や遺物が多く含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

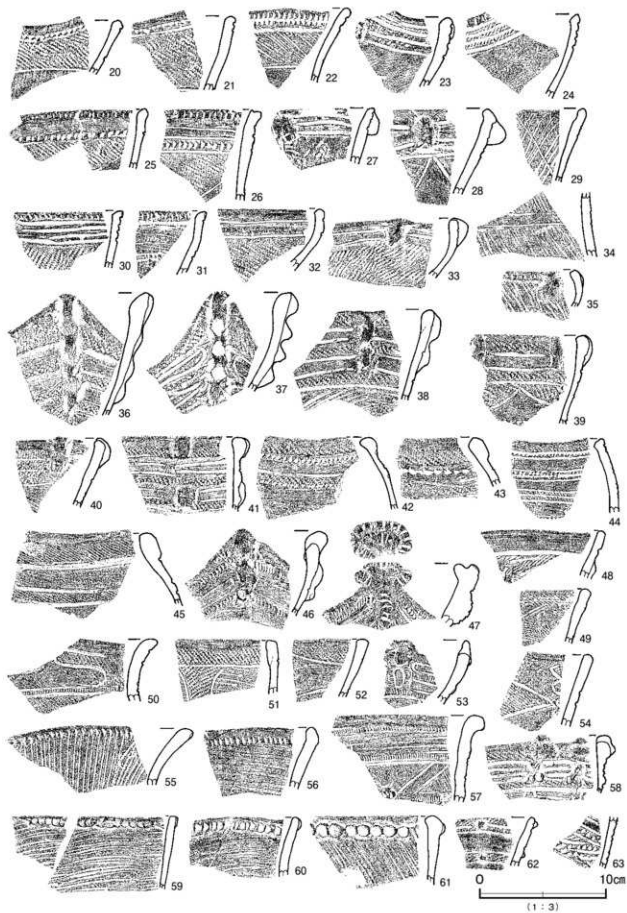
1	褐色	ローム粒子中量	5	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 (P8覆土)
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量			
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量 (P8覆土)
4	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量 (P8覆土)	7	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量 (P8覆土)
			8	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量 (P8覆土)

遺物出土状況 縄文土器片3,767点(73.22kg)、土製品9点(土器片円盤1、耳飾り3、土偶3、貝輪1、匙形1)、石器・石製品29点(石鎌1、磨製石斧2、打製石斧1、石皿類2、磨石類13、石錘1、軽石製品1、砥石3、礫器1、浮子1、石棒・石剣類3)のほか、焼成粘土塊3点、石核2点(チャート)、剥片8点(黒曜石4、チャート4)などが出土している。また覆土中やP24・P51などから、獣骨片が41.37g出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第3群(後期初頭)20%、第4群(後期前葉)21%、第5群(後期中葉)16%、第7群(後期後葉)18%である。4はP56の覆土中から、3はP4の底面付近から出土している。復元可能な個体は、安行1式に比定できるものが多いようである。

所見 時期は、出土土器と形状から、後期後葉の安行1式期と考えられる。

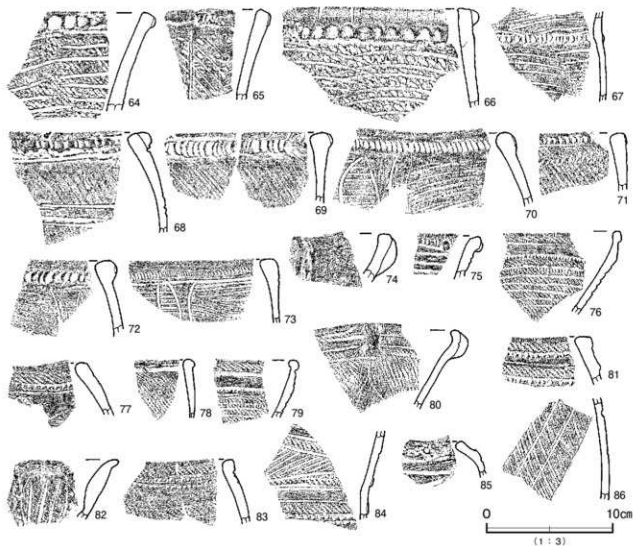
第36号竪穴建物跡出土遺物観察表(第58～61図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	[240]	[133]	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面除首輪沈線→R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	5%	
2	縄文土器	古付鉢	[236]	[8.8]	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面矢羽状沈線→沈線・割糸→亀貼付	内面磨き	覆土中	10%	
3	縄文土器	深鉢	[260]	28.4	3.6	長石・石英	灰黒	普通	外面糸線→紐網貼付	内面磨き	P 4	70% PL21	
4	縄文土器	深鉢	-	[24.8]	5.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	外面ナデ	P 56	40%	
5	縄文土器	鉢	[142]	7.3	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面・底面割り	内面ナデ一部磨き	覆土中	20%	
6	縄文土器	深鉢	-	[9.3]	4.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面R.縄文→無文部磨き	内面磨き	底部網代糸→磨き	P 50	10%
7	縄文土器	鉢	-	[6.8]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→首輪付→無文部磨き→無文部磨き	内面磨き	覆土中	10%	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面微隆起帯文	内面磨き	覆土中		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面に縄文沈線	内面磨き	覆土中		
10	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面磨き	内面ナデ	石輪型	覆土中	
11	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面磨き		覆土中		
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
13	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中		
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→矢羽状沈線→磨き	内面磨き	覆土中		
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤黒	普通	外面矢羽状沈線	口縁部凹線	内面磨き	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面格子目文	内面磨き	覆土中		
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒黒	普通	外面格子目文	内面磨き	覆土中		
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面割り	内面粗い磨き	覆土中		
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面糸線	内面凹線文	磨き	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面沈線→R.縄文	内面磨き	覆土中		
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒黒	普通	外面沈線→割糸→糸線→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐灰	普通	外面L.R.縄文→沈線→磨き	内面磨き	覆土中		
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒黒	普通	外面沈線→割糸・R.縄文→無文部磨き	内面粗い磨き	覆土中		
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面磨き	覆土中		
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外面斜格子目文	内面磨き	覆土中		
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒黒	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面粗い磨き	覆土中		
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→割糸→糸線	内面磨き	覆土中		



第59图 第36号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

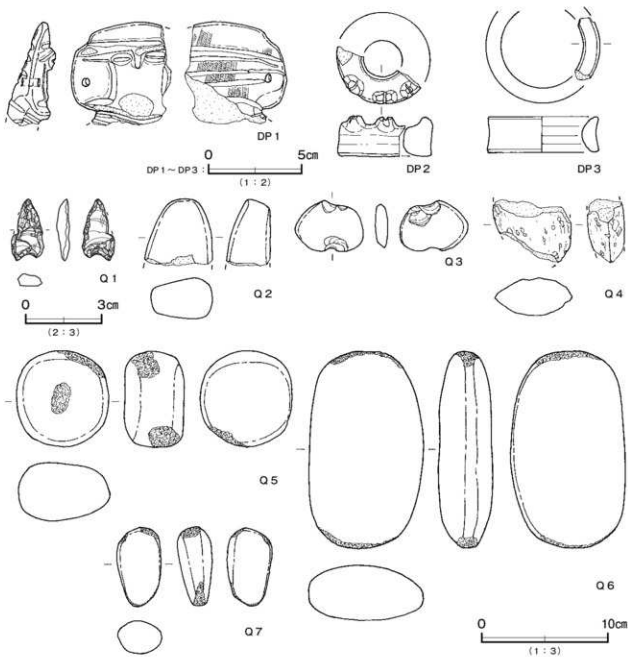




第 60 図 第 36 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)

第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 58 ~ 61 図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→R.L.縄文 内面磨き	竊土中	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・粘石・粘石	灰褐色	普通	外面沈澱→L.R.縄文 内面十字	竊土中	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黒	普通	外面糸澱→横位沈澱→磨き 内面粗い磨き	竊土中	
35	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面輪軸付→刷込 内面磨き	竊土中	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・粘石・粘石	黒褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・粘石・粘石	黒褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→R.L.縄文 内面磨き	竊土中	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面段帯輪沈澱→刷込→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文 内面十字	竊土中	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面段帯輪沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面段帯輪沈澱→刷込 内面十字	竊土中	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯輪沈澱→刷込 内面粗い磨き	竊土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈澱→L.R.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	外面沈澱→R.L.縄文 内面十字	竊土中	
50	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面糸澱→沈澱→R.L.縄文 内面十字	竊土中	
52	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈澱→R.L.縄文→無文磨き 内面磨き	竊土中	
53	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈澱→段帯上刷込 内面磨き	竊土中	



第 61 図 第 36 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 36 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 58 ~ 61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
55	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	濃い黄褐色	普通	外面口縁部刷み→条線 内面磨き	覆土中	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄質	濃い黄褐色	普通	外面口縁部刷み→条線 内面磨き	覆土中	
57	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起部上刷み 内面磨き	覆土中	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆部沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄質	灰 褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄質	濃い黄褐色	普通	外面条線→紐線貼付 内面磨き	覆土中	
62	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	外面沈線→無加し縄文 内面磨き	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	濃い黄褐色	普通	外面沈線→刷み・LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	濃い黄褐色	普通	外面 RL 縄文→紐線貼付→条線 内面十字	覆土中	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄 褐色	普通	外面地縄文→紐線貼付→条線 内面十字	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	RL 縄文→紐繩貼付 内面ナデ	覆土中	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外面糸線→紐繩貼付 内面ナデ	覆土中	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面糸線→紐繩貼付→沈線→刷み 内面ナデ	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面糸線→紐繩貼付 内面ナデ	覆土中	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外面糸線→紐繩貼付 内面ナデ	覆土中	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面糸線→付点線文 内面ナデ	覆土中	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面糸線→紐繩貼付 内面ナデ	覆土中	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面糸線→付点線文 内面ナデ	覆土中	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面縷貼付 内面ナデ	P 1	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰	普通	外面沈線→刷み 内面ナデ	P 2	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→刷み・RL 縄文 内面ナデ	P 2	79と同一。
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	外面沈線→刷み・RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 2	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面ナデ	P 4	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 4	26と同一。
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通	外面縷貼付縷貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 24	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面縷貼付縷貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 14	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面 RL 縄文→沈線 内面ナデ	P 50	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 50	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面縷貼付縷貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 50	
85	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 59	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面糸線→沈線 内面ナデ	P 24	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 罎	(5.5)	(5.4)	(2.6)	(48.7)	長石・石英・赤色粒子	橙	山形 無刷し縄文	覆土中	2a類
DP 2	耳飾り	3.0	径 (5.0)	2.1	(17.4)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	滑車型 ナデ彫彩	覆土中	2b類
DP 3	耳飾り	3.1	径 (6.0)	1.9	(7.4)	長石・石英	黒 褐	滑車型 磨き彫彩	覆土中	2c類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 蔵	2.46	1.20	0.51	1.3	黒曜石	未成品 無糸	P 24	
Q 2	磨製石斧	(5.3)	(5.8)	3.6	(130.0)	安山岩	定角式	覆土中	
Q 3	石 鎌	4.0	5.5	1.0	29.3	安山岩	打ち欠き	覆土中	3類
Q 4	磨石製品	(5.0)	(6.3)	3.0	(19.8)	輝石	表面研磨により断面レンズ状に成形	覆土中	
Q 5	磨石類	7.6	7.3	4.8	(436.0)	輝石安山岩	表面・上下端部に敲打痕	覆土中	2a類 厚底片
Q 6	磨石類	15.6	9.2	4.5	1000.2	輝石安山岩	表面・側面に磨痕 上下端に敲打痕	覆土中	2a類 表面に窪
Q 7	磨石類	6.3	3.6	2.8	(87.8)	砂 岩	縁の上下端部に敲打痕	覆土中	3a類

### 第7A・B号竪穴建物跡 (第62～64図 PL 5)

位置 調査A区西部のC6c4区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層I-2層下で確認した。第24号土坑を掘り込み、第1・4・55号竪穴建物、第1号堀に掘り込まれている。第12号竪穴建物跡、第18・26号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東壁と北壁の一部が確認できたのみであることから、壁柱穴の配置と出入口ピットから判断した。出入口ピット及び壁柱穴の配列が、やや位置を東にずらして2か所確認できることから、掘方を伴い、掘方に沿って壁柱穴が巡り、不整形の出入口ピットを有するものを第7A号建物跡、それより約12m東にずれて弧を描いて巡っている壁柱穴列と、2つの並列する長楕円形ピットが出入口部となるものを第7B号建物跡とした。第7A号建物跡は、長径8.2m、出入口部を含めた短径8.0mの楕円形で、出入口ピットから見た主軸方向はN-38°-Eである。確認面からの壁の高さは10～25cmであるが、土層断面から推定される壁は高さ34cmで、緩やかに立ち上がっている。第7B号建物跡は、壁柱穴と出入口ピットの配置から長径約7.6m、出入口ピットを含めた短径約7.5mの円形で、出入口ピットからみた主軸方向はN-24°-Eである。土層断面から推定できる壁は高さ20cmで、ほぼ直立している。

床 第7A号建物跡は、東から西に向かってやや傾斜している。いずれも硬化面は確認できなかった。

ピット 47か所。P10～P15は位置と形状から第7A号建物跡の出入口ピット、P16～P30・P34・P35は第7A号建物跡の壁柱穴である。P10・P47は位置と形状から第7B号建物跡の出入口ピット、P1・

P 31～P 33・P 36～P 45は第7B号建物跡の壁柱穴である。P 2～P 9は、位置と大きさ及び深さから主柱穴の可能性はあるが、これらの配置や帰属は不明瞭である。

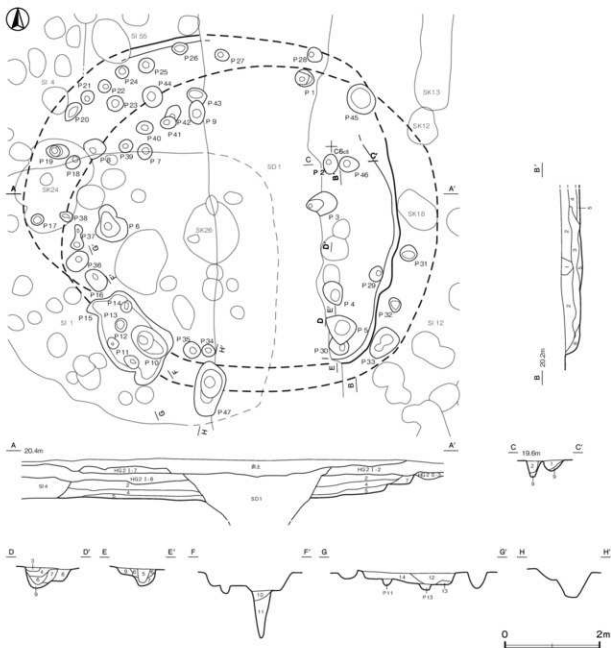
ピット土層解説

- |        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 8 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     |
| 2 黒褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     |
| 3 黒褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 10 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量   | 11 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量   |
| 5 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     | 12 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量     |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量   | 13 褐色  | ローム粒子中量               |
| 7 暗褐色  | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 14 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量   |

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
深さ	98	33	37	45	37	49	58	120	73	149	40	46	50	54	37	41	36	40	62	21	28	17	12	24
番号	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	
深さ	34	34	80	(60)	26	13	14	5	28	(24)	(36)	(29)	(29)	36	19	24	14	15	19	(24)	26	(63)		



第 62 図 第 7 号壁穴建物跡実測図



第63图 第7号竖穴建物跡出土遺物実装图(1)

**覆土** 7層に分層できる。第1～6層は第7A号建物跡に帰属するもの、第7層は第7B号建物跡に帰属するものである。第3・5層は焼土ブロックや骨粉が含まれている層で、埋め戻された可能性がある。覆土中層で炭化物の散布が見られる。

**土層解説**

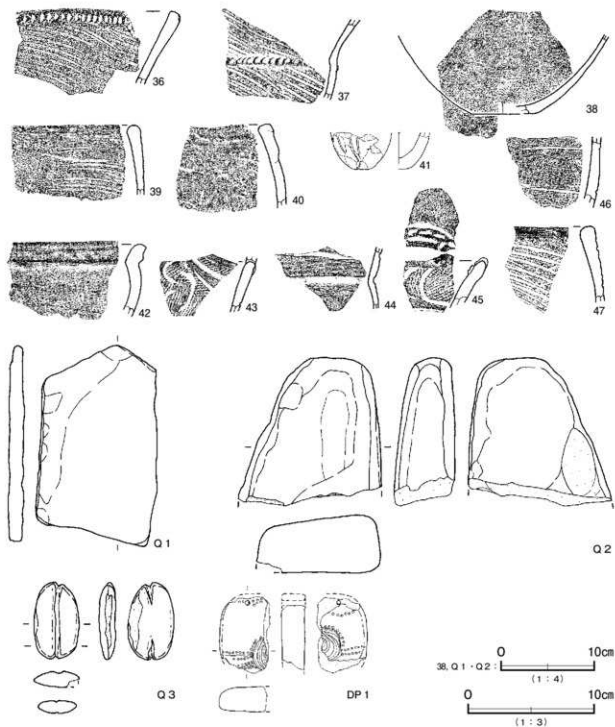
1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	6 褐色	ローム粒子少量
3 黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・骨粉微量	7 暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子ブロック微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 2019点 (324kg)、土製品 4点 (土器片円盤3、土版1)、石器・石製品 11点 (石皿類2、磨石類6、石錐1、石棒・石剣類2)のほか、焼成粘土塊2点、石核7点(チャート)、剥片7点(チャート5、黒曜石2)などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、主体となるのは、第4群(後期前葉)13.6%、第5群(後期中葉)19.2%と、第8群(晩期)32.8%である。

**所見** 覆土の堆積状況から、第7B号建物跡から第7A号建物跡に建て替えられている。時期は、出土土器から晩期前葉から中葉と考えられる。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第63～64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→柳文・RL縄文	内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→柳文・無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線	内面ナデ	覆土上層	
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面無筋L縄文	無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
7	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→柳文・無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→柳文・無文部磨き	内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面三角形区画文	内面ナデ	覆土中層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→柳文・無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線間何文文	内面磨き	P7	
18	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部磨み	内面磨き	覆土下層	
19	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面無文部ナデ	内面口縁部磨き	胴部ナデ	
20	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤緑	普通	外・内面ナデ		覆土中層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面杓状文	内面ナデ	覆土中層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面杓状文	内面ナデ	覆土中層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ボタン状縁部付	内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	外面菱形区画文	内面ナデ	覆土中層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面菱形区画文	調整不明瞭	覆土中層	
26	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→無筋L	内面ナデ	覆土中層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面ナデ	内面口縁部磨き	P8	
28	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	
29	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面粗い磨き	口縁部に耳突	内面ナデ	覆土中層
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面粗い磨き	口縁部に耳突	内面ナデ	覆土上層
31	縄文土器	杓形鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗灰	普通	外面密沈線文充填	内面ナデ	覆土中層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面平歯状文	内面磨き	覆土中層	
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文	内面磨き	覆土中層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線	内面ナデ	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→口縁部磨み	内面磨き	覆土中層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→柳文	内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	(6.6)	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面粗い磨き	内面ナデ	覆土中層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線	内面ナデ	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤緑	普通	外面密沈線ナデ	内面ナデ	覆土上層	



第64図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
41	縄文土器	シロチャフ	-	(2.9)	1.5	紅・紅・黒・赤・緑	にぶい橙	普通	外面指頭ナデ→沈線 内面指頭ナデ	甕土中層	30%
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外・内面磨き	P. 22	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	P. 7	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 粗	普通	外面磨き 内面ナデ	P. 16	
45	縄文土器	鉢	-	-	-	紅・紅・黒・赤・緑	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	P. 6	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面杓状文。内面ナデ	P. 37	
47	縄文土器	浅鉢	-	-	-	紅・紅・黒・赤・緑	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	P. 7	

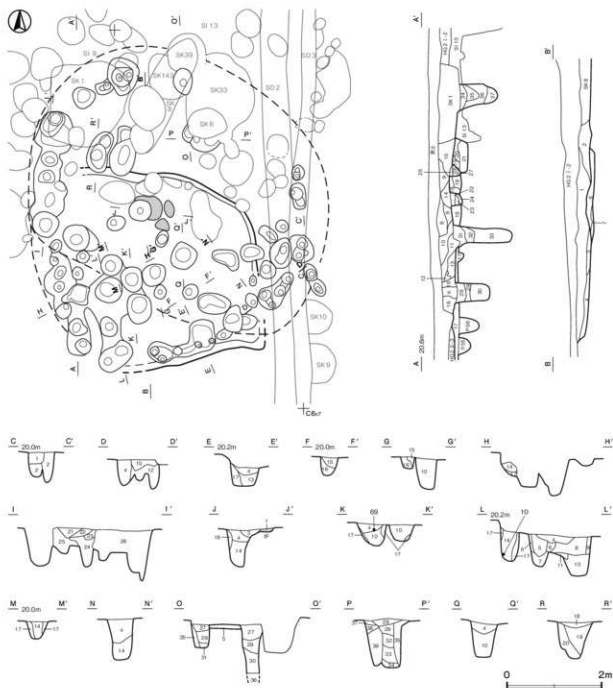
番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	土 版	(6.0)	(4.0)	(2.0)	(56.1)	長石・石英	にぶい陶	弧線文と縦かい刺突文 上部に貫通孔	覆土上層	

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	石瓦類	(21.6)	13.1	1.6	(630.6)	砂 岩	表面摩耗	覆土下層	3類
Q 2	石瓦類	(15.8)	(15.4)	6.6	(292.1)	安山岩	表面面・石舞線の3面使用	覆土下層	被熱 1類
Q 3	石 鋪	6.1	3.6	1.35	38.29	緑色岩	表面有溝 表面切り目	覆土中層	1・2類

### 第8A～C号竪穴建物跡 (第65～70図 PL 5～7)

位置 調査A区西部のC 6a6区、標高20mほどの台地上に位置している。



第65図 第8号竪穴建物跡実測図(1)



**重複関係** 第2号遺物包含層のI-2層下で確認した。第13号堅穴建物跡、第33号土坑を掘り込み、第1・6・8・39号土坑、第2・3号溝に掘り込まれている。第9号堅穴建物跡、第143号土坑とも重複しているが、堆積状況から新旧関係を捉えることができなかった。遺構の遺存状況から、いずれの堅穴建物跡よりも本跡が新しいことが想定できる。

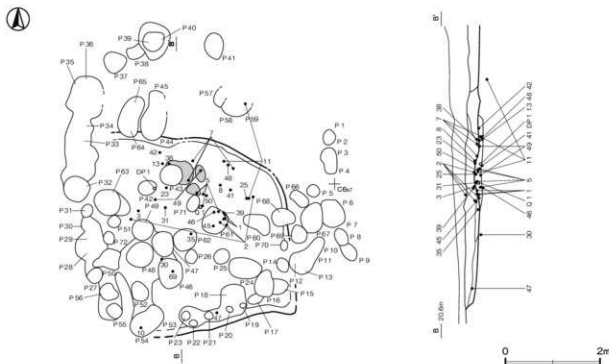
**規模と形状** 壁の一部が確認できたのみで、出入口ピットと壁柱穴から規模と形状を推定した。出入口ピットと想定されるピットが2か所確認できることから、建て替えの可能性がある。第8A号建物跡は、P53～P56を出入口部とし、P1～P23・P27～P41を壁柱穴とする建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径6.8m、出入口ピットまでの南北径は6.5mの円形で、出入口ピットから推定される主軸方向はN-23°-Eである。壁は高さ21cmで、外傾している。第8B号建物跡は、第8A号建物跡と壁柱穴や主柱穴を一部共有し、P46～P48を出入口部とし、P1～P16・P24～P26・P31～P41・P51を壁柱穴とする堅穴建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径6.8m、出入口部までの南北径は5.8mである。炬と出入口部を結ぶ主軸方向は、第8A号建物跡とはほぼ同様である。壁の掘り込みは確認できなかった。さらに、本跡南側の床面が5～10cmほど下がっている部分があり、これを第8C号建物跡とする。西壁を確認することができなかったため、南北径は約4.0m、確認できた東西径は3.9mの不整円形である。壁は高さ5～10cmで、外傾している。

**床** ほぼ平坦である。いずれの建物跡においても、硬化面は確認できなかった。

**炬** 中央に位置し、P43に掘り込まれている。長径64cm、短径40cmで、深さ10cmの地床炬である。

#### 炉土層解説

I 黒 陶 色 焼土粒子・炭化粒子・骨粉中量、ローム粒子少量



第66図 第8号堅穴建物跡実測図(2)

ビット 72か所。P 57～P 65 が位置と形状、深さから主柱穴と考えられ、ほぼ同位置でビットが重複していることから、大きく位置を変えることなく柱を立て替えていることが推測される。西壁側の壁柱穴は、幅 30～70cm、深さ 40cm の溝状の掘方の中で確認できる。壁柱穴の中にも深さのあるものもあり、上屋を支える主柱穴的な役割を有するものも存在する可能性がある。

#### ビット土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量	20	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	21	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
3	黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量	22	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	23	暗褐色	ロームブロック少量
5	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	24	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
6	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	25	暗褐色	ロームブロック少量
7	暗褐色	ロームブロック少量、骨粉微量	26	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
8	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	27	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量
9	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	28	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
10	黒褐色	貝片・骨粉中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	29	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量
11	褐色	ローム粒子多量	30	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・貝片少量
12	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	31	暗褐色	ロームブロック中量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	32	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、骨粉微量
14	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	33	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、骨粉微量
15	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	34	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、骨粉微量
16	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	35	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
17	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量	36	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・貝片少量
18	暗褐色	ローム粒子少量	37	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
19	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	38	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
			39	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量

#### ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	42	52	80	38	25	45	31	48	36	61	46	68	69	23	64	32	75	40	55	66	49	45	59	45	38
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	26	32	52	54	48	47	80	86	64	56	114	73	55	74	84	100	32	79	40	21	46	36	81	36	55
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72			
深さ	33	70	61	-	46	33	95	100	100	84	70	65	113	82	38	15	46	24	39	14	74	20			

覆土 21層に分層できる。第1～5・8～16層が第8A・8B号建物跡、第6・7・17～21層が第8C号建物跡に帰属している。各層とも遺物が多く含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第5層は第33号土坑を貼床している。第22～37層はP 37・P 50・P 63の覆土である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	19	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	20	黒褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子・骨粉少量	21	黒褐色	ローム粒子中量
4	褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	22	黒褐色	ローム粒子微量(ビット覆土)
5	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	23	黒褐色	ローム粒子少量(ビット覆土)
6	褐色	ロームブロック中量	24	黒褐色	ローム粒子中量(ビット覆土)
7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	25	黒褐色	ローム粒子少量(ビット覆土)
8	黒褐色	ローム粒子少量	26	黒褐色	ローム粒子中量(ビット覆土)
9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	27	黒褐色	ローム粒子少量(ビット覆土)
10	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	28	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量(P50覆土)
11	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	29	黒褐色	ローム粒子中量(P50覆土)
12	黒褐色	ローム粒子微量	30	黒褐色	ローム粒子少量(P50覆土)
13	暗褐色	ローム粒子少量	31	黒褐色	ローム粒子中量(P63覆土)
14	黒褐色	ローム粒子微量	32	黒褐色	ローム粒子少量(P63覆土)
15	黒褐色	ローム粒子少量	33	暗褐色	ローム粒子中量(P63覆土)
16	黒褐色	ローム粒子少量	34	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量(P37覆土)
17	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	35	暗褐色	ローム粒子少量(P37覆土)
18	暗褐色	ロームブロック少量	36	黒褐色	ローム粒子少量(P37覆土)
			37	暗褐色	ローム粒子中量(P37覆土)

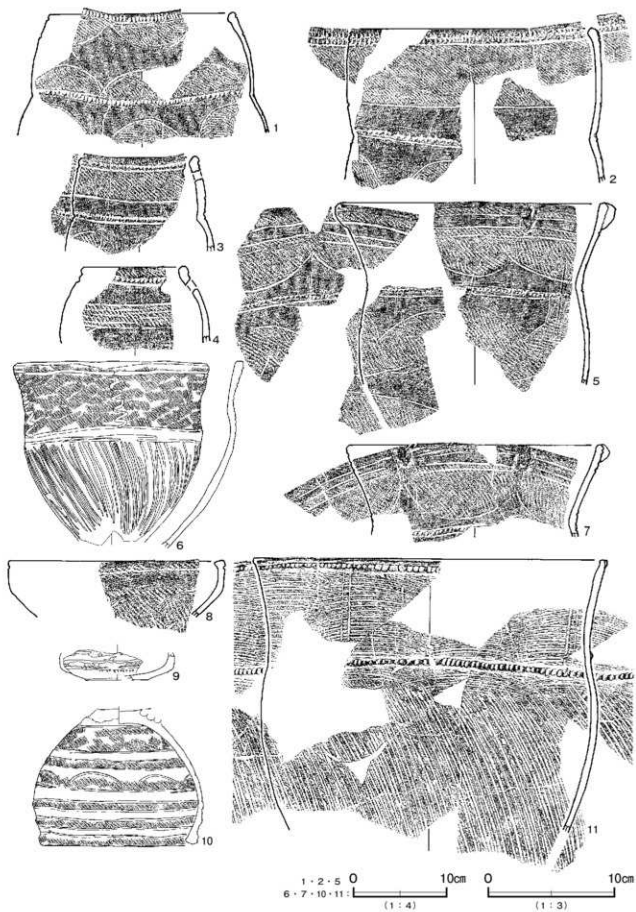
遺物出土状況 縄文土器片 2920点 (49.42kg)、土製品 5点 (土錘1、土器片円盤1、土偶2、貝輪状1)、石器・石製品 10点 (磨製石斧2、磨石類7、砥石1)、骨角製品 3点 (髀1、栓状製品2)のほか、剥片 12点

(チャート8, 黒曜石4) などが出土している。また覆土中やピットなどから、獣骨片が81661g, オオタニシヤマツカサガイ, ヤマトシジミなどの貝類が65412g出土している。これらの自然遺物については、付帯に分析結果を掲載しているので参照されたい。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第4群(後期前葉)18%, 第5群(後期中葉)24%, 第6群(後期後葉)16%, 第7群(後期後葉)22%である。床面付近で出土しているものは、第6群の曾谷式から第7群の安行1式が多い。10はP54の底面付近から出土している。

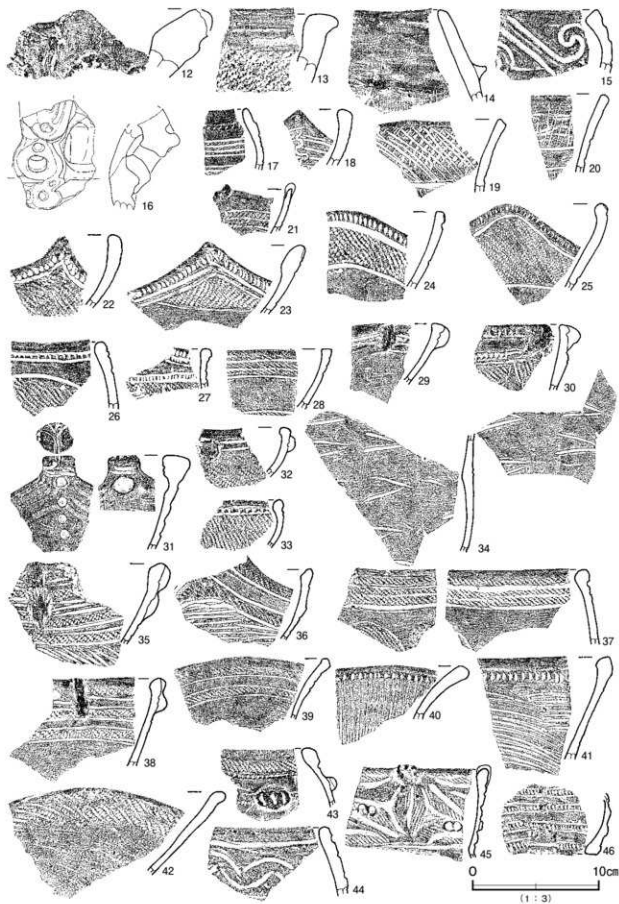
**所見** 時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。第8A号建物跡と第8B号建物跡は、主軸方向を変えることなく壁柱穴を共有し、主柱穴の位置も大きく変わらないことから、比較的短期間の建て替えが考えられる。

第8号竪穴建物跡出土土器観察表(第67~70図)

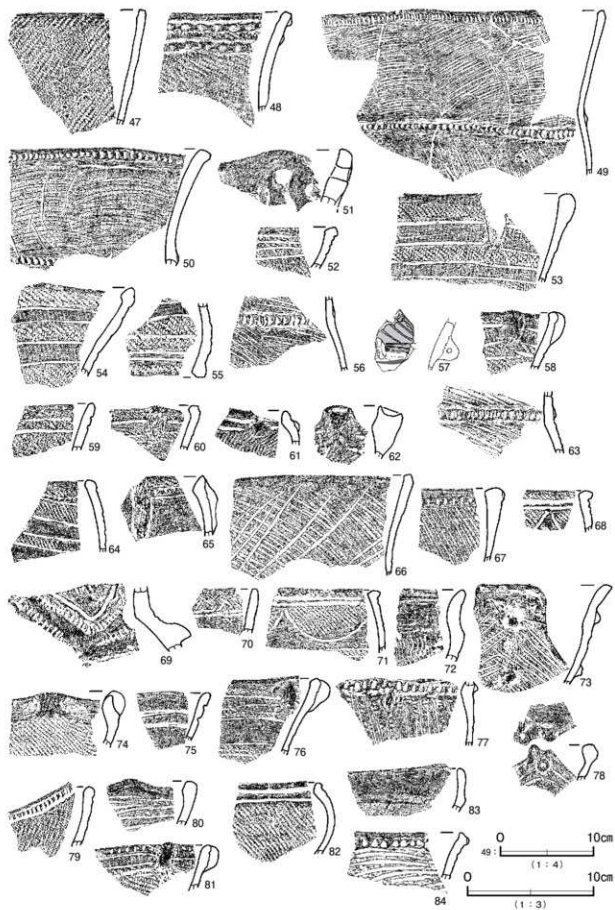
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	19(3)	11(2.4)	-	長石・石英	暗赤黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	10% PL36
2	縄文土器	深鉢	24(6)	16(6.0)	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	10%
3	縄文土器	深鉢	9(2)	7(5)	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	10%
4	縄文土器	深鉢	8(0)	6(1)	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	5%
5	縄文土器	深鉢	27(0)	19(9)	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	S.C.覆土	10% PL36
6	縄文土器	深鉢	20(0)	19(8)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面 R.L.縄文→磨き・蛇行沈線→刷線	内面磨き	P 41	80% PL27
7	縄文土器	深鉢	28(2)	9(5)	-	長石・石英・赤粘土	にぶい黄褐	普通	外面磨き付→沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	10% PL36
8	縄文土器	鉢	17(1)	4(5)	-	長石・石英・角閃石	赤 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面磨き	床面	10%
9	縄文土器	鉢	-	12(1)	5(2)	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	20%
10	縄文土器	台付鉢	-	(14.5)	15(8)	長石・石英・赤粘土	橙	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 54	50%
11	縄文土器	深鉢	36(6)	28(3)	-	長石・石英・赤色粘土	灰 黒	普通	外面縄文→刷線→区画沈線→紐線磨き	内面磨き	床面	40% PL27
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	橙	普通	外面隆起帯磨き形文	内面ナデ	P 47	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	橙	普通	外面O段多量のL.R.縄文	内面磨き	S.C.覆土	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	黒	普通	外面口縁部磨き 製器用木道具の痕跡	内面磨き		
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 黒	普通	J字文 外面無文部	内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐	普通	把手部 外・内面磨き		覆土下層	
17	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黄 橙	普通	外面沈線→刷線・L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面横定沈線→蛇行沈線	内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面磨き付目文	内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・粘土・赤粘土	黒 黒	普通	外面口縁部斜線文	内面磨き	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黄 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面磨き		二次焼成
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄 橙	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明赤黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	明赤黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 黒	普通	外面流線部に凹線文と竹文	内面磨き	床面	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨き付→沈線→R.L.縄文	内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	明赤黒	普通	外面沈線→刷み・R.L.縄文	内面磨き	P 33・P 54	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明赤黒	普通	外面ナデ→矢羽状沈線文	内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文	内面磨き	床面	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	暗赤灰	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文	内面磨き	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤黒	普通	外面隆起帯沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	黒 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	
40	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面刷み→刷線	内面磨き	P 41	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	赤 黒	普通	外面刷線→付点文	内面磨き	S.C.覆土	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石・赤粘土	にぶい黄褐	普通	外面 R.L.縄文→磨き	内面磨き	床面	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面隆起帯刷み→R.L.縄文→無文部磨き・磨き付	内面磨き	覆土下層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面好弧文 外・内面ナデ	内面磨き	覆土上層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤粘土	橙	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	
46	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面隆起帯沈線→刷み→無文部磨き	内面ナデ	S.C.覆土	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐	普通	外面 L.R.縄文	内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐	普通	外面 R.L.縄文→紐線磨き	内面磨き	S.C.覆土	



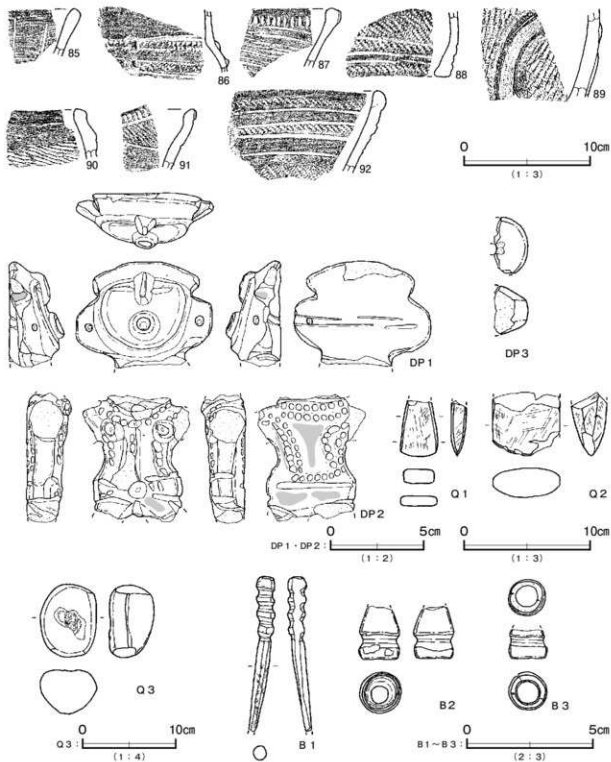
第 67 图 第 8 号窖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第68图 第8号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



第 69 图 第 8 号竖穴建物跡出土土遺物実測图 (3)



第70図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表(第67~70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・灰・粘質・粘質	明赤褐色	普通	外面糸織→刷入・縁織貼付 内面磨き	床面	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・褐色粘土	黒	普通	外面糸織→縁織貼付 内面磨き	床面	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい濃褐色	普通	外・内面ナデ	P 14	
52	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面RL, 縄文→沈積 内面ナデ	P 18	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	暗赤灰	普通	外面塗布帯沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 16		
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒	普通	外面塗布帯沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 26		
55	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	黒	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 26		
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面条線→紐線貼付	内面磨き	P 26		
57	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面口縁部・胴部に突起	内面赤彩	P 42 胴部に塚		
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 42		
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→RL・縄文	内面磨き	P 32		
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	灰	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 32	
61	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄緑	普通	外面輪貼付→沈線→LR・縄文	内面磨き	P 32		
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	にぶい黄緑	普通	外面波頂部に刻文	胴部 RL・縄文	内面磨き	P 36	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	赤	黒	普通	外面条線→紐線貼付	内面磨き	P 42	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→刷目・RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 36		
65	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰	黒	普通	外面沈線→刷目・RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 36	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐	灰	普通	外面条線	内面口縁部凹磨	磨き	P 36
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	黒	普通	外面条線→付点線文	内面ナデ	P 36	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	明赤褐	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 47		
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	にぶい赤褐	普通	外面隆帯部爪形	内面磨り	P 46		
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	雲母	にぶい黄緑	普通	外面沈線→羽状のRL・縄文	内面ナデ	P 46		
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	黒	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 46		
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄	橙	普通	外面口縁部磨き	胴部隆帯状工具の条線	内面ナデ	P 49
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面 RL・縄文→沈線	内面磨き	P 49		
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面 RL・縄文→沈線	内面磨き	P 48		
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面ナデ	内面磨き	P 48		
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	黒	普通	外面輪貼付→沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 48		
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面 RL・縄文→紐線貼付→条線	内面磨き	P 48		
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黄	灰	普通	外面ナデ	口唇部内面に細かき刷目	内面磨き	P 53・P 54
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	橙	普通	外面沈線→刷目・LR・縄文	内面ナデ	P 58・P 59		
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面条線	内面磨き	P 58・P 59		
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 58・P 59		
82	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	灰黄緑	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 58・P 59		
83	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面口縁部磨き	胴部磨り	内面磨き	P 64・P 65	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	外面地縄文→紐線貼付	内面磨き	P 64・P 65		
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面条線	内面磨き	P 61		
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤	黒	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	輪貼付	内面ナデ	P 61
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→刷目	内面磨き	P 61		
88	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・鉄粒子	黒	普通	外面沈線→刷目・RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 61		
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面 RL・縄文→隆帯貼付	内面磨き	P 68		
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面無筋L縄文	内面ナデ	P 68		
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→刷目・RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 68		
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆帯部沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 68		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 俵	(5.6)	(7.2)	2.9	(86.4)	長石・石英	灰白	山形 赤彩	8C 覆土	2a 期 PL39
DP 2	土 俵	(6.8)	(5.6)	2.4	(78.6)	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄緑	山形 背面赤彩	覆土上層	2a 期 PL39
DP 3	土 鉢	径 4.5	-	(3.8)	(42.4)	長石・雲母	赤	褐	ナデ整形	覆土中

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q 1	磨製石斧	(4.5)	2.9	1.1	(29.3)	緑色岩	小形定角式	全面研磨加工	覆土下層	
Q 2	磨製石斧	(5.0)	(5.3)	2.8	(91.6)	ドレナイト	定角式	刃部及味を磨びる	全面研磨加工	覆土中
Q 3	磨石類	7.6	5.8	4.6	299.8	安山岩	表面磨面磨	表面に凹痕	覆土下層	2a 期

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考	
B 1	骨	(6.2)	0.7	0.5	(21.1)	シカ中手骨	先端部欠損	表面磨面	P 61	
B 2	祭祀用品	径 1.6	孔径 1.2	(2.1)	(2.7)	鹿 角	外面磨き	赤彩	内面回転による穿孔	覆土下層
B 3	祭祀用品	径 1.5	孔径 1.3	(1.1)	(1.3)	鹿 角	外面磨き	内面回転による穿孔	P 60	

### 第9A・B号竪穴建物跡 (第71～75図 PL 5・7)

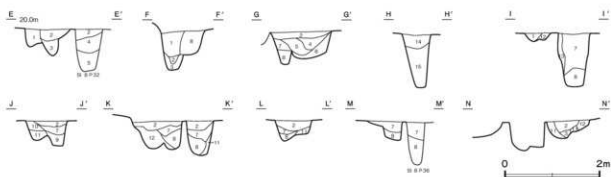
位置 調査A区西部のB 6j5区、標高20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の1～2層下で確認した。第1・2号土坑、第1号堀に掘り込まれている。第3・8・13号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況から新旧関係を捉えることができなかつた。各遺構の遺





第71図 第9号竪穴建物跡実測図(1)



第72図 第9号竪穴建物跡実測図(2)

存状況や出土土器から、第3・8・13号竪穴建物が本跡を掘り込んでいると推測される。

**規模と形状** 壁は確認できず、出入口ピットと壁柱穴から規模と形状を推定した。出入口ピットと推測できるピットが2か所確認できることから、建て替えの可能性がある。第9A号建物跡は、P 23・P 24を出入口部とし、P 1・P 2・P 4～P 7・P 12・P 13～P 15などを壁柱穴とする平面形が円形あるいは楕円形の建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径は66m、出入口ピットまでの南北径は63mで、出入口ピットから推定される主軸方向はN-14°-Eである。第9B号建物跡は、第9A号建物跡と壁柱穴を一部共有するもので、P 21・P 28～P 31を出入口ピットとし、P 9・P 10・P 11・P 16～P 20・P 34・P 47・P 48などを壁柱穴とする。平面形が円形あるいは楕円形の建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径は第9A号建物跡と同じで、出入口ピットまでの南北径は61mである。出入口ピットから推定される主軸方向は、第9A号建物跡とほぼ同様である。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 49か所。上述した壁柱穴のほか、第8号竪穴建物跡に帰属するとしてP 39・P 40・P 65や第3号竪穴建物跡に帰属するとしてP 4・P 19・P 20・P 22・P 24・P 44・P 47・P 48も本跡に伴う可能性がある。P 32・P 33・P 35～P 37が、位置と形状・深さから主柱穴の可能性がある。そのほか第3号建物跡のP 6・P 7・P 9や第8号建物跡のP 36なども、位置と形状・深さから本跡の主柱穴の可能性もある。壁柱穴の中にも非常に深さのあるものもあり、上屋を支える主柱穴的な役割を有するものも存在する可能性がある。

**ピット土層解説**

- |         |                          |         |                          |
|---------|--------------------------|---------|--------------------------|
| 1 黒 褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量           | 11 褐 色  | ローム粒子中量、骨粉少量             |
| 2 暗 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量 | 12 暗 褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量    |
| 3 暗 褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量        | 13 暗 褐色 | ローム粒子少量                  |
| 4 極暗褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量   | 14 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量    |
| 5 黒 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 | 15 黒 褐色 | ローム粒子中量、骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 黒 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子微量           | 16 暗 褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量           |
| 7 黒 褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量   | 17 暗 褐色 | ローム粒子中量                  |
| 8 黒 褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量     | 18 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量          |
| 9 暗 褐色  | 骨粉中量、ロームブロック・炭化粒子少量      | 19 暗 褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量        |
| 10 暗 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量           | 20 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量    |
|         |                          | 21 褐 色  | ローム粒子多量、炭化粒子微量           |

**ピット深度表**

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	13	75	19	53	51	56	44	36	52	53	84	130	16	97	10	130	59	11	62	55	71	40	43	53	89
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	
深さ	48	32	63	86	60	58	115	117	42	76	73	69	107	30	36	41	32	52	42	13	39	55	50	34	

**覆土** 床面に近い部分まで第2号遺物包含層として掘り下げたため、覆土の一部を確認したのみである。6層に分層できる。各層ともローム粒子やロームブロックがやや多く含まれている層が、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

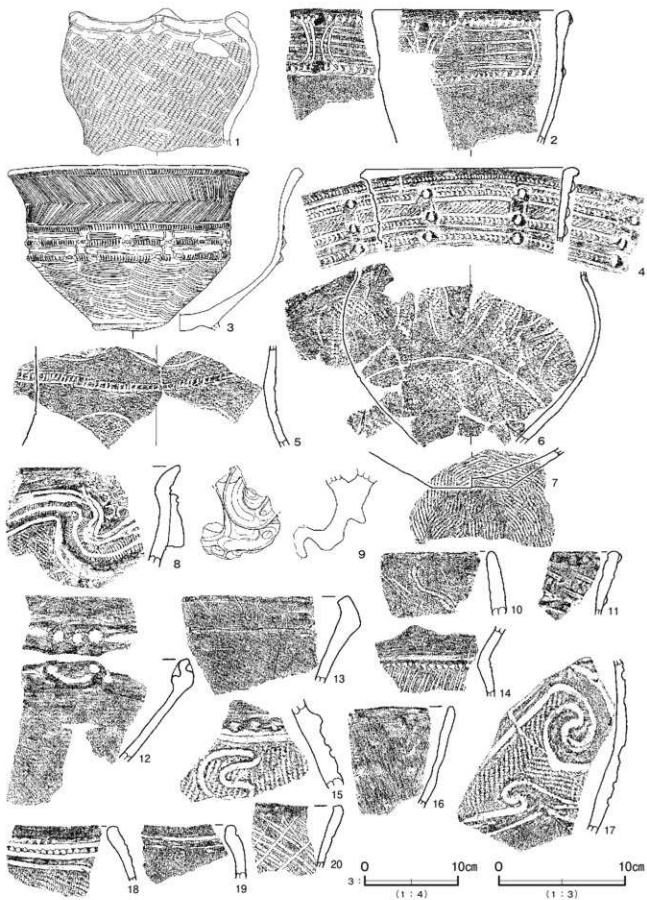
1	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	5	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
3	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 2,369点 (31.67kg)、土製品 1点 (貝輪状)、石器・石製品 12点 (打製石斧 1、石皿類 1、磨石類 6、石錘 1、砥石 1、浮子 1、玉類 1) のほか、石核 2点 (チャート)、剥片 11点 (黒曜石 5、チャート 2、頁岩 4) などが出土している。また覆土中やピット中から、獣骨片が 22.62g、オオタニシやマツカサガイ、ヤマトシジミなどの貝類が 4.63g 出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが見られるが、第2群 (中期後半) 12%、第3群 (後期初頭) 16%、第4群 (後期前葉) 26%、第5群 (後期中葉) 16%、第6群 (後期後葉) 18%、第7群 (後期後葉) 17%で、各時期の土器群がほぼ同率で確認できる。3はP 20の覆土上層から出土している。また早期後半の条痕文系土器群が 132点出土している。

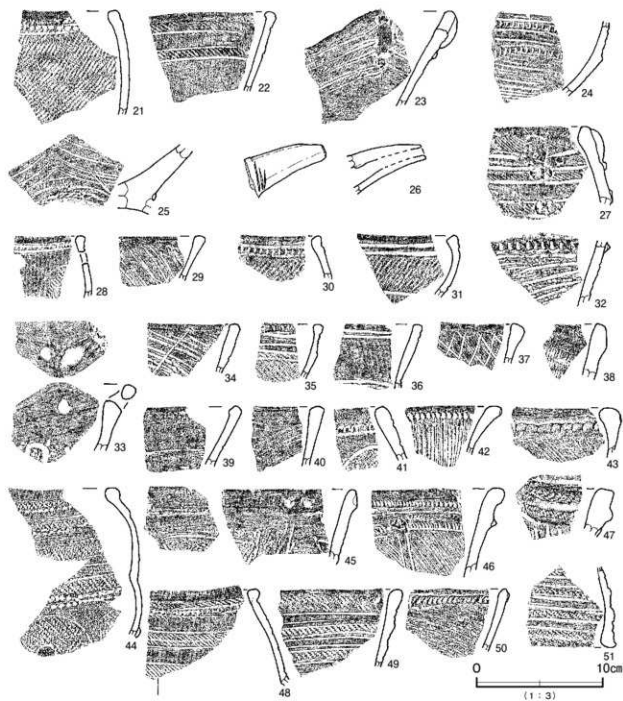
**所見** 時期は、出土土器から後期中葉から後期後葉の安行1式期と考えられる。また第3・4群の土器群が一定量確認できること、主柱穴の位置が不整で、壁柱穴構造の建物跡の可能性もあることなどから、本跡のA・Bいずれかが後期初頭から後期前葉となる可能性も考えられる。

**第9号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第73～75図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	129	(11.6)	-	長石・石英・粘り・粘り	にぶい褐色	普通	外面LR縄文 内面磨き	床面	40% PL27
2	縄文土器	深鉢	[158]	[155]	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→粘り→粘り付→層状の炭化文 内面磨き	覆土中	8・9層に準 2%
3	縄文土器	台付鉢	247	(17.5)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条痕→隆部上層 内面磨き	P 20	90% PL29
4	縄文土器	深鉢	171	(5.7)	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→粘り→粘り付 内面磨き	床面	30% PL28
5	縄文土器	深鉢	-	(8.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 11	10%
6	縄文土器	深鉢	-	(13.0)	-	長石・粘り・粘り	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	床面	20%
7	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	6.4	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	外面・底面LR縄文 内面粗い磨き	床面	20%
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面無胎土縄文充填 内面磨き	床面	-
9	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	把手 C字状胎付文 外・内面磨き	覆土下層	-
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面ナデ→粘り付胎付文 外・内面磨き	覆土中	-
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面条痕文→條痕胎付→沈澱文 内面口縁部2本の凹線文	床面	-
12	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面磨き 内面口縁部2本の凹線文	覆土中	-
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	床面	-
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐色	普通	外面何突文→条痕・沈澱→無文部磨き 内面磨き	覆土中	-
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面RL縄文→沈澱 内面磨き	覆土下層	-
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面割り→粗い磨き 内面粗い磨き	床面	-
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄褐色	普通	外面沈澱→LR縄文 内面磨き	覆土下層	-
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面沈澱→RL縄文 内面ナデ	覆土中	-
19	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	-
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面割子目文 内面磨き	覆土中	-
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→粘り・LR縄文 内面ナデ	覆土中	-
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	-
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面隆部凹線沈澱→LR縄文→無文部磨き 内面粗い磨き	覆土中	-
24	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈澱→粘り→条痕 内面磨き	覆土中	-
25	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面条痕 内面磨き	床面	-
26	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・粘り	灰黄褐色	普通	外面磨き	覆土中	-
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面何突文→条痕・沈澱→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	-
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・粘り・粘り	黒褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 2	-
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面条痕 内面ナデ	P 2	-
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐色	普通	外面沈澱→粘り・LR縄文 内面磨き	P 3	-
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 7	-
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面RL縄文→條痕胎付→粘り 内面磨き 口縁部凹線	P 7	-
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・粘り・粘り	浅黄褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 11	-
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面条痕 内面磨き	P 12	-
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈澱→口縁部粘り・RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 21	-
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外面無胎土 内面磨き	P 23	-



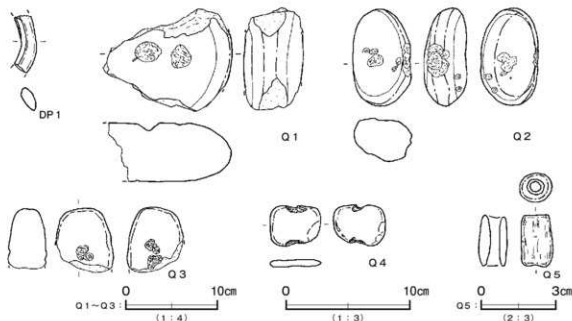
第73图 第9号竖穴建物跡出土遺物实测图(1)



第74図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第73～75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面格子目文 内面口縁部凹線	P. 23	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面磨碗状工具による刷み充填 内面磨き	P. 23	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面刷り 内面磨き	P. 33	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・角閃石	にぶい橙	普通	外面糸織 内面磨き	P. 33	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄褐色	普通	外面沈線→刷み→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P. 33	
42	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸織→刷み 内面磨き	P. 33	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸織→紐織貼付 内面磨き	P. 33	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P. 33	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	にぶい黄褐色	普通	外面LR縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	P. 35	
46	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・細砂	黒褐色	普通	外面沈線→糸織→刷み帯上刷み→刷り付 内面磨き	P. 35	



第75図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第9号竪穴建物跡出土遺物観察表(第73～75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	焼	普通 外面段帯上1段縄文 内面ナデ	P.29	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	焼	普通 外面段帯→刷み・丸縄文→無文部磨き 内面磨き	P.43	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	焼	灰	普通 外面段帯刷み沈着→丸縄文→無文部磨き 内面磨き	P.43	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	赤焼	普通 外面地縄文→条線→経綫貼付 内面磨き	P.43	
51	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	焼	普通 外面段帯刷み沈着→丸縄文→無文部磨き 内面ナデ	P.29	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	貝輪状	径100	-	1.8	1106	長石・石英	にぶい	橙 外・内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石皿類	110.8	13.6	6.2	1059.2	安山岩	表裏面磨板 裏面凹痕 裏面下部に黒色の付着物	覆土下層	2類
Q2	磨石類	10.3	6.1	4.5	36.1	輝石安山岩	表裏面磨板 表裏・側縁に凹痕	覆土中	2a類
Q3	磨石類	6.9	6.0	4.1	259.7	輝石安山岩	表裏面磨板 表裏面に凹痕	覆土中	2a類
Q4	石鉢	3.3	4.1	0.6	11.8	安山岩	短軸側に紐架け部	覆土中	3類
Q5	管玉	2.1	0.15-0.2	-	4.93	蛇紋岩	四面穿孔	覆土下層	円.46

### 第11号竪穴建物跡(第76～80図 PL7)

位置 調査区A区南西部のC 6e6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層のⅡ-1層を掘り込み、第21・22号土坑に掘り込まれている。第3号ピット群とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南部が調査区域外となるため、東西軸は4.88mで、南北軸は3.8mしか確認できなかった。隅丸長方形と推測され、南北軸方向はN-3°-Wである。壁は掘り込みの深さは9～26cmであるが、土層断面図で確認できる壁の高さは50～58cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦である。壁際を除き、踏み固められている。

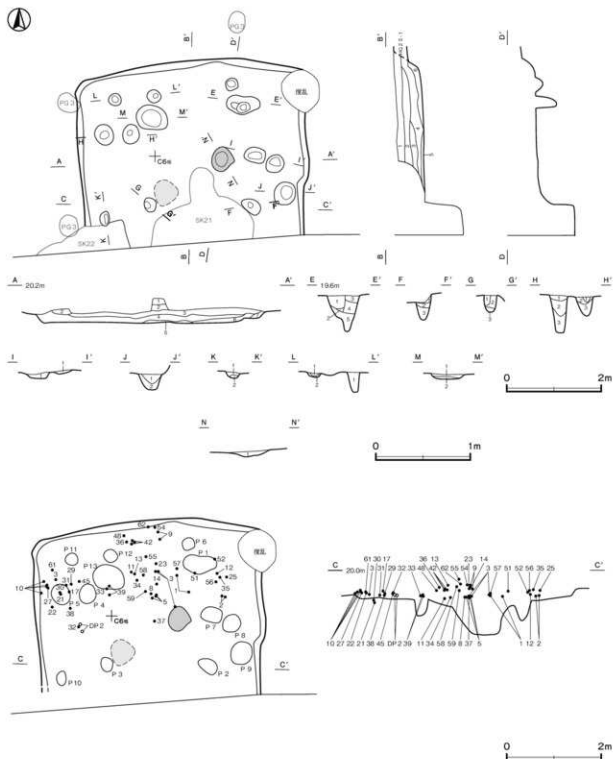
炉 中央やや東寄りに付設されている。長径50cm、短径45cmの楕円形で、深さが5cmの地床炉である。底面

は火熱のため、赤変硬化している。

伊土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット 13か所。P1～P5は、位置と深さから主柱穴と考えられる。それ以外は補助柱穴的な役割のものと考えられるが、配置は不整である。



第76図 第11号竪穴建物跡実測図(1)

**P1土層解説**

- 1 黒暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

**P2土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

**P3・P5・P12土層解説**

- 1 黒暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

**P4土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

**P7・P8土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**P9・P11・P13土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

**P10土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
深さ	78	56	33	41	81	16	14	8	33	15	12	43	13

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層が、レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

**土層解説**

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      | 5 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量       |                                |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量    | 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量           |
| 4 黒暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量         |

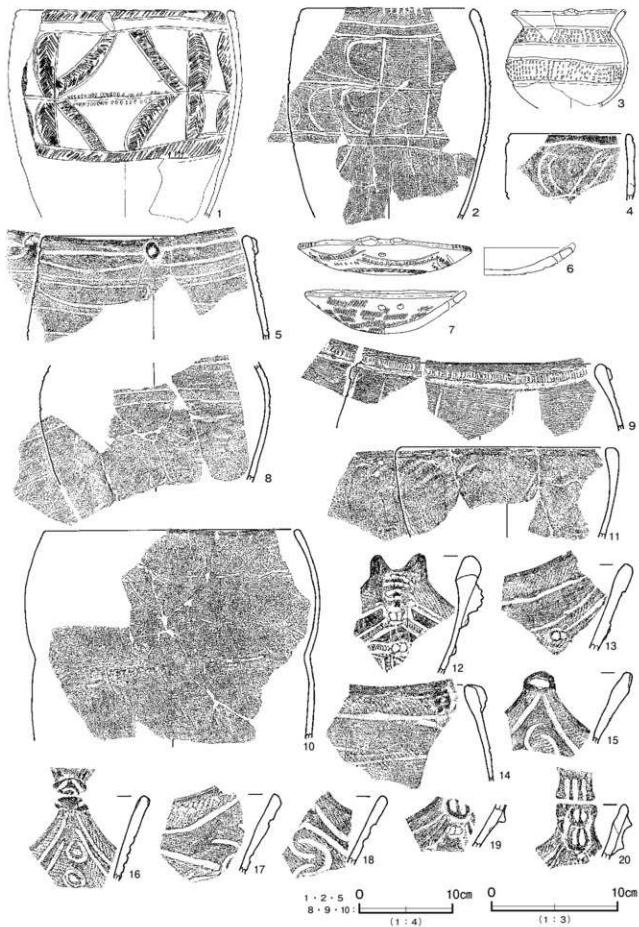
**遺物出土状況** 縄文土器片2360点(35.56kg)、土製品8点(土器片円盤2、耳飾り1、土偶3、土版2)、石器・石製品7点(磨製石斧2、石皿類2、砥石1、礫器1、石棒・石剣類1)のほか、石核3点(チャート)、剥片17点(チャート13、黒曜石3、瑪瑙1)などが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、後期後葉以前は少なく、主体となるのは第8群のうち晩期前葉の29%、晩期中葉の14%である。

**所見** 時期は、出土土器から晩期前葉の安行3b式期から晩期中葉の安行3c式期と考えられる。

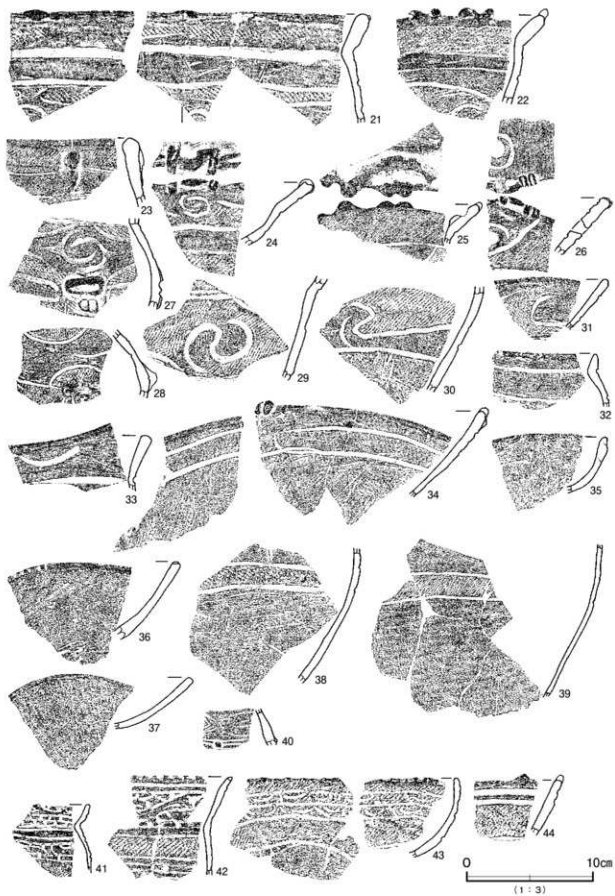
第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第77～80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[220]	(220)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→無彫文光面→磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土下層	30% PL27
2	縄文土器	深鉢	[176]	(219)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→無彫文光面→磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土下層	20% PL27
3	縄文土器	壺	84	(76)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部磨き 交組4単位 内面ナデ	覆土下層	40% PL30
4	縄文土器	深鉢	[96]	(52)	-	長石・石英・角閃石	黒	灰	普通 外面無文部磨き 副文線帯系 内面ナデ	覆土下層	10%
5	縄文土器	深鉢	[221]	(108)	-	珩・珩・粘石・粘石	黄	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	10% PL27
6	縄文土器	浅鉢	136	26	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→刺突文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	70% PL28
7	縄文土器	浅鉢	123	33	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文 内面磨き 補修孔2か所	覆土下層	98% PL28
8	縄文土器	深鉢	-	(126)	-	長石・石英・雲母・角閃石	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	20%
9	縄文土器	深鉢	[250]	(69)	-	珩・珩・粘石・粘石	黒	普通	外面条線→区画文内磨き 内面ナデ 口縁部磨き	覆土上層	10%
10	縄文土器	深鉢	[262]	(219)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	20%
11	縄文土器	深鉢	[178]	(72)	-	長石・石英	黒	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	10%
12	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	赤	赤灰	普通 外面段状帯輪沈線→無文部磨き 内面ナデ 区画文・帯輪付 内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	珩・珩・粘石・粘石	黒	普通	外面段状帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石・粘石	明	明	普通 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	珩・珩・粘石・粘石	暗赤灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	珩・珩・粘石・粘石	赤	赤	普通 外面段状帯輪沈線→LR縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	珩・珩・粘石・粘石	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	珩・珩・粘石・粘石	暗赤褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	

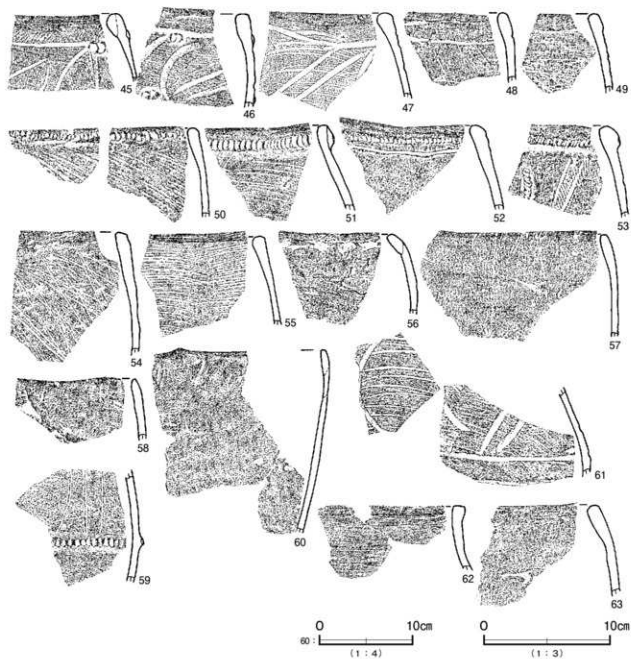




第77图 第11号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)



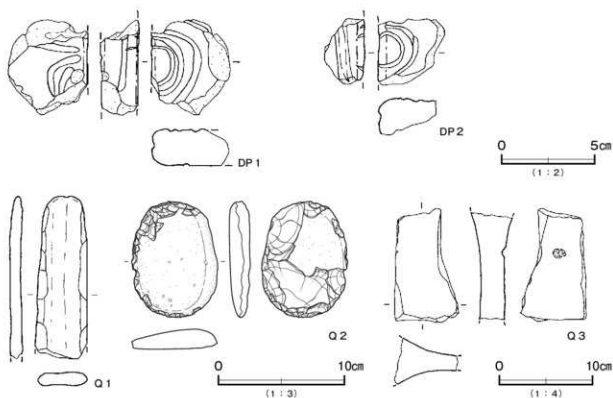
第78图 第11号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第79図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第77~80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
22	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面十字	覆土上層	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面十字	覆土下層	
28	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
29	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
32	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい赤褐色	普通	外面脚部細密沈線文 磨き 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	暗赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	



第80図 第11号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表(第77~80図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	暗褐色	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	じぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
36	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	灰褐色	普通	外面削り 内面ナデ	覆土下層	
37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	じぶい黄褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子・硝石	黒褐色	普通	外面沈澱→灰・縄文→無文部磨き 胴部ナデ 内面ナデ	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	じぶい赤褐色	普通	外面沈澱→硝石沈澱文・灰・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
40	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤鉄子・硝石	明黄褐色	普通	外面沈澱→LR・縄文 内面ナデ	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面胴部LR・縄文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面LR・縄文 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	じぶい黄褐色	普通	外面沈澱→LR・縄文 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	橙	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	じぶい黄褐色	普通	外面沈澱→胴部区画沈澱文→硝石貼付 内面ナデ	覆土中	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	灰褐色	普通	外面染線→胴部区画沈澱文 内面ナデ	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	じぶい黄褐色	普通	外面染線→沈澱 内面ナデ	覆土下層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子・硝石	じぶい黄褐色	普通	外面染線 内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子・硝石	じぶい黄褐色	普通	外面染線→硝石貼付 内面ナデ	覆土下層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面線紋貼付→染線 内面ナデ	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	点状線紋 外・内面ナデ	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	橙	普通	外面胴部区画沈澱文→LR・縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子・硝石	じぶい黄褐色	普通	外面染線 内面ナデ	覆土上層	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	じぶい黄褐色	普通	外面染線 内面ナデ	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子	明黄褐色	普通	外面磨光 内面削り	覆土上層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子	明赤褐色	普通	外面ナデ→硝石貼付→胴部区画文 内面ナデ	覆土上層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄子・硝石	じぶい黄褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	じぶい黄褐色	普通	外面染線→胴部区画文 内面ナデ	覆土下層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	黒褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ	P.1	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土版	(5.0)	(4.2)	2.0	(436)	長石・雲母	にぶい艶	弧線文 側面に沈線文	覆土上層	
DP 2	土版	(3.5)	(3.6)	(2.2)	(216)	長石・石英・赤色粒子	艶	弧線文 側面に沈線文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石・石彫	(129)	4.1	1.05	(106)	緑色片岩	石彫。表面研磨整形 両側縁潤滑加工	覆土下層	
Q 2	彫部	9.2	6.9	1.7	125.8	安山岩	スクレイパー状	覆土下層	接熱
Q 3	石彫盤	(11.8)	(6.1)	4.9	(28.0)	スワリア製安山岩	表面磨蝕 裏面に凹痕	覆土下層	2型

## 第12A・B号竪穴建物跡（第81～85図 PL5）

位置 調査A区西部のC 6c6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第2～4号溝に掘り込まれている。本跡の範囲内に第7・32号竪穴建物跡、第18・19号土坑、第3号ピット群が位置しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 第8号竪穴建物跡の南部でピットが群在し、出入口ピットに相当するものが確認できたことから竪穴建物跡を想定したが、壁は確認できず、明確な平面形を捉えることができなかった。ピットの形状や深さ、配置等から、少なくとも2棟以上の建物跡が想定できる。第12A号建物跡はP7～P10を出入口ピットとし、西側で南北の列状に配置されているピットを壁柱穴とすると、南北約8m、東西6.5mの長方形で、南北軸方向はN-31°-Eである。第12B号建物跡は、P38～P41とP42・P43・P50がハの字状に開く出入口ピットで、径6mほどの円形の建物跡と推定できる。炬燵は確認できなかったものの、出入口ピットから推定される主軸方向はN-35°-Eである。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 80か所。第12A号建物跡は、P1～P6・P11～P31、及び第32号建物跡の帰属としたP17～P20が、大きさ・深さも不揃いであるが、壁柱穴と考えられる。主柱穴は位置や深さからP32・P39・P46～P48などが想定できるが、大きさ・深さもやや不揃いである。第12B号建物跡は、P25～P31・P37・P44・P45・P61・P64～P67・P72～P76と、第32号建物跡に帰属するP4～P7・P12・P16などが壁柱穴と想定でき、いくつかの重複が考えられるが、大きさ・深さも不揃いで、明確な配置を想定できない。主柱穴と想定されるピットも判断できなかった。

### P1～P3・P7～P12・P35・P37・P39～P45・P51～P55・P64・P65・P67・P71土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、骨粉微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量
- 10 黒褐色 ロームアロック・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子中量
- 12 暗褐色 ローム粒子少量
- 13 黒褐色 ロームアロック少量、炭化粒子微量
- 14 暗褐色 ローム粒子中量
- 15 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 16 褐色 ローム粒子中量
- 17 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 18 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

### P14土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

### P17土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

### P23土層解説

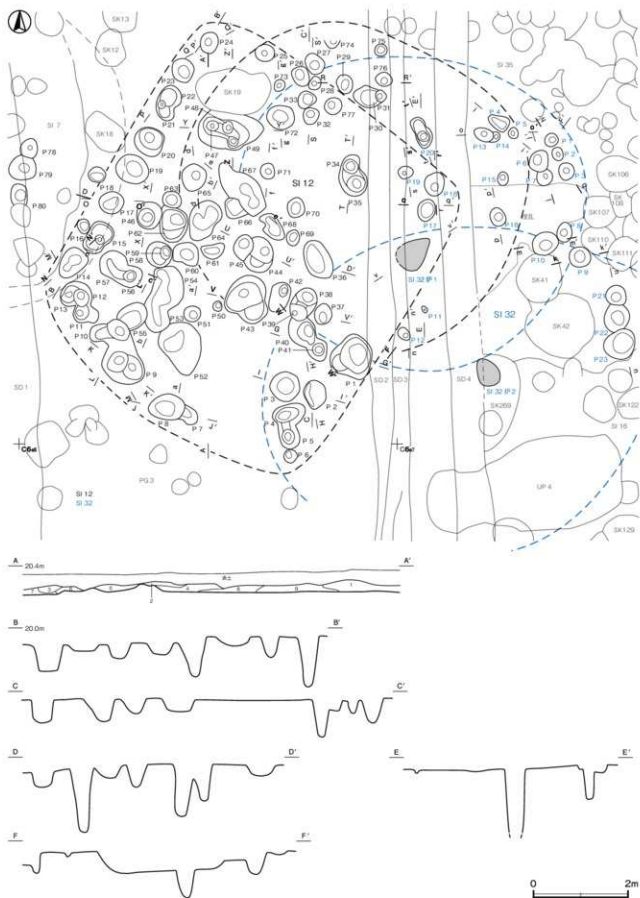
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量

### P24土層解説

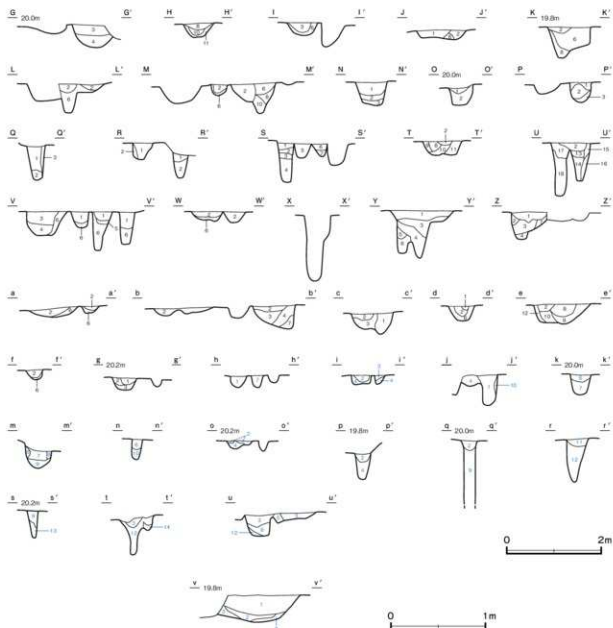
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

### P29土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量



第 81 图 第 12·32 号竖穴建物跡实测图(1)



第 82 図 第 12・32号竪穴建物跡実測図(2)

## P 28・P 32・P 33 土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

## P 47～P 49 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 黒暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量

## P 56・P 57 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

## P 72 土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

## P 76 土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	45	49	25	49	32	18	15	20	64	66	42	81	55	50	46	20	35	15	30	83	21	44	43	105	31
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	48	45	43	34	39	42	88	46	26	28	27	65	30	74	44	20	60	46	75	108	138	87	96	58	42
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	14	35	17	18	44	48	35	18	27	23	43	26	26	46	29	13	40	12	12	12	20	26	18	-	16
番号	76	77	78	79	80																				
深さ	48	26	30	30	28																				

**覆土** 9層に分層できる。ロームブロックが含まれている黒褐色土がブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                       |       |                  |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量             | 6 黒褐色 | ローム粒子少量          |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量             | 8 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子多量          |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量        |       |                  |

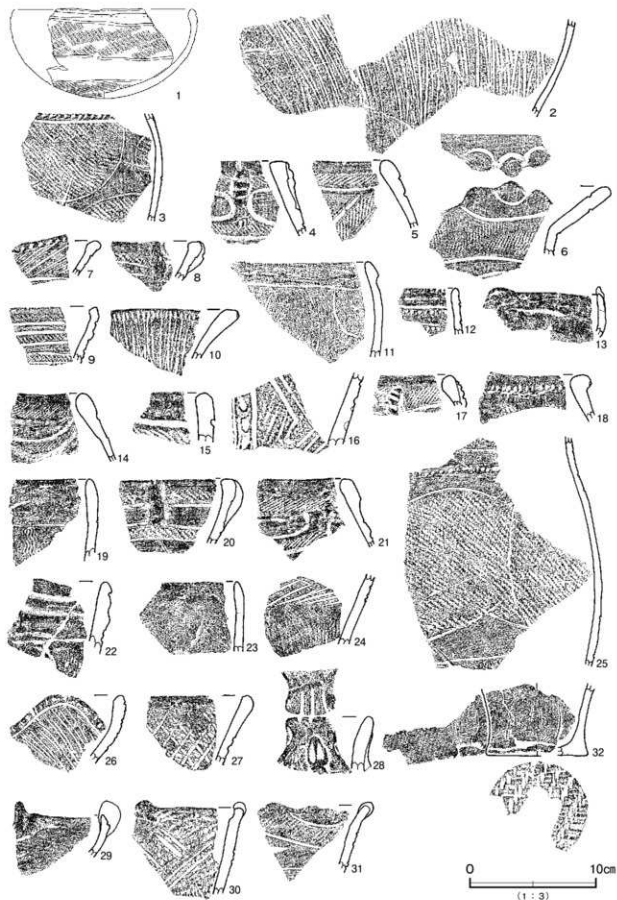
**遺物出土状況** 縄文土器片 1,398点 (1960kg)、土製品 4点 (土器片 1、土器片円盤 2、土偶 1)、石器・石製品 12点 (磨製石斧 2、石皿類 1、磨石類 3、石錘 1、礫器 2、石棒・石剣類 3)のほか、焼成粘土塊 1点、石核 5点 (チャート)、剥片 10点 (チャート 7、黒曜石 3)などが出土している。また覆土中やビット内から獣骨片が 29.68g 出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第 4 群 (後期前葉) 17%、第 5 群 (後期中葉) 33%、第 6・7 群 (後期後葉) 25%である。覆土がほとんど確認できなかったことから、遺物のほとんどはビット内からの出土である。ビット内には複数時期の遺物が混在しているが、P 5・P 21・P 22・P 25・P 27・P 58・P 61・P 65・P 67・P 70・P 76からは後期中葉以前の土器群しか出土していないことが確認できる。

**所見** 時期は、出土土器や遺物の形状から、第 12 A号建物跡が後期後葉、第 12 B号建物跡が後期前葉から中葉と考えられる。第 12 A号建物跡は、東側半分の壁柱穴列がはっきりせず、また西側半分の壁柱穴も深さ・大きさとも不揃いで、当期の建物跡とするにはやや躊躇する部分もある。また P 52～P 57 など、出入口ビットに類似する形状のビットが他にも存在すること、本跡の中央付近に群集する P 58～P 71 も、弧状に巡るようにも捉えられることから、さらにいくつかの建物跡が重複していることが考えられる。

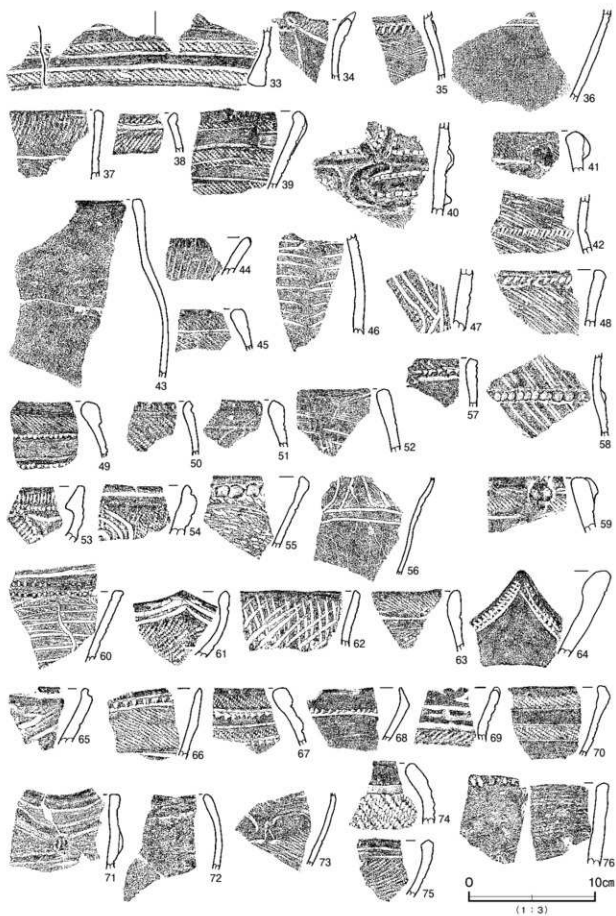
第 12 号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 83～85 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	縄文土器	浅鉢	[140]	71	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	10%	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面糸線	内面ナデ	床面		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	床面		
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面段帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	P 1	土器片円盤。	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	P 1		
6	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	P 1		
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面糸線	内面ナデ	P 2		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 2		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 2		
10	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面糸線→口唇部削み	内面磨き	P 2		
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 1	外面に窪	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部に削み	外面削文	外・内面ナデ	P 1	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ		P 1		
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→無筋L縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 7		
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面 RL 縄文	内面磨き	P 9		
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面 RL 縄文→沈線	内面ナデ	P 9		
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	P 9		
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→沈線文→区画段筋L縄文	内面ナデ	P 9		
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段帯筋沈線→磨面状工具の痕跡	内面磨き	P 8		

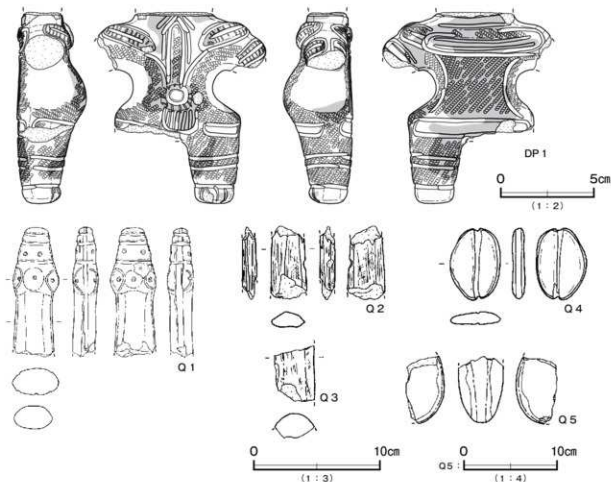




第 83 图 第 12 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第84图 第12号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 85 図 第 12 号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 83 ~ 85 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 灰	普通	外面段帯輪沈線→R.L.縄文→無文磨き	内面磨き	P. 8	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面段帯輪沈線→L.R.縄文→無文磨き	内面磨き	P. 8	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ		P. 21・P. 22	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面内ナデ		P. 27	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外周に沈線文→外面割下平縁位の磨き	内面磨き	P. 27	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒 灰	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文磨き	内面磨き	P. 23	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面斜線文→内面磨き		P. 33	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線文→筋子目文	内面磨き	P. 33	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面L.R.縄文	内面ナデ	P. 33	
29	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面磨き		P. 31・P. 44	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面L.R.縄文→手載竹管文	内面ナデ	P. 31・P. 44	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文磨き	内面磨き	P. 31・P. 44	
32	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	(4.0)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面磨き	底部削代	P. 31・P. 44 5%	
33	縄文土器	台付鉢	-	(4.7)	(17.6)	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面段帯輪沈線→R.L.縄文→無文磨き	内面ナデ	P. 32・P. 33 5%	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文磨き	内面ナデ	P. 32・P. 33	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線→紐脚貼付	内面磨き	P. 36	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面L.R.縄文→沈線	内面磨き	P. 36	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文磨き	内面ナデ	P. 35	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面ナデ	P. 35	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文磨き	内面磨き	P. 35	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面段帯輪沈線内押文	内面磨き	P. 38・P. 39	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文磨き	内面ナデ	P. 38・P. 39	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点文	内面磨き	P. 38・P. 39	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ	内面口縁部磨き	胴部ナデ	P. 37
44	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線	内面ナデ	P. 37	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→横位沈線→R.L.縄文	内面ナデ	P. 37	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面ナデ→条線	内面ナデ	P. 37	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	外面LR縄文→沈瀬	内面磨き	P 41	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面条線→縦線胎付	内面磨き	P 41	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒灰	普通	外面段帯胎付	LR縄文・無文磨き	内面ナデ	P 40
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈瀬→LR縄文	内面磨き	P 42	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい青褐色	普通	外・内面磨滅	縦文帯系	P 42	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面条線	内面ナデ	P 42	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面爪形文	内面磨き	P 43	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文→沈瀬	内面ナデ	P 43	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文→竹管状口上による斜線文	内面ナデ	口縁部磨滅	P 43
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	外面沈瀬→縦線胎付	LR縄文	内面ナデ	P 43
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい青褐色	普通	外面沈瀬→LR縄文・筋文	内面ナデ	P 50	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	灰褐色	普通	外面条線→縦線胎付	内面磨き	P 50	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい青褐色	普通	外面段帯胎付	LR縄文・無文磨き	内面ナデ	P 46・P 51
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	外面横位沈瀬文→蛇行沈瀬文	内面磨き	P 52	
61	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈瀬→LR縄文	内面磨き	P 52	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面斜線文	内面ナデ	P 52	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・縞織	橙	普通	外面沈瀬→LR縄文	内面ナデ	P 53・P 54	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい青褐色	普通	外面沈瀬→筋文・磨き	内面磨き	P 53・P 54	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	外面LR縄文→沈瀬→無文磨き	内面磨き	P 55	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈瀬→口縁部筋文→LR縄文・無文磨き	内面磨き	P 55	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒	普通	外面段帯胎付	LR縄文・無文磨き	内面磨き	P 55
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外・内面磨き		P 56・P 57	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	黒褐色	普通	外面無筋LR縄文→無文磨き	内面磨き	P 63	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面段帯胎付	LR縄文・無文磨き	内面磨き	P 71
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	外面段帯胎付	LR縄文・無文磨き	内面ナデ	P 64
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・縞織	にぶい青褐色	普通	外面段帯胎付	内面ナデ	P 64	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	外面沈瀬→無筋LR縄文	内面ナデ	P 64	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい青褐色	普通	外面LR縄文→沈瀬→口縁部磨き	内面磨き	P 72	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい青褐色	普通	外面沈瀬→LR縄文	内面磨き	P 78	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	外・内面条線文	口唇部筋目	P 74	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP 1	土鍋	(10.1)	(8.9)	3.7	(215.8)	長石・雲母	黒褐色	ミミズク 隆帯上割み	LR縄文→沈瀬	赤彩	P 29 定類 PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石・土器	(10.2)	(3.8)	2.2	(116.0)	千枚岩	石割 胴部 表裏面研磨整形	P 1	PL45
Q 2	石・土器	(5.8)	(2.9)	1.2	(27.3)	粘板岩	石割 表裏面研磨整形		覆土中
Q 3	石・土器	(4.5)	(3.2)	(1.9)	(33.9)	粘板岩	石割 表裏面研磨整形		P 33
Q 4	石 鉢	5.6	3.9	1.05	31.3	頁岩	長軸方向の有溝		P 1 2類
Q 5	磨石	(7.0)	(4.0)	(4.7)	(153.8)	輝石山岩	表裏面磨滅	下縁部に斜行痕	P 55 2a類

### 第32 A・B号竪穴建物跡 (第81・82・86図)

位置 調査A区西部のC 6c7区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2～4号溝、第4号地下式坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第12・16・35号竪穴建物跡、第41・42・107・110・111・269号土坑が位置しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 第35号竪穴建物跡の南部で、炬跡とピットが弧状に巡っている部分が確認できたことから竪穴建物跡を想定したが、壁や出入口ピットを捉えることはできなかった。第32 A号建物跡は、炬跡とその周囲をめぐるピット群から、径7m前後の円形の建物跡が想定できる。また本跡南側の焼土跡と、その周囲をめぐるように位置している本跡のP 9・P 10・P 21～P 23や第12号建物跡のP 2～P 6・P 38～P 41、第3号ピット群のP 8などから別の建物跡も想定でき、これを第32 B号建物跡とする。径7m前後の円形で、出入口ピットは確認できなかった。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 炉1は第32 A号建物跡の中央やや南寄りに位置し、長径75cm、短径56cmの不整形円形で、29cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は第32 B号建物跡の中央に位置し、長径65cm、短径45cmの楕円形で、5～10

cmほど浅く掘りくぼめた地床層である。

#### 炉1土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量 3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 極暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 23か所。P1～P3・P5～P8・P10・P12などが、位置と形状から第32A号建物跡の壁柱穴となる可能性がある。また第12号建物跡の帰属としたP33・P70・P71なども、位置と形状から本跡に帰属する可能性がある。

#### ピット土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 8 暗褐色 ローム粒子中量  
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 9 黒褐色 ローム粒子少量  
3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 10 暗褐色 ローム粒子少量  
4 褐色 ローム粒子中量 11 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
5 褐色 ローム粒子多量 12 暗褐色 ローム粒子少量  
6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量 13 暗褐色 ローム粒子中量  
7 黒暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 14 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

#### ピット深度表

(cm)

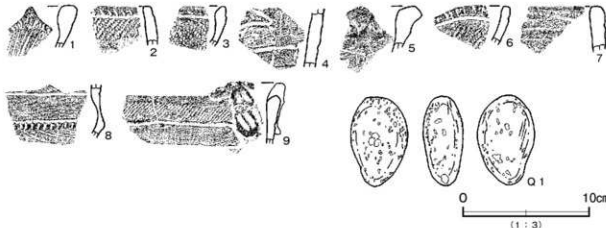
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
深さ	28	24	35	22	22	68	25	123	47	61	12	81	21	11	22	119	107	109	71	99	15	21	52

遺物出土状況 縄文土器片 205点 (214kg)、石器1点 (軽石製品)のほか、発泡体1点などが出土している。覆土がほとんど確認できなかったことから、遺物の多くはピット内からの出土である。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第4群 (後期前葉) 22%、第5群 (後期中葉) 30%である。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、後期前葉から中葉と考えられる。

#### 第32号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面染織→口縁部削み 内面磨き	P 9	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈織→L.R.縄文・削み 内面ナデ	P 9	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面R.L.縄文 内面磨き	P 9	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面磨面状工具による刺突文 内面磨き	P 12	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	P 19	内面保付着
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈織→L.R.縄文・削み 内面ナデ	P 21	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨面 内面磨き	P 21	
8	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈織→染織→削み・磨き 内面磨き	P 22	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈織→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 22・P 23	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q1	軽石製品	7.1	4.6	3.1	31.7	軽石	表面に敲打痕			P 20	



第86図 第32号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第13号竪穴建物跡 (第87～92図 PL 5・7)

位置 調査A区西部のB6J6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層のI-2・I-3層下で確認した。第8号竪穴建物、第1・2・6・8号土坑、第1号地下式坑、第2～4号溝に掘り込まれている。第9号竪穴建物跡、第33・39・143号土坑とも重複しているが、堆積状況から新旧関係を捉えることができなかった。各遺構の遺存状況や出土遺物から、本跡が第9号竪穴建物跡及び第33号土坑を掘り込んでいると推定される。

規模と形状 壁は確認できず、出入口ピットと壁柱穴から規模と形状を推定した。P 45～P 48を出入口ピットとし、P 1～P 44などを壁柱穴とする円形あるいは隅丸方形の建物跡で、壁柱穴間の規模は東西径7.6m、出入口ピットまでの南北径は7.5mで、出入口ピットから推定される主軸方向はN-17°-Eである。壁柱穴が2列並列する部分があること、また第8号竪穴建物跡に帰属するとしてP 44・P 45・P 65を、形状から出入口ピットと考え、軸方向をやや違えて建て替えている可能性がある。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 77か所。先述した壁柱穴のほか、第3号竪穴建物跡に帰属するとしてP 22、第9号竪穴建物跡に帰属するとしてP 13～P 18、第8号竪穴建物跡に帰属するとしてP 36・P 57などが本跡に伴う可能性がある。P 49～P 57・P 77が、位置と形状・深さから主柱穴の可能性がある。壁柱穴の中にも深さのあるものもあり、上屋を支える主柱穴的な役割を有するものも存在する可能性がある。本跡の帰属としてP 26・P 63・P 64は本跡の覆土及び第2号遺物包含層のI-2層を掘り込んでおり、本跡とは別遺構である。

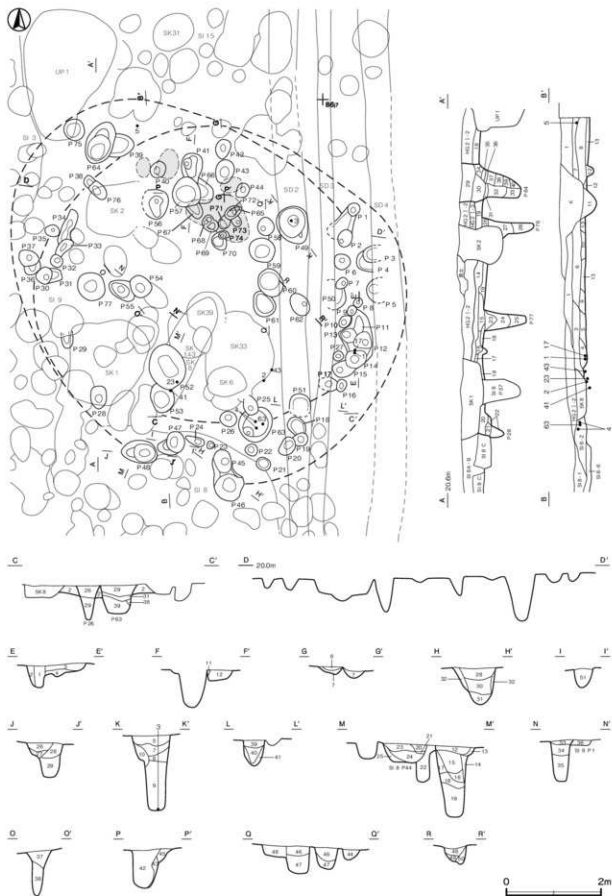
#### ピット土層解説

1	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	27	暗褐色	ロームブロック少量、骨粉微量
2	褐色	ローム粒子多量	28	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
3	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	29	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	30	黒褐色	貝片・骨粉中量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	31	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量
6	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉微量	32	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量
7	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	33	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
8	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	34	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量
9	極暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	35	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
10	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量	36	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	37	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	38	極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
13	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	39	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
14	褐色	ローム粒子多量	40	黒褐色	ローム粒子少量、骨粉微量
15	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	41	暗褐色	ローム粒子中量、骨粉微量
16	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量	42	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
17	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	43	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子・骨粉微量
18	極暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量	44	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
19	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	45	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
20	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量	46	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子・骨粉微量
21	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	47	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
22	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	48	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
23	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	49	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
24	黒褐色	貝片中量、ロームブロック・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	50	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量(48より暗)
25	暗褐色	ローム粒子・貝片中量、炭化粒子少量			
26	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量			

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
深さ	93	11	35	50	23	56	39	24	70	76	13	40	26	49	33	10	84	4	13	8	9	11	13	-	57	
番号	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
深さ	-	75	14	24	76	48	14	15	10	17	22	99	16	12	25	17	15	71	162	76	84	73	98	87	54	156
番号	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	
深さ	82	87	96	73	78	24	47	60	25	52	39	76	5	53	84	26	48	21	-	39	11	-	55	54	103	



第 87 图 第 13 号竖穴建物跡実測図

**覆土** 19層に分層できる。第7層は、焼土粒子がやや多く含まれている黒褐色土で、北部壁際を中心に堆積しており、埋没過程で焼土が廃棄されたものと考えられる。第13層は掘り込み底面で確認できた褐色土であるが、この面からいくつかのピットが掘り込まれている様子が確認できることから、本跡の本来の床面はこの第13層上であった可能性が高い。第20～40層はP 26・P 28・P 63・P 64・P 76・P 77の覆土である。

**土層解説**

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	21 黒褐色	ローム粒子少量 (P28 覆土)
2 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	22 暗褐色	ローム粒子中量 (P28 覆土)
3 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	23 暗褐色	ローム粒子中量 (P77 覆土)
4 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	24 黒褐色	ローム粒子少量 (P77 覆土)
5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	25 暗褐色	ローム粒子中量 (P77 覆土)
6 黒褐色	ローム粒子微量	26 暗褐色	ローム粒子少量 (P26・P76 覆土)
7 黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	27 暗褐色	ローム粒子中量 (P76 覆土)
8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	28 暗褐色	ローム粒子多量 (P76 覆土)
9 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	29 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量 (P26・P63・P64 覆土)
10 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	30 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量 (P64 覆土)
11 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	31 黒褐色	ロームブロック少量 (P63・P64 覆土)
12 褐色	ローム粒子少量	32 黒褐色	ロームブロック微量 (P64 覆土)
13 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量 (9より締まり強)	33 黒褐色	ロームブロック少量 (P64 覆土)
14 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	34 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量 (P64 覆土)
15 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	35 黒褐色	ロームブロック中量 (P64 覆土)
16 暗褐色	ローム粒子中量	36 暗褐色	ロームブロック多量 (P64 覆土)
17 黒褐色	ローム粒子中量	37 黒褐色	ロームブロック中量 (P64 覆土)
18 暗褐色	ローム粒子多量	38 暗褐色	ロームブロック中量 (P63・P64 覆土)
19 暗褐色	ローム粒子中量	39 黒褐色	ロームブロック中量 (P63・P64 覆土)
20 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量 (P28 覆土)	40 暗褐色	ロームブロック中量 (P64 覆土)

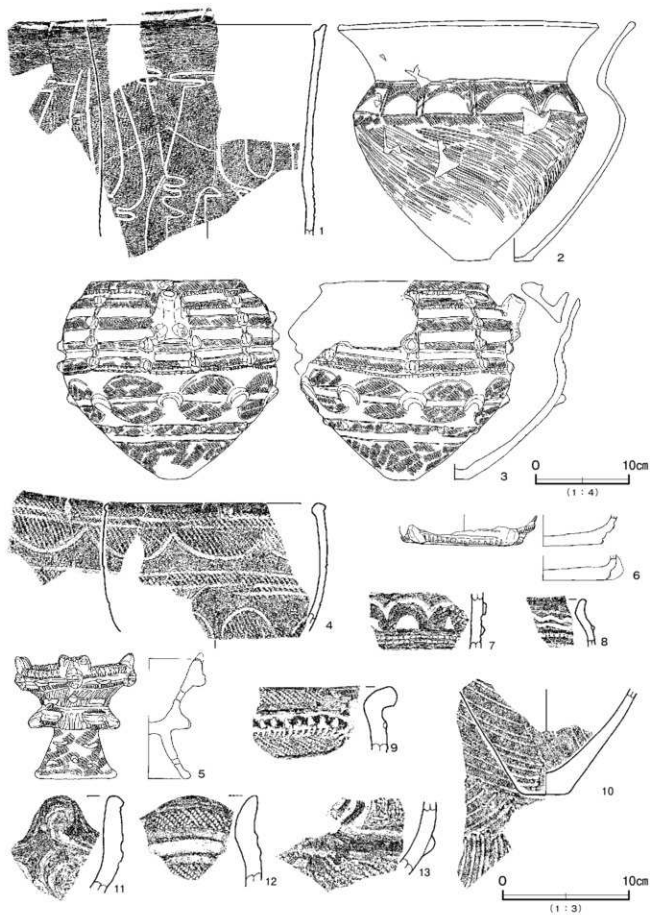
**遺物出土状況** 縄文土器片 6,076点 (87.33kg)、土製品 12点 (土錘1, 土器片円盤6, 耳飾り2, 土偶1, 貝輪状1, 土玉1)、石器・石製品 26点 (石鎌1, 磨製石斧1, 石皿類1, 磨石類15, 砥石4, 礫器3, 石棒・石剣類1)のほか、焼成粘土塊2点、発泡体1点、石核4点 (チャート3, 黒曜石1)、剥片25点 (黒曜石13, チャート12)などが出土している。また覆土中やピット内から、獣骨片・鹿角片42.26gが出土している。土器は中期前半から晩期前葉のものが見られるが、主体となるのは第3群 (後期初頭) 16%、第4群 (後期前葉) 21%、第5群 (後期中葉) 21%、第7群 (後期後葉) 24%などである。3はP 49底面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器や形状から後期後葉の曾谷式から安行2式期と考えられる。なお、本跡の北東部にも出入口部と考えられるピットがある。本跡に伴うものとした場合、出入口部が北側になり、当遺跡では該当例が少ないことから、第15号堅穴建物跡に帰属するものと考えたが、位置的に本跡に伴う可能性もある。

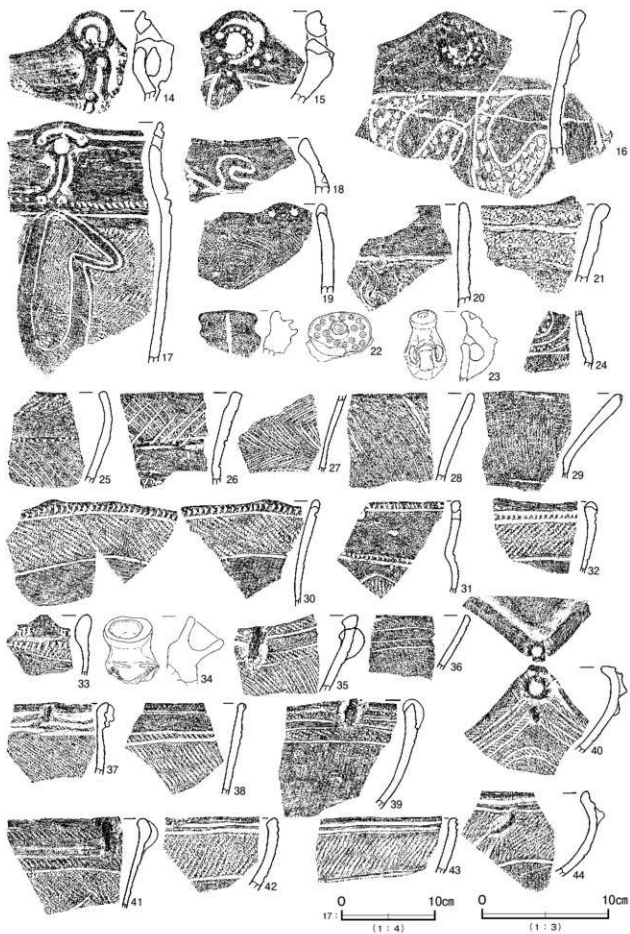
第13号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第88～92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	24.7	21.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面LR縄文→沈線・口縁部磨き 内面磨き	床面	29%
2	縄文土器	深鉢	27.0	25.5	3.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→沈縄文・無文磨き 胴部縁部磨き 内面磨き	床面	80% PL29
3	縄文土器	出口	16.0	21.0	2.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	外面縁部輪沈線→LR縄文・無文磨き 内面ナデ	P 49	80% PL29
4	縄文土器	深鉢	116.6	110.0	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	外面沈線→LR縄文・無文ナデ	覆土ナデ	29%
5	縄文土器	裏形付付	9.0	10.0	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	外面縁部上割み 脚部LR縄文 内面ナデ	覆土上層	96% PL30
6	縄文土器	内流	-	12.6	9.4	長石・石英	灰黄緑	普通	外面磨貼付→磨部輪沈線→割み磨き 内面磨き	覆土上層	30%
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面2列の角押文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄橙	普通	外面有筋沈線 内面ナデ	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土中	10%
10	縄文土器	深鉢	-	8.3	2.9	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線 底部本葉部→ナデ 内面ナデ	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外・内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面LR縄文→磨部縁部磨貼付 内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面LR縄文 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	把手部 C字状貼付文 内面ナデ	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	C字状貼付文 外・内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面何文文充筋 無文磨き 内面磨き	覆土中	PL37
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 緑	普通	外面磨貼付・上割みLR縄文 下割みLR縄文→沈線磨き 内面磨き	床面	PL37

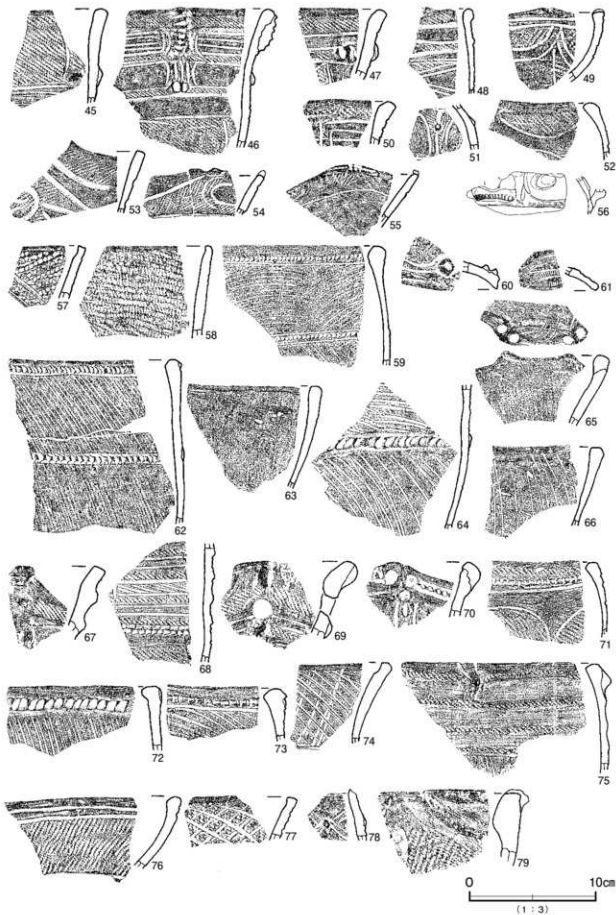




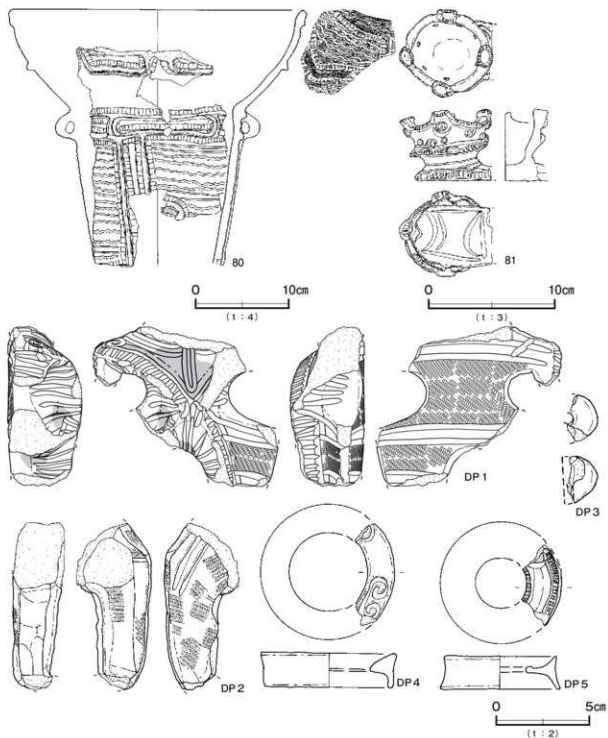
第88图 第13号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 89 图 第 13 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



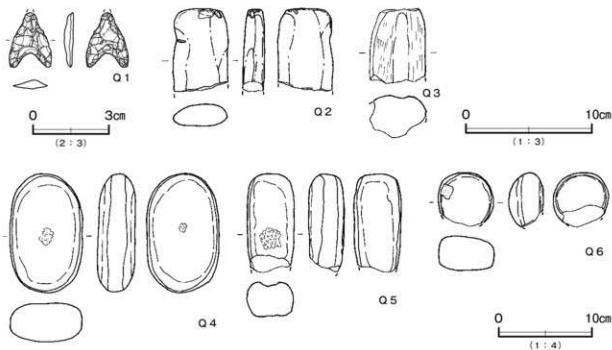
第90图 第13号竖穴建物跡出土遺物実測图(3)



第91図 第13号堅穴建物跡出土遺物実測図(4)

第13号堅穴建物跡出土遺物観察表(第88～92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	口縁部外面に丁字文 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・石・粘り土・灰	橙	普通	外面磨歯状工具の蛇行文 内面ナゲ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶ・黄褐色	普通	外面口縁部磨き 胴部の管状工具によるコンパシ文 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・石・粘り土・灰	褐色	普通	外面口縁部RL縄文 内面磨き	覆土中	
22	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	突起部 外面管状文 内面磨き	覆土下層	



第92図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

第13号竪穴建物跡出土遺物観察表(第88~92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
23	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	にぶい黄	普通	把手部 外面磨き 内面ナデ	床面	
24	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	浅黄	普通	外面LR 縄文→刺突文 内面ナデ	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黒	普通	外面口縁部LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面沈線→格子目文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黄緑	にぶい黄黒	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	暗赤黒	普通	外面条線 内面磨き	覆土下層	
29	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄黒	普通	外面条線→口唇部斜み 無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
33	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	灰黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆帯上割み 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	外面磨貼付→沈線→RL 縄文→無文部磨き・条線 内面磨き	覆土中層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 口縁部斜み 内面磨き	覆土下層	
39	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐	普通	外面隆帯磨貼付→沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面磨貼付→淡赤面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	床面	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面隆帯沈線→RL 縄文→磨貼付・気腫文 内面磨き	覆土下層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面隆帯磨貼付→RL 縄文→区画内磨き 内面ナデ	覆土中層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→磨貼付→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き 外・内面赤黒	覆土上層	
50	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
51	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
54	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
35	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→磨貼付沈線文光沢→磨き 内面磨き	覆土上層	
56	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面LR縄文→沈隆 内面ナデ	覆土上層		
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土下層		
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面糸線→付点線文 内面ナデ	覆土上層		
60	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面LR縄文。内面磨き	覆土上層		
61	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面隆起上唇み 内面ナデ	覆土下層		
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	外面糸線→付点線文 内面ナデ	覆土下層		
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土上層		
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面糸線→縦線貼付 内面ナデ	覆土下層		
65	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	暗赤灰	普通	外・内面磨き	P 11～P 13		
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面磨り→糸線 内面磨き	P 11～P 13		
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起上LR縄文 内面磨き	P 7		
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面糸線→縦線貼付→LR縄文→無文磨き 内面磨き	P 20		
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	灰	普通	外面隆起帯沈隆→LR縄文→無文磨き 内面磨き	P 41	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	灰黄緑	普通	上縁部外面に竇文連結沈隆文 内面磨き	P 48		
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒	普通	外面沈隆→斜み→LR縄文→無文磨き 内面磨き	P 48		
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面糸線→付点線文 内面磨き	P 41		
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨き→付点線文 内面ナデ	P 41		
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面磨き→付点線文 内面磨き	P 47		
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒	普通	外面隆起帯沈隆→LR縄文→無文磨き 割部糸線 内面磨き	P 51		
76	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	褐	灰	普通	外面沈隆→LR縄文→磨き 内面磨き	P 49	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面LR縄文→格子目文 内面磨き	P 49		
78	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈隆→斜み 内面ナデ	P 57		
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい青	普通	外面LR縄文→隆起帯磨ナゾリ 内面磨き	覆土中		
80	縄文土器	深鉢	[306]	[267]	-	長石・石英・角閃石	にぶい青	普通	外面隆起帯上唇み 内面磨き	覆土中	20%	
81	縄文土器	手筒	-	-	-	長石・石英・繊維	にぶい青	普通	外面隆起帯上唇み 内面ナデ	覆土上層		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 筒	(8.4)	(9.8)	3.9	(174.2)	長石・石英・角閃石	にぶい黄緑	ミスク RL縄文→沈隆 赤彩	覆土中	3a類
DP 2	土 筒	(8.8)	(4.0)	2.8	(92.9)	長石・石英・赤色粒子	褐	ミスク 無筋LR縄文	覆土下層	3d類
DP 3	土 玉	径(3.2)	-	2.5	(7.7)	長石・石英	橙	ナデ彫形 片面穿孔	覆土下層	
DP 4	耳 筒	径(7.2)	-	1.8	(12.7)	長石・石英	黒	外・内面磨き整形	覆土下層	IV 2類
DP 5	耳 筒	径(6.4)	-	1.8	(7.4)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	外面磨き整形	覆土上層	Ⅱ類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 皿	(2.18)	1.68	0.38	11.0	凝灰岩	凹底	覆土下層	
Q 2	紙 石	(6.5)	4.4	1.8	(70.4)	砂 岩	全面使用	覆土下層	4類 煎熱
Q 3	石・石皿	(5.9)	(4.5)	(3.4)	(135.6)	角閃石片岩	石割。表面磨き加工	覆土中	2b類 煎熱
Q 4	磨石類	12.4	7.6	4.1	649.0	輝石アサイト	表面面平凹のある磨痕・凹痕	覆土下層	2a類
Q 5	磨石類	(10.2)	4.9	2.8	(283.8)	安山岩	表面面磨痕 表面に凹痕	覆土下層	2a類
Q 6	磨石類	(5.6)	5.8	3.6	(145.0)	安山岩	表面面平凹のある磨痕	覆土下層	1c類 煎熱

#### 第14号竪穴建物跡 (第93～95図 PL 7)

位置 調査A区南西部のC 6 e4区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第38号土坑を掘り込み、第1号堀に掘り込まれている。第2号ピット群との新旧関係は不明である。

規模と形状 南部が調査区域外で、東部が第1号堀に掘り込まれているため、東西径は5.6mで、南北径は5.8mしか確認できなかった。円形と推定でき、壁は高さ10～22cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 中央やや南寄り付設されている。長径133cm、短径50cmの楕円形で、深さ30cmの地床炉である。底面は火熱のため、赤変硬化している。

#### 炉土層解説

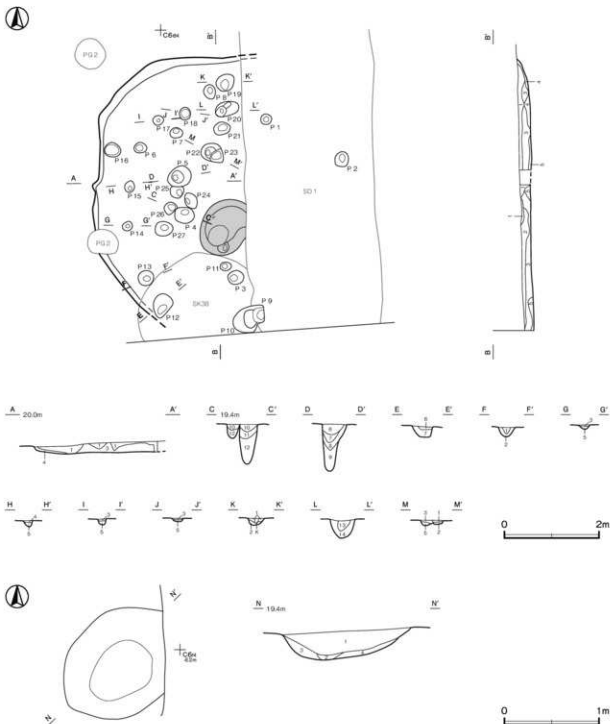
- 1 にぶい褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量 3 にぶい褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰微量  
2 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 4 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 27か所。P 1～P 7は、位置と深さから主柱穴と考えられる。P 9・10は出入口ピットの可能性がある。それ以外は補助柱穴的な役割のものと考えられるが、配置は不整である。小ピットが弧状に巡るようにも見え

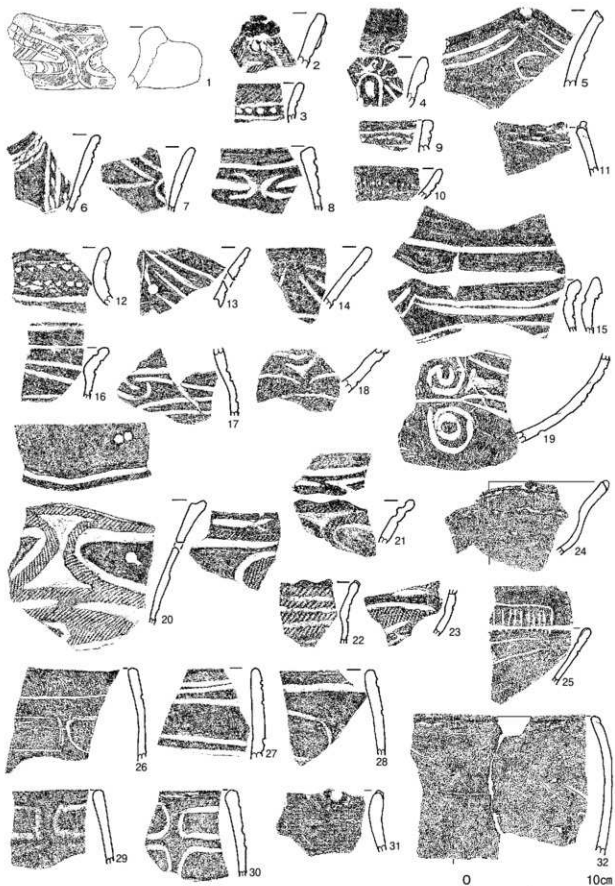
ることから、あるいは別の建物跡が重複している可能性もあるが、東部が遺存しないことから不明である。

#### ピット土層解説

- |        |                       |         |                         |
|--------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 8 暗褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 2 暗褐色  | ロームブロック中量             | 9 黒褐色   | ローム粒子・炭化粒子少量            |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量               | 10 暗褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子少量、骨粉微量   |
| 4 黒褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子少量        | 11 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 5 褐色   | ローム粒子中量               | 12 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 6 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 13 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量        | 14 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量        |



第93図 第14号竪穴建物跡実測図



第 94 图 第 14 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
深さ	(75)	(75)	(75)	85	103	56	96	58	(65)	(54)	(45)	28	22	10	17	46	16	9	15	40	7	13	18	41	47	32	48

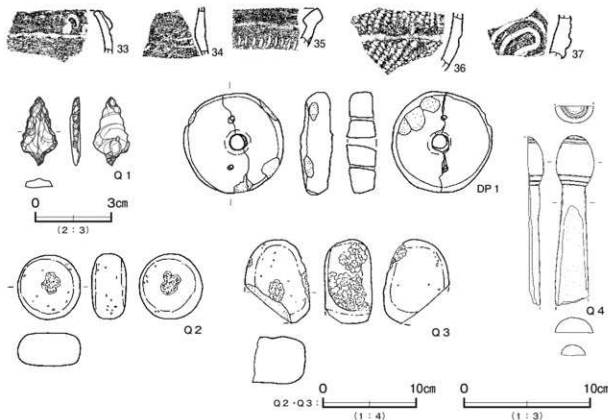
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層が、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                |       |                |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量        | 4 褐色  | ローム粒子少量、黒色粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、白色粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量      |       |                |

**遺物出土状況** 縄文土器片 968 点 (14.56kg)、土製品 5 点 (土器片円盤 2、有孔円盤 3)、石器・石製品 7 点 (石鏃 1、磨製石斧 1、石皿類 1、磨石類 2、石棒・石剣類 2) のほか、焼成粘土塊 1 点などが出土している。遺物は覆土上層から多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、後期後葉以前は少なく、主体となるのは第 8 群のうち晩期中葉 35%、第 10 群 (晩期中葉前浦式) 13% である。

**所見** 時期は、出土土器から晩期中葉の前浦式期と考えられる。



第 95 図 第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 94・95 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒・赤黄	普通	外面隆帯上無顔土縄文 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 縁部凹縁付文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒黄	普通	外面沈線→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	菱形状区画文 外・内面ナデ	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	緑	普通	菱形状区画文 外・内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい緑	普通	菱形状区画文 外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面磨滅のため調整不明瞭 内面ナデ	覆土上層	
10	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面ナデ→削突文 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	緑	普通	口縁部分突起 外・内面ナデ	覆土上層	
12	縄文土器	灰口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい緑	普通	口縁部外面に複列の削突文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい緑	普通	菱形状区画文。 外・内面ナデ	覆土上層	
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	弧線文 外・内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい緑	普通	弧線文 外・内面ナデ	覆土上層	
16	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	菱形状区画文。 外・内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・黒粒	黒 灰	普通	S字状区画文 外・内面ナデ	覆土上層	
18	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄 緑	普通	人組三叉文 外・内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒閃石	灰黄緑	普通	弧線組文 外・内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外面磨き上LR線文→無文部、沈線内磨き 内面ナデ	覆土上層	
21	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 緑	普通	外面沈線→磨き上LR線文→無文部、沈線内磨き 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 緑	普通	外面LR線文 内面ナデ	壺	
23	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→磨き上LR線文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒閃石	明赤緑	普通	外面ナデ 内面粗い磨き	覆土上層	
25	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒閃石	黒 緑	普通	口唇部粗み 外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒閃石	にぶい緑	普通	杵状文 外・内面ナデ	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	杵状文 外・内面ナデ	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	杵状文 外面沈線→磨き 内面ナデ	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	杵状文 外・内面ナデ 磨滅	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい緑	普通	杵状文 外・内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒閃石	緑	普通	外・内面磨き 口唇部に突起	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	緑	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒閃石	緑	普通	外面分帯口縁 頸部ナデ 胴部ナデ 内面ナデ	覆土上層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤灰	普通	外面LR線文 沈線間に削突文 内面ナデ	P 4	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	緑	普通	外面ナデ 爪形文 内面磨き	P 24	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい緑	普通	外面LR線文→沈線文 内面磨き	P 20	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黄	普通	外面無筋L線文→沈線文 内面磨き 煤付着	P 20	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	有孔円盤	径8.0	-	2.4	381.8	長石・石英・雲母	にぶい緑	ナデ彫形 貫通孔3か所	覆土上層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石 皿	273	144	0.41	11.0	チャート	有茶	覆土下層	PL47
Q2	磨石類	6.8	6.5	3.6	237.1	安山岩	表裏・側面使用 表裏面に凹痕	覆土上層	2a 類
Q3	磨石類	(8.8)	(6.8)	5.1	(399.2)	輝石安山岩	裏・側面磨痕 表・側面に縦打痕	覆土下層	3a 類
Q4	磨石類	(13.5)	3.1	(1.3)	(64.1)	粘板岩	石側 縦磨痕	覆土上層	PL45

## 第15号竪穴建物跡 (第96～101図 PL7・8)

位置 調査A区北部のB6h6区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層I層下で、広く焼土が分布している範囲を確認したことから、竪穴建物跡を想定して掘り下げを進めたところ、東西約7m、南北約9mの範囲で、複数の炉跡や出入口ピット及び多数のピットが確認できた。調査段階ですべて第15号建物跡の帰属としたが、整理の結果、少なくとも4種の建物跡の重複が想定できた。第2号遺物包含層下で焼土範囲が確認できたものを第15号建物跡、その南側で出入口ピットと壁柱穴から想定したものを第56～58号竪穴建物跡とする。本跡は、第131・135号土坑を掘り込み、第2・3号溝に掘り込まれている。第56～58号建物跡との新旧関係は堆積状況からは捉えられなかったが、焼土層の遺存状態などから、本跡が新しいものと考えられる。

規模と形状 北部が調査区域外で、東部は大きく攪乱を受けているため、壁、出入口ピット、及び壁柱穴は確認できなかったが、方形に分布する焼土層や炉跡、覆土の堆積状況などから、長軸約5.5m、短軸約4.5mの隅丸長方形で、推測される主軸方向はN-12°-Eである。

床 ほぼ平坦で、北部に向かってやや下がっている。硬化面は確認できなかった。

炉 推定できる床面の中央部から南部にかけて、3か所の炉跡が確認できた。炉1は長径80cm、短径69cm、深さ25cmの地床炉で、炉底面は火熱により赤変硬化している。炉2は長径78cm、短径52cm、深さ20cmの地床炉で、炉底面は火熱により赤変硬化している。炉3は長径60cm、短径52cm、深さ5cmの地床炉で、炉底面は浅い皿状を呈し、火熱により赤変硬化している。それぞれの新旧関係は不明である。

## 炉1土層解説

- 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・骨粉・灰少量、炭化粒子微量
- 橙褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 明赤褐色 焼土粒子多量、骨粉少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 橙褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量

## 炉2土層解説

- 橙褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量

ピット 対象とする範囲で75か所のピットが確認できたが、それぞれの場属を確定することは困難である。このうちP55～P59は、位置と形状、深さなどから本跡の主柱穴の可能性がある。

## P4・P6・P40・P55・P57・P68土層解説

- 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ロームブロック中量
- 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
- 極暗褐色 ローム粒子少量

## P18・P19土層解説

- 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子多量
- 暗褐色 ロームブロック少量

## P56土層解説

- 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 赤褐色 焼土粒子多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## P62土層解説

- 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 褐色 ローム粒子多量
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## P8・P24～P26・P41～P44・P58・P63土層解説

- 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量
- 黒褐色 ロームブロック中量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量
- 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック少量
- 黒褐色 ロームブロック少量

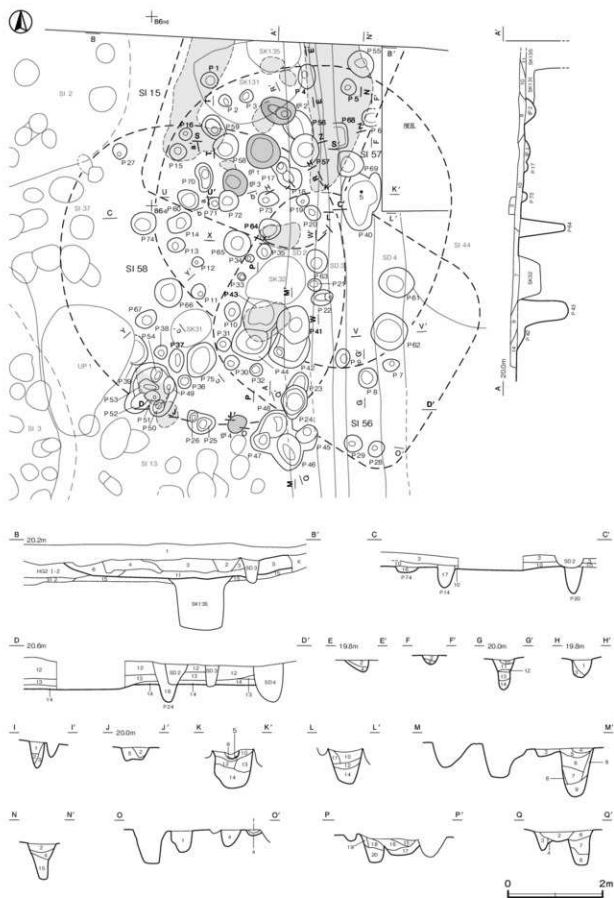
## P59・P60・P65～P67・P70・P75土層解説

- 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量
- 褐色 ローム粒子多量
- 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子多量
- 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	11	-	60	24	18	19	28	66	51	35	27	18	49	43	10	13	35	87	31	58	39	30	34	65	30
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	24	30	12	34	61	34	48	86	73	45	16	16	28	19	96	102	25	37	61	64	42	33	60	44	19
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	28	14	35	41	76	45	96	69	58	78	78	93	89	90	62	126	80	19	32	55	38	37	61	15	22



第 96 图 第 15·56 ~ 58 号竖穴建物跡实测图 (1)

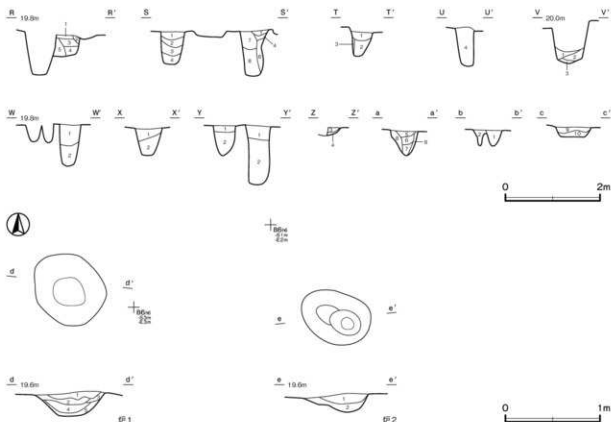
**覆土** 8層に分層できる。第4・5・8・11層は、焼土粒子が多く含まれている赤褐色土である。覆土上層から床面に掛けて堆積しているが、床面に顕著な被熱痕は見られなかった。第7・9・12～14層は、第56・58号竪穴建物跡に帰属する可能性が高い。

**土層解説**

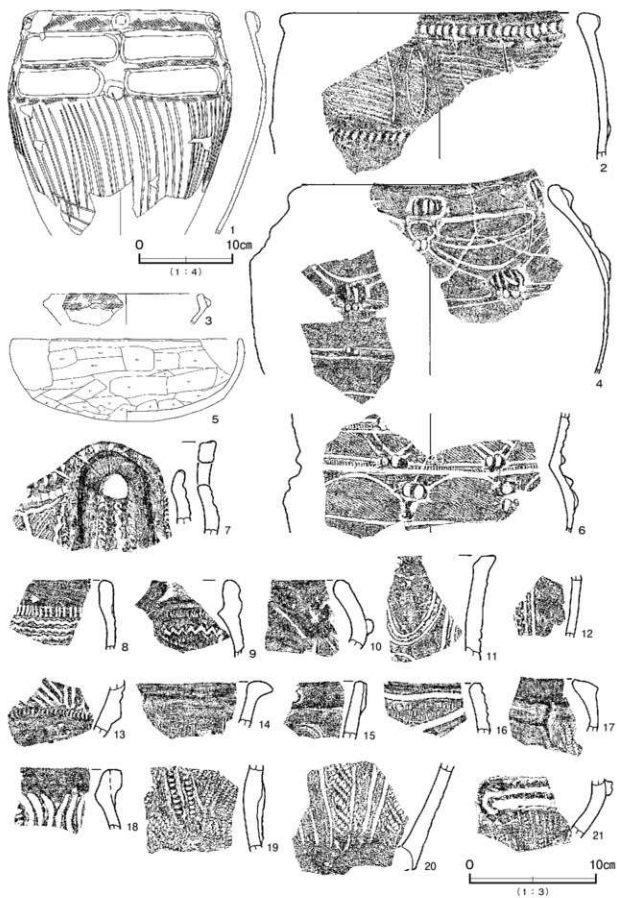
1 黒暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量(表土)	10 黒暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量(第56～58号竪穴建物跡覆土)
4 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(第56～58号竪穴建物跡覆土)
5 暗赤褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	14 褐色	ローム粒子少量(第56～58号竪穴建物跡覆土)
6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	15 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量(第56～58号竪穴建物跡覆土)	16 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量(P 74 覆土)
8 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量	17 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量(P 14 覆土)
9 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量(第56～58号竪穴建物跡覆土)	18 黒褐色	ローム粒子少量(P 24 覆土)

**遺物出土状況** 調査段階で第15号建物跡に伴うものとした遺物は、縄文土器片2,114点(32.98kg)、土製品7点(土鍾2、土偶1、棒状1、貝輪状1、匙形2)、石器・石製品13点(磨製石斧1、石皿類2、磨石類5、砥石2、石鍾2、石棒・石剣類1)のほか、石核1点(黒曜石)、剥片10点(黒曜石6、チャート4)、獣骨片15.84g、オオタニシなどの貝類27.84gなどである。土器は中期前半から晩期中葉のものが見られるが、主体となるのは第4群(堀之内式)26.7%、第3群(称名寺式)18.9%、第7群(安行1・2式)16.4%である。

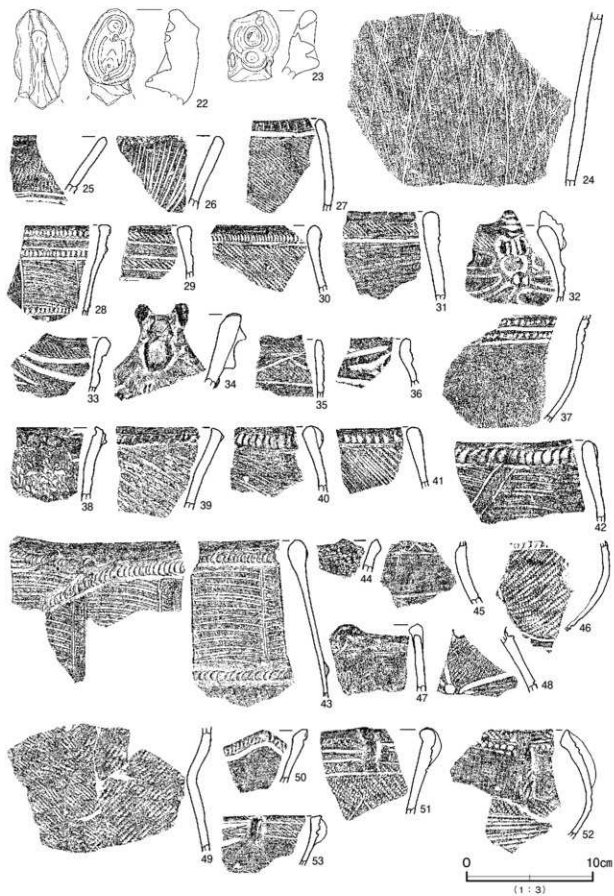
**所見** 時期は、出土土器と形状から後期後葉の安行2式期から晩期前葉の安行3a式期と考えられる。壁際に焼土が堆積する例は、第6・43号建物跡で確認でき、本跡は床面に被熱痕等が見られなかったものの、以上の例から焼失建物跡で、壁際の焼土は屋根材などの構築材の一部と考えられる。なお、平面形を捉えることができなかったが、本跡の南東部にも出入口ピットと想定されるP40があり、別の1棟が存在する可能性がある。



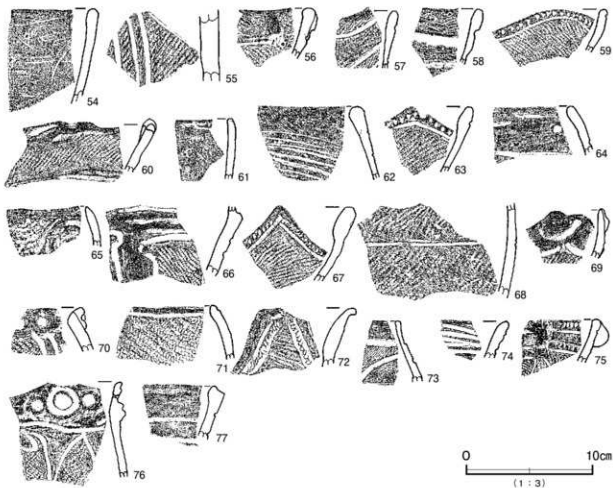
第97図 第15・56～58号竪穴建物実測図(2)



第98图 第15号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第99图 第15号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)

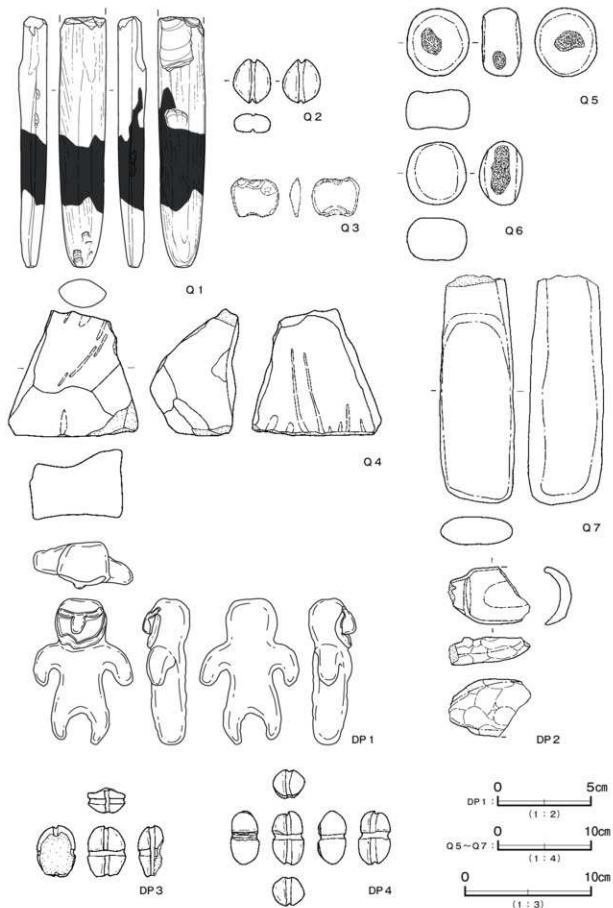


第100図 第15号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表(第98~101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	20.2	(23.7)	-	長石・石英・赤色粒子	赤灰	普通	外面段帯輪北縁→RL縄文・無文部磨き 内面ナテ	覆土下層	40% P129
2	縄文土器	深鉢	[23.0]	(11.5)	-	長石・石英・黒色粒子	靑	普通	外面段帯輪貼付→条線→区画文磨き 内面ナテ	覆土上層	10%
3	縄文土器	深鉢	[12.0]	(2.5)	-	長石・石英・赤色粒子	黒靑	普通	外面沈線→LR縄文・沈線間磨き 内面磨き	覆土下層	10%
4	縄文土器	深鉢	[20.2]	(9.2)	-	長石・石英	靑	普通	外面段帯輪北縁→RL縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土下層	20%
5	縄文土器	浅鉢	[18.0]	6.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	外面倒り 内面ナテ	P 40	40%
6	縄文土器	深鉢	-	(19.4)	-	長石・石英・赤色粒子	靑	普通	外面段帯輪北縁→形A→RL縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土下層	10%
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	靑	普通	外面段帯輪爪形文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	靑	普通	外面爪形文 内面ナテ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄靑	普通	外面爪形文 内面ナテ	覆土下層	
10	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・鉄・純粘土質	靑	普通	外面隆起部による波状文 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	靑	普通	外面半截竹管文による区画文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・鉄・純粘土質	靑	普通	外面縦位の交互刺突文 内面ナテ	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	靑	普通	外面半截竹管文 内面磨き	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄靑	普通	外面磨削状工具による条線 内面ナテ	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面磨削状工具による条線 内面磨き	伊	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面磨削状工具による刺突文充填 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明靑	普通	外面 RL縄文→粗隆短文貼付 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	靑	普通	L縁部外面縦位の沈線文 内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄靑	普通	外面隆部上 RL縄文 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤靑	普通	外面沈線→LR縄文→沈線間磨き 内面磨き	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄靑	普通	外面口縁部条文 R 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色粒子	黄靑	普通	外・内面磨き 内面C字状貼付文	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄靑	普通	底縁部C字状貼付文 内面ナテ	覆土下層	





第 101 图 第 15 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表(第98~101図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・粘石	黒	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面LR縹文→沈線 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	外面縹線 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・粘石・粘石	黒	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒	普通	外面縹線→沈線→刷毛・区画文→磨き 内面磨き	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒	普通	外面段形帯輪沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 灰	普通	口縁部外面付点線縹文 無文部LR縹文 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰 黒	普通	外面縹線→沈線→LR縹文 内面ナデ	覆土中	
32	縄文土器	注口	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面段形帯輪沈線→刷毛・LR縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	明 黒	普通	外面段形帯輪沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 灰	普通	外・内面ナデ	覆土中	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→無刷毛→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
36	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤黒	普通	口縁部外面に三叉文 内面磨き	覆土中	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	明赤黒	普通	胴部外面に沈線刷削文文 内面ナデ	覆土中	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・粘石・粘石	にぶい黄緑	普通	外面粗いLR縹文→縹線貼付 内面磨き	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 灰	普通	外面縹線→縹線貼付 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒	普通	外面縹線貼付→縹線 内面ナデ	覆土中	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・粘石・粘石	暗赤黒	普通	外面縹線→付点線縹文 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面縹線→縹線貼付→区画文磨き 内面磨き	覆土下層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面縹線→縹線貼付→区画文磨き 内面ナデ	覆土下層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黒	普通	口縁部外面に縹線帯任意文 内面ナデ	P 16	内面腐付着
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黄黒	普通	外面格子目文→胴部磨き 内面ナデ	P 16	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒 黒	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	P 23	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒	普通	外・内面ナデ	P 20	
48	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	P 20	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒 黒	普通	外面無筋LR縹文と区画縹線の段形帯輪文 内面ナデ	P 29	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰 黒	普通	口縁部外面刷毛 内面磨き	P 29	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒	普通	外面段形帯輪沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	P 29	
52	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→LR縹文→磨き 内面磨き	P 29	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	P 29	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外・内面ナデ	P 40	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面LR縹文→沈線→沈線磨き 内面磨き	P 40	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	明 黒	普通	外面沈線→LR縹文→磨き 内面磨き	P 40	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	P 40	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黒	普通	外面四角文 内面ナデ	P 40	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	P 40	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面LR縹文 口縁部に沈線 内面磨き	P 40	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	橙	普通	外面刷毛 内面ナデ	P 40	二次焼成
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黄黒	普通	外面ナデ→縹線 内面ナデ	P 40	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤黒	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	P 43	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外・内面ナデ	P 43	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外面LR縹文→縹線起線文 内面ナデ	P 44	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→LR縹文→磨き 内面磨き	P 44	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	暗 黒	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	P 44	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・粘石・粘石	にぶい黄緑	普通	外面LR縹文 内面ナデ	P 59	
69	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→LR縹文 内面磨き	P 59	
70	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縹文→磨き 内面磨き	P 45	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・赤色粒子	橙	普通	外面LR縹文 内面磨き	P 48	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	灰黄黒	普通	外面沈線→刷毛→縹線 内面磨き	P 62	
73	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	黒 黒	普通	外面沈線→無筋LR縹文→無文部磨き 内面磨き	P 62	
74	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→縹線 内面磨き	P 74	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石灰・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面縹線付→沈線→刷毛・LR縹文 内面磨き	P 74	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→LR縹文→無文部磨き 内面磨き	P 72	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・粘石・粘石	灰 黒	普通	外・内面磨き	P 72	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 俵	7.7	5.3	2.5	51.6	灰石・石灰・焼石	にぶい黄緑	板状 手づくねによる整形	覆土下層	4g 相 PL40
DP 2	甕 形	(6.5)	4.6	2.2	(35.8)	灰石・石英	暗灰黒	手づくねによる整形	覆土下層	PL44
DP 3	土 鉢	4.0	3.0	(2.0)	(21.7)	灰石・石英	灰 黒	有溝 ナデ整形	覆土下層	
DP 4	土 鉢	4.2	2.5	2.3	22.2	灰石	にぶい黄緑	有溝 ナデ整形	P 74	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磁・土器	(199)	3.79	2.28	267.4	緑泥片岩	石剣 中央部が帯状に黒変	覆土上層	PL45
Q 2	石 鎌	3.5	3.0	1.4	182	砂質頁岩	有溝	覆土下層	1類
Q 3	石 鎌	(3.1)	3.7	0.9	(116)	安山岩	上下端打ち欠き	覆土下層	3類
Q 4	紙 石	(10.1)	(10.4)	(7.1)	(629.4)	砂 岩	紙面 4面 部分的に帯状の彫痕	覆土下層	2類
Q 5	磨石類	7.2	6.6	4.2	388.8	輝石安山岩	表裏面に凹痕	覆土下層	2a類
Q 6	磨石類	6.8	6.3	4.6	296.7	輝石安山岩	側面に敲打痕	覆土下層	2類
Q 7	紙 石	(24.6)	7.9	3.0	(769.2)	緑色片岩	表裏に磨り面	覆土上層	2類

### 第 56 号竪穴建物跡 (第 96・97 図)

**位置** 調査A区北西部のB 6 i6区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 2 号遺物包含層 1 層下で確認した。第 15 号竪穴建物、第 2～4 号溝に掘り込まれている。第 44・57・58 号竪穴建物跡、第 32 号土坑とも重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。出土遺物からは、第 44・57・58 号建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 重複が著しいことから、出入口ピットと壁柱穴から規模や形状を推定した。P 45～P 48 を出入口部とし、P 19・P 24・P 28～P 35 を壁柱穴とすると、推定できる東西軸は 5.0 m、出入口ピットまでの南北軸は 5.5 m の方形で、出入口ピットから推定される主軸方向は N - 28° - E である。

**床** ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

**ピット** 上述した出入口ピット、壁柱穴のほか、P 8・P 61～P 63 が、位置と形状や深さなどから主柱穴の可能性がある。

**覆土** 第 9・14 層の一部は、本跡に属する可能性が高い。西壁に近い部分には焼土の分布が確認でき、建物の埋没過程で焼土が廃棄され、その後自然堆積したものと考えられる。

**所見** 本跡周辺の遺物は、第 15 号竪穴建物跡として取り上げており、確実に本跡に伴うものを確定することは困難である。方形に壁柱穴が巡っていることから、当遺跡で確認できる竪穴建物跡の時期的な特徴と比較して、時期は後期後葉の安行 2 式期と考えられる。すぐ北に位置する第 15 号竪穴建物跡もほほ同時期と考えられることから、ほほ同一の地点に、比較的短期間に建物の廃絶・構築が繰り返されたものと考えられる。

### 第 57 号竪穴建物跡 (第 96・97 図)

**位置** 調査A区北西部のB 6 i6区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 2 号遺物包含層 1 層下で確認した。第 15 号竪穴建物、第 2～4 号溝に掘り込まれている。第 44・56・58 号竪穴建物跡、第 32・131・135 号土坑とも重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。出土遺物からは第 44 号建物跡を掘り込み、第 56 号建物跡に掘り込まれている。

**規模と形状** 重複が著しいことから、出入口ピットと壁柱穴から規模や形状を推定した。P 41～P 44 を出入口部とし、P 2～P 6・P 9～P 16 を壁柱穴とすると、推定できる東西径は 6.4 m、出入口ピットまでの南北軸は 6.2 m の円形で、出入口ピットから推定される主軸方向は N - 14° - E である。

**床** ほほ平坦で、硬化面は確認できなかった。

**ピット** 上述した出入口ピット、壁柱穴のほか、P 34・P 56・P 57・P 61・P 64・P 65 は、位置と形状、深さなどから主柱穴の可能性がある。

**覆土** 第 15・56 号竪穴建物に掘り込まれているため、確認することができなかった。

**所見** 本跡周辺の遺物は、第15号竪穴建物跡として取り上げており、確実に本跡に伴うものを確定することは困難である。円形に壁柱穴が巡る平面形を呈することから、当遺跡で確認できる竪穴建物跡の時間的な特徴と比較して、時期は後期後葉の安行1式期と考えられる。

#### 第58号竪穴建物跡（第96・97図）

**位置** 調査A区北西部のB6区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層1層下で確認した。第15号竪穴建物、第1号地下式坑、第2・3号溝に掘り込まれている。第13・37・56・57号竪穴建物跡、第31・32号土坑とも重複しているが、堆積状況からは新旧関係を捉えることはできなかった。出土遺物からは第13・56号建物跡に掘り込まれていると推測できる。

**規模と形状** 重複が著しいことから、出入口ピットと壁柱穴から規模や形状を想定した。P49～P54を出入口部とし、P16～P27を壁柱穴とすると、壁柱穴間の規模は東西径6.0m、出入口ピットまでの南北径は6.2mの円形で、出入口ピットから推定される主軸方向はN-24°-Eである。

**床** はほぼ平坦で、硬化面は確認できなかった。

**ピット** 上述した出入口ピット、壁柱穴のほか、第37号竪穴建物跡に帰属するとしたP2～P5も本跡の壁柱穴となる可能性がある。

**覆土** 第14層の一部は、本跡に帰属する可能性がある。出入口部から南付近にかけて焼土の分布が確認でき、建物の埋没過程で焼土が廃棄され、その後自然堆積したものと考えられる。

**所見** 本跡周辺の遺物は、第15号竪穴建物跡として取り上げており、確実に本跡に伴うものを確定することは困難である。円形に壁柱穴が巡る平面形を呈することや出土遺物などから、時期は後期初頭から前葉の称名寺2式期から堀之内1式期と考えられる。

#### 第16号竪穴建物跡（第102・103図）

**位置** 調査A区中央部のC6e7区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層下で確認した。本跡のP15が第129号土坑を掘り込み、第4号地下式坑、第4号溝に掘り込まれている。第31・32号竪穴建物跡、第102・122・269・274号土坑とも重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。

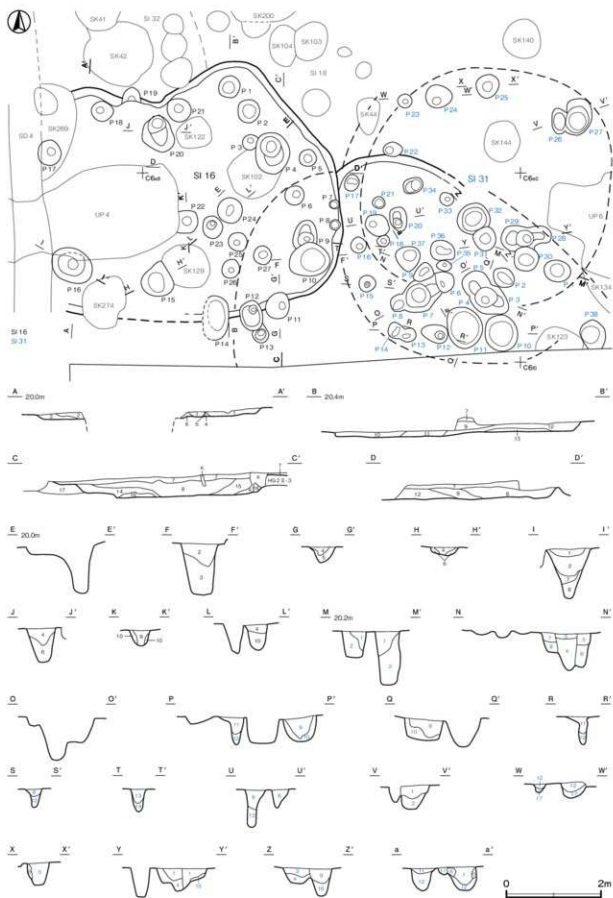
**規模と形状** 調査時に不整形な掘り込みを確認したことから2棟以上の重複と考え、第16・17号建物跡として調査したが、堆積状況やピットなどを検討した結果、1棟と判断した。西部が第4号溝に掘り込まれていること、また南壁が確認できなかったことから、南北径は4.7mで、東西径は6.5mしか確認できなかった。不整形な楕円形で、東西軸方向はN-69°-Eである。壁は高さ10～20cmで、外傾している。

**床** はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 27か所。P4・P10・P16・P17・P20は、径70～90cm、深さ100cm前後で、主柱穴と考えられる。また径30～40cm、深さ25～54cmのピットが壁際に巡っている。

#### ピット土層解説

1 黒色	炭化粒子少量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 黒色	炭化粒子少量、ロームブロック微量	7 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子少量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
5 にぶい褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10 麻暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量



第 102 图 第 16・31 号竖穴建物跡実測图

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
深さ	54	24	47	102	32	45	16	12	29	107	34	17	67	37	23	105	83	48	16	100	44	34	73	57	32	32	26

**覆土** 16層に分層できる。中央部付近に黒褐色土、壁際の周辺部にローム粒子がやや多く含まれる暗褐色土が見られ、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第7層は表土に近い堆積土である。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	11	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量
3	極暗褐色	ローム粒子少量、炭化材微量	12	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子少量	13	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
5	にじみ明褐色	ロームブロック中量	14	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
6	褐色	ロームブロック中量	15	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	16	褐色	ロームブロック中量
8	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	17	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(第2号遺物包含層堆積土)
9	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・白色粒子微量			

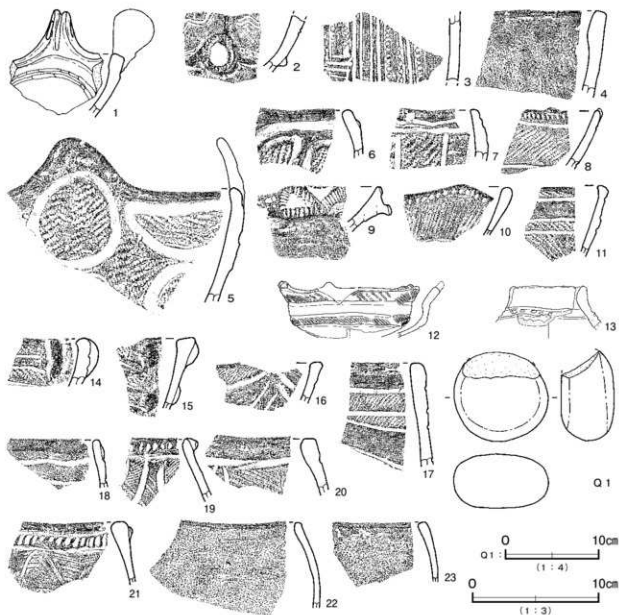
**遺物出土状況** 縄文土器片 379点 (5.97kg)、石器・石製品 6点 (磨製石斧1、磨石類3、砥石1、石棒・石剣類1)のほか、石核1点 (チャート)、剥片1点 (チャート) などが出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群 (加曾利E式) 21.3%、第1群 (阿玉台式) 19.1%、第8群 (晩期安行式) 19.1%である。なかでも阿玉台Ⅱ～Ⅲ式、加曾利EⅢ式、安行3b式が多く確認できる。ピット内からは複数時期の遺物が混在しているが、P3・P6・P12・P18・P23・P26は後期中葉以前の土器群のみ出土している。

**所見** 時期は、出土土器や建物跡の形状などから、中期前半から後半と考えられる。第8群の土器は、重複している第31号建物跡、あるいは第2号遺物包含層に帰属するものと考えられる。

第16号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第103図)

番号	種別	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にじみ褐色	普通	外面2列の角内テ 内面ナテ	覆土中		
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にじみ褐色	普通	外面半琺瑯管による押し引き 内面磨き	覆土中		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にじみ褐色	普通	外面半琺瑯管による沈漚文 内面ナテ	覆土中		
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にじみ褐色	普通	口縁部外面磨きの磨き 胴部底位の磨き 内面磨き	覆土中		
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にじみ褐色	普通	外面RL焼文→沈漚文 内面磨き	覆土中		
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にじみ褐色	普通	外面RL焼文→磨除粘付帯貼付 内面磨き	覆土中		
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面0段多葉のLR焼文→沈漚→磨き 内面磨き	覆土中		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	橙	普通	外面沈漚→LR焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面粘付帯上にL形文 内面磨き	P16		
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	明赤褐色	普通	外面斜沈漚文 内面磨き	P15		
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面磨除粘付帯→RL焼文→無文部磨き 内面磨き	P20		
12	縄文土器	浅鉢	11.4	(4.6)	-	屈・屈・粘付・粘付	にじみ褐色	普通	外面沈漚→RL焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	30%	
13	縄文土器	壺	(6.2)	(3.5)	-	長石・石英	にじみ褐色	普通	外面沈漚刷交文 内面ナテ	覆土中	10%	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面磨除粘付帯→RL焼文→無文部磨き 内面磨き	P20		
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	灰	普通	外面磨除粘付帯→RL焼文→無文部磨き 内面磨き	P20	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	灰	普通	外面磨除粘付帯→LR焼文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にじみ褐色	普通	外面沈漚→RL焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中		
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にじみ褐色	普通	外面磨り 内面ナテ	覆土中		
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面赤線→磨除粘付→胴部L形文→LR焼文 内面ナテ	覆土中		
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面赤線→口縁部沈漚→RL焼文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中		
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にじみ褐色	普通	外面赤線→磨除粘付→胴部L形文 内面ナテ	覆土中		
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にじみ褐色	普通	外面磨り 内面ナテ	覆土中		
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面磨り 内面ナテ	覆土中		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石類	(9.5)	100	5.7	(77.9)	細粒度レイ岩	表裏・側面に磨り痕 特に下端が顕著	覆土中	1c類



第103図 第16号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第31A・B号竪穴建物跡 (第102・104・105図)

**位置** 調査A区中央部のC 6e9区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層下で確認した。第6号地下式坑に掘り込まれている。第16号竪穴建物跡、第123・144号土坑と重複しているが、新旧関係を捉えることはできなかった。

**規模と形状** 第16号竪穴建物跡の東部で、壁の一部と多数のピットが確認できたことから建物跡を想定したが、明瞭な掘方や炉跡、床面等を確認することはできなかった。ピットの位置と形状から、P3～P5・P6～P8を出入口部とし、P1・P2・P15～P27などを壁柱穴とする第31A号建物跡と、壁の一部に沿うように弧状に巡っている壁柱穴を有する第31B号建物跡の、2棟の重複が推定できる。第31A号建物跡は、出入口ピットを含む南北径5.4m、東西径5.2mの円形で、出入口ピットから想定される主軸方向はN-3°-

Eである。第31 B号建物跡は、部分的な確認であることや、南部が調査区外に延びていることから不明瞭であるが、径6m前後の円形、あるいは楕円形と推定できる。壁は高さ10cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 38か所。第31 A号建物跡では、上記した壁柱穴のほか、弧状に並んでいるP10～P17・P22～P27から、さらに別の1棟の重複も考えられる。第31 B号建物跡は、壁際のP17・P31～P34・P38のほか、第16号建物跡の帰属としたP6・P12～P14・P25～P27なども本跡に伴う可能性がある。

#### ピット土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	ロームブロック少量	11 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・白色粒子微量
5 黒褐色	炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
8 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
9 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量		

#### ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	105	24	71	82	40	44	82	15	15	53	50	59	10	14	38	48	8	34	83	18	20	38	23	64	56
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38												
深さ	35	50	27	48	56	61	35	20	26	17	19	48	46												

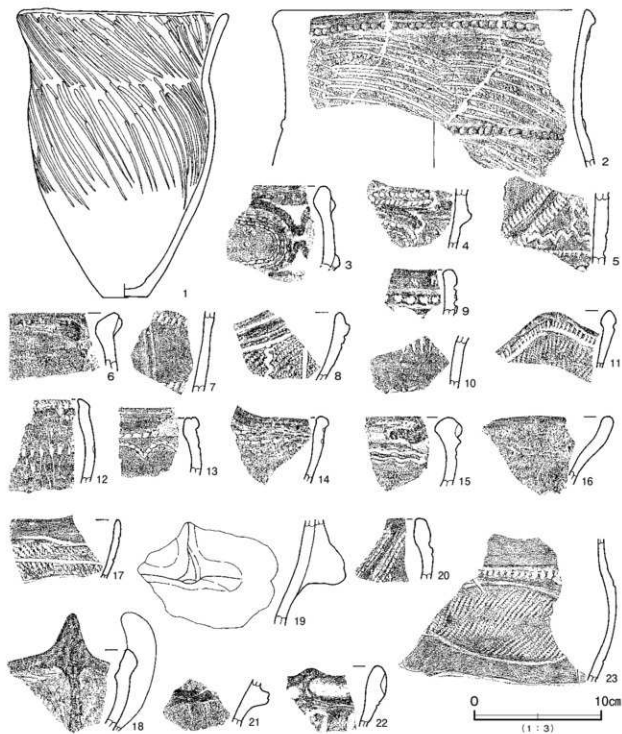
**遺物出土状況** 縄文土器片545点(8.28kg)、土製品1点(土偶)、石器・石製品5点(石鏃1,打製石斧3,礫器1)のほか、石核1点(チャート)などが出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第1群(阿玉台式)35.6%、第4群(堀之内式)22.4%、第5群(加曾利B式)16.7%である。なかでも阿玉台Ib～II式、堀之内I式、加曾利B2～B3式が多く確認できる。ピットからは後期初頭から後期前葉の遺物が比較的多く出土しているが、P5・P30・P36からは後期中葉から後葉の加曾利B3式期、曾谷式期の遺物がまぎって出土しており、特にP5上層からは、1の深鉢がほぼ完形で出土している。またP10からは阿玉台Ib式がまぎって出土している。P7からは獣骨片が21.04g出土しており、一部は焼けているものが見られる。

**所見** 時期は、出土土器や形状から、第31 A号建物跡は後期前葉から後葉、第31 B号建物跡は中期前半、あるいは後期初頭と考えられる。

#### 第31号竪穴建物跡出土遺物観察表(第104・105図)

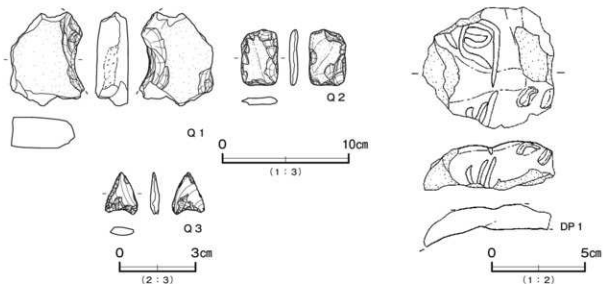
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	161	228	35	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面条線 下部磨き 内面ナデ 底部磨き	P.5	96% PL29
2	縄文土器	深鉢	214	(122)	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外面無胎線 縄文・条線→粗線貼付 内面ナデ		10%
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面2列の角押文 内面ナデ		覆土下層
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外面2列の角押文 内面ナデ		覆土下層
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面條形帯輪に爪形文 内面ナデ		覆土上層
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ナデ 内面磨き		覆土上層
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面爪形文 内面ナデ		覆土下層
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外面RL縄文→沈線 内面磨き		P.3
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面竹管文 内面ナデ		P.3
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面爪形文 ナデ 内面磨き		P.3
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文・刺目 内面ナデ		P.8
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面爪形文 内面ナデ 口唇部粗み		P.10
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口唇部沈線文 外面1列の角押文 内面ナデ		P.10
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面2列の角押文 内面ナデ		P.10
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面波状文 内面ナデ		P.10
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナデ		P.10





第104図 第31号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面無面足縄文→沈線 内面磨き	P 10	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外・内面ナデ	P 9	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・鉄子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	P 19	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・鉄子	明赤褐色	普通	外面隆起帯飾2列の角押文 内面磨き	P 19	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・鐵子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	P 20	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面口縁部に高文連続結紮文 内面磨き	P 30	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→L形縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 30	



第105図 第31号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第31号竪穴建物跡出土遺物観察表(第104・105図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	土質	(2.6)	(6.9)	(6.4)	(71.0)	長石・石英	黒褐色	中空 ナ字整形	覆土上層	5b類
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q1	打撃石片	(7.45)	(5.86)	2.59	(154.0)	角閃石輝石安山岩	分銅形 右側面に敲打痕	覆土下層		
Q2	礫	4.45	2.92	0.67	11.7	安山岩	全周縁に潤磨	P1		
Q3	石礫	1.67	1.29	0.36	0.7	黒曜石	凹底	覆土上層		

### 第18号竪穴建物跡(第106～109図)

**位置** 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層中で確認した。第199号土坑を掘り込み、第32号竪穴建物、第105・109・111号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第20・35号竪穴建物跡、第103・104・106～108・110・125・128・200・275号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は捉えることができなかった。

**規模と形状** 竪穴建物跡や土坑群との重複が著しく、明確な範囲を捉えることはできなかったが、P1～P4が弧状に巡っていることや覆土の堆積状況などから、建物跡と判断した。第35号建物跡の炉3が本跡の炉跡とすると、径6m前後の円形の平面形が推定できる。位置などから第103・104号土坑を出入口部とすると、推定できる主軸方向はN-5°-Eである。

**床** はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 第35号建物跡の炉3が該当する可能性がある。

**ピット** 8か所。P1・P3・P4はローム粒子が含まれている黒褐色土、P2・P5は暗褐色土が主体で、いずれも柱が抜き取られたあと、覆土が堆積している。

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
深さ	40	75	84	44	62	23	85	20

## P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

## P2土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

## P3・P4土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

## P5土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

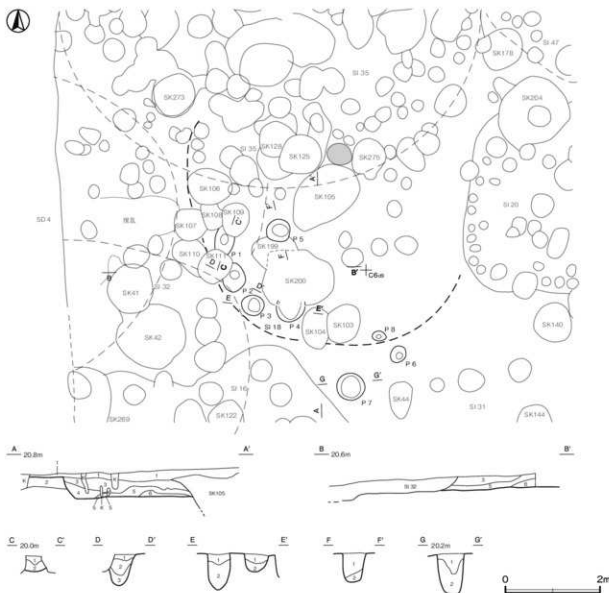
## P7土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

**覆土** 4層に分層できる。第1層は表土、第2層は第2号遺物包含層の一部か、あるいは別遺構の覆土の可能性もある。下層にロームブロックやローム粒子がやや多く含まれている褐色土が堆積しており、埋め戻されている。

## 土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量（表土）
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量



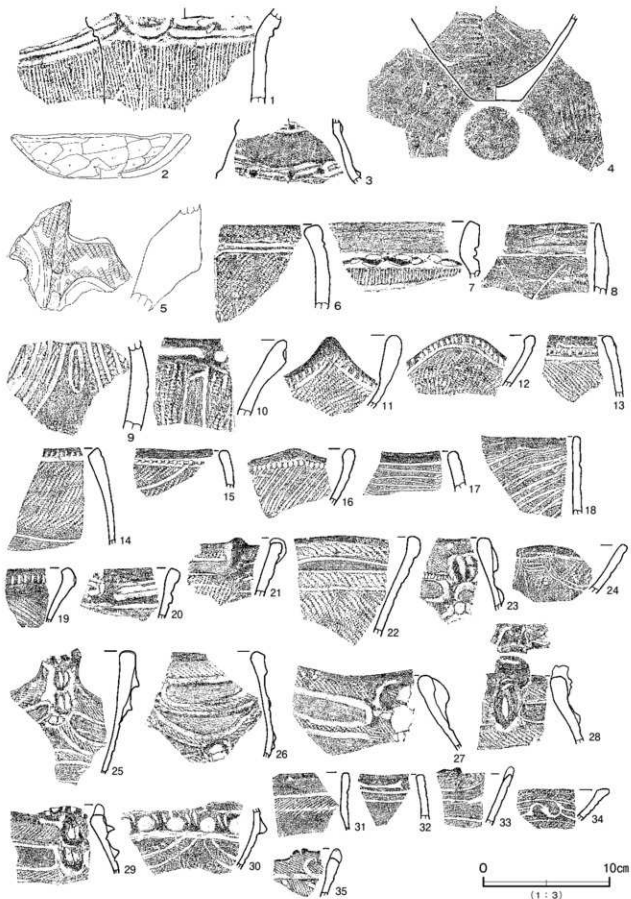
第106図 第18号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 1,795 点 (29,08kg)、土製品 4 点 (土器片円盤、土鍋、土版、貝輪状)、石器・石製品 23 点 (磨石類 14、砥石 3、石錘 2、浮子 1、加工痕のある剥片 1、石棒・石剣類 2) のほか、石核 3 点 (チャート 2、黒曜石 1)、剥片 8 点 (黒曜石 5、チャート 3)、獣骨片 5.21 g が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 5 群の後期中葉 (22.9%)、第 8 群の晩期前葉～中葉 (17.3%)、第 7 群の後期後葉 (15.9%)、第 4 群の後期前葉 (13.8%) のものである。ピット内からは後期中葉の土器が多く出土している。DP 1 は P 3 の覆土中から出土している。

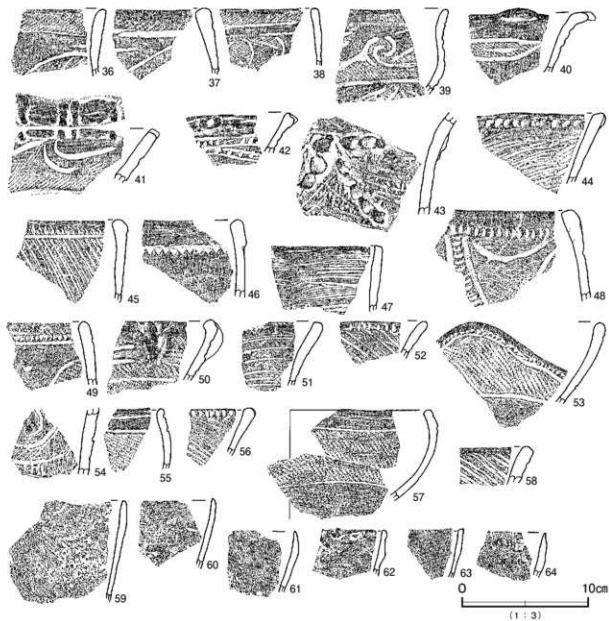
所見 出土土器は後期中葉から晩期前葉にまともまっているが、周辺に当期の遺構が多数確認できること、炉跡やピットの配置が不明瞭であることなどから、時期を確定することができない。後期から晩期と考えておきたい。

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 107～109 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	-	長石・石英・燧石	橙	普通	割部外面赤文 内面ナデ	覆土上層	20%
2	縄文土器	浅鉢	[13.8]	(3.4)	-	長石・石英・燧石	灰 褐	普通	外面削り 内面磨き	覆土下層	30%
3	縄文土器	甕	-	(5.2)	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面段帯縁文 無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	5%
4	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	3.5	長石・石英	にぶい青	普通	外面条線 内面ナデ	覆土下層	外面磨 20%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい橙	普通	外面 L.R 縄文 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	褐	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい赤	普通	口縁部外面磨き 交互刺突文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	口縁部外面磨き 内面ナデ	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面 L.R 縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒四石	にぶい青	普通	外面 L.R 縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面沈線→口縁部割み→L.R 縄文 内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	灰 褐	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	褐	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	赤 褐	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線→口縁部割み 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面条線文 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面条線 内面磨き	P 3	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	明赤褐	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面段帯磨き 内面磨き	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	橙	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐	普通	外面段帯帯縁沈線→無文部磨き→縦線貼付→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面沈線→L.R 縄文 割部削み 内面磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	にぶい青	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	暗赤褐	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面段帯帯縁沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
30	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	明 褐	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→無筋 L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	外面磨付着
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤	普通	口縁部外面玉指三叉文 無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	灰 褐	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面ナデ	覆土下層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面ナデ	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面沈線→細雲沈線 内面ナデ	覆土中	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒四石	にぶい青	普通	外面沈線→刺突文 内面磨き	覆土中	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい青	普通	外面地縄文→縦線貼付→条線 内面磨き	P 3	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	灰 褐	普通	外面地縄文→縦線貼付→条線 内面磨き	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	明赤褐	普通	外面条線→付点縁線文 内面ナデ	覆土下層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	口縁部削り出し状 内面ナデ	覆土下層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	橙	普通	外面条線→縦文帯帯縁文 内面ナデ	覆土下層	

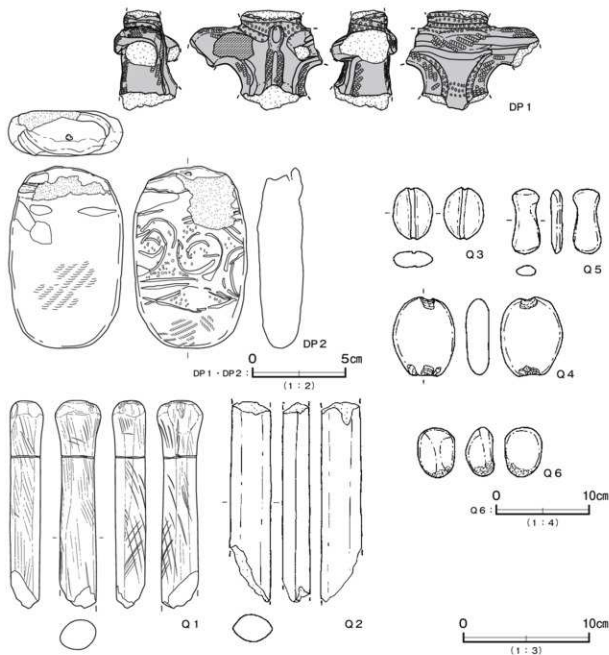


第107圖 第18号壑穴建物跡出土遺物実測圖(1)



第108図 第18号堅穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 2	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外縁部削り→常盤部磨き→底・底文→無文部磨き 内面磨き	P 2	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘石・粘好	黒褐色	普通	外面糸線 内面磨き	P 2	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	明褐色	普通	外面糸線→口縁部削み 内面磨き	P 2	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 3	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→細密沈線文充眼 内面磨き	P 3	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘石・粘好	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 3	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸線→口縁部削み 内面磨き	P 3	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	粘土・粘石・粘好	にぶい褐色	普通	外面糸線 内面磨き	P 4	
59	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土上層	口皿類
60	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土上層	口皿類
61	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土上層	口皿類
62	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土下層	口皿類
63	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部へり出し状	覆土下層	口皿類
64	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面削り 内面ナデ 口縁部つまみ出し状	覆土下層	口皿類



第109図 第18号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 罎	(53)	7.0	3.5	(821)	長石・石英	黒 褐	山形 段起帯貼付→北縁→RL 縄文・刺交文 赤彩	P 3	2ヶ所
DP 2	土 甕	9.7	6.0	2.4	185.6	紅・白・黒胎土・鉄砂	黒 褐	表面に三叉状入組文と細かな刺交文 無筋L 縄文	覆土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石・玉髓	(166)	3.64	2.67	(28.0)	角閃石片岩	石棒 研磨整形 赤彩		
Q 2	石・玉髓	(159)	3.3	2.2	(179.1)	角閃石片岩	石剣 研磨整形		覆土下層 PL45
Q 3	石 錘	4.0	3.2	1.3	21.0	輝石安山岩	有溝		覆土上層 1個
Q 4	石 錘	6.2	5.0	1.8	83.4	輝石安山岩	上下端打ち欠き		覆土中 3個
Q 5	砥 石	5.1	2.2	0.9	11.4	砂 岩	扁平		覆土中 4個
Q 6	磨石類	5.2	3.9	2.9	75.3	輝石安山岩	自然礫の下端部に最打痕		覆土下層 1個

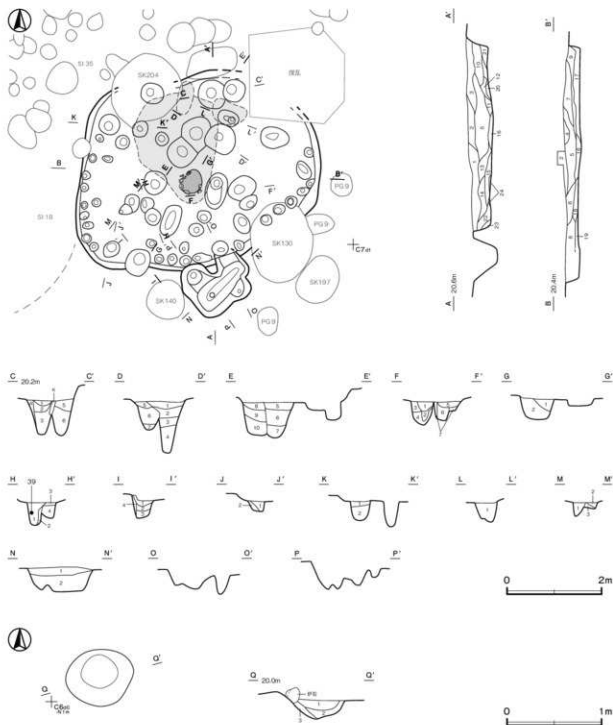
第20号竪穴建物跡 (第110～116図 PL 8)

位置 調査A区中央部のC6c0区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。第204号土坑を掘り込み、第130号土坑に掘り込まれている。第18・35号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況から新旧関係は確認できなかった。

規模と形状 出入口ピットを含めた南北軸5.12m、東西軸5.42mの楕円形で、炉と出入口部を結んだ主軸方向はN-18°-Wである。壁は高さ26～48cmで、外傾している。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。



第110図 第20号竪穴建物跡実測図(1)



炉 中央やや南寄りに位置している。長径54cm、短径50cmの石囲炉で、北東側の石は確認できなかった。深さ20cmで、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 伊土層解説

- |                                  |                                 |
|----------------------------------|---------------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量       | 3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（掘方覆土） |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量（掘方覆土） |                                 |

ピット 53か所。P4～P6、P7・P8、P11・P12は、位置と深さから主柱穴である。それぞれ2～3か所が近接していることから、立て替えの可能性がある。奥壁際のP1・P2は径が大きく、深さのあるピットで、主柱穴的な機能を有している可能性がある。P16～P43・P51～P53は位置と形状から壁柱穴で、P50は出入口ピットである。

#### P1・P2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### P4～P6土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量、骨粉微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・骨粉少量
- 9 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 10 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

#### P12・P47土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量

#### P7・P10土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物・骨粉少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 5 極暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

#### P11土層解説

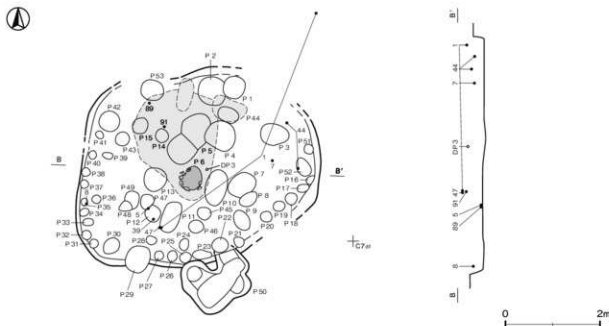
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

#### P29土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

#### P30土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量



第111図 第20号竪穴建物跡実測図(2)

**P 42 土層解説**

- 1 黒暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

**P 48・P 49 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量  
3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**P 44 土層解説**

- 1 黒暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

**P 50 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
深さ	100	109	48	119	86	81	60	64	53	76	45	57	80	51	56	16	23	21	23	41	21	39	30	17	31	23	17
番号	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	
深さ	9	35	23	16	18	11	19	19	14	30	32	14	40	28	46	58	45	24	32	37	34	15	54	3	37	27	

**覆土** 24層に分層できる。全体的に骨粉が少量含まれている。焼土ブロックが多く含まれている層や黒褐色土、

ロームブロックが多く含まれている層が、互層に堆積していることから埋め戻されている。

**土層解説**

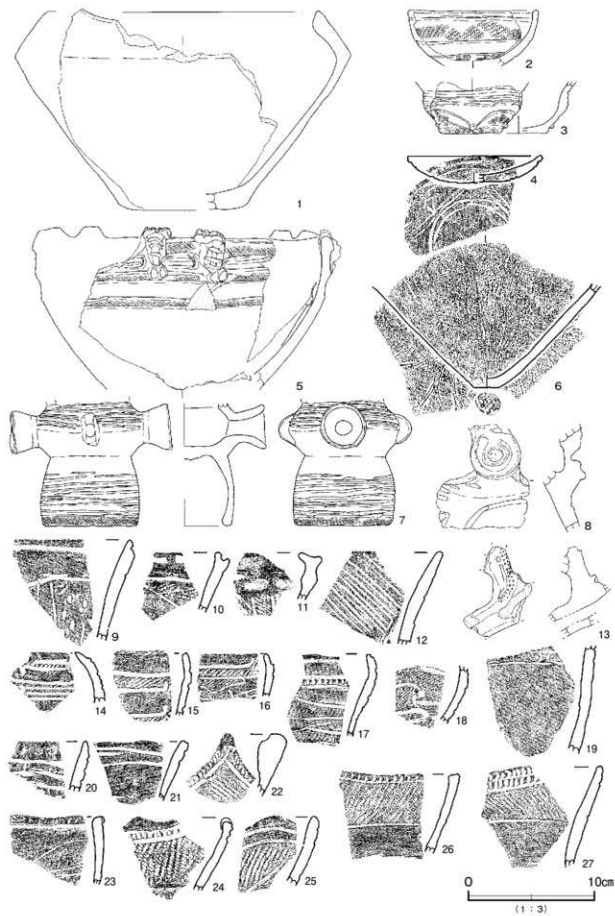
- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量  
2 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量  
3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
4 黒暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量  
5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量  
6 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量  
7 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
8 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
9 黒暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
10 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
11 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
12 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量  
13 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
14 黒暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量  
15 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
16 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量  
17 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
18 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
19 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量  
20 黒暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
21 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
22 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量  
23 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量  
24 褐色 ローム粒子多量

**遺物出土状況** 縄文土器片5,520点(88,02kg)、土製品15点(土錘3、土器片円盤6、耳飾り2、土偶3、貝輪状1)、石器・石製品39点(石鏃1、磨製石斧3、石皿類1、磨石類22、砥石7、浮子1、石棒・石剣類4)のほか、石核2点(黒曜石)、剥片7点(チャート4、黒曜石3)、鹿角片1007g、加工痕のある獣骨片1点(123g)などが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて、多量に出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群(安行1・2式)27.6%、第5群(加曾利B式)25.7%である。特に加曾利B3式から安行1式が多く確認できる。1は第47号竪穴建物跡から出土した土器と接合している。

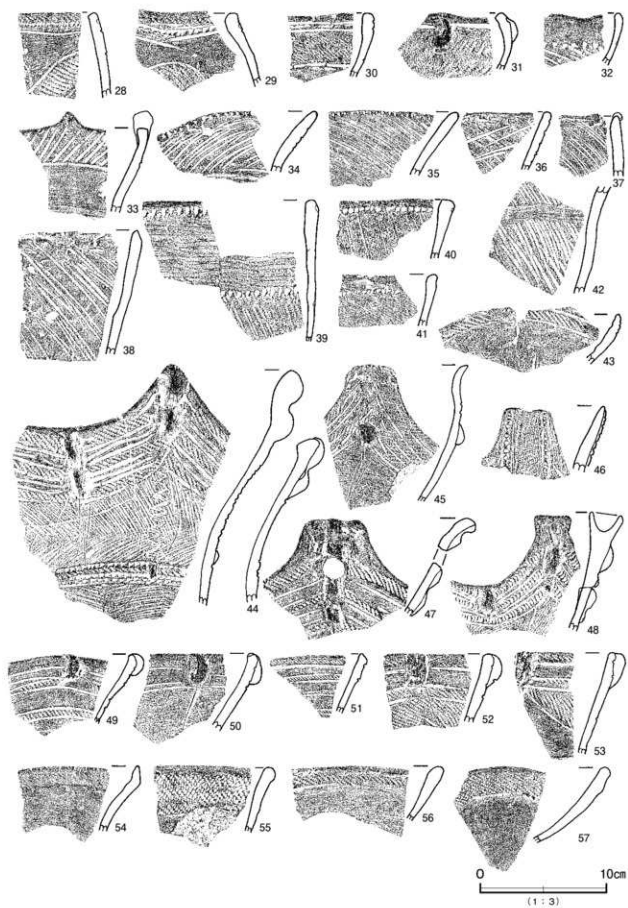
**所見** 時期は、出土土器や形状から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表(第112～116図)

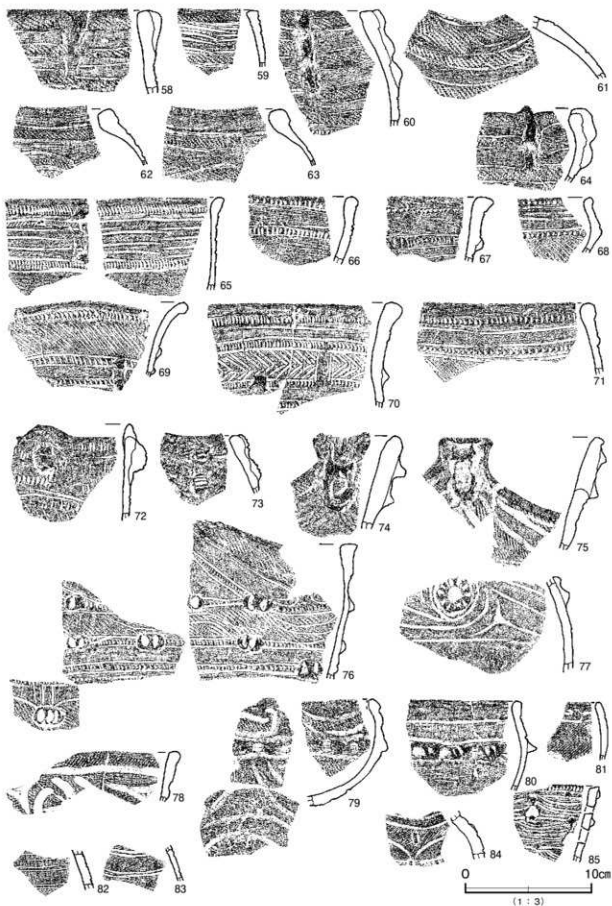
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.3]	[15.9]	[10.0]	長石・石英	にぶい青黄	普通	外面口縁部→胴部上半部まで 内面磨き	覆土上層	30%
2	縄文土器	浅鉢	[10.3]	(4.4)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→L線・横文→磨き 内面磨き	覆土中	30% PL27
3	縄文土器	鉢	-	(4.4)	4.4	珪・鉄・粘り・鉄砂	明赤褐	普通	外面沈線→L線・横文→磨き 内面磨き	覆土中	40%
4	縄文土器	浅鉢	[10.7]	2.0	[3.6]	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	外面直線的な雲彩文 内面磨き	覆土上層	10%
5	縄文土器	付付鉢	[23.0]	(12.7)	-	長石・石英	にぶい青黄	普通	外面直線的な雲彩文→L線→横文 胴部・底→内面磨き 口縁部 3段	覆土下層	30%
6	縄文土器	深鉢	-	(8.2)	2.0	長石・石英・雲母	にぶい青黄	普通	外面磨き 内面ナデ→一部粗い磨き 底部網代板	覆土下層	10%
7	縄文土器	裏面付山	-	(9.8)	7.2	珪・鉄・粘り・鉄砂	靑	普通	外面磨き 底部付山 L線・横文 内面ナデ	覆土上層	90% PL30
8	縄文土器	壺	-	-	-	珪・鉄・粘り・鉄砂	にぶい靑	普通	把手部 外・内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青黄	普通	口縁部に沈線文 内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外面沈線→L線・横文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	珪・鉄・粘り・鉄砂	にぶい靑	普通	外面沈線→無筋L線文 内面ナデ	覆土下層	



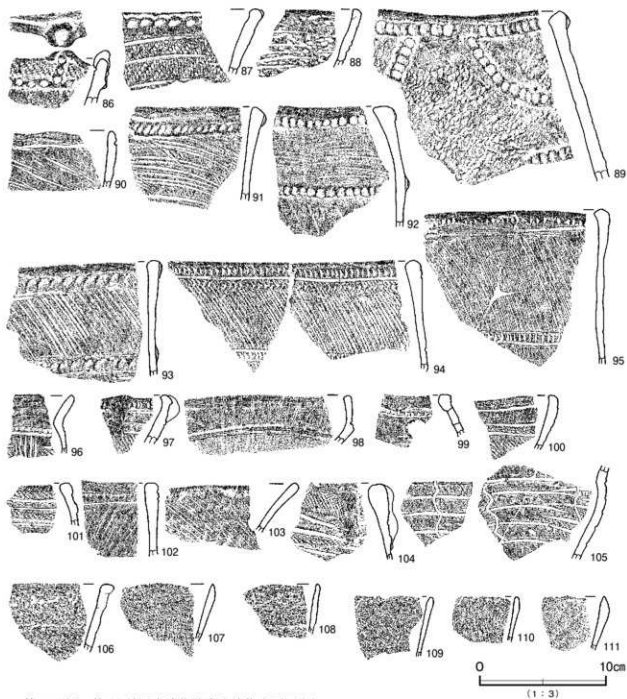
第 112 图 第 20 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第113图 第20号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



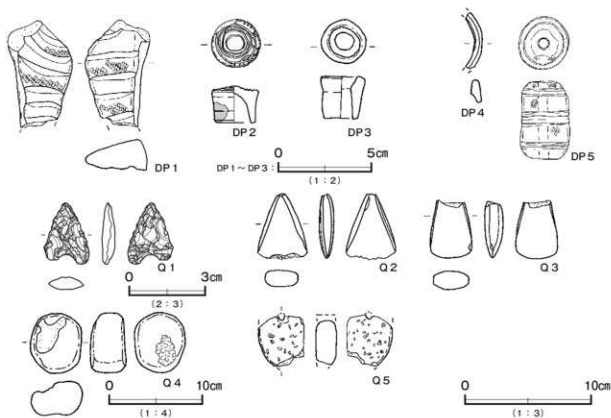
第114圖 第20号竪穴建物跡出土遺物実測圖(3)



第115図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)

第20号竪穴建物跡出土遺物観察表(第112~116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄橙	普通	外面平段竹管状工具による斜線文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色微子	にぶい黄橙	普通	把手部に竇文連続比喩文と刺突文	覆土下層	
14	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	外面比喩→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面比喩→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄砂	にぶい赤黄	普通	外面比喩→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面比喩→無面L縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤微子	橙	普通	外面比喩→LR縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面ナテ 内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・鉄砂	橙	普通	外・内面ナテ	覆土中層	



第116図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL 縄文 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→LR 縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL 縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→LR 縄文→磨き 内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	床面	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈澱→刷毛→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
30	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色質	黒褐色	普通	外面沈澱→無刷毛 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒褐色	普通	外面磨貼付→沈澱→RL 縄文 内面磨き	床面	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面刷毛→刷毛→斜線文 内面磨き	覆土下層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→斜線文 内面磨き	覆土下層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→斜線文 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒褐色	普通	外面刷毛→口部磨貼付 内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面刷毛→刷毛→斜線文 内面粗い磨き	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面刷毛→刷毛 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面刷毛 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面刷毛→付点線紋 内面ナデ	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面刷毛→付点線紋 内面磨き	覆土中層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面刷毛→付点線紋 内面ナデ	覆土中層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面刷毛→刷毛磨き 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面刷毛→刷毛 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面刷毛→刷毛→RL 縄文→刷毛 内面磨き	覆土上層	Pl.37
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面刷毛→刷毛付→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面LR 縄文→斜線紋付 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒褐色	普通	外面刷毛→刷毛→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面刷毛→刷毛→刷毛→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→磨貼付→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考			
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨貼付→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層			
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層			
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部磨き	RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層		
55	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→RL, 縄文	内面磨き	覆土上層			
56	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯上磨き	RL, 縄文→ナデ	内面磨き	覆土中層		
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯上磨き	RL, 縄文	胴部磨き	内面磨き	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文	内面磨き	覆土中層			
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面磨貼付→隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
61	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	橙	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層			
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	63と同-		
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	橙	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	62と同-		
64	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層			
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→削み	内面磨き	覆土中層			
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→削み→磨き	内面磨き	覆土中層			
67	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→削み→RL, 縄文	無文部磨き	内面ナデ	P 6		
68	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→削み→赤褐色	磨き	内面磨き	覆土上層		
69	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面赤褐色→隆帯隆起線→削み→磨き	内面磨き	覆土上層			
70	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面磨貼付→隆帯隆起線→削み→磨き	内面磨き	覆土中層			
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面赤褐色→隆帯上磨き→沈線→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯上磨き	内面ナデ	覆土下層			
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→削み→磨き	内面ナデ	覆土中層			
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→削み→磨き	内面磨き	覆土上層			
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層			
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→削み→磨き	内面ナデ	覆土上層			
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋	RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層		
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
79	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層			
80	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面磨き	胴部削み	内面ナデ	覆土上層		
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗灰褐色	普通	口縁部上磨き	三叉文	胴部上磨き	RL, 縄文	内面磨き	覆土上層
82	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	外面磨貼付	無文部磨き	内面ナデ	覆土上層		
83	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面磨貼付	無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	赤筋	
84	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→磨貼付→LR, 縄文→磨き	内面ナデ	覆土下層			
85	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面磨貼付線	内面磨き	覆土中層	赤筋		
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面	RL, 縄文→線磨貼付	内面磨き	覆土中層		
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面	LR, 縄文→線磨貼付→赤筋	内面磨き	覆土上層		
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面	LR, 縄文→沈線	内面ナデ	覆土中層		
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面	LR, 縄文→線磨貼付	内面磨き	覆土下層		
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面赤褐色→沈線	内面磨き	覆土上層			
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面赤褐色→線磨貼付	内面ナデ	覆土上層			
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄褐色	普通	外面線磨貼付→赤筋	内面磨き	赤面			
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面赤褐色→線磨貼付	内面磨き	覆土中層			
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面赤褐色→付点線線文	内面磨き	覆土上層			
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい赤褐色	普通	外面赤褐色→付点線線文	内面一部磨き	覆土中層			
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	P 2			
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	P 5・P 6			
98	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面口縁部磨き	胴部削み	内面磨き	P 6		
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面無文部磨き	内面磨き	P 7・P 10			
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面	RL, 縄文→沈線→無文部磨き	内面磨き	P 7・P 10		
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	P 11			
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面赤褐色→付点線線文	内面磨き	P 11			
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄	普通	外面赤褐色	内面磨き	P 29			
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆帯隆起線→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	P 30			
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨貼付文→付点線線文	内面磨き	P 52			
106	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面磨貼付	内面ナデ	覆土下層	口A1類		
107	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・砂粒	にぶい黄褐色	普通	外面磨貼付	内面ナデ	覆土上層	口B類		
108	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英・砂粒	橙	普通	外面磨貼付	内面ナデ	覆土中層	口B類		
109	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面磨り	内面ナデ	覆土中層	口B類		
110	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨り	内面ナデ	覆土上層	口B類		
111	縄文土器	甕	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面磨り	内面ナデ	覆土上層	口B類		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
DP 1	土甕	(5.7)	(3.5)	1.7	29.8	長石・石英・赤色粒子	黒	ミズク脚部	沈線→RL, 縄文→磨き	覆土中	3A類
DP 2	耳飾り	径 2.6	-	1.9	11.5	長石・石英	灰	凹縁に細かき削み	赤筋	覆土上層	I 3類
DP 3	耳飾り	径 2.3	-	2.2	9.2	長石・石英	黒	磨き整形		覆土上層	II 1類 PL42
DP 4	耳輪飾	径 (5.8)	-	1.8	(9.1)	長石・石英	にぶい橙	ナデ整形		覆土下層	
DP 5	土輪	径 4.2	-	6.2	119.8	長石・石英・雲母	橙	沈線→RL, 縄文・LR, 縄文を引状に施文		覆土中	PL44



番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 皿	2.44	1.81	0.52	0.20	チャート	凹底	覆土上層	
Q 2	磨製石斧	5.2	3.9	1.2	31.3	風化蛇紋岩	小形定角 刃部に割離痕	覆土上層	PL.65
Q 3	磨製石斧 (4.6)	3.3	1.5	(33.6)	輝石安山岩	小形定角		P 2	PL.65
Q 4	磨石類	6.3	5.4	3.7	177.1	輝石安山岩	裏面に凹痕	覆土下層	2c類
Q 5	浮子 (4.1)	(3.6)	1.6	(7.7)	軽石	上部に片面穿孔の貫通孔		覆土上層	

## 第 22 A～C号竪穴建物跡 (第 117～129 図 PL 9・10)

**位置** 調査B区東部のC 4 e3区、標高 20 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 表土直下で確認した。第 23・25・28・30号竪穴建物跡、第 1号遺物包含層を掘り込み、第 54・56号土坑、第 3号地下式坑、第 1号井戸に掘り込まれている。第 80号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 不整形な掘り込みと、複数のピットや炉が確認できたことから、少なくとも 3回以上の建て替えが想定できる。東部の掘り込みを壁とし、P 41～P 43・P 77～P 82・P 92・P 93・P 107・P 117～P 121・P 130・P 131などを西壁際の壁柱穴とする第 22 A号建物跡は、炉と出入口ピットが確認できないため不明瞭な部分が多いが、東西径 7.5 m、南北径 6.4 mの楕円形と推定できる。確認できる壁は、現存高で 18 cmであるが、堆積状況から確認できる壁は高さ 40 cmで、外傾している。北側の掘り込みを壁とし、P 38～P 40・P 44・P 59・P 60・P 65～P 67・P 71・P 72などを南壁際の壁柱穴とする第 22 B号建物跡は、東西径 6.5 m、南北径 7.0 mの円形あるいは隅丸方形と推定される。北側の壁は斜面部のため残存高で 20 cmほどであるが、堆積状況から推定できる壁は高さ 50～60 cmで、外傾している。南側の掘り込みを壁とし、P 89～P 95・P 107・P 117～P 120を北壁際の壁柱穴とする第 22 C号建物跡は、東西径 6.7 m、南北径 9.1 mの楕円形で、長軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ 50 cmで、外傾している。長軸方向に炉が 4基ほど一直線上に並んで確認されており、すべて本跡に伴うものと考えられる。出入口ピットは確認できなかった。

**床** ほほ平坦であるが、斜面の傾斜に沿って、北側に緩やかに傾斜している。硬化面は確認できなかった。

**炉** 8か所の火床面が確認されている。炉 1は長径 82 cm、短径 66 cmの楕円形で、深さ 22 cmの地床炉である。第 22 B号建物跡に帰属する可能性がある。炉 2から炉 8は位置的に第 22 C号建物跡に帰属する可能性が高く、ほほ一直線上に並んでいる。炉 2は長径 79 cm、短径 78 cm、深さ 40 cmの地床炉、炉 3は長径 78 cm、短径 48 cm、深さ 18 cmの地床炉である。炉 4は東西径 90 cm、南北径 88 cm、深さ 18 cmの地床炉、炉 5は長径 122 cm、短径 104 cm、深さ 25 cmの地床炉である。炉 6は P 113 と重複するため、長径は 42 cmで、短径は 42 cmしか確認できなかった。深さ 6 cmの地床炉である。炉 7・8は長径 178 cmで、P 46～P 50 と重複するため短径は 138 cmしか確認できなかった。深さ 42 cmの地床炉である。直接的な新旧関係は炉 8から炉 7への作り替えが確認されるのみであるが、すべてが同時に機能していたかは不明である。

### 炉 1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量(火床面)
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量

### 炉 3 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・骨粉少量(火床面)
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

### 炉 2 土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量(火床面)
- 3 明褐色 ロームブロック多量

### 炉 4 土層解説

- 1 灰赤褐色 灰ブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子多量、炭化粒子微量
- 3 明赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

#### 炉5土層解説

- 1 赤褐色 ロームブロック・焼土粒子多量、炭化粒子微量 (火床面)
- 2 灰赤褐色 灰ブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

#### 炉6土層解説

- 1 明赤褐色 ロームブロック・焼土粒子多量 (火床面)

#### 炉7・炉8土層解説

- 1 にいり褐色 焼土粒子多量 (炉7覆土)
- 2 褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量 (炉7覆土)
- 3 にいり褐色 焼土ブロック・白色粘土粒子多量 (炉8覆土)
- 4 にいり褐色 焼土粒子多量、白色粘土粒子中量、炭化粒子微量 (炉8覆土)
- 5 明赤褐色 焼土ブロック多量 (炉8覆土)
- 6 にいり褐色 焼土粒子多量、白色粘土粒子中量、炭化粒子微量 (炉8覆土)
- 7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子多量、炭化粒子少量 (炉8覆土)
- 8 黄褐色 ロームブロック多量 (炉8覆土)

**ピット** この範囲内で確認できたピットは135か所で、本跡以外の第23・25・28号堅穴建物跡に帰属するピットも含まれているが、それぞれの帰属を判別することは困難である。位置と深さから、本跡に伴う主柱穴と壁柱穴を想定すると、P15・P31・P114・P125・P129・P132が第22A号建物跡の主柱穴で、P11・P41・P43・P77～P82・P92・P93・P107・P117～P121・P130・P131などが壁柱穴の可能性が高い。第22B号建物跡は、P25・P36・P69・P89・P108などが位置と深さから主柱穴と考えられる。P38～P40・P44・P59・P60・P65～P67・P86～P88・P96～P106・P119・P122・P126・P127などが壁柱穴で、中でもP86・P98・P106は深さがあり、上屋を支える補助柱穴的な役割があるものと考えられる。第22C号建物跡は、P28・P58・P71・P72・P75・P111・P113などが、位置と深さから主柱穴となる可能性があり、P12～P14・P45～P57・P61～P64・P68・P73・P74・P85・P87～P91・P94・P95・P107・P123・P124・P128・P135などが位置と形状から壁柱穴となる可能性がある。

#### ピット土層解説

- |        |                       |        |                                 |
|--------|-----------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子微量        | 12 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量             |
| 2 暗褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 (3より締まり強) |
| 3 黒褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 4 暗褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 15 明褐色 | ロームブロック多量 (14より締まり弱)            |
| 5 褐色   | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 黄褐色 | ロームブロック多量                       |
| 6 暗褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子微量      | 17 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 7 黒褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 18 褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子微量                  |
| 8 黒褐色  | ロームブロック多量             | 19 明褐色 | ロームブロック多量                       |
| 9 暗褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 20 黄褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 10 暗褐色 | ローム粒子多量               |        |                                 |
| 11 褐色  | ロームブロック多量             |        |                                 |

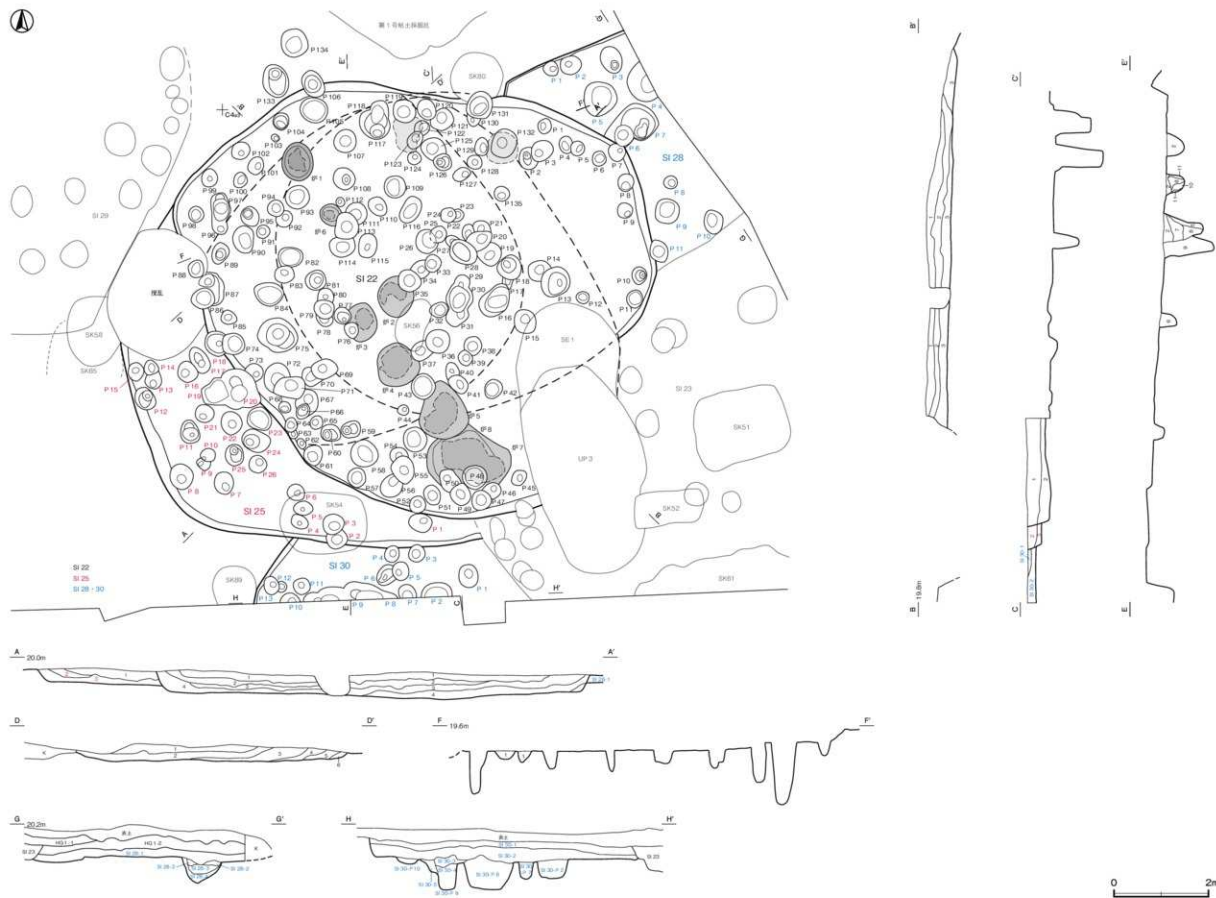
#### ピット深度表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	35	30	22	40	65	35	60	45	42	25	23	20	50	27	82	120	5	95	116	85	15	14	22	23	54
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	23	65	85	21	124	125	25	29	14	38	43	25	26	25	12	14	13	30	-	14	15	14	-	42	35
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	25	47	78	20	60	58	25	125	21	43	92	-	-	35	40	80	31	122	50	117	74	19	105	110	
番号	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
深さ	-	40	-	-	-	78	15	30	15	10	117	17	45	88	18	24	37	14	20	-	-	45	75	55	15
番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125
深さ	47	20	43	60	39	102	38	40	33	20	83	38	43	110	22	27	27	55	30	54	80	-	-	17	103
番号	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135															
深さ	41	23	16	85	-	107	127	65	70	-															

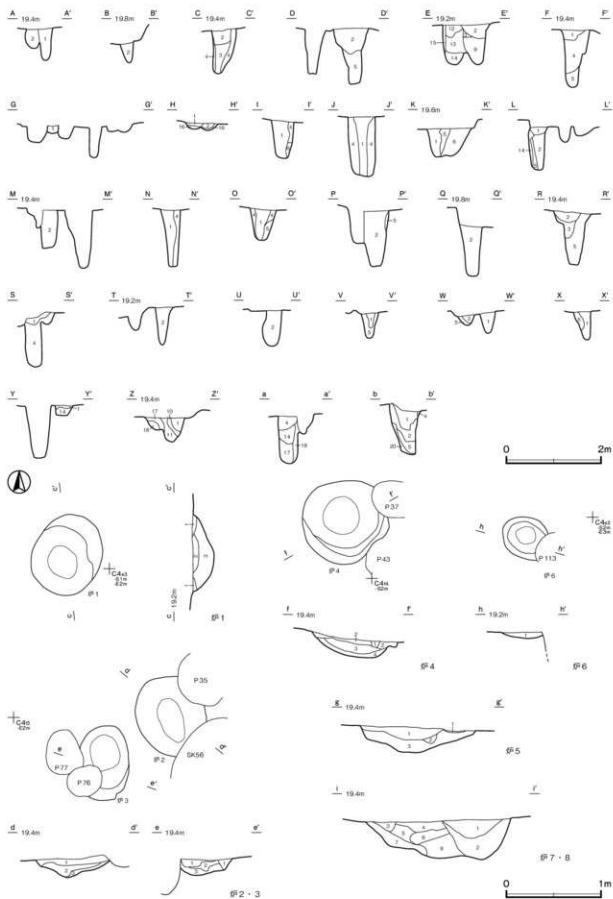
**覆土** 6層に分層できる。ローム粒子や縄文土器が多く含まれているものの、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。縄文土器などの遺物は、特に第2層以下から多量に出土している。

#### 土層解説

- |       |                       |       |                              |
|-------|-----------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量          |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 (5より明) |

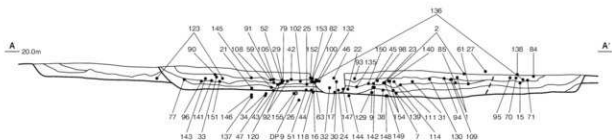
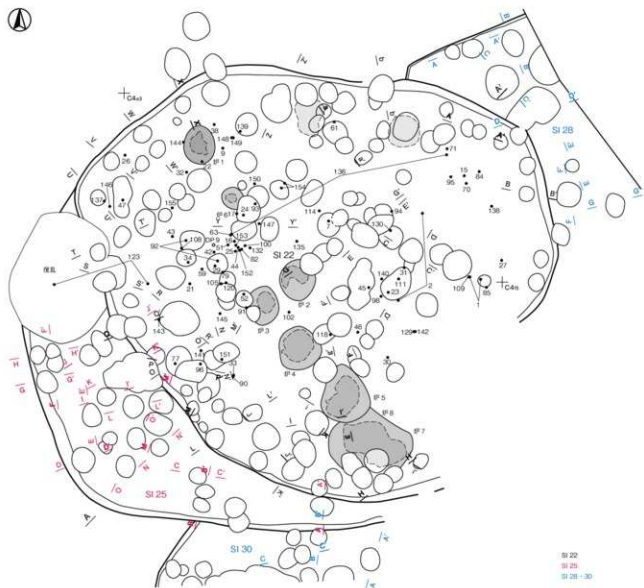


第 117 图 第 22·25·28·30 号竖穴建物跡实测图 (1)



第 118 图 第 22 号竖穴建物跡実測图

遺物出土状況 縄文土器片 21,550点 (302.9kg), 土製品 62点 (土錘 1, 土器片円盤 18, 耳飾り 9, 土版 5, 土偶 19, 有孔円盤 9, 匙形 1), 石器・石製品 105点 (石錘 2, 石鏃 5, 石匙 1, 石錘 3, 磨製石斧 8, 打製石斧 3, 石皿類 11, 磨石類 43, 砥石 11, 礫器 5, 玉類 3, 石棒・石剣類 10), 骨角製品 2点 (簪, 垂飾品)



0 2m

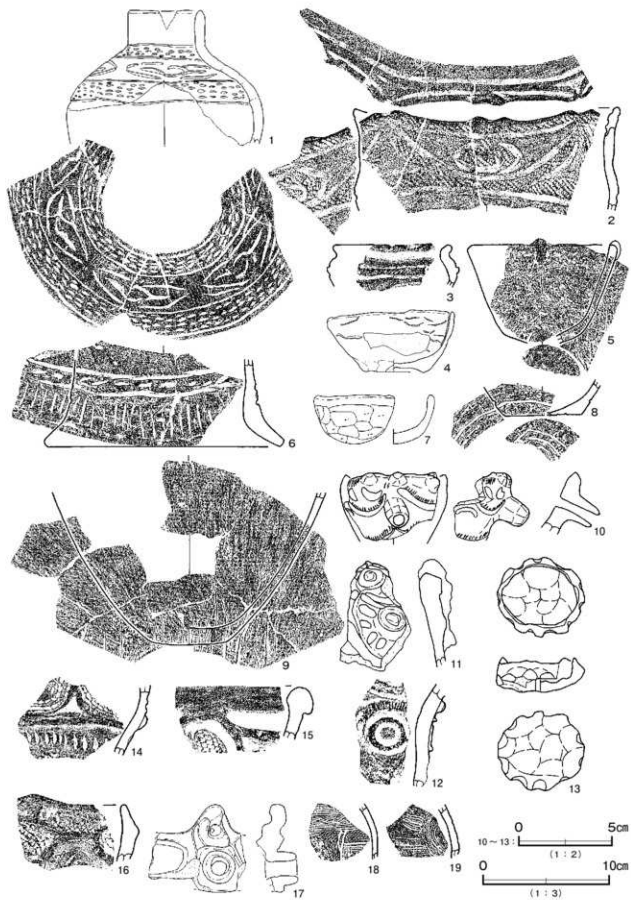
第 119 図 第 22・25・28・30 号竪穴建物跡実測図 (2)

のほか、焼成粘土塊 66 点、発泡体 8 点、石核 23 点（チャート 21、瑪瑙 1、頁岩 1）、剥片 134 点（チャート 95、黒曜石 35、瑪瑙 4）、軽石 3 点、獣骨片 13384 g、鹿角片 16.94 g などが出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて、特に床面中央付近から多量に出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 8 群および第 9 群、第 10 群の晩期前葉から中葉（27.1%）、第 5 群の後期中葉（21.8%）のもので、特に晩期中葉が多く確認できる。11・12 は土偶付深鉢の口縁部片である。B1・B2 は鹿角製品で、覆土中から出土している。

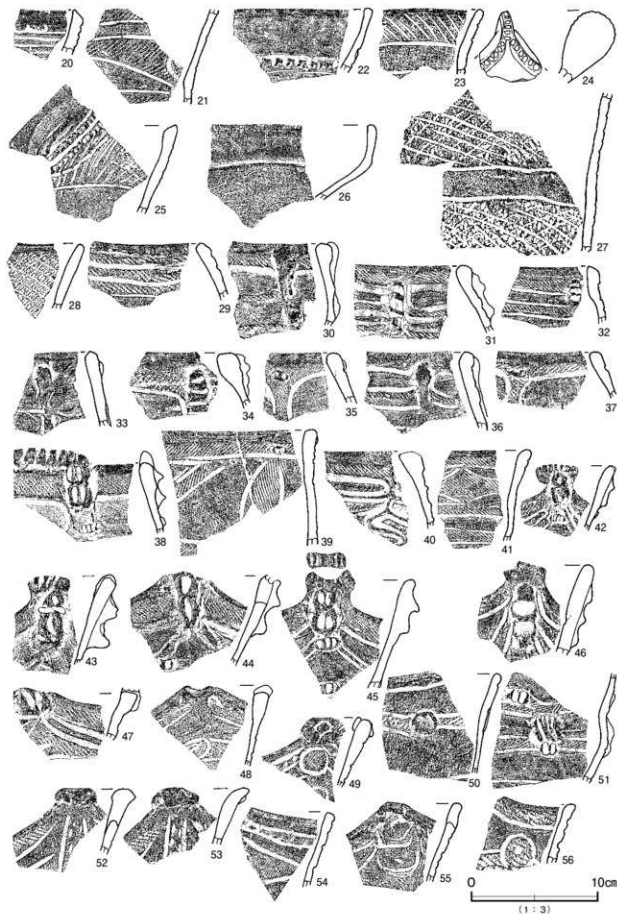
**所見** 時期は、出土土器から晩期中葉の安行 3 d 式期と考えられるが、後期中葉の土器群も多く確認できることから、一部は後期中葉にさかのぼる可能性もある。炬などの遺存状況から、第 22 A 号建物跡、第 22 B 号建物跡、第 22 C 号建物跡の順に建て替えられたものと考えられる。床面の北東部で焼土跡が 2 か所確認できるが、覆土中の焼土ブロックや焼土粒子は少なく、床面等が被熱により赤変硬化した様子も見られなかった。が跡が多数確認できたこと、発泡した土器片や焼成粘土塊が多く出土していることなどから、工房的な性格を有する建物であった可能性がある。

第 22 号堅穴建物跡出土遺物観察表（第 120 ～ 129 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	壺	56	[106]	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面磨き 入組三又文 4 単位 内面ナデ	覆土上層	20% PL30
2	縄文土器	深鉢	[208]	(8.1)	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→丸、縄文 内面磨き	覆土中層	20%
3	縄文土器	広口壺	[90]	(3.3)	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外面沈澱→丸、縄文 内面ナデ	覆土上層	10%
4	縄文土器	鉢	9.8	5.0	4.4	長石・石英・角閃石	褐色	普通	外面指捺ナデ 内面ナデ	P 50	20% PL35
5	縄文土器	鉢	[112]	8.1	[6.0]	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	30%
6	縄文土器	台付鉢	-	(6.9)	[18.3]	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面沈澱網文 下部部縁位の沈澱 内面ナデ	覆土中層	20%
7	縄文土器	鉢	6.0	3.9	-	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土下層	95%
8	縄文土器	鉢	-	(2.7)	[6.2]	長石・石英・粘石	灰黄褐色	普通	底部に内文 内面ナデ	覆土下層	10%
9	縄文土器	深鉢	-	(12.1)	6.0	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面磨きの磨き 内面ナデ	覆土下層	30%
10	縄文土器	シナヤフ	-	(5.5)	(3.2)	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ 透し孔 1か所	P 86	30%
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面ミズク土偶顔面貼付 内面ナデ	覆土中層	PL37
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	黒褐色	普通	外面ミズク土偶顔面貼付 内面ナデ	P 81	外・内面群 PL37
13	縄文土器	シナヤフ	3.9	1.3	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	指捺による磨き	P 81	100%
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面隆起帯縁 2列の角弁文 内面磨き	研 5	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外面 L.R 縄文→隆起帯縁沈澱 内面磨き	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面 R.L 縄文→隆起帯縁ナデ 内面磨き	覆土中層	
17	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい褐色	普通	注口部 外・内面磨き	覆土下層	
18	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	胴部外面網文 磨き 内面ナデ	覆土下層	
19	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	胴部外面網文 磨き 内面ナデ	覆土上層	
20	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	研 5	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	浅褐色	普通	口縁部外面磨き 胴部条線 内面磨き	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	黒褐色	普通	外面沈澱→斜線文 内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面沈澱→条線・口部磨り→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	赤褐色	普通	口縁部外面磨き 胴部条線 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面磨き沈澱→地縄文→格子目文 内面ナデ	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外面 L.R 縄文→格子目文 内面磨き	研 5	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	黒褐色	普通	外面沈澱→丸、縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	灰褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→丸、縄文 内面ナデ	覆土中層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→丸、縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面磨り→沈澱→丸、縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	黒褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	暗赤褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き・磨り付 内面ナデ	覆土中層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→丸、縄文 内面ナデ	覆土中層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き・磨り付 内面ナデ	覆土中層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→丸、縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	赤褐色	普通	外面沈澱→L.R 縄文→無文部磨き・磨り付 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・粘石	灰黄褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→丸、縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈澱→丸、縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	暗赤褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→L.R 縄文 内面ナデ	覆土中層	

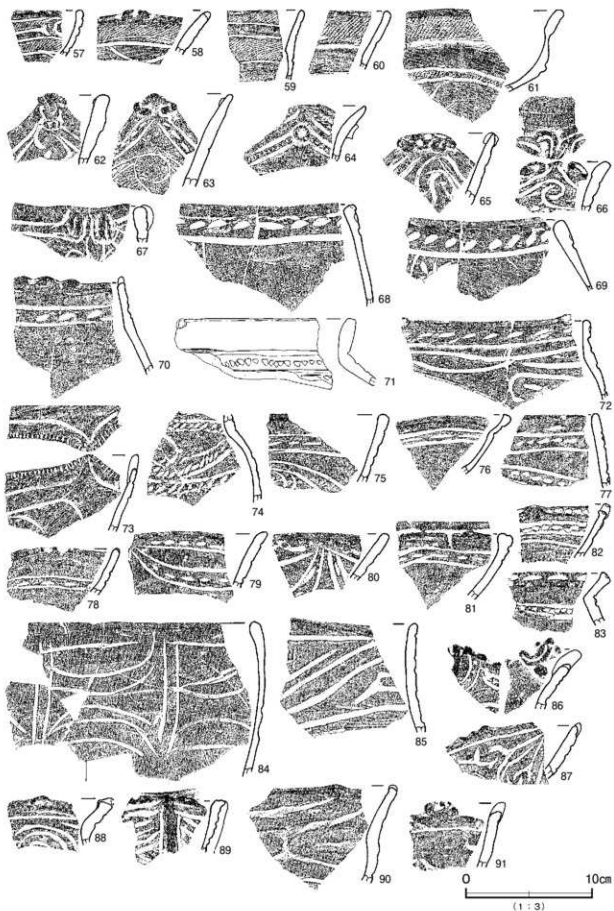


第120图 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

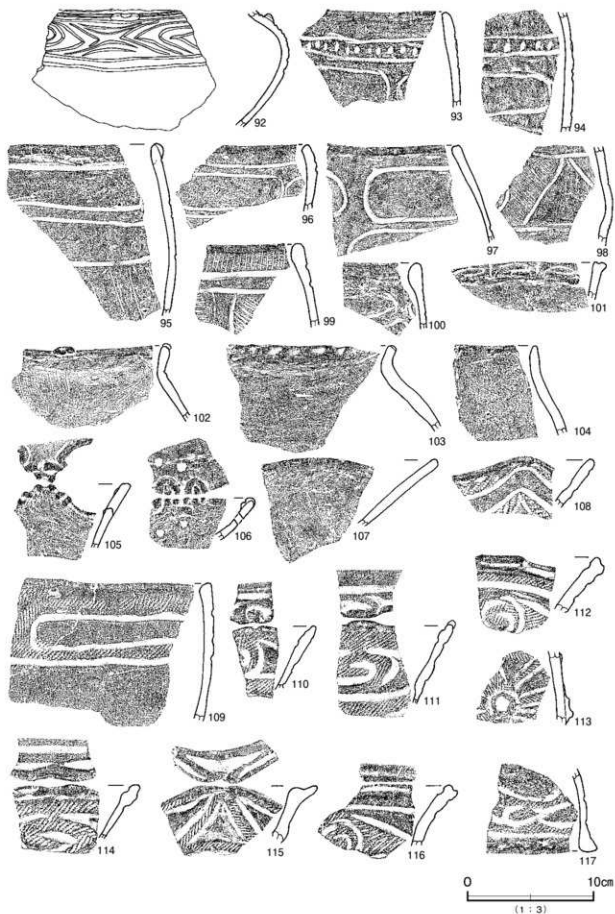


第 121 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)

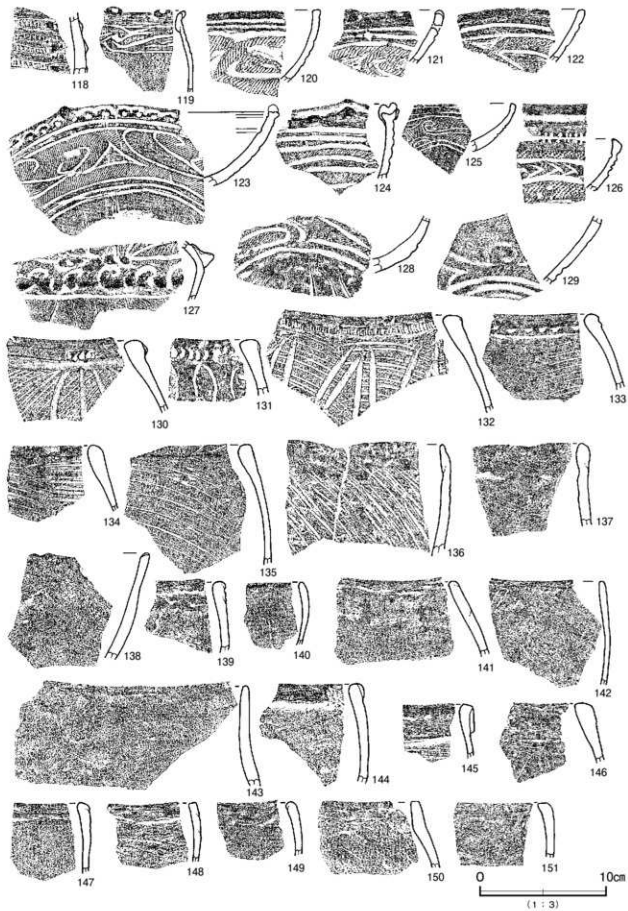




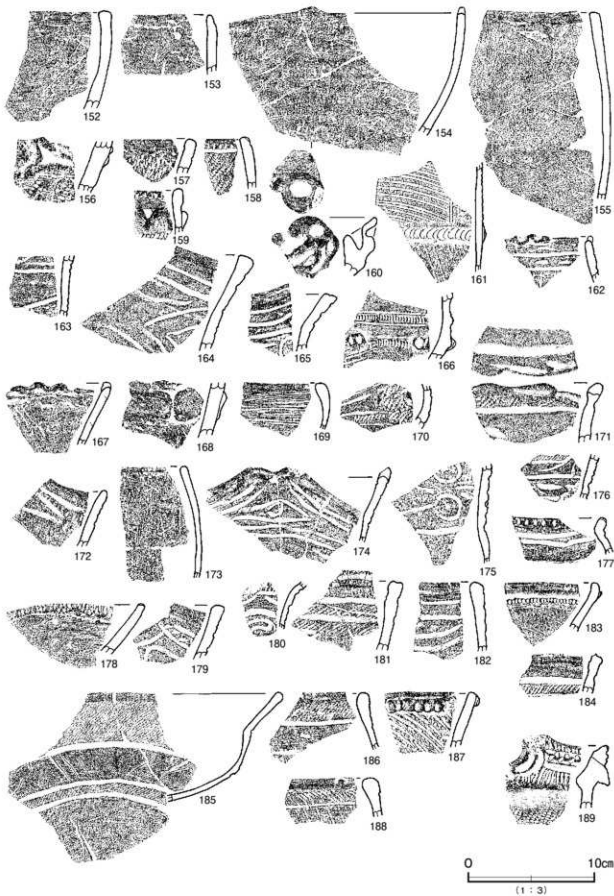
第 122 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



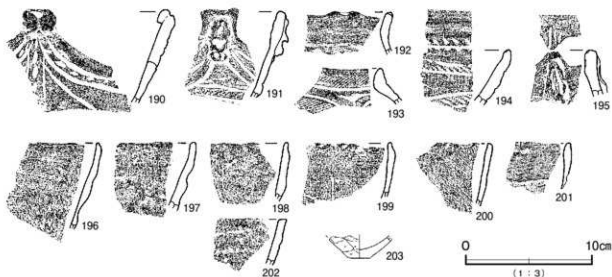
第 123 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)



第 124 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (5)



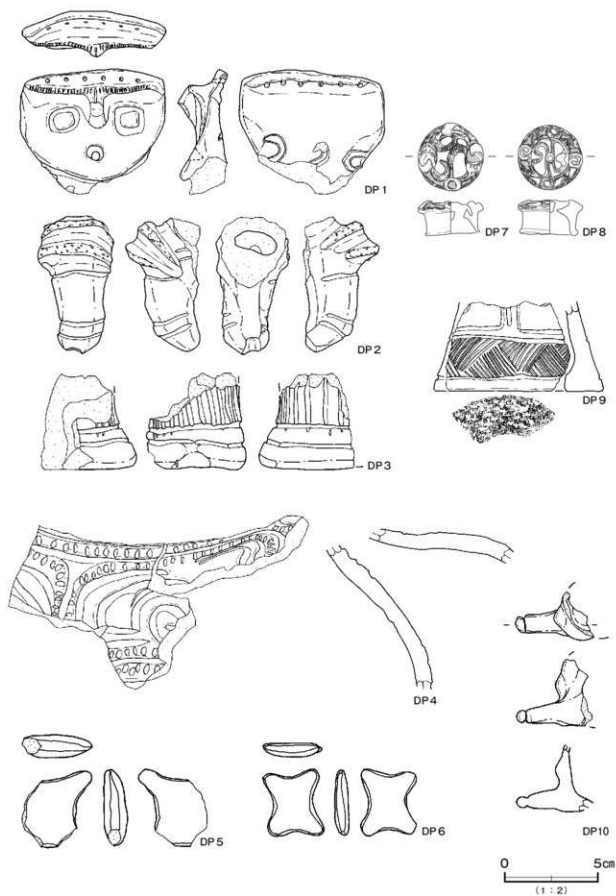
第125图 第22号竖穴建物跡出土遺物実測图(6)



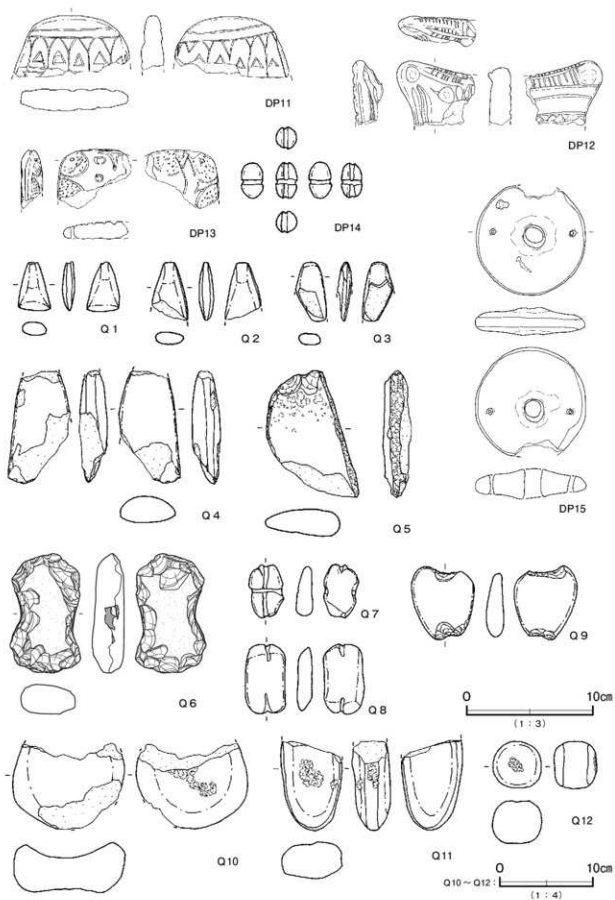
第 126 図 第 22 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (7)

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 120 ~ 129 図)

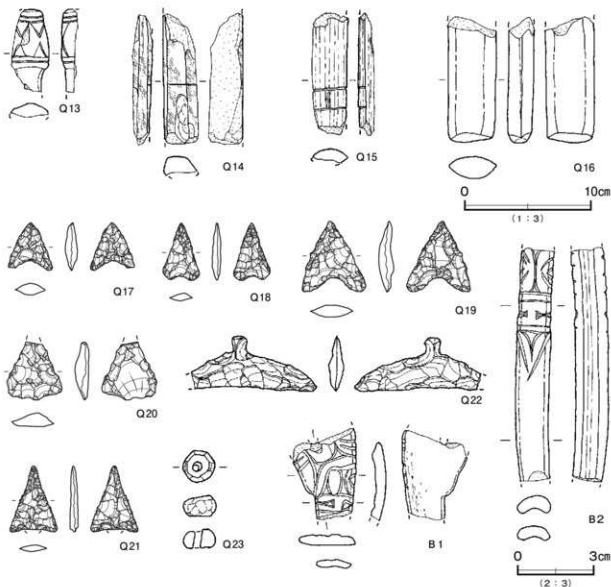
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい緑	普通	外面段起帯輪ナデ→R.L.縄文 内面磨き	覆土下層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	橙	普通	外面段起帯輪沈線→R.L.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	にぶい緑	普通	外面段起帯輪沈線→R.L.縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 靨	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段起帯輪沈線→R.L.縄文・無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→R.L.縄文 内面磨き	覆土中	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	橙	普通	外面沈線→R.L.縄文 鉢巻貼付文 内面ナデ	覆土下層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黄閃石	にぶい緑	普通	外面沈線→L.R.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 靨	普通	外面段起帯輪沈線→L.R.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	橙	普通	外面沈線→R.L.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明黄緑	普通	外面沈線→R.L.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黄閃石	にぶい黄緑	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面ナデ	覆土中	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→R.L.縄文 内面ナデ	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	にぶい緑	普通	外面沈線→R.L.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→L.R.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	にぶい靨	普通	外面沈線→無筋L.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	灰黄緑	普通	外面口縁部L.R.縄文 胴部磨い磨き 内面粗い磨き	覆土中	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 靨	普通	外面磨き面沈線→L.R.縄文・無文部磨き 胴部磨い 内面磨き	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→L.R.縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	普通	直線部に鉢巻貼付文 変形直文内無筋L.縄文 内面磨き	覆土中層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	黄 橙	普通	沈線開削交文 内面ナデ	覆土中層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黄閃石	にぶい黄緑	普通	三又状入組文 内面磨き	覆土中	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい靨	普通	直線部に鉢巻貼付文 内面磨き	覆土中層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部に 2 個一対の窟 内面ナデ	覆土中層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口縁部沈線開削交文 内面ナデ	覆土中	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靨	普通	口縁部沈線開削交文 内面ナデ	覆土中	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	にぶい緑	普通	口縁部沈線開削交文 外・内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	大口皿	-	-	-	長石・石英・黄閃石	灰 靨	普通	沈線開削交文 口縁部外面・内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	にぶい緑	普通	刺交を伴うステッキ文 内面ナデ	覆土上層	
73	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 靨	普通	口唇部に筋目 内面ナデ	覆土下層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	橙	普通	沈線開削交文による入組文 内面ナデ	覆土下層	
75	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	赤 靨	普通	沈線開削交文による入組文 内面磨き	覆土下層	
76	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	沈線開削交文 内面磨き	覆土中層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線開削交文 内面磨き	覆土中層	
78	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい靨	普通	沈線開削交文 内面磨き	覆土上層	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	沈線開削交文 内面磨き	覆土中層	
80	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	沈線開削交文による弧線文 内面ナデ	覆土下層	
81	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	沈線開削交文 口唇部に三又文 内面磨き	覆土上層	
82	縄文土器	浅鉢	-	-	-	胎土・粘石・粘砂	橙	普通	沈線開削交文 内面磨き 口唇部に刺交文	覆土中層	



第 127 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (8)



第 128 图 第 22 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (9)



第129図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(10)

第22号竪穴建物跡出土遺物観察表(第120～129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
83	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄緑	普通	沈殿期刺突文 口唇部に刺突文 内面磨き	甌土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面変形状区画文 内面ナデ	甌土上層	PL37
85	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい・橙	普通	外面三叉状人組文 内面磨き	甌土中層	
86	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄緑	普通	底腹部に鉢巻状貼付文 内面磨き	甌土上層	
87	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 靨	普通	外面三叉状人組文 内面粗い磨き	甌土上層	
88	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 靨	普通	口唇部に突起 内面磨き	甌土上層	
89	縄文土器	鉢	8.0	(4.0)	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面縁部帯貼付 内面磨き	甌土中層	10%
90	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄緑	普通	外面変形状区画文 内面磨き	甌土中層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄緑	普通	突起部に鉢巻状貼付文 内面磨き	甌土中層	
92	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面変形状区画文 内面ナデ	甌土中層	PL37
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 靨	普通	外面杓状文 内面ナデ	甌土上層	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい・黄緑	普通	外面杓状文 内面磨き	甌土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面杓状文 内面ナデ	甌土上層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面杓状文 内面ナデ	甌土中層	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・靨	普通	外面杓状文 内面ナデ	F 97	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 靨	普通	外面沈線→細面沈線文→無文部磨き 内面ナデ	甌土中層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→細面沈線文→無文部磨き 内面磨き	甌土上層	



番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 緑	普通	外面沈線→無鉛L 内面ナデ	覆土中層	
101	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面磨き 内面ナデ 口唇部に弧線文	覆土上層	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面磨き 口縁部内面磨き 胴部ナデ	覆土中層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	口唇部に押圧文 外面磨り 内面ナデ	覆土中	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土下層	
105	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 緑	普通	底面部に捺糸状胎付文 外・内面磨き	覆土中層	
106	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面磨り 焼成前穿孔の補修孔あり 内面ナデ	覆土中層	
107	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄緑	普通	外・内面磨き	覆土上層	
108	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	P.37
110	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
111	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 緑	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
112	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	P.97	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
114	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土中層	赤彩
115	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
116	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
117	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	緑	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
118	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面磨き胎付→沈線→筋ム→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
119	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 緑	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
120	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
121	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 緑	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
122	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 緑	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
123	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	P.37
124	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 緑	普通	外面沈線→無鉛L.縄文 内面磨き	覆土下層	
125	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→無鉛L.縄文 内面磨き	覆土中層	
126	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 胴部ナデ	覆土下層	
127	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
128	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい青	普通	外面沈線→無鉛L.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
129	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面ナデ	覆土中層	染色化
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外面条線→口縁部沈線→磨き胎付 内面ナデ	覆土上層	
131	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 緑	普通	外面条線胎付→弧線文 内面ナデ	覆土中層	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面条線→捺線胎付 内面ナデ	覆土中層	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	緑	普通	外面条線 口縁部縦線入り状 内面ナデ	覆土中層	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 緑	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面条線 口縁部指張ナデ 内面磨り	覆土中層	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面磨り 内面磨きナデ	覆土下層	
138	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外・内面磨き 口唇部筋ム	覆土上層	
139	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外面ナデ 内面粗い磨き	覆土下層	
140	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
142	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤緑	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土中層	製土土器。
143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
144	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土下層	
145	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤緑	普通	口縁部外面ナデ 胴部条線 内面ナデ	覆土中層	
146	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土下層	
147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
148	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	覆土下層	
149	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい青	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土下層	
150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
151	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
152	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
153	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 緑	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土上層	
154	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面磨り 内面磨き	覆土中層	
155	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土下層	
156	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄緑	普通	外面 L.R.縄文→陰磨き胎付 内面磨き	P.4	内面赤彩。
157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面 L.R.縄文→格子目文 内面ナデ	P.5	
158	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	P.5	
159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面弧彩文 内面ナデ	P.43	
160	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青	普通	口縁部に腐文準結沈線文 内面磨き	P.14	
161	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 緑	普通	外面条線→縦線胎付→区画文 内面ナデ	P.14	
162	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外面沈線縦線刺突文 内面ナデ	P.16	
163	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	緑	普通	外面沈線縦線刺突文 内面磨き	P.18	
164	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面条線刺突文 内面ナデ	P.19	
165	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	緑	普通	外面条線刺突文 内面磨き	P.19	
166	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい青	普通	外面條線帯筋沈線→筋ム→無文部磨き 内面磨き	P.26	
167	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤緑	普通	口唇部に山形文 外・内面ナデ	P.50	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
168	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外・内面ナデ	P.53	
169	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黒	普通	外面手掻竹管状工具による赤線文 内面磨き	P.55	
170	縄文土器	皿	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P.55	赤彩
171	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P.55	
172	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	外面形状区画文。内面ナデ	P.55	二次焼成
173	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	黒	普通	外・内面ナデ	P.58	
174	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	橙	普通	外面形状区画文 内面磨き	P.60	
175	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面形状区画文 内面ナデ	P.60、P.70	二次焼成
176	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明黄緑	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P.71	
177	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	黒赤灰	普通	外面磨り 口縁部内面ナデ 胴部磨り	P.71	
178	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	外・内面磨き 口唇部に網代敷。	P.73	
179	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	にぶい橙	普通	外面形状区画文 ナデ 内面磨き	P.72	
180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面形状区画文 内面ナデ	P.72	
181	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 黒	普通	外面沈線→無文L縄文 内面ナデ	P.72	
182	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面形状区画文。内面ナデ	P.75	
183	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面条線 内面磨き	P.111	
184	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面沈線→無文 網代敷縄文。内面磨き	P.111	
185	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 胴部磨り 内面磨き	P.97	
186	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P.114	
187	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面地縄文→条線→網代敷磨り 内面磨き	P.117	
188	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面条線→網代敷縄文→LR 縄文 内面ナデ	P.117	
189	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	橙	普通	外面網部LR 縄文網部付 内面ナデ	P.116	
190	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	灰黄緑	普通	外面形状区画文 ナデ 内面磨き	P.118	
191	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	灰 黒	普通	外面隆起帯沈線→LR 縄文 内面ナデ	P.131	
192	縄文土器	皿	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	口縁部凸突起 内面ナデ	P.131	
193	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P.133	
194	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	P.133	
195	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	P.133	
196	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黒	普通	外面磨り 内面ナデ 口唇部へタ切り	甕土中層	口C1類
197	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外・内面ナデ 口唇部未調整	甕土中層	口B類
198	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	にぶい黒	普通	外面磨り 内面ナデ 口唇部へタ切り	甕土中層	口C1類
199	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黒	普通	外面磨り 内面ナデ 口唇部未調整	甕土下層	口B類
200	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 口唇部未調整	甕土下層	口A2類
201	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黒	普通	外面磨り 内面ナデ 口唇部未調整	甕土下層	口A2類
202	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・硝子・鉄砂	にぶい黒	普通	外面網部 内面ナデ 口唇部へタ切り	甕土上層	口C2類
203	縄文土器	製塩	-	(1.8)	1.8	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面磨り 内面ナデ 底部磨り	甕土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(6.6)	7.8	2.5	(82.9)	長石・石英	にぶい橙	板状	甕土中層	4a類 PL40
DP 2	土 偶	(7.2)	(4.0)	(4.1)	(82.5)	長石・赤色粒子	灰 黒	ミミズ輪部 断面ソケット受部状	甕土下層	3a類
DP 3	土 偶	(5.1)	(5.2)	(5.1)	(104.6)	長石・石英・雲母	黒 黒	大形の中空土偶の脚部。	甕土下層	5d類
DP 4	土 偶	(9.2)	(15.9)	-	(126.0)	長石・石英・赤色粒子	橙	中空 外・内面ナデ整形	甕土中層	5c類
DP 5	土 偶	(4.1)	(3.6)	1.3	(13.6)	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	X字状 ナデ整形	甕土上層	6c類
DP 6	土 偶	3.5	3.2	0.8	8.7	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	X字状 ナデ整形	甕土下層	6g類 PL40
DP 7	耳飾り	径3.62	-	1.87	8.5	長石・石英	にぶい黄緑	透かし彫り	甕土下層	PL42 赤彩
DP 8	耳飾り	径3.43	-	1.91	11.0	長石・石英	にぶい黄緑	透かし彫り	甕土上層	PL42 赤彩
DP 9	土 俵	(4.8)	(8.8)	-	(57.2)	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	筒型 外面磨き 内面ナデ 底部網代敷	甕土下層	1d類 PL40
DP10	彫 形	(4.1)	(2.5)	0.5	(10.2)	長石・石英	黒	手づくお彫形	甕土上層	
DP11	土 版	(4.9)	(9.1)	2.3	(69.8)	長石・硝子・鉄砂	橙	1字文と三角文の交互施文	甕土上層	PL43
DP12	土 版	(5.1)	(6.3)	2.4	(51.3)	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	人面表現	甕土上層	PL43
DP13	土 版	(4.7)	(6.0)	1.8	(40.1)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	縦線文内1箇の小突を充填 貫通孔1か所	甕土中層	PL43
DP14	土 鉢	2.8	1.7	1.7	8.4	長石	にぶい黒	長軸十字状の有溝	甕土中	
DP15	有孔四輪	径8.6	-	2.3	136.8	長石・石英	にぶい赤黒	ナデ整形 貫通孔3か所	甕土中	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	3.9	2.6	1.0	15.2	純緑岩	小形定角式	甕土下層	PL46
Q 2	磨製石斧	(4.6)	(2.8)	1.2	(21.8)	角閃石	小形定角式	甕土下層	
Q 3	磨製石斧	(4.7)	(2.4)	1.1	(13.1)	緑色岩	小形定角式	甕土下層	P.55 PL46
Q 4	磨製石斧	(8.9)	(4.9)	2.3	(126.5)	角閃石片岩	定角式	甕土下層	
Q 5	磨製石斧	(10.0)	(7.4)	1.2	(185.5)	玄武岩	未成品 表面・側面に敲打痕 上端部に割離痕	甕土中層	
Q 6	打製石斧	9.47	5.60	2.54	181.1	輝石安山岩	分銅形 側面に磨痕	甕土中	
Q 7	石 錘	4.2	(2.7)	(1.4)	(19.2)	砂 岩	有溝	甕土上層	1類
Q 8	石 錘	5.5	3.2	1.2	33.4	輝石安山岩	長軸上に切り目	甕土中層	2類
Q 9	石 錘	5.9	5.0	1.4	51.6	砂 岩	長軸上に打ち欠き	甕土上層	3類
Q 10	石頭類	(9.0)	(11.7)	5.4	(83.6)	安山岩	表面に磨り面 裏面に凹痕	甕土中層	2類
Q 11	磨石類	(9.4)	(6.4)	4.0	(135.2)	輝石安山岩	表面に磨り面 表面・側面に凹痕	甕土中層	2a類
Q 12	磨石類	4.8	5.1	4.5	(19.9)	多孔質輝石安山岩	表面・側面に磨痕 表面に凹痕	甕土中層	2b類
Q 13	石 剣	(6.5)	(3.0)	(1.3)	(25.3)	粘板岩	頭部に1字文	甕土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	石 刷	(10.3)	(2.3)	(1.5)	(54.7)	緑色片岩	下部部分近に細線による横位沈線文	覆土下層	
Q 15	石 刷	(9.7)	(2.8)	(1.2)	(40.9)	粘板岩	下部部分近に細線による横位沈線文	覆土下層	PL45
Q 16	石 刷	(10.0)	3.9	2.1	(145.8)	粘板岩	研磨整形	覆土下層	
Q 17	石 磨	1.90	1.76	0.49	1.1	チャート	凹溝	覆土中層	PL47
Q 18	石 磨	2.28	1.45	0.35	0.8	瑪瑙	凹溝	覆土下層	PL47
Q 19	石 磨	2.81	2.54	0.59	2.8	チャート	凹溝	覆土上層	PL47
Q 20	石 磨	(2.32)	2.20	0.57	(2.4)	流紋岩	有茶	覆土上層	
Q 21	石 磨	(2.63)	1.88	0.33	(1.2)	チャート	有茶	覆土上層	PL47
Q 22	石 匙	2.1	(5.0)	0.6	4.25	チャート	横長	P 55	PL47
Q 23	玉 類	径1.3	-	0.8	1.89	蛇紋岩	小玉 横面研磨整形 片面穿孔	覆土中層	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
B 1	赤銅品	(3.6)	2.6	0.6	(4.16)	黄 銅	I 字文による胎文 着色。	覆土上層	PL48
B 2	鏝	(9.3)	1.4	0.7	(9.53)	黄 銅	I 字文による胎文 沈澱内黒色 着色。	覆土中層	PL48

### 第 25 号竪穴建物跡 (第 117・119・130～133 図 PL 9・10)

位置 調査B区東部のC4段区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土直下で確認した。第30号竪穴建物跡を掘り込み、第22号竪穴建物、第54号土坑に掘り込まれている。第23号竪穴建物跡とも重複するが、新旧関係は不明である。

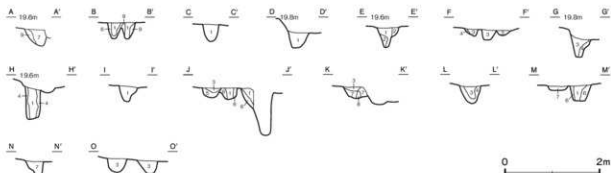
規模と形状 東部を第22号竪穴建物に掘り込まれているため、南西部の一部を確認したのみである。壁や壁柱穴から推定される規模と形状は、東西径は約9.5m、南北径は約9.0mの不整形円形で、壁は高さ25～30cmで、外傾している。

床 は平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 掘り込み内で確認できたピットは26か所であるが、本跡に帰属するピットは、第22号竪穴建物跡に帰属するとしてピットの中にも含まれていると考えられる。P1～P15は位置と形状から壁柱穴と考えられ、第22号竪穴建物の帰属としてP45～P47・P96～P98・P100・P101・P117・P123・P124・P126・P128・P135などは、位置と形状から本跡の壁柱穴と考えることも可能である。主柱穴は位置と深さから、第22号竪穴建物跡の帰属としてP25・P28・P31・P53・P55・P58・P61・P74・P81・P114などが想定できる。出入口ピットは確認できなかった。

#### ピット土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 明 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黄 褐色	ロームブロック多量 (Sより締まり強)	7 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 黄 褐色	ロームブロック多量 (2より締まり弱)
4 明 褐色	ロームブロック多量	9 明 褐色	ローム大ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黄 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量		



第 130 図 第 25 号竪穴建物跡実測図

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
深さ	36	-	-	35	36	38	28	32	-	-	43	40	22	13	72	23	25	42	25	38	33	35	34	8	28	29

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや縄文土器が多く含まれているものの、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。縄文土器などの遺物は、特に第1・2層から多量に出土している。

**土層解説**

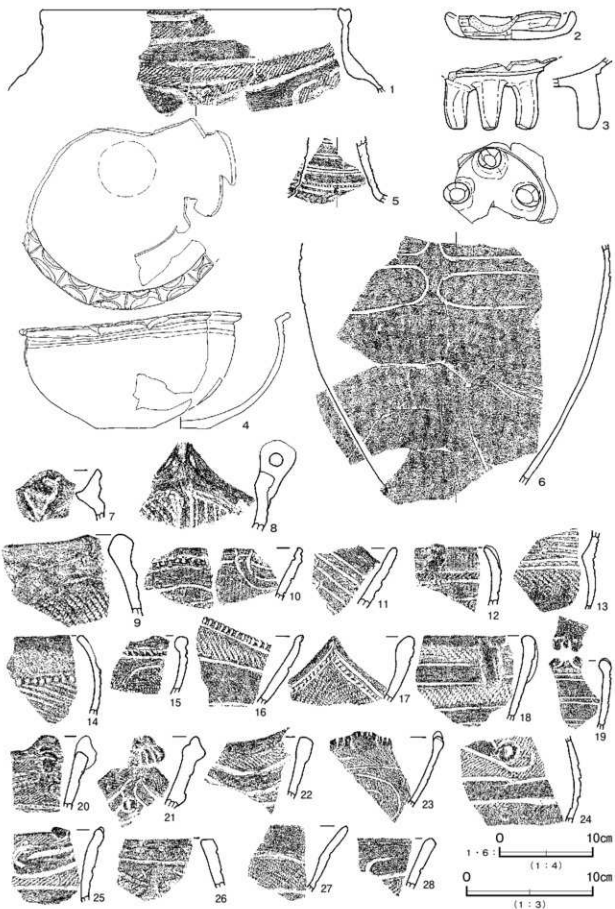
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量  
2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片3,081点(40.78kg)、土製品6点(土器片円盤2、土版2、土鍋1、有孔円盤1)、石器・石製品17点(磨製石斧1、打製石斧1、石皿類1、磨石類8、石錘1、礫器1、石剣類1、玉類1、独鈷石1、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、発泡土器1点、石核6点(チャート4、黒曜石2)、剥片23点(チャート13、黒曜石10)、獣骨片11.4g、イノシシの歯3.62gなどが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8～10群の晩期前葉から晩期中葉(30.4%)である。そのほか第4群の後期前葉(15.4%)、第5群の後期中葉(22.9%)がやや高率で確認できる。

**所見** 時期は、出土土器と遺構の形状から、晩期中葉の前浦式期と考えられる。第22号堅穴建物に掘り込まれているが、出土遺物から確認できる時期差はほとんどなく、比較的短期間に建て替えが行われたものと考えられる。

第25号堅穴建物跡出土遺物観察表(第131～133図)

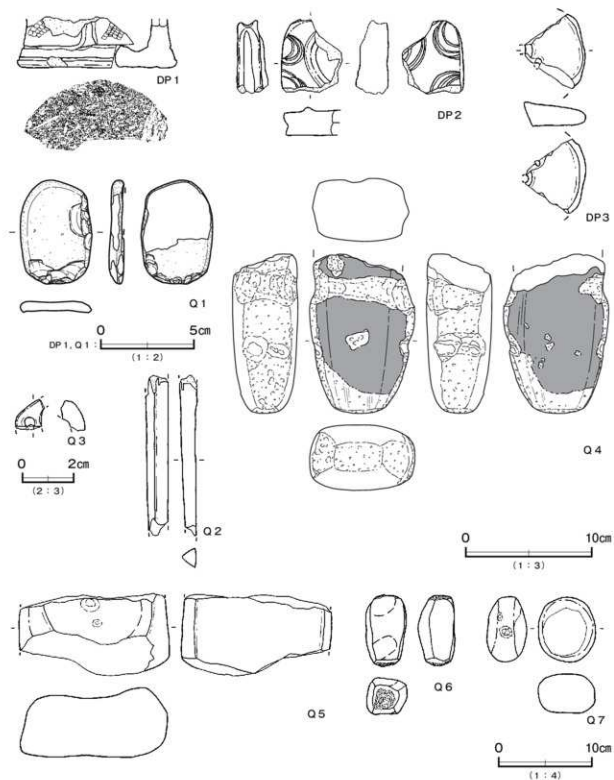
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	[32.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈澱→無面L縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層 5%		
2	縄文土器	皿	[10.2]	2.1	8.8	長石・石英・雲母	赤灰	普通	外面内面	内面磨き	覆土下層 40%		
3	縄文土器	斲片鉢	-	(5.6)	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面ナデ	内面磨き	覆土中層 PL35		
4	縄文土器	浅鉢	[17.2]	9.2	4.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起起文	磨き	内面ナデ	覆土下層 60% PL35	
5	縄文土器	皿	-	(5.2)	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起起文	磨き	内面ナデ	覆土上層 10%	
6	縄文土器	深鉢	-	(19.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面杓状文	磨き	内面ナデ	覆土下層 10%	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面	内面磨き	覆土中層		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面杓状文	磨き	内面ナデ	覆土中層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面隆起帯磨き	→RL縄文	内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	口縁部外面に縦線磨き	内面磨き	覆土上層		
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	横帯文	外面沈澱→RL縄文	内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面磨き	RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面系線→削み	内面磨き	覆土上層		
15	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆起帯磨き	削み	RL縄文	内面磨き	覆土下層
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面磨き	削み	RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層
19	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面横帯文	内面磨き	覆土中層		
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒色粒子・雲母	褐色	普通	外面沈澱→RL縄文	内面ナデ	覆土中層		
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯磨き	削み	RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤褐色	普通	外面隆起帯磨き	削み	RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層
23	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層		
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→無面L縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層		
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈澱→細帯文	削み	RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層
27	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰赤褐色	普通	外面沈澱→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面磨き	削み	RL縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層
30	縄文土器	広口皿	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱	削み	内面磨き	覆土中層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面杓状文	内面磨き	覆土下層		
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面杓状文	内面ナデ	覆土中層		
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面杓状文	無文部磨き	内面粗い磨き	覆土下層	



第 131 图 第 25 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 132 図 第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第133図 第25号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表(第131~133図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・灰・粘石	に高い赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面工字文に近い文様 内面磨き	覆土中層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・灰・粘石	に低い橙	普通	外面弧線文 内面ナデ	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	橙	普通	外面変形状区画文 内面ナデ	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	にぶい橙	普通	外面沈線→細面沈線文充填 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	橙	普通	外面弧線文 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	にぶい橙	普通	外面細かい網文文充填 内面磨き	覆土下層	
41	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	橙	普通	口縁細かいB突起 内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	にぶい赤黒	普通	口唇部押圧文 内面磨き	覆土中	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	にぶい赤黒	普通	外面横位沈線→矢羽状沈線文 内面磨き	覆土上層	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	口縁部にB突起 内面磨き	覆土上層	
45	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	口唇部に沈線文 外面ナデ 内面磨き	覆土上層	
46	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	雲彩文。外面沈線→LR縄文 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外面沈線→無面L縄文 内面ナデ	覆土中	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
49	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
50	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	にぶい赤黒	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	外面赤線→横位沈線→RL縄文 内面ナデ	覆土中	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄黒	普通	外・内面ナデ 集合口縁。	覆土下層	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面赤線→横線貼付 内面ナデ	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面赤線→断面弧文 口縁部張り出し状 内面ナデ	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	灰 黒	普通	外面赤線 内面ナデ	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 15	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外・内面磨き 口縁部に線紋	P 15	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線間刻文 内面ナデ	P 22	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外・内面ナデ	P 17	
63	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	にぶい橙	普通	外・内面磨き	P 24	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・黒	明赤黒	普通	外・内面磨き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 俵	(26)	8.4	-	(47)	長石・石英	にぶい橙	筒型 沈線→LR縄文 底部に網代文	覆土上層	14番 PL40
DP 2	土 俵	(5.7)	(4.8)	2.6	(69.2)	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	表面に突起帯貼付 側面に凹線	覆土下層	
DP 3	有孔円盤	(6.0)	(4.8)	2.0	(42.0)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	ナデ彫形	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	埋 部	5.5	3.8	0.8	192	細密貫輝石安山岩	右側面・下端面を削磨	覆土下層	
Q 2	石 硯	(12.7)	(1.4)	(1.7)	(41.2)	粘板岩	研磨彫形	覆土下層	
Q 3	玉 盤	(1.2)	(1.2)	1.0	0.09	電質燧灰岩	片面穿孔 穿孔中に線紋。	P 5	
Q 4	焼結石	(12.7)	8.4	5.2	(782.0)	輝石安山岩	表裏面に磨痕 側面・下端面に敲打痕	覆土下層	PL45 座
Q 5	石製盤	(8.5)	(15.7)	7.4	(1467.2)	角閃石黒雲母花崗岩	表裏面磨痕 表面に凹線	覆土下層	芝盤
Q 6	磨石盤	7.3	4.2	3.9	187.0	流紋岩	自然礫の上下端に敲打痕	P17	紅盤
Q 7	磨石盤	6.8	6.0	4.0	237.8	輝石安山岩	表裏面・側面に磨痕 一側面に凹線	覆土下層	2号盤

## 第28号竪穴建物跡 (第117・119・134・135図 PL10)

位置 調査B区東部のC4e5区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層下で確認した。第22・23号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西部を第22号竪穴建物、南部を第23号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は4.9mで、東西軸は29mしか確認できなかった。方形あるいは楕円形と推定され、東西軸方向はN-65°-Eである。壁は高さ6~10cmで、外傾している。

床 やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 掘り込み内で確認できたピットは11か所であるが、本跡に帰属するピットは、第22号竪穴建物跡に帰属するものの中にも含まれていると考えられる。P1~P3・P10・P11は壁際近くに巡っているピットで、第22号竪穴建物跡の帰属としたP2やP12なども、位置と形状から本跡に帰属するものとも考えることも可能である。P6・P9は位置と深さから主柱穴と考えられる。





第134図 第28号竪穴建物跡実測図

ビット土層解説

- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |       |           |

ビット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
深さ	20	25	60	53	25	30	40	20	55	16	8

**覆土** 単一層。ロームブロックが多く含まれている黒褐土で、自然堆積である。第2～4層は、P4の覆土である。

土層解説

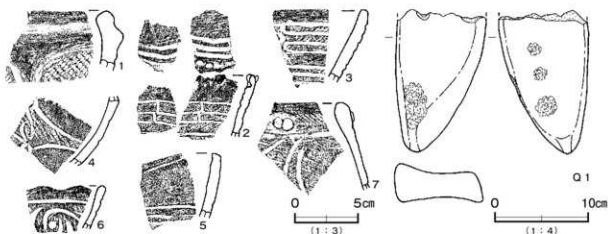
- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量     |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   |

HG1 土層解説

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 389点 (5.03kg)、土製品1点 (土器片円盤)、石器2点 (磨製石斧、石皿類) のほか、発泡土器1点、剥片2点 (黒曜石) などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、いずれも小破片で、主体となるのは第5群の後期中葉 (30.0%)、第4群の後期前葉 (22.7%)、第2群の中期後半 (14.5%) のものである。

**所見** 時期は、出土遺物が少なく時期の判断が困難であるが、遺構の形状から中期後半、あるいは後期後葉と考えられる。



第135図 第28号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 28 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・紫・黒粒	橙	普通	外面RL縄文→隆起帯器内面 内面磨き	P 3	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・紫・黒粒	灰 濁	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き 内面磨き	P 4	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 5	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 9	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 濁	普通	外・内面磨き 口縁部内面凹線状	P 10	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・紫・黒粒	地 灰	普通	外面玉磨き三叉文 沈線→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・紫・黒粒	明赤濁	普通	外・内面磨き	P 10	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石皿類	(149)	(94)	4.0	(100.5)	緑色岩	表裏面に凹痕	覆土下層	2類 PL48

## 第 30 号竪穴建物跡 (第 117・119・136 図 PL10)

位置 調査B区東部のC4g3区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第22・23・25号竪穴建物、第54号土坑に掘り込まれている。第89号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

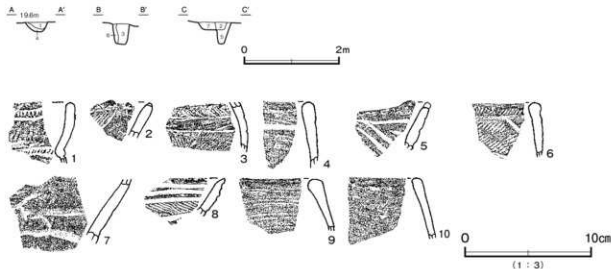
規模と形状 北部を第25号竪穴建物、東部を第23号竪穴建物に掘り込まれ、南部が調査区域外に延びているため、東西径は6.0m、南北径は13mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。壁は高さ22cmで、外傾している。

床 やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 掘り込み内で確認できたピットは13か所である。本跡に帰属するピットは、第23・25号竪穴建物跡の帰属した中にも含まれているものと考えられるが、判断できない。P8・P9は位置と深さから支柱穴の可能性がある。

## ピット土層解題

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 黄褐色 | ロームブロック多量             |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量             | 7 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量             |       |                       |



第 136 図 第 30 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
深さ	21	41	44	-	46	17	35	58	54	12	-	-	-

**覆土** 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。第3～5層は、P9の覆土である。

**土層解説**

- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量               | 5 黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量             |       |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片 118点 (1.41kg)、石器2点 (磨製石斧、石皿類) が、出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、いずれも少量でかつ小破片であり、時間的なまとまりを捉えることができない。

**所見** 時期は、出土遺物が少なく、建物跡の形状も不明瞭なことから、詳細な時期は不明である。

**第30号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第136図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	灰褐色	普通	外面沈線→L形縄文	内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L形縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石灰	にぶい黄褐色	普通	外面横波沈線→矢羽状沈線→無文部磨き	内面ナデ	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	鉄・鉄屑・鉄好	明黄褐色	普通	外・内面ナデ		覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	黒褐色	普通	三又状入組文	内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	褐色	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	鉄・鉄屑・鉄好	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ		覆土中	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L形縄文→無文部磨き	内面磨き	P13	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	鉄・鉄屑・鉄好	にぶい黄褐色	普通	外面無線	内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	鉄・鉄屑・鉄好	にぶい黄褐色	普通	外面磨り	内面ナデ	覆土中	

**第23号竪穴建物跡 (第137～141図 PL10)**

**位置** 調査B区東部のC4区5区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 表土下で確認した。第28・30号竪穴建物跡、第1号遺物包含層を掘り込み、第22号竪穴建物、第51・52・61号土坑、第3号地下式坑、第1号井戸に掘り込まれている。第25号竪穴建物跡との新旧関係は不明である。

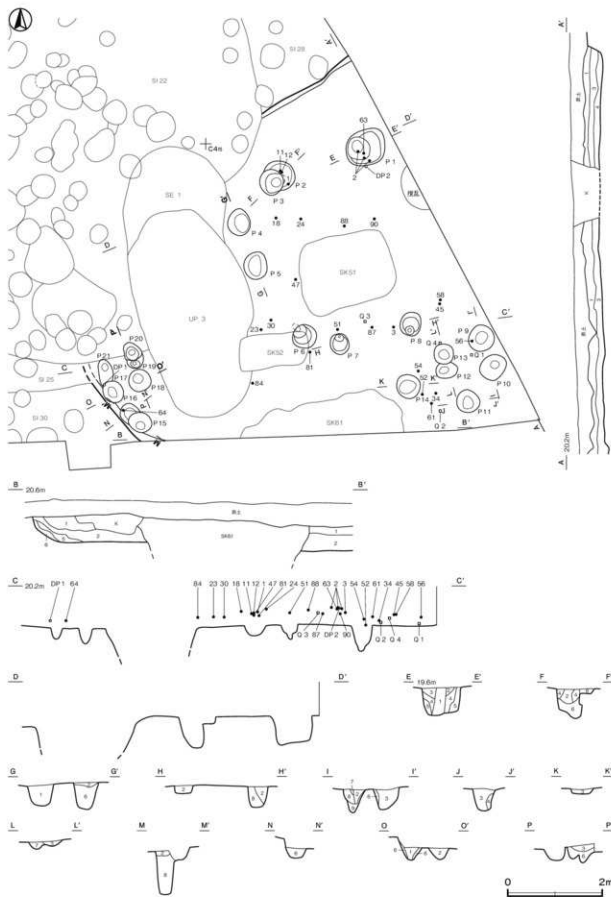
**規模と形状** 東部及び南部が調査区域外に延び、また北西部を第22号竪穴建物に掘り込まれているため、東西径は8.0mで、南北径は7.5mしか確認できなかった。残存部から楕円形または隅丸方形と推定できる。土層堆積状況から確認できる壁は高さ50cmで、外傾している。

**床** ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**ビット** 21か所。P1・P3・P4・P10は位置と深さから支柱穴の可能性がある。P15～P17・P21は位置と形状から壁柱穴と考えられるが、北壁際では壁柱穴が確認できなかった。あるいはこれらにP9・P12～P14と第22号竪穴建物跡に帰属するP2～P7・P23～P26・P33～P35・P49～P53など弧状に巡るようにも見える小ビット群と合わせて、壁柱穴が密に巡る別の1棟を想定することも可能である。その場合、南北約10mの大形の円形の建物跡が想定される。

**ビット土層解説**

- |       |                        |       |                       |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量                | 6 明褐色 | ロームブロック多量             |
| 2 黒褐色 | ロームアブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色  | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 3 暗褐色 | ロームアブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 褐色  | ロームアブロック多量             | 9 黄褐色 | ロームブロック多量             |
| 5 褐色  | ロームアブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |       |                       |



第 137 图 第 23 号竖穴建物跡実測図

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	58	11	62	55	45	20	17	20	45	50	48	15	13	11	95	24	28	25	32	40	28

**覆土** 6層に分層できる。第3・4層はロームブロックが多く含まれている暗褐色土で、埋め戻されている可能性が高い。

**土層解説**

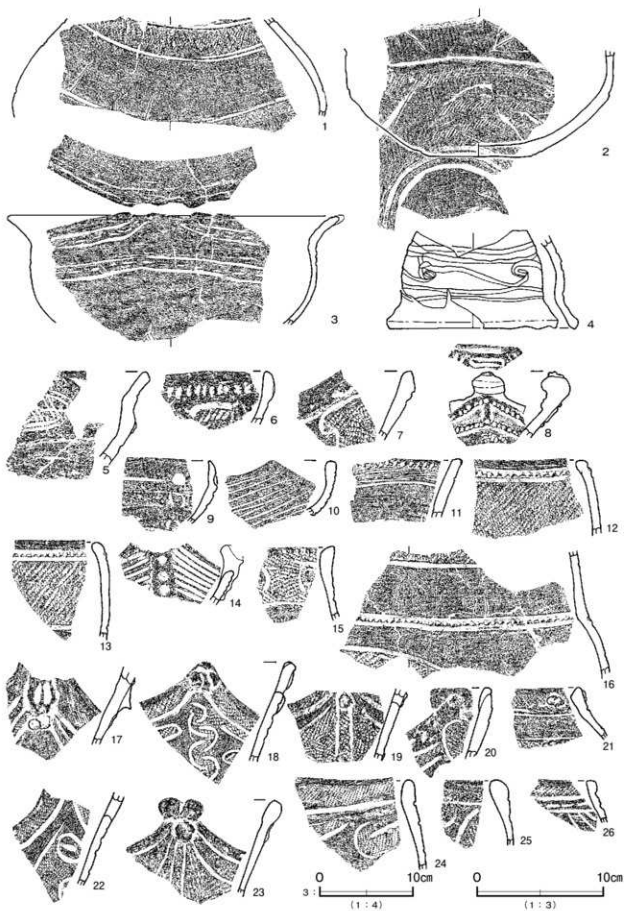
- |       |                       |       |           |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量               | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量             | 6 明褐色 | ロームブロック多量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片 3,873点 (57,24kg)、土製品5点 (土器片円盤3、土版1、土偶1)、石器 22点 (磨製石斧5、石皿類1、磨石類8、砥石7、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、石核8点(チャート)、剥片18点(チャート11、黒曜石7)などが出土している。遺物は、覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8～10群の晩期前葉から中葉(54.2%)のものである。DP 1は、覆土下層から出土した中空土偶の肩部である。

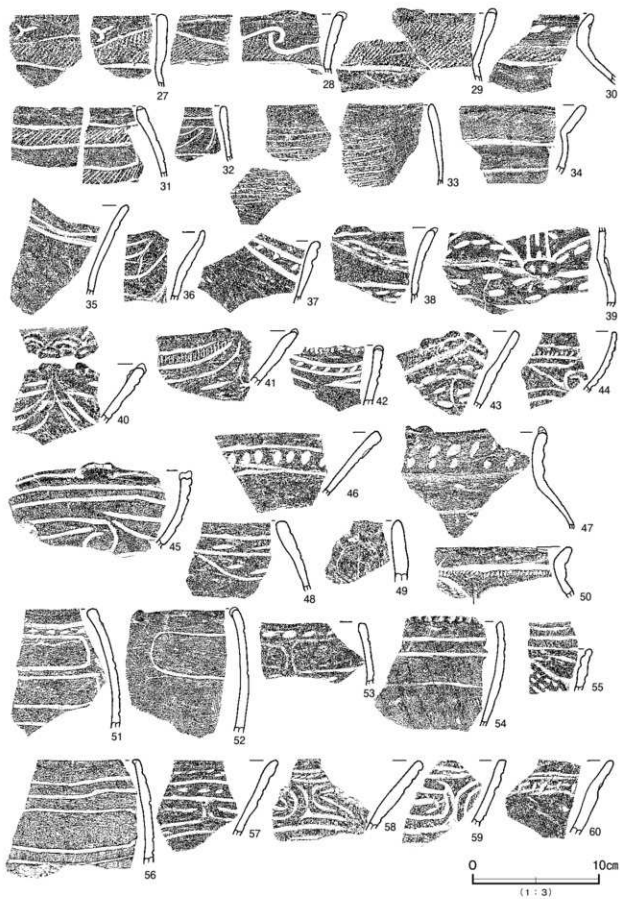
**所見** 時期は、出土土器から晩期前葉から中葉の安行3b式期から安行3c式期と考えられる。

## 第23号堅穴建物跡出土遺物観察表(第138～141図)

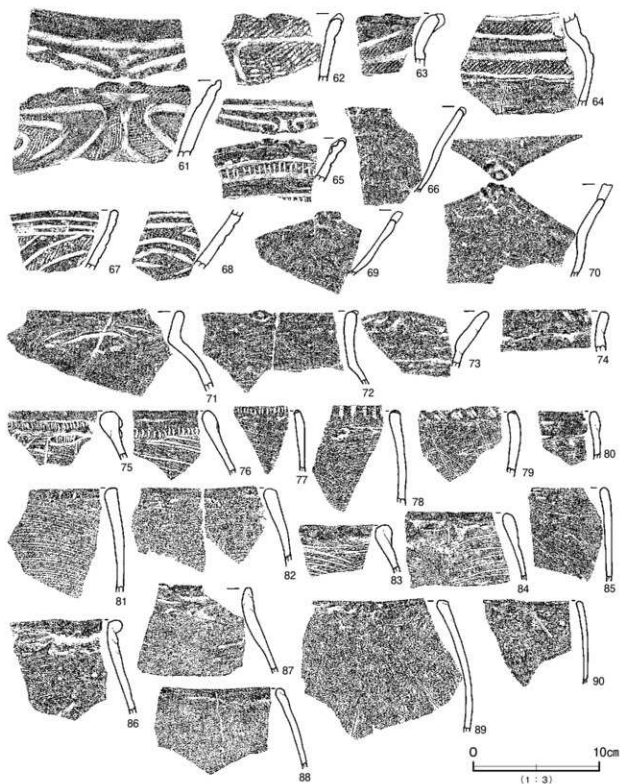
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考		
1	縄文土器	広口壺	-	(8.3)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL縄文→無文部器	外面ナデ	内面磨き	覆土中層	10%
2	縄文土器	鉢	-	(8.5)	8.3	屈・屈・粘付・粘付	灰黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土上層	30%
3	縄文土器	浅鉢	[3.7]	[11.2]	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面沈線間刻突文による弧線	内面磨き	内面磨き	覆土中層	PL37
4	縄文土器	かわい鉢	-	(7.4)	[13.2]	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面S字状入組文	内面ナデ	内面ナデ	覆土上層	30%
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	赤黒	普通	外面半張竹管文	内面磨き	内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面LR縄文→沈線→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	橙	普通	外面RL縄文	内面磨き	内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面磨文	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
10	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→条線→口縁部磨み→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	外面磨文	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄黒	普通	外面RL縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄黒	普通	外面磨文	内面磨き	内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→磨貼付→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→磨貼付→LR縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無貼付→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面ナデ	内面ナデ	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文	内面磨き	内面磨き	覆土中	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	黄 橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	広口壺	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	灰黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	口縁部内面磨き	外面ナデ	覆土中層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→磨貼付→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→磨貼付→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土中層	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面磨文	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	灰黄黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部器	内面磨き	内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・粘付・粘付	黒 灰	普通	外・内面ナデ	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨文	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外・内面磨き	内面磨き	内面磨き	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面磨文	内面ナデ	内面ナデ	覆土上層	



第138图 第23号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)



第 139 图 第 23 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)

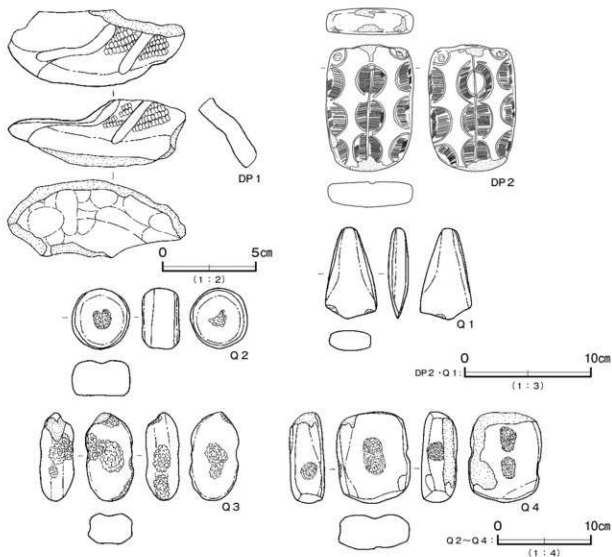


第140図 第23号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第23号竪穴建物跡出土遺物観察表(第138～141図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	黄橙	普通	外面沈澱黒刻文による弧線文 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	浅鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい褐	普通	外面細密沈澱文充填 粗い磨き 内面磨き	覆土上層	





第 141 図 第 23 号竪穴建物跡出土遺物 (4)

第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 138 ~ 141 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線間刺突による気線文 内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土上層	
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面菱形状区画文 内面ナデ	覆土中層	
45	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中層	
46	縄文土器	浅鉢	-	-	-	磁・磁・焼酎・鉄屑	にぶい橙	普通	外面沈線間刺突文 内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	磁・磁・焼酎・鉄屑	にぶい橙	普通	口縁部に複列の刺突文 磨き 内面ナデ	覆土中層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	磁・磁・焼酎・鉄屑	にぶい黄緑	普通	外面沈線間刺突文 内面ナデ	覆土中層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面気線文 内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	黄 橙	普通	外面沈線間に細かい刺突文 内面ナデ	覆土中層	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	外面杓状文 内面ナデ	覆土中層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面杓状文 内面磨き	覆土下層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	磁・磁・焼酎・鉄屑	黄 橙	普通	外面磨減のため調整不明瞭 杓状文 内面磨き	覆土下層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面杓状文 胴部下半部 内面ナデ	覆土下層	
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	磁・磁・焼酎・鉄屑	にぶい黄緑	普通	外面規則的刺突文充填 内面磨減	覆土上層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面杓状文 内面ナデ	覆土下層	
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面三叉状入組文 内面ナデ	覆土上層	
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	外面菱形状区画文 内面磨き	覆土中層	
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	磁・磁・焼酎・鉄屑	にぶい黄緑	普通	外面入組文 内面磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
60	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・焼	普通	外面沈澱陶刻文 内面ナデ	覆土上層	
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄焼	普通	外面沈澱→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・焼	普通	外面沈澱→無筋し縄文 内面ナデ	覆土上層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈澱→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈澱→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
65	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	外面刷毛状の刷毛文 内面磨き	覆土中	
66	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄焼	普通	外・内面磨き 口唇部に突起	覆土中	
67	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈澱→無筋し縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄焼	普通	外面沈澱→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
69	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・焼	普通	外面磨り→指頭ナデ 口唇部に突起 内面磨き	覆土上層	
70	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄焼	普通	波重部に跡状貼付文 ナデ 内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・焼	普通	外・内面磨き	覆土上層	
72	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄焼	普通	外・内面磨き 口縁部に突起1か所	覆土中	
73	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄焼	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	外面条線→線刻貼付→沈澱→磨貼付 内面ナデ	覆土中	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→線刻貼付 内面ナデ	覆土上層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄焼	普通	外面条線 内面ナデ 口唇部削み	覆土上層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄焼	普通	外面条線 内面ナデ 口唇部削み	覆土上層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄焼	普通	外面磨曲工具による条線 内面磨き 口唇部削み	覆土上層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄焼	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・焼	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄焼	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面線刻貼付→条線 内面ナデ	覆土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤焼	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土上層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄焼	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土下層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄焼	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土中層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤焼	普通	外・内面磨きのため調整不可解	覆土上層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・焼	普通	外面磨り・磨き 内面ナデ	覆土上層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤焼	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 俵	(3.6)	9.3	(4.2)	(60.8)	長石・石英	橙	中空 沈澱→RL 縄文	覆土下層	5b類
DP 2	土 版	10.0	6.9	2.1	221.6	長石・石英・赤色粒子	黒	黒縄文に刷毛沈澱文 束状	覆土中層	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	7.2	4.0	1.6	54.3	蛇紋岩	定向式	覆土下層	PL46
Q 2	磨石類	6.3	5.9	3.8	166.2	多孔質安山岩	表裏・側面に磨痕 表裏面に凹痕	覆土下層	2c類
Q 3	磨石類	9.2	5.0	3.5	(172.8)	輝石安山岩	表裏・側面に凹痕	覆土中層	3a類 PL48
Q 4	磨石類	9.5	7.7	3.7	(146.3)	砂 岩	表裏面に磨痕 表裏・側面に凹痕	覆土下層	2d類

## 第24号竪穴建物跡 (第142～145区 PL 8・10)

位置 調査B区西部のC4区、標高20mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層下で確認した。第27・29号竪穴建物跡を掘り込み、第57号土坑に掘り込まれている。第63・64・85号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 斜面部を大きく掘り込んで構築されている。北部が後世に削平されているため、壁は南東部しか捉えられなかったが、掘削内で確認できたピットを本跡のものとすると、長径約7m、短径5.1mの楕円形で、長径方向はN-56°-Wである。壁は斜面上部が高さ110cmで、ほぼ直立している。

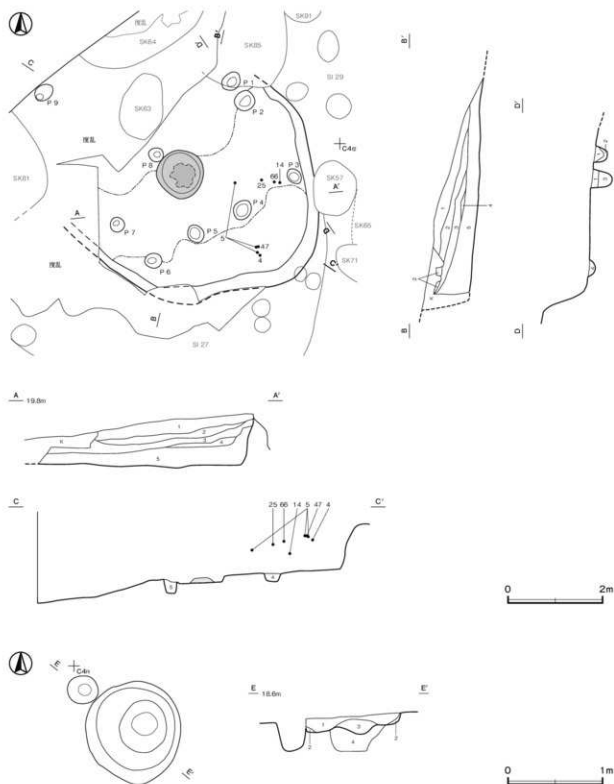
床 ほぼ平坦である。灰跡を中心に硬化面が確認できる。

炉 床面のほぼ中央に付設されている。径100cm、深さ12～20cmの円形の床床炉で、覆土中に焼土粒子が多く含まれているものの、底面の被熱による赤変硬化はほとんど見られなかった。掘方底面がピット状に下がっており、埋堯炉だった可能性がある。

炉土層解説

- |                 |                                  |
|-----------------|----------------------------------|
| 1 明黄褐色 焼土粒子多量   | 4 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量（掘方覆土） |
| 2 明褐色 ロームブロック多量 |                                  |
| 3 明赤褐色 焼土ブロック多量 |                                  |

ピット 9か所。いずれも径が30～40cm、深さが30cm前後で、覆土はローム粒子が多く含まれている褐色土である。



第142図 第24号竪穴建物跡実測図

## ピット土層解説

1 黒 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 明 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 暗 褐色	ロームブロック多量	5 明 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 明 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量		

## ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	29	45	18	15	24	14	19	30	33

**覆土** 5層に分層できる。第1～4層は自然堆積、第5層はロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第1・2層から縄文土器片がやや多く出土している。

## 土層解説

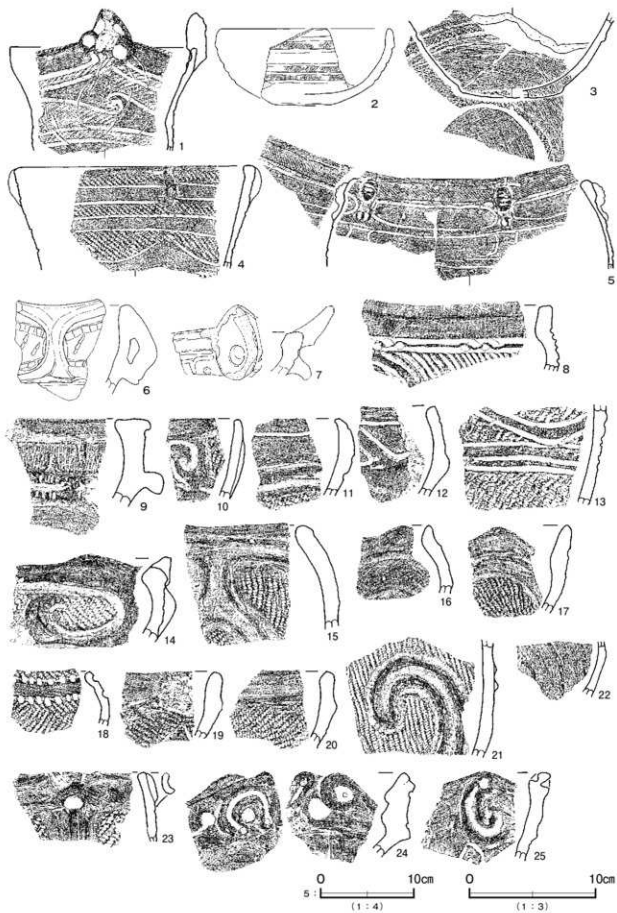
1 黒 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 明 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黄 褐色	ロームブロック多量
3 暗 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 縄文土器片3,637点(68.21kg)、土製品10点(土器片円盤9、耳飾り1)、石器22点(磨製石斧4、打製石斧1、石皿類2、磨石類6、砥石5、礫器3、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、石核4点(チャート3、黒曜石1)、剥片26点(チャート17、黒曜石9)などが出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群の中期後半(31.0%)のもので、そのほかに第4群の後期中葉(23.7%)、第5群の後期中葉(18.1%)のものがやや高率で確認できる。

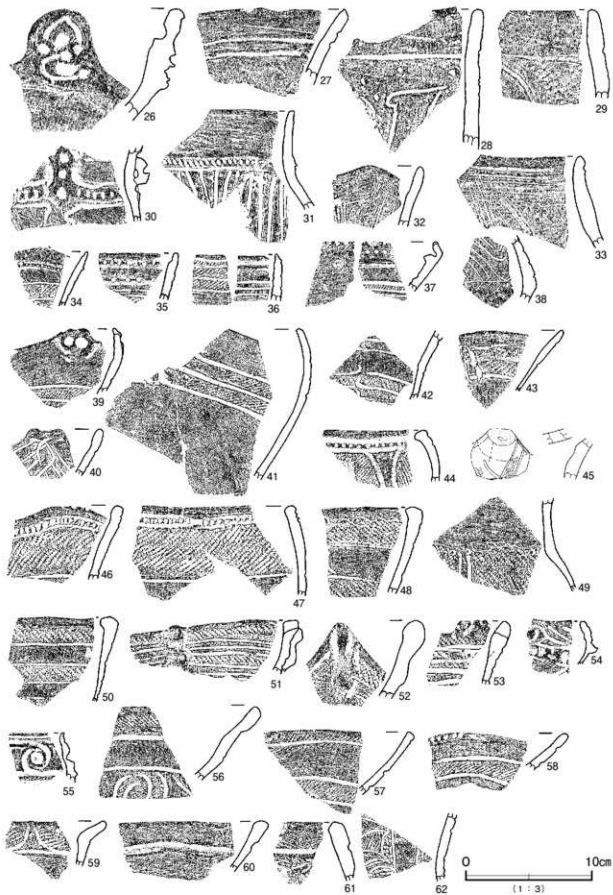
**所見** 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期後半の加曾利EⅡから加曾利EⅢ式期と考えられる。後期中葉から中葉の土器は、台地上の遺構からの流れ込みと考えられる。

## 第24号竪穴建物跡出土遺物観察表(第143～145図)

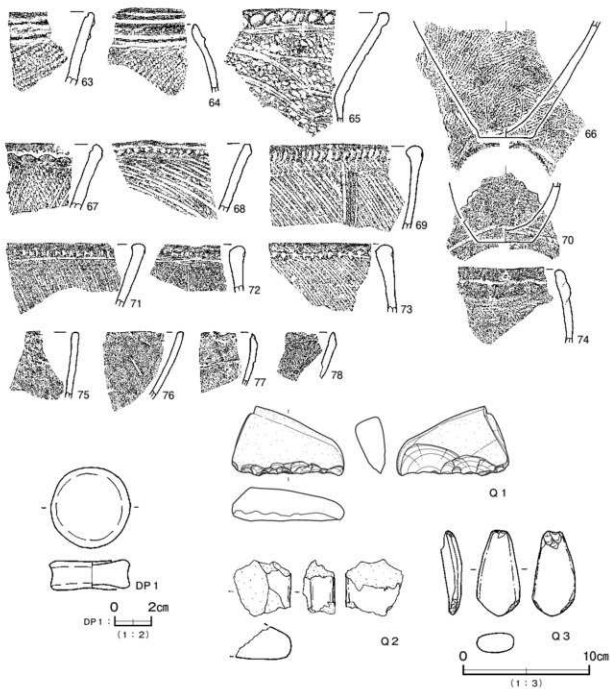
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	[148]	[11.0]	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	5%
2	縄文土器	浅鉢	[13.3]	6.1	4.0	長石・石英・雲母	暗	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	20%
3	縄文土器	鉢	-	(6.7)	(7.0)	長石・石英	黒	普通	外面彫刻帯沈澱→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	10%
4	縄文土器	深鉢	[18.4]	[8.1]	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	外面彫刻帯沈澱→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	5%
5	縄文土器	深鉢	[24.6]	[9.3]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面彫刻帯沈澱→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	10% PL37
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面彫刻帯彫孔彩文	内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面磨き		覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面沈澱文光塊	内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面口縁部沈澱→条線彫刻→彫刻帯交互三ツ文	内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文光塊	内面磨き	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面LR縄文	内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面彫刻帯による区画文	内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面0段3条のLR縄文→沈澱→沈澱磨き	内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面LR縄文→彫刻帯磨き	内面磨き	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文→彫刻帯磨き	内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面彫刻帯付文	内面磨き	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文	内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面沈澱→目状縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面沈澱→LR縄文	内面磨き	覆土中層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面LR縄文	内面磨き	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面LR縄文→彫刻帯磨き	内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	外面彫刻帯付文	内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	瓢型	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文→彫刻帯磨き	内面磨き	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面C字状貼付文	磨き	覆土上層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	口縁部外面C字状貼付文	内面磨き	覆土中層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	口縁部外面C字状貼付文	内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面ナデ	内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面無文部磨き	内面磨き	覆土中	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面LR縄文縦文付文	内面ナデ	覆土中	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面彫刻帯による区画文	内面磨き	覆土中	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面彫刻帯沈澱→條線貼付→口縁部磨き	内面ナデ	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文→磨削状工具による条線	内面磨き	覆土中	



第 143 图 第 24 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 144 图 第 24 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (2)



第145図 第24号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第24号竪穴建物跡出土遺物観察表(第143~145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨南状工具による条線 内面磨き	覆土上層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	縄	普通 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	縄	普通 外面LR縄文→沈線 内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
37	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	縄	普通 外面ナデ 内面横帯文・磨き	覆土上層	
38	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰	縄	普通 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	縄	普通 外面ナデ→横帯文 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰	縄	普通 外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	縄	普通 外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	

第 24 号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 143 ~ 145 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
43	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
44	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層		
45	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層		
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き	口縁部削入	内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐灰	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	口縁部削入	内面磨き	覆土上層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起帯縁沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部ナデ	内面ナデ	覆土上層		
54	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層		
55	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面沈澱→無面L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
56	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→R.L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
58	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→無面L. 縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層		
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→無面L. 縄文	内面磨き	覆土中層		
60	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面内リ	内面ナデ	覆土上層		
61	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→細密沈澱文充填	内面ナデ	覆土上層		
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→細密沈澱文・刺突文充填	内面ナデ	覆土中		
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面R.L. 縄文→縁線貼付	内面磨き	覆土上層		
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面L.R. 縄文→縁線貼付→口縁部磨き	内面磨き	覆土上層		
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面L.R. 縄文→縁線貼付→沈澱	内面ナデ	覆土上層		
66	縄文土器	深鉢	-	(9.3)	(4.2)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面L.R. 縄文	内面ナデ	覆土中層	30%	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面L.R. 縄文→縁線貼付→手取竹管文	内面磨き	覆土中層		
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面地縄文→縁線・縁線貼付	内面磨き	覆土上層		
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→付点線縄文→区画文間磨き	内面ナデ	覆土中		
70	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	(4.4)	長石・石英	灰黄褐色	普通	外・内面ナデ	底部削り	覆土上層	10%	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面条線→付点線縄文	内面磨き	覆土上層		
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層		
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	外面条線→付点線縄文	内面ナデ	覆土上層		
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面内リ	内面ナデ	覆土中層		
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面ナデ		覆土上層		
76	縄文土器	製埴	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面内リ	口唇部へリ切り	内面ナデ	覆土上層	□C1 類
77	縄文土器	製埴	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面内リ	口唇部未調整	内面ナデ	覆土中層	□B 類
78	縄文土器	製埴	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面内リ	口唇部未調整	内面ナデ	覆土上層	□B 類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
Dp1	耳飾り	径4.3	-	1.6	32.3	長石・石英	にぶい橙	白型 ナデ整形	覆土中	1・2 類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	礎石	5.5	8.9	2.7	128	安山岩	下端面を両方内から削離	覆土上層	
Q 2	磨製石斧 (4.5)	(4.6)	(2.5)	(60.4)	板状岩	定角式	覆土上層		
Q 3	磨石類	6.7	3.4	1.7	50.9	砂岩	自然礫の上下面に敲打痕	覆土上層	4a 類

## 第 27 号堅穴建物跡 (第 146・147 図 PL 8・10)

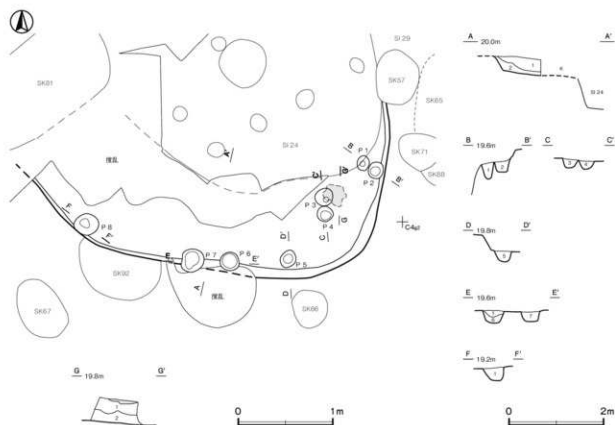
位置 調査B区西部のC4区1区、標高20mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層下で確認した。第92号土坑を掘り込み、第24号堅穴建物、第57・81号土坑に掘り込まれている。第29号堅穴建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 斜面部を大きく掘り込んで構築されている。北部が第24号堅穴建物に掘り込まれていることから、東西径は7.3mで、南北径は3.7mしか確認できなかった。楕円形と推定され、東西軸方向はN-85°-Wである。壁は高さ15~30cmで、外傾している。

床 斜面の傾斜に沿って、やや北側に下がっている。硬化面は確認できなかった。





第 146 図 第 27 号竪穴建物跡実測図

ビット 8 か所。いずれも径 30～50cm、深さ 30cm 前後で、覆土はローム粒子が多く含まれている褐色土である。壁際に位置しており、壁柱穴と考えられる。

ビット土層解説

- |        |                         |        |                     |
|--------|-------------------------|--------|---------------------|
| 1 褐 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 5 暗 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 明 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 明 褐色 | ロームブロック多量           |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 7 褐 褐色 | ロームブロック多量           |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |        |                     |

ビット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
深さ	35	24	18	20	24	21	26	29

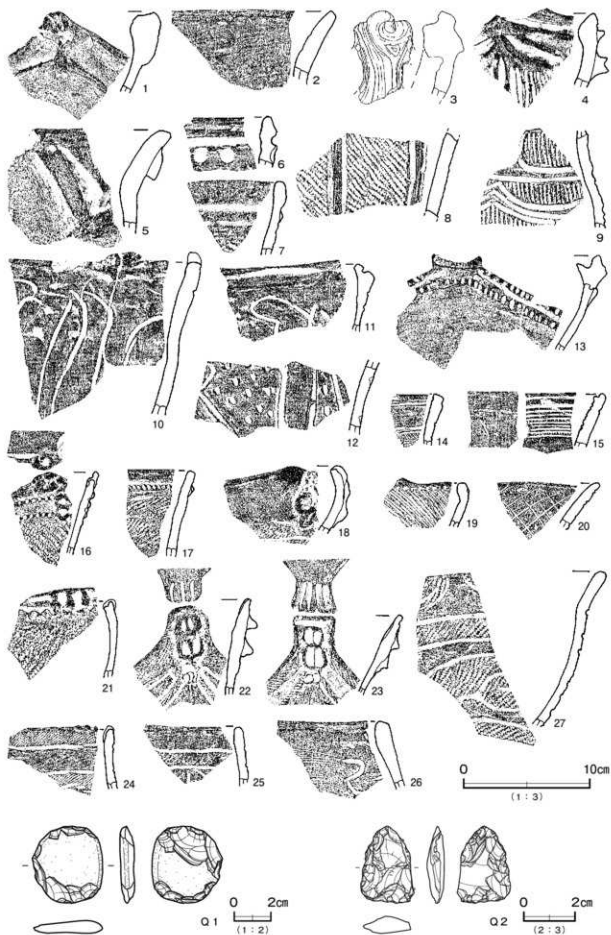
覆土 2 層に分層できる。ローム粒子やロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |        |                     |        |                       |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 褐 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|

遺物出土状況 縄文土器片 1,291 点 (23,76kg)、石器 9 点 (石鏃未成品 1、磨製石斧 1、石皿類 1、磨石類 4、砥石 1、礫器 1) のほか、発泡土器 1 点、剥片 6 点 (チャート 4、黒曜石 2)、軽石 1 点などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 2 群の中期後半のもので、特に加曾利 E Ⅱ 式から加曾利 E Ⅲ 式が多く確認できる。覆土上層から焼土ブロックが出土しており、建物の廃絶時に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期後半の加曾利 E Ⅱ 式から加曾利 E Ⅲ 式期と考えられる。



第147图 第27号竖穴建物跡出土遺物実測図

第27号竪穴建物跡出土遺物観察表(第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	黒	普通	口縁部外面肥厚 内面ナデ	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外・内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	野付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	把手部 外・内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部外面区画内沈線充填 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外面隆起帯による貼付文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面竹管状工具による刺突文 内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	橙	普通	外面LR 縄文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	橙	普通	外面沈線→LR 縄文隆起帯→沈線磨き 内面磨き	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面熱赤文R→沈線→沈線磨き 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面J字文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	にぶい	普通	口縁部外面に沈線文 J字文 内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄	普通	外面J字文 刺突文充填 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄	普通	口唇部沈線・刻み 外・内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外面区画内沈線充填 内面磨き	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	黒	普通	外・内面磨き 内面帯文	覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	にぶい	普通	外面縦線貼付→LR 縄文 内面磨き	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	にぶい	普通	外面LR 縄文→縦線貼付 内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗赤	普通	外面条線→口縁部磨み 内面磨き	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土中層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	にぶい	普通	外面LR 縄文→縦線貼付 口唇部沈線 内面磨き	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面隆起帯輪沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面隆起帯上LR 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒炭	灰黄	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤	普通	外面沈線→無筋LR 縄文 内面磨き	覆土中	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄	普通	外面条線→輪行沈線文 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	野付鉢	-	-	-	長石・石英	浅黄	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	土器	4.08	3.75	0.78	11.6	輝石安山岩	一側面・両端面を磨削	覆土上層	
Q 2	石 器	3.06	2.13	0.70	4.5	チャート	半成品	覆土中層	

## 第29号竪穴建物跡(第148・149図 PL 9・10)

位置 調査B区西部のC4e2区, 標高20mほどの斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層下で確認した。第24号竪穴建物, 第58号土坑に掘り込まれている。第27号竪穴建物跡, 第57・65・85・91号土坑とも重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 斜面部を大きく掘り込んで構築されている。北東部が後世の掘削で削平されていることから, 東西径は3.13m, 南北径は6.8mしか確認できなかった。楕円形と推定され, 南北軸方向はN-25°-Eである。壁は高さ10~20cmで, 外傾している。

床 斜面の傾斜に沿って, 北側に向かって下がっている。硬化面は確認できなかった。

ピット 12か所。P1・P5・P10・P12は, 位置と深さから支柱穴の可能性がある。

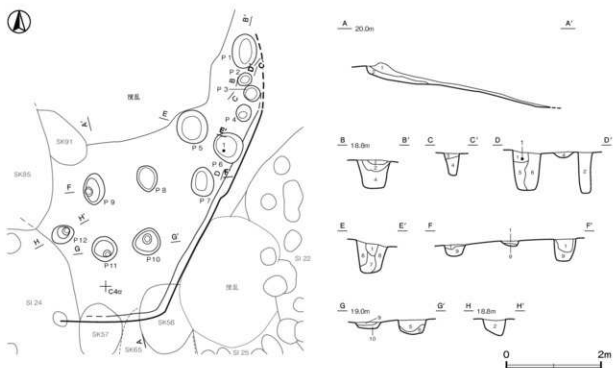
## ピット土層解説

1	黒	色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	明	褐	色	ロームブロック多量	
2	暗	褐	色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7	黒	色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	
3	暗	褐	色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐	色	ロームブロック多量	
4	黄	褐	色	ロームブロック多量	9	明	褐	色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒	褐	色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐	色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量	

## ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
深さ	59	48	88	12	69	85	48	13	24	32	18	34



第148図 第29号竪穴建物跡実測図

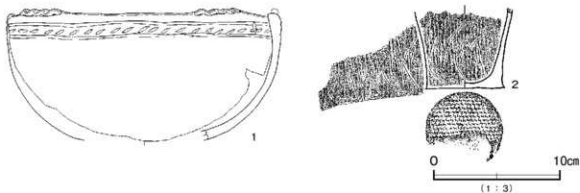
**覆土** 2層に分層できる。ローム粒子が多く含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量      2 明 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片196点(2.31kg)、土製品1点(土器片円盤)、石器2点(磨製石斧、石皿類)のほか、粘土塊1点、発泡土器1点、石核3点(チャート)、剥片5点(チャート4、黒曜石1)、獣骨片などが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、いずれも少量でかつ小破片であり、時間的なまとまりを捉えることができない。P6の覆土中から安行3c式の浅鉢が出土しているが、覆土上層からの出土であることなどから、本跡の帰属とするより、重複する第24号竪穴建物跡に伴うものとしたほうが適当である。

**所見** 時期は、出土遺物からは判断しかねるが、遺構の形状から、中期と考えられる。



第149図 第29号竪穴建物跡出土遺物実測図

## 第29号竪穴建物跡出土遺物観察表（第149図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	21.1	(10.4)	-	灰黄色・褐色・黒色	灰黄褐色	普通	外面比視陶刻文 内面磨き	P 6	30% PL35
2	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	6.2	長石・白灰・黒色胎土	にぶい褐色	普通	外・内面磨き 底部網代痕	P 7	30%

## 第34号竪穴建物跡（第150～152図 PL11）

**位置** 調査A区東部のC7a1区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層下で確認した。第59号竪穴建物に掘り込まれている。第47A・47B・53号竪穴建物跡とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。出土遺物から、第47A・47B・53号建物跡に掘り込まれていると推測される。

**規模と形状** 長径4.52m、短径3.44mの楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。壁は高さ10～20cmで、外傾している。

**床** ほほ平坦であるが、南壁沿いが一段下がっている。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 9か所。壁際のP1・P3・P4が、位置と深さから主柱穴の可能性がある。ピットの覆土は暗褐色土が主体で、単一層のものが多く、P8は柱が抜き取られた後、埋め戻されたと考えられる。

### P8土層解説

- |       |                |       |                |
|-------|----------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 3 褐色  | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子多量        | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	100	20	32	66	18	32	17	41	11

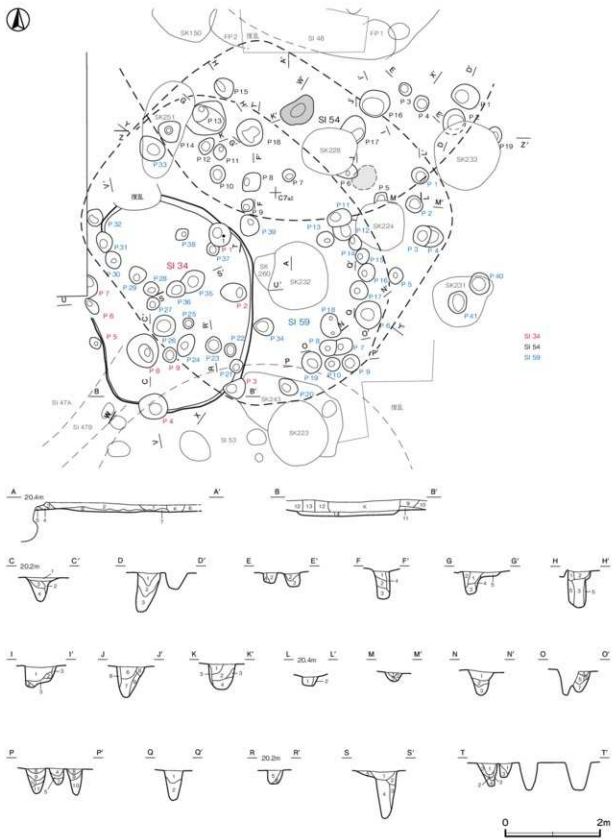
**覆土** 6層に分層できる。暗褐色土が主体で、第9層には焼土粒子がやや多く含まれ、第11・12層には骨粉が含まれていることから、埋め戻されている。本跡を有段建物と考えると、第9～13層が有段上位の覆土、第14層が有段下位の覆土の可能性がある。

### 第34・59号竪穴建物跡土層解説

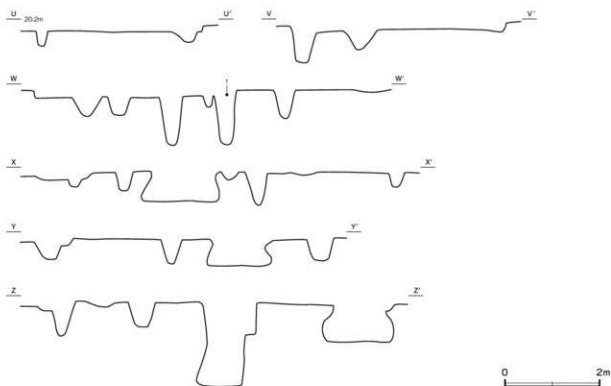
- |        |                                    |         |                                     |
|--------|------------------------------------|---------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子少量（第59号建物跡覆土）                 | 10 暗褐色  | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量（第34号建物跡覆土）         |
| 2 無暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（第59号建物跡覆土）       | 11 暗褐色  | ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉微量（第34号建物跡覆土）        |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量（第59号建物跡覆土）               | 12 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量（第34号建物跡覆土） |
| 4 褐色   | ロームブロック中量、焼土粒子微量（第59号建物跡覆土）        | 13 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量（第34号建物跡覆土）        |
| 5 無暗褐色 | ロームブロック少量（第59号建物跡覆土）               | 14 無暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量（第34号建物跡覆土）      |
| 6 暗褐色  | ロームブロック中量（第59号建物跡覆土）               |         |                                     |
| 7 暗褐色  | 焼土粒子中量（第59号建物跡覆土）                  |         |                                     |
| 8 褐色   | ロームブロック中量（第59号建物跡覆土）               |         |                                     |
| 9 暗褐色  | 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量（第34号建物跡覆土） |         |                                     |

**遺物出土状況** 縄文土器片673点（1155kg）、土製品3点（土器片円盤1、耳飾り2）、石器2点（磨製石斧、磨石類）のほか、剥片6点（チャート4、黒曜石1、頁岩1）、獣骨類906gが出土している。土器は中期前葉から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第1群（阿玉台式）25.5%、第4群（堀之内式）23.9%、第2群（加曾利E式）20.1%である。なかでも阿玉台式後半から加曾利E1式の土器群が多く出土している。獣骨類は被熱している。

**所見** 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期前半の阿玉台Ⅲ式から後半の加曾利E1式期と考えられる。掘方の形状や大きさ、主柱穴が壁際に寄っていること、炉が確認できないことなどから、当期に特徴的な有段建物の下段部分と考えることができる。



第150图 第34・54・59号聚穴建物跡实测图(1)



第151図 第34・54・59号竪穴建物跡実測図(2)

第34号竪穴建物跡出土遺物観察表(第152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(11.3)	4.4	長石・石英	にがい赤褐色	普通	外・内面ナデ 底部ナデ	床面	40%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐色	普通	外面結縁浮彫 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	口縁部外面爪彫文・三叉文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤褐色	普通	外面隆起帯上1段 縄文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒石・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	外面隆起帯幅爪彫文 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒石・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	外面隆起帯幅内押文 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・黒石・赤色粒子	黒褐色	普通	外・内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→折入→東文部磨き 内面ナデ	覆土中	
12	縄文土器	庄口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面磨き付→磨起帯幅沈線→基凸 内面口縁部磨き 裏面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒石・赤色粒子	褐色	普通	外面隆起帯幅沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒石・赤色粒子	橙	普通	外面条線→縁線磨き付 内面ナデ	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・黒石・赤色粒子	橙	普通	外面条線→縁線磨き付 内面ナデ	覆土中	

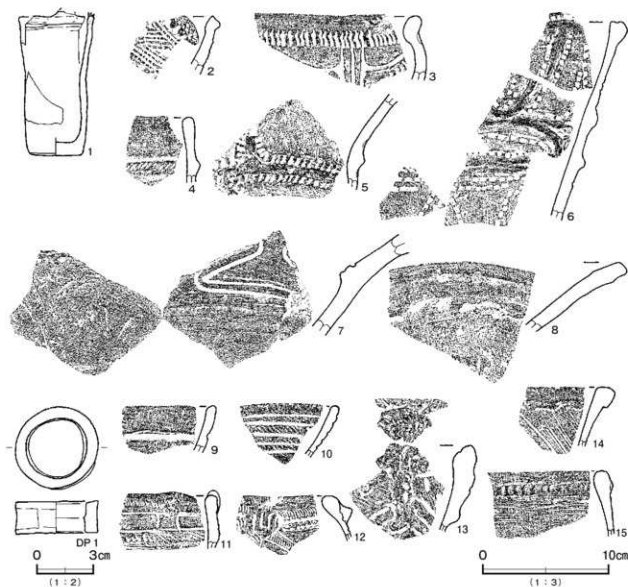
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	耳飾り	径4.5	-	1.8	25.2	長石・石英・赤色粒子	橙	瘤状 外・内面ナデ	覆土中	II類 P42

第54号竪穴建物跡(第150・151・153図)

位置 調査A区東部のB7j2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。本跡の範囲内には、第48・59号竪穴建物跡、第150・224・228・233・251号土坑が位置しているが、堆積状況からの新旧関係は捉えられなかった。出土土器から見ると、第48号竪穴建物跡は中期前半、第59号建物跡は後期中葉から後葉、第233号土坑は中期後半、第150・224・228号土坑は後期後葉、第251号土坑は近世の土坑であることから、本跡が第48号竪穴建物跡、第233号土



第152図 第34号竪穴建物跡出土遺物実測図

坑を掘り込み、第59号建物、第150・224・228・251号土坑に掘り込まれていると推測できる。

**規模と形状** 炉跡を中心に径6m前後の範囲に、円形に巡っているピット列が確認できたため建物跡を想定したが、壁は確認できず、規模・形状とも不明とせざるを得ない。第48号竪穴建物跡のP9・P11・P15～P17・P19は、本跡に帰属するピットの可能性もある。

**床** はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 長径78cm、短径50cmの地床炉で、深さ8cmほどで浅く掘りくぼめられている。炉底面は火熱を受けて亦変硬化している。位置から本跡の帰属としたが、重複と残存状況からは、第59号建物跡に帰属する可能性もある。

**ピット** 19か所。P1・P2・P5・P8～P12・P14が炉跡を中心に円形に巡るように位置し、壁柱穴の可能性はあるが、径・位置ともやや不規則である。P16・P18は径がやや大きく深さもあり、主柱穴の可能性もある。



**P 2 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒暗褐色 ローム粒子少量

**P 3・P 4・P 13・P 15・P 17 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量（1より明）
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ロームブロック中量
- 9 黒褐色 ロームブロック少量

**P 8 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

**P 16 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量・焼土粒子少量・炭化粒子微量

**P 18 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

**ビット深度表**

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ	38	41	25	31	41	175	16	60	32	25	27	21	53	66	82	33	70	57	19

**遺物出土状況** 縄文土器片 460 点 (7.54kg)、石器 3 点 (磨石類、砥石、礫器) のほか、剥片 4 点 (黒曜石 3、チャート 1) が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 4 群 (堀之内式) 24.6%、第 3 群 (称名寺式) 21.5% である。P 6 付近に径 60cm、厚さ約 10cm の焼土が堆積している。

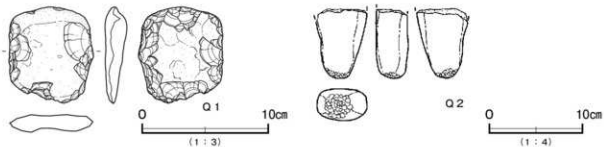
**所見** 時期は、出土土器や形状から、後期初頭から前葉と考えられる。

**第 59 号堅穴建物跡 (第 150・151・154 図 PL11)**

**位置** 調査 A 区東部の C 7 a1 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 2 号遺物包含層下で確認した。第 34 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。本跡の範囲内には第 53・54 号建物跡、第 224・228・231・232・243・251・260 号土坑が位置しているが、堆積状況から新旧関係は捉えられなかった。出土土器から見ると、第 53・54 号建物跡は後期初頭、第 231・232 号土坑は中期前半から後半、第 251 号土坑は近世であることから、本跡は第 53・54 号建物跡、第 231・232 号土坑を掘り込み、第 251 号土坑に掘り込まれていると推測される。

**規模と形状** 調査時は第 34 号堅穴建物跡、および第 14 号ビット群としたが、第 34 号堅穴建物跡の壁を掘り込むように径が 30～40cm のビットが方形に巡っていること、また覆土の堆積状況などから、第 34 号堅穴建



第 153 図 第 54・59 号堅穴建物跡出土遺物実測図 (1)

物跡とは別の建物跡を想定した。P 1～P 10・P 19～P 32の壁柱穴の位置から、南北軸 6.3 m、東西軸 6.4 mの方形で、南北軸方向はN-45°-Eである。またP 11～P 18が弧状に巡っていることから、南北軸 4.5 mのD字形の平面形も推定できる。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ビット 41か所。P 11・P 34・P 35と、第54号竪穴建物跡のP 8が、位置と形状、深さから主柱穴の可能性がある。出入口ビットは確認できなかった。

#### P 1 土層解説

- 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗 褐色 ロームブロック少量

#### P 2・P 6・P 7・P 9・P 10・P 19 土層解説

- 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 暗 褐色 ロームブロック少量
- 暗 褐色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 褐色 ローム粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量

#### P 17 土層解説

- 暗 褐色 ロームブロック中量
- 黒 褐色 ロームブロック少量

#### P 23・P 35 土層解説

- 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量

#### P 39・第54号建物跡P 9土層解説

- 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ローム粒子中量

ビット深度表

(cm)

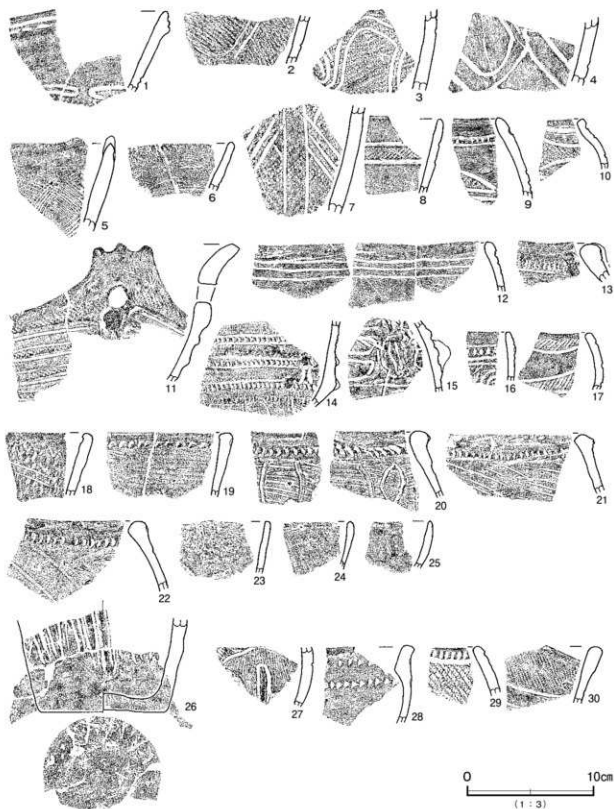
番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	20	22	32	25	40	57	48	53	84	36	74	20	17	38	36	65	62	19	54	(50)	(23)	(21)	(36)	(57)	(20)
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41									
深さ	(44)	(32)	(51)	(62)	(51)	(50)	15	35	38	(110)	(22)	(29)	(46)	52	(83)	(52)									

覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子が含まれている層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

所見 本跡を含む第54号建物跡から出土している土器群は第3・4群が主体であるが、第5群（加曾利B式）が12.3%、第7群（後期安行式）が14.6%ほど出土している。時期は、これらの土器や遺構の形状から、後期中葉から後葉と考えられる。

第54・59号竪穴建物跡出土遺物観察表（第153・154図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	土調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・普通	普通	口縁部沈線文 外面J字文 内面ナデ	SE54-P13	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外面沈線→無文&縄文 内面磨き	SE54 覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄黒	普通	外面LR 縄文→沈線 内面磨き	SE54-P7	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄黒	普通	外面無文部・内面磨き	SE54-P7	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・普通	普通	外面櫛歯状工具による条痕 内面磨き	SE54 覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面櫛歯状工具による条痕 内面ナデ	SE54 覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・普通	普通	外面LR 縄文→沈線 内面ナデ	SE54 覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	SE54 覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	SE54 覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	SE54 覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面隆起帯輪沈線→LR 縄文→無文部磨き 内面磨き	SE54 覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外・内面ナデ	SE54 覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面輪筋付→沈線→堀み 内面ナデ	SE54 覆土中	
14	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄黒	普通	外面沈線→輪筋付→隆起帯上部A→無文部磨き 内面磨き	SE54 覆土中	
15	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面隆起帯輪沈線→LR 縄文→磨き 内面ナデ	SE54 覆土中	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗 黒	普通	外面頭部入組文 内面ナデ	SE54 覆土中	



第154図 第54・59号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	SI54 壘土中
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	明黄陶	普通	外面地縄文→竹管文	内面磨き	SI54 壘土中
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	明赤陶	普通	外面糸線→刷み	内面磨き	SI54 壘土中

第54・59号竪穴建物跡出土遺物観察表(第153・154図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面粘土貼付→糸織→区画文 内面ナデ	SI54 覆土中	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面粘土貼付→糸織 内面ナデ	SI54 覆土中	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面糸織 内面ナデ	SI54 覆土中	
23	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤焼	普通	外面糸織 内面ナデ	SI54 覆土中	口C1類
24	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤焼	普通	外・内面削り	SI54 覆土中	口C1類
25	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	黄焼	普通	外面削り 内面ナデ	SI54 覆土中	口B類
26	縄文土器	深鉢	-	(7.3)	10.0	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面半籠竹管による沈澱文 内面ナデ	SI59-F39	内面保 10%
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈澱→糸織文 内面磨き	SI59-F35	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄焼	普通	外面角押文 内面磨き	SI59-F26	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤焼	普通	外面沈澱→RL縄文 内面ナデ	SI59-F26	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	石英・雲母	暗焼	普通	外面沈澱→RL縄文→新文部磨き 内面ナデ	SI59-F39	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	礎石	7.7	6.7	1.8	921	火山礫凝灰岩	下・左右縁は両面からの潤滑	SI54 覆土中	
Q 2	礎石盤	(7.2)	(5.3)	3.4	(183)	輝石安山石	自然焼の下端部に最打痕	SI54 覆土中	和類

## 第35A～E号竪穴建物跡(第155～164図 PL 9・10・12)

位置 調査A区中央部のC 6b8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第18・39号建物跡、第180号土坑を掘り込み、第20・41・47号竪穴建物、第28・105～107・116・179号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第32号竪穴建物跡、第108～111・125・128・199・200・275号土坑が位置しているが、新旧関係は捉えることができなかった。

規模と形状 弧状に連なる小ピット群や出入口ピット、複数の炉跡、および覆土の堆積状況から、少なくとも5棟以上の建物跡が推定できる。C 6c8付近の弧状の段差を壁とし、P 44～P 50を出入口ピット、P 7～P 16・P 26～P 36などを壁柱穴とする第35 A号建物跡は、出入口部を含めた南北径は6.5m、東西径は約6.5mの円形で、出入口ピットから推定できる主軸方向はN-45°-Eである。壁は高さ8～10cmで、外傾している。P 107～P 118を出入口部とし、炉6を炉跡とする第35 B号建物跡は、西側が第2～4号溝に掘り込まれているため、また調査除外部分があるため規模や形状は不明であるが、炉と出入口ピットから推定できる主軸方位はN-97°-Wである。第35 A・B号建物跡の上位にある炉2を炉跡とし、P 18～P 22を出入口ピットとする第35 C号建物跡は、第35 A号建物跡と位置や壁柱穴をほぼ同じくし、径7mほどの円形と推定でき、炉跡と出入口ピットから推定できる主軸方向はN-0°である。第35 A～35 C号建物跡の東に位置する炉7を炉跡とし、P 135・P 136、第47号建物跡のP 17～P 19を出入口ピットとする第35 D号建物跡は、炉と出入口ピットなどから、径7mほどの円形で、主軸方向はN-101°-Wと推定できる。第35 A～C号建物跡の北側に位置し、炉1・4・5などを炉跡とする第35 E号建物跡は、P 82・P 83・P 87～P 89の出入口ピットの西側の段差を壁の一部とし、P 125・P 127～P 130、および第47号建物跡の帰属としたP 67・P 68・P 86・P 87などを壁柱穴とすると、東西径は約7.0m、出入口部を含めた南北径は約5.0mの楕円形で、主軸方向はN-15°-Eである。このほかにもP 64～P 68、P 71～P 79、P 93～P 98の出入口ピット状のピット群や炉3などがあり、ほかに複数の建物跡が重複しているものと考えられる。

床 ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 本跡の範囲内に7か所確認できる。炉1は第35 E号建物跡の南に位置し、重複のため長径は60cm、短径は50cmしか確認できなかった。深さ3～5cmの浅くくぼんだ地床炉で、覆土は赤褐色土で、焼土粒子が多く含まれている。炉2はP 113～P 121の上面で確認できた。長径120cm、短径90cm、深さ40cmの地床炉で、中層から下層に多量の灰が含まれている。炉3は第35 D号建物跡の南西部に位置するもので、建物跡の帰属

は明確ではないが、長径54cm、短径44cm、深さ14cmの地床炉である。炉4は第180号土坑の上面で確認できたもので、長径は80cmで、短径は36cmしか確認できなかった。深さ22cmの地床炉で、底面は被熱で赤変硬化している。炉5はP 65に掘り込まれているため、東西径は56cmで、南北径は20cmしか確認できなかった。深さ18cmの地床炉で、底面は被熱により赤変硬化している。炉6は第35 B号建物跡、あるいは第35 C号建物跡に伴うと考えられる炉で、P 50・P 51に掘り込まれている。長径90cm、短径72cm、深さ5cmの楕円形の地床炉で、底面は被熱により赤変硬化している。炉7は第35 D号建物跡に伴うもので、長径74cm、短径62cm、深さ34cmの地床炉である。火床面の赤変硬化は確認できなかった。

#### 炉1 土層解説

- 1 赤 褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子・骨粉微量

#### 炉2 土層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子少量
- 3 褐 灰色 灰多量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 4 赤 褐色 焼土粒子極多量
- 5 橙 褐色 焼土ブロック多量、灰中量、炭化粒子・骨粉少量、ローム粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量
- 8 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

#### 炉3 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 明赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

#### 炉4 土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 赤 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

#### 炉5 土層解説

- 1 赤 褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 赤 褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

#### 炉6 土層解説

- 1 ほぼ同褐色 ローム粒子多量、焼土粒子中量、炭化粒子少量

#### 炉7 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

ピット 第35 A～E号建物跡で合わせて158か所。第35 A号建物跡及び第35 C号建物跡は、ほぼ同位置にあると考えられ、個々の判別が困難である。上述したほかにP 52・P 54～P 56・P 61～P 63、第47号建物跡のP 22・P 23などが壁柱穴となる可能性がある。また、P 1～P 6・P 127・P 128や、第41号竪穴建物跡の出入口ピットとしたP 59～P 63なども本跡の壁柱穴となる可能性もあり、複数回の立て替えが推測される。深さのあるピットは多数あるが、位置的にP 82・P 91・P 92・P 102・P 105・P 119～P 121・P 123・P 125などが主柱穴の可能性がある。第35 B号建物跡は、P 38～P 40、P 71～P 73・P 75などを壁柱穴とするものと考えられるが、他にもP 25・P 26などが考えられる。第35 D号建物跡は、第47号建物跡のP 15・P 16・P 48～P 50と、ほかに第20号建物跡の帰属としたP 2・P 5・P 6・P 13・P 47～P 49などの弧状に巡っているピット群が壁柱穴に相当する可能性がある。第35 E号建物跡は、上述したほかP 78・P 131・P 132・P 160・P 161、第39号建物跡の帰属としたP 11・P 12、第47号建物跡のP 29・P 77・P 78・P 87～P 94、第41号竪穴建物跡の帰属としたP 8・P 11・P 27などが壁柱穴となる可能性がある。北部及び東部の壁柱穴がまばらであるのは、重複により掘削を受けたためと考えられる。主柱穴は不明瞭であるが、P 66・P 67・P 133、第47号建物跡の帰属としたP 24などが、位置や深さから主柱穴となる可能性がある。

#### P 48 土層解説

- 1 赤 褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量

#### P 64・P 67 土層解説

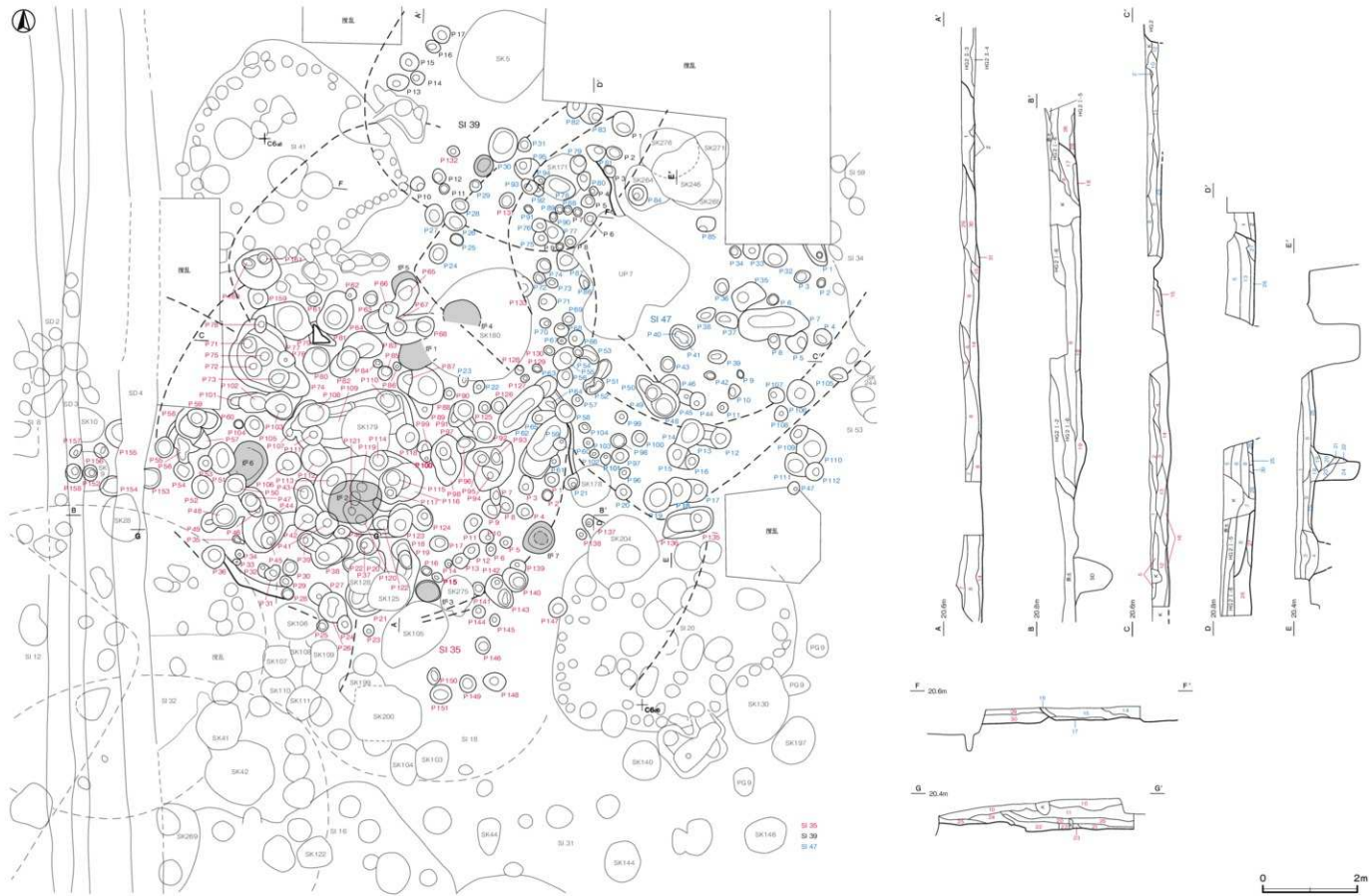
- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
- 7 黒 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

#### P 65 土層解説

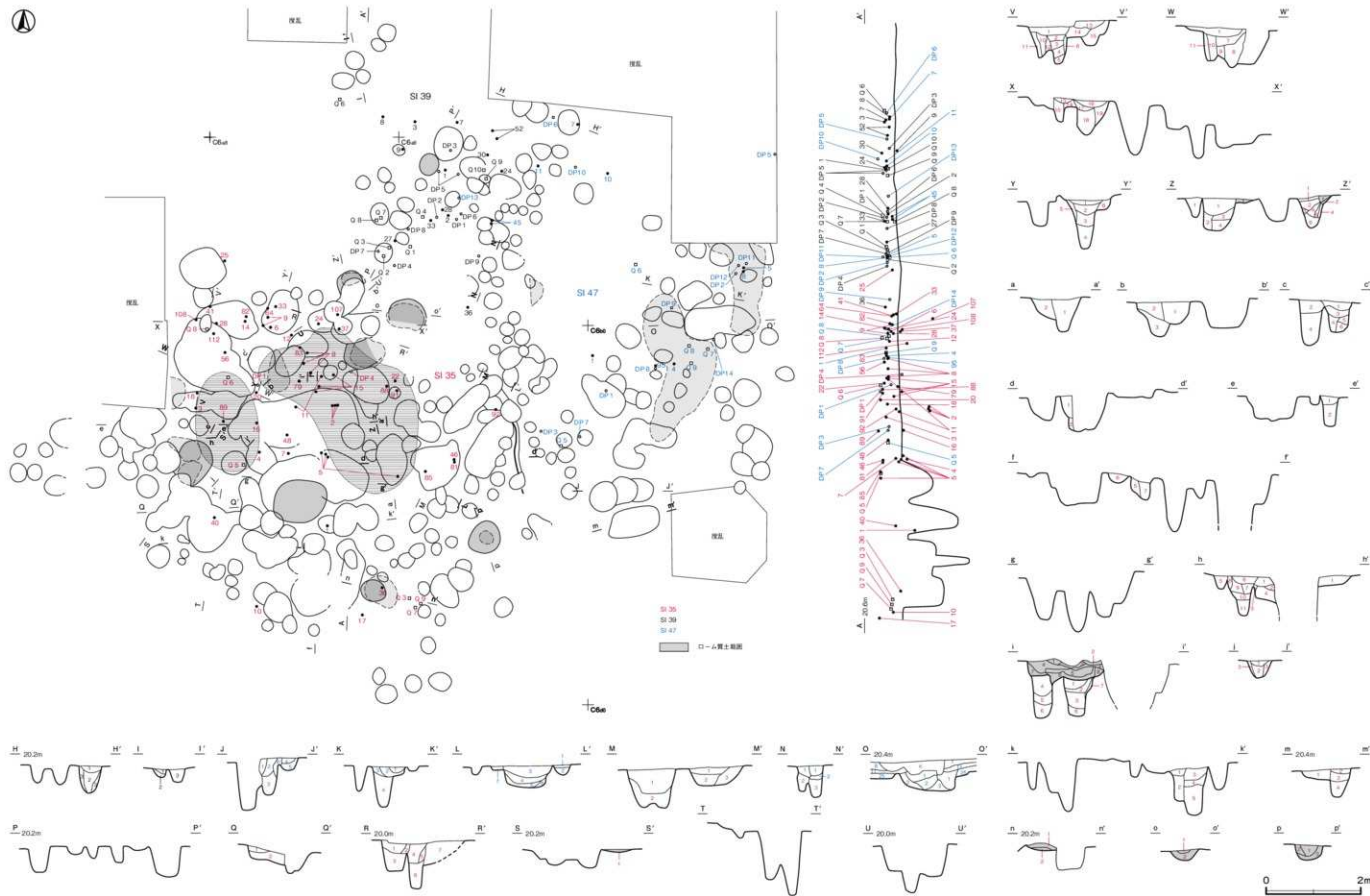
- 1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量
- 6 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

#### P 82・P 83 土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量



第155图 第35·39·47号竖穴建物跡実測图(1)



第 156 图 第 35・39・47 号竖穴建物跡实测图 (2)

## P 72・P 73・P 75・P 77～P 79 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、ロームブロック、炭化物・骨粉少量
- 2 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量
- 3 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 10 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 13 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 16 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 17 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 18 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 19 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

## P 74・P 103 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量（3より暗）
- 5 黒褐色 ロームブロック多量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量

## P 81 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

## P 88・P 89 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 3 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

## P 93・P 94 土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子少量、骨粉微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

## P 95 土層解説

- 1 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

## P 97・P 98 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

## P 105 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

## P 106 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

## P 107・P 109・P 111 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 黒暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 黒暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 11 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

## P 119・P 120 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## P 122・P 123 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## P 135・P 136 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 黒暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	26	4	19	23	17	43	42	44	28	33	66	31	27	23	37	16	23	37	108	56	60	26	10	14	9
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	37	30	17	19	41	18	11	13	48	60	19	83	63	60	26	85	83	25	135	101	19	92	27	26	31
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	23	22	33	16	37	18	-	46	107	50	21	32	21	59	68	110	110	94	欠	欠	72	103	117	80	87
番号	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
深さ	86	15	38	80	48	57	81	47	28	33	13	19	80	52	27	78	116	77	73	99	65	30	40	13	14
番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125
深さ	21	72	133	17	90	40	34	94	50	60	101	55	84	43	69	48	70	35	112	131	109	48	85	-	23
番号	136	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150
深さ	49	6	37	8	7	17	19	-	欠	60	22	55	40	20	97	49	36	17	30	29	42	49	32	20	50
番号	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161														
深さ	35	86	26	33	47	29	57	92	20	71	79														



**覆土** 第35 A～E号建物跡で合わせて31層に分層できる。第1～11層は第35 C号建物跡の覆土、第12～24層は第35 A号建物跡あるいは第35 B号建物跡の覆土である。第25層は第2号遺物包含層の一部である可能性がある。第26～28層は第35 D号建物跡の覆土、第29～31層は第35 E号建物跡の覆土である。第3・5～7層は、ローム粒子が多量に含まれている黄褐色土で、上層に堆積する第2号遺物包含層に類似する。第4・18層は焼土粒子が多く含まれている層で、第35 C号建物跡はローム粒子が多く含まれている黄褐色土と焼土粒子が多く含まれている赤褐色土で埋め戻されている。第35 A・B号建物跡の床面近くには焼土粒子が多く含まれている層が広く堆積しており、埋め戻されている。第35 D・E号建物跡は、ローム粒子がやや多く含まれている第26・28・30層で、埋め戻されている。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	16 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
2 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	17 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3 黄褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	18 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量
4 暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック中量、炭化粒子少量	19 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	20 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 に近い橙色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量	21 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黄褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量	22 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
8 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	23 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	24 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	25 褐色	ローム粒子中量(第2号遺物包含層)
11 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	26 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	27 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	28 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
14 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	29 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
15 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	30 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
		31 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

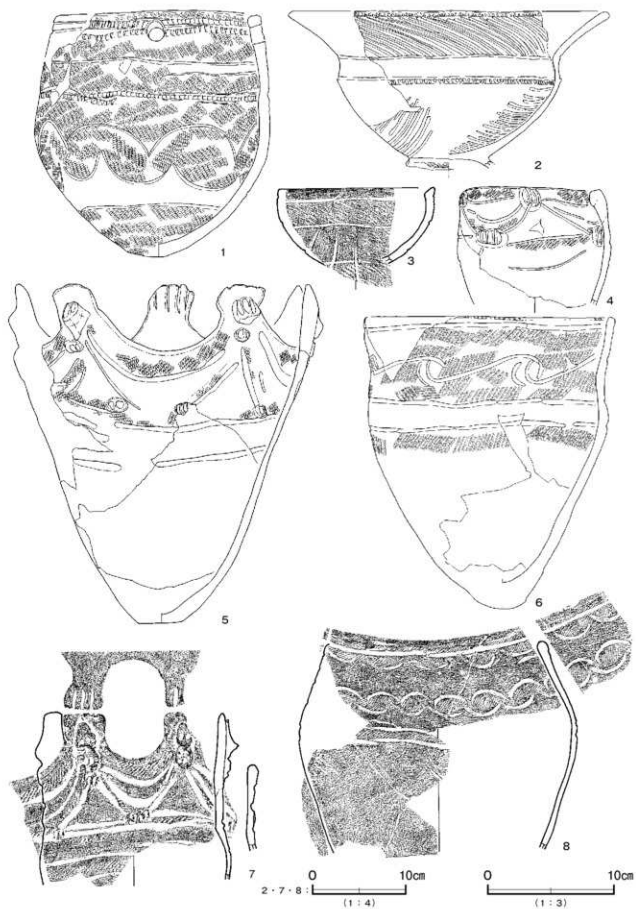
**遺物出土状況** 縄文土器片7,132点(104.77kg)、土製品15点(土器片円盤3、耳飾り5、土版1、土偶3、貝輪状3)、石器・石製品29点(石鏃1、石錐1、石錘1、打製石斧2、石皿類5、磨石類13、砥石3、石棒・石剣類2、玉類1)のほか、発泡体8点、焼成粘土塊2点、石核2点(チャート、頁岩)、剥片33点(チャート19、黒曜石14)、獣骨片3293gが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8群の晩期前葉～中葉(24.3%)、第5群の後期中葉(17.3%)、第4群の後期前葉(15.5%)、第7群の後期後葉(14.7%)のものである。遺物は覆土上層から多く出土しているが、5・16・32・36・DP4は床面から出土している。2はP110と第179号土坑から出土したものが接合している。P12・P39・P50・P51・P65・P73・P78・P82・P84・P85・P91・P111・P114・P120からは、後期中葉以前の土器が出土している。また、第20号建物跡のP2・P6・P12、第47号建物跡のP15・P48・P49なども、後期中葉以前の土器が出土しているピットである。Q6は覆土上層から横位で出土している。

**所見** 覆土の堆積状況から、第35 D号建物跡、第35 E号建物跡が最も古く、第35 B号建物跡、第35 A号建物跡、第35 C号建物跡の順に構築されていると考えられる。第35 D号建物跡、第35 E号建物跡の新旧関係は不明である。時期は、出土土器や遺構の形状、他建物跡との重複関係から、第35 A号建物跡が晩期前葉の安行3 a式期、第35 B号建物跡が後期後葉の安行2式から晩期前葉の安行3 a式期、第35 C号建物跡が晩期前葉の安行3 b式期に比定できる。第35 D号建物跡は、第20号建物跡との重複関係から後期後葉以降、また壁柱穴が弧状に巡っており、後期中葉以前の遺物を出土するピットがやや多くみられることから、後期前葉から中葉と考えられる。第35 E号建物跡は、形状から後期中葉から後葉と推測できる。また当区域に位置する建物跡との新旧関係を再度確認すると、堆積状況や遺構の残存状況などから、第35 E号建物跡を第41号建物、第47号建物と掘り込み、第35 D号建物跡を第47号建物と掘り込んでいる。第39号建物跡は第35 E号建物に掘り込まれている様子が確認できる。第35 C号建物跡の覆土中には、ローム粒子が多く含まれている

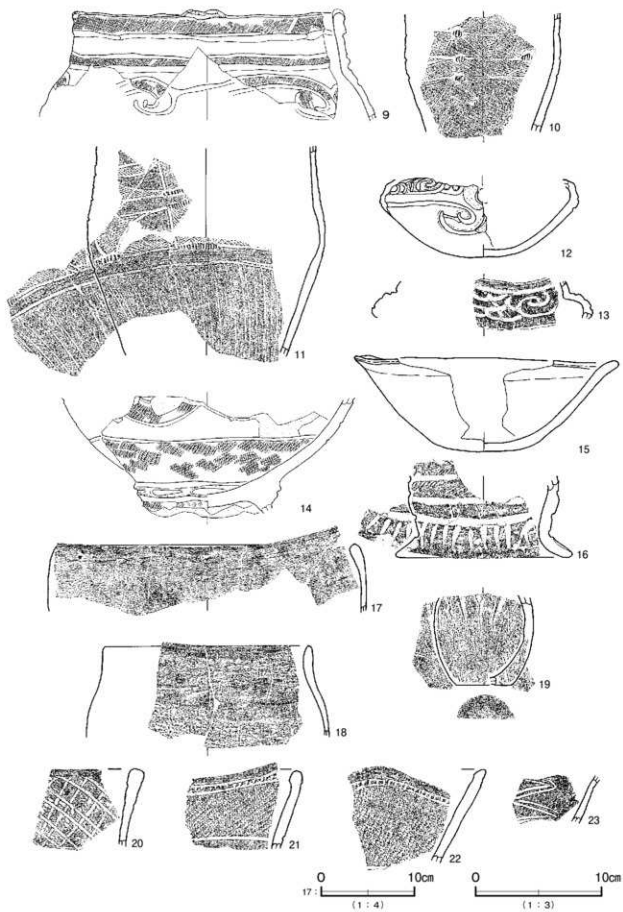
黄褐色土が面的に広く確認できる点が特徴的で、焼土ブロックが多く含まれている層がブロック状に見られることなどから、建物の廃絶時の整地行為が推測される。またこの上部には黄褐色土が主体の第2号遺物包含層が形成されていることから、遺物包含層の形成過程を伺うことができる。

第35号竪穴建物跡出土遺物観察表(第157～164図)

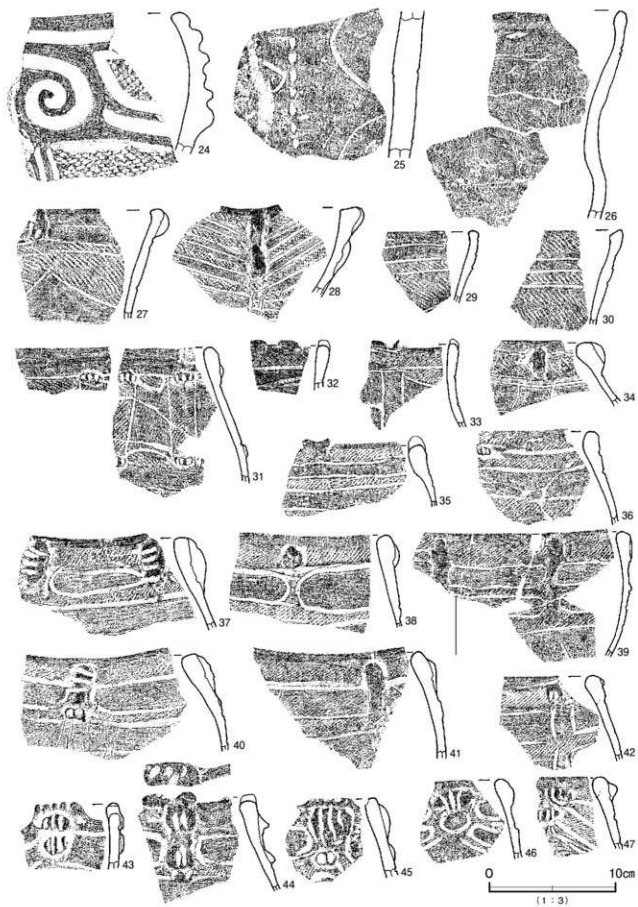
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	156	196	3.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL, 縄文 割部・底部削り	内面ナデ	P 122 80%
2	縄文土器	台付鉢	[33.1]	[16.9]	-	長石・石英・赤褐色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈澱部 割部削り→本底 裏部削り	縄文 内面ナデ	P 110 80%計計 13%
3	縄文土器	浅鉢	[12.4]	[5.9]	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土中層 40%
4	縄文土器	深鉢	107	99.4	-	長石・石英・黒褐色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	割部削り 内面ナデ	P 112 40%
5	縄文土器	深鉢	[22.2]	[26.8]	3.5	長石・石英	暗褐色	普通	5単位 外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	床面 50% PL.29
6	縄文土器	深鉢	19.2	24.2	3.9	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面沈澱→無文土器文→無文部磨き	内面沈澱部磨き	縄土中層 70% PL.29
7	縄文土器	深鉢	[17.8]	[13.0]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	5単位 外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土下層 30%
8	縄文土器	深鉢	22.0	[21.9]	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部・割部削り	内面ナデ	縄土中層 60% PL.29
9	縄文土器	深鉢	20.5	[38.8]	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	4単位 外面沈澱→無文土器文→無文部磨き	内面ナデ	縄土下層 10% PL.30
10	縄文土器	深鉢	-	[9.3]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→無文土器文化地→無文部磨き	内面ナデ	縄土中層 10%
11	縄文土器	深鉢	-	[16.5]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈澱→無文土器文化地→無文部磨き	内面磨き	縄土下層 20%
12	縄文土器	注口	-	[6.2]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面平面的文 磨き	内面ナデ	縄土中層 30% PL.35
13	縄文土器	注口	-	[2.9]	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐色	普通	外面磨き 磨き	内面ナデ	縄土下層 5%
14	縄文土器	台付鉢	-	[9.2]	-	長石・石英・雲母	灰白	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	裏部削り 内面磨き	縄土中層 20% PL.35
15	縄文土器	浅鉢	20.7	7.7	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	外・内面磨き		縄土下層 20% PL.35
16	縄文土器	台付鉢	-	[6.4]	[13.5]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部ナデ	内面ナデ	床面 10%
17	縄文土器	深鉢	[30.8]	[7.1]	-	長石・石英・赤褐色	褐色	普通	外面削り	内面ナデ	縄土上層 10%
18	縄文土器	深鉢	[15.8]	[7.2]	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面削り	内面ナデ	縄土中層 20%
19	縄文土器	深鉢	-	[7.1]	[4.0]	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面削り	内面削部ナデ	P 81 20%
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面隆起帯文→磨き目文	内面磨き	縄土中層
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	却2
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	褐色	普通	口縁部外面削り	L, 縄文 内面磨き	縄土中層
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面粗面的沈澱文	内面磨き	却2
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面 RL, 縄文→沈澱→沈澱磨き	内面磨き	縄土上層
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	外面一帯の削文	内面ナデ	縄土下層
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	褐色	普通	外面隆起帯文・工具による波状彫文	内面ナデ	縄土下層
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	却2
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土中層
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL, 縄文 内面磨き		縄土下層
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	黄褐色	普通	外面隆起帯沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	却2
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	灰黄褐色	普通	外面沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土下層
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐色	普通	外面沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	却2
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	床面
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→RL, 縄文 内面ナデ		縄土下層
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土上層
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	床面
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土下層
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土下層
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	黄褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	却2
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯沈澱→無文土器文→無文部磨き	内面ナデ	縄土下層
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土中層
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面磨き	内面ナデ	縄土下層
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土上層
45	縄文土器	注口	-	-	-	長石・赤色粒子	褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面ナデ	縄土上層
46	縄文土器	注口	-	-	-	長石・赤褐色	明赤褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部ナデ	内面ナデ	縄土上層
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤褐色	褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文 内面磨き		縄土下層
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土中層
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→RL, 縄文→無文部ナデ	内面ナデ	縄土下層
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面隆起帯沈澱→無文土器文→無文部磨き	裏部ナデ 内面ナデ	縄土上層
52	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
53	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土下層
54	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	灰黄褐色	普通	外面沈澱→無文土器文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤褐色	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
57	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土上層
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→L, 縄文→無文部磨き	割部削り 内面ナデ	縄土中層
59	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐色	普通	外面沈澱→RL, 縄文→無文部磨き	内面磨き	縄土下層



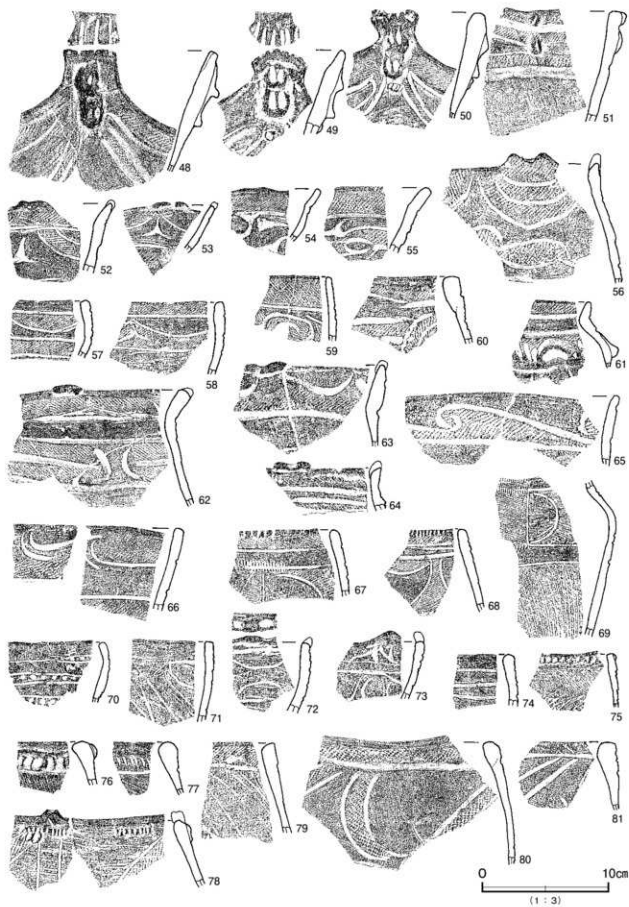
第 157 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



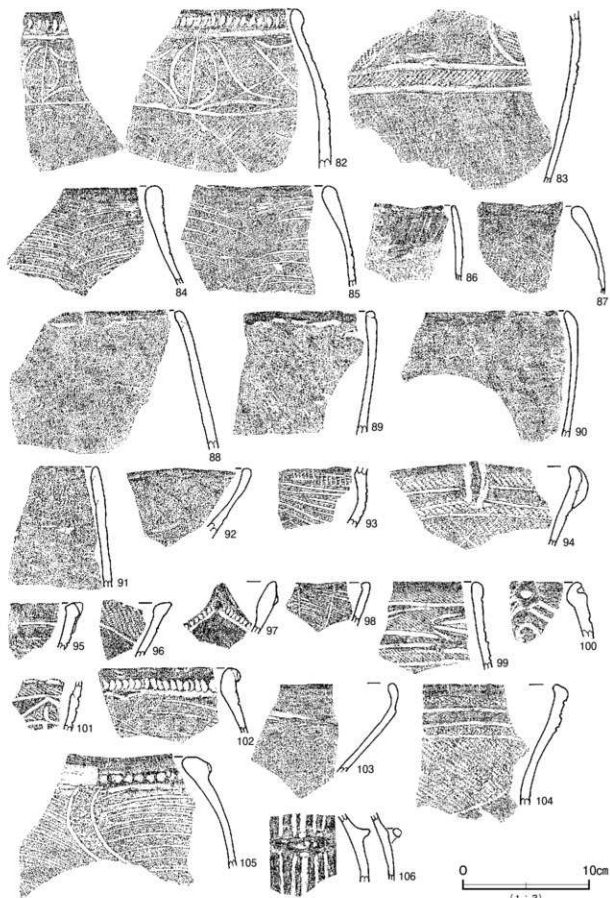
第158图 第35号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)



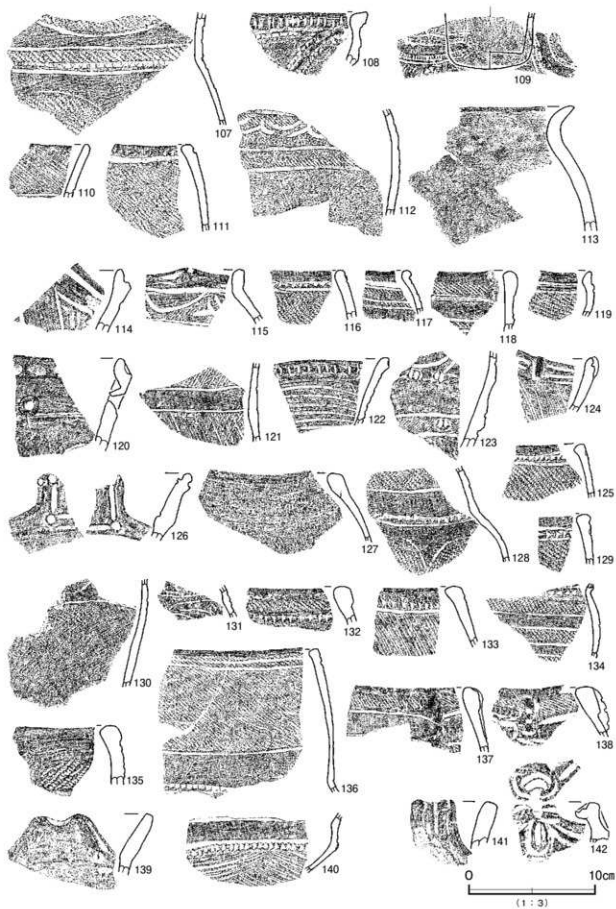
第 159 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第160图 第35号壑穴建物跡出土遺物実測图(4)

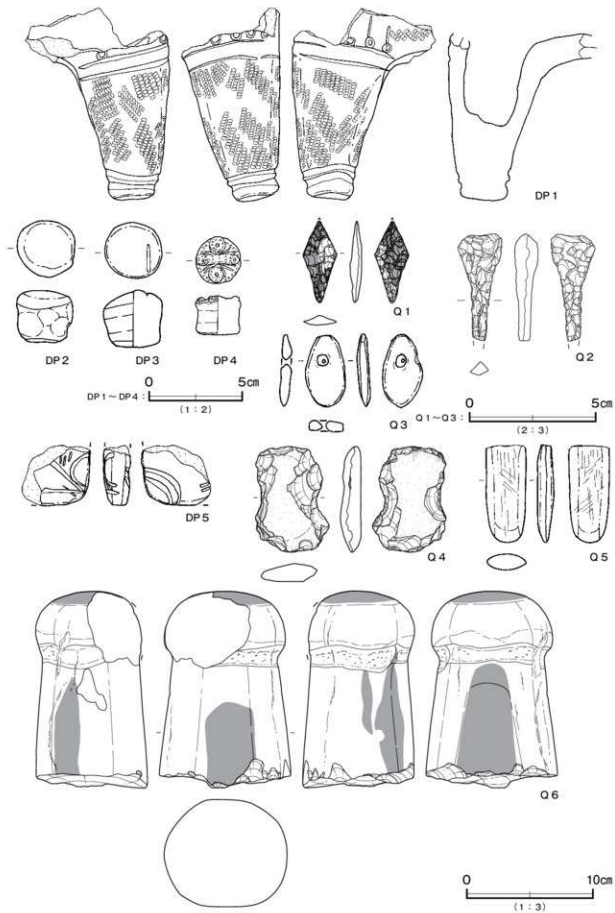


第161图 第35号竖穴建物跡出土遺物実測图(5)

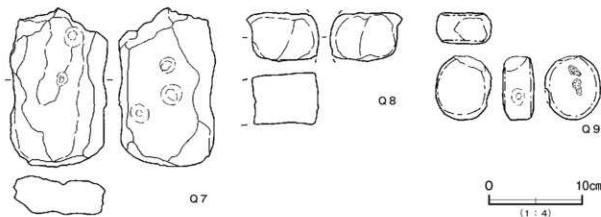


第 162 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (6)





第 163 图 第 35 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (7)



第164図 第35号竪穴建物跡出土遺物実測図(8)

第35号竪穴建物跡出土遺物観察表(第157~164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土下層	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い橙	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土下層	
62	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い橙	普通	外面沈澱→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土上層	
63	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黄	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中層	
64	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	橙	普通	外面隆起帯幅沈澱→無文部縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土中層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土下層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面磨き	甕土下層	
67	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面沈澱→細密沈澱文塊→無文部磨き	内面磨き	甕土下層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子・繊維	L.赤い黄橙	普通	外面沈澱→細密沈澱文塊→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層	
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈澱→細密沈澱文塊→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層	
70	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	L.赤い橙	普通	外面沈澱開孔状文	内面ナデ	甕土下層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い橙	普通	外面杓状文	内面ナデ	甕土下層	
72	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面菱形状区画文	内面磨き	甕土下層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	L.赤い赤褐	普通	外面沈澱文	内面磨り	甕土下層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外・内面ナデ		甕土下層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面に線刻文	内面ナデ	甕土上層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い橙	普通	外面条線→細密貼付	内面磨き	甕土下層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い橙	普通	外面条線→付点線刻文	内面ナデ	甕土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子・繊維	橙	普通	外面条線→細密貼付	沈澱→LR.縄文	内面ナデ	甕土上層
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	L.赤い褐	普通	外面沈澱→LR.縄文→条線	内面ナデ	甕土下層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄褐	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土中層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面条線→頭部区画文→沈澱開磨き	内面ナデ	甕土上層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面頭部区画文	内面ナデ	甕土中層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄	普通	外面沈澱→LR.縄文→無文部磨き	内面ナデ	甕土上層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子・繊維	L.赤い橙	普通	外面条線	内面磨き	甕土上層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線	内面ナデ	甕土上層	
86	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面内面ナデ		口白地	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面ナデ		甕土中層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面磨り	内面ナデ	甕土上層	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	L.赤い橙	普通	外面磨り	内面ナデ	甕土上層	
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面磨り	内面ナデ	甕土下層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面磨り	内面ナデ	甕土上層	
92	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石	黄 褐	普通	外面磨り	内面磨き	床面	
93	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い橙	普通	製部外面線刻文→磨み	内面磨き	P 12	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄	普通	外面隆起帯幅沈澱→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	P 26	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	外面隆起帯幅沈澱→RL.縄文	内面磨き	P 30	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黄 灰	普通	外面沈澱→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	P 33	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	L.赤い赤褐	普通	外・内面磨き		P 33	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	暗赤灰	普通	外面条線	内面磨き	P 33	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面沈澱→RL.縄文→無文部磨き	内面ナデ	P 42	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	L.赤い橙	普通	口縁部外面凹点文	内面磨き	P 50	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	L.赤い褐	普通	外面沈澱→RL.縄文→無文部磨き	内面磨き	P 62・P 79	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・繊維	L.赤い褐	普通	外面条線	細密貼付	内面ナデ	P 62・P 79
103	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	製部外面磨り	内面磨き	P 64・P 67	

第 35 号 堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 157 ~ 164 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 64・P 67	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面条線→黒線彫付→黒部区画文 内面ナデ	P 66	
106	縄文土器	内手	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤	普通	紐掛け突起部 内面ナデ	P 64・P 67	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 64	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面隆起帯線に→一糸の角押文 内面磨き	P 77	
109	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	5.2	長石・石英・雲母	黒	普通	外面隆起帯線2列の爪痕 内面ナデ	P 77	5%
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	暗赤黒	普通	外面区画沈線→条線 内面磨き	P 77	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 77	
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 77	
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	口縁部外面ナデ 胴部磨き 内面ナデ	P 77	
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤	普通	外面無文部磨き 内面磨き	P 73	
115	縄文土器	式口甕	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 73	
116	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 74	
117	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい赤黒	普通	外面隆起帯線沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 74	
118	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい赤黒	普通	外面隆起帯線沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 74	
119	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナデ	P 74	
120	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口縁部外面凹文 内面ナデ	P 74	
121	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面条線→沈線→胴部磨き 内面磨き	P 74	
122	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい赤黒	普通	外面條線彫付→条線 内面磨き	P 74	
123	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯線沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 80	
124	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面条線 内面磨き	P 83	
125	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 92	
126	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤	普通	突起部 内面磨き	P 85	
127	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面磨り 内面ナデ	P 89	
128	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 89	
129	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄黒	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	P 92	
130	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	P 89	
131	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄黒	普通	胴部外面弧線文 内面ナデ	P 96	
132	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤	普通	外面隆起帯線斜み 内面ナデ	P 42	
133	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 灰	普通	外面条線→付点條線文 内面ナデ	P 102	
134	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒 灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 105	
135	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面LR縄文→隆起帯線のみ 内面磨き	P 106	
136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 103	
137	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黄 橙	普通	外面彫付→隆起帯線沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 104	
138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	外面隆起帯線沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナデ	P 123	
139	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	成状口縁 外・内面ナデ	P 111	
140	縄文土器	付付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→条線→斜み→無文部磨き 内面磨き	P 111	
141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	皮部 外・内面ナデ	覆土下層	
142	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯線沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	P 123	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土塊	(10.1)	(7.6)	(5.2)	(157.3)	長石・石英・赤色粒子	橙	中空 RL縄文	覆土上層	3号 二次成
DP 2	耳飾り	径 3.0	-	2.8	27.6	長石・石英	黒 黒	白型 凹面ナデによる整形	P 64・P 67	1 2類
DP 3	耳飾り	径 3.1	-	3.1	28.3	長石・石英	浅黄橙	白型 ナデ整形	覆土下層	1 2類
DP 4	耳飾り	径 2.5	-	2.1	13.3	長石・石英	にぶい赤	白型 細か/刺突文処理	表面	12号 非円形
DP 5	土版	(4.8)	(5.5)	2.2	(57.2)	長石・石英	にぶい赤黒	表裏面弧線文施文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鎌	(3.24)	1.36	0.48	(1.3)	チャート	有茎 表裏面に光沢あり 磨痕。	覆土上層	PL47
Q 2	石 鎌	(4.24)	1.76	0.95	(4.57)	チャート	先端部欠損	P 92	PL47
Q 3	玉 錐	2.9	1.6	0.5	3.6	粘板岩	研磨整形 片面穿孔	覆土中層	PL46
Q 4	打刺石斧	8.40	5.85	1.63	90.5	ドライト	分銅型 上端部に擦痕あり	覆土下層	PL45
Q 5	石 鈿	(7.8)	3.2	1.3	(33.2)	砂 鈿	扁平型 表裏2面使用	覆土上層	4類
Q 6	石 棒	15.6	10.5	8.9	241.23	緑色片岩	尖形 頂部・側面に磨痕	覆土上層	装飾 PL48
Q 7	石 皿	(16.5)	(10.2)	3.9	(104.07)	黒雲母片岩	表裏面に磨痕・凹痕 表面・側面に付着	覆土中層	2類
Q 8	石 皿	(5.0)	(7.6)	5.4	(35.31)	黒雲母片岩	表裏面使用 裏面に深付着	覆土上層	1類
Q 9	磨石	6.7	5.9	3.2	181.9	安山岩	表裏・側面に磨痕 表面・一側面に凹痕	覆土中層	2c類

## 第 39 号竪穴建物跡 (第 155・156・165～168 図 PL10・12)

位置 調査A区中央部のB6J8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第5号土坑を掘り込み、第35E号建物、第41号竪穴建物、第47A・B号建物、第7号地下式坑に掘り込まれている。第171号土坑とも重複しているが、新旧関係は捉えることができなかった。

規模と形状 第41号竪穴建物跡の東部に小ピット列と炉跡が確認できたことから、建物跡を想定した。壁は確認できなかったが、ピットの配置から東西軸は5.1mで、南北軸は北部が調査区域外に延びるため3.8mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 南北径48cm、東西径42cmで、5cmほど掘りくぼめられた地床炉である。

ピット 17か所。当区域では多くのピットが確認されているが、ピットの形状や配置からP1～P17を本跡の壁柱穴と判断した。このほかにも第41号竪穴建物跡のP10・P11・P54や、第47号建物跡の帰属としたピットも本跡に伴う可能性がある。主柱穴及び出入口ピットと考えられるものは確認できなかった。ピットはローム土粒子がやや多く含まれている暗褐色土を覆土とするものが多い。

## P 1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

## P 14・P 15土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ	55	51	81	8	51	21	23	33	9	39	19	34	27	21	31	18	29

覆土 2層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。

## 土層解説

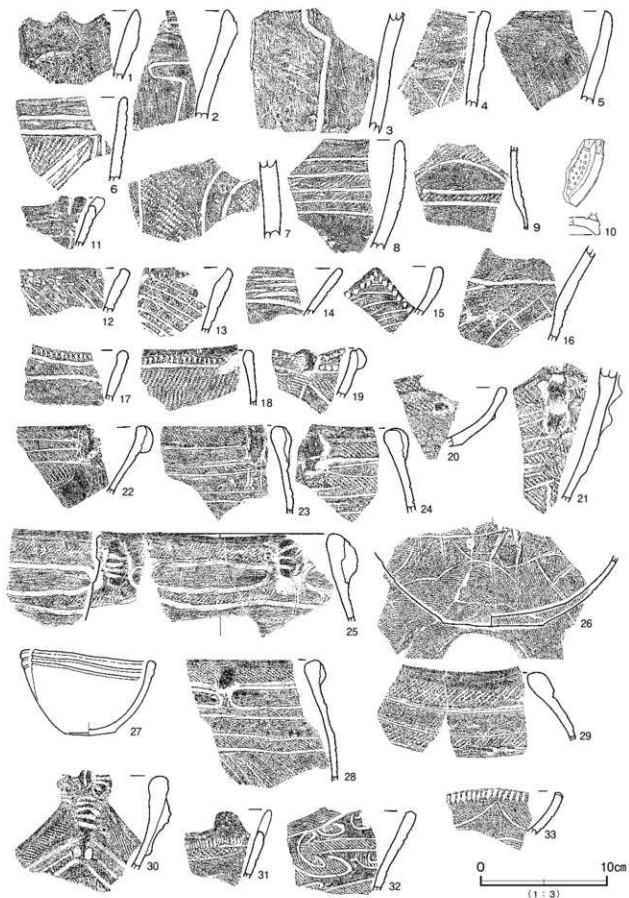
- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片1,234点(24.89kg)、土製品11点(耳飾り8、土偶3)、石器16点(石錘2、磨製石斧1、打製石斧1、砥石1、磨石類3、石皿類4、礫器2、石棒・石剣類2)のほか、発泡体1点、剥片7点(黒曜石5、チャート2)、獣骨片1347gが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群の後期後葉(26.7%)、第3群の後期初頭(21.7%)、第4群の後期前葉(21.7%)のものである。遺物は覆土下層から多く出土しているが、重複する第47号建物跡に帰属するものが多いと考えられる。

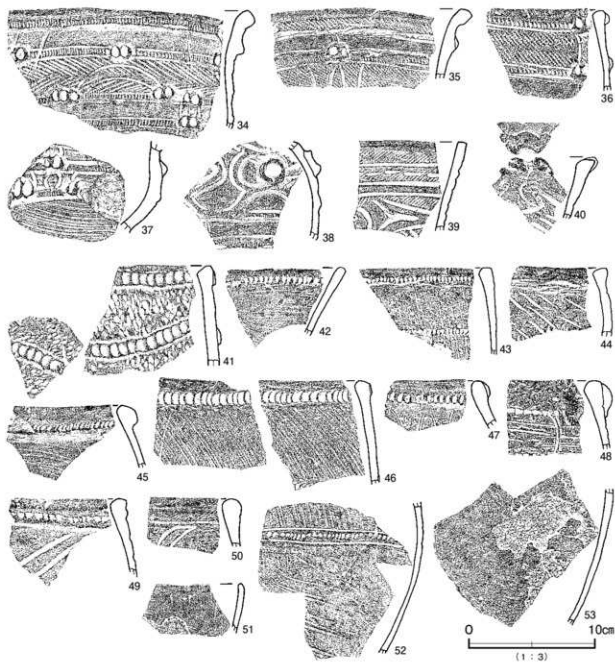
所見 時期は、出土土器や遺構の形状、他建物跡との重複関係から、後期初頭から前葉と考えられる。

## 第39号竪穴建物跡出土遺物観察表(第165～168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面糊塗状工具による条線 内面磨き	覆土下層	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	紅・紅・粘質・粘質	黄・橙	普通	外面J字文 無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面J字文 糊塗状工具による斜突文光焼 内面ナデ	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・紅・粘質・粘質	橙	普通	口縁部外面磨き 内面粗い磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・紅・粘質・粘質	褐・灰	普通	外面格子目文 内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・橙	普通	外面LR 縄文→沈線→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・紅・粘質・粘質	にぶい・橙	普通	外面LR 縄文→沈線→沈線磨き 内面磨き	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄・橙	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄・橙	普通	外面沈線→無面L縄文→無文部磨き 内面磨き	P132	
10	縄文土器	蓋	-	(L.6)	-	長石・石英	橙	普通	外面斜突文光焼 内面磨き	覆土上層	5%
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	褐・灰	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	覆土上層	



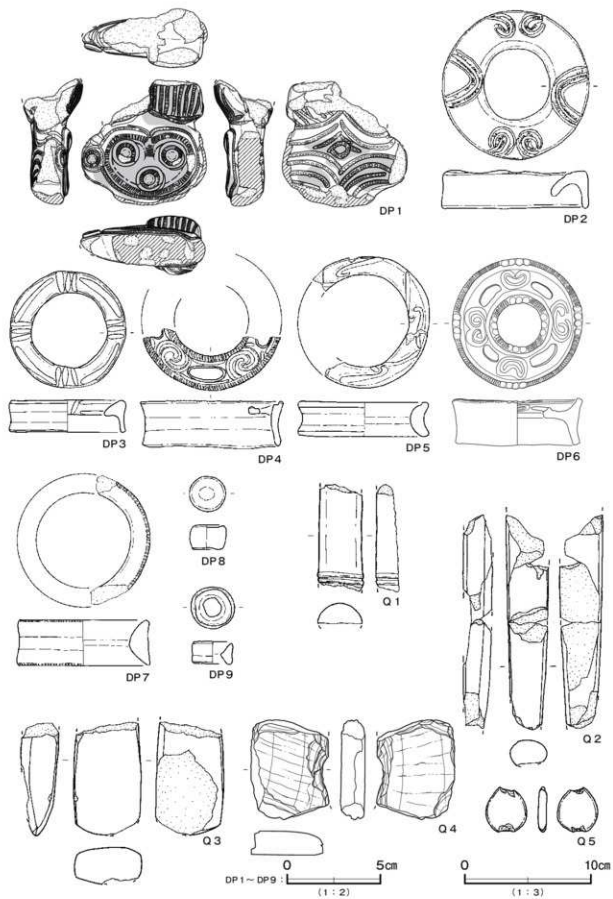
第 165 图 第 39 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



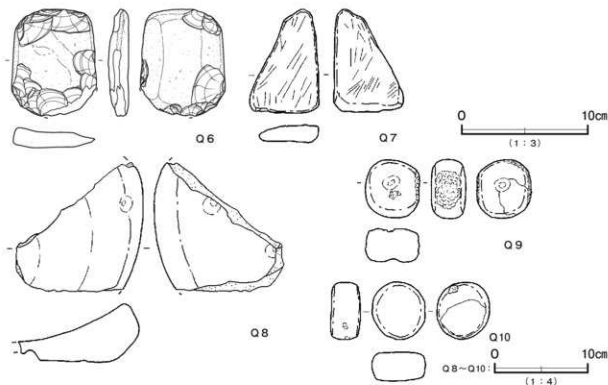
第166図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第39号竪穴建物跡出土遺物観察表(第165～168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面LR縄文→垂線 内面ナデ 口縁部円線	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面LR縄文→格子目文 内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面RL縄文→垂線→口唇部刷み 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	器部磨き 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・赤・粘石・粘石	暗赤灰	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・赤・粘石・粘石	橙	普通	外面沈線→LR縄文・刷み 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
20	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面段起縁円線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	



第 167 图 第 39 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 168 図 第 39 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 39 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 165 ~ 168 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	褐灰	普通	外面段起帯幅沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面段起帯幅沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	橙	普通	外面段起帯幅沈線→R.L.縄文	内面ナデ	覆土上層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面段起帯幅沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	119.6	17.0	-	長石・石英	橙	普通	外面段起帯幅沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層 10%	
26	縄文土器	深鉢	-	53.0	7.9	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層 20%	
27	縄文土器	鉢	9.6	6.7	4.0	長石・石英	橙	普通	外・内面磨き		覆土中層 40% P1.35	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面有非線沈線→R.L.縄文→無文部磨き・断面条線	内面磨き	覆土中層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	黒褐色	普通	外面段起帯幅沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	明赤褐色	普通	外面段起帯幅沈線→R.L.縄文・断面→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面磨き	覆土上層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	
34	縄文土器	台付鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	褐灰	普通	外面段起帯幅沈線→断面・条線→磨貼付	内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段起帯幅沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	明赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文・断面→磨貼付	内面ナデ	覆土上層	
37	縄文土器	台付鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい褐色	普通	外面段起帯幅沈線→断面→磨貼付	内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面段起帯幅沈線→断面→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい橙	普通	外面L.R.縄文→磨貼付	内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい黄褐色	普通	外面条線→口縁部断面	内面磨き	覆土上層	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	灰褐色	普通	外面条線→付点線文	内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい褐色	普通	外面条線	口縁部段起帯面ナシ	内面ナデ	覆土上層
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい黄褐色	普通	外面条線→磨貼付	内面ナデ	覆土上層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	灰赤	普通	外面条線→磨貼付	内面磨き	覆土上層	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	明赤褐色	普通	口縁部外面磨貼付	内面ナデ	覆土上層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	灰黄褐色	普通	外面断面条線→断面区画文	内面ナデ	覆土上層	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面ナシ	内面ナデ	覆土上層	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	にぶい橙	普通	外面沈線→L.R.縄文	断面条線	内面ナデ	覆土上層
51	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面閉り	内面ナデ	口縁部ヘラ切り	覆土上層 □C1 類
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面条線→付点線文	内面ナデ	覆土下層	
53	縄文土器	製塩	-	-	-	紅-紅-粘砂-粘砂	明赤褐色	普通	外面磨き	断面	内面ナデ	覆土下層



番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土鍋	(66)	(66)	3.1	(87.7)	長石・石英	にぶい黄緑	ミミズク 右側面～頭部欠損部摩耗	覆土中層	3a型 赤影 PL40
DP 2	耳飾り	径7.8	-	2.0	67.7	長石・石英・角閃石	橙	上面磨き 沈黙間に細かい割み 側面ナデ	覆土中層	2a型 PL42
DP 3	耳飾り	径6.2	-	1.7	34.5	長石・石英	明黄	上面・側面磨き	覆土下層	IV 2型 PL42
DP 4	耳飾り	径7[A]	-	2.5	(18.3)	長石・石英	黄緑	弧線入組文 周縁部に細かい割み 側面磨き	覆土下層	2a型
DP 5	耳飾り	径7.0	-	1.8	(27.9)	長石・石英	明赤褐	ステッキ状入組文 外面磨き	覆土下層	IV 1型 PL42
DP 6	耳飾り	径6.9	-	2.5	53.8	長石・石英	橙	周縁部に細かい割み	覆土中層	PL42
DP 7	耳飾り	径7[50]	-	2.4	(19.0)	長石・石英・雲母	橙	内・外面磨き 上下腰部に細かい割み	覆土中層	IV 1型
DP 8	耳飾り	径1.9	-	1.3	5.4	長石・石英	黄緑	ナデ彫	覆土中層	I 2型
DP 9	耳飾り	径2.2	-	1.2	5.8	長石・石英	黒黄	外・内面磨き	覆土中層	II 2型

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石・石組	(8.6)	(3.7)	(1.8)	(85.5)	角閃石片岩	石棒 下部に微隆起帯	覆土中層	
Q 2	石・石組	(17.0)	3.3	2.3	(47.5)	角閃石片岩	石棒 縦磨整形	覆土中層	
Q 3	磨製石斧	(8.9)	5.4	3.1	(196.5)	輝れい岩	定角式 研磨整形	覆土中層	
Q 4	打製石斧	(7.9)	(6.2)	2.0	(138.4)	砂質片岩	分銅形	覆土上層	
Q 5	石 鎌	3.4	3.2	0.7	11.8	安山岩	長軸端部に打ち欠き	覆土上層	3型
Q 6	磨 器	8.5	6.8	1.6	113.6	輝石安山岩	スクレイパー状 長軸端部に両面研磨	覆土中層	
Q 7	砥 石	8.2	5.6	1.8	82.0	砂 岩	使用面2面	覆土中層	2型
Q 8	石組	(13.4)	(13.4)	(5.7)	(856.6)	安山岩	表面磨り面 表裏面に凹痕	床面	2型 PL48
Q 9	磨石	6.0	5.7	3.6	230.6	輝石安山岩	表裏・側面に磨り痕 両側面に凹痕	覆土下層	2a型 厚付重
Q 10	磨石	6.0	5.5	3.1	178.5	安山岩	表裏・側面に磨り痕	覆土下層	2a型 厚付重

#### 第47 A・B号竪穴建物跡 (第155・156・169～175図 PL10)

位置 調査A区中央部のC 6a9区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第35・39号建物跡、第180号土坑を掘り込み、第7号地下式坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第171・178・246・264・265・271・276号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は捉えることができなかった。第34号竪穴建物跡とも重複しており、出土遺物から本跡が掘り込んでいると推測される。

規模と形状 方形に広がる焼土跡や出入口ピット、列状に並ぶ小ピットなどから、建物跡を想定した。P 51～P 56を出入口ピットとし、P 1～P 5・P 8～P 11・P 44・P 45、P 66～P 83の円形に巡っている小ピットを壁柱穴とする第47 A号建物跡と、P 58～P 65を出入口ピットとし、P 12・P 13・P 20・P 21・P 24～P 31・P 97～P 108の方形に巡っている小ピット列を壁柱穴とする第47 B号建物跡の、少なくとも2棟が確認できる。また、P 32～P 45の、2重の弧状に巡っているピット列が確認できること、第7号地下式坑の北側に約10cmの壁状の段差が確認できることなどから、さらにいくつかの建物跡が重複していることが想定される。第47 A号建物跡は、北部が土坑との重複や攪乱のため不明瞭であるが、出入口ピットを含めた南北径は約6.0m、東西径は7.0mと推定できる。出入口ピットから推定できる主軸方向はN-28°-Eである。第47 B号建物跡は、出入口ピットを含めた南北軸8.0m、東西軸9.0mの方形で、主軸方向はN-31°-Eである。

床 はほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 112か所。第47 A号建物跡は壁柱穴が巡っている建物跡である。第47 B号建物跡は、壁柱穴がまばらであるが、P 35・P 48・P 79・P 84のほか、第35 E号建物跡の帰属としたP 133などが、位置と形状、深さなどから主柱穴に相当するものと考えられる。

##### P 7土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量

##### P 17・P 18土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量・焼土粒子少量・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

## P 35 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 3 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

## P 62 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## P 58・P 59 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量  
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量  
 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量  
 6 暗褐色 ローム粒子中量  
 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

## P 72・P 74 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量  
 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	28	12	12	33	49	15	42	27	10	36	25	43	11	44	138	50	28	79	114	39	34	32	17	61	5
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	14	16	25	32	64	22	52	60	8	107	56	20	25	17	63	68	20	59	28	19	40	20	107	120	23
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
深さ	23	31	11	42	15	23	11	20	45	63	18	40	25	22	89	14	11	15	42	37	27	54	31	72	25
番号	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
深さ	23	19	28	114	71	84	39	40	156	41	18	76	9	5	16	24	8	22	21	36	22	7	6	41	24
番号	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112													
深さ	34	6	7	18	21	88	19	31	24	94	105	95													

**覆土** 第47A・B号建物跡で23層に分層できる。第1～17層が第47B号建物跡の覆土、第25～30層が第47A号建物跡の覆土である。いずれもローム粒子や焼土粒子、骨粉などがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。特に第10・15・16・26層は、焼土粒子が多量に含まれている層である。第18～24層はP48の覆土である。また第1・5層は層中に平坦な面を形成することから、別の1棟の覆土の可能性もある。

## 土層解説

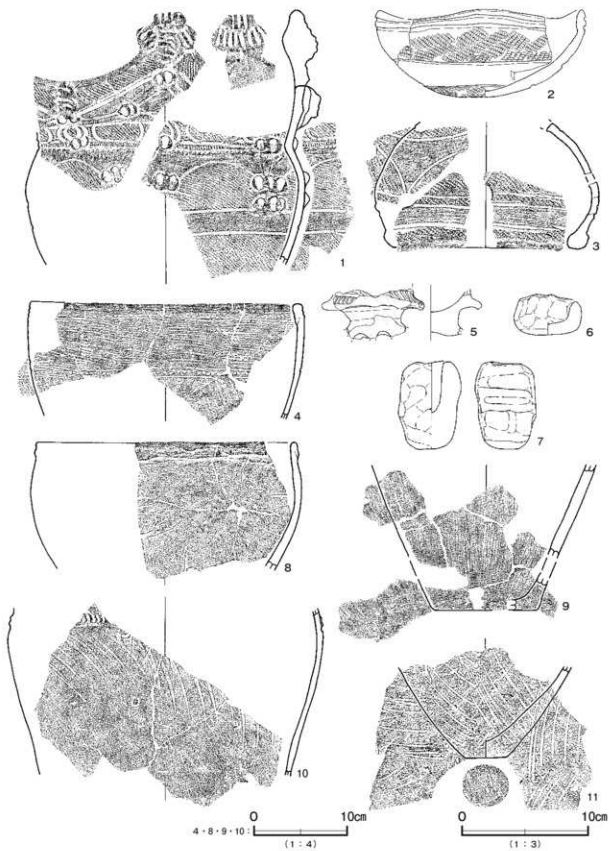
- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 2 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・骨粉少量、炭化粒子微量  
 3 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 7 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量  
 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 9 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量  
 10 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 11 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量  
 12 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量  
 13 極暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量  
 14 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量  
 15 赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量  
 16 暗赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量  
 17 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量  
 18 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 19 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 20 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 21 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量  
 22 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
 23 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 24 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
 25 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  
 26 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量  
 27 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 28 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
 29 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量  
 30 褐色 ローム粒子多量

**遺物出土状況** 縄文土器片6,889点(104.92kg)、土製品30点(土錘2、土器片円盤8、耳飾り9、土偶5、有孔円盤1、貝輪状5)、石器・石製品29点(石錘5、磨製石斧2、石皿類2、磨石類12、砥石4、礫器1、加工痕のある剥片1、玉類1、石棒・石剣類1)のほか、発泡体3点、焼成粘土塊3点、軽石1点、石核3点(チャート)、剥片15点(チャート9、黒曜石6)、獣骨片17.75gが出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第5群の後期中葉(27.8%)、第7群の後期後葉(25.3%)、第4群の後期前葉(20.2%)のものである。遺物は覆土下層から多く出土している。P5・P10・P15・P19・P31・P34・P39・P48・P52・P55・P75・P93からは、主に後期中葉以前の土器が出土している。また、第47B号建物跡の東壁際の床面上からは、厚層10cm前後の焼土層が面的に堆積している。これらの焼土層はローム粒子を含んでいる締まりのないもので、被熱による硬化等ほとんど見られなかった。

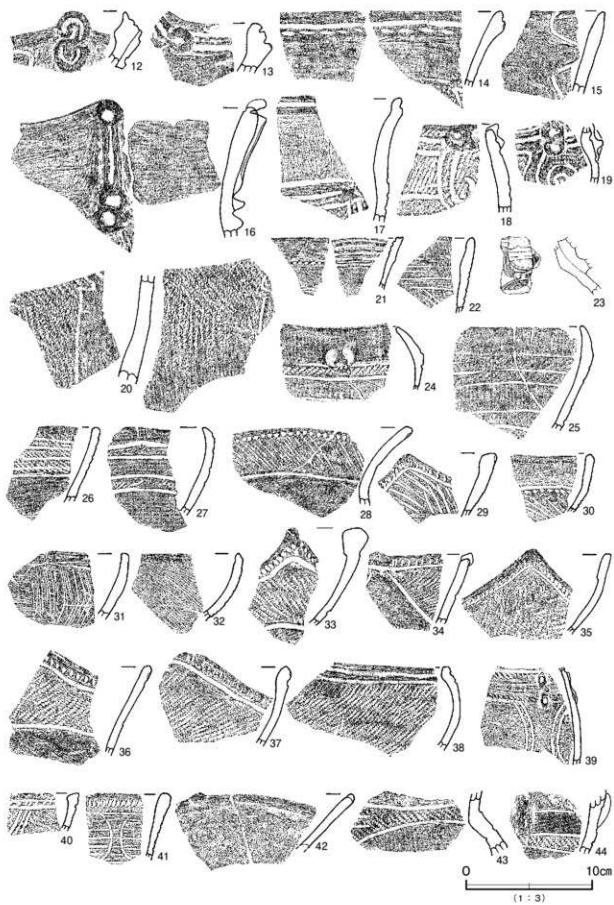
所見 時期は、出土土器や遺構の形状、他建物跡との重複関係から、第47 A号建物跡が後期前葉の堀之内1式期、第47 B号建物跡が後期後葉の安行1式から2式期と考えられる。第47 B号建物跡は焼失家屋で、床面近くで見られた焼土層は、上屋根や壁材に由来するものと考えられる。

第47号竪穴建物跡出土遺物観察表（第169～175図）

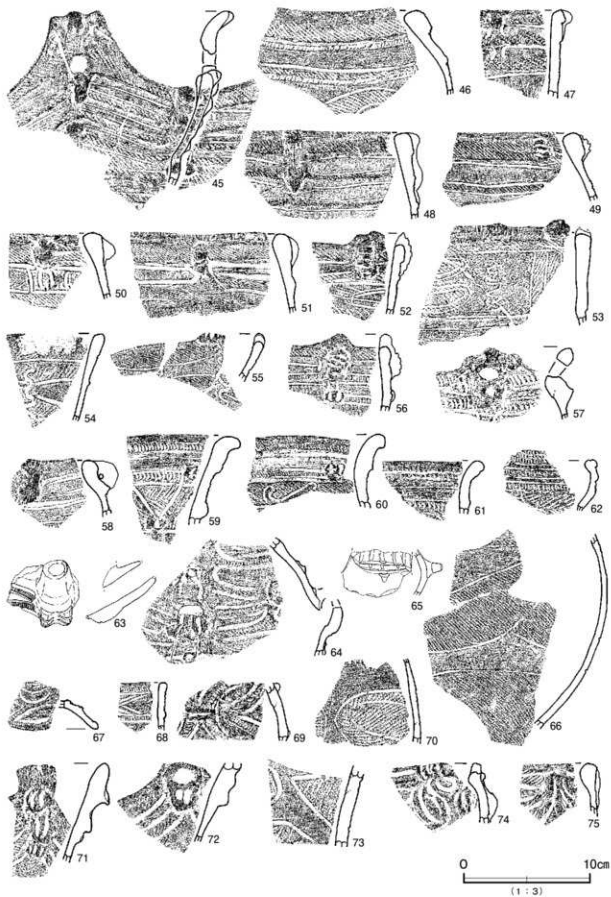
番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	[21.2]	[20.0]	-	灰・灰・赤・粘質	黒	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	10%	
2	縄文土器	浅鉢	[15.4]	6.9	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄緑	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	30%	
3	縄文土器	台付鉢	-	[10.0]	[14.6]	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	10%	
4	縄文土器	深鉢	[28.4]	[12.0]	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面条線→付点線縄文	内面磨き	覆土中層	PL.37	
5	縄文土器	蓋付台付	-	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	透かし孔さか所	内面ナデ	覆土中層	20%	
6	縄文土器	コシヤフ	4.1	3.3	3.7	長石・石英	橙	普通	外・内面磨きナデ	-	覆土下層	100%	
7	縄文土器	コシヤフ	5.0	7.0	1.5	長石・石英	にぶい	普通	外・内面磨きナデ	裏面大きく凹む	覆土下層	100%	
8	縄文土器	深鉢	[26.6]	(13.1)	-	灰・灰・赤・粘質	浅黄緑	普通	外面倒り	内面ナデ	覆土中層	10%	
9	縄文土器	深鉢	-	(15.2)	[10.5]	灰・灰・粘質	橙	普通	外面磨き	内面ナデ	床面	30%	
10	縄文土器	深鉢	-	(17.4)	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面条線→線線付	内面ナデ	覆土中層	5%	
11	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	3.5	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線	内面ナデ	底部削り	覆土中層	10%
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	-	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面縄文通結縄文	内面磨き	P 19	-	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	-	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面能行沈澱	内面磨き	覆土下層	-	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面C字状胎付	内面磨き	床面	-	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面LR・縄文→沈澱	断面磨き	内面磨き	覆土下層	-
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面LR・縄文→沈澱	内面ナデ	覆土下層	-	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	-	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質	にぶい	普通	外面LR・縄文→沈澱→沈澱磨き	内面ナデ	床面	-	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 19	-	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面半杖竹管状工具による三角文	内面ナデ	覆土下層	-	
23	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外面磨き	石神彫	覆土下層	-	
24	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	-	
25	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	-	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	橙	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	-	
27	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→無胎LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	-	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈澱→条線→口縁部削み	内面磨き	覆土中層	-	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面矢羽状沈澱→沈澱→削み	内面磨き	P 18	-	
30	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗	普通	口縁部外面ナデ	側部線文	内面磨き	覆土上層	-
31	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	灰	普通	外面条線→沈澱	内面磨き	床面	-
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨き状工具による条線	内面削り磨き	覆土下層	-	
33	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈澱→RL・縄文→口縁部削み・無文部磨き	内面磨き	覆土中層	-	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	-	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈澱→LR・縄文→口縁部削み	内面磨き	覆土中層	-	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	灰	普通	外面沈澱→LR・縄文→口縁部削み	内面磨き	覆土上層	-	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈澱→RL・縄文→口縁部削み	内面磨き	覆土上層	-	
38	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	暗赤褐	普通	外面沈澱→LR・縄文	内面ナデ	覆土中層	-	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	灰黄緑	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層	-	
40	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面LR・縄文→削み	内面磨き	P 55	-	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面倒起帯輪縄文→区別	内面磨き	覆土上層	-	
42	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	褐	灰	普通	外・内面ナデ	覆土下層	二次焼成	
43	縄文土器	鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	暗赤褐	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	-	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	褐	普通	外面削付→帯起帯輪沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 79	-	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	床面	PL.37	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面段起帯輪沈澱→削み→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	-	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	-	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質	明赤褐	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	-	
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・粘質	明赤褐	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	-	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	-	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面段起帯輪沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	-	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面段起帯輪沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	-	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・灰・赤・粘質	にぶい	普通	外面沈澱→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	PL.37	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	灰	普通	外面沈澱→LR・縄文→口縁部削み	内面磨き	覆土上層	-
55	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	-	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段起帯輪沈澱→LR・縄文→削み	内面磨き	覆土中層	-	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面段起帯輪沈澱→削み→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	-	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗	灰	普通	外面段起帯輪沈澱→削み→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	-
59	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段起帯輪沈澱→削み	内面磨き	覆土上層	-	



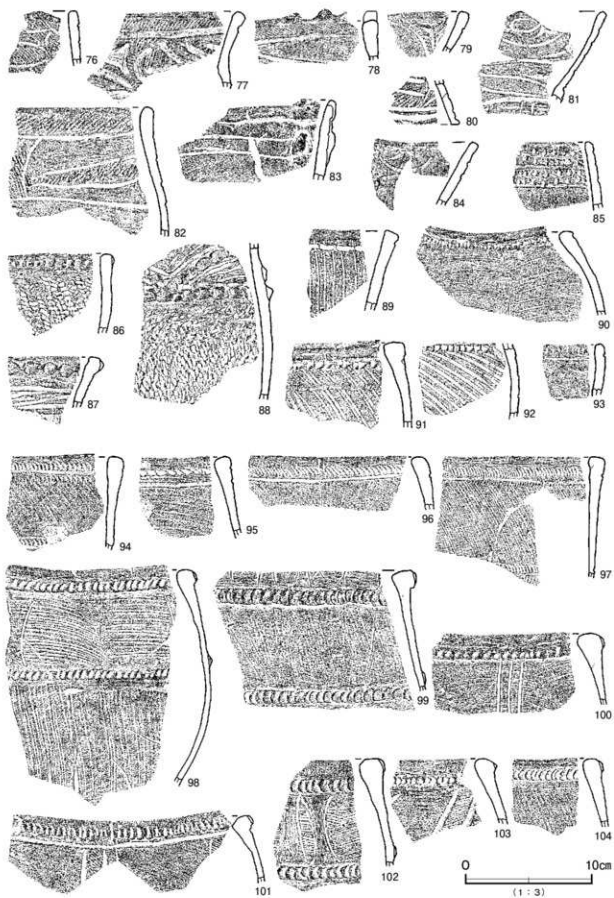
第169图 第47号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)



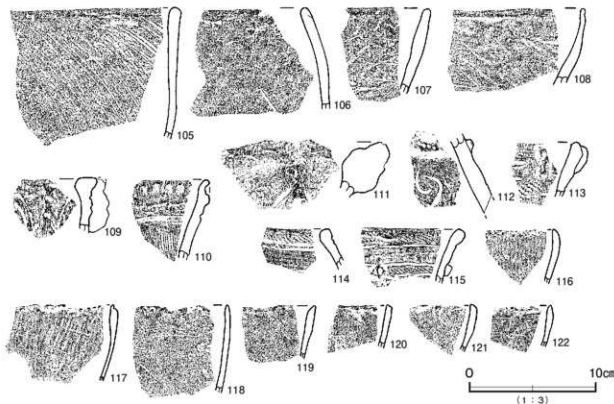
第 170 图 第 47 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



第 171 図 第 47 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (3)



第 172 图 第 47 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)

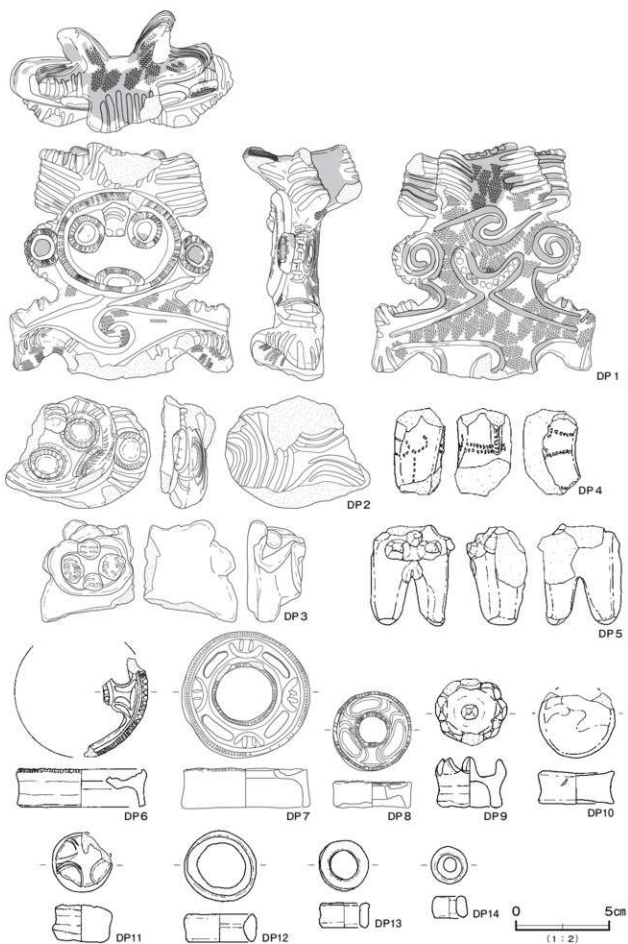


第 173 図 第 47 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (5)

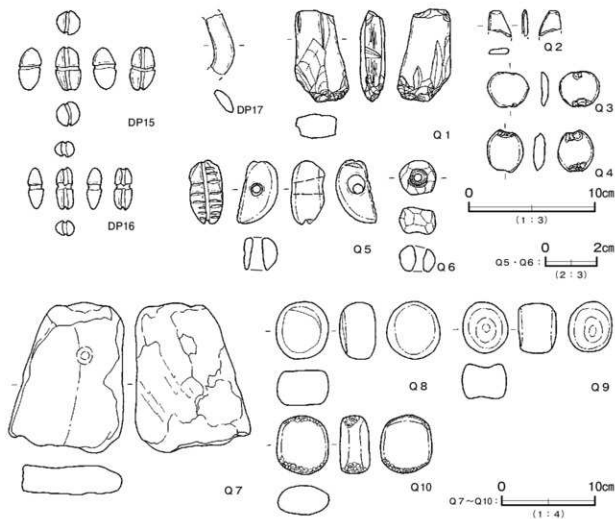
第 47 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 169 ~ 175 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
60	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面丸文→帯彫刻筋→帯彫付→部A→無文部磨き	内面ナデ	覆土中	
61	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯彫刻筋→部A→無文部磨き	内面磨き	P 52	
62	縄文土器	黄台付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面口唇部削み	内面ナデ	覆土下層	
63	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・黑色鉄子	黒	普通	外面隆起帯彫付	内面ナデ	覆土下層	
64	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯彫付筋→丸文・部A→無文部磨き	内面ナデ	P 95・P 106	
65	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	縁受け突起部分	内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
67	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯彫付筋→部A→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
68	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面頸部区縄文→口縁部付点線紋	内面ナデ	覆土下層	
69	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線間刻み	無文部磨き	内面ナデ	覆土中
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面沈線→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面隆起付→帯彫付筋→丸文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面隆起付→帯彫付筋→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黑色鉄子	にぶい黒褐色	普通	外面沈線→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 72・P 110	
74	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外面口唇部に沈線紋	内面磨き	覆土下層	
75	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黑色鉄子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯彫付筋→LR・縄文	内面ナデ	覆土下層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋R・縄文	内面ナデ	覆土中	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	P 95・P 106	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→RL・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
79	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
80	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土下層	
81	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈線→無筋L・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外・内面ナデ		覆土下層	
84	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線紋	内面ナデ	覆土下層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面細い刻文光地	内面磨き	覆土下層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面RL・縄文	内面磨き	覆土下層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面RL・地縄文→縁部貼付	内面磨き	P 19	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黄褐色	普通	外面LR・地縄文→縁部貼付→沈線紋	内面ナデ	P 95・P 106	
89	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面沈線→口縁部角状の削み	内面ナデ	覆土下層	





第 174 图 第 47 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (6)



第175図 第47号竪穴建物跡出土遺物実測図(7)

第47号竪穴建物跡出土遺物観察表(第169～179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
90	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線→口縁部刷み 内面粗い磨き	覆土下層	
91	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→口縁部刷み 内面ナデ	覆土下層	
92	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面条線→刷み 内面磨き	P 19	
93	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面付点線縦文 内面ナデ	P 35	
94	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	外面条線→付点線縦文 内面磨き	覆土上層	
95	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面条線→付点線縦文 内面磨き	覆土中層	
96	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線→付点線縦文 内面磨き	覆土中	
97	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 褐	普通	外面条線→付点線縦文 内面磨き	P 72・P 110	
98	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線→絛線貼付 内面ナデ	覆土下層	
99	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面条線→絛線貼付 内面磨き	覆土上層	
100	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	外面条線→絛線貼付→胴部区画文 内面ナデ	覆土下層	
101	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面沈線→R.L. 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
102	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線→絛線貼付→胴部区画文→沈線磨き 内面磨き	覆土上層	
103	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線→沈線→L.R. 縄文 内面ナデ	覆土下層	
104	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	褐	普通	外面条線→絛線貼付 内面ナデ	P 81	
105	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
106	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
107	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面無刷し縄文→条線 内面磨き	覆土下層	
108	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗 褐	普通	外・内面ナデ	覆土下層	
109	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁突起部 外面半管状作製工具による縦線文 内面ナデ	P 24	
110	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	外面側面状工具による斜交文 内面磨き	P 24	
111	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁突起部 内面磨き	覆土中	

第 47 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 169 ~ 179 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
112	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面 LR 縄文 内面磨き	覆土中	P 58
113	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面段椗帯輪状押→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	P 58
114	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	P 59
115	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面段椗帯輪状押→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	P 59
116	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中	口 1 類
117	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土中	口 1 類
118	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土下層	口 1 類
119	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部ヘラ切り	覆土中	口 C2 類
120	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部ヘラ切り	覆土上層	口 C2 類
121	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土下層	口 1 類
122	縄文土器	製版	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ 口縁部未調整	覆土上層	口 1 類

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	土 偶	126	116	6.4	(421.4)	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	ミミズク ステッキ状入組文 赤彩	覆土下層	3c 類 PL40
DP 2	土 偶	5.9	7.7	2.9	(96.5)	長石・石英・角閃石類	明 褐	ミミズク	覆土中層	3a 類 PL40
DP 3	土 偶	5.4	5.0	3.1	(59.5)	長石・石英・赤色粒子	灰 白	ミミズク 手づくね状	覆土中層	3c 類 PL40
DP 4	土 偶	(4.6)	(3.0)	2.7	(38.7)	長石・石英・赤色粒子	橙	山形土偶割部 細かい刷文 表面に隆起部	覆土上層	2a 類
DP 5	土 偶	(5.3)	(4.5)	(3.2)	(60.6)	長石・石英・雲母	にぶい橙	山形土偶割部	覆土中層	2c 類 PL40
DP 6	耳飾り	径 7.0	-	2.0	(11.7)	長石・石英	橙	透かし孔あり 磨き整形	覆土中層	耳類
DP 7	耳飾り	径 6.8	-	2.2	32.4	長石・石英・角閃石類	橙	透かし孔 4 か所 中央 1 か所 周縁部削み	覆土中層	耳類 PL42
DP 8	耳飾り	径 4.2	-	1.5	13.6	長石・石英	橙	周縁部削みかけ	覆土中層	耳類 PL42
DP 9	耳飾り	径 3.8	-	2.7	22.0	長石・石英・雲母	明赤褐	内側を大きく換る ナデ整形	覆土中層	1 3 類 PL42
DP10	耳飾り	径 4.0	-	1.8	(27.7)	長石・石英・赤色粒子	橙	白粉 ナデ整形 上面に窪み	覆土上層	1 2 類
DP11	耳飾り	径 3.2	-	2.0	(24.2)	長石・石英	明赤褐	白粉 風乾 ナデ整形	覆土上層	1 2 類
DP12	耳飾り	径 3.7	-	1.5	11.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	風状 ナデ整形	覆土下層	耳 1 類 PL42
DP13	耳飾り	径 2.7	-	1.3	6.9	長石・石英	明赤褐	風状 ナデ整形	覆土下層	耳 1 類 PL42
DP14	耳飾り	径 1.9	-	1.2	3.7	長石・石英	橙	風状 ナデ整形	覆土中層	耳 1 類
DP15	土 鉢	3.4	1.9	1.9	11.7	長石・石英	にぶい橙	有溝	覆土下層	PL44
DP16	土 鉢	3.3	1.4	1.2	5.5	長石・石英	橙	有溝	覆土下層	PL44
DP17	瓦輪状	(4.8)	(2.1)	1.8	(12.1)	長石・石英	にぶい赤褐	ナデ整形	覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	磨製石斧	(7.3)	(4.2)	2.0	(94.2)	頁 岩	定角式 表裏面・側面に砥面状の溝あり	覆土下層	PL45
Q 2	磨製石斧	(2.1)	(1.9)	0.4	(1.9)	頁 岩	小形定角式 縁磨整形	覆土下層	
Q 3	石 鎌	2.8	3.2	0.6	7.4	輝石安山岩	長軸の上下端を打ち欠き	P 93	3 類
Q 4	石 鎌	3.8	2.9	1.0	10.8	安山岩	長軸の上下端を打ち欠き	覆土中	3 類
Q 5	玉 錐	2.5	1.6	1.3	8.9	霏 翠	勾玉状 カクワイイ模倣。片面穿孔	覆土中層	PL46
Q 6	玉 錐	径 1.35	-	1.1	2.8	滑 石	小玉 経磨による面取り 片面穿孔	覆土下層	PL46
Q 7	石皿類	(15.7)	(12.1)	3.1	(94.7)	黒雲母片岩	表面に磨面と凹面	覆土中層	2 類
Q 8	磨石類	6.0	5.4	3.7	180.6	安山岩	表裏・側面に磨面	覆土中層	1c 類
Q 9	磨石類	5.3	5.1	4.0	131.5	安山岩	表裏・側面に磨面	覆土中層	1c 類
Q 10	磨石類	6.0	5.3	6.0	164.4	輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 上下端に磨打痕	覆土下層	2a 類 PL48

第 40 号竪穴建物跡 (第 176 図)

位置 調査 A 区東部の C 7 d2 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

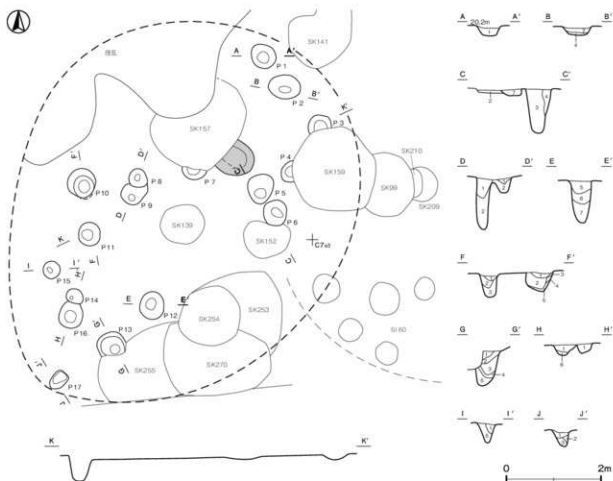
重複関係 第 157 号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第 60 号建物跡、第 139・141・152・159・253 ~ 255・270 号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係を捉えることはできなかった。

規模と形状 炉とピットの位置から、南北径 8.6 m、東西径 7.1 m の楕円形と推定できる。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 中央やや北側に位置している。第 157 号土坑に掘り込まれているため、南北径は 78cm で、東西径は 60cm しか確認できなかった。深さは約 5cm で、浅く掘りくぼめられている。

ピット 17 か所。P 1 ~ P 3・P 6・P 10 ~ P 12 が弧状に巡っている竪柱穴である。P 5・P 9 は、位置や深さから主柱穴の可能性がある。



第176図 第40号竪穴建物跡実測図

## P1・P2・P5・P6・P8・P9・P12・P14～P16土層

## 解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

## P10土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

## P11土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

## P13土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

## P17土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

## ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
深さ	22	20	16	19	94	18	30	32	110	37	55	91	87	28	55	35	26

遺物出土状況 P11から第3群土器が1点、P12から後期中葉から後葉の土器片が14点出土している。

所見 ピット内から後期の土器が多く出土していること、壁柱穴が巡る柱穴配置であることなどから、後期初頭から前葉と考えられる。ただし主柱穴的なピットも存在することから、中期あるいは後期中葉以降の可能性もある。

#### 第41A・B号竪穴建物跡（第177～183図 PL12・13）

位置 調査A区中央部のC6a8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層中で確認した。第35E・39号竪穴建物跡を掘り込んでいる。本跡より上層で第115・118～121号土坑が確認されている。

規模と形状 東部と南部に出入口ピットが確認できることから、東部を出入口部とする1棟を第41A号建物跡、南部を出入口部とするものを第41B号建物跡とする。第41A号建物跡は、南北軸4.28m、出入口ピットを含めた東西軸は、西部が攪乱のため5.6mしか確認できなかった。平面形は出入口側が広がるD字形で、炉と出入口ピットを結んだ主軸方向はN-127°-Wである。第41B号建物跡は、出入口ピットを含めた南北軸は5.54mで、東西軸は西部が攪乱のため4.4mしか確認できなかった。平面形は出入口側が広がるD字形で、炉と出入口ピットを結んだ主軸方向はN-22°-Wである。壁は高さ22～52cmで、外傾している。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 2か所。炉1は、西壁際に位置している。径60cmの石囲炉で、西側の石のみ遺存している。深さ32cmで、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。位置や床面からやや上位で確認できたことなどから、本跡より新規の遺構に伴う可能性がある。炉2は、中央やや南寄りに位置している。径90cm、深さ12cmの地床炉で、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

##### 炉1土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明赤褐色 焼土粒子多量、灰少量、ローム粒子・炭化粒子微量

##### 炉2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・灰微量
- 2 淡赤褐色 焼土粒子多量、灰・骨粉中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 橙褐色 焼土粒子多量、灰少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 63か所。P1～P3は、位置と深さから主柱穴の可能性がある。P4は深さが浅いものの、位置から主柱穴の可能性がある。P10～P52は、位置と形状から竪柱穴である。P53～P55は第41A号建物跡、P56～P63は第41B号建物跡の出入口ピットである。いずれも壁際に帯状に張り出している。P49・P50も深さがあり、東壁及び出入口ピットに接して掘り込まれていることから、出入口部に関連するピットの可能性がある。

##### P1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・灰微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

##### P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

##### P3土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量

##### P10・P50土層解説

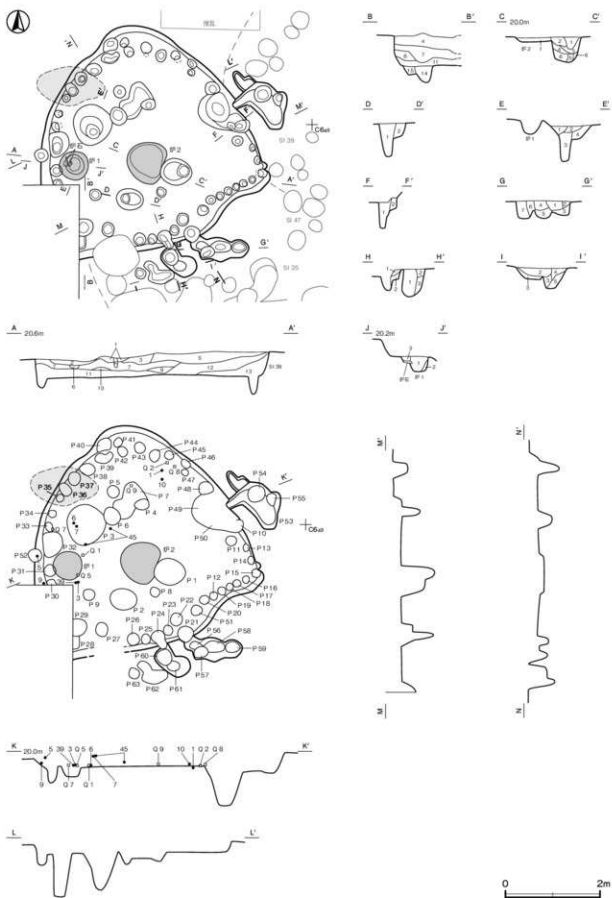
- 1 黒暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

##### P57～P59土層解説

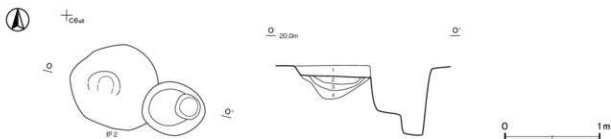
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

##### P24・P60～P62土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 3 黒暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量



第 177 图 第 41 号竖穴建物跡実測图 (1)



第178図 第41号竪穴建物跡実測図(2)

ビット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	71	69	81	20	22	27	6	52	17	39	38	28	25	25	43	34	21	33	22	12	12	22	19	25	27
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
深さ	57	26	14	31	11	33	91	39	29	21	33	29	41	45	22	25	48	45	54	39	16	14	41	81	51
番号	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63												
深さ	41	20	33	130	34	39	48	36	32	58	46	27	15												

**覆土** 13層に分層できる。上層及び中層に焼土がブロック状に堆積している。また黒褐色土が主体の層とロームブロックが多く含まれる層が互層をなすように堆積していることから、埋め戻されている。第14・15層はP 28・P 29の覆土である。

**土層解説**

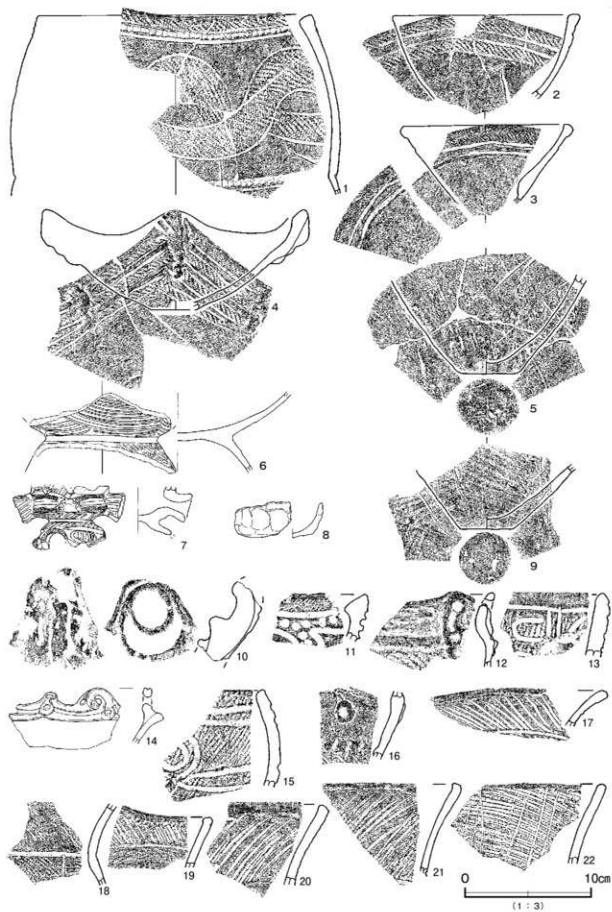
- |        |                          |        |                            |
|--------|--------------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量      | 9 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量        |
| 2 黒褐色  | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量      | 10 赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子少量              |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量    | 11 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 |
| 4 黒色   | 炭化粒子・骨粉中量、ローム粒子・焼土粒子少量   | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量        |
| 5 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量        | 13 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量          |
| 6 黒褐色  | 焼土粒子少量、ローム粒子微量           | 14 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量        |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量   | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量      |
| 8 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 |        |                            |

**遺物出土状況** 縄文土器片5,320点(8964kg)、土製品4点(土器片円盤1、土偶3)、石器・石製品40点(石鏃2、磨製石斧2、石皿類9、磨石類13、砥石5、石錘2、石剣・石棒類2、独鈷石1、加工痕のある剥片4)のほか、発泡体2、焼成粘土塊1、石核6点(黒曜石3、チャート3)、剥片31点(黒曜石27、チャート4)、獣骨片などが出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて、多量に出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群(安行1・2式)29.9%である。特に曾谷式から安行1式が多く確認できる。

**所見** 出入口部が2か所確認できることから、2回以上の建て替えが推測されるが、支柱穴や炉跡が複数確認できないことから、上層や屋内施設はそのままで、出入口部のみを東部から南部へ作り替えたものと推測できる。時期は、出土土器や形状から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。如1に伴う床面やビット等は判断できなかったが、P 4やP 5、建物の振り込みと重複するP 21やP 60、それらと並ぶP 62・P 63などが該当するとすれば、径約6mの円形の建物跡を想定することも可能である。

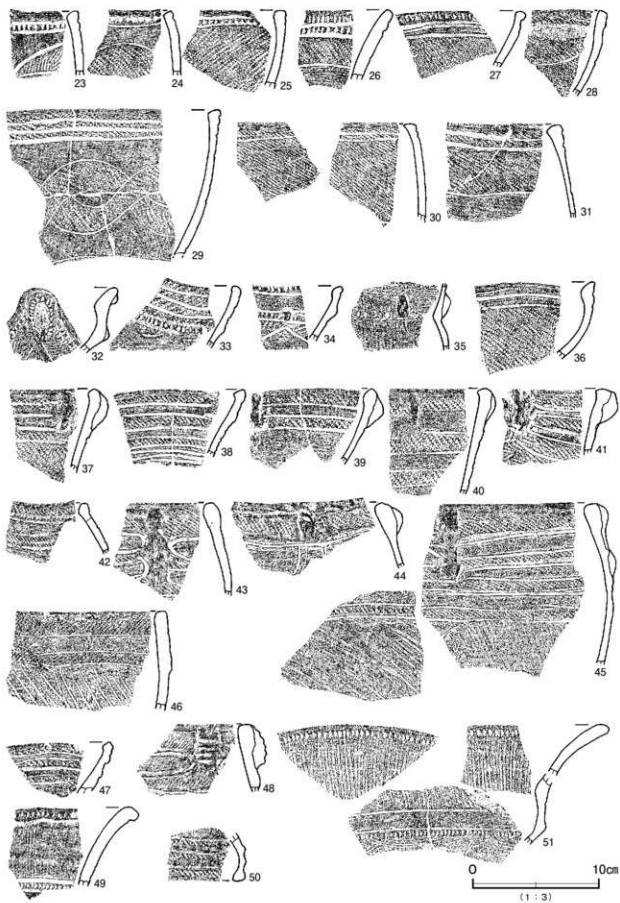
第41号竪穴建物跡出土遺物観察表(第179～183図)

番号	種別	図様	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.6]	[14.2]	—	長石・石英・赤色砂子	褐	普通	外面沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	床面	10%
2	縄文土器	浅鉢	[14.7]	[6.6]	—	長石・石英	黒	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	20%
3	縄文土器	鉢	[13.0]	[6.2]	—	長石・石英・雲母	灰	普通	外面隆帯臨沈線→無筋及縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	10%
4	縄文土器	浅鉢	[20.6]	[7.9]	[3.6]	長石・石英・雲母	灰	普通	外面隆帯臨沈線→RL縄文→磨き 側面磨き 内面磨き	覆土下層	10% PL37

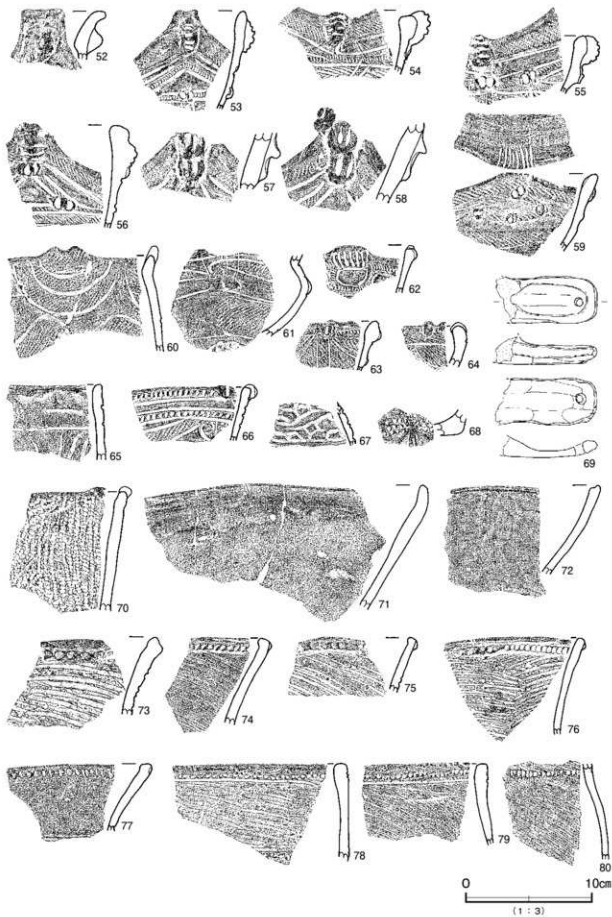


第 179 图 第 41 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)

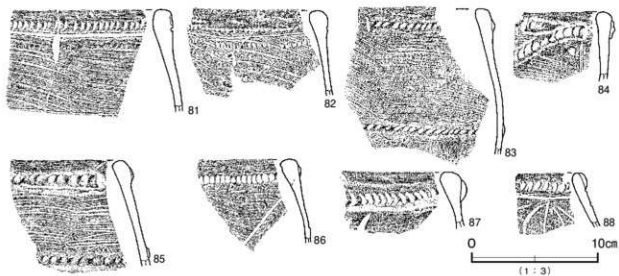




第 180 图 第 41 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)



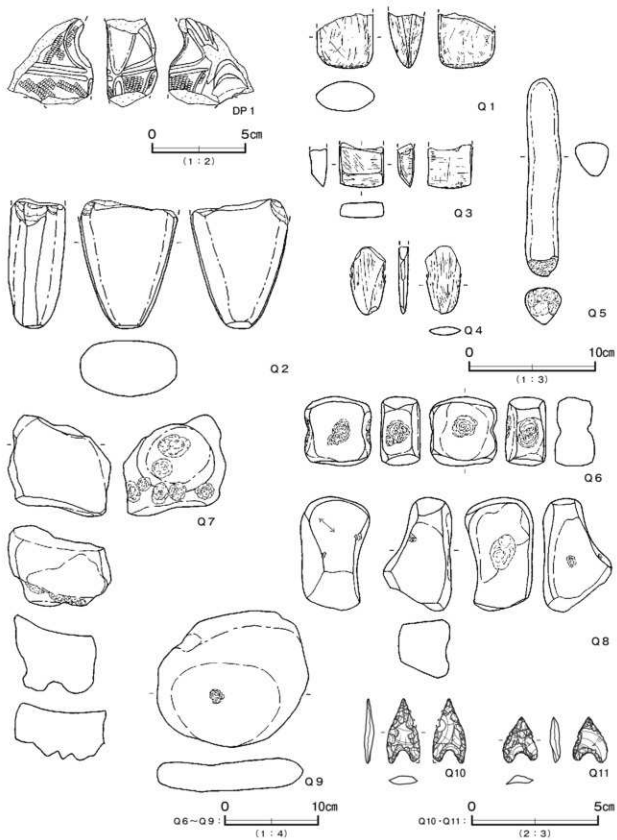
第 181 图 第 41 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (3)



第 182 図 第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (4)

第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 179 ~ 183 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	-	(79)	4.1	長石・石英	じょう黄緑	普通	外面磨り 内面・底部ナデ	覆土上層	内面に塗 10%
6	縄文土器	内付鉢	-	(64)	-	長石・石英	灰 緑	普通	外面糸織 頸部凹, 縄文 内縁部磨き 頸部ナデ	覆土下層	10%
7	縄文土器	蓋形内付	-	(51)	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→隆帯上磨み 内面ナデ	覆土上層	70%
8	縄文土器	こしらえ	24	28	-	長石・石英・赤色粒子	じょう黄緑	普通	外・内面磨面にによる磨削	覆土中	60%
9	縄文土器	深鉢	-	(46)	4.0	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面糸織 内面ナデ 底部磨り	覆土中層	10%
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面隆起帯貼付 内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・赤色粒子・砂	じょう黄緑	普通	口縁部外面 L.R 縄文 内面磨き	覆土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	じょう黄緑	普通	口縁部外面磨き 頸部無筋 R 縄文 内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面 L.R 縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部に黄文連続沈線 外・内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	じょう黄緑	普通	外面 L.R 縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐	普通	外面制部糸織 内面磨き	覆土下層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面斜線文→頭部磨き 内面磨き	覆土中	
18	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒子	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面軽い磨き	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	じょう黄緑	普通	外面糸織→頸部磨み 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 褐	普通	外面糸織→頭部磨き 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 緑	普通	外面糸織 内面磨き	覆土下層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面斜格子目文 内面磨き	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面ナデ	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 緑	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面凹線・沈線→L.R 縄文 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	PL37
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒子	褐	普通	外面沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土下層	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒子	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒子	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面 L.R 縄文→沈線 内面磨き	覆土下層	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐	普通	外面 L.R 縄文→沈線 磨み・磨貼付→磨き 内面ナデ	覆土上層	
36	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	じょう黄緑	普通	外面沈線→L.R 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒子	褐 灰	普通	外面隆帯臨沈線→L.R 縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	外面隆帯臨沈線→L.R 縄文→磨き 内面磨き	焼土中	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面隆帯臨沈線→L.R 縄文 内面磨き	覆土下層	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・砂粒子	じょう黄緑	普通	外面隆帯臨沈線→L.R 縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面隆帯臨沈線→L.R 縄文 内面ナデ	覆土上層	
42	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	じょう黄緑	普通	外面隆帯臨沈線→L.R 縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	



第183图 第41号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)

第41号竖穴建物跡出土土物観察表(第179~183図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
43	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面ナデ	覆土上層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文 内面ナデ	覆土下層	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 胴部条線 内面ナデ	覆土中層	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面流紋→LR.縄文→条線 内面ナデ	覆土上層	
47	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面磨き	覆土下層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面ナデ 口縁部磨き	覆土上層	
49	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面条線→沈線→口縁部削み 内面磨き	覆土下層	
50	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
51	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外面条線→沈線→胴部磨き 内面磨き	覆土下層	
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	口縁部外面削み 内面磨き	覆土中層	
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	にぶい黄黒	普通	外面隆帯流紋→縦筋付→LR.縄文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	明 黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
55	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	明赤黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面磨き	埴土中層	
56	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
57	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
58	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	焼 灰	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文→磨き 内面磨き	覆土上層	
59	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面凹線→LR.縄文 内面ナデ	覆土上層	
60	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	にぶい黄黒	普通	外面流紋→LR.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
61	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄黒	普通	外面流紋→LR.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
62	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面流紋→隆帯上削み→磨き 内面ナデ	覆土下層	
63	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆帯流紋→LR.縄文 内面磨き	覆土下層	
64	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	明 黒	普通	外面流紋→LR.縄文 内面ナデ	覆土下層	
65	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面無文部・内面ナデ	覆土上層	
66	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄黒	普通	外面流紋→LR.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	PL37
67	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	焼 灰	普通	外面半筒状 磨き 内面ナデ	覆土上層	
68	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英・粘板石	焼 灰	普通	外面下部細い刺突文 内面磨き	覆土下層	
69	縄文土器	手筒	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面側り 内面ナデ	覆土下層	
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	外面LR.縄文 内面磨き	覆土上層	
71	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面磨き	覆土下層	
72	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	焼 灰	普通	外面側り 内面ナデ	覆土上層	
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	橙	普通	外面地縄文→縦線貼付→条線 内面磨き	埴土中層	
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	灰 黒	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	覆土上層	
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	灰 黒	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面地縄文→条線→縦線貼付 内面磨き	覆土上層	
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗 黒	普通	口縁部外面削み 内面磨き	覆土下層	
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	焼	普通	外面条線→付点線文 内面磨き	覆土下層	
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面条線→付点線文 内面磨き	覆土下層	
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	焼 灰	普通	外面条線→胴部削み 内面ナデ	覆土上層	
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ	覆土下層	
82	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘板石	にぶい橙	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ	覆土中層	
83	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ 部磨き	覆土下層	
84	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	埴土中層	
85	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土下層	
86	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	覆土中層	
87	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
88	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	土 甕	(4.7)	(4.5)	2.7	(40.8)	長石・石英	橙	ミズク製部 沈線→LR.縄文	覆土上層	3c

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(4.4)	4.5	2.9	73.0	絶紋岩	定角式 刃部再加工	覆土下層	2b
Q 2	粘板石	(10.3)	7.7	4.5	(71.9)	輝石安山岩	全面研磨加工 右側下部敲打調整	表面	
Q 3	磨製石斧	(3.5)	3.5	1.3	(27.9)	緑色岩	定角式 刃部一部刃こぼれ	覆土下層	2b
Q 4	石 磨	(5.3)	(2.8)	0.7	(15.5)	粘板岩	石側。表面研磨加工	埴土穴内	1c
Q 5	磨石磨	15.7	2.9	2.9	173.2	ホルンフェルス	下部に敲打加工	埴土中層	3a
Q 6	磨石磨	2.2	7.0	4.15	200.6	多孔質安山岩	表裏・両面に研磨・凹削	覆土下層	2b
Q 7	磨石磨	(10.5)	(10.7)	8.3	880.6	安山岩	表面磨り面 裏面凹削 裏面の一部にも磨り面あり	覆土下層	2b
Q 8	石磨	11.8	7.1	7.1	447.7	安山岩	表裏・側面に磨り面 裏面・側面に凹削	覆土下層	2b
Q 9	石磨	15.7	14.2	3.6	1989.9	火山礫	表面に磨り面 凹削	覆土下層	2b
Q 10	石 磨	2.96	1.32	0.39	(0.9)	安山岩	凹基	覆土下層	PL47
Q 11	石 磨	1.81	1.39	0.41	0.6	黒曜石	凹基	覆土下層	PL47

## 第 42 号竪穴建物跡 (第 184・185 図)

**位置** 調査A区北西部のB6h2区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層下で確認した。第43号竪穴建物、第138号土坑に掘り込まれている。第36号竪穴建物とも重複しており、出土遺物から本跡を掘り込んでいと推測される。

**規模と形状** 西部は第43号竪穴建物に掘り込まれ、東部は攪乱のため、またB6h1ラインから北は第2号遺物包含層を調査したのみであることから、東西径は5.2m、南北径は20mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定され、壁は高さ5～10cmで、外傾している。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 18か所。P5・P6・P13～P16は、位置と深さから主柱穴となる可能性がある。そのほかのピットは、南部に位置する第36号竪穴建物跡等に帰属する可能性がある。P1・P7・P10・P18は、壁際にまばらに位置している。

## ピット土層解説

- |       |                  |       |                   |
|-------|------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量           |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量  |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |

## ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	17	13	12	37	42	33	11	8	83	45	20	28	39	37	40	34	18	22

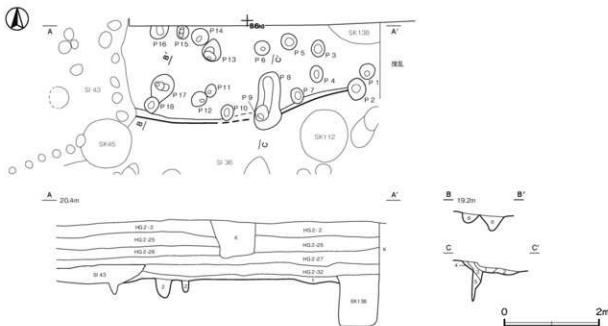
**覆土** 単一層。ローム粒子が多量に含まれる層で、自然堆積である。第2層はP15・P16の覆土である。

## 土層解説

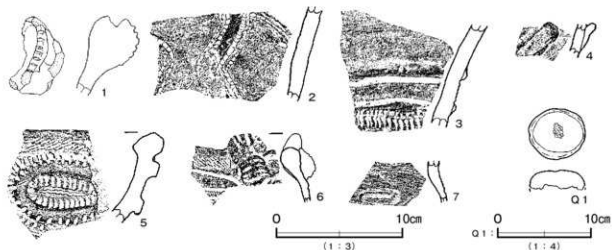
- 1 褐色
- 色
- ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色
- ローム粒子中量、炭化粒子微量 (P15・P16覆土)

**遺物出土状況** 縄文土器片120点(2.13kg)、石器2点(磨石類)が、出土している。土器は中期前葉から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第1群(阿玉台式)25.7%、第2群(加曾利E式)22.8%である。

**所見** 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台Ⅱから阿玉台Ⅲ式期と考えられる。



第 184 図 第 42 号竪穴建物跡実測図



第 185 図 第 42 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 42 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 185 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰白・石灰・粘土	橙	普通	外面底頂部から隆起帯垂下 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰白・石灰・粘土	灰 褐	普通	外面隆起帯脇 2列の角押文 磨き 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面隆起帯脇 爪形文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰白・石灰・粘土	黒 褐	普通	外面帯状隆起帯付 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰白・石灰・粘土	橙	普通	口縁部外面無胎土 縄文 内面ナデ 一部磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰 褐	普通	外面隆起帯脇 沈溝 → 丸 縄文・無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黒 褐	普通	外面「目」字状凹線文 内面磨き	P 4	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石類	5.9	5.3	(3.1)	(9.8)	角閃石・アイソイト	表面に磨り面・凹痕	覆土中	少量 焼丸

#### 第 43 号竪穴建物跡 (第 186 ~ 188 図 PL13)

位置 調査A区北西部のB 6h2区、標高 20 mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 42 号竪穴建物跡を掘り込み、第 45 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外で、また B 6h1 ラインから北は、壁際に巡っている焼土を確認したのみであることから、東西軸は 28 m、南北軸は 5.2 m しか確認できなかった。隅丸方形と推測され、南北軸方向は N - 13° - W である。壁は高さ 9 ~ 23 cm で、外傾している。

床 北部に向かって傾斜している。硬化面は確認できなかった。

ピット 18 か所。P 1 は、位置と深さから主柱穴と考えられる。P 2 ~ P 13 は、位置と形状から壁柱穴である。P 14 ~ P 16 は、位置的に第 42 号竪穴建物跡に帰属する可能性がある。

#### ピット土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量  
 2 褐 色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

#### ピット深度表

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	105	30	24	22	19	16	43	16	19	13	32	28	41	15	37	31	18	17

**覆土** 第2～16・18～24・26・27層の24層に分層できる。本跡の上層には第2号遺物包含層が堆積しているが、斜面部に位置しているため遺物包含層と覆土の区別が不明瞭である。第2～7・10・11層は、斜面上部から流れ込むように堆積しており、第2号遺物包含層の一部が廃棄後窪地となっていた本跡に流れ込んだものと考えられる。特に第2・4・6層は、堅穴建物の範囲を超えて堆積しており、遺構の立ち上りを明瞭に捉えることができなかった。第8・9層は骨粉や遺物を多量に含有している黒褐色土で、第1・8・20・41号堅穴建物跡の上層に堆積していた黒褐色土に類似しており、本跡の覆土となる可能性が高い。第9層の下にはロームブロックが多く含まれている第19・22層が堆積しており、埋め戻されている。また壁際の床面上には、焼土ブロックが帯状に10cm前後の層厚で堆積しており、部分的に板状の炭化材が残存している。第25・28層はP2・P15の覆土、第17・29層は第42号堅穴建物跡の覆土である。

**土層解説**

- |           |                             |          |   |
|-----------|-----------------------------|----------|---|
| 1 極暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量(表土層) | 17 暗褐色   | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量(第42号堅穴建物跡覆土) |
| 2 極暗褐色    | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量           | 18 暗褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量                     |
| 3 暗褐色     | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量    | 19 暗褐色   | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉少量                  |
| 4 極暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量      | 20 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量                     |
| 5 明褐色     | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量       | 21 明褐色   | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量                     |
| 6 暗褐色     | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量       | 22 暗赤褐色  | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子・骨粉微量                  |
| 7 黒色      | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・骨粉少量     | 23 赤褐色   | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量                   |
| 8 黒褐色     | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量        | 24 暗褐色   | ローム粒子中量、炭化粒子・炭化粒子・骨粉少量                  |
| 9 黒褐色     | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量、骨粉少量      | 25 極暗褐色  | 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量(ビット覆土)            |
| 10 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量      | 26 極暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子・骨粉少量                   |
| 11 暗褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量         | 27 暗赤褐色  | 焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量                   |
| 12 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量         | 28 褐色    | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(ビット覆土)              |
| 13 暗赤褐色   | 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量         | 29 褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量(第42号堅穴建物跡覆土)    |
| 14 にんじり褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子中量、ローム粒子少量       |          |   |
| 15 暗赤褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量       |          |   |
| 16 明赤褐色   | 焼土ブロック多量、灰中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 |          |   |

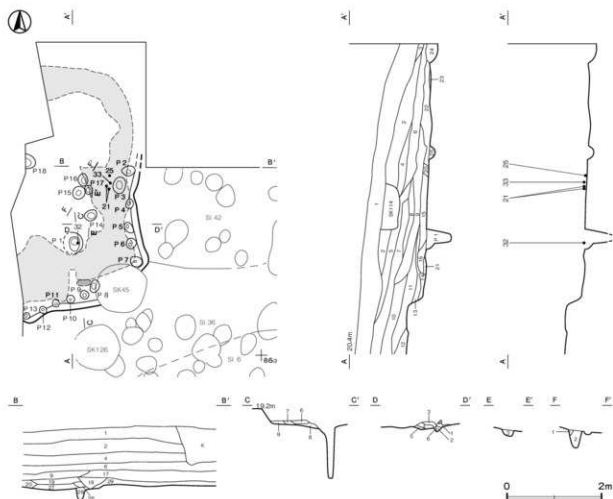
**焼土層解説 (C-C'、D-D')**

- |         |                           |        |                           |
|---------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 極暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量         | 6 赤褐色  | 焼土ブロック多量、灰中量、ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色   | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量       | 7 黒色   | 炭化粒子多量、ロームブロック・焼土粒子少量     |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・灰中量、ローム粒子微量        | 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量       |
| 4 淡赤褐色  | 焼土粒子多量、灰中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 9 褐色   | ローム粒子中量、炭化粒子少量            |
| 5 暗褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子少量            |        |                           |

**遺物出土状況** 縄文土器片904点(12.44kg)、土製品2点(土鍋、貝輪状)、石器6点(打製石斧2、石皿類2、磨石類2)のほか、焼成粘土塊4点、剥片1点(チャート)、獣骨片が出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7群(安行1・2式)29.9%である。32はP1の直上から、33は焼土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器と形状から後期後葉の安行2式期と考えられる。焼土層が壁際に巡る例は、本跡以外に第6・15号堅穴建物跡でも見られ、また関東地方の当該期の堅穴建物跡にも共通して確認できる。本跡の壁際の焼土層は、層厚があるものの被熱により硬化したような痕跡はなく、また床面全体に平滑に分布することもないことから、当該期の関東地方の堅穴建物跡に見られる「焼土敷・灰敷き」の床面を有するものとは考えにくい。焼土層下部の床面が、被熱により激しく赤変硬化した部分があること、また、壁内側の壁柱穴沿いに板状の炭化材が確認できたこと、P5で炭化材の一部が直立するように出土したことなどから、本跡は焼失建物跡で、壁際の焼土層は土屋根など建物構架材の一部と考えられる。

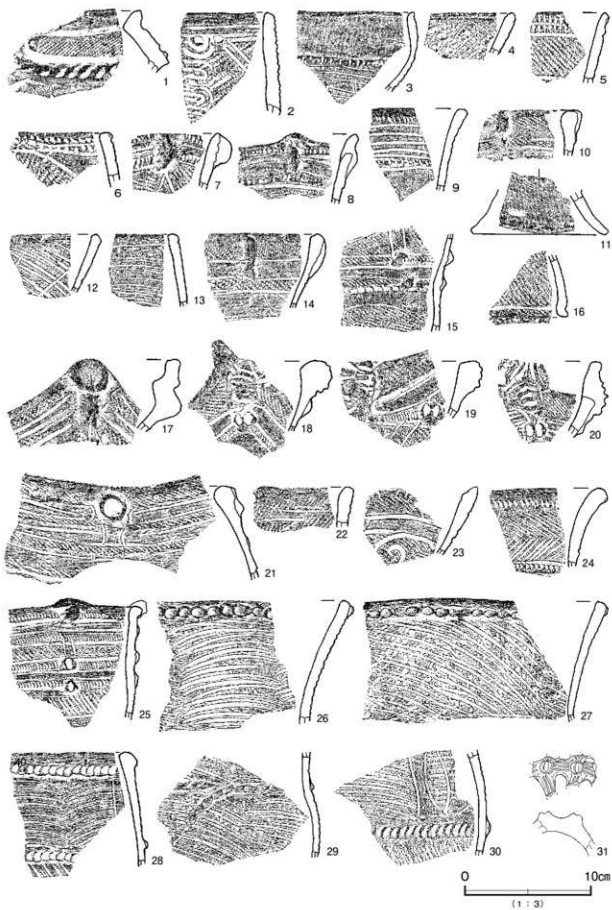




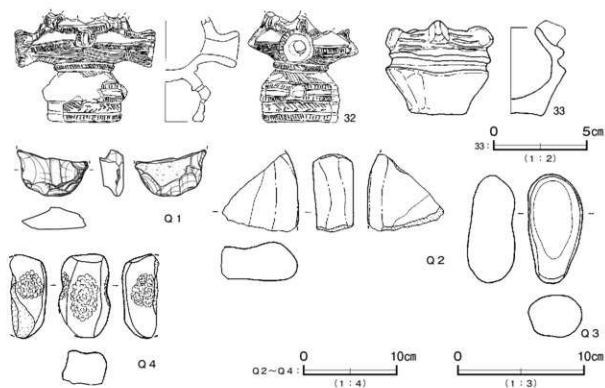
第 186 図 第 43 号堅穴建物跡実測図

第 43 号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 187・188 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	橙	普通	外面北縁→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	黄橙	普通	外面LR縄文→北縁 内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	暗赤褐	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰・黒色粒子	灰赤褐	普通	外面LR縄文→格子目文 内面磨き	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	橙	普通	外面北縁→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	暗赤褐	普通	外面北縁→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	灰 褐	普通	外面北縁→RL縄文 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	褐 灰	普通	外面段帯胎沈澱→無文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	褐 灰	普通	胴部外面磨り 内面磨き	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰・赤色粒子	橙	普通	外面凹縁→RL縄文 内面ナテ	覆土上層	
11	縄文土器	台付鉢	-	(38)	[10.8]	長石・石灰・黒色粒子	黒 褐	普通	外面磨き 内面ナテ	覆土上層	5%
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	黒 褐	普通	外面斜縁文 内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	暗赤灰	普通	外面条線 内面ナテ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	橙	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石灰	黒 褐	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	暗赤褐	普通	外面RL縄文 内面ナテ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	橙	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	灰 赤	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文・胎ム→無文部磨き 内面ナテ	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	褐 灰	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文・胎ム→無文部磨き 内面ナテ	覆土上層	
20	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	灰 褐	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文・胎ム 内面磨き	覆土下層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	明赤褐	普通	外面段帯胎沈澱→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	PL37
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	橙	普通	外面北縁→LR縄文 内面ナテ	覆土上層	
23	縄文土器	灰鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	灰 褐	普通	外面北縁→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	土質凹縁。
24	縄文土器	台付鉢	-	-	-	灰-灰・粘り・粘り	橙	普通	外面条線→北縁→胎ム 内面磨き	覆土上層	



第 187 图 第 43 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)



第188図 第43号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第43号竪穴建物跡出土遺物観察表(第187・188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色灰子	にぶい黄緑	普通	外面頭部条線→北縁→残部上刻み 内面磨き	覆土下層	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面LR縄文→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤灰子	橙	普通	外面LR縄文→条線→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色灰子	黒	普通	外面条線→縁線貼付 内面ナデ	覆土下層	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色灰子	暗赤褐	普通	外面LR縄文→条線→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色灰子	にぶい赤褐	普通	外面条線→縁線貼付→区画文内磨き 内面ナデ	覆土上層	
31	縄文土器	香炉型	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	天舟部 外面磨き 内面ナデ	覆土上層	
32	縄文土器	裏形付舟	-	(88)	(56)	長石・石英・黒母	橙	普通	外面残部上刻み 内面ナデ	覆土下層	焼熟 80% PL3
33	縄文土器	小形	3.4	5.0	2.8	長石・石英・黒色灰子	にぶい褐	普通	外面側部研磨に近いナデ 内面ナデ	覆土下層	90% PL34

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打撃石片	(3.8)	(5.7)	1.9	(31.5)	安山岩	分銅形	地土中	被熱
Q 2	石皿類	(8.0)	(8.0)	4.2	(279.7)	砂 岩	表面使用による磨り面	地土中	1a類 被熱
Q 3	磨石類	11.2	5.6	4.9	434	流紋岩	表面に磨り面 特に中央部が光沢のある磨り面	覆土下層	1a類 被熱
Q 4	磨石類	8.7	5.3	(3.7)	(138.2)	安山岩	表・両側面に凹痕	覆土下層	2b類

#### 第44号竪穴建物跡(第189・190図 PL11)

位置 調査A区北部のB 6h8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の1-2層下で確認した。第198号土坑、第4号溝、第6号ピット群に掘り込まれている。第15・56・57号建物跡とも重複しているが、堆積状況からの新旧関係は不明である。出土土器からは、いずれも本跡を掘り込んでと推測される。

規模と形状 北部が調査区域外で、北西部が掘乱や第4号溝に掘り込まれていることから、南北径は6.3m、東西径は約2mしか確認できなかった。楕円形と推定され、南北軸方向はN-35°-Eである。壁は高さ27

～40cmで、外傾している。

床 ほぼ平坦である。壁際を除いて踏み固められている。

ピット 10か所。P1～P3は、位置と深さから主柱穴である。P6～P9は、壁際に疎らに位置する小ピットである。

ピット土層解説

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子無微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量   | 4 暗褐色 ローム粒子少量         |

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
深さ	70	84	57	12	15	14	21	28	47	19

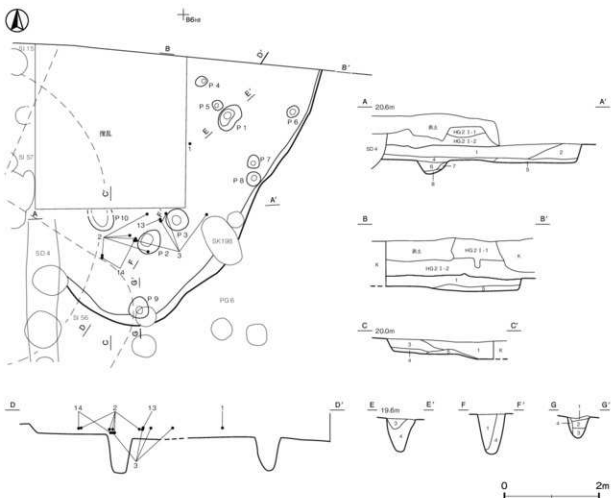
覆土 5層に分層できる。ローム粒子が含まれている層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

第6～8層はP10の覆土である。

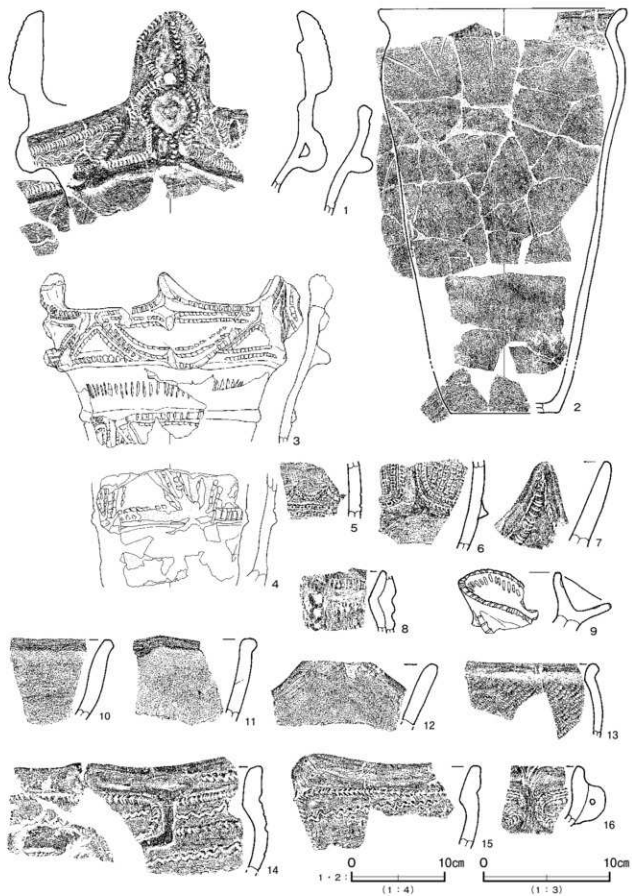
土層解説

- |                              |                          |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 無暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量   | 5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 無暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量      | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量     |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 | 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量     |
| 4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量         | 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量   |

遺物出土状況 縄文土器片369点(7.125kg)、石器・石製品3点(磨石類、石錘、石棒・石剣類)のほか、剥片6点(黒曜石)が、出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となる



第189図 第44号竪穴建物跡実測図



第190图 第44号窑穴建物跡出土遺物実測図

のは第1群（阿玉台式）79.5%で、なかでも阿玉台Ⅲ式が多く出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台Ⅲ式期と考えられる。

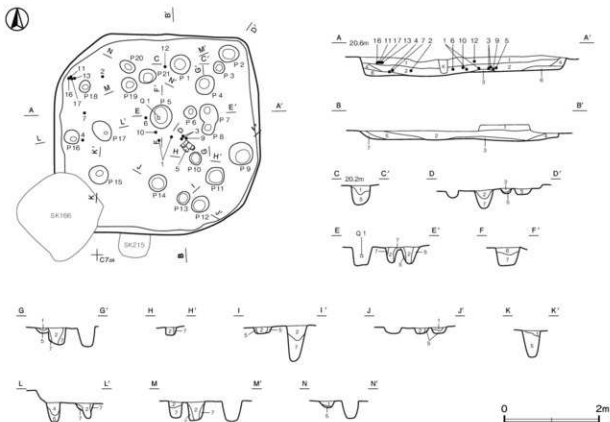
第44号竪穴建物跡出土遺物観察表（第190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.8]	[21.3]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面ナデ	覆土中層	10%
2	縄文土器	深鉢	[26.0]	[42.2]	[11.4]	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中層	20%
3	縄文土器	深鉢	18.3	(14.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面隆起帯幅2列の角押文 内面磨き	覆土中層	4と同—50%
4	縄文土器	深鉢	-	(8.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面隆起帯幅2列の角押文 内面磨き	覆土中層	3と同—10%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面1列の角押文 内面ナデ	覆土中層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面隆起帯幅2列の角押文 内面ナデ	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部外面彫厚・爪形文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面爪形文 内面ナデ	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面口唇部・隆起帯上に爪形文 内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外面磨き 内面ナデ	覆土中層	
11	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面R.L. 縄文 内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面磨き	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面隆起帯幅三角文 内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面磨き	覆土中層	

第45号竪穴建物跡（第191～193図 PL14）

位置 調査A区南東部のC7e4区、標高20.5mほどの台地上に位置している。

重複関係 第166・215号土坑と重複しているが、堆積状況から新旧関係は確認できなかった。出土遺物から、第166号土坑が本跡を掘り込んでいると推測できる。



第191図 第45号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 東西軸4.36 m,南北軸4.24 mの隅丸方形で,南北軸方向はN-O°である。壁は高さ11~39cmで,外傾している。

**床** ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**ピット** 21か所。P1・P4・P7・P9・P15・P16・P19・P21は、位置と深さから支柱穴と考えられる。

**ピット土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック中量	5 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	炭化粒子少量,ロームブロック微量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
3 黒色	炭化粒子中量,焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量,焼土ブロック微量		

**ピット深度表**

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
深さ	41	18	12	39	36	30	37	12	131	22	15	16	13	12	56	37	29	17	36	16	37

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックが少量含まれている層がレンズ状に堆積していることから,自然堆積である。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量,焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量,炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子中量		

**遺物出土状況** 縄文土器片431点(9.18kg),土製品1点(貝輪状),石器12点(磨製石斧1,打製石斧1,磨石類7,礫器3)のほか,焼成粘土塊1点,剥片4点(チャート2,瑪瑙1,安山岩1)が,出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが,主体となるのは第1群(阿玉台式)52.7%で,なかでも阿玉台Ⅱ式から阿玉台Ⅲ式が多く出土している。

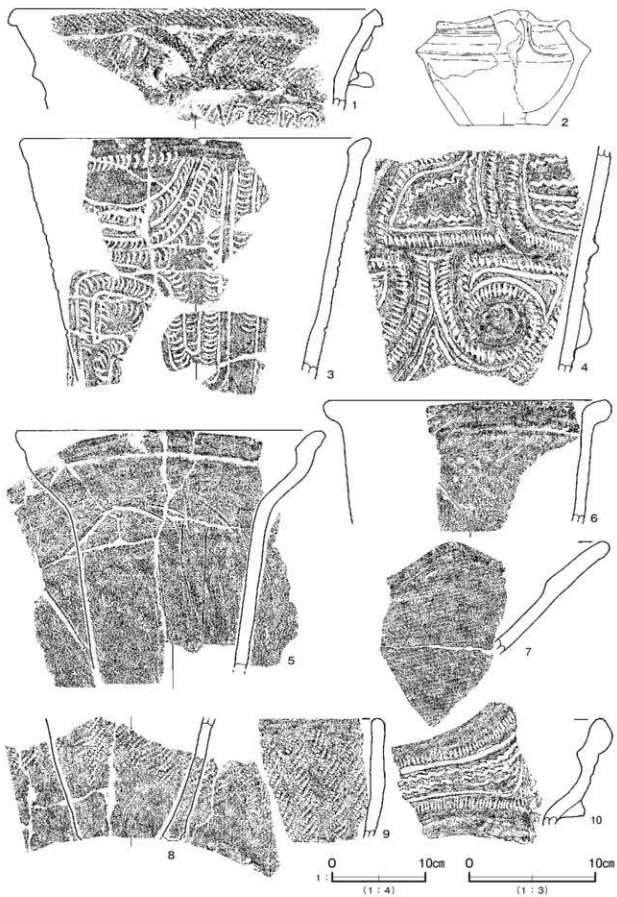
**所見** 時期は,出土土器から中期前半の阿玉台Ⅲ式期と考えられる。

**第45号竪穴建物跡出土遺物観察表(第192・193図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	〔37.5〕	〔10.4〕	-	灰石・石英・赤鉄? にぶい焼	普通	外面LR,縄文→手取竹管文	内面磨き	覆土下層	10% PL37
2	縄文土器	鉢	〔10.1〕	〔8.4〕	〔7.0〕	長石・石英・雲母 にぶい焼	普通	口縁部外面輪状把手1か所	内面磨き	覆土下層	30% PL30
3	縄文土器	深鉢	〔27.2〕	〔19.0〕	-	長石・石英・赤鉄? にぶい赤焼	普通	外面隆起帯輪状繩文に糸形文	内面磨き	覆土下層	20%
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄焼	普通	外面隆起帯輪状繩文	内面ナデ	覆土下層 PL37
5	縄文土器	深鉢	〔24.4〕	〔18.8〕	-	灰石・石英・赤鉄? 灰	普通	外・内面磨き		覆土下層	15%
6	縄文土器	深鉢	〔22.2〕	〔9.7〕	-	長石・石英・雲母 にぶい焼	普通	外・内面ナデ		覆土下層	10%
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤焼	普通	外・内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	〔9.7〕	-	灰石・石英・赤鉄? 明赤焼	普通	外面LR,縄文	内面磨き	覆土下層	20%
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰	普通	外面LR,縄文	内面磨き	覆土下層
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤鉄? にぶい焼	普通	外面隆起帯輪状繩文	内面磨き	覆土下層	
11	縄文土器	深鉢	〔20.2〕	〔10.1〕	-	灰石・石英・赤鉄? 橙	普通	外面LR,縄文→沈殿→沈殿開磨き	内面ナデ	覆土上層	10%
12	縄文土器	深鉢	〔22.4〕	〔23.0〕	-	灰石・石英・赤鉄? 明赤焼	普通	外面隆起帯輪状工具による蛇行文	内面ナデ	覆土上層	30% PL37
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤鉄? にぶい赤焼	普通	外面隆起帯輪状繩文にL字型印文	内面磨き	覆土上層	
14	縄文土器	蓋	-	-	-	長石・石英	にぶい赤焼	普通	外・内面磨き	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄? にぶい焼	普通	外面LR,縄文	内面磨き	覆土上層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄? 灰	普通	外面LR,縄文	内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤鉄? にぶい焼	普通	外面LR,縄文→沈殿→沈殿開磨き	内面ナデ	覆土上層	

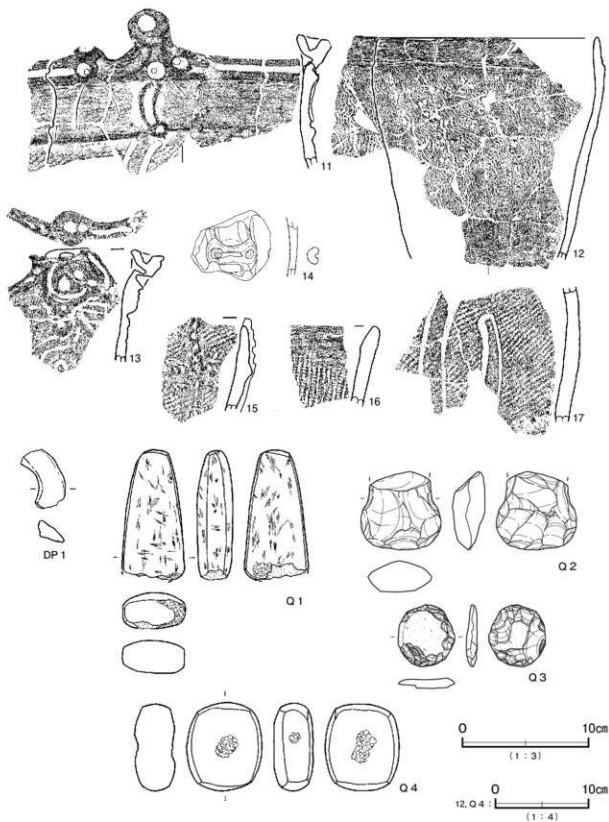
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	貝輪状	〔4.7〕	〔3.4〕	1.7	16.2	長石・石英・赤鉄? 明赤焼		外・内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q1	磨製石斧	〔10.3〕	5.0	2.8	〔29.8〕	花崗閃緑岩	定向式	刃部欠損後最終打削	覆土下層	
Q2	打製石斧	〔6.2〕	〔6.4〕	2.6	〔11.2〕	ホルンフェルス	分銅形		覆土中	磨滅
Q3	礫器	4.9	4.5	0.9	30.3	安山岩	全周縁割離		覆土上層	焼熱 PL45
Q4	磨石類	9.1	7.7	4.1	88.1	輝石安山岩	表面磨面	表面・右側面凹面	覆土中	凹形



第192图 第45号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)





第 193 图 第 45 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (2)

## 第46号竪穴建物跡(第194・195図 PL11・14)

位置 調査A区北部のB6・9区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の第II層中で確認した。第4号土坑を掘り込み、第168号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部と東部が調査区域外になるため、東西径は1.8m、南北径は3.0mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。壁は高さ8～10cmで、外傾している。

床 ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

炉 北部と東部が調査区域外になるため、東西径は62cm、南北径は60cmしか確認できなかった。深さ26cmの地床炉で、底面は被熱により赤変硬化している。

## 炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 3 橙 色 焼土粒子多量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量  
2 ほぼ赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

ピット 4か所。壁際に巡るように位置している。

## ピット土層解説

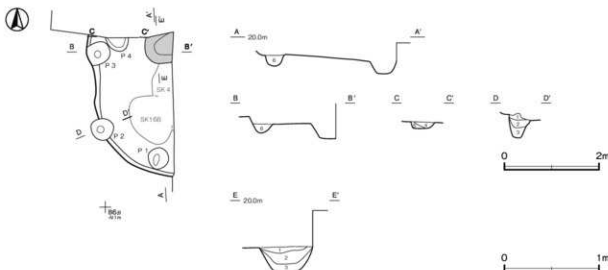
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 4 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
2 黒暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量  
3 黒褐色 ローム粒子少量 6 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量

## ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4
深さ	25	51	32	16

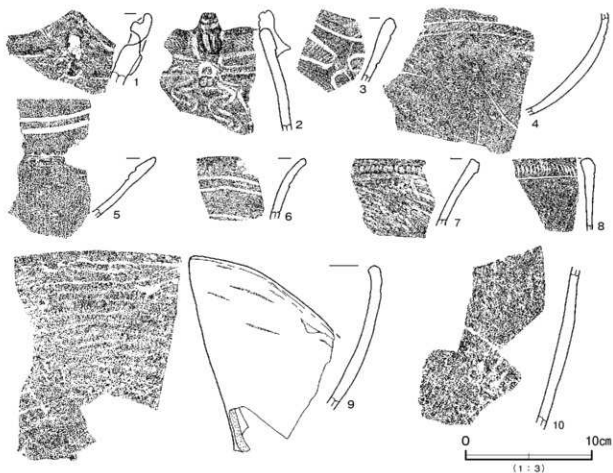
覆土 本跡の上には第2号遺物包含層のII-1～II-3層が堆積しているが、斜面部に位置しているため遺物包含層と本跡の覆土の区別が不明瞭である。II-1～II-3層は斜面上部から流れ込むように堆積しており、第2号遺物包含層の一部が廃棄後窪地となっていた本跡に流れ込んだものと考えられる。

遺物出土状況 縄文土器片244点(3.585kg)、剥片1点(チャート)のほか、発泡化した土器片2点が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8群(晩期安行式)29.2%、第7群(後期安行式)21.9%、第4群(堀之内式)14.6%である。



第194図 第46号竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器と形状から後期前葉の堀之内1式期と考えられる。第7群や第8群の土器は、重複している第168号土坑に伴うものと考えられる。



第195図 第46号竪穴建物跡出土遺物実測図

第46号竪穴建物跡出土遺物観察表(第195図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯貼付 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗	普通	外面隆起帯上・輪筋み 口縁部L縄文 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい暗	普通	外面沈線→LR縄文→無文磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗	普通	外面沈線→無筋L縄文 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	皮状口縁 波頂部削み 外・内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	黒石・赤石・赤色粒子	にぶい暗	普通	磨滅のため調整不明瞭	覆土中	二次焼成
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 暗	普通	外面地縄文→赤面 内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線縄文 内面ナデ	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	発泡化 輪筋み不明瞭 赤み著しい	覆土下層	二次焼成
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	発泡化 輪筋み不明瞭 赤み著しい 内面磨き	覆土中	二次焼成

#### 第48号竪穴建物跡(第196～198図 PL11・14)

位置 調査A区東部のB7i2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層下で確認した。第54号建物、第147・160・162・164・181・272号土坑、第1・2号がに掘り込まれている。

**規模と形状** 東西径5.48 m, 南北径5.16 mの円形である。壁は高さ15～25cmで、外傾している。

**床** ほほ平坦で、中央部付近が踏み固められている。

**ピット** 28か所。P 4・P 7・P 12・P 13・P 18・P 24・P 26は、位置と深さから支柱穴の可能性がある。

壁際のP 6・P 8は深さがあり、上屋を支える補助柱穴的な役割を有したものと考えられる。

**ピット土層解説**

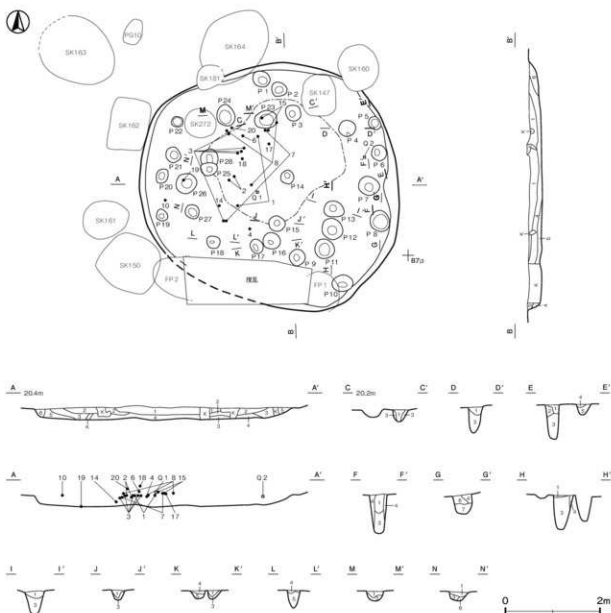
- |       |                   |       |                   |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量   | 5 明褐色 | ロームブロック中量         |
| 2 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量   |
| 3 褐色  | ロームブロック少量         | 7 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |       |                   |

**ピット深度表**

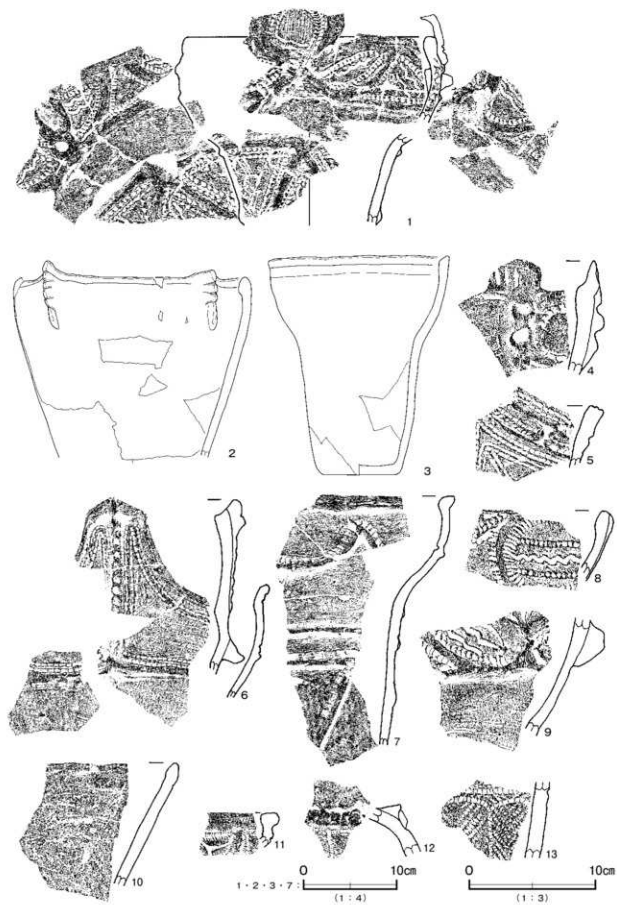
(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
深さ	13	20	26	67	79	83	90	32	28	16	75	55	30	21	22	19	38	13	15	13	19	14	22	21	23	7	17	

**覆土** 6層に分層できる。黒褐色土が主体の層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。



第196図 第48号竪穴建物跡実測図



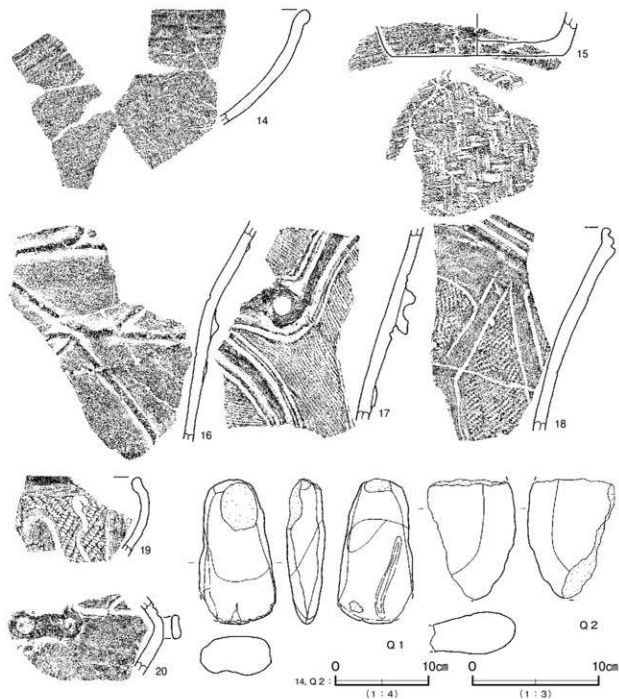
第 197 图 第 48 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)

## 土層解説

- |       |                       |       |                        |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量   | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量   | 6 褐色  | ローム粒子多量、炭化物微量          |

**遺物出土状況** 縄文土器片 908 点 (13911kg)、土製品 1 点 (土器片円盤)、石器 8 点 (磨製石斧 1、石皿類 1、磨石類 6) のほか、剥片 25 点 (黒曜石 20、チャート 3、頁岩 1、安山岩 1) が、出土している。遺物は、中央付近の覆土上層から多く出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 1 群 (阿玉台式) 81.1% で、そのうちの多くが阿玉台Ⅱ式と阿玉台Ⅲ式である。

**所見** 時期は、出土土器や遺構の形状から、中期前半の阿玉台Ⅱ式から阿玉台Ⅲ式期と考えられる。



第 198 図 第 48 号堅穴建物跡出土遺物 (2)

第 48 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 197・198 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[25.6]	(19.7)	-	長石・石英・雲母	暗褐色	普通	外面隆起帯幅爪彩文 胴部磨き 内面磨き	覆土上層	30%
2	縄文土器	深鉢	[23.6]	(20.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	耳状の突起 2ヶ所 内面磨き	覆土上層	40% PL31
3	縄文土器	深鉢	18.9	23.1	[8.3]	長石・石英・粘灰	にぶい赤褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	80% PL31
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘灰	明赤褐色	普通	外面隆起帯幅爪彩文 内面ナデ	覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘灰	灰褐色	普通	外面隆起帯幅 2列の角押文 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘灰	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯幅 2列の角押文 内面磨き	覆土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯幅爪彩文 内面ナデ	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘灰	灰褐色	普通	外面隆起帯幅爪彩文 内面磨き	覆土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘灰	灰褐色	普通	外面隆起帯幅爪彩文 内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外・内面磨き	覆土上層	外面磨損
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯幅爪彩文 内面磨き	覆土下層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外・内面磨き	覆土下層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面 RL・LR の耳状縄文→有筋沈凹 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外・内面磨き	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	(3.4)	[3.6]	粘 灰・粘灰・粘灰	暗 灰	普通	外面磨き 内面ナデ 底部網代痕	覆土上層	10%
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘灰	暗褐色	普通	外面隆起帯による三角形区画文 内面磨き	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面隆起帯幅沈凹→横紋状工具による条線 内面磨き	覆土上層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈凹→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面 RL 縄文→沈凹→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
20	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	11.5	6.0	3.1	(28.9)	輝石角閃石安山岩	定角式 裏面に研磨痕	覆土上層	
Q 2	石頭船	(12.6)	(9.2)	4.5	622.0	安山岩	表面に磨痕	覆土上層	1期

第 49 号竪穴建物跡 (第 199 図 PL11)

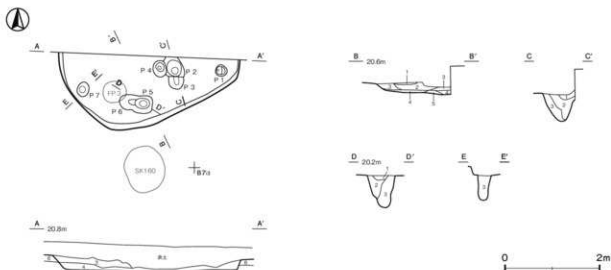
位置 調査A区北東部のB 7h2区、標高 20.5 mほどの台地上に位置している。

重複関係 表土下で確認した。第3号炉に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外となるため、南北径は 1.6 m、東西径は 3.9 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定されるが、炉・出入口ピットとも確認できないことから、主軸方向は不明である。壁は、確認面からの深さは 18cmであるが、土層断面図で確認できる壁の高さは 19 ~ 28cmで、外傾している。

床 は平坦である。硬化面は確認できなかった。

ピット 7か所。P 2 ~ P 7は、位置と深さから主柱穴と考えられる。



第 199 図 第 49 号竪穴建物跡実測図

## ビット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

3 褐色 ローム粒子中量

ビット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7
深さ	19	54	54	53	68	43	52

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックや骨粉が少量含まれている層がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第6層は、ローム漸移層に近い層である。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
3 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量  
4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・骨粉微量

5 黄褐色 ロームブロック多量

6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片48点(0.46kg)、石器1点(軽石製品)が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが、いずれも数点ずつ出土している。

**所見** 時期は、形状から中期と考えられる。

## 第51号竪穴建物跡(第200・201図 PL14)

**位置** 調査A区東部のC7a3区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層の第Ⅱ層下で確認した。第217号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 東部が攪乱で壊されているため、南北径は4.68mで、東西径は4.8mしか確認できなかった。内側が長方形に一段下がる有段建物で、上段の平面形は楕円形と推定され、有段部分の掘方から推定できる主軸方向はN-0°である。壁は高さ10~26cmで、外傾している。

**床** はほぼ平坦で、中央部が硬化している。

**ビット** 25か所。P1・P3~P8は、位置と形状から主柱穴である。P4~P7が重複していることから、立て替えの可能性がある。

## ビット土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量  
2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  
3 無暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量  
4 無暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量  
5 無暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

7 暗褐色 ローム粒子少量

8 無暗褐色 ローム粒子少量

9 明褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

10 明褐色 ロームブロック中量

ビット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	88	30	76	109	31	29	26	68	30	27	28	54	18	26	69	32	97	20	12	43	43	40	12	15	38

**覆土** 7層に分層できる。ローム粒子が少量含まれている褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

## 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  
2 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量  
3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
4 褐色 ロームブロック少量

5 褐色 ローム粒子少量

6 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

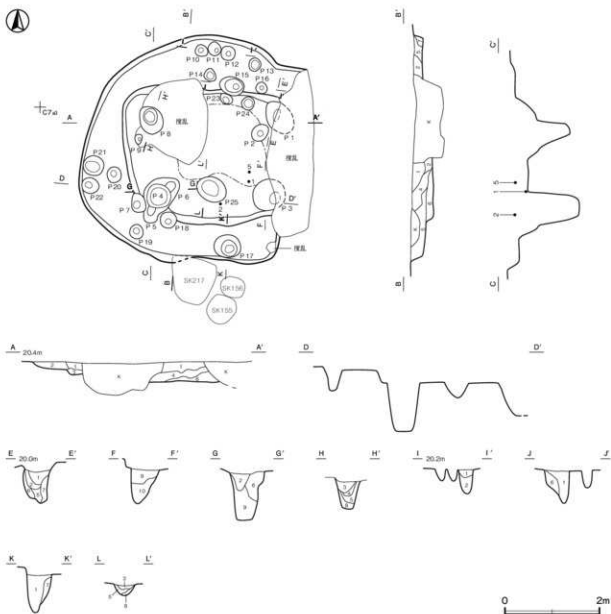
7 明褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片494点(8.073kg)、石器4点(礫器1、砥石2、加工痕のある剥片1)のほか、剥片3点(チャート2、安山岩1)が出土している。遺物は、中央付近の有段部上面から多く出土している。土



器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第2群（加曾利E式）30.4%、第3群（称名寺式）21.0%で、そのうち加曾利E1式が特に多く出土している。

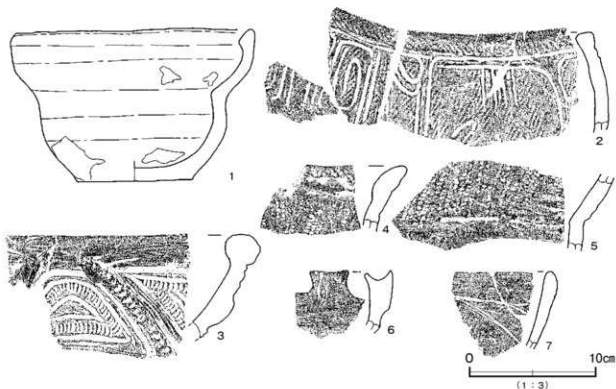
所見 時期は、出土土器と遺構の形状から、中期前半の阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期から後半の加曾利EI式期と考えられる。



第200図 第51号竪穴建物跡実測図

第51号竪穴建物跡出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	18.8	12.1	9.2	長石・石英	灰褐色	普通	外・内面磨き	床面	10% P1,30
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤褐色	普通	外面RL縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・燧石	明赤褐色	普通	外面隆起帯幅爪形文 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面RL縄文 内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面隆起短文 内面磨き	P5	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起短文による条線→沈線 内面磨き	P4	



第201図 第51号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第53号竪穴建物跡（第202～204図 PL14・15）

**位置** 調査A区東部のC7b1区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第2号遺物包含層下で確認した。P6が第247号土坑を掘り込んでいる。本跡の範囲内には、ほかにも第34・59号竪穴建物跡、第223・243・244・261号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は不明である。出土遺物が第34号竪穴建物跡は中期前半、第59号建物跡は後期中葉から後葉であることから、本跡は第34号竪穴建物跡を掘り込み、第59号建物跡に掘り込まれていると推測される。

**規模と形状** 焼土跡とその周囲にピットが確認できたことから、建物跡を想定して調査を進めたが、壁は確認できず、また柱穴の配置も不規則なことから、明瞭な平面形を捉えることができなかった。およそ東西径6.5m、南北径6.5mの範囲に、円形にピットが巡っているように推測できる。

**床** ほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 東西120cm、南北80cmの不整なL字形で、焼土の厚さは6～12cmである。床面から10cmほど浮いた状態で確認できた。明瞭な火床面は見られなかったが、焼土の赤変硬化が著しく、骨粉なども含まれていることから、炉跡と考えられる。

#### 伊土層解説

- |          |                          |          |                       |
|----------|--------------------------|----------|-----------------------|
| 1 橙 色    | 焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量    | 3 暗 赤 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量   |
| 2 暗 赤 褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量 | 4 赤 褐色   | 焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
|          |                          | 5 暗 褐色   | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量   |

**ピット** 37か所。P2・P7・P16・P27・P31・P35～P37を壁柱穴とする大形の1棟と、P3・P7・P16・P20・P23・P24・P32を壁柱穴とするやや小形の1棟が推定できる。そのほかP4・P17など径や深さのあるものが存在すること、また炉跡の下からP14が確認されていることなどから、別遺構の重複も考えられる。

**P 6 土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

**P 4・P 22・P 23・P 24・P 27 土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

**P 16 土層解説**

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

**P 31 土層解説**

- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

**P 17 土層解説**

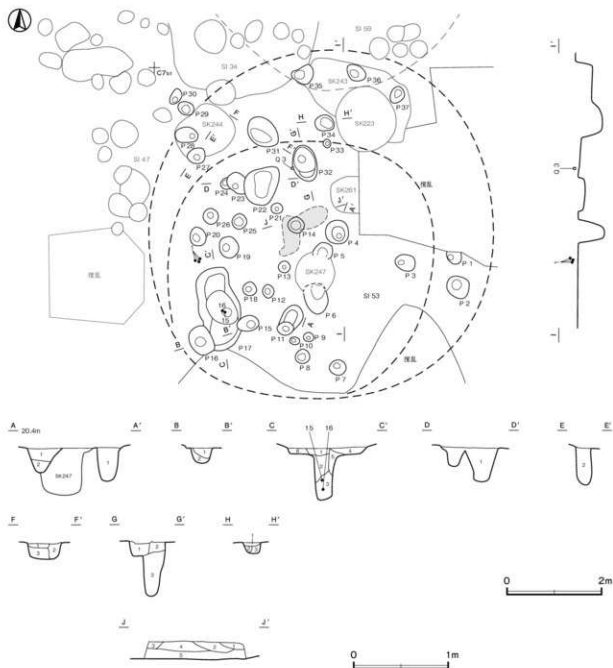
- 1 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・骨粉少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

**P 32 土層解説**

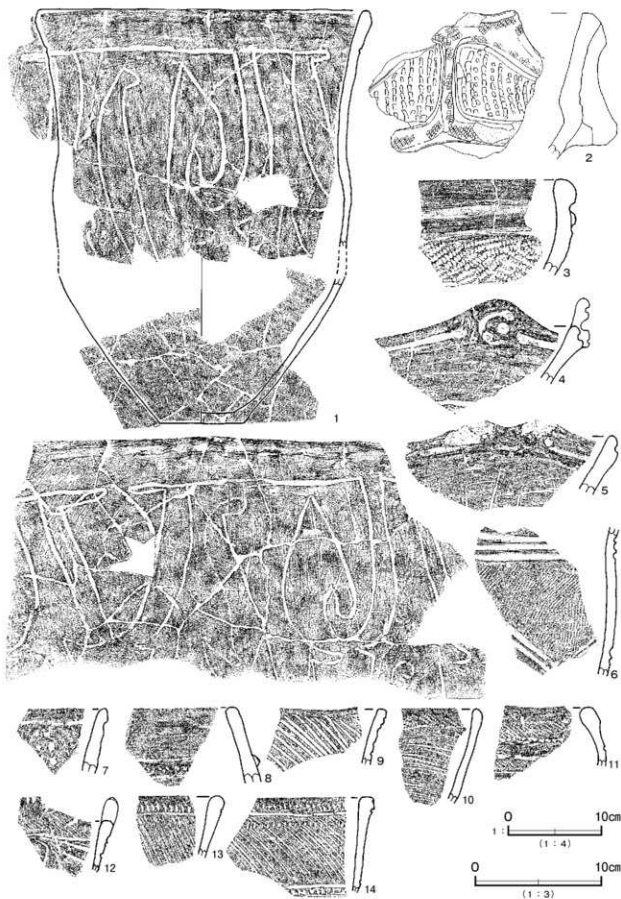
- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

**P 34 土層解説**

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量



第 202 図 第 53 号竪穴建物跡実測図



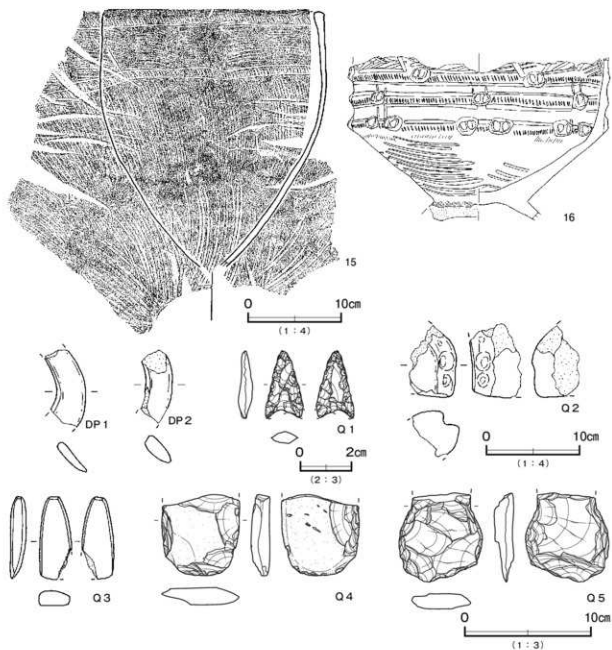
第 203 图 第 53 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (1)

ピット深度表

(cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
深さ	33	118	54	85	35	55	100	23	20	24	22	23	41	47	-	39	110	30	83	60	78	70	40	12	21
番号	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37													
深さ	40	85	43	18	17	41	121	23	25	32	50	32													

遺物出土状況 縄文土器片 745 点 (13.484kg)、土製品 3 点 (土器片円盤 1、具輪状 2)、石器 9 点 (石鏃 1、磨製石斧 1、打製石斧 2、磨石類 1、石皿類 3、砥石 1) のほか、剥片 3 点 (黒曜石、チャート、安山岩) が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 3 群 (称名寺式) 27.6%、第 4 群 (堀之内式) 21.6% である。そのうち 1・4・5 のように称名寺 2 式が特にまとまって出土し



第 204 図 第 53 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

ている。P 17 の覆土下層から、後期後葉の深鉢と台付鉢各 1 点が出土している。

**所見** 時期は、出土土器や遺構の形状から、後期初頭の称名寺 2 式期から前葉の堀之内 1 式期と考えられる。炉跡の確認位置からすると、本来の床面は、約 20cm 上位の標高 19.9 m 付近の可能性が高い。完形に近い後期後葉の土器が出土している P 17 は、重複する別遺構の可能性が高い。

第 53 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 203・204 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[34.4]	[43.2]	8.2	長石・石英・赤色粒子	灰 緑	普通	外面不整な J 字文 無文部・内面磨き		覆土下層	50% PL31
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい 緑	普通	外面段輪帯上 RL 縄文 内面磨き		P 7	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面磨き		P 27	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤 緑	普通	口縁部外面縄文連結沈線文 内面磨き		覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	緑	普通	口縁部外面縄文連結沈線文 内面磨き		P 3	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい 黄緑	普通	外面 LR 縄文→沈線 内面ナデ		P 13	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい 黄緑	普通	外面ハの字状刺突文 内面ナデ		覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	緑	普通	外面口縁部・内面磨き		覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 緑	普通	外面条線 内面ナデ		覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 緑	普通	外面条線→RL 縄文 内面ナデ		覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤 緑	普通	外面段帯沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面ナデ		P 3	
12	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→RL 縄文→無文部磨き 内面磨き		覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黄	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ		P 6	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 緑	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ一部磨き		P 6	
15	縄文土器	深鉢	[21.8]	[26.7]	-	長石・石英・赤色粒子	黒 緑	普通	外面条線→付点線文 内面ナデ		P 17	40% PL31
16	縄文土器	台付鉢	-	[13.0]	-	長石・石英	にぶい 緑	普通	外面部条線→段形部条線→斜み 唇部 L 縄文 内面磨き		P 17	80% PL32

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	貝輪状	(6.2)	(2.8)	2.4	(20.3)	長石・石英・赤色粒子	明赤 緑	外・内面ナデ		覆土上層
DP 2	貝輪状	(5.7)	(2.5)	2.2	(21.7)	長石・石英・雲母	緑	外・内面ナデ		覆土上層

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏡	2.70	1.51	0.58	(1.7)	チャート	円盤	覆土上層	
Q 2	石頭盤	(7.8)	(5.1)	(5.2)	(126.0)	安山岩	表面に凹痕	P 4	2 點
Q 3	磨製石斧	6.5	(2.5)	1.3	34.5	蛇紋岩	小形定角式 刃部一部欠損	覆土下層	PL46
Q 4	打製石斧	(6.5)	(6.2)	1.5	(79.5)	輝石安山岩	鋸形。	P 3	
Q 5	打製石斧	(7.1)	(6.7)	1.6	(77.6)	ホルンフェルス	分銅形	覆土下層	

### 第 60 号竪穴建物跡 (第 205 図)

**位置** 調査 A 区南東部の C 7e3 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 208 号土坑に掘り込まれている。本跡の範囲内に第 40 号建物跡、第 99・159・209・210 号土坑が位置しているが、それらとの新旧関係は捉えることができなかった。

**規模と形状** 炉とピットから、径 7 m 前後の円形または楕円形と推定できる。

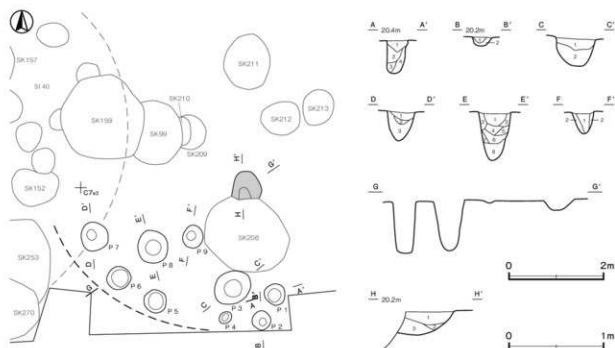
**床** ほほ平坦である。硬化面は確認できなかった。

**炉** 第 208 号土坑に掘り込まれているため、東西径は 62cm で、南北径は 58cm しか確認できなかった。深さ約 22cm の、浅く掘りくぼめられた地床炉である。

#### 炉土層解説

- 1 粉 褐色 焼土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

**ピット** 9 か所。P 2・P 4～P 7 が弧状に巡る壁柱穴である。また P 1・P 3・P 8 は、位置や深さから土柱穴の可能性が高い。



第 205 図 第 60 号竪穴建物跡実測図

**P 1 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**P 2 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**P 3 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**P 7・P 9 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**P 8 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、骨粉微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

ピット深度表 (cm)

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	60	18	52	12	27	108	65	103	47

**所見** 覆土を捉えられなかったことから時期を明確にすることができないが、本跡の周辺で後期初頭から前葉の土器がやや多く出土していること、柱穴配置が壁柱穴構造であることなどから、時期は後期初頭から前葉と考えられる。ただし主柱穴的なピットも存在していることから、中期あるいは後期中葉以降の可能性もある。





番号	位置	主軸方向	平面形	規模		床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考	
				長×短(m)	高さ(cm)		柱穴	溝口	ピロ					
29	C 4c2	N-25°-E	[楕円形]	6.8×3.33	10~20	傾斜	4	-	12	-	人為	縄文土器 196、土製品 1、石器 2、委土器 1、石積 3、滑石 5、粘土塊 1	中期	本跡→S124SK58HG1、S127SK57・65・85・91との新出不明
30	C 4c3	-	[円形-楕円形]	6.0×1.3	22	凸凹	2	-	13	-	自然	縄文土器 118、石器 2	縄文	本跡→S122・23・25、SK54、SK59との新出不明
31	A C 6d9	N-3°-E	円形	5.4×5.2	-	平坦	-	6	-	-	-	縄文土器 545、土製品 1、石器・石製品 5、石積 1	後期前期-後葉	本跡→HG171、S16SK123・144との新出不明
31	B C 6d9	-	[円形-楕円形]	5.6×6.0	10	平坦	-	-	-	-	-	縄文土器 118、石器 1	中期前半-後期前期	本跡→S127・23、SK59との新出不明
32	A C 6c7	-	[円形]	7.0×7.0	-	平坦	-	-	-	-	-	縄文土器 305、石器 1、発見体 1	後期前期-後葉	本跡→I19、S12 - 4、S12・16・SK5411・42・107・110・111・269との新出不明
32	B C 6c7	-	[円形]	7.0×7.0	-	平坦	-	-	-	23	縄文土器 305、石器 1、発見体 1	縄文土器 305、石器 1、発見体 1	後期前期-後葉	本跡→S147・53・39、HG2
34	C 7a1	N-2°-W	楕円形	4.52×3.44	10~20	平坦	3	-	9	-	人為	縄文土器 673、土製品 3、石器 2、滑石 6、散骨瓶	縄文台層-加賀層1式	本跡→S18・29SK180、HG2→本跡→S120・41・47SK28・105→107・116・129、S12SK108→111・125・128・199・200・275との新出不明
35	A C 618	N-45°-E	円形	6.5×6.5	8~10	平坦	10	7	-	-	人為	縄文土器 7132、土製品 15、石器・石製品 29、委土器 5、埴輪土器 2、石積 2、滑石 3、散骨瓶	安行 3 a 式	S18・29SK180、HG2→本跡→S120・41・47SK28・105→107・116・129、S12SK108→111・125・128・199・200・275との新出不明
35	B C 618	N-97°-W	-	-	-	平坦	-	12	-	-	人為	縄文土器 7132、土製品 15、石器・石製品 29、委土器 5、埴輪土器 2、石積 2、滑石 3、散骨瓶	安行 2 - 3 a 式	S18・29SK180、HG2→本跡→S120・41・47SK28・105→107・116・129、S12SK108→111・125・128・199・200・275との新出不明
35	C C 618	N-0°	[円形]	7.0×7.0	-	平坦	10	5	158	-	人為	縄文土器 7132、土製品 15、石器・石製品 29、委土器 5、埴輪土器 2、石積 2、滑石 3、散骨瓶	安行 3 b 式	S18・29SK180、HG2→本跡→S120・41・47SK28・105→107・116・129、S12SK108→111・125・128・199・200・275との新出不明
35	D C 618	N-107°-W	[円形]	7.0×7.0	-	平坦	-	3	-	-	人為	縄文土器 7132、土製品 15、石器・石製品 29、委土器 5、埴輪土器 2、石積 2、滑石 3、散骨瓶	後期前期-後葉	本跡→S147・53・39、HG2
35	E C 618	N-15°-E	楕円形	7.0×5.0	-	平坦	4	5	-	-	人為	縄文土器 7132、土製品 15、石器・石製品 29、委土器 5、埴輪土器 2、石積 2、滑石 3、散骨瓶	後期前期-後葉	本跡→S147・53・39、HG2
36	B 612	N-115°-W	楕円形	8.0×6.9	10~16	平坦	6	5	58	-	人為	縄文土器 1767、土製品 9、石器・石製品 29、埴輪土器 3、石積 2、滑石 8、散骨瓶	安行 1 式	S142HG2→本跡→S16・43、SK31・40・45、SK126・127・136・137との新出不明
37	B 614	-	[円形]	7.0×(3.0)	-	平坦	2	-	35	-	人為	縄文土器 151、土製品 2	甕谷式 - 安行 1 式	S16SK113→本跡→S13との新出不明
39	B 618	-	[円形-楕円形]	5.1×3.8	-	平坦	-	-	17	-	自然	縄文土器 1294、土製品 11、石器 15、発見体 1、滑石 7、散骨瓶	後期初期-前期	本跡→S15、S16SK139→141・152・159・253→255・270との新出不明
40	C 7d2	-	[楕円形]	8.6×7.1	-	平坦	2	-	17	-	人為	縄文土器 15	後期初期-前期	本跡→S15、S16SK139→141・152・159・253→255・270との新出不明
41	A C 6d8	N-127°-W	D 字形	5.6×4.28	22~52	平坦	4	3	-	-	人為	縄文土器 5120、土製品 4、石器・石製品 44、委土器 2、埴輪土器 1、石積 6、滑石 31	甕谷式 - 安行 1 式	S132・79→本跡→SK115・118→121
41	B C 6d8	N-22°-W	D 字形	5.54×(4.4)	-	平坦	-	8	63	-	人為	縄文土器 5120、土製品 4、石器・石製品 44、委土器 2、埴輪土器 1、石積 6、滑石 31	甕谷式 - 安行 1 式	S132・79→本跡→SK115・118→121
42	B 612	-	[円形-楕円形]	5.2×(2.0)	5~10	平坦	6	-	18	-	自然	縄文土器 120、石器 2	阿玉台層 I - 甕谷式	本跡→S186・43、S142→本跡→SK45
43	B 612	N-13°-W	[楕円形]	5.2×2.8	9~23	傾斜	1	-	18	-	人為	縄文土器 991、土製品 2、石器 6、埴輪土器 4、滑石 1、無骨器	安行 2 式	本跡→S115・56・57SK198SD4FC6HG2
44	B 618	N-35°-E	[楕円形]	6.3×2.0	27~40	平坦	3	-	10	-	自然	縄文土器 369、石器・石製品 3、滑石 6	阿玉台層 II	本跡→SK166
45	C 7c1	N-0°	隅丸方形	4.36×4.24	11~39	平坦	8	-	21	-	自然	縄文土器 431、土製品 11、石器 12、埴輪土器 1、滑石 4	阿玉台層 III	SK215 との新出不明
46	B 619	-	[円形-楕円形]	3.0×1.8	8~10	平坦	-	-	4	-	自然	縄文土器 344、発見体 2、滑石 1	堀之内 1 式	本跡→SK108
47	A C 6d9	N-28°-E	[楕円形]	6.0×7.0	-	平坦	-	6	-	-	人為	縄文土器 6889、土製品 30、石器・石製品 29、委土器 3、埴輪土器 3、石積 1、石積 3、滑石 15、散骨瓶	堀之内 1 式	S191・35・37、S192、SK308→438→177、SK171・178・246・261・265・271・276との新出不明
47	B C 6d9	N-31°-E	方形	8.0×9.0	-	平坦	5	8	-	-	人為	縄文土器 908、土製品 11、石器 8、滑石 25	安行 1 - 2 式	本跡→S154SK147・160・162・164・181・272HG2F1 - 2
48	B 712	-	円形	5.48×5.16	15~25	平坦	7	-	28	-	自然	縄文土器 908、土製品 11、石器 8、滑石 25	阿玉台層 II - 甕谷式	本跡→S154SK147・160・162・164・181・272HG2F1 - 2
49	B 712	-	[円形-楕円形]	3.9×1.6	18	平坦	6	-	7	-	自然	縄文土器 68、石器 1	中期	本跡→F19
51	C 7a3	N-0°	[楕円形]	4.8×4.68	10~26	平坦	8	-	25	-	自然	縄文土器 894、石器 4、滑石 3	阿玉台層 I - 加賀層1式	本跡→HG2、II、SK217 との新出不明
53	C 7b1	-	[円形]	6.5×6.5	-	平坦	-	-	37	-	人為	縄文土器 765、土製品 5、石器 9、滑石 3	株名寺 2 式 - 堀之内 1 式	S131SK247→本跡→S191HG2、SK223・243・244・261との新出不明
54	B 712	-	-	-	-	平坦	2	-	19	-	自然	縄文土器 990、石器 3、滑石 4	後期初期-前期	S148SK23→本跡→S193SK150→224・228・251HG2
55	C 613	-	円形	7.7×7.0	-	平坦	8	-	41	-	-	-	後期後葉	本跡→S11・4HG2・1、S15・7・19、SK36・37 との新出不明
56	B 616	N-28°-E	方形	5.5×5.0	-	平坦	4	4	-	-	人為	縄文土器 431、土製品 11、石器 12、埴輪土器 1、滑石 4	安行 2 式	S144・57・58→本跡→S115SD2→4HG2、SK32 との新出不明
57	B 616	N-14°-E	円形	6.4×6.2	-	平坦	6	4	-	-	-	-	安行 1 式	本跡→S115・56・57SD2→4HG2・1、SK3・SK37・131・135 との新出不明
58	B 616	N-24°-E	円形	6.4×6.2	-	平坦	6	-	6	-	人為	縄文土器 431、土製品 11、石器 12、埴輪土器 1、滑石 4	安行 1 式	本跡→S113・15・56SD2・3、UPLHG2・1、SK17・57、SK31・32 との新出不明
59	C 7a1	N-45°-E	[楕円形]	6.4×6.3 6.4×4.5	-	平坦	4	-	39	-	-	-	後期中葉-後葉	本跡→S121HG2、SK221・228・243・260 との新出不明
60	C 7d3	-	[円形-楕円形]	7.0×7.0	-	平坦	3	-	9	-	人為	縄文土器 6889、土製品 30、石器・石製品 29、委土器 3、埴輪土器 3、石積 1、石積 3、滑石 15、散骨瓶	後期初期-前期	本跡→SK238、S140、SK199,150,209,210 との新出不明

## (2) 土坑

今回の調査で、縄文時代の土坑 193 基を確認した。形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑 23 基については、文章と実測図、遺物観察表で解説する。その他の土坑 170 基については、実測図、土層解説、観察表を掲載する。

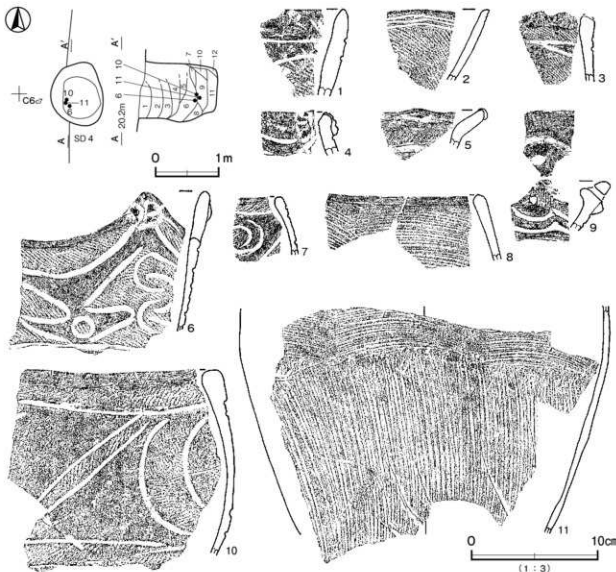
## 第 28 号土坑 (第 206 図 PL15)

**位置** 調査A区中央部のC6c7区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第32号建物跡を掘り込み、第4号溝に掘り込まれている。第35号建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径1.02m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-2°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは122cmである。壁は直立している。

**覆土** 12層に分層できる。ローム粒子が少量含まれている黒褐色土が主体で、第5～8・11層は、破砕貝や灰が含まれている。また第9層は、ローム粒子が多く含まれているにべい褐色土で、これらが互層をなすよう



第 206 図 第 28 号土坑・出土遺物実測図

に堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |         |                |          |                  |
|---------|----------------|----------|------------------|
| 1 黒 褐 色 | ローム粒子少量        | 7 黒 褐 色  | ローム粒子・貝細片微量      |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック微量      | 8 黒 褐 色  | ローム粒子・灰少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐 色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 9 不い褐色   | ローム粒子中量、炭化粒子微量   |
| 4 黒 褐 色 | ローム粒子少量、炭化物微量  | 10 黒 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   |
| 5 暗 褐 色 | ローム粒子・貝細片微量    | 11 黒 色   | ローム粒子少量、貝細片微量    |
| 6 黒 褐 色 | ローム粒子・貝細片少量    | 12 暗 褐 色 | ローム粒子中量          |

**遺物出土状況** 縄文土器片 138 点 (252kg) のほか、剥片 2 点 (黒曜石)、貝類、骨片などが出土している。また製塩土器片が 1 点出土している。土器は中期後半から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 8 群 (晩期前葉) のものである。覆土下層の第 9 層上面から、6・10・11 がまとまって出土している。

**所見** 時期は、出土土器から晩期前葉の安行 3 b 式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、破砕貝や骨片などが出土していることから、機能停止後、廃棄土坑として利用されたものと考えられる。

**第 28 号土坑出土遺物観察表 (第 206 図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面RL縄文→沈線	内面磨き	覆土中 内面赤彩
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・粘り・粘り	橙	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰	普通	外・内面磨き		覆土中
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	口縁部小波打 外面沈線→L赤縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・粘り・粘り	黒	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	黒	普通	外面沈線→L赤縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	暗赤黒	普通	外面染線	内面磨き	覆土中 11 と同一
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	オリーブ黒	普通	底・或は口縁 外面沈線→L赤縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・緑・粘り・粘り	橙	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層
11	縄文土器	深鉢	-	(180)	-	紅・緑・粘り・粘り	暗 灰	普通	外面染線	内面ナデ	覆土下層 8 と同一 20%

**第 34 号土坑 (第 207 図 PL16)**

**位置** 調査A区北西部のB 6 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 6・36 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 1.12 m、短径 1.00 m の楕円形で、長径方向は N-4°-E である。底面はほぼ平坦で、深さは 182cm である。壁は直立している。

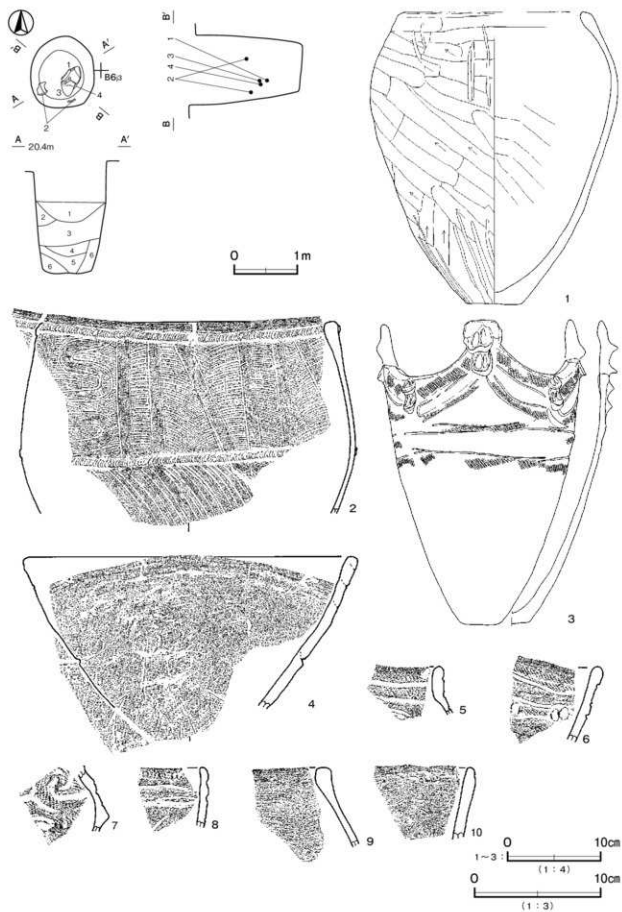
**覆土** 6 層に分層できる。第 4・6 層は骨粉が含まれている黒褐色土で、その上面から完形の土器が出土している。第 1～3 層はローム粒子が多く含まれている極暗褐色土で、土器が遺棄されたあと埋め戻されている。

**土層解説**

- |        |                       |        |                                   |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量   | 5 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量               |
| 2 褐色   | ローム粒子多量               | 6 黒褐色  | ローム粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉・砂粒少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |        |                                   |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量 |        |                                   |

**遺物出土状況** 縄文土器片 250 点 (321kg) が出土している。また製塩土器片が 1 点出土している。土器は後期前葉から晩期中葉までのものが出土しているが、主体となるのは第 8 群 (晩期前葉) のものである。覆土中層の第 4 層上面から、1 が斜位で、それに覆いかぶさるように 3 が逆位で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から晩期前葉の安行 3 b 式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、下層から骨粉などが出土していることから、機能停止後、廃棄土坑として利用されたものと考えられる。また中層から完形に近い深鉢 2 個体が重なるように出土していることから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。



第 207 图 第 34 号土坑·出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表 (第207図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	186	308	58	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面倒り後下部磨き 内面ナデ	覆土中層	内面高40% PL32
2	縄文土器	深鉢	318	200	-	長石・石英	明黄褐	普通	外面糸織→頭部区画文・磨き→縁線磨付 内面ナデ	覆土中層	30% PL38
3	縄文土器	深鉢	197	321	42	長石・石英	橙	普通	4単位 外面磨付磨底織→Rし縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土中層	90% PL32
4	縄文土器	鉢	257	120	-	珧・珧殻粒子・粘石	にぶい青	普通	外面倒り 内面磨き	覆土中層	30%
5	縄文土器	広口壺	-	-	-	石英・黒色粒子・粘石	橙	普通	外面沈線→Rし縄文 内面磨き	覆土下層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	厚口調 外面磨付磨底織→Rし縄文→無文磨き 内面ナデ	覆土下層	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい青褐	普通	外面沈線→LR縄文→無文部ナデ 内面ナデ	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗黄褐	普通	口部外面磨付 内面ナデ	覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面糸織 内面ナデ	覆土下層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	外面倒り 内面ナデ	覆土下層	

第45号土坑 (第208図 PL16)

位置 調査A区北西部のB6h2区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第43号竪穴建物跡を掘り込んでいる。本跡の上位には、第1号遺物集中地点が位置している。

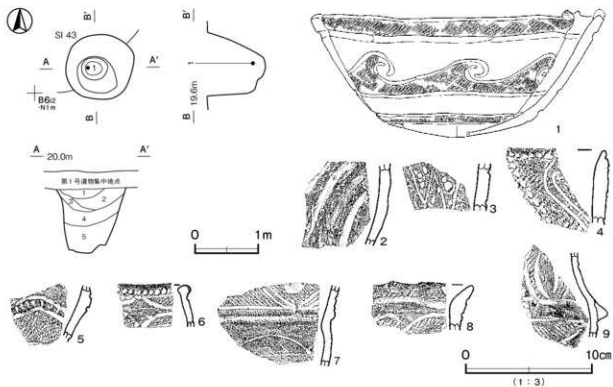
規模と形状 長径1.12m、短径1.06mの円形である。底面は北部がピット状に下がっており、深さは92cmで、ピット底面までの深さは102cmである。壁は直立している。

覆土 5層に分層できる。第1層は骨粉が含まれている黒褐色土で、第1～3層は第4・5層が堆積後、土坑状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒黄褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片251点(4.42kg)、石器4点(磨石類)のほか、剥片2点(チャート)が出土している。



第208図 第45号土坑・出土遺物実測図

土器は中期後半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第7・8群（後期後葉～晩期前葉）である。底面から、1が斜位で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から晩期前葉の安行3b式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、底面から完形に近い鉢が出土していることから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性が考えられる。

#### 第45号土坑出土遺物観察表（第208図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	縄文土器	浅鉢	225	101	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・肌	普通	口縁部突起14等 外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	底面	30%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・肌	普通	外面段彫帯文 外・内面磨き		覆土中	外面赤彩
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・肌	普通	外面刺突文 内面ナデ		覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面LR・縄文→沈澱文 内面磨き		覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・肌	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・肌	普通	縁部外面LR・縄文→沈澱 胴部沈澱→LR・縄文 内面ナデ		覆土中	
8	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい・肌	普通	小段状口縁 外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 褐	普通	外面沈澱→LR・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	

#### 第105号土坑（第209・210図 PL17・18）

**位置** 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第18・35号建物跡と重複するが、堆積状況からの新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径166m、短径106mの楕円形で、長径方向はN-46°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは161cmである。壁は長径方向が確認面下30～70cmのところを有し、以下は直立している。

**覆土** 3層に分層できる。第1層は第2・3層が堆積後、ビット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

##### 土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片408点(9.49kg)、土製品2点(耳飾り、土偶)、石器1点(石皿類)、木製品1点(櫛)のほか、剥片5点(チャート)、貝類、骨片等が出土している。土器は中期前半から晩期前葉までのものが出土しているが、主体となるのは第8群（晩期前葉）のものである。第1・2層から多くの土器が出土している。第2層の下位で7が正位で出土している。6は覆土中層から、20・22は覆土上層から出土している。またW1・W2の漆塗りの櫛は同一個体で、底面付近から出土している。

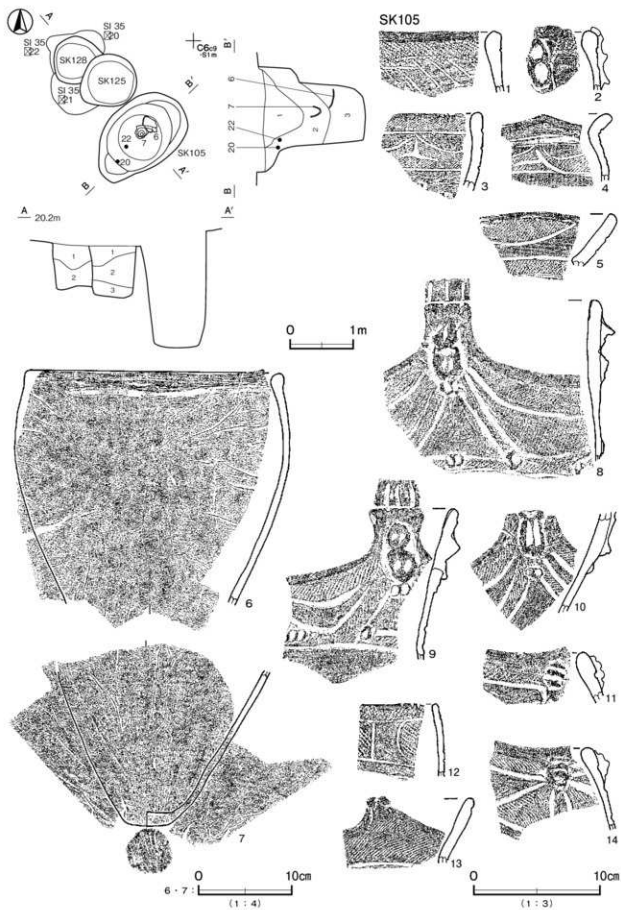
**所見** 時期は、出土土器から晩期前葉の安行3a式から安行3b式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、覆土中位から正位で深鉢の底部が出土していることや覆土が再堆積しているようにも捉えられることなどから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。

#### 第125号土坑（第209・210図）

**位置** 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第128号土坑を掘り込んでいる。第18・35号建物跡との新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径095m、短径085mの楕円形で、長径方向はN-58°-Eである。底面はほぼ平坦で、深さは83cmである。壁は直立している。



第 209 图 第 105·125·128 号土坑·第 105 号土坑出土文物实测图

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

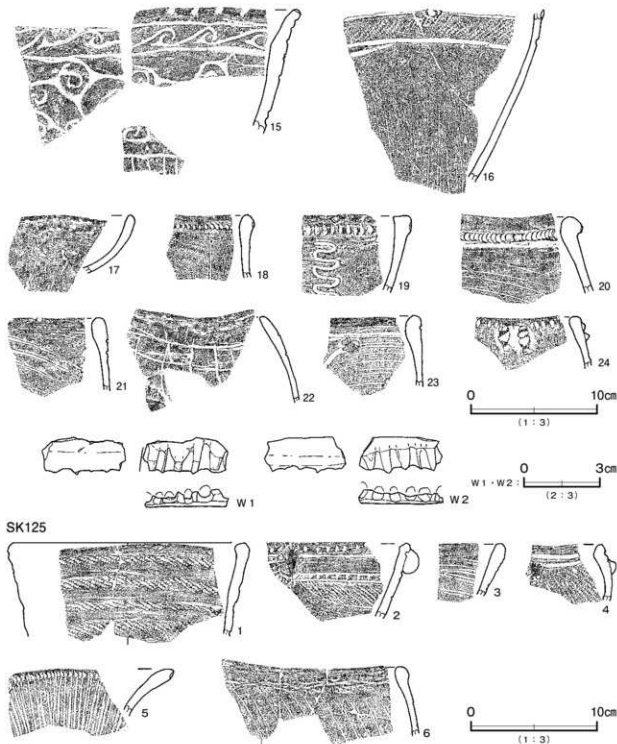
## 土層解説

1 黒暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 127点 (1.60kg) のほか、剥片2点 (チャート、黒曜石) が出土している。また製塩土器片1点が出土している。土器は中期前半から後期後葉までのものが出土しているが、後期後葉の曽谷式



第210図 第105・125号土坑出土遺物実測図



から安行1式が主体で、安行2式以降は確認できない。

所見 時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式から安行1式期と考えられる。円筒状の形状から貯蔵穴と考えられるが、位置や深さなどから第35A号建物跡の出入口ピットの可能性も考えられる。

### 第128号土坑 (第209図)

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第125号土坑に掘り込まれている。第18・35号建物跡との新旧関係は不明である。

規模と形状 東部を第125号土坑に掘り込まれているため、南北径は0.75mで、東西径は0.75mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、深さは66cmである。壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 土 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 土 ロームブロック少量

所見 時期は、出土遺物がないことから詳細な時期は判断できないが、遺構の重複関係から、縄文時代後期以降と考えられる。円筒状の形状から貯蔵穴と考えられるが、位置や深さなどから第35A号建物跡の出入口ピットの可能性も考えられる。

### 第105号土坑出土遺物観察表 (第209・210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面染緑→横位沈線→LR縄文・内面ナデ	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗	普通	外面段状帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上-中層	
4	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい暗	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上-中層	
6	縄文土器	深鉢	(26.6)	(24.3)	-	長石・石英	暗 灰	普通	口縁部外面肥厚 外面磨り 内面磨き	覆土中層	内径10% PL38
7	縄文土器	深鉢	-	(16.2)	4.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土中層	内径60%
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗 褐色	普通	外面段状帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	PL38
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗 褐色	普通	外面段状帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上-中層	PL38
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 褐色	普通	外面段状帯輪沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上-中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 口唇部削み 内面磨き	覆土上-中層	
13	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	暗 褐色	普通	外面沈線→LR縄文 内面磨き	底面	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗 灰	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 口縁部肥厚 内面ナデ	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗 褐色	普通	口唇部外面削み 三叉状入組文 内面磨き	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	暗 褐色	普通	外面沈線→LR縄文 胴部縦位の磨き 内面ナデ	覆土中層	
17	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	暗 灰	普通	外面磨り 内面ナデ	覆土中層	二次地成
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口唇部外面磨貼付 沈線→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	口縁部外面肥厚帯下縁に削み 外・内面ナデ	覆土下層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい暗	普通	外面磨貼付 内面磨き	覆土上層	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面染緑 内面ナデ	底面	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい暗	普通	外面磨り付。外面無文部・内面磨き	覆土上層	
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい暗	普通	外面染緑→胴部区画文 磨貼付。内面磨き	底面	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面付点輪文 外・内面ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W1	縄	(1.5)	(3.4)	(0.7)	(1.70)	木胎	外面黒漆塗布。内面黒漆透明層	底面付近	W2と同一 PL38
W2	縄	(1.5)	(3.3)	(0.6)	(1.54)	木胎	外面黒漆塗布。内面黒漆透明層	底面付近	W1と同一 PL38

第125号土坑出土遺物観察表(第210図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
1	縄文土器	深鉢	[18.3]	[7.3]	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面段起帯上段・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	10%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→L.R.縄文→口縁部・沈澱間筋	内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面条線	内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→L.R.縄文	内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面条線	内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面条線	内面磨き	覆土中	

## 第106号土坑(第211図 PL18)

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第108号土坑を掘り込んでいる。第18・35号建物跡とも重複するが、堆積状況からの新旧関係は不明である。

規模と形状 長径0.98m、短径0.76mの楕円形で、長径方向はN-80°-Wである。底面はほぼ平坦で、深さは51cmである。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。第2層は炭化粒子が含まれている極暗褐色土である。

## 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量  
2 極暗褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片85点(1.02kg)が出土している。また製塩土器片1点が出土している。1は覆土中層の第2層上面から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期中葉の大洞C1式期と考えられる。断面が逆台形状で、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性はある。

第106号土坑出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考	
1	縄文土器	台付鉢	[26.8]	[16.1]	-	長石・石英	黒	普通	外面沈澱→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層	40% PL34
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面段起帯筋沈澱→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	灰黄黒	普通	外面沈澱→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中	

## 第107号土坑(第211図 PL18)

位置 調査A区中央部のC6c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第18・35号建物跡、第108・110号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東部が第108号土坑と重複しているため、短径は0.76mで、長径は0.77mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-73°-Eである。底面は皿状で、深さは69cmである。壁は直立している。

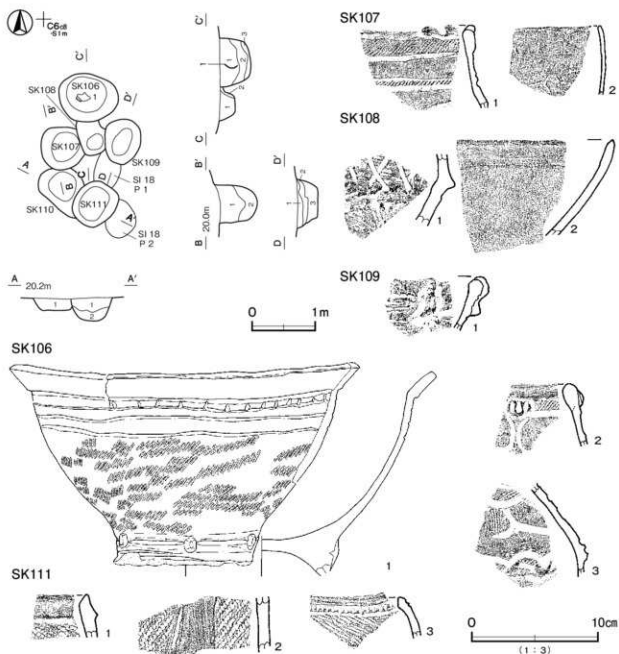
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

## 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片15点(0.65kg)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉から中葉と考えられるが、小片かつ少量のため断定できない。ピット状であることから、第18号建物跡あるいは第35号建物跡の柱穴の可能性はある。



第211図 第106～111号土坑、第106～109・111号土坑・出土遺物実測図

第107号土坑出土遺物観察表(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	焼	外面段状帯幅沈線→L状縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層		
2	縄文土器	製塩	-	-	-	紅・赤・粘土・焼酎	橙	普通	外面張り	口縁部未調整	内面ナシ	覆土中	口縁部

### 第108号土坑(第211図 PL18)

位置 調査A区中央部のC 6 c8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第106号土坑に掘り込まれている。第18・35号建物跡、第107・109号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。



**覆土** 単一層。堆積状況から自然堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 9 点 (0.12kg) が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土土器がいずれも小片でかつ少量のため断定できないが、中期後半から後期中葉の土器が数点ずつ確認できる。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑などの可能性があるが断定できない。

### 第 111 号土坑 (第 211 図 PL18)

**位置** 調査A区中央部の C 6 c8 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 18 号建物跡の P 1・P 2、第 110 号土坑を掘り込んでいる。第 35 号建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 長径 0.72 m、短径 0.56 m の楕円形で、長径方向は N - 38° - E である。底面は平坦で、深さは 36cm である。壁は外傾している。

**覆土** 2 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量                      2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 41 点 (0.52kg) が、覆土中から出土している。

**所見** 時期は、時期比定が可能な遺物が少量のため断定できないが、中期後半から後期前葉の土器が数点ずつ出土している。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑、あるいは第 18 号建物跡や第 35 号建物跡の柱穴の可能性はある。

### 第 111 号土坑出土遺物観察表 (第 211 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にひ・黄褐色	普通	外面RL、縄文・内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄期	普通	外面RL、縄文・隆起帯輪付 内面ナデ	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	期	普通	外面沈澱→RL、縄文・口縁部刷み 内面書き	覆土中	

### 第 122 号土坑 (第 212 図 PL18)

**位置** 調査A区南部の C 6 d8 区、標高 20 m ほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第 16 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径 0.75 m、短径 0.63 m の楕円形で、長径方向は N - 65° - E である。底面は平坦で、深さは 45cm である。壁は外傾している。

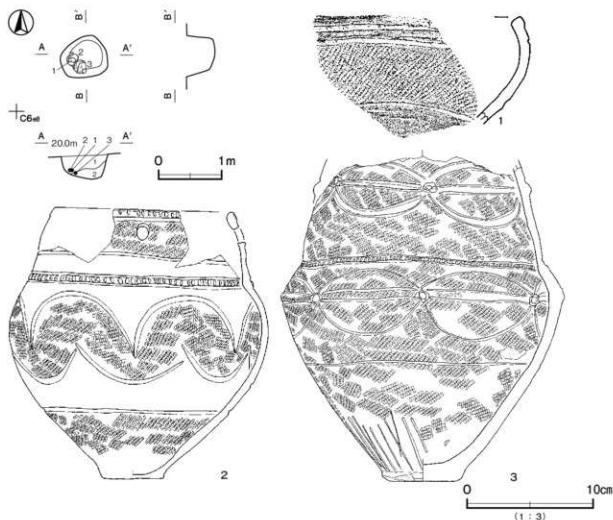
**覆土** 2 層に分層できる。炭化粒子が含まれていることや遺物の出土状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量                      2 黒褐色 炭化粒子少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 12 点 (3.18kg) が出土している。2 は正位で底面から、3 は 2 に覆い重なるように逆位で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式期と考えられる。断面が逆台形状の浅い土坑で、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性はある。



第212図 第122号土坑・出土遺物実測図

第122号土坑出土遺物観察表(第212図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にがい赤黒	普通	外面沈線→L.R縄文 内面ナデ	底面	
2	縄文土器	深鉢 [140]	21.2	4.6		長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→L.R縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	60% PL34
3	縄文土器	深鉢	-	(25.5)	5.4	長石・石英・角閃石	灰黄緑	普通	外面沈線→L.R縄文→沈線磨き 内面磨き	底面	80% PL32

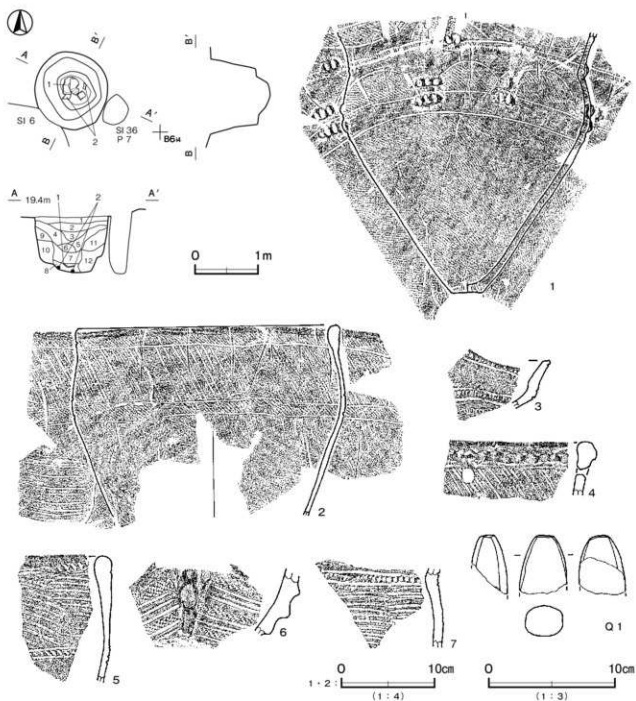
## 第127号土坑(第213図 PL19)

位置 調査A区北西部のB6h3区、標高19mほどの台地上に位置している。

重複関係 第36号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第6号建物跡とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 東西径1.16m、南北径1.24mの円形である。底面は中央部がピット状に1段下がっている。深さは86cmで、壁は直立している。

覆土 12層に分層できる。第1～4・6・7層には骨粉が含まれている。第1～8層は第9～12層が堆積後、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。



第213図 第127号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- |       |                            |         |                       |
|-------|----------------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量      | 7 黒褐色   | ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量       |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量     | 8 黒褐色   | ローム粒子少量・炭化粒子微量        |
| 3 褐色  | ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量     | 9 褐色    | ローム粒子中量・炭化粒子少量        |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量・炭化粒子少量・焼土粒子・骨粉微量 | 10 黒暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量・炭化物少量・焼土粒子微量     | 11 暗褐色  | ローム粒子中量・炭化粒子少量・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | 骨粉中量・ローム粒子少量・炭化粒子微量        | 12 暗褐色  | ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 247 点 (3.69kg)、石器 1 点 (磨製石斧) が出土している。1 は底面のビット状に下がる部分から、内面を上に向けて出土している。2 は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉の安行2式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、底面から大形の土器片が出土していることや覆土の堆積状況から、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。

第127号土坑出土土器観察表(第213図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考		
1	縄文土器	深鉢	-	(27.2)	3.3	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→刷み・凹線文→磨貼付・磨き	内面磨き	底面	40%	
2	縄文土器	深鉢	[268]	[19.8]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈線→横位沈線→凹線文	内面ナデ	底面	30% PL32	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	製部外面糸線	肩部磨き	内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面糸線→磨貼付	内面磨き	覆土中		
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面糸線→付点粗線文	内面ナデ	覆土中		
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面段起非筋沈線→凹線文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	製部外面糸線	肩部磨き	内面磨き	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨製石斧	(47)	3.8	2.4	(48.7)	頁岩	定角式	覆土中	

第163号土坑(第214図 PL21)

位置 調査A区北部のB7h1区、標高20mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.66m、短径1.36mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。底面は皿状で、深さは65cmである。壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。ローム粒子が含まれている黒褐色土主体の層が、不整合に堆積していることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |   |     |                     |   |     |           |
|---|-----|---------------------|---|-----|-----------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子微量             | 5 | 黒褐色 | ローム粒子多量   |
| 3 | 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量         | 6 | 暗褐色 | ローム粒子多量   |

遺物出土状況 縄文土器片259点(4.78kg)、石器2点(打製石斧、砥石)のほか、石核2点(チャート)が出土している。土器は第3群(称名寺式)と第4群(堀之内式)が主体で、覆土上層から多く出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉の堀之内1式期と考えられる。断面が逆台形状で、埋め戻されていることから墓坑などの可能性がある。

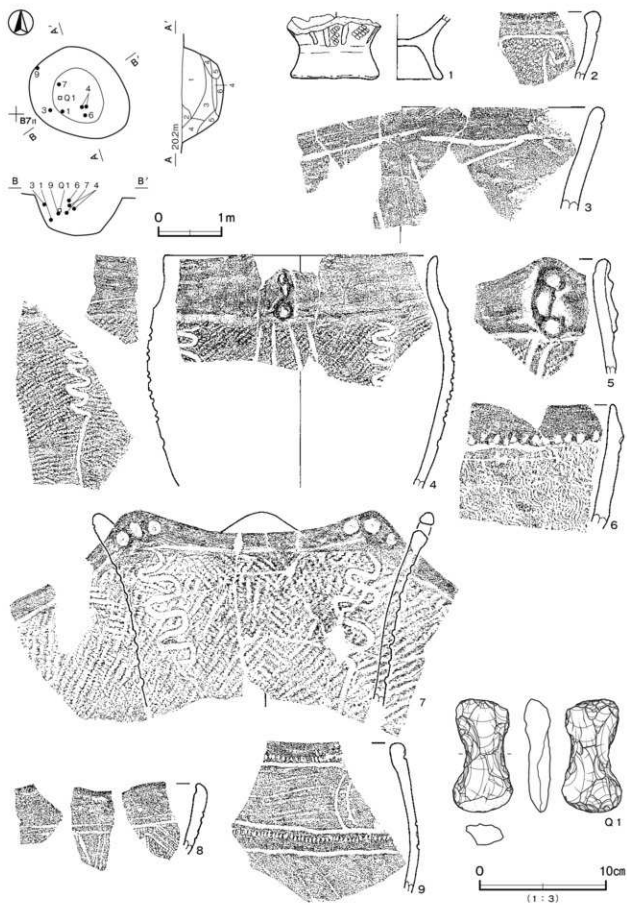
第163号土坑出土土器観察表(第214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考		
1	縄文土器	台付鉢	-	(5.1)	7.0	長石・石英	にぶい橙	普通	外面L形縄文→垂下沈線→沈線磨き	内面ナデ	覆土下層	10%	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面J字文・L形縄文	内面磨き	覆土中層		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面J字文	無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	深鉢	[214]	[18.5]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面凹線・縄文→磨貼付	内面磨き	覆土上層	10%	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	外面L形縄文→L形縄文	内面磨き	覆土中層		
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面磨面状工具の糸線文	内面磨き	覆土上層		
7	縄文土器	深鉢	[268]	[15.2]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面凹線文→磨貼付	内面磨き	覆土中層	25%	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面地縄文→竹管状工具による沈線文	内面ナデ	覆土中層		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	外面糸線→付点粗線文	内面ナデ	覆土中層		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	打製石斧	90	4.8	2.1	81.2	ホルンフェルス	分銅形	覆土中層	





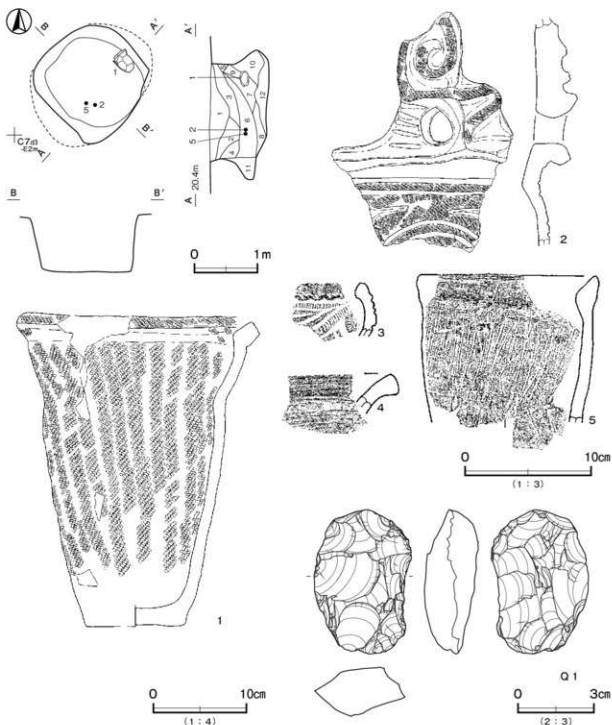
第 214 图 第 163 号土坑·出土遗物实测图

## 第 166 号土坑 (第 215 図 PL21)

位置 調査A区南東部のC7c3区, 標高 20 mほどの台地上に位置している。

重複関係 第 45 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は東西径 1.64 m, 南北径 1.58 m の隅丸方形である。底面は径 1.50 m ほどの円形で, ほほ平坦であるが, 南側の一部が 20 cm ほど高くなっている。確認面からの深さは 92 cm である。壁は内罍し袋状を呈しており, 最大径は長径 2.22 m, 短径 1.66 m である。



第 215 図 第 166 号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 12層に分層できる。ロームブロックが含まれている褐色土を主体とした層が、互層をなすように堆積していることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	8	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	9	褐色	ロームブロック少量
4	褐色	ロームブロック中量	10	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	明褐色	ロームブロック多量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12	明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 50点 (190kg)、石器 1点 (石鏃未成品) が出土している。1はほぼ完形の深鉢で、覆土中層から横位で、2・5は覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期前半の阿玉台IV式期と考えられる。いわゆる袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。

**第166号土坑出土遺物観察表 (第215図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	23.5	33.3	10.3	灰白・灰・赤・純灰	にぶい濃褐	普通	外面RL・縄文 内面磨き 底部網代痕	覆土中層	80% PL33
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰白・灰・赤・純灰	灰黄褐	普通	外面0段3本のRL・縄文 内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい濃褐	普通	外面隆起帯上に灰形文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい濃	普通	外・内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	13.7	11.7	-	長石・石英・雲母	にぶい濃褐	普通	外面条線 内面磨き	覆土中層	3%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	石鏃	5.74	3.38	2.15	43.6	頁岩	未成品	覆土上層	

**第4号土坑 (第216図 PL15)**

**位置** 調査A区北部のB 6i9区、標高20 mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第46号竪穴建物、第168号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が攪乱のため、開口部は南北径1.78 mで、東西径は0.92 mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定される。底面の南北径は1.28 mで、東西径は0.72 mしか確認できなかった。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは90 cmである。壁は内摩し、袋状を呈している。

**覆土** 4層に分層できる。第4層はローム粒子がやや多く含まれている極暗褐色土が凸状に堆積している第一次堆積土である。第1層は第2・3層が堆積後、ピット状に掘り込まれているような堆積状況を示しており、また焼土ブロックがやや多く含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	4	極暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量

**遺物出土状況** 大部分を確認トレンチで掘削したため、本跡の遺物を断定することができない。

**所見** 時期は、遺構の形状と重複関係から中期と推定される。いわゆる袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。

**第168号土坑 (第216図 PL15・21)**

**位置** 調査A区北部のB 6i9区、標高20 mほどの台地上に位置している。

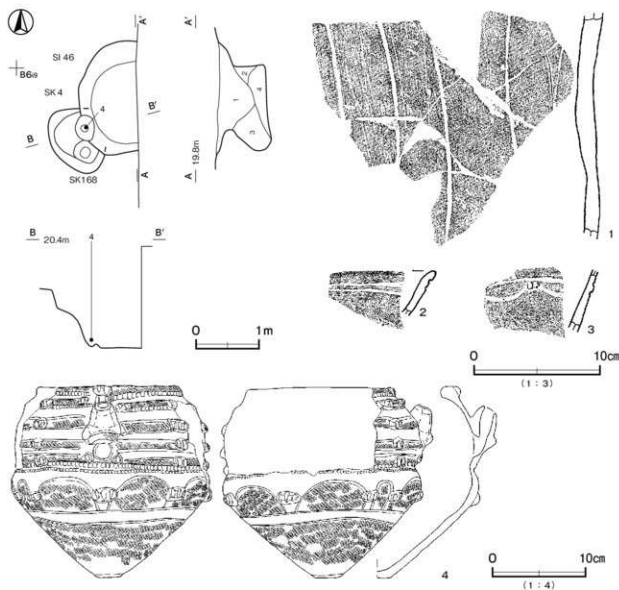
**重複関係** 第46号竪穴建物跡、第4号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 東部が重複のため、長径は1.09 mで、短径は0.80 mしか確認できなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。底面は中央部に向かって下がっており、中央および南壁際にピットを有する。確認面からの

深さは38cmで、中央部のピットの底面までの深さは90cmである。壁は外傾している。

**遺物出土状況** 縄文土器片78点(1.08kg)が出土している。4はほぼ完形の注口土器で、中央部のピット底面から、2つに破砕した大形の破片が内面を上に向けて重なるように出土している。

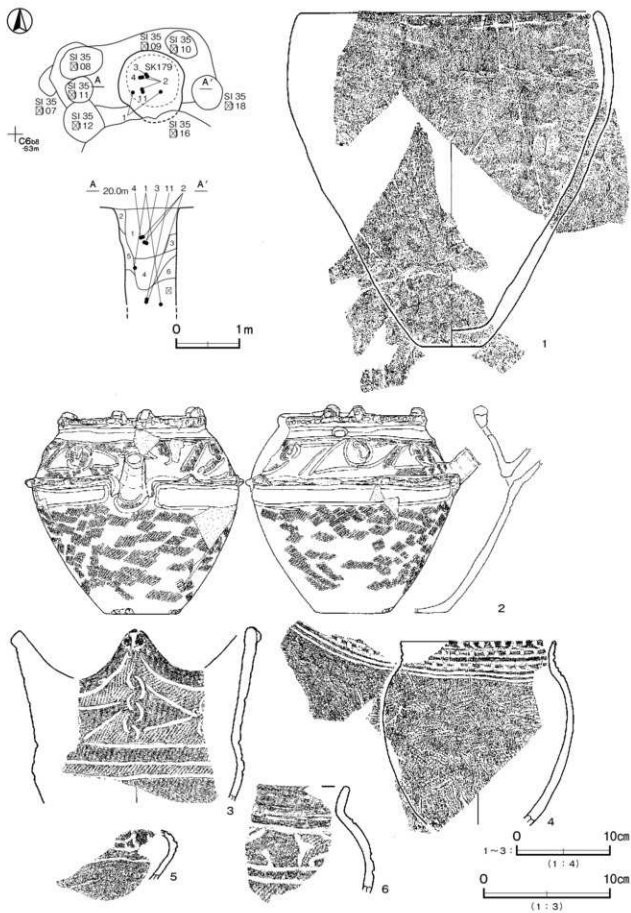
**所見** 時期は、出土土器から後期後葉の安行2式期と考えられる。第45・127号土坑のように円筒状で中央部にピットを有する土坑に類似すること、および完形に近い注口土器が正位で出土していることなどから、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性が考えられる。



第216図 第4・168号土坑・第168号土坑出土遺物実測図

第168号土坑出土遺物観察表(第216図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にじみ	普通	外面J字文。無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	注口	150	202	28	長石・石英・角閃石類	灰赤	普通	外面段起帯縄文→RL縄文 底部磨れ面 内面磨き	底面	80% PL32



第217图 第179号土坑·出土遗物实测图

## 第 179 号土坑 (第 217・218 図 PL22)

位置 調査A区中央部のC 6b8区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第35号建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が重複のため、東西径は1.00mで、南北径は1.15mしか確認できなかった。楕円形と推定される。安全対策のため、確認面下180cmまでしか調査することができなかった。壁は直立している。

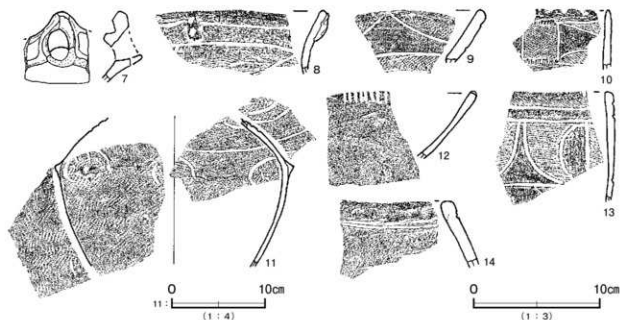
覆土 7層に分層できる。第1・4層は第2・3・5～7層が堆積後、ビット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

## 土層解説

- |       |                   |       |                       |
|-------|-------------------|-------|-----------------------|
| 1 褐色  | ローム粒子中量、骨粉微量      | 5 暗褐色 | ローム粒子少量               |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量      | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量    |       |                       |

遺物出土状況 縄文土器片278点(5.00kg)、土製品2点(土器片円盤)のほか、焼成粘土塊1点が出土している。また製塩土器片が1点出土している。1～4・11は、ビット状に掘り込まれた覆土から出土している。2は覆土下層と上層から、割れた口縁部片の内面を上にも重なるように出土している。1は覆土下層と覆土上層の破片が接合している。3・4は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期前葉の安行3b式期と考えられる。円筒状の深い形状から貯蔵穴と考えられるが、下層から大形の土器片が出土していることや覆土の堆積状況から、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。



第 218 図 第 179 号土坑出土遺物実測図

第179号土坑出土遺物観察表(第217・218図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[31.0]	34.9	6.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面削り 胴部ナデ 内面ナデ	覆土上～下層	80%
2	縄文土器	注口	15.2	21.9	7.8	珪・鉄・硝子・粘石	黒 黒	普通	外縁部帯彫刻・LR縄文・LR文部磨き 底部に硝子所 内面ナデ	覆土上～下層	80% PL32
3	縄文土器	深鉢	[24.2]	[17.9]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き 口部内面磨き 胴部ナデ	覆土上層	20% PL38
4	縄文土器	深鉢	[12.2]	[14.5]	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面胴部LR縄文 口縁部内面磨き 胴部ナデ	覆土上層	9割強 20% PL38
5	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面平歯状文 無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	暗 灰	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	PL38
7	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面磨き	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面沈澱→磨赤文 R 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面沈澱→LR縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈澱→磨赤文光沢→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	壺	-	(15.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	胴部外面LR縄文→沈澱 胴部LR縄文 内面ナデ	覆土下層	5%
12	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面削り 口部部削み 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	外面沈澱→磨赤文光沢→無文部磨き 内面磨き	覆土中	外・内面保存者
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤黒	普通	外面赤黒 口縁部肥厚 内面ナデ	覆土中	

## 第232号土坑(第219図 PL23)

位置 調査A区中央部のC7a2区, 標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第59号建物跡, 第260号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。出土遺物からは, 第59号建物に掘り込まれていると判断できる。

規模と形状 開口部は長径1.45m, 短径1.20mの楕円形で, 長径方向はN-3°-Eである。底面は長径1.80m, 短径1.55mの楕円形で, ほほ平坦である。確認面からの深さは84cmで, 壁は内増し袋状を呈している。

覆土 8層に分層できる。不整合な堆積状況から埋め戻されている。第1～4層は第260号土坑の覆土の可能性もある。

## 土層解説

1	暗 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量	5	暗 褐色	色	ロームブロック微量
2	極暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	6	暗 褐色	色	ロームブロック中量
3	暗 褐色	ロームブロック少量	7	暗 褐色	色	ロームブロック中量
4	暗 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	8	暗 褐色	色	ロームブロック少量

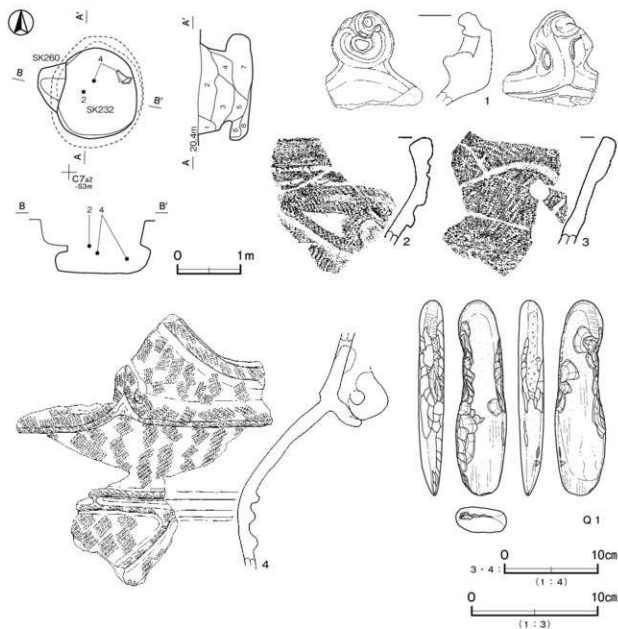
遺物出土状況 縄文土器片81点(1.72kg), 石器1点(磨製石斧)のほか, 石核1点(頁岩), 剥片1点(瑪瑙)が出土している。4は大形の破片で, 土坑状に掘り込まれた覆土中層から逆位で出土している。3は4と同一個体である。

所見 時期は, 出土土器から中期前半の阿玉台IV式期と考えられる。いわゆる袋状土坑で, 貯蔵穴と考えられる。

第232号土坑出土遺物観察表(第219図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面J字文。内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	外面隆起帯上LR縄文 内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土中	4と同一
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面LR縄文 内面磨き	覆土中層	3と同一

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
G1	磨製石斧	15.5	4.0	2.1	187.8	ホルンフェルス	部分磨製石斧 両面に剥離痕	覆土中	



第219図 第232・260号土坑・第232号土坑出土遺物実測図

#### 第260号土坑（第219図）

**位置** 調査A区中央部のC7a1区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第34・59号建物跡、第232号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 重複のため、東西径は0.42m、南北径は0.79mしか確認できなかった。円形と推定され、底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは38cmで、壁は外傾している。

**所見** 時期は、出土土器がないため判断できない。形状から、第59号建物跡のピットの可能性もある。



### 第233号土坑 (第220図 PL23・24)

**位置** 調査A区東部のB7j2区、標高20mほどの台地上に位置している。

**重複関係** 第54号建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。出土土器からは、本跡が第54号建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は東西径1.37m、南北径1.42mの円形である。底面は東西径1.60m、南北径1.70mの円形で、ほぼ平坦である。確認面からの深さは80cmで、壁は内摩し袋状を呈している。

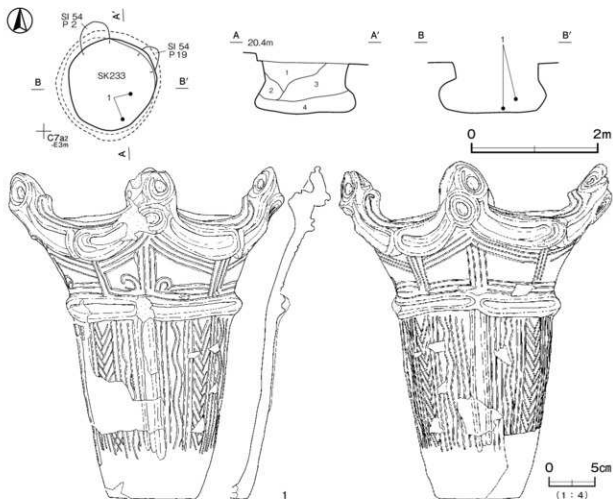
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれている褐色土を主体とした層が、不整合に堆積していることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                  |       |                |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 4 褐色  | ロームブロック中量      |

**遺物出土状況** 縄文土器片36点(4.28kg)が出土している。1はほぼ完形の深鉢で、底部がやや離れた位置から出土した。底面から横位で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後半の加曾利EⅠ式期と考えられる。袋状土坑で、貯蔵穴と考えられる。



第220図 第233号土坑・出土遺物実測図

第233号土坑出土遺物観察表 (第220図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	26.7	35.2	(9.0)	粘・灰・砂(白・黄)	明赤褐	普通	外縁縦空区画内; 竹管状工具による沈線文を施す 内面ナガ	底面	内面縦線% PL23

## 第 272 号土坑 (第 221 図 PL17)

位置 調査A区北部のB7il区、標高20mほどの台地上に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東西径0.68m、南北径0.62mの円形である。底面は平坦で、深さは62cmである。壁は直立している。

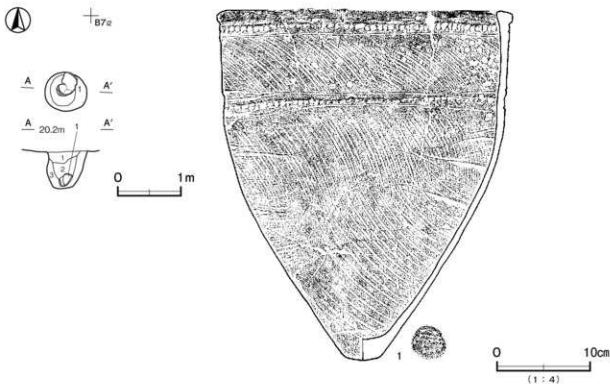
覆土 3層に分層できる。第1・2層は第3層が堆積後、ピット状に掘り込まれたような堆積状況を示していることから、人為堆積である。

## 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子中量  
 3 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 1は底面付近から正位で出土している。

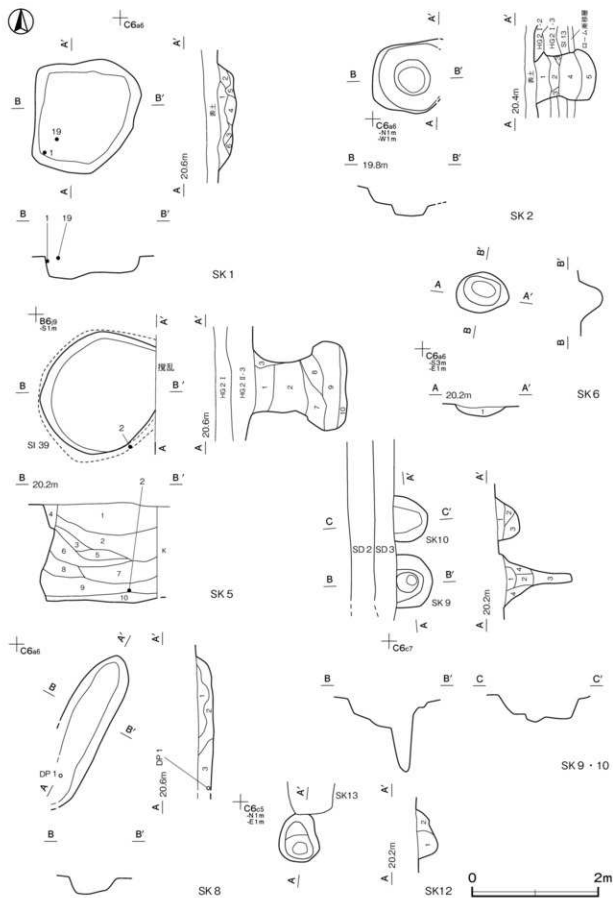
所見 時期は、出土土器から後期後葉の安行1式期と考えられる。円筒状の形状から貯蔵穴と考えられるが、底面から完形に近い深鉢が正位で出土していることや覆土の堆積状況から、墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性も考えられる。



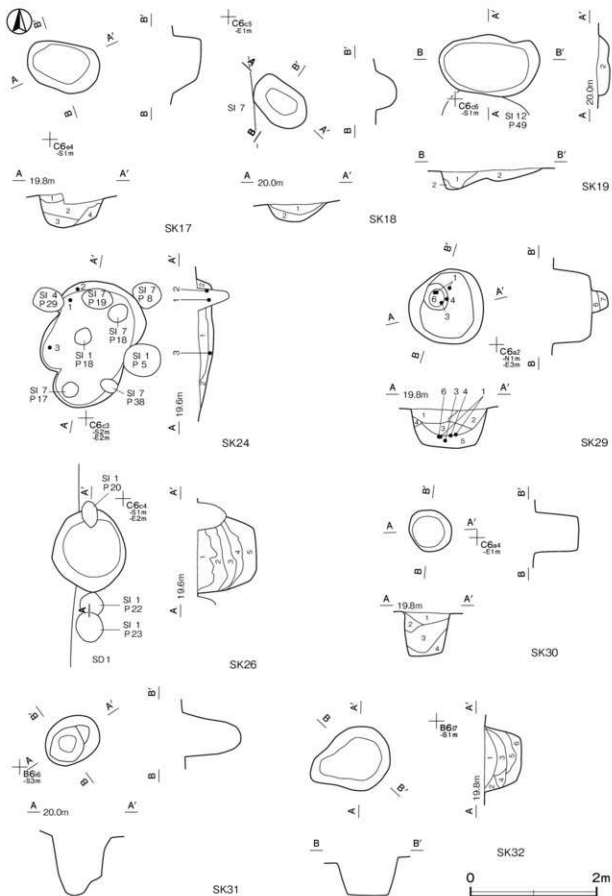
第 221 図 第 272 号土坑・出土遺物実測図

第 272 号土坑出土遺物観察表 (第 221 図)

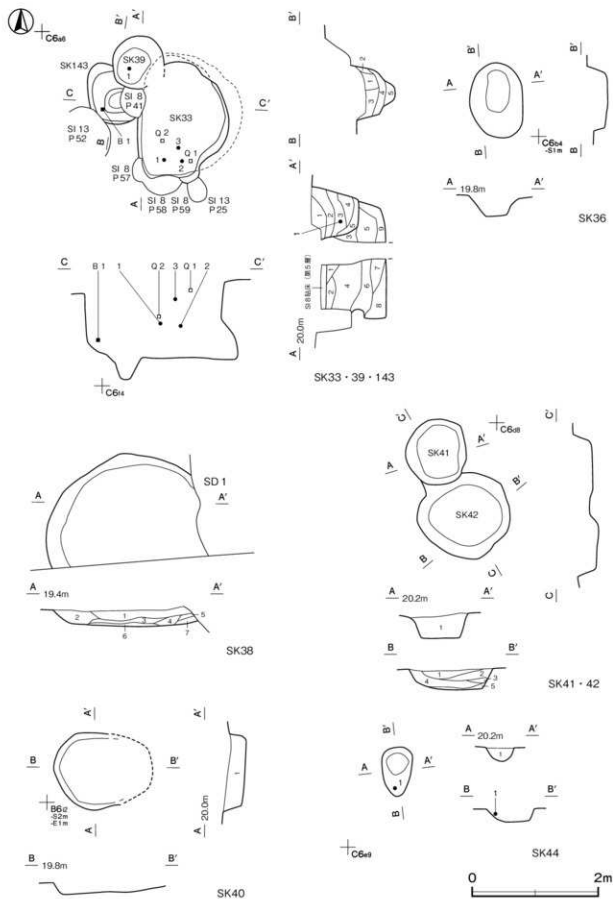
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	28.7	36.5	3.2	長石・石英・赤色粒子	にがい・赤黒	普通	外面糸織→付点線縄文 内面磨き	底層側表	底面 60% PL31



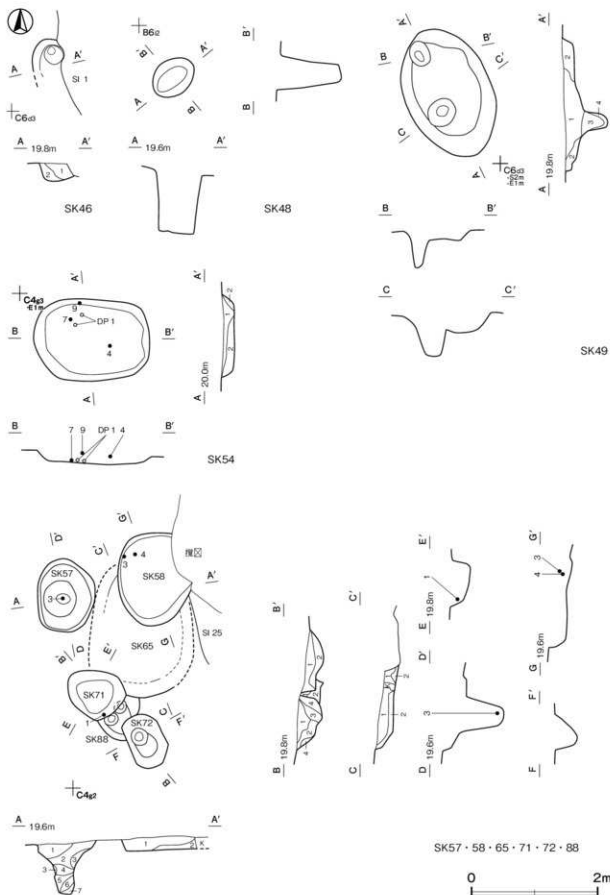
第 222 図 縄文時代の土坑実測図 (1)



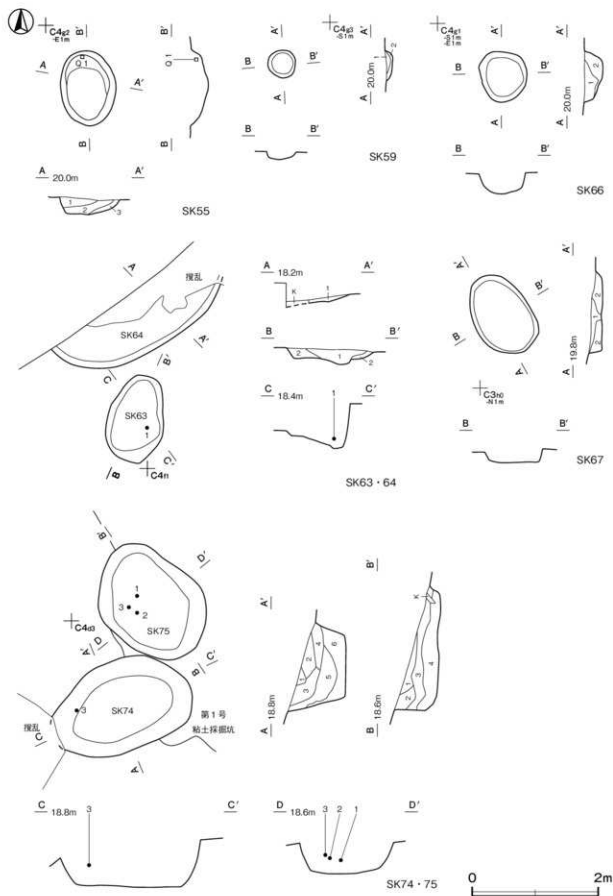
第 223 図 縄文時代の土坑実測図 (2)



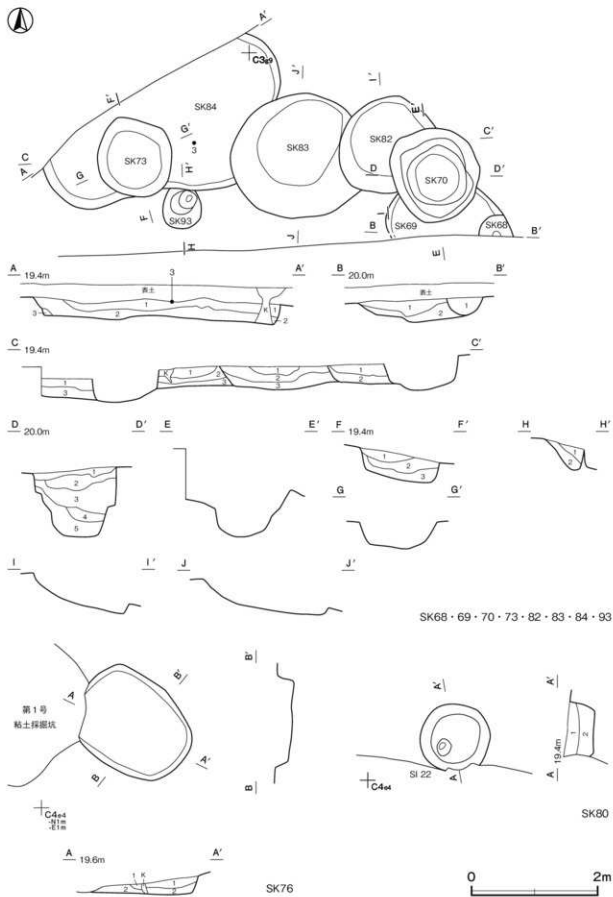
第 224 図 縄文時代の土坑実測図 (3)



第225図 縄文時代の土坑実測図(4)

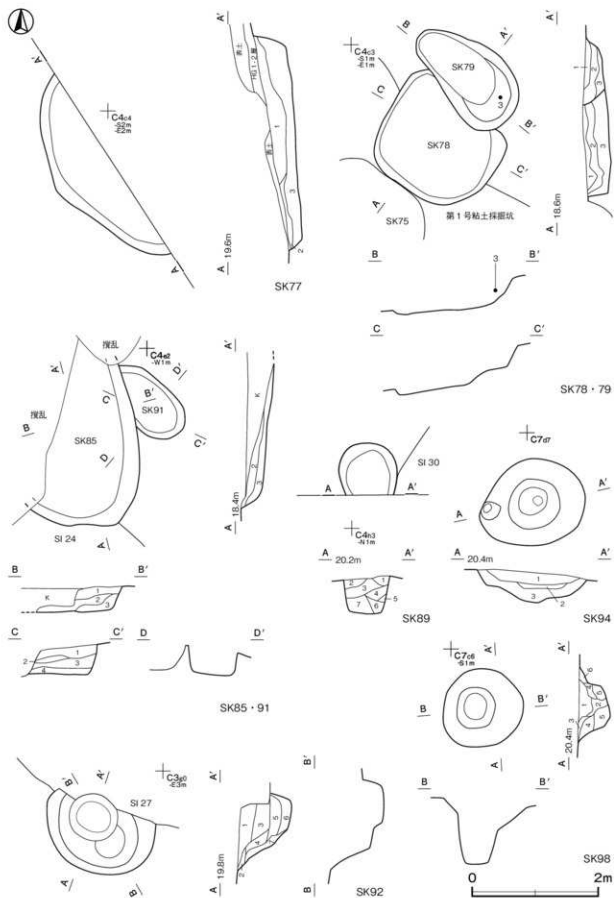


第 226 図 縄文時代の土坑実測図 (5)

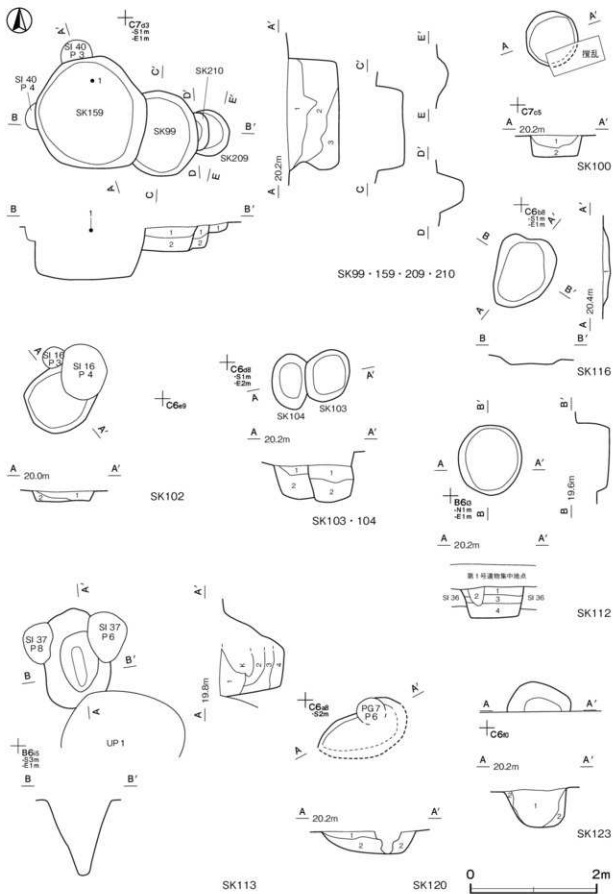


第227図 縄文時代の土坑実測図(6)

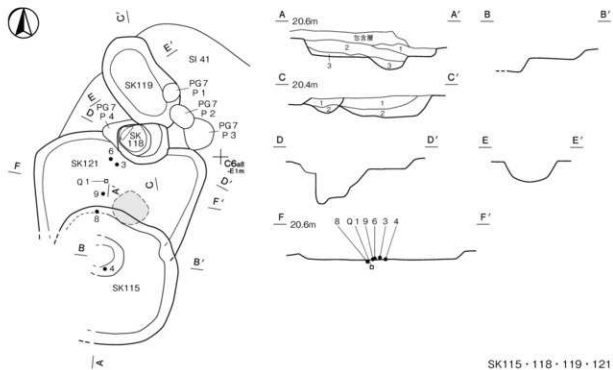




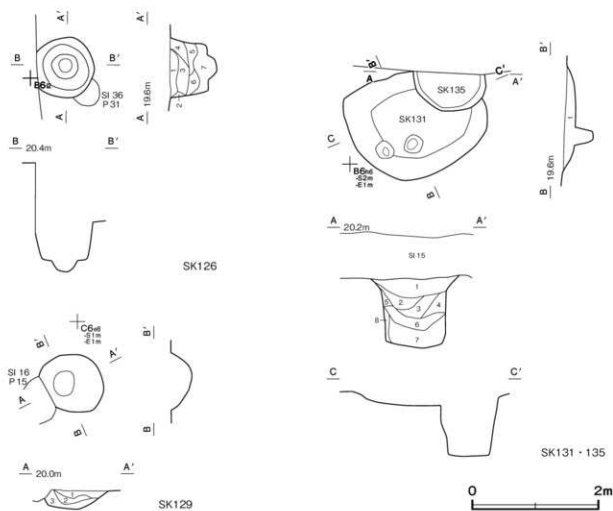
第228図 縄文時代の土坑実測図(7)



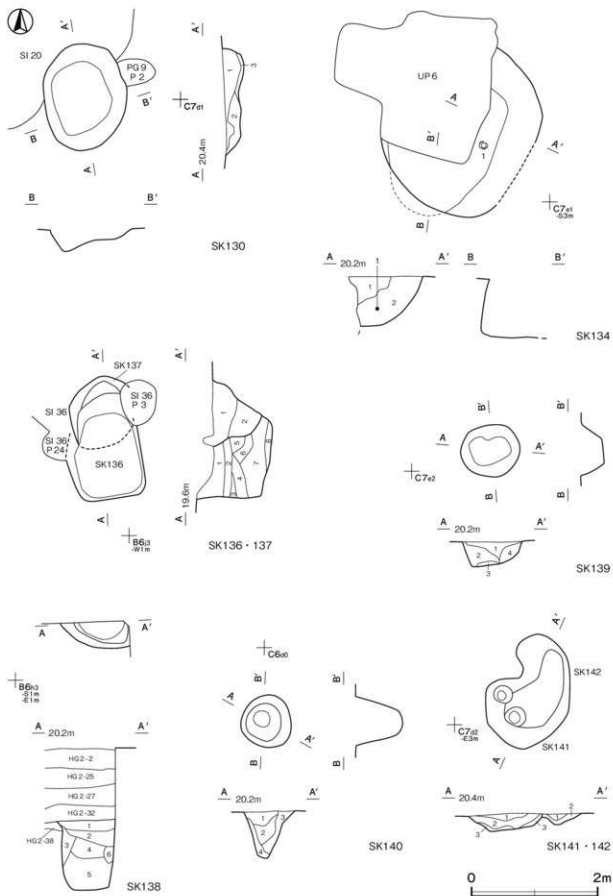
第 229 図 縄文時代の土坑実測図 (8)



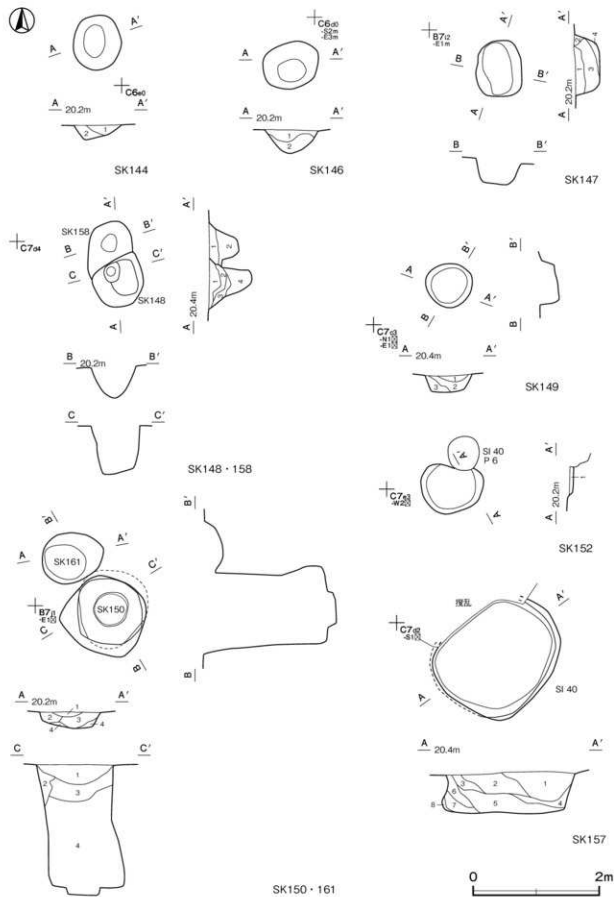
SK115・118・119・121



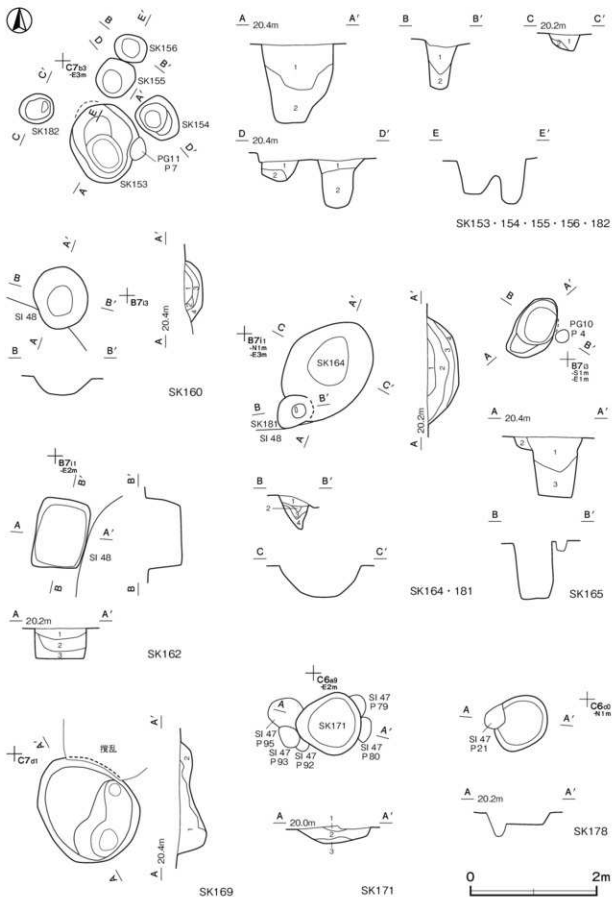
第 230 図 縄文時代の土坑実測図 (9)



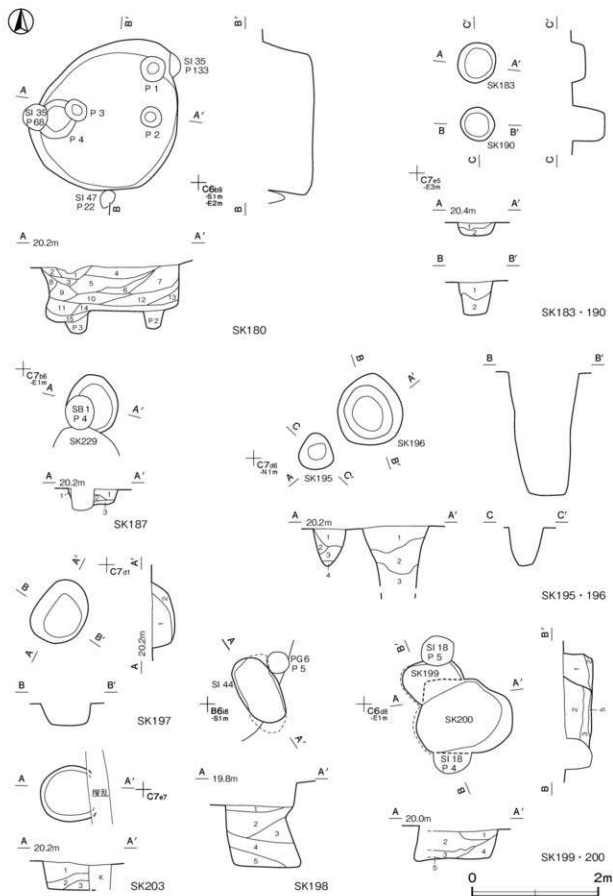
第 231 図 縄文時代の土坑実測図 (10)



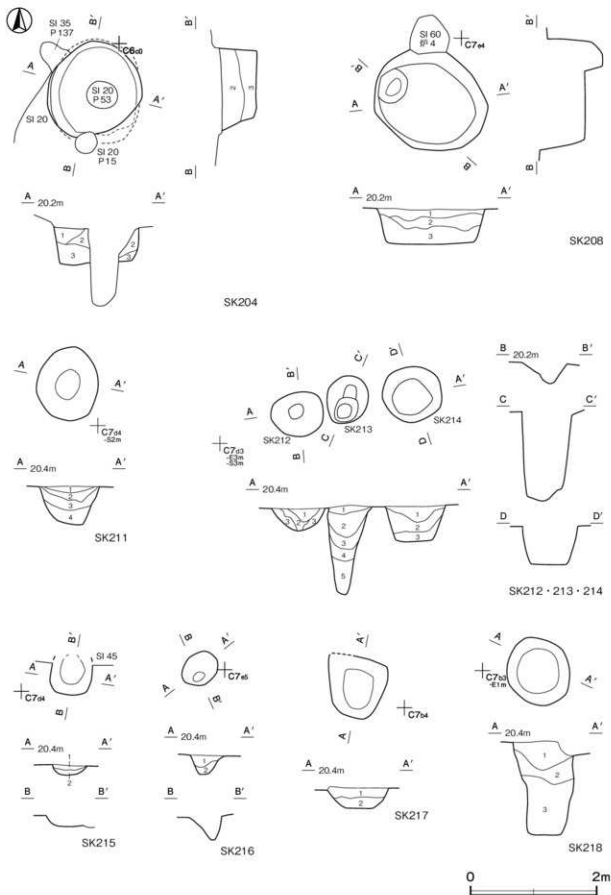
第 232 図 縄文時代の土坑実測図 (11)



第 233 図 縄文時代の土坑実測図 02

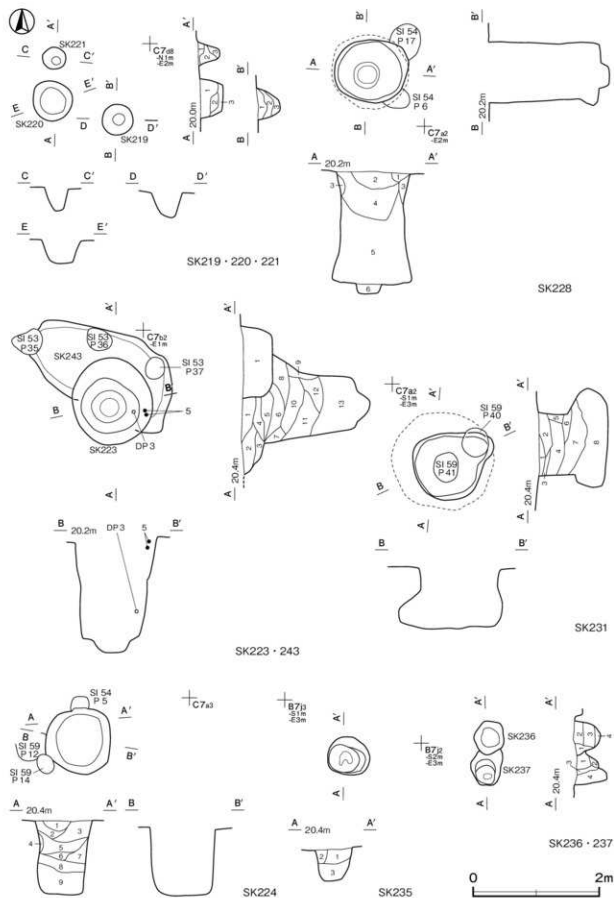


第 234 図 縄文時代の土坑実測図 (3)

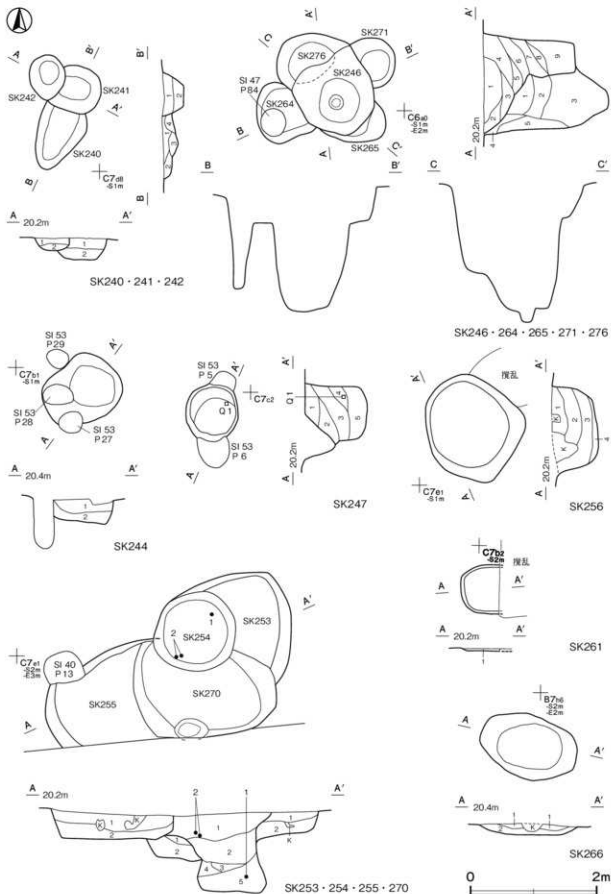


第 235 図 縄文時代の土坑実測図 04

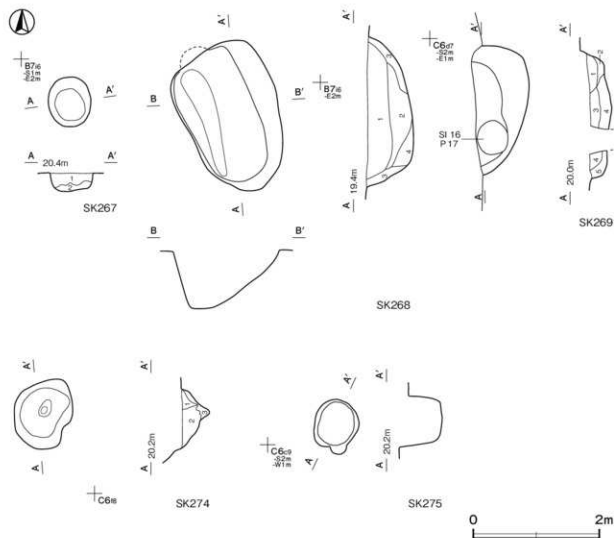




第 236 図 縄文時代の土坑実測図 (15)



第 237 図 縄文時代の土坑実測図 (6)



第238図 縄文時代の土坑実測図 (17)

**第1号土坑 土層解説**

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量

**第2号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第6号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第8号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量

**第5号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化材微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 8 褐色 ローム粒子中量
- 9 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

**第9号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

**第10号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第12号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第17号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

**第18号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

**第19号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第24号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・骨粉少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

**第26号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

**第29号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ロームブロック・炭化物・骨片少量、焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック中量

**第30号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

**第32号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量

**第33号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、炭化物少量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量
- 7 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 8 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、骨粉微量
- 9 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

**第40号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

**第41号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量

**第38号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量

**第39号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物・骨粉少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量

**第42号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量（4よりしまり強）
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

**第44号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**第46号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**第49号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

**第54号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

**第55号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量

**第57号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ロームブロック多量

**第58号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第59号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量

**第63号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、白色粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量



## 第98号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 炭化粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック少量

## 第99号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

## 第100号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

## 第102号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

## 第103号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第104号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第112号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
- 2 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子、焼土粒子、骨粉少量
- 4 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子少量、焼土粒子、骨粉微量

## 第113号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量

## 第115号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子、骨粉少量
- 2 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量、骨粉微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子少量

## 第116号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

## 第118号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量

## 第119号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量

## 第120号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量

## 第123号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

## 第129号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子、焼土粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

## 第126号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物、焼土粒子、骨粉少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒子、炭化粒子少量

## 第130号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第131号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量

## 第134号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量

## 第135号土坑 土層解説

- 1 にごり褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック、炭化粒子少量、骨粉微量
- 2 暗赤褐色 ロームブロック、焼土ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子、炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 5 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 7 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 8 明褐色 ロームブロック多量

## 第136号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黄褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 明褐色 ロームブロック多量
- 7 明褐色 ローム粒子多量
- 8 黒褐色 ローム粒子中量

## 第137号土坑 土層解説

- 1 黄褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

## 第138号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、焼土粒子、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量

## 第139号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

## 第140号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化物、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック、骨粉微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量

## 第141号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

**第142号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 灰黄褐色 ロームブロック中量

**第143号土坑 土層解説**

- 灰 褐色 貝細片・骨粉多量、炭化物・ローム粒子少量
- 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 暗 褐色 ロームブロック・炭化物・骨粉少量、焼土粒子微量
- 黒 褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

**第144号土坑 土層解説**

- 褐 色 ロームブロック少量
- 褐 色 ロームブロック中量

**第145号土坑 土層解説**

- 褐 色 ロームブロック少量
- 褐 色 ロームブロック中量

**第147号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗 褐色 ロームブロック少量
- 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第148号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック少量
- 暗 褐色 ローム粒子中量

**第149号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ロームブロック・炭化物中量
- 黒 褐色 炭化物中量、ロームブロック少量
- 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量

**第150号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量
- 暗 褐色 ロームブロック中量
- 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第152号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**第153号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 黒 褐色 ロームブロック少量

**第154号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック少量
- 褐 色 ロームブロック中量

**第155号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ロームブロック少量
- 暗 褐色 ロームブロック中量

**第156号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐 色 ロームブロック中量

**第158号土坑 土層解説**

- 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐 色 ローム粒子中量

**第159号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 褐 色 ロームブロック中量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第157号土坑 土層解説**

- 極暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック少量
- 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子中量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐 色 ローム粒子多量

**第160号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

**第161号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐 色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 明 褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量
- 黄 褐色 ロームブロック多量

**第162号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒 褐色 ローム粒子多量
- 暗 褐色 ロームブロック多量

**第164号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 黒 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量（1より暗）
- 黒 褐色 ローム粒子多量
- 暗 褐色 ローム粒子多量

**第165号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐 色 ロームブロック中量
- 暗 褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量

**第169号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**第171号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量
- 黒 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗 褐色 ローム粒子多量

**第181号土坑 土層解説**

- 暗 褐色 焼土粒子微量
- 暗 褐色 ロームブロック少量
- 褐 色 ローム粒子中量
- 明 褐色 ロームブロック多量

**第182号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

**第183号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第187号土坑 土層解説**

- 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 黒 褐色 ロームブロック中量
- 暗 褐色 ロームブロック少量

**第190号土坑 土層解説**

- 極暗褐色 ロームブロック少量
- 暗 褐色 ロームブロック少量

## 第180号土坑 土層解説

- 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子・骨粉微量（S1 35和4覆土）
- 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量（S1 35和4覆土）
- 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、骨粉微量（S1 35和4覆土）
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量（7より明）
- 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第195号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック中量
- 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第196号土坑 土層解説

- 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

## 第197号土坑 土層解説

- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

## 第198号土坑 土層解説

- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック少量
- 黒褐色 ロームブロック少量
- 極暗褐色 ロームブロック少量

## 第199号土坑 土層解説

- 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ローム粒子中量

## 第200号土坑 土層解説

- 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 褐色 ローム粒子中量

## 第203号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第204号土坑 土層解説

- 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

## 第208号土坑 土層解説

- 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック中量

## 第209号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第210号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 褐色 ロームブロック中量

## 第211号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 暗褐色 ロームブロック中量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第212号土坑 土層解説

- 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

## 第213号土坑 土層解説

- 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

## 第214号土坑 土層解説

- 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

## 第215号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第216号土坑 土層解説

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 暗褐色 ロームブロック少量

## 第217号土坑 土層解説

- 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量

## 第218号土坑 土層解説

- 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子微量

## 第219号土坑 土層解説

- 黒褐色 ロームブロック微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第220号土坑 土層解説

- 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 暗褐色 ロームブロック中量

## 第221号土坑 土層解説

- 黒褐色 ロームブロック微量
- 黒褐色 ロームブロック少量
- 極暗褐色 ロームブロック中量

## 第228号土坑 土層解説

- 褐色 焼土ブロック少量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 褐色 ロームブロック中量
- 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 暗褐色 焼土ブロック少量
- 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量



**第223号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 6 暗 褐色 焼土粒子中量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 暗 褐色 ローム粒子少量
- 9 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 10 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 11 極暗褐色 ローム粒子微量
- 12 極暗褐色 ロームブロック少量
- 13 極暗褐色 ロームブロック中量

**第224号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子少量
- 2 灰黄褐色 膠まり・粘性や強
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 にんべん色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ローム粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐色 ローム粒子中量
- 9 暗 褐色 ロームブロック少量

**第231号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 暗 褐色 ロームブロック少量
- 8 暗 褐色 ローム粒子少量

**第235号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック・ロームブロック微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量

**第236号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

**第237号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒 褐色 ロームブロック微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック少量

**第240号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量

**第241号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量

**第242号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量

**第243号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

**第244号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**第246号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 明 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 明 褐色 ローム粒子多量

**第247号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・貝片少量、焼土粒子微量
- 4 黒 褐色 ローム粒子少量
- 5 黒 褐色 貝片中量、ロームブロック少量

**第253号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック少量

**第254号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 にんべん色 ロームブロック中量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

**第255号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 ローム粒子少量

**第256号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量

**第261号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

**第266号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

**第267号土坑 土層解説**

- 1 赤 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第268号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量
- 4 黒 褐色 ローム粒子中量

**第269号土坑 土層解説**

- 1 赤 褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 2 にんべん色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
- 5 暗 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

**第270号土坑 土層解説**

- 1 灰黄褐色 ローム粒子中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

## 第 274 号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量  
 2 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量  
 3 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

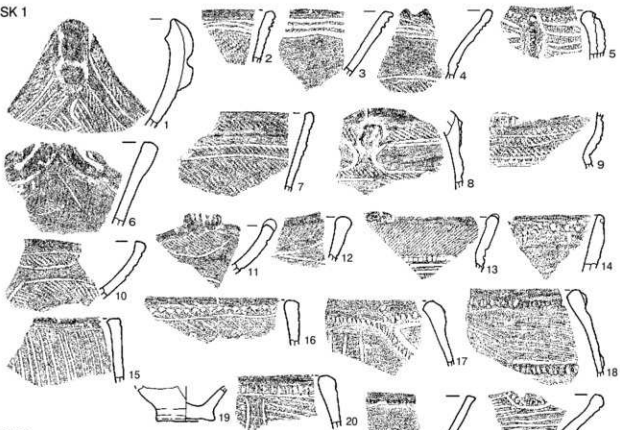
## 第 276 号土坑 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量  
 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量  
 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量  
 7 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量  
 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・貝殻片少量  
 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 焼土粒子少量

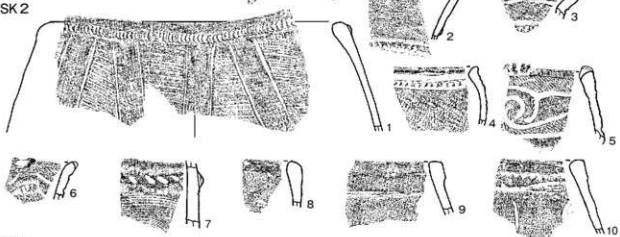
## 土坑出土遺物観察表 (第 239 ~ 260 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
SK1-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層		
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面流線→L.R. 縄文	内面磨き	覆土中		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面流線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面流線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
5	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面脱・縄文→極粘付・沈濁・口縁部磨き	内面磨き	覆土中層		
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面C字状粘付文	内面磨き	覆土中		
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面流線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
10	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面流線→脱・縄文	内面磨き	覆土下層		
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面流線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中層		
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面流線→無筋L. 縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中		
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面口縁部L.R. 縄文	内面ナデ	覆土中層		
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨り	刺突文	内面ナデ	覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→口縁部磨き	内面ナデ	覆土中		
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線文	内面ナデ	覆土中層		
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→粘結粘付	内面ナデ	覆土中		
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面条線→粘結粘付	内面磨き	覆土中		
19	縄文土器	深鉢	-	(28)	4.6	長石・石英	灰黄褐色	普通	外・内面磨き	底部磨り	覆土中層	10%	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線文	内面粗い磨き	覆土中層		
SK2-1	縄文土器	深鉢	(230)	(87)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線→粘結粘付→区画区磨き	内面粗い磨き	覆土中	5%	
2	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き		覆土中		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面流線→刺突文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面流線	脱・縄文・口縁部磨き	内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	外面流線→脱・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中		
6	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい橙	普通	外面流線→脱・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中		
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨曲状工具による条線	内面ナデ	覆土中		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面に竹管による刺突文	内面ナデ	覆土中		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨り	内面ナデ	覆土中		
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面磨き	内面ナデ	覆土中		
SK5-1	縄文土器	深鉢	(144)	(123)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面	脱・縄文	内面磨き	覆土中	20%
2	縄文土器	浅鉢	(274)	(113)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き		覆土下層	5%	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面	脱・縄文	内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面磨き	赤文	内面磨き	覆土中	
SK6-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土下層		
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面流線→脱・縄文	内面ナデ	覆土下層		
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線文	内面ナデ	覆土下層		
SK8-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面平段竹管による沈濁文	内面磨き	覆土中		
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明褐色	普通	口縁部外面	外脱	内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面磨き	覆土中		
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面段帯流注線→脱・縄文→無文部磨き	内面ナデ	覆土中		
6	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	縁部粘結粘付→赤→付点線	刺突文	内面ナデ	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面流線→脱・縄文→沈濁磨き	内面ナデ	覆土中		
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面流線→脱・縄文→沈濁磨き	内面磨き	覆土中		
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面条線→口縁部刺突文	内面磨き	覆土中		

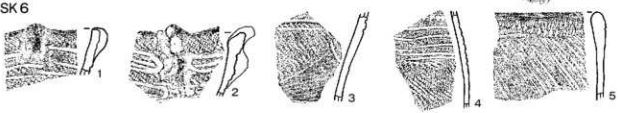
SK 1



SK 2



SK 6



SK 9



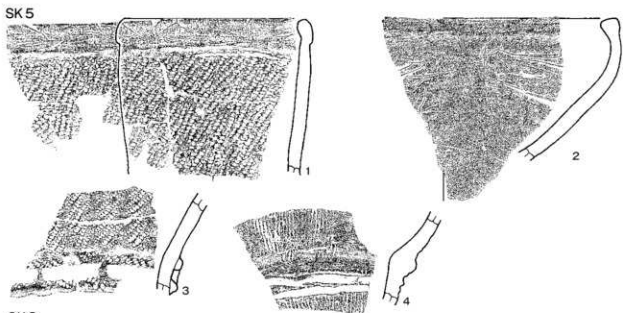
SK 10



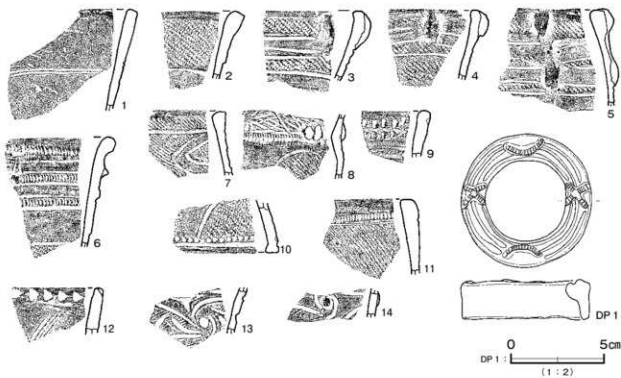
0 10cm

(1 : 3)

第 239 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (1)



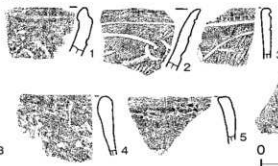
SK8



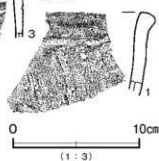
SK17



SK18

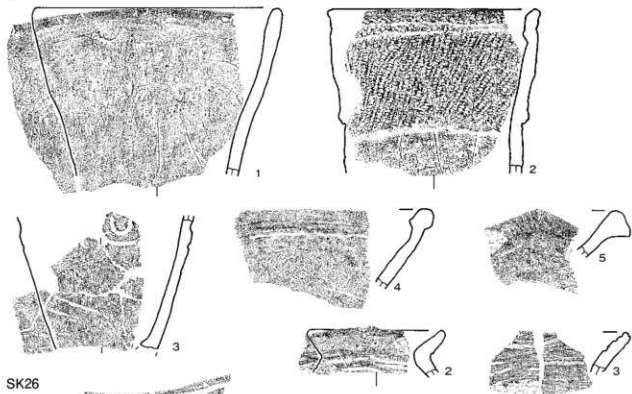


SK19

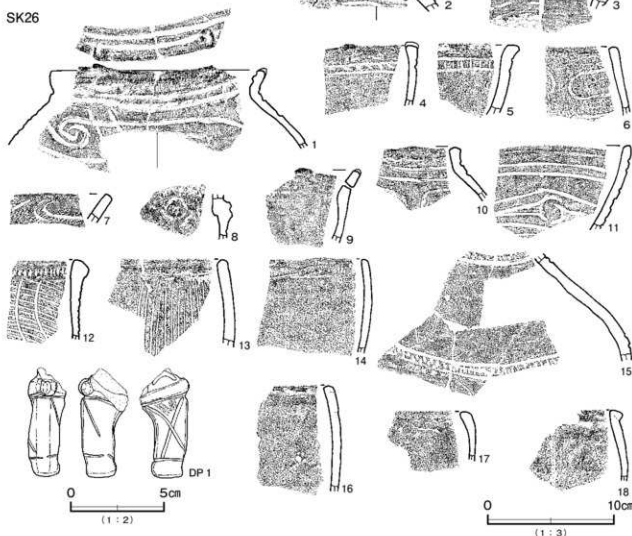


第240図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(2)

SK24

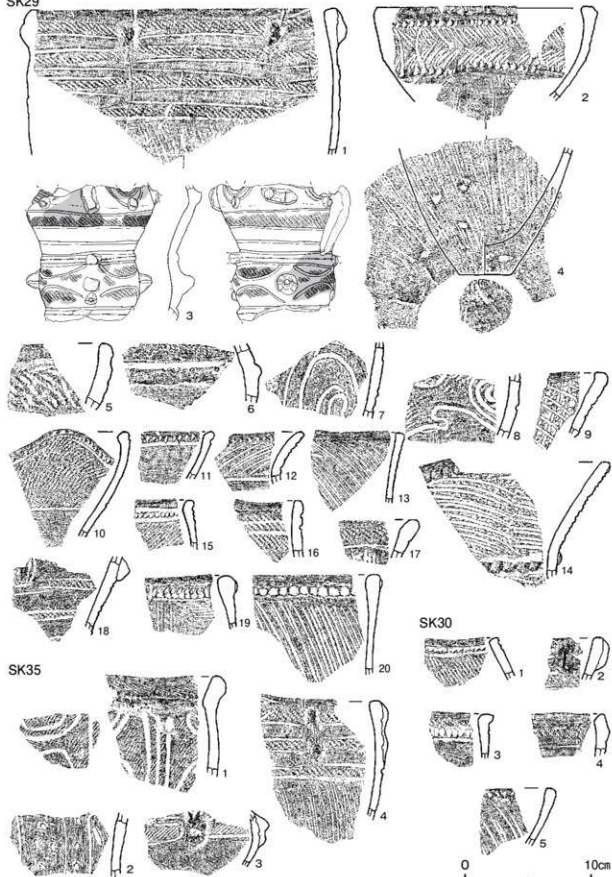


SK26

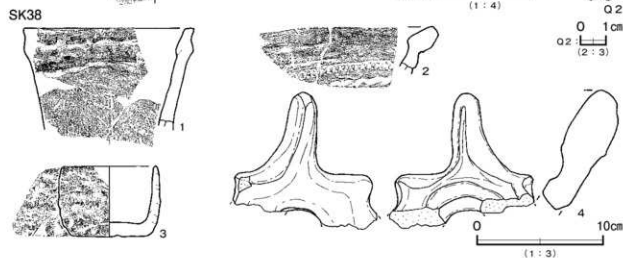
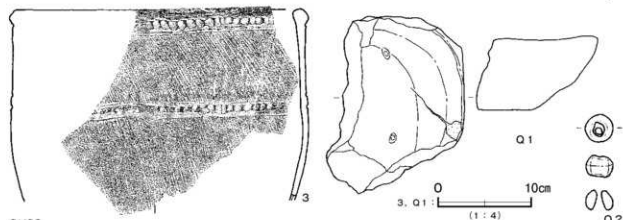
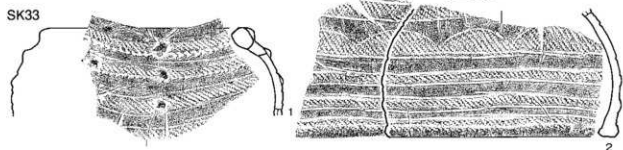
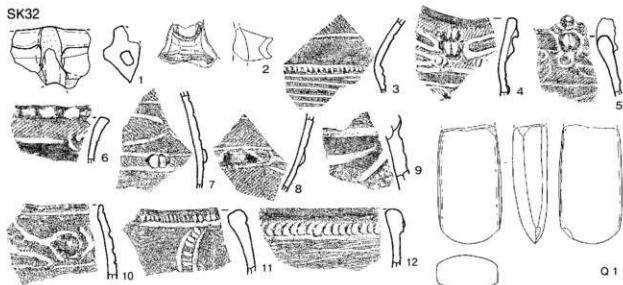


第 241 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(3)

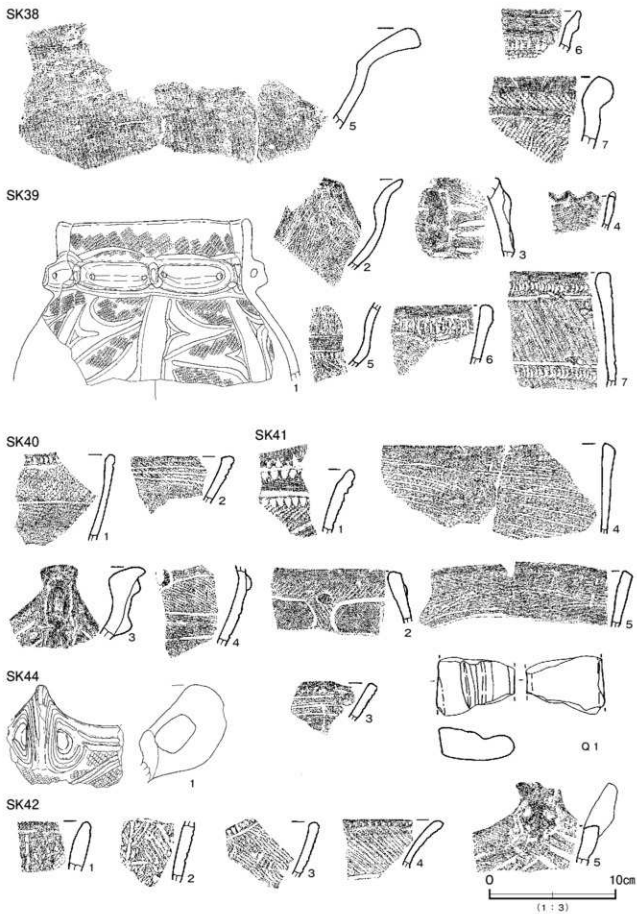
SK29



第 242 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (4)

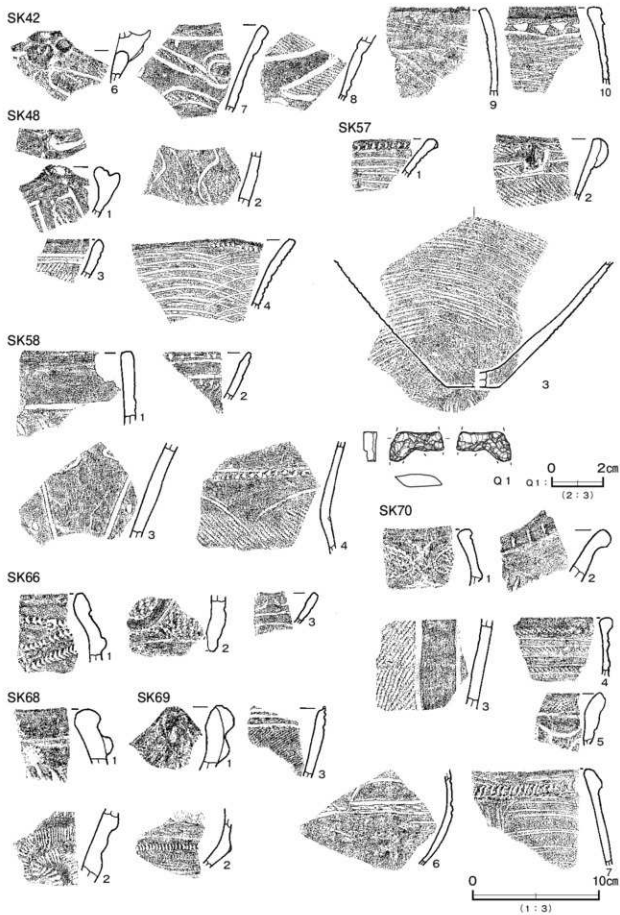


第 243 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(5)

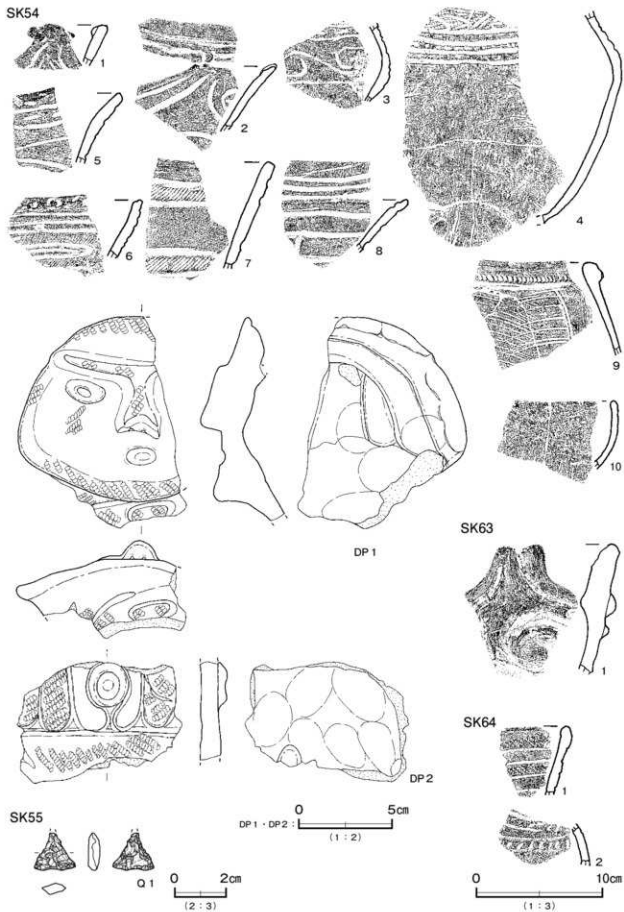


第 244 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (6)

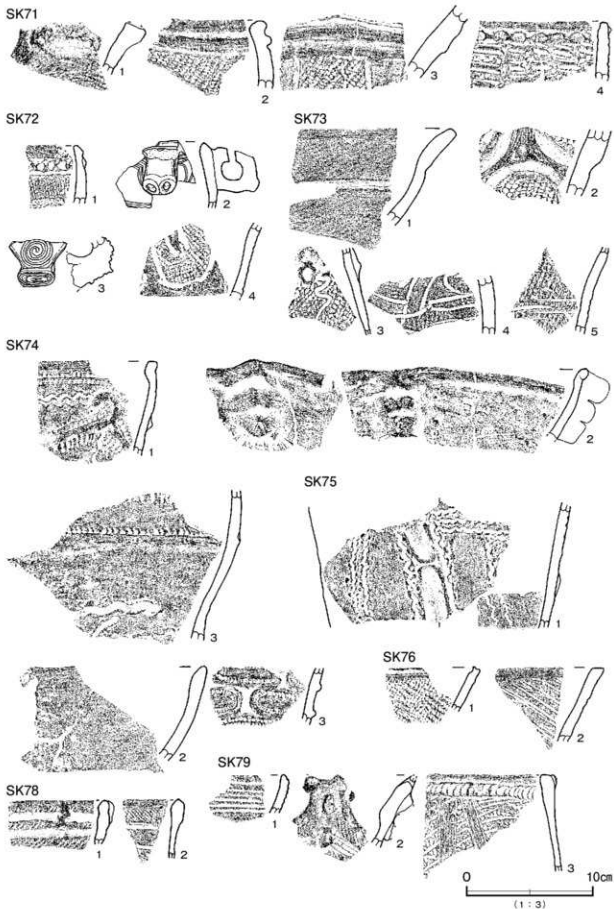




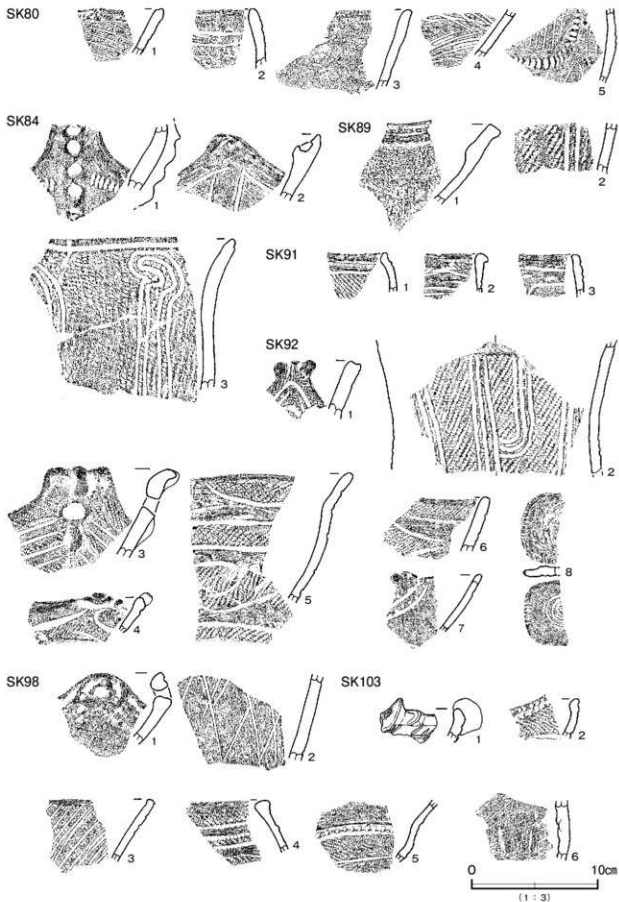
第 245 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (7)



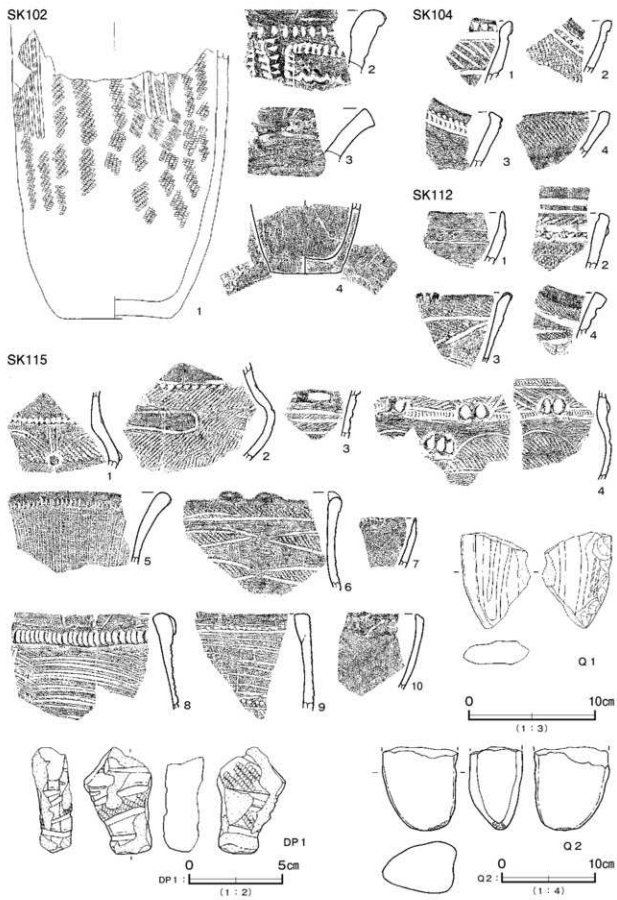
第 246 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (8)



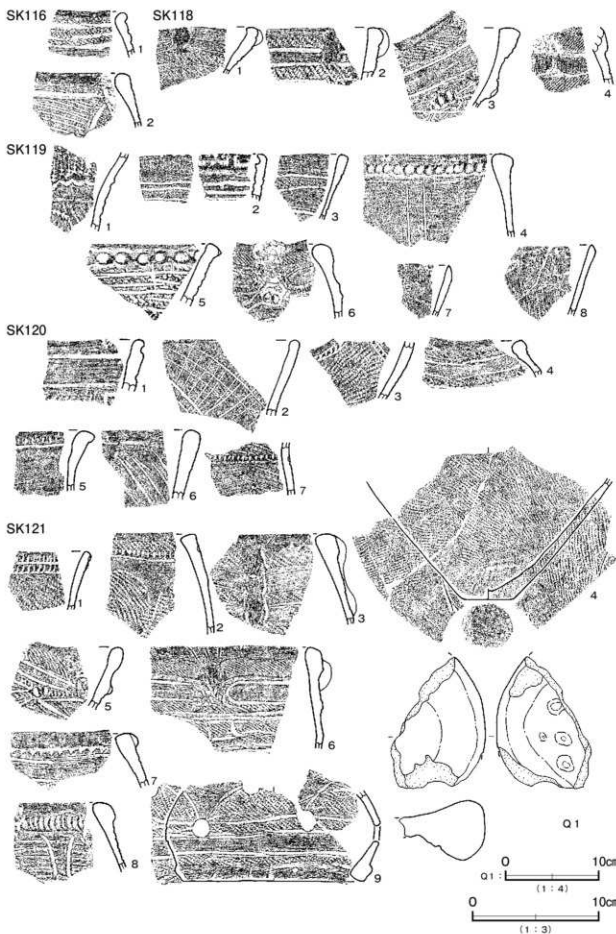
第 247 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (9)



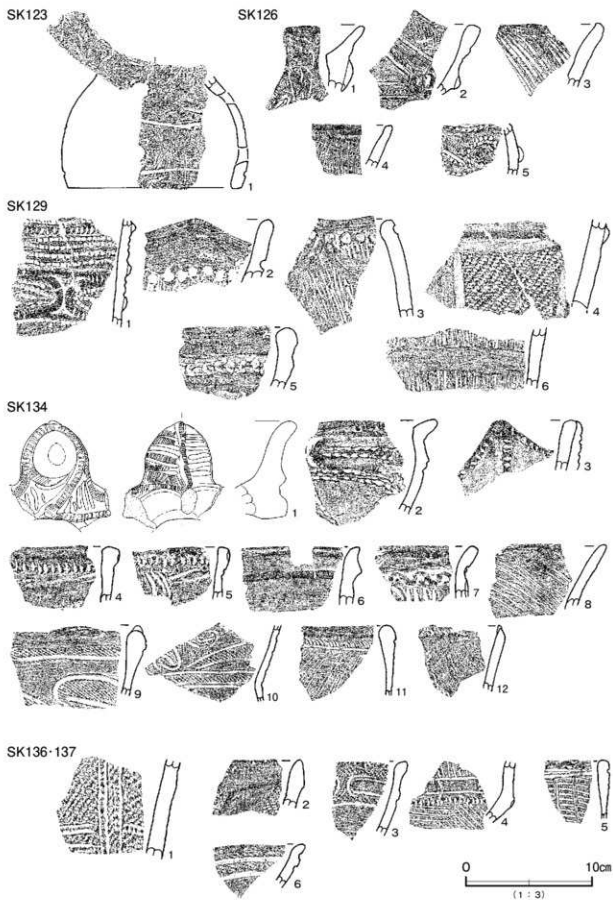
第 248 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (00)



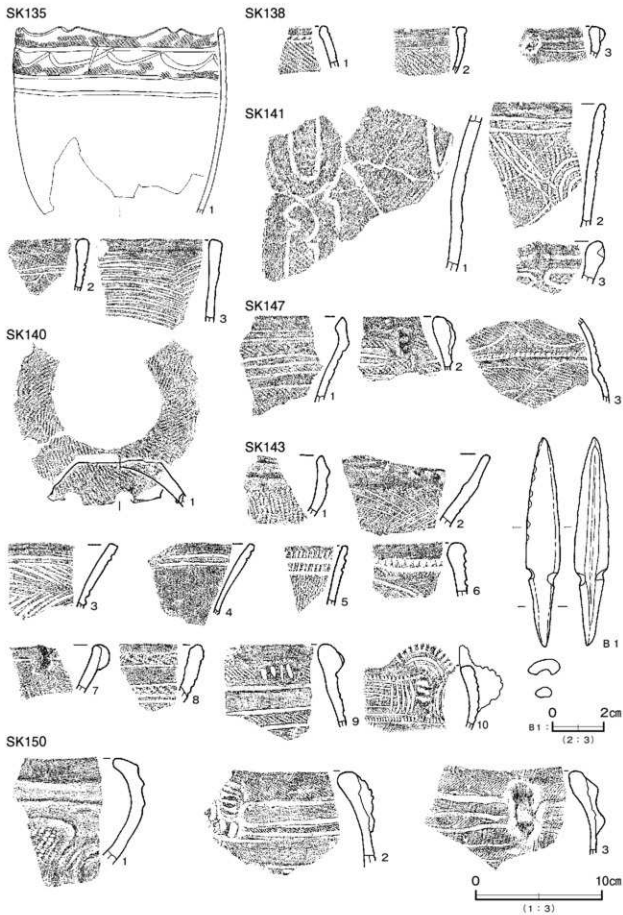
第 249 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (II)



第 250 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 02



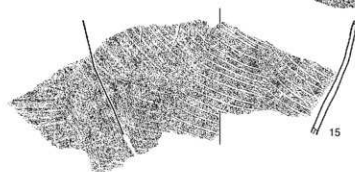
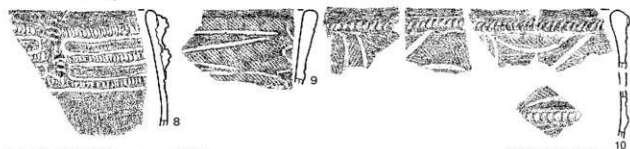
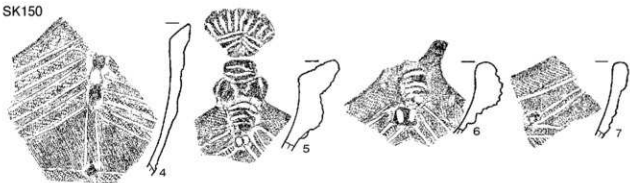
第 251 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 03



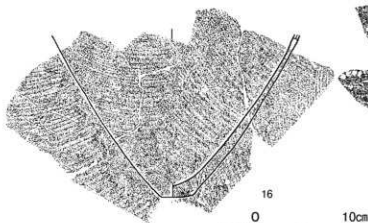
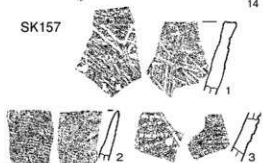
第 252 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 04



SK150



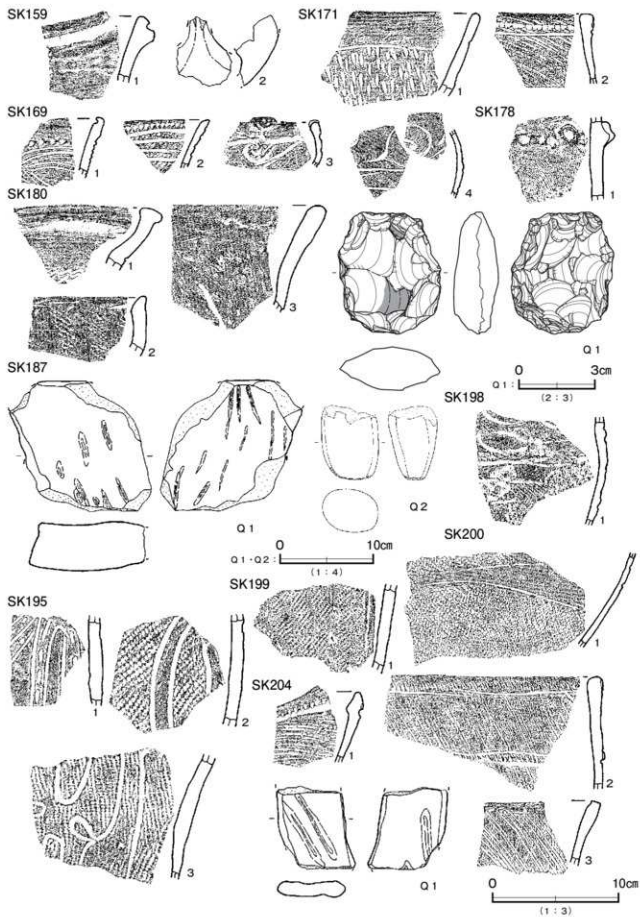
SK157



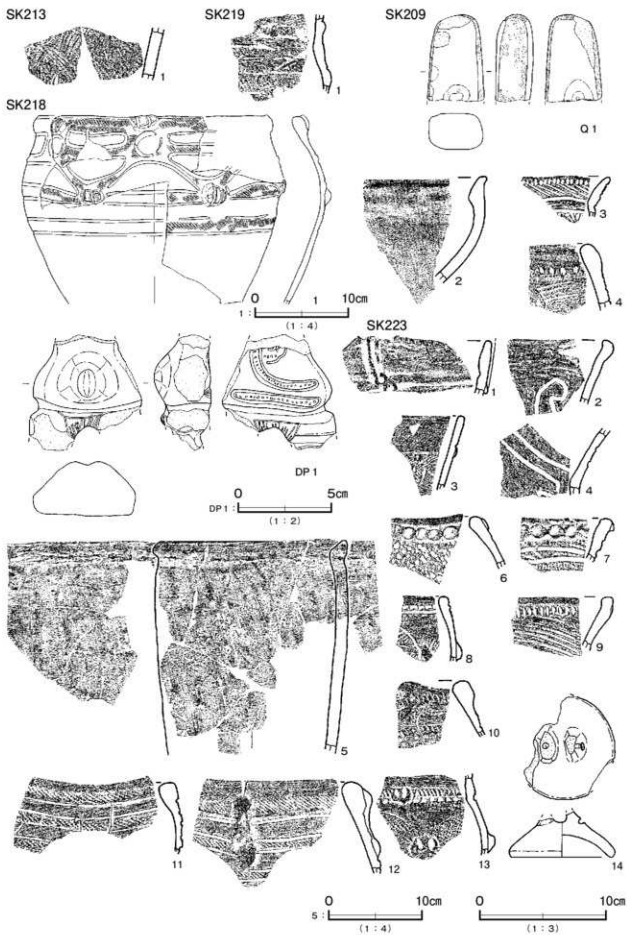
0 10cm  
15・16 : (1 : 4)

0 10cm  
(1 : 3)

第 253 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 05

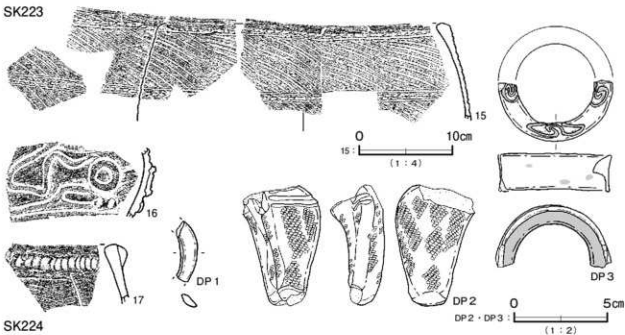


第 254 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (06)

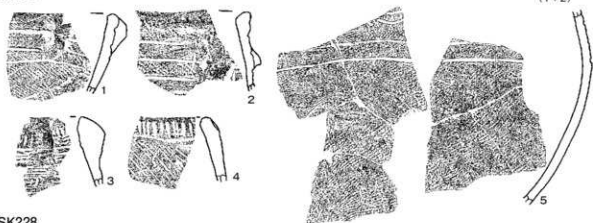


第255図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(17)

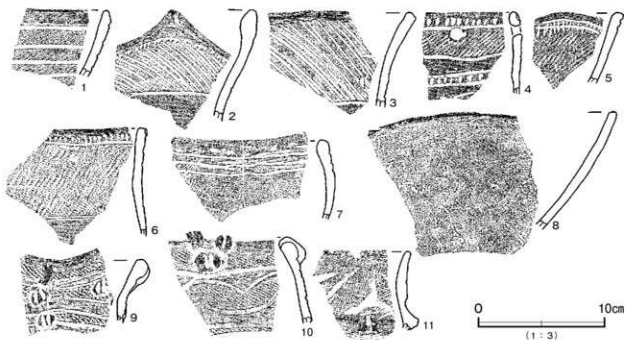
SK223



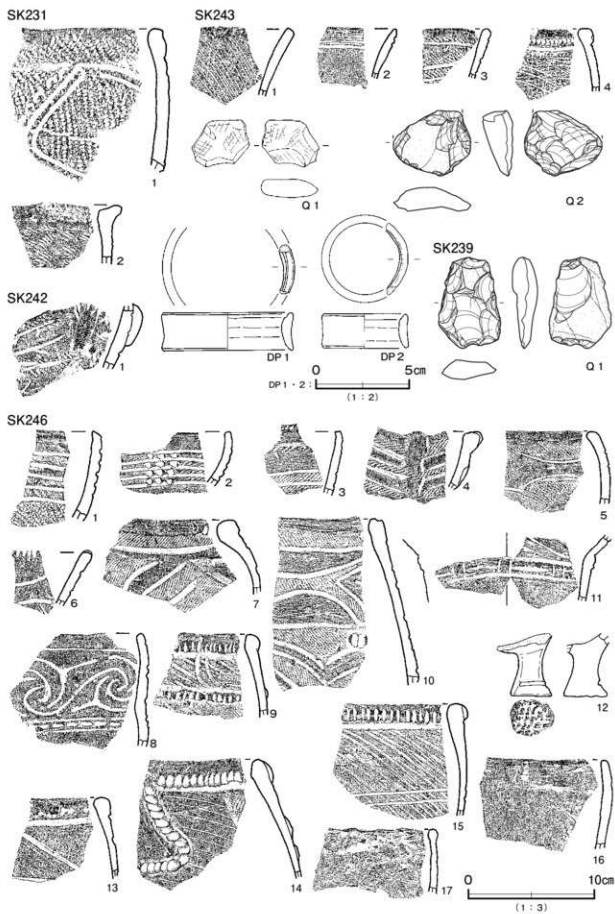
SK224



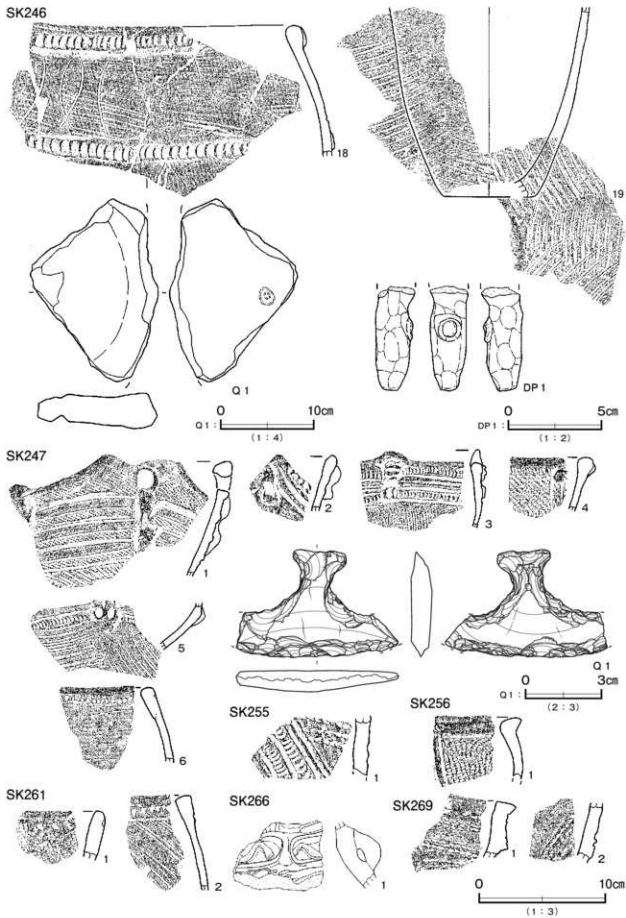
SK228



第256図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(8)

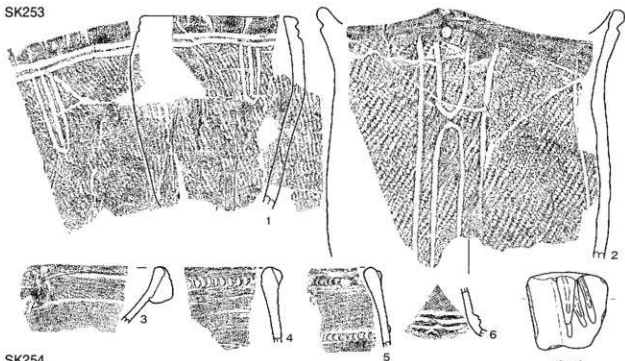


第 257 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (9)

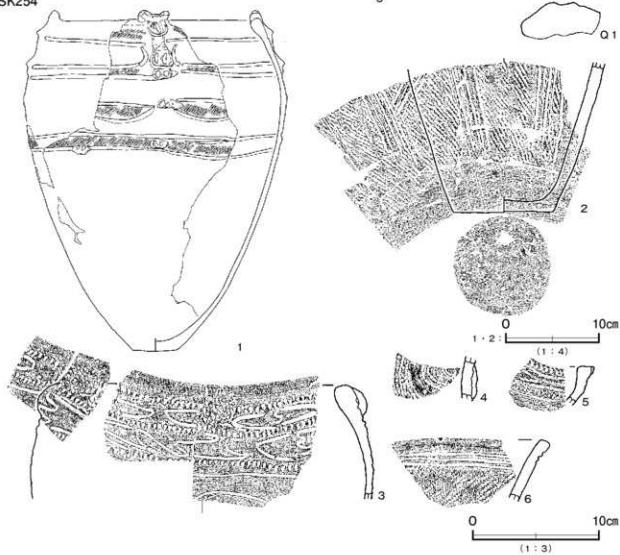


第 258 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図 (2)

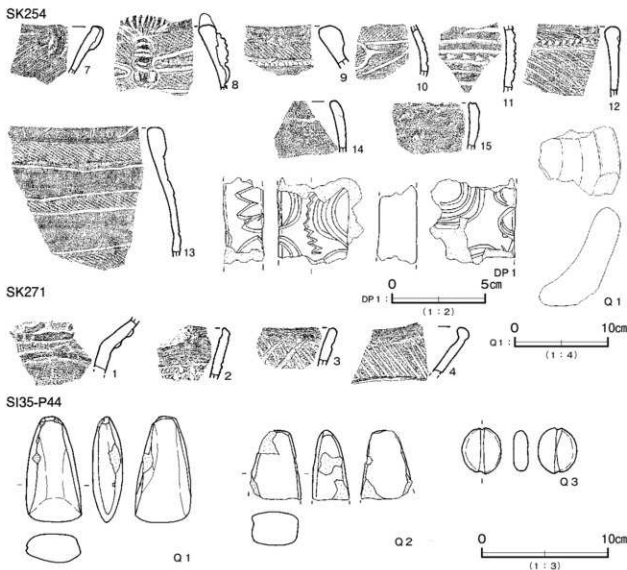
SK253



SK254



第259図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(2)



第260図 縄文時代の土坑出土遺物実測図(22)

## 土坑出土遺物観察表 (第239～260図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法的特徴ほか	出土位置	備考
SK8-10	縄文土器	内付脚	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄緑	普通	外面沈線→筋糸→丸・縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい・焼	普通	外面糸線→付点線・内面粗い磨き	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面磨面杖工具による糸線 内面磨き	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→1段縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 期	普通	外面沈線→1段縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK 9-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい・橙	普通	外面糸線→沈線→口縁部刺突 内面磨き	覆土中	
SK10-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面磨面→段形帯筋沈線・丸・縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明 緑	普通	外面段形帯筋沈線丸・縄文→丸・縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面丸・縄文→口縁部沈線 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 期	普通	口縁部外面刺突文・瘤輪付 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 期	普通	外面地縄文→糸線 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明 緑	普通	外面糸線→口縁部刺突 内面磨き	覆土中	
SK17-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 期	普通	外面段形帯筋2列の舟形文・内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 期	普通	外面糸線→線輪付 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい・黄緑	普通	外・内面ナデ	覆土中	
SK18-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい・橙	普通	外面1段縄文→沈線文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 期	普通	外面沈線→1段縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK18-3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 黒	普通	外・内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 黒	普通	外・内面ナデ	覆土中	
SK19-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 黒	普通	外面縦位の磨き 内面ナデ	覆土中	
SK20-1	縄文土器	深鉢	[192]	[133]	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土下層	20%
2	縄文土器	深鉢	[160]	[130]	-	長石・石英・雲母	暗赤黒	普通	外面L.R.縄文 内面ナデ	覆土下層	10%
3	縄文土器	深鉢	-	(10.5)	-	長石・石英・雲母	明 黒	普通	外面地縄文→L.沈線文 内面粗い磨き	底面	10%
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外・内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤 黒	普通	外・内面磨き	覆土中	
SK20-1	縄文土器	広口壺	[168]	[6.0]	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外面ステップ状入組文 L.線部内面沈線文	覆土下層	10%
2	縄文土器	広口壺	[104]	[3.8]	-	長石・石英・雲母	黒	普通	L.線部外面磨き 内面磨き	覆土上層	10%
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面地縄文→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線彫刻突文 内面ナデ	覆土下層	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線彫刻突文 内面磨き	覆土中層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外面無文部粗い磨き 杵状文 内面磨き	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 黒	普通	外・内面ナデ 外面輪貼付	覆土上層	
9	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤黒	普通	外・内面磨き	覆土上層	
10	縄文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面無文部ナデ 杵状文 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面入組三又文 内面磨き	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒 黒	普通	外面条線→縦線彫付→頭部縦文様 内面ナデ	覆土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面平角竹管状工具による条線 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	外・内面ナデ	覆土上層	
15	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面沈線彫刻突文 内面ナデ	覆土下層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土上層	二次焼成
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中 二次焼成・二次焼成	
SK20-1	縄文土器	深鉢	[244]	[11.7]	-	長石・石英・赤砂子	黒	普通	外面粗粒帯沈線→L.R.縄文→無文部磨き 頭部条線 内面ナデ	覆土中層	20%
2	縄文土器	浅鉢	[178]	[7.4]	-	長石・石英・赤砂子	黒	普通	L.線部外面矢羽状沈線文 無文部磨き 内面磨き	覆土中層	5% PL37
3	縄文土器	壺	-	(10.8)	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	8.7% 7% PL3
4	縄文土器	深鉢	-	(10.2)	4.0	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面条線 底部削代底	覆土中層	20%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面L.R.縄文→凹線 内面磨き	覆土中層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	黒 灰	普通	外面L.R.縄文 内面ナデ	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面J字文 刺突文光頭 内面磨き	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面無筋L.縄文→L.沈線文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面地縄文→格子目文 内面磨き	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	黒 黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中層	
12	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面頭部沈線→斜線文+L.線部彫み 内面磨き	覆土中層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面磨き	覆土中層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	黒 灰	普通	外面地縄文→縦線彫付 内面ナデ	覆土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文+L.線部彫み 内面磨き	覆土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面ナデ	覆土中層	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	橙	普通	外面条線→縦線彫付 内面ナデ	覆土中層	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	黒 黒	普通	外面条線→縦線彫付 内面ナデ	覆土中層	
SK30-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文+L.線部彫み 内面磨き	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文+L.線部彫み 内面磨き	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	橙	普通	外面沈線→L.R.縄文+L.線部彫み 磨き 内面磨き	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄黒	普通	外面隆起帯沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面条線 口唇部彫み 内面磨き	覆土中層	
SK32-1	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	注口部 外・内面ナデ	覆土中層	
2	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英・赤砂子	灰黄黒	普通	縁部J把手部 外・内面ナデ	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤砂子	にぶい黄褐色	普通	外面隆起帯沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面隆起帯沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→L.R.縄文 内面磨き	覆土中層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面三又状入組文 内面ナデ	覆土中層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面縦文様系文様 内面ナデ	覆土中層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面条線→縦線彫付 内面ナデ	覆土中層	
SK33-1	縄文土器	深鉢	[154]	[7.0]	-	長石・石英・赤砂子	黒 黒	普通	外面隆起帯沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	10% 補修片1
2	縄文土器	台付鉢	-	(10.1)	[18.0]	長石・石英・赤砂子	黒 黒	普通	外面隆起帯沈線→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	20%
3	縄文土器	深鉢	[302]	[20.2]	-	長石・石英・赤砂子	暗赤黒	普通	外面条線→縦線彫付 内面磨き	覆土上層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK35-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文 内面ナテ	覆土中	SK33に帰属
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・黒	普通	外面無文部磨き 内面ナテ	覆土中	SK33に帰属
3	陶土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	SK33に帰属
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑・軽石	黒	普通	外面隆起帯輪文→L.R. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	SK33に帰属
SK38-1	陶土器	深鉢	[133]	(81)	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・黒	普通	外面L.R.線部磨きナテ 胴部ナテ 内面ナテ	覆土下層	5%
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	12.5V・黒	普通	外面隆起帯輪文彫形文 内面磨き	覆土上層	
3	陶土器	鉢	[72]	5.6	6.0	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・黒	普通	外面磨きナテ 輪縁面嵌甲形 内面ナテ	覆土下層	40%
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑・軽石	明赤黒	普通	底部突起 内面磨き	底面	
5	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外・内面磨き	覆土下層	
6	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外面隆起帯輪文彫形文 内面磨き	覆土上層	
7	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・黒	普通	外面L.R. 縄文 内面磨き	覆土上層	
SK39-1	陶土器	壺	[135]	(131)	-	灰石・石英	黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 口縁部内面磨き 胴部ナテ	覆土中層	30% PL37
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 灰	普通	外面沈澱→L.R. 縄文 磨削 内面磨き	覆土中	
3	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面隆起帯輪文→L.R. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	土割片内側。
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰 黒	普通	小成形 外・内面ナテ	覆土中	
5	陶土器	台付鉢	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面磨き 内面磨き	覆土中	
6	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面条線→口縁部磨み L.R.線部厚 内面磨き	覆土中	
7	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面条線→付点紋文 内面ナテ	覆土中	
SK40-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面L.R. 縄文→沈澱 内面磨き	覆土中	
3	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面隆起帯輪文→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	
SK41-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	12.5V・黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文 内面ナテ	覆土中	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	
3	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	體	普通	口縁部外面付点紋文 内面ナテ	覆土中	
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面条線 内面ナテ	覆土中	
5	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外面ナテ 内面磨き	覆土中	
SK42-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	體	普通	外面無筋L. 縄文→磨文 内面ナテ	覆土中	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面地縄文→集合沈澱 内面ナテ	覆土中	
3	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文 内面磨き	覆土中	
4	陶土器	台付鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	12.5V・赤黒	普通	外面条線→胴部磨き 内面磨き	覆土中	
5	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面隆起帯輪文→L.R. 縄文 内面磨き	覆土中	
6	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	
7	陶土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
8	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外面磨き 内面ナテ	覆土中	
10	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外面条線 口縁部磨き出し状 内面磨き	覆土中	
SK44-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面L.R. 縄文→隆起帯輪付 内面磨き	覆土下層	
SK48-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→無筋L. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面磨きナテ 内面磨き	覆土中	
3	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文 内面磨き	覆土中	
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	灰 赤	普通	外面L.R.線部一部磨み 内面磨き	覆土中	
SK54-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石	灰 黒	普通	外面磨きナテ 内面ナテ	覆土中	
2	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面磨きナテ 無文部ナテ 内面磨き	覆土中	
3	陶土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面S字状内筋 内面磨き	覆土中	
4	陶土器	壺	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面L.R. 縄文→沈澱 胴部磨き 内面ナテ	覆土上層	
5	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	12.5V・赤黒	普通	外面磨きナテ 内面磨き	覆土中	
6	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	底面	
7	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→無筋L. 縄文→無文部磨き 内面ナテ	覆土中	
8	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面磨きナテ 内面磨き	覆土上層	
9	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰 黒	普通	外面隆起帯輪付→条線→胴部内筋 内面ナテ	覆土上層	
10	陶土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面ナテ 内面磨き	覆土上層	
SK57-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 灰	普通	外面L.R.線部磨きナテ 内面磨き	覆土上層	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文 内面ナテ	覆土中	
3	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面条線 下半部・底部磨き 内面磨き	覆土下層	10%
SK58-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	口縁部外面無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面胴部L.R. 縄文→磨み 内面磨き	覆土中	
3	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面J字文 無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
4	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	12.5V・赤黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
SK63-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	體	普通	口縁部外面隆起帯輪による区画 内面磨き	覆土下層	
SK64-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面隆起帯輪沈澱→L.R. 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	陶土器	壺	-	-	-	灰石・石英	黒	普通	外面沈澱磨削文 内面磨き	覆土中	
SK66-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰・鉄・鉄屑	赤 黒	普通	外面隆起帯輪三角文 内面磨き	覆土中	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面L.R. 縄文→隆起帯輪付→隆起帯輪沈澱 内面磨き	覆土中	
3	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面三叉文。内面ナテ	覆土中	
SK68-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	12.5V・赤黒	普通	外面隆起帯輪内面L.R. 縄文 内面磨き	覆土中	
2	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	12.5V・赤黒	普通	外面隆起帯輪彫文 内面磨き	覆土中	
SK69-1	陶土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	體	普通	外面隆起帯輪沈澱→L.R. 縄文 内面磨き	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK69-2	縄文土器	内付鉢	-	-	-	灰石・石英	褐灰	普通	外面沈線→磨き 内面沈線 磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	甕土中	
SK70-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	灰黒	普通	外面隆起帯角弁文 内面ナデ	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	黒黒	普通	外面隆起帯上に爪形文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR 縄文→沈線磨き消し 内面ナデ	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面隆起帯沈線→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 内面ナデ	甕土中	
6	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	黒黒	普通	外面沈線→前面沈線文突起→磨き 内面ナデ	甕土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線→縦線貼付→帯部区画文 内面ナデ	甕土中	
SK71-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	変状口縁 外面LR 縄文 内面磨き	甕土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	褐	普通	外面LR 縄文→口縁部隆起帯角弁文 内面ナデ	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外面LR 縄文→沈線磨き 内面磨き	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘土	黒黒	普通	外面地縄文→縦線貼付→平截竹管文 内面磨き	甕土中	
SK72-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面磨き文 R 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	注口	-	-	-	灰石・石英	褐灰	普通	把手部 外面磨き	甕土中	
3	縄文土器	注口	-	-	-	灰石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	把手部 外面磨き	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粘土	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
SK73-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	明赤黒	普通	外・内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面LR 縄文→帯部貼付→隆起帯磨きナデ 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	褐灰	普通	外面LR 縄文→帯部文 内面ナデ	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面沈線→LR 縄文 内面ナデ	甕土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR 縄文→平截竹管文による沈線 内面磨き	甕土中	
SK74-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯角弁文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外面に耳状の突起 内面ナデ	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面隆起帯角弁文 内面磨き	甕土中層	
SK75-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面総行沈線 内面磨き	甕土中層	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	甕土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面隆起帯角弁文 内面ナデ	甕土中層	
SK76-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR 縄文 内面磨き 口縁部凹線	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線 内面磨き	甕土中	
SK78-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面無飾L 縄文→凹線 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤黒	普通	外面隆起帯沈線→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
SK79-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部磨き文 内面ナデ	甕土中	二次焼成
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒黒	普通	外面隆起帯角弁文→RL 縄文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面LR 縄文→条線→帯部貼付→帯部区画文 内面磨き	甕土中層	
SK80-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤黒	普通	外面条線→縦線貼付 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面条線 内面ナデ	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外・内面ナデ	甕土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	甕土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	甕土中	
SK84-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	灰黒	普通	外面隆起帯部に隆起帯ナデ 内面ナデ	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面LR 縄文→帯部文 内面ナデ	甕土上層	
SK88-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面口縁部条線のL 縄文→垂下沈線 内面磨き	甕土中	
SK91-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外面隆起帯角弁文→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面無文磨き 内面磨き	甕土中	
SK92-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	(104)	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面RL 縄文→垂下沈線 内面磨き	甕土上層	5%
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面隆起帯角弁文→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
4	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	明赤黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 内面ナデ	甕土中	
5	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外面沈線→LR 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
7	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈線磨き突起 無文磨き 内面磨き	甕土中	
8	縄文土器	手燵	-	-	-	灰石・石英	黒黒	普通	表面ナデ 口縁部に刻み 裏面沈線→LR 縄文	甕土中	
SK98-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部外面沈線と連結沈線 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面格子目文 内面ナデ	甕土中	
SK103-1	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黒	普通	外・内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒黒	普通	外面沈線→RL 縄文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面条線 内面磨き	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	暗	普通	外面隆起帯角弁文→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
5	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈線→RL 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒黒	普通	外面斜線文 内面ナデ	甕土中	
SK102-1	縄文土器	深鉢	-	(209)	82	灰石・石英・赤黒	にぶい褐色	普通	外面RL 縄文→垂下沈線→帯部区画文 内面ナデ 磨きナデ	底面	50%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	赤黒	普通	外面隆起帯角弁文 内面ナデ	甕土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	明赤黒	普通	外・内面ナデ	甕土中	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK1348	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面糸織 内面磨き	甕土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・沈澱磨き	甕土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	外面沈澱→丸. 縄文・沈澱磨き	甕土中層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面糸織→付点線織文 内面ナデ	甕土中	
12	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面付点 口縁部未調整	甕土中	口B類
SK135	縄文土器	深鉢	162	(148)	-	長石・石英・雲母	明 褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 器部内り 内面ナデ	甕土上層	30% P134
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面糸織 内面ナデ	甕土中	
SK136	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文・竹管による乱形文 内面ナデ	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文光磨 内面ナデ	甕土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面ナデ	甕土中	赤彩
4	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面胴部糸織→刷み 内面磨き	甕土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面糸織→口縁部区画沈澱→区画文 内面ナデ	甕土中	
6	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	赤黒	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
SK138	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
SK140	縄文土器	台付鉢	-	(37)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文 透し・孔・空か所 内面ナデ	甕土中	10%
SK141	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文・磨き文 内面ナデ	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文→沈澱文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文→沈澱文 内面磨き	甕土中	
SK143	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文・隆起帯筋磨きナデり 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面矢羽状沈澱文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面横位沈澱→矢羽状沈澱 内面磨き	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外・内面磨き 口唇部に刷み	甕土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・口縁部刷み 内面磨き	甕土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
10	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黒	普通	外面隆起帯筋ナデり 内面磨き	甕土中	
SK147	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面ナデ	甕土中	
SK150	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明 褐色	普通	外面丸. 縄文・隆起帯筋磨きナデり 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤黒	普通	外面刷毛付→隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面ナデ	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面刷毛付→隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面ナデ	甕土中	復付着
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石	褐色	普通	外面刷毛付→隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面ナデ	甕土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面ナデ	甕土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面刷毛付→隆起帯筋沈澱→丸. 縄文・無文磨き 器部内り 内面ナデ	甕土下層	外面復付着
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面糸織→線刷付付→胴部区画文 内面ナデ	甕土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面糸織→付点線織文 内面ナデ	甕土中	
12	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面内り 胴部 内面ナデ 口縁部未調整	甕土中	口B類
13	縄文土器	製塩	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面内り 内面ナデ	甕土中	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面糸織→付点線織文→胴部区画文 内面ナデ	甕土中	
15	縄文土器	深鉢	-	(119)	-	長石・石英・雲母	灰 褐色	普通	外面糸織 内面ナデ	甕土下層	5%
16	縄文土器	深鉢	-	(169)	26	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面糸織 内面・底部ナデ	甕土中	25%
SK157	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面糸織文 口唇部糸帯常任痕文	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面糸織文	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面押引文 内面糸織文	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面押引文 内面糸織文	甕土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面糸織文	甕土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面ナデ 内面糸織文	甕土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面糸織文	甕土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面糸織文	甕土中	
SK159	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	口唇部に沈澱文 内面磨き	甕土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外・内面磨き	甕土中	
SK160	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面半截竹管状工具による沈澱文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面丸. 縄文・丸. 縄文 内面丸. 縄文 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 口唇部刷み 内面磨き	甕土中	
4	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	外面沈澱→丸. 縄文・無文磨き 内面磨き	甕土中	
SK171	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 褐色	普通	外面糸織→付点線織文 内面ナデ	甕土中	
SK178	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	外面刷毛状工具による糸織 内面ナデ	甕土中	
SK180	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 褐色	普通	外面流状沈澱文 内面磨き	甕土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK180-2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面LR焼文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
SK195-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・繊維	黒 灰	普通	外面J字文 無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面LR焼文→磨き文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	明黄褐色	普通	外面LR焼文→磨き文 内面磨き	覆土中	
SK198-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK199-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 普通	普通	外面丸、焼文→磨き文間磨き 内面磨き	覆土中	
SK200-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黄褐色	普通	外面流線→丸、焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
SK204-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面糸線→流線→口縁部削み 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面糸線→付点線文 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	橙	普通	外面斜線文 内面磨き	覆土中	
SK213-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・繊維	にぶい黄褐色	普通	外・内面糸線文	覆土中	
SK218-1	縄文土器	深鉢	[240]	[199]	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	30% PL33
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面口縁部斜線文→流線→磨き→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面糸線→縁線磨き付 内面ナデ	覆土中	
SK219-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK223-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外面C字状貼付文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面J字文 無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面流線→LR焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	深鉢	193	[221]	-	灰石・石英・赤色粒子	赤 黒	普通	外面口縁部磨き 胴部削り 内面ナデ	覆土上層	40% PL33
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面LR焼文→縁線磨き付 内面磨き	覆土下層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面丸、焼文→縁線磨き付 内面磨き	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面流線→LR焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面糸線→口縁部削み 内面ナデ	覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面磨き帯流注線→磨き→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	赤色
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面流線→丸、焼文→磨き 内面ナデ	覆土下層	
14	縄文土器	蓋	78	[266]	-	灰石・石英	橙	普通	外・内面磨き	覆土中	60% PL35
15	縄文土器	深鉢	[276]	[105]	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面糸線→付点線文 内面ナデ	覆土中	10%
16	縄文土器	浅口	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面糸線→縁線磨き付→胴部以流文 内面磨き	覆土中	
SK224-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 普通	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面付点線文 磨き付 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石類	明 普通	普通	外面付点線文 内面ナデ	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面流線→無節L焼文 内面ナデ	覆土中	
SK228-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面流線→LR焼文 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面斜線文→口縁部削み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面糸線→流線→磨き 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰 黒	普通	外面流線→LR焼文→磨き 焼成面穿孔 内面磨き	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面流線→LR焼文→磨き 内面磨き	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面流線→LR焼文→口縁部削み、無文部磨き 内面磨き	覆土中	
7	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石類	灰 普通	普通	口縁部磨き文 内面ナデ	覆土中	
8	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 灰	普通	外面ナデ 内面磨き	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨き帯流注線→丸、焼文 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面流線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
11	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面流線→無節L焼文 内面ナデ	覆土中	
SK231-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 普通	普通	外面丸、焼文→磨き付L焼文→磨き文 内面ナデ	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	暗 黒	普通	外面無節L焼文 内面ナデ	覆土中	
SK242-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面流線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
SK243-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面糸線 内面磨き	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面磨き 口縁部削み 内面磨き	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石類	にぶい黄褐色	普通	外面流線→丸、焼文 内面磨き	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面糸線 口縁部削り出し状に磨き 内面磨き	覆土中	
SK246-1	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面流線→LR焼文 内面磨き	覆土下層	
2	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黄褐色	普通	外面流線→LR焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英	灰黄褐色	普通	外面流線→LR焼文→無文部磨き 口縁部削み 内面磨き	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面磨き帯流注線→LR焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	
5	縄文土器	鉢	-	-	-	灰石・石英	黒 黒	普通	外面流線→丸、焼文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
6	縄文土器	浅鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面口縁部削み 内面磨き	覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・繊維	黒 黒	普通	外面流線→LR焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・角閃石類	灰黄褐色	普通	外面J字状入組文 内面磨き	覆土中層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・繊維	橙	普通	外面糸線→胴部区画文→縁線磨き付 内面ナデ	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰石・石英・赤色粒子	黒 黒	普通	外面流線→丸、焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	[53]	-	灰石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	外面流線→無節L焼文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
SK266-12	縄文土器	脚付鉢	-	-	-	長石・石英	灰 褐	普通	外面磨き 内面ナデ 脚底部削代直	甕土上層	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面部区画文 内面ナデ	甕土下層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線→縦線貼付→頭部区画文 内面ナデ	甕土中層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面条線→縦線貼付→頭部区画文 内面ナデ	甕土中層	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面磨り 内面ナデ	甕土上層	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 普通	普通	外・内面ナデ	甕土中	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面条線→縦線貼付→頭部区画文 内面ナデ	甕土中	
19	縄文土器	深鉢	-	(15.0)	(7.8)	長石・石英・雲母	橙 普通	普通	外面条線 内面ナデ	甕土中	10%
SK247-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面隆起帯流紋→L.R. 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	流紋口縁 外面流紋部;突起 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 普通	普通	外面隆起帯流紋→隆起帯上磨み 内面ナデ	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 普通	普通	外面L.R. 縄文→縦紋貼付→頭部区画文 内面ナデ	甕土中	
5	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外面条線→磨み・縦線貼付 内面磨き	甕土中	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄褐	普通	外面条線→口縁部削突文 内面磨き	甕土中	
SK253-1	縄文土器	深鉢	12.4	(15.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面無文L.R. 縄文→沈文 内面ナデ	甕土中	70% PL33
2	縄文土器	深鉢	[24.5]	(19.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙 普通	普通	外面L.R. 縄文→沈文 内面磨き	甕土上層	20%
3	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面隆起帯上磨み 内面磨き	甕土上層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面縦線貼付→条線 内面ナデ	甕土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面条線→縦線貼付 内面ナデ	甕土上層	
6	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	褐 灰	普通	外面沈線→L.R. 縄文 内面磨き	甕土上層	
SK254-1	縄文土器	深鉢	[21.2]	36.0	4.6	長石・石英	灰黄褐	普通	外面隆起帯流紋→L.R. 縄文→無文磨き 脚底磨り 内面ナデ	甕土下層	集約 9% PL32
2	縄文土器	深鉢	-	(15.5)	10.4	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面L.R. 縄文→手取竹管文による沈文 内面磨き 底磨き 脚底ナデ	甕土上層	内部 30%
3	縄文土器	深鉢	[22.4]	(9.1)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面隆起帯状の沈文 内面ナデ	甕土上層	10%
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面隆起帯流紋2列の角押文 内面ナデ	甕土上層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 橙	普通	口縁部文様帯上磨み 内面磨き	甕土上層	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 普通	普通	外面沈線→L.R. 縄文 内面磨き	甕土上層	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面磨き→条線 内面磨き	甕土上層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面隆起帯流紋→L.R. 縄文→無文磨き 内面ナデ	甕土上層	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面隆起帯流紋→L.R. 縄文→無文磨き 内面ナデ	底面	
10	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→L.R. 縄文→無文磨き 内面ナデ	甕土上層	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙 普通	普通	外面無文磨き 内面磨き	甕土上層	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	甕土底面	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面隆起帯流紋→L.R. 縄文→無文磨き 内面ナデ	甕土上層	
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 普通	普通	外面磨り 内面ナデ	甕土上層	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外・内面ナデ	甕土上層	製盤土器。
SK255-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面爪形文・三角文 内面磨き	甕土中	
SK256-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明 橙	普通	外面L.R. 縄文→手取竹管文による沈文 内面磨き	甕土中	
SK261-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口縁部外面に削突文 L.R. 縄文 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙 普通	普通	外面条線→付点縦線文 内面ナデ	甕土中	
SK266-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・雲母	黒 普通	普通	外面隆起帯による波状文 内面ナデ	甕土中	
SK269-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙 普通	普通	外面2列の角押文 内面ナデ	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	外面隆起帯流紋2列の角押文 内面ナデ	甕土中	
SK271-1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙 普通	普通	外面無文文R→隆起帯貼付 内面磨き	甕土中	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 褐	普通	外面沈線→L.R. 縄文→無文磨き 内面磨き	甕土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙 普通	普通	外面斜格子目文 内面磨き	甕土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐 灰	普通	外面縦線文→沈線文 内面ナデ	甕土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	備考	出土位置	備考
SK8-DP1	耳飾り	径7.1	-	2.1	54.6	長石・石英・雲母	黒 褐	滑車型 外面ナデ磨き		底面	5/2 類 PL42
SK26-DP1	土 鏡	(5.8)	(2.7)	(2.0)	(24.7)	長石・石英	にぶい・橙	山形土鏡脚部 裏面に無鉛L. 縄文		甕土下層	24 類
SK54-DP1	土 鏡	(11.1)	(8.3)	(4.6)	(19.7)	長石・石英・角閃石類	にぶい・橙	中学土鏡脚部 既. 縄文施文		甕土下層	5a 類 PL40
DP2	土 鏡	(6.4)	(8.7)	(1.4)	(80.0)	長石・石英・角閃石類	にぶい・橙	中学土鏡脚部 既. 縄文 ボタン状の貼付文		甕土中	3 類 1 類 1 類
SK25-DP1	土 鏡	(5.6)	(2.1)	(2.6)	(35.6)	長石・石英・赤色粒子	褐 灰	ミエズク土鏡脚部 L.R. 縄文		甕土中	34 類
SK28-DP1	土 鏡	(6.1)	(6.0)	3.0	(82.7)	長石・石英・赤色粒子	橙	山形土鏡脚部		甕土中	2a 類
SK29-DP1	貝輪状	(5.8)	1.4	1.0	(6.0)	長石・石英	橙	ナデ磨き		甕土中	
DP3	土 鏡	(6.4)	4.2	2.8	(46.4)	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	ミエズク土鏡脚部 沈線→L.R. 縄文		甕土中	3d 類
DP1	耳飾り	径6.0	-	1.9	(15.5)	長石・石英	黒 灰	入組銀文 磨き調整 赤彩		甕土下層	5/2 類 PL42
SK30-DP1	耳飾り	径(7.0)	-	2.0	(3.6)	長石・石英	褐 灰	瘤状 磨き磨き		甕土中	V 類
DP2	耳飾り	径(4.6)	-	1.8	(4.0)	長石・石英	暗赤褐	瘤状 磨き磨き		甕土中	V 類
SK26-DP1	土 鏡	(5.4)	2.1	2.0	(23.8)	長石・石英・雲母	にぶい・橙	山形土鏡脚部 ナデ磨き		甕土上層	2d 類
SK24-DP1	土 鏡	(4.6)	(4.6)	(2.2)	(49.3)	長石・石英	にぶい・橙	銀銀文施文		甕土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	備考	出土位置	備考	
SK143-D1	骨 釧	8.3	1.3	0.6	5.89	シカ中骨	両側面に抉りを入れた基部加工 一側面に潤滑		甕土下層	PL48	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
SK32-Q1	磨製石斧	(9.5)	(5.0)	(2.7)	(29.7)	閃緑岩	定角式 頭部欠損	覆土中	
SK33-Q1	石皿類	(18.4)	(14.4)	(7.7)	(204.0)	黒雲母花崗岩	表裏面に磨り痕、内側	覆土上層 246	PL46
Q2	玉 類	径1.1	-	0.9	1.5	緑色岩	小玉 片面穿孔	覆土中層	PL46
SK4-Q1	砥 石	(4.6)	(6.3)	(2.6)	(85.9)	砂 岩	表面に2条の有溝研磨痕	覆土中	1層 PL48
SK35-Q1	石 皿	(1.49)	1.64	0.54	(0.8)	黒曜石	平底	底面	
SK37-Q1	石 皿	(1.18)	(2.16)	0.54	(1.2)	黒曜石	凹蓋	覆土中	
SK115-Q1	砥 石	(7.6)	(5.5)	1.9	(93.5)	砂 岩	表面に1条の有溝研磨痕	覆土中	1層
Q2	磨石類	(8.6)	7.9	5.5	(89.0)	火山輝綠灰岩	自然産の先端部に敲打痕	覆土中	4a類
SK12-Q1	石皿類	(13.7)	(9.9)	6.1	(58.8)	安山岩	表裏面磨り面 表面に凹痕	底面	2類
SK180-Q1	石 皿	4.85	4.08	1.79	34.7	凝灰岩	未成品 表面に磨痕あり	覆土中	
SK187-Q1	石皿類	(13.7)	(15.0)	5.3	(185.8)	黒雲母花崗岩	表面に磨り面と溝状の研磨痕 表面に溝状の研磨痕	覆土中	3類
Q2	磨石類	(7.8)	6.1	5.3	(37.5)	輝石安山岩	側面に磨り痕 下部部に敲打痕	覆土中	2a類
SK204-Q1	砥 石	(6.6)	(6.3)	(1.2)	(61.9)	砂 岩	表面に2条の有溝研磨痕	覆土中	1層
SK209-Q1	磨石類	(6.9)	4.5	(3.0)	(48.9)	砂 岩	表裏面に凹状の敲打痕 周縁敲打痕	覆土中	3b類
SK234-Q1	打製石斧	7.25	4.95	2.02	64.7	頁 岩	楕形 未成品の可能性あり	覆土中	SE54P2 埋戻
SK243-Q1	砥 石	3.7	4.6	1.5	29.0	砂 岩	表裏面磨痕	覆土中	4類
Q2	打製石斧	(5.2)	6.2	2.4	(68.4)	頁 岩	分銅形 2/3を欠損	覆土中	
SK296-Q1	石皿類	(19.1)	(13.3)	3.7	(106.9)	黒雲母片岩	表裏面磨り痕 表面に凹状の敲打痕	覆土中	2類
SK247-Q1	石 匙	4.3	(6.5)	0.7	(18.1)	ガラス質安山岩	両面磨りによる刃部加工	覆土中層	
SK253-Q1	砥 石	(6.2)	(6.5)	(2.9)	(32.5)	砂 岩	表面に数条の有溝研磨痕 表面磨痕	覆土中	1層
SK254-Q1	石皿類	(7.4)	(8.5)	(10.4)	(50.1)	黒雲母花崗岩	表裏面に磨り痕	覆土中	1層
SK594-Q1	磨製石斧	8.3	4.3	2.4	126.8	蛇紋岩	定角式	覆土中	2a類 PL46
Q2	磨製石斧	(5.5)	(4.0)	3.0	(97.7)	ドレライト	定角式 刃部欠損	覆土中	
Q3	石 鉢	3.6	3.1	1.1	21.8	輝石デイスサイト	有溝	覆土中	1層

表3 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×幅径 (m) (容積: 開口部係数×長さ×幅径)	深さ (m)						
1	C 6 a5	-	不整形円形	1.72 × 1.68	28	凹凸	外傾	人為	縄文土器 606 (10.4kg)、土器片内腹1、砥石1、石杖4 (チャート)	後期後葉 - 晩期前葉	HG2-1, S13 → 本跡
2	B 6 j5	-	[楕円形]	1.10 × (1.00)	105	有段	直立	自然	縄文土器 411 (334kg)、石杖1 (黒曜石)、土器片2 (チャート・黒曜石)	安行1式	HG2-1, S13 → 本跡
4	B 6 i9	-	[円形・楕円形]	1.28 × (0.72)	90	平坦	内傾	人為	-	中期	本跡 → SK96, SK168
5	B 6 j9	N - 80° - E	楕円形	2.05 × 1.74 2.25 × 1.98	156	平坦	内傾	自然	縄文土器 118 (334kg)、磨石類1	阿玉台方式	本跡 → SK39, HG2
6	C 6 a6	N - 80° - W	楕円形	0.82 × 0.70	38	起伏	外傾	自然	縄文土器 220 (306kg)、土器片内腹1、磨石1、焼成粘土塊1、土器片1 (磨石)	安行1式	SK33 → S18 + 13, HG2-1 → 本跡
8	C 6 a6	N - 27° - E	[楕円形]	(2.58) × 0.74	28	平坦	外傾	人為	縄文土器 404 (6.2kg)、耳飾1、土器片、打製石斧1、磨石類1、砥石1、石杖7 (チャート3、黒曜石1)、土器片3 (チャート)	安行1式・安行2式	S18 + 13, SK33 + 39 + 143, HG2-1 → 本跡
9	C 6 i7	-	[円形・楕円形]	0.84 × (0.56)	117	起伏	外傾	自然	縄文土器 20 (0.22kg)	後期前葉 - 中葉	本跡 → SK3
10	C 6 i7	-	[円形・楕円形]	0.68 × (0.52)	40	平坦	外傾	人為	縄文土器 71 (1.07kg)、耳飾1	後期後葉	本跡 → SK3
12	C 6 a5	N - 10° - E	楕円形	0.80 × 0.64	35	凹凸	外傾	人為	縄文土器 20 (0.26Kg)	縄文	本跡 → SK13
17	C 6 a4	N - 75° - W	楕円形	1.16 × 0.76	42	平坦	外傾	人為	縄文土器 25 (0.18kg)、磨石類1、砥石1	中期 - 後期	
18	C 6 i5	N - 40° - W	楕円形	0.98 × 0.64	38	起伏	傾斜	自然	縄文土器 58 (0.91kg)、磨石類1、土器片1 (チャート)	晩期前葉	S17 との新旧不明
19	C 6 i6	N - 88° - W	楕円形	1.60 × 0.98	28	起伏	外傾	自然	縄文土器 7 (0.13kg)	中期後葉 - 後期前葉	本跡 → S112・32
24	C 6 i3	N - 16° - E	不整形楕円形	2.08 × 1.46	28	起伏	傾斜	人為	縄文土器 44 (0.73kg)、焼成粘土塊1	阿玉台方式	本跡 → S11・4・7・55
26	C 6 i4	N - 7° - W	楕円形	1.32 × 1.16	96	平坦	外傾	人為	縄文土器 608 (9.32kg)、土器片内腹1、土器片内腹2、砥石1	安行3式	本跡 → S11, S11, S17 との新旧不明
28	C 6 i7	N - 2° - W	楕円形	1.02 × 0.84	122	平坦	直立	人為	縄文土器 138 (253kg)、土器片2 (黒曜石)、頁岩・骨片、製塩土器1	S132 → 本跡 → SD4 S35 との新旧不明	
29	B 6 j2	-	円形	1.22 × 1.18	66	平坦	直立	人為	縄文土器 164 (253kg)、焼成粘土塊1	安行1式	小ピット S119 → 本跡 → S15
30	B 6 j4	N - 46° - W	楕円形	0.74 × 0.64	70	平坦	直立	人為	縄文土器 54 (0.67kg)	後期前葉 - 後葉	ピット状 S13 との新旧不明
31	B 6 i6	N - 56° - E	楕円形	0.94 × 0.72	91	起伏	直立	-	縄文土器 10 (0.19kg)	縄文	S18 との新旧不明
32	B 6 i6	N - 60° - E	楕円形	1.30 × 1.02	62	平坦	外傾	人為	縄文土器 338 (3.36kg)、磨石類1、磨石類1、土器片1 (黒曜石)、骨片1	安行3 a式	S156 ~ 58 との新旧不明
33	C 6 a6	N - 4° - E	楕円形	1.88 × 1.44 1.92 × 1.66	123	平坦	直立	内傾	縄文土器 242 (391kg)、耳飾1、焼成粘土塊1、石筒類1、土器片1、骨片1 (黒曜石)、骨片1	阿玉台方式	本跡 → S18 → SK6・39 SK143 との新旧不明 側面下部に埋戻土塊と重畳
34	B 6 j2	N - 4° - E	楕円形	1.12 × 1.00	182	平坦	直立	人為	縄文土器 250 (321kg)、製塩土器1	安行3 b式	S16・36 → 本跡
36	C 6 i3	N - 2° - W	楕円形	1.16 × 0.84	34	平坦	外傾	-	-	-	S15 床面で確認



番号	位置	長径方向	平面形	規 規		定 画	測 量	土 質	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径 (m) (形状・開口寸法 最大径)	深さ (cm)						
38	C 6 4	-	[円形・楕円形]	(2.58 × 1.72)	26	楕状	傾斜	人為	縄文土器 82 (1.58kg)、磨石類 2 R.F.1、銅片 1 (厚板石)	阿玉台型一 口式	SI14 床面で確認 本跡 →SI4
39	C 6 a 6	-	[円形]	0.86 × (0.80)	76	平坦	外傾	人為	縄文土器 256 (3.04kg)	安行 3 a 式	SK33・143 → S18 → 本跡
40	B 6 2	N-88°-E	[楕円形]	(0.85) × 1.22	25	平坦	外傾	自然	縄文土器 207 (2.93kg)、銀珠土器	後期中華 後葉	本跡 → S16 S130 との新田不明
41	C 6 0 7	-	円形	1.00 × 0.95	35	平坦	外傾	自然	縄文土器 63 (1.57kg)、磨石類 1	後期後葉 - 後期前葉	SK32、SK42 との新田不明
42	C 6 0 7	-	円形	1.42 × 1.35	32	平坦	外傾	人為	縄文土器 85 (1.20kg)	後期後葉 - 後期前葉	SK32、SK41 との新田不明
44	C 6 0 9	N-4°-E	楕円形	0.78 × 0.48	20	平坦	外傾	自然	縄文土器 6 (0.94kg)	加賀河 E 1 式	小ビット 1 SI43 → 本跡 → 第 1 号遺物 集平地点
45	B 6 b 2	-	円形	1.12 × 1.06	92	平坦	直立	人為	縄文土器 251 (4.23kg) 磨石類 4、銅片 2 (チヤート)	安行 3 b 式	小ビット 1 SI43 → 本跡 → 第 1 号遺物 集平地点
46	C 6 c 3	N-16°-W	[楕円形]	(0.44 × 0.40)	28	平坦	外傾	自然	縄文土器 4 (0.08kg)、石皿類 1	晩期	SI1 との新田不明
48	B 6 2	N-45°-E	楕円形	0.74 × 0.54	98	平坦	直立	-	縄文土器 18 (0.48kg)	称名寺式 曾付式	
49	C 6 c 3	N-23°-W	楕円形	2.21 × 1.38	30	平坦	外傾	自然	縄文土器 54 (0.88kg)、RF1、銅 片 1 (チヤート)	晩期	小ビット 2
54	C 4 6 3	N-89°-W	楕円形	1.84 × 1.30	20	平坦	傾斜	自然	縄文土器 219 (2.79kg)、土質 1、 土器 1	後期中華	SK25・30 → 本跡
35	C 4 a 2	N-5°-W	楕円形	1.19 × 0.89	27	楕状	外傾	人為	縄文土器 41 (0.88kg)、石皿 1	後期前葉 - 中葉	
37	C 4 1	N-3°-E	楕円形	1.14 × 0.90	45	楕状	直立	人為	縄文土器 209 (2.63kg)、石皿 1、 磨石類 1、磨石類 1、石皿類 1、 土器 1、銅片 1	後期中華 - 後葉	小ビット 1 SI24・27 → 本跡 SK29 との新田不明
38	C 4 2	N-5°-W	[楕円形]	1.47 × (1.12)	24	平坦	外傾	人為	縄文土器 182 (2.31kg)、磨石類 1	後期前葉 - 中葉	SI29 → 本跡 SK65 との新田不明
39	C 4 g 2	-	円形	0.45 × 0.42	13	楕状	傾斜	人為	縄文土器 4 (0.06kg)	縄文	
63	C 3 e 0	N-10°-E	楕円形	1.38 × 0.93	72	傾斜	外傾	人為	縄文土器 11 (0.22kg)	中期	SI24 との新田不明
64	C 4 e 1	-	[楕円形]	(2.70 × 0.96)	8	傾斜	傾斜	人為	縄文土器 18 (0.23kg)	縄文	SI24 との新田不明
65	C 4 2	N-4°-E	[楕円形]	(2.18 × 1.65)	24	平坦	傾斜	人為	縄文土器 32 (0.69kg)、銅片 1 (チヤート)	中期 - 後期 前葉	SI29、SK58・71・72・88 との新田不明
66	C 4 g 1	-	円形	0.82 × 0.75	34	楕状	外傾	人為	縄文土器 24、銅片 1 (チヤート)	中期 - 後期 前葉	
67	C 3 a 0	N-28°-W	楕円形	1.34 × 0.90	20	平坦	外傾	人為	縄文土器 47 (0.93kg)	中期 - 後期 前葉	
68	C 3 g 9	-	[円形]	(0.54 × 0.32)	28	楕状	外傾	人為	縄文土器 63 (1.17kg)	中期後葉、	SK59 → 本跡
69	C 3 a 9	N-40°-W	[楕円形]	(1.00 × 1.64)	36	円凸	傾斜	人為	縄文土器 74 (0.83kg)、耳飾 1	後期後葉、	本跡 → SK68 SK70 との新田不明
70	C 3 g 9	-	円形	1.48 × 1.38	110	平坦	直立	人為	縄文土器 344 (6.07kg)、土質 1、 土器 1、磨石類 1、磨石類 1、石皿類 1、 土器 1、銅片 1 (チヤート)、 土器 1	後期 - 晩期	SK82 → 本跡 SK69 との新田不明
71	C 4 2	N-55°-W	楕円形	0.90 × 0.76	34	楕状	傾斜	人為	縄文土器 73 (1.03kg)	中期 - 後期 前葉	SK88 → 本跡 SK65 との新田不明
72	C 4 2	N-32°-W	楕円形	0.86 × 0.56	36	楕状	傾斜	人為	縄文土器 31 (0.69kg)、石皿 1、 土器 1	中期 - 後期 前葉	SK88 → 本跡
73	C 3 g 8	-	円形	1.33 × 1.22	55	楕状	外傾	人為	縄文土器 18 (1.46kg)、土器 1 銅片 1	中期後半 - 後期前葉	SK84 → 本跡
74	C 4 3	N-69°-E	[楕円形]	(2.23 × 1.40)	90	平坦	外傾	人為	縄文土器 40 (1.52kg)	阿玉台型一 口式	本跡 → 第 1 号粘土探掘坑
75	C 4 4	N-30°-W	楕円形	1.99 × 1.54	60	平坦	外傾	人為	縄文土器 39 (0.84kg)、磨石類 1、 石皿 1 (チヤート)	本跡 → 第 1 号粘土探掘坑	
76	C 4 c 3	N-52°-W	楕円形	1.94 × 1.52	28	平坦	外傾	人為	縄文土器 35 (0.53kg)	後期前葉 - 中葉	本跡 → 第 1 号粘土探掘坑
77	C 4 e 1	N-32°-W	[楕円形]	3.38 × (0.96)	44	傾斜	外傾	人為	縄文土器 12 (0.54kg)	中期 - 後期	本跡 → HG1
78	C 4 c 3	-	[不整形丸方形]	1.92 × (1.75)	77	傾斜	円凸	人為	縄文土器 83 (1.05kg)、石皿 1 (チヤート)、銅片 1 (チヤート)	中期 - 後期	本跡 → SK79 → 第 1 号粘土 探掘坑
79	C 4 c 3	N-45°-W	楕円形	1.94 × 1.09	62	傾斜	傾斜	人為	縄文土器 88 (1.33kg)、磨石類 2、 銅片 1 (チヤート)	後期後葉、	SK78 → 本跡
80	C 4 0 4	-	円形	(1.10) × 1.10	43	平坦	外傾	人為	縄文土器 26 (1.29kg)、石皿 1 (チヤート)、銅片 1 (チヤート)	後期中華	SI22 との新田不明
82	C 3 g 9	-	[円形]	1.60 × (1.40)	62	傾斜	外傾	人為	縄文土器 4 (0.31kg)	中期	SK83 → 本跡 → SK70
83	C 3 g 9	N-85°-E	[楕円形]	(1.76) × 1.94	54	傾斜	外傾	人為	縄文土器 57 (0.70kg)、銅片 4 (チヤート)、骨片	中期後半 - 後期前葉	SK84 → 本跡 → SK82
84	C 3 g 8	N-57°-E	[不整形楕円形]	4.04 × (2.00)	33	平坦	外傾	人為	縄文土器 84 (1.83kg)、磨石類 1、 磨石類 1、骨片	中期前葉 - 後期前葉	本跡 → SK73・83 SK83 との新田不明
85	C 4 e 1	N-8°-W	[楕円形]	(3.20 × 1.52)	39	平坦	外傾	人為	縄文土器 104 (1.13kg)、椎状 1、 磨石類 1、RF1	中期前葉 - 後期前葉	SK91 → 本跡、SI24 との 新田不明
88	C 4 2	N-32°-E	[楕円形]	(0.70 × 0.50)	32	平坦	傾斜	人為	縄文土器 4 (0.54kg)、骨片	縄文	小ビット 2 本跡 → SK71・72 SK63 との新田不明
89	C 4 3	N-15°-W	[楕円形]	(0.80) × 0.92	60	平坦	直立	人為	縄文土器 19 (0.16kg)	中期	SK30 との新田不明
91	C 4 e 1	N-43°-W	[楕円形]	(1.45) × 0.76	44	平坦	外傾	人為	縄文土器 45 (0.50kg)、骨片	後期	本跡 → SK85
92	C 3 g 0	N-42°-W	[楕円形]	1.82 × (1.20)	84	有段	外傾	人為	縄文土器 623 (10.21kg)、磨石類 3、石皿類 3、磨石類 1、石皿 4 (チヤート 3・厚板石 1)、銅片 3 (チヤート 2・厚板石 1)	中期後半 後期後葉 - 晩期前葉	本跡 → SI27
93	C 3 g 8	N-0°	[楕円形]	(0.68) × 0.62	46	楕状	直立	人為	縄文土器 20 (0.25kg)、銅片 1 (チヤート)	中期後半 - 後期前葉	SK84 との新田不明
94	C 7 0 7	N-88°-E	楕円形	1.70 × 1.37	47	楕状	傾斜	人為	縄文土器 37 (0.38kg)、骨片	縄文	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	断面	土質	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m) (形状: 開口部は楕円形)	高さ (cm)						
98	C 7 6	-	円形	1.28 × 1.25	104	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 44 (0.65kg)	後期前葉	
99	C 7 43	N-18°-W	[楕円形]	1.36 × (0.84)	38	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 12 (0.32kg)	後期前葉	SK210 → 本跡 → SK159 S60との新旧不明
100	C 7 15	-	[円形]	(0.88) × 0.86	34	平坦	直立	自然	縄文土器 8 (0.13kg)	中期後半- 後期前葉	
102	C 6 68	N-42°-E	[楕円形]	(0.72) × 1.00	15	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 28 (0.92kg)、砥石 1、 磨製石器 2	加賀利E1式	SI16 との新旧不明
103	C 6 48	N-25°-E	楕円形	0.88 × 0.68	76	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 32 (0.44kg)	中期前葉- 後葉	SK104 → 本跡 SI18 との新旧不明
104	C 6 48	N-2°-W	[楕円形]	0.87 × (0.55)	70	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 20 (0.78kg)	後期前葉- 後葉	本跡 → SK103 SI18 との新旧不明
105	C 6 68	N-86°-E	楕円形	1.66 × 1.06	161	平坦	直立	人瓦	縄文土器 408 (9.49kg)、土器 1、 貝類 1、石皿類 1、磨 1、滑片 5 (チャート)、貝類、骨片	安行 3 ヶ月 安行 3 ヶ月	SI18・35 との新旧不明
106	C 6 68	N-80°-W	楕円形	0.98 × 0.76	51	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 85 (1.02kg)	大洲 C1 式	SK108 → 本跡 SI18・35 との新旧不明
107	C 6 68	N-73°-E	[楕円形]	(0.77) × 0.76	69	傾伏	直立	自然	縄文土器 15 (0.65kg)	晩期前葉- 中葉	SI18・35、SK108・110 との 新旧不明
108	C 6 68	N-30°-W	[楕円形]	(0.54 × 0.36)	30	平坦	外傾	自然	縄文土器 42 (0.53kg)	後期前葉- 中葉	SI18・35、SK107・109 との 新旧不明
109	C 6 68	N-28°-E	楕円形	0.70 × 0.62	34	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 34 (0.28kg)	縄文	SI18 → 本跡 SI33、SK108 との新旧不明
110	C 6 68	N-55°-W	[楕円形]	(0.83) × 0.61	22	平坦	外傾	自然	縄文土器 9 (0.12kg)	縄文	本跡 → SK111 SI18・35、SK109 との新旧不明
111	C 6 68	N-38°-E	楕円形	0.72 × 0.56	36	平坦	外傾	自然	縄文土器 41 (0.52kg)	縄文	SI18、SK110 → 本跡 SI35 との新旧不明
112	B 6 13	N-11°-W	楕円形	1.12 × 1.00	50	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 166 (2.66kg)、磨製石 器 1、磨製土器 3	後期	SI36 → 本跡 → 第 1 号遺物 集中心点
113	B 6 15	N-5°-W	楕円形	1.56 × 1.06	118	平坦	外傾 直立	人瓦	縄文土器 7 (0.06kg)、磨石 1	早期前葉	期 5 次、本跡 → SI37、UP1
115	C 6 47	-	[円形]	2.14 × (2.04)	35	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 306 (4.79kg)、土器 1、 貝類 1、貝殻 1、磨石 1、 石皿類 2、砥石 1、発泡体 1、 骨片	安行 1 年 小ビレット 2	SI41 → 本跡 → SK121、 HG2
116	C 6 48	N-38°-E	不整楕円形	1.26 × 0.96	14	凹凸	緩斜	人瓦	縄文土器 16 (0.17kg)	後期後葉	SI35 → 本跡
118	B 6 17	N-88°-E	不整円形	0.80 × 0.80	70	有段	外傾	自然	縄文土器 216 (2.74kg)、滑片 2 (チャート、頁岩)、磨製土器 1	後期	SI41 → SK119 → 本跡 → SK121、PG7
119	B 6 17	N-32°-W	楕円形	1.65 × 0.88	34	傾伏	外傾	人瓦	縄文土器 278 (5.39kg)、滑片 4 (チャート 2、黒曜石 2)、骨片	後期	SI41 → 本跡 → SK118、PG7
120	C 6 48	N-62°-E	[楕円形]	1.48 × (0.30)	34	傾伏	外傾	自然	縄文土器 35 (1.12kg)	後期	SI41 → 本跡 → PG7
121	C 6 47	N-1°-W	不整丸方形	(1.60) × 2.70	14	平坦	緩斜	-	縄文土器 638 (10.05kg)、土器 1、 白磁土 1、貝殻 1、磨石 1、石皿 類 1、砥石 1、骨片 6 (チャート 3、黒曜石 3)、骨片	曾谷 - 安行 1 式	SI41、SK115・118 → 本跡
122	C 6 48	N-65°-E	楕円形	0.75 × 0.63	45	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 12 (3.18kg)	曾谷式	SI16 → 本跡
123	C 6 69	-	[円形]	1.00 × (0.46)	58	平坦	外傾	自然	縄文土器 67 (0.87kg)、磨器 1	後期	SI31B との新旧不明
125	C 6 68	N-58°-E	楕円形	0.95 × 0.85	83	平坦	直立	人瓦	縄文土器 127 (1.60kg)、滑片 2 (チャート、黒曜石)	曾谷 - 安行 1 式	SK128 → 本跡 SI18・35 との新旧不明
126	B 6 12	-	[円形]	(0.96) × 0.96	60	平坦	直立	人瓦	縄文土器 191 (2.72kg)、石皿類 1	後期後葉	小ビレット 1 SI36 との新旧不明
127	B 6 13	-	円形	1.24 × 1.16	86	平坦	直立	人瓦	縄文土器 247 (3.69kg)、磨製石 器 1	安行 2 式	小ビレット 2 SI36 → 本跡 SI6 との新旧不明
128	C 6 68	-	[円形-楕円形]	(0.75) × 0.75	66	平坦	直立	人瓦	-	縄文	本跡 → SK125 SI18・35 との新旧不明
129	C 6 68	N-55°-W	円形	1.00 × 1.00	34	傾伏	緩斜	人瓦	縄文土器 17 (0.75kg)	加賀利E1式	本跡 → SI16
130	C 6 69	N-8°-W	楕円形	1.69 × 1.23	34	凹凸	外傾 緩斜	人瓦	縄文土器 26 (0.29kg)、磨石 3、 滑片 1 (チャート)	後期	SI20 → 本跡 PG9 との新旧不明
131	B 6 16	N-72°-E	楕円形	2.16 × 1.64	22	傾伏	緩斜	人瓦	縄文土器 5 (0.01kg)	縄文	小ビレット 2 本跡 → SI16・SK135
134	C 6 69	N-30°-E	[楕円形]	2.68 × (2.10)	96	平坦	緩斜 内傾	自然	縄文土器 433 (5.69kg)、石 2 (チャート・石炭)	河上白土-Ⅱ式 後期後葉	本跡 → UP6
135	B 6 16	-	[円形]	1.16 × (0.68)	107	平坦	直立	人瓦	縄文土器 67 (1.19kg)	安行 3 ヶ月	SK131 → 本跡 → SI15
136	B 6 12	N-10°-E	[隅丸長方形]	(1.65) × 1.28	120	平坦	直立	人瓦	SK136・137 合わせて 縄文土 器 782.09kg)、石 1、三角石器 1	後期後葉	本跡 → SK137 → SI6 SI36 との新旧不明
137	B 6 12	N-2°-E	[楕円形]	1.04 × (0.82)	100	傾伏	外傾	人瓦	-	後期	SK136 → 本跡 → SI6 SI36 との新旧不明
138	B 6 13	-	[円形]	(1.08 × 0.41)	110	平坦	直立	人瓦	縄文土器 24 (0.29kg)、土器 1 磨 1	後期	縄文
139	C 7 42	-	円形	0.92 × 0.88	38	平坦	外傾	人瓦	縄文土器 4 (0.19kg)	中期後半- 後期前葉	SI40 との新旧不明
140	C 6 40	-	円形	0.84 × 0.80	76	傾伏	外傾	人瓦	縄文土器 37 (0.50kg)、磨石 1	後期後葉	
141	C 7 62	N-72°-E	[不整楕円形]	1.40 × 1.15	30	傾伏	緩斜	自然	縄文土器 96 (1.45kg)、石皿類 1	築之内Ⅰ式	
142	C 7 62	N-23°-W	[不整楕円形]	(0.60) × 0.72	30	傾伏	緩斜	自然	縄文土器 2 (0.02kg)	中期後半	本跡 → SK141
143	C 6 46	N-30°-W	[楕円形]	1.06 × (0.60)	95	傾伏	外傾	人瓦	縄文土器 166 (2.31kg)、骨盤 1	後期後葉	小ビレット 1 SK33 → 本跡 → SI8 → SK29
144	C 6 49	N-30°-E	楕円形	0.86 × 0.76	22	平坦	緩斜	外傾	縄文土器 3 (0.03kg)	縄文	SI31 との新旧不明
146	C 6 40	N-57°-E	楕円形	0.92 × 0.74	36	傾伏	外傾	人瓦	縄文土器 6 (0.06kg)	縄文	

番号	位置	長径方向	平面形	規 範		定 測	測 面	履 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径×短径 (m) (形状・開口径は併 最大径)	深さ (cm)						
147	B 7/2	N-6'-W	楕円形	0.88 × 0.72	42	平坦	外堀	人為	縄文土器 97 (1.43kg)、滑片 2 (チャート・黒曜石)	後期	SI48 → 本跡
148	C 7/4	-	不整形四角	0.90 × 0.80	76	平坦	直立	自然	-	縄文	SK158 → 本跡
149	C 7/3	-	円形	0.72 × 0.70	30	平坦	外堀	人為	縄文土器 9 (0.16kg)	縄文	
150	B 7/1	-	隅丸方形	1.26 × 1.22	195	平坦	直立	人為	縄文土器 427 (5.89kg)、磨石 1 白磁 2 (チャート)、銅土器 1	安行 2 式	ビット 1
152	C 7/2	N-63'-E	楕円形	0.98 × 0.80	12	平坦	外堀	自然	縄文土器 7 (0.17kg)	縄文	SI40 → 本跡
153	C 7/3	N-27'-W	楕円形	1.32 × 1.06	121	平坦	直立	人為	縄文土器 158 (2.83kg)、石皿 1	後期後葉	PG11 との新出不明
154	C 7/4	N-42'-W	楕円形	0.72 × 0.58	78	平坦	直立	自然	縄文土器 8 (0.14kg)	縄文	
155	C 7/3	N-40'-E	楕円形	0.62 × 0.56	32	屈状	外堀	自然	縄文土器 8 (0.18kg)、貝輪状 1 瓦片 1	縄文	
156	C 7/4	N-51'-W	楕円形	0.52 × 0.44	80	平坦	直立	人為	縄文土器 5 (0.06kg)	縄文	
157	C 7/2	N-46'-E	[楕円形]	2.00 × (1.60)	70	平坦	外堀 内堀	人為	縄文土器 43 (0.55kg)	後期	SI40 が → 本跡
158	C 7/4	N-27'-E	[楕円形]	(0.86) × 0.68	50	屈状	外堀	自然	-	縄文	本跡 → SK148
159	C 7/3	-	円形	1.78 × 1.76	80	平坦	内堀 外堀	人為	縄文土器 27 (0.72kg)	後期前葉	SK99 → 本跡 SI40、60 との新出不明
160	B 7/2	-	円形	0.96 × 0.88	30	平坦	緩斜	自然	縄文土器 3 (0.08kg)	縄文	SI48 → 本跡
161	B 7/1	N-81'-E	楕円形	0.98 × 0.80	26	平坦	外堀	人為	縄文土器 3 (0.05kg)	縄文	
162	B 7/1	N-11'-E	隅丸長方形	1.08 × 0.82	56	平坦	直立	人為	縄文土器 28 (0.47kg)	縄文	SI48 → 本跡
163	B 7/1	N-58'-W	楕円形	1.66 × 1.36	65	屈状	外堀	人為	縄文土器 259 (4.78kg)、打製石斧 1、砥石 1、石剣 2 (チャート)	堀之内 1 式	
164	B 7/2	N-19'-E	[楕円形]	(1.68) × 1.28	48	屈状	緩斜	自然	縄文土器 21 (0.34kg)	称名寺 2 式	SI48 → 本跡 → SK181
165	B 7/3	N-34'-E	楕円形	1.08 × 0.64	92	平坦	直立	人為	縄文土器 13 (0.23kg)	中期	
166	C 7/3	-	楕円形	1.64 × 1.58 2.22 × 1.66	92	平坦	内堀	人為	縄文土器 50 (1.90kg)、石皿 1	阿玉台 1 式	SI45 → 本跡
168	B 6/9	-	[円形-楕円形]	1.09 × (0.80)	38	平坦	外堀	-	縄文土器 78 (1.08kg)	安行 2 式 ビット 2	SI46、SK1 → 本跡
169	C 7/1	N-29'-W	楕円形	1.80 × 1.44	42	凹凸	緩斜	人為	縄文土器 194 (2.73kg)、磨石 1、 砥石 1、石剣 1	後期～晩期 前葉	
171	C 6/9	-	円形	0.96 × 0.96	27	屈状	緩斜	人為	縄文土器 7 (0.05kg)	後期	SI47 との新出不明
178	C 6/9	N-57'-E	楕円形	0.90 × 0.80	20	平坦	外堀	-	縄文土器 9 (0.17kg)	中期後半～ 後期前葉	SI47 との新出不明
179	C 6/8	-	[楕円形]	(1.15) × 1.00	(180)	-	直立	人為	縄文土器 278 (5.03kg)、土器片 円筒 2、管状土器 1	安行 3 b 式	SI35 → 本跡
180	C 6/9	N-35'-E	楕円形	2.61 × 2.18	80	平坦	直立	人為	縄文土器 216 (3.12kg)、石皿 1、 砥石 1、石片 2 (黒曜石)、 灰土器 1	中期後半～ 後期前葉	ビット 4 本跡 → SI35、47
181	B 7/1	N-37'-E	楕円形	0.66 × 0.48	52	屈状	直立	自然	縄文土器 14 (0.03kg)	縄文	SI48SK164 → 本跡
182	C 7/3	N-72'-E	楕円形	0.54 × 0.48	29	屈状	外堀	人為	-	縄文	PG11 との新出不明
183	C 7/5	N-1'-W	楕円形	0.66 × 0.58	22	平坦	外堀	人為	縄文土器 10 (0.09kg)	縄文	
187	C 7/6	N-8'-W	楕円形	(0.94) × 0.82	22	平坦	外堀	人為	縄文土器 48 (0.56kg)、磨石 1、 砥石 1、滑片 2 (黒曜石)	後期前葉	本跡 → SB1SK229
190	C 7/5	-	円形	0.56 × 0.56	54	平坦	直立	人為	縄文土器 13 (0.13kg)	縄文	
195	C 7/6	-	円形	0.58 × 0.56	60	屈状	直立	人為	(SK195、196 が直在) 縄文土器 66 (1.22kg)、磨石 1、石皿 1	称名寺 2 式	
196	C 7/6	N-9'-E	楕円形	1.19 × 1.02	198	平坦	直立	人為	-	称名寺 2 式	
197	C 6/8	N-28'-E	楕円形	1.06 × 0.78	36	平坦	外堀	自然	-	縄文	
198	B 6/10	N-27'-W	楕円形	1.11 × 0.63 1.38 × 0.63	138	平坦	内堀	人為	縄文土器 33 (0.50kg)	縄文	SI44 → 本跡
199	C 6/8	N-75'-E	楕円形	0.96 × (0.60)	49	平坦	外堀	人為	(SK199、200 が直在) 縄文土器 15 (0.44kg)、土器片円筒 1、磨 石 1	中期	本跡 → SI18SK200
200	C 6/8	N-81'-E	楕円形	1.55 × 1.18	42	平坦	直立	人為	-	後期	SK199 → 本跡 SI18 との新出不明
203	C 7/6	N-85'-E	[楕円形]	(0.74) × 0.88	45	平坦	直立	人為	-	縄文	
204	C 6/9	-	円形	1.47 × 1.47	60	平坦	直立 内堀	人為	縄文土器 43 (0.63kg)、土器片円 筒 1、磨石 1、砥石 1	後期	本跡 → SI20
208	C 7/3	N-54'-W	楕円形	1.82 × 1.52	75	平坦	外堀	人為	縄文土器 17 (0.22kg)	縄文	小ビット 1 SI60 → 本跡
209	C 7/3	-	[円形]	0.72 × (0.32)	18	平坦	緩斜	人為	磨石 1	縄文	本跡 → SK210 SI60 との新出不明
210	C 7/3	-	[円形]	0.60 × (0.18)	35	平坦	外堀	人為	-	縄文	SK209 → 本跡 → SK99 SI60 との新出不明
211	C 7/3	N-9'-E	楕円形	1.10 × 0.96	66	平坦	外堀	自然	縄文土器 5 (0.07kg)	縄文	
212	C 7/4	N-84'-E	楕円形	0.84 × 0.71	35	屈状	緩斜	自然	縄文土器 4 (0.05kg)	縄文	
213	C 7/4	N-36'-E	楕円形	0.78 × 0.65	142	屈状	直立	自然	縄文土器 1	縄文	早期後葉 2 系
214	C 7/4	-	円形	0.94 × 0.87	60	平坦	外堀	自然	縄文土器 4 (0.03kg)	縄文	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		断面	面	土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m) (表式: 開口部は 見欠注)	高さ (cm)						
215	C7c4	-	[隅丸方形]	0.62 × 0.66	18	平坦	外積	自然	縄文土器1 (0.03kg)	後期	S45との新旧不明
216	C7d4	N-89°-E	楕円形	0.64 × 0.48	38	起伏	外積	自然	縄文土器6 (0.12kg)	後期	
217	C7a3	-	[隅丸方形]	0.97 × 0.90	33	平坦	縦割	人為	縄文土器12 (0.19kg)	後期	S51との新旧不明
218	C7a3	N-33°-W	楕円形	1.12 × 0.98	148	平坦	直立	自然	縄文土器422 (67.9kg)、土器1、土器片内敷2、灰石2、磨石1、土器片3 (チャート)、変成粘土層1	安行3a式	
219	C7d8	-	円形	0.48 × 0.48	38	起伏	外積	人為	縄文土器7 (0.13kg)	後期	
220	C7c8	-	円形	0.66 × 0.64	38	起伏	外積	人為	縄文土器6 (0.07kg)	後期	
221	C7c8	-	円形	0.36 × 0.36	36	平坦	外積	人為	縄文土器4 (0.05kg)	後期	
223	C7b2	-	円形	1.38 × 1.26	182	平坦	直立	人為	縄文土器542 (39.4kg)、土器1、耳飾1、貝輪状1、磨石箱3、石皿類1、灰石2、変成粘土層1、変成粘土層1、土層に埋土層	安行1)～安行2式	ピット1 本跡→SK243 S53との新旧不明
224	C7a2	-	円形	1.06 × 1.01	115	平坦	直立	人為	縄文土器118 (5.15kg)、土器片内敷2、打製石1、石1 (チャート)、土層に埋土層	後期後葉	S159との新旧不明
228	B7j2	N-60°-E	楕円形	1.22 × 1.00 1.23 × 1.20	175	平坦	直立	人為	縄文土器347 (7.28kg)、土器片内敷1、磨石類1	後期中葉～晩期前葉	ピット1 本跡→SK259 S59との新旧不明
231	C7a2	N-62°-E	楕円形	1.32 × 1.08 1.60 × 1.59	108	平坦	内埋	自然	縄文土器55 (1.24kg)	阿玉台石式	本跡→S49
232	C7a2	N-3°-E	楕円形	1.45 × 1.20 1.80 × 1.55	84	平坦	内埋	人為	縄文土器81 (1.72kg)、磨石石1、磨石1、灰石1 (灰皿)	阿玉台石式	本跡→S59 SK260との新旧不明
233	B7j2	-	円形	1.42 × 1.37 1.70 × 1.60	80	平坦	内埋	人為	縄文土器36 (4.28kg)	加曽利E1式	本跡→S54
235	B7j4	-	円形	0.65 × 0.60	50	有段	外積	人為	縄文土器2 (0.06kg)	縄文	
236	B7j3	-	円形	0.51 × 0.47	42	起伏	外積	人為	縄文土器1 (0.02kg)	縄文	SK237→本跡
237	B7j3	N-7°-E	[楕円形]	0.60 × 0.47	53	有段	直立	人為	縄文土器4 (0.05kg)	縄文	本跡→SK236
240	C7d7	N-21°-E	[楕円形]	(1.04 × 0.76)	24	凹凸	外積	人為	縄文土器15 (0.28kg)	縄文	本跡→SK241
241	C7c7	-	[円形]	0.74 × 0.65	32	平坦	外積	人為	縄文土器3 (0.03kg)、灰石1、RF1	縄文	SK240→448→SK242
242	C7c7	N-3°-E	楕円形	0.74 × 0.58	30	起伏	外積	人為	縄文土器1	後期	SK241→本跡
243	C7b2	N-70°-W	[不整形楕円形]	(2.40 × 1.18)	47	平坦	直立	自然	縄文土器86 (1.24kg)、耳飾2、打製石1、磨石類1、灰石1	後期後葉	SK223→本跡 S53との新旧不明
244	C7b1	N-47°-E	楕円形	1.26 × 1.00	37	平坦	外積	自然	縄文土器3 (0.18kg)	加曽利E1式	本跡→S53
246	B6j0	-	[円形]	[1.42 × 1.32]	200	平坦	直立	人為	縄文土器780 (13.28kg)、土器1、棒状1、貝輪状1、土器片内敷3、磨石石1、磨石類1、石皿類1、石1 (チャート)・塩土1、変成粘土層1	後期後葉～晩期前葉	ピット1 SK265→本跡→SK256 SK264・271との新旧不明
247	C7c1	N-7°-E	[楕円形]	(0.90 × 0.83)	99	平坦	直立	人為	縄文土器106 (2.79kg)、土器片1 (磨石)、貝輪片	後期後葉	本跡→S53
253	C7e2	N-24°-E	[楕円形]	(1.30 × 2.10)	34	平坦	外積	自然	縄文土器126 (2.96kg)、磨石石2、灰石1、磨石土器1	堀之内I式	本跡→SK254 SK270との新旧不明
254	C7e2	-	円形	(1.62 × 1.22)	122	平坦	直立	人為	縄文土器212 (8.70kg)、土器1、土器片内敷1、磨石類5、石皿類1	安行3a～安行3b式	SK253・270→本跡→SK255 SK40との新旧不明
255	C7e2	N-65°-E	[楕円形]	(1.94 × 1.52)	41	平坦	外積	自然	縄文土器14 (0.16kg)	阿玉台石式	SK270→SK254→本跡 SK40との新旧不明
256	C7e1	N-9°-W	不整形楕円形	1.74 × 1.52	76	平坦	外積	人為	縄文土器43 (0.74kg)、磨石類1	後期～晩期 加曽利E1式	本跡→SK254 SK262との新旧不明
260	C7a1	-	[円形]	(0.79 × 0.42)	38	平坦	外積	-	-	縄文	S34・59SK232との新旧不明
261	C7b2	-	[隅丸方形]	0.78 × 0.62	5	平坦	外積	自然	縄文土器11 (0.13kg)	縄文	S53との新旧不明
264	C6a9	N-78°-E	[楕円形]	(0.70 × 0.97)	52	平坦	外積	-	縄文土器3 (0.13kg)	後期	SK47SK246・276との新旧不明
265	C6a0	N-57°-W	[楕円形]	(0.80 × 0.70)	46	平坦	外積	-	-	縄文	本跡→SK246 SK47との新旧不明
266	B7b6	N-76°-W	楕円形	1.54 × 1.02	20	平坦	縦割	人為	縄文土器9 (0.30kg)	加曽利E1式	
267	B7b6	N-5°-W	楕円形	0.78 × 0.68	28	平坦	外積	自然	縄文土器1 (0.02kg)	中期前中	
268	B7b6	N-23°-W	楕円形	2.34 × 1.53	93	起伏	外積 縦割	自然	縄文土器26 (0.41kg)	縄文	陥し穴。
269	C6d7	N-10°-E	[楕円形]	(2.02 × 0.95)	38	凹凸	縦割	人為	縄文土器13 (0.26kg)	加曽利E1式	本跡→S16
270	C7e2	N-70°-W	[楕円形]	2.32 × (1.55)	66	平坦	外積	自然	-	縄文	本跡→SK254→SK255 SK47SK246・276との新旧不明
271	C6a0	-	[円形]	0.84 × 0.52)	51	平坦	外積	-	縄文土器40 (0.63kg)	中期～後期	SK47SK246・276との新旧不明
272	B7i1	-	円形	0.68 × 0.62	62	平坦	直立	人為	縄文土器1	安行1式	S48→本跡
274	C6e7	N-28°-E	不整形楕円形	1.17 × 0.92	44	凹凸	縦割	人為	-	縄文	S16との新旧不明
275	C6i9	N-20°-E	楕円形	0.78 × 0.68	65	平坦	直立	-	-	縄文	S53との新旧不明
276	C6a0	N-36°-W	楕円形	1.80 × 1.15	143	平坦	直立	人為	-	縄文	SK246→本跡 SK47SK264・265・271との新旧不明

(3) 炉跡

第1号炉跡 (第261図)

位置 調査A区北東部のB7j2区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡と重複しているが、これよりも上位で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 西部が攪乱のため、平面形は東西径65cm、南北径76cmしか確認できなかった。円形と推測でき、深さ12cmの地床炉で、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量 3 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量  
 2 明赤褐色 焼土粒子多量、炭化物少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片1点が出土している。

所見 南部にピット等があるものの、建物跡等は想定できない。細別時期は不明である。

第2号炉跡 (第261図)

位置 調査A区北東部のB7j1区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡と重複しているが、これよりも上位で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 東部が攪乱のため、平面形は東西径65cm、南北径90cmしか確認できなかった。楕円形と推測でき、深さ12cmの地床炉で、炉底面の赤変硬化は確認できなかった。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 2 明褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片3点、剥片1点(黒曜石)のほか、骨片が少量出土している。

所見 南部にピットがあるものの、建物跡等は想定できない。細別時期は不明である。

第3号炉跡 (第261図)

位置 調査A区北東部のB7h2区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第49号竪穴建物跡と重複しているが、これよりも上位で確認できたことから、本跡が新しい。

規模と形状 長径50cm、短径50cmの円形の地床炉である。深さは14cmで、炉底面は火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

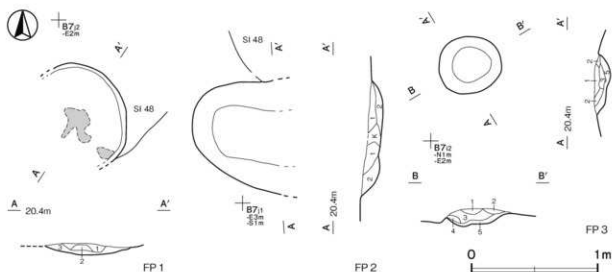
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化物微量 4 暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量  
 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 5 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量  
 3 明赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片3点が出土している。

所見 東部にピットがあるものの、建物跡等は想定できない。細別時期は不明である。

表4 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B7j2	-	[円形]	(0.76×0.65)	12	皿状	縦斜	自然	縄文土器片1	S148→本跡
2	B7j1	-	[楕円形]	(0.90×0.65)	12	皿状	縦斜	自然	縄文土器片3、剥片1(黒曜石)	S148→本跡
3	B7h2	-	円形	0.50×0.50	14	皿状	縦斜	自然	縄文土器片3	S149→本跡



第261図 第1～3号炉跡実測図

## (4) ビット群

覆土と出土遺物から、縄文時代に帰属するものとしたが、それ以降の時期の可能性もある。

## 第2号ビット群 (第262図)

**位置** 調査A区南西部のC 6d3～C 6d3区、標高20mほどの台地平坦部の東西2.0m、南北7.0mの範囲から、ビット5か所を確認した。

**重複関係** 第14号竪穴建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は長径38～95cm、短径35～66cmの円形または楕円形で、深さは23～87cmである。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片20点、剥片1点(チャート)が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

## 第2号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 6d3	楕円形	95	60	68
2	C 6e3	円形	68	66	30
3	C 6d3	楕円形	67	57	24
4	C 6d3	円形	38	35	87
5	C 6d3	円形	38	35	23

## 第3号ビット群 (第262図)

**位置** 調査A区南西部のC 6d5～C 6d5区、標高20mほどの台地平坦部の東西6.0m、南北7.0mの範囲から、ビット13か所を確認した。

**重複関係** 第11号竪穴建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は長径30～88cm、短径20～80cmの円形または楕円形で、深さは19～68cmである。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**ビット** P 9～P 13は出入口ビット状である。

## P 9土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## P 10～P 12土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片 47 点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

第3号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 6e5	円形	30	28	56	6	C 6e5	楕円形	48	38	19	10	C 6d5	円形	50	50	66
2	C 6e5	円形	37	34	43	7	C 6e5	楕円形	47	38	48	11	C 6d5	楕円形	30	20	50
3	C 6e5	不整形円形	40	38	19	8	C 6e6	楕円形	45	34	26	12	C 6d5	楕円形	60	48	48
4	C 6e5	円形	52	51	21	9	C 6d5	不整形円形	88	80	68	13	C 6d5	楕円形	34	30	41
5	C 6e5	楕円形	68	48	37												

### 第5号ビット群 (第262図)

**位置** 調査 A 区南西部の C 6e2～C 6e2 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 3.0 m、南北 6.0 m の範囲から、ビット 7 か所を確認した。

**規模と形状** 平面形は長径 34～88cm、短径 14～62cm の円形または楕円形で、深さは 5～115cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片 30 点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

第5号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 6d2	[楕円形]	86	(32)	57
2	C 6e2	不整形円形	88	62	115
3	C 6e2	楕円形	42	36	63
4	C 6e2	円形	34	32	38
5	C 6d2	[楕円形]	(15)	14	5
6	C 6e2	楕円形	68	61	24
7	C 6e2	楕円形	37	30	27

### 第6号ビット群 (第262図)

**位置** 調査 A 区北部の B 6i7～B 6i8 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 3.0 m、南北 3.5 m の範囲から、ビット 5 か所を確認した。

**重複関係** 第 44 号堅穴建物跡と重複しており、これらより上位の第 2 号遺物包含層中で確認できたことから、本跡が新しい。

**規模と形状** 平面形は長径 36～52cm、短径 36～50cm の円形で、深さは 7～66cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片 28 点、土器片円盤 1 点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

第6号ビット群ビット計測表

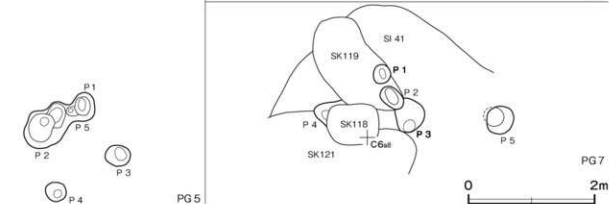
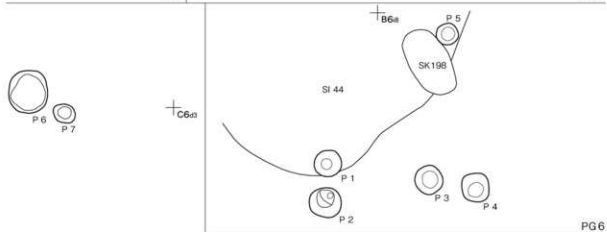
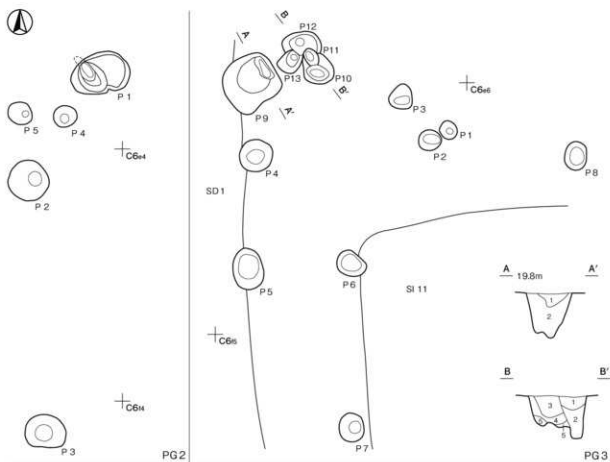
番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6i7	円形	44	43	11
2	B 6i7	円形	52	50	66
3	B 6i8	円形	48	45	7
4	B 6i8	円形	48	46	27
5	B 6i8	円形	36	36	11

### 第7号ビット群 (第262図)

**位置** 調査 A 区中央部の B 6j7～B 6j8 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 4.0 m、南北 2.0 m の範囲から、ビット 5 か所を確認した。

**重複関係** 第 41 号堅穴建物跡と重複しており、これらより上位の第 2 号遺物包含層中で確認できたことから、本跡が新しい。第 118・119・121 号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は長径 32～48cm、短径 27～46cm の円形または楕円形で、深さは 18～120cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。



第262図 第2・3・5～7号ピット群実測図



**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片 124 点、土製品 2 点（土偶、土器片円盤）、石器 1 点（磨石類）のほか、剥片 2 点（チャート、黒曜石）が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

第 7 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6 8	楕円形	32	27	42
2	B 6 8	楕円形	42	30	52
3	B 6 8	[楕円形]	(40)	46	54
4	B 6 7	[不整形円形]	48	(34)	18
5	B 6 8	円形	47	46	120

### 第 8 号ビット群 (第 263 図)

**位置** 調査 A 区北部の B 6 i8 ~ B 6 j9 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 4.5 m、南北 6.5 m の範囲から、ビット 20 か所を確認した。

**規模と形状** 平面形は長径 30 ~ 80 cm、短径 27 ~ 69 cm の円形または楕円形で、深さは 14 ~ 81 cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片 98 点、磨製石斧 1 点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

第 8 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 6 i9	楕円形	40	30	37	8	B 6 8	楕円形	40	36	14	15	B 6 8	円形	30	27	22
2	B 6 i9	円形	68	63	81	9	B 6 8	楕円形	37	28	14	16	B 6 9	[楕円形]	(58)	49	69
3	B 6 i8	[円形]	46	(42)	28	10	B 6 8	楕円形	80	69	27	17	B 6 i9	円形	43	42	31
4	B 6 i8	楕円形	43	37	22	11	B 6 8	[円形]	62	(33)	20	18	B 6 8	円形	38	37	30
5	B 6 i8	円形	54	52	41	12	B 6 8	楕円形	32	27	18	19	B 6 8	[円形・楕円形]	42	(20)	-
6	B 6 i8	円形	47	46	56	13	B 6 i9	[円形・楕円形]	56	(17)	-	20	B 6 i9	[円形]	38	(36)	62
7	B 6 i8	円形	44	43	46	14	B 6 8	楕円形	66	43	18						

### 第 9 号ビット群 (第 263 図)

**位置** 調査 A 区中央部の C 6 e0 ~ C 6 d0 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 2.0 m、南北 3.5 m の範囲から、ビット 3 か所を確認した。

**重複関係** 第 130 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は長径 48 ~ 60 cm、短径 40 ~ 46 cm の円形または楕円形で、深さは 26 ~ 76 cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**所見** 時期と性格は不明である。

第 9 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C 6 e0	円形	48	46	76
2	C 6 e0	[楕円形]	(55)	40	48
3	C 6 d0	楕円形	60	42	26

### 第 10 号ビット群 (第 263 図)

**位置** 調査 A 区北東部の B 7 h1 ~ B 7 i3 区、標高 20 m ほどの台地平坦部の東西 8.0 m、南北 3.0 m の範囲から、ビット 4 か所を確認した。

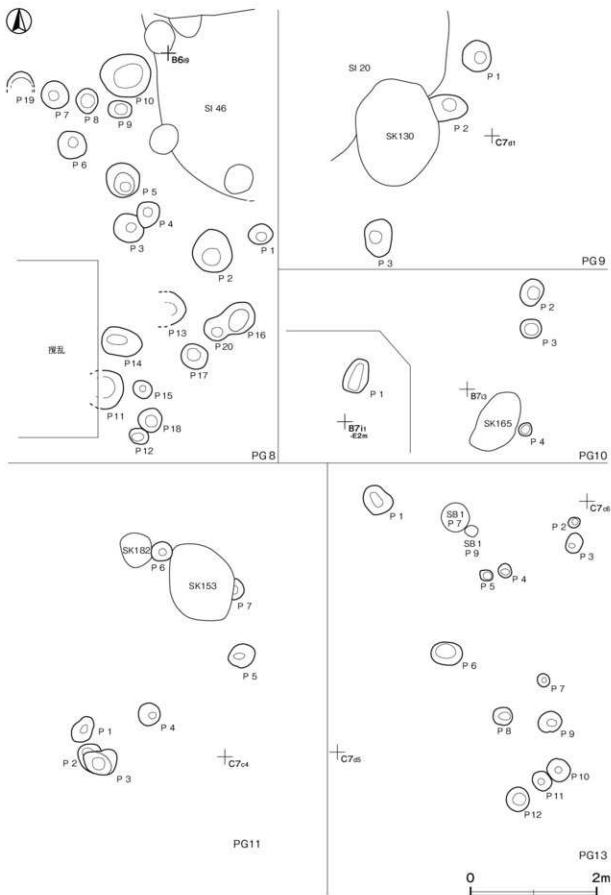
**規模と形状** 平面形は長径 22 ~ 56 cm、短径 20 ~ 38 cm の円形または楕円形で、深さは 24 ~ 44 cm である。ビットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ビット内から縄文土器片 11 点、磨石類 1 点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

第 10 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 7 h1	楕円形	56	38	24
2	B 7 i3	楕円形	42	36	44
3	B 7 i3	円形	32	32	42
4	B 7 i3	円形	22	20	28



第 263 図 第 8 ～ 11 ・ 13 号ピット群実測図

### 第11号ピット群 (第263図)

**位置** 調査A区東部のC7b3～C7c3区、標高20mほどの台地平坦部の東西30m、南北4.0mの範囲から、ピット7か所を確認した。

**重複関係** 第153・182号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 平面形は長径32～52cm、短径30～42cmの円形または楕円形で、深さは21～60cmである。ピットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ピット内から縄文土器片20点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

### 第11号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	C7b3	楕円形	44	32	57
2	C7b3	円形	40	(39)	21
3	C7c3	不明形状	52	42	60
4	C7b3	円形	36	36	36
5	C7b4	楕円形	46	36	23
6	C7b3	円形	32	30	21
7	C7b4	[楕円形]	32	(24)	24

### 第13号ピット群 (第263図)

**位置** 調査A区東部のC7c5～C7d5区、標高20mほどの台地平坦部の東西3.5m、南北5.5mの範囲から、ピット12か所を確認した。

**規模と形状** 平面形は長径18～50cm、短径16～40cmの円形または楕円形で、深さは7～45cmである。ピットの分布状況から、建物跡は想定できない。

**遺物出土状況** ピット内から縄文土器片46点が出土している。

**所見** 時期と性格は不明である。

### 第13号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C7c5	楕円形	48	40	24	5	C7c5	楕円形	21	18	7	9	C7c5	楕円形	38	32	32
2	C7c5	楕円形	18	16	15	6	C7c5	楕円形	50	38	20	10	C7d5	楕円形	38	34	45
3	C7c5	楕円形	32	25	21	7	C7c5	円形	22	20	23	11	C7d5	楕円形	32	28	28
4	C7c5	円形	22	21	20	8	C7c5	円形	30	28	22	12	C7d5	円形	40	38	12

表5 縄文時代ピット群一覧表

番号	位置	規模		ピット数	主な出土遺物	備考
		東西	南北			
2	C6d3～C6d3	2.0	7.0	5	縄文土器片20、瀬片1(チャート)	SH4との新旧不明
3	C6d5～C6d5	6.0	7.0	13	縄文土器片47	SH1との新旧不明
5	C6e2～C6e2	3.0	6.0	7	縄文土器片30	
6	B6f7～B6f8	3.0	3.5	5	縄文土器片28、土器片円盤1	SH4→本跡
7	B6f7～B6f8	4.0	2.0	5	縄文土器片124、土器1、土器片円盤1、磨石類1、瀬片2(チャート・磨石)	SH4→本跡 SK118・119・121との新旧不明
8	B6f8～B6f9	4.5	6.5	20	縄文土器片98、磨石片1	
9	C6e0～C6e0	2.0	3.5	3	-	SK130との新旧不明
10	B7h1～B7f3	8.0	3.0	4	縄文土器片11、磨石類1	
11	C7b3～C7c3	3.0	4.0	7	縄文土器片20	SK153・182との新旧不明
13	C7c5～C7d5	3.5	5.5	12	縄文土器片6	

## (5) 遺物包含層

今回の調査で、縄文時代の遺物包含層を2か所確認した。B区で確認できたものを第1号遺物包含層、A区で確認できたものを第2号遺物包含層としたが、A区とB区の間は現代の土取りにより掘削されているため便宜的に2つに分けただけで、本来的には一連のものであると考えられる。また第1号遺物包含層は斜面部に近い位置にあること、中世以降の遺構に掘り込まれている部分が多いことなどから、残存状況が良好ではない。そこでここでは主に第2号遺物包含層について取り上げ、第1号遺物包含層については、第2号遺物包含層について詳述する中で、特筆されるべき点を記述することとした。

## 第2号遺物包含層 (第264～318図 PL24・25)

**位置** 調査A区のはほぼ全体のB6g2～C7e3区、標高20mほどの台地平坦部から斜面部にかけて分布している。

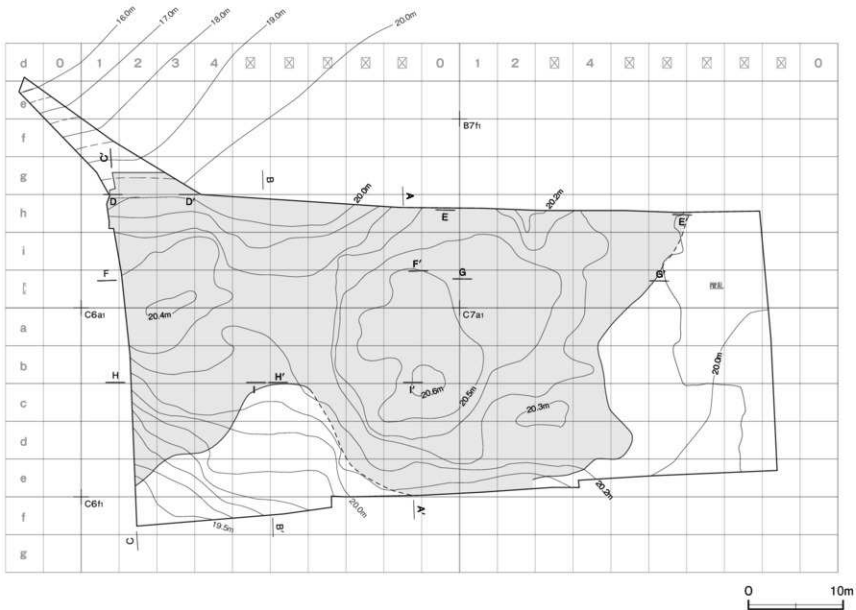
**確認状況と重複関係** 表土除去を行う前から多量の縄文土器が散布する状況が確認できたため、遺物包含層の範囲と層厚を把握するため、調査区内に確認トレンチを設定し掘り下げを行った。その結果、調査区のはほぼ全体で遺物包含層が確認でき、南側の台地平坦部では約10cm、北側の斜面部では厚いところで約140cmの層厚を確認した。各遺構との新旧関係はすべてにおいて捉えられたわけではないが、大まかには第1層を掘り込む遺構、第2層を掘り込む遺構、第2層下で確認できる遺構があり、新旧関係については、それぞれの遺構の解説の中で記述している。遺物包含層中の遺構は第2層上面で確認できるものが多く、黒褐色土が主体の第1層を掘り下げ、暗褐色土が主体の第2層上面になると遺物の分布が集中する地点が確認できるようになり、その部分を精査しながら掘り進めると、建物跡などの遺構が把握できるという状況であった。

**包含層の広がり**と**堆積状況** 北部と西部が調査区域外に延びているため、東西61.4m、南北330mしか確認できなかった。表土除去後の遺物包含層の上面の等高線図(第264図)を確認すると、C6b9～C6b0区付近を頂点にB6i8～B7j3区、及びC6d0区付近が楕円形状に20～30cmほど高くなっている様子が確認できる。またC6a3区付近を中心としたB6i3～C6b3区付近も、楕円形状に10～20cmほど高くなっている。遺物包含層は、等高線の高まりに合致するように分布している。

堆積層は15層に分層できる。遺物包含層は、色調や含有物の特徴から大きく2つに分けることができる。黒色土あるいは黒褐色土を主体とするI層は、層厚10～40cmで、特に中央部から北部を中心に分布している。I層は9層に細分でき、I-1～3層は特に多量の遺物が含まれている。堅穴建物跡などの遺構の多くは、I層を掘り下げた段階で確認できた。II層はローム粒子がやや多く含まれている暗褐色土を主体とする層で、遺物包含層の分布範囲の全体で確認できる。層厚は20～60cmで、北部の斜面部ほど厚くなる傾向がある。II層は6層に細分できる。いずれもローム粒子や、少量の焼土粒子・炭化粒子のほかに、多量の縄文土器や土製品、石器などが含まれている。後期後半期以降の遺構の多くはII層を掘り込んでいる様子が確認できるが、II層は遺構の覆土とも類似しており、判断が困難な部分がある。ゆえに確認できたほかにも、遺構となるものが存在する可能性がある。II-6層は、特にローム粒子が多く含まれており、ローム質土とも言える層である。第35号建物跡の上位付近に限定して確認できた。

調査区西壁に設定したC-C'ラインは、調査区南部から北部の斜面部まで、北壁に設定したD-D'、E-E'ラインは、調査区西部から中央部まで通して堆積状況を確認した部分で、1m以上の層厚で堆積が確認できたこともあり、別に通し番号で土層を観察した。第1～4層がI層に対応する。C-C'ラインでは、B6h2・B6i2付近の第2層の下位がほぼ平坦で、以下のII層相当の一群との間が、不整合面をなしている。断面上

第 264 图 第 2 号建筑物包围上面等高线图





で第2層下面からビットなどの多くの遺構の掘り込みが確認できることから、Ⅱ層堆積後の一定期間に、整地行為や施設の構築などの生活面が形成された可能性がある。第2層下のⅡ層相当層では、ローム粒子がやや多く含まれている暗褐色土を主体とした層と、黒褐色土を主体とした層が、互層をなすように堆積している様子が確認できた。この範囲には後期後葉の安行2式期の第43号建物跡が位置しており、建物跡の覆土との判別は困難で、建物跡を埋めるように斜面上位から流れ込むように堆積している様子が確認できた。なお第25～27・30～40層は、第42・43号建物跡の覆土として前述しているが、包含層との判別がしがたく特に斜面部では分層することが困難であった。南部は遺物包含層が薄く、部分的にはローム漸移層がなく、ローム面上に直接遺物包含層のⅡ層や表土層が堆積している。第51・52層は第35D号竪穴建物跡の覆土、第53～57層は第20号竪穴建物跡の覆土、第59～62層は第31A号竪穴建物跡の覆土、第63～73層は第6号竪穴建物跡の覆土、第93・94層は第32号竪穴建物跡の覆土である。第7～15・19・20・39・40・46・47・74～92層は、平面では捉えられなかったが遺物包含層を掘り込んでいる遺構の堆積土である。

#### 土層解説

表土	黒褐色	上層10cmが締まり弱、下層は旧表土。	16	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
I-1	黒褐色	土器片多量、焼土粒子・炭化粒子少量	17	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(遺構覆土)
I-2	暗褐色	土器片多量、ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量	18	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量(ビット覆土)
I-3	黒褐色	土器片多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	19	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(ビット覆土)
I-4	黒色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量(この周辺のみ分布)	20	暗褐色	ビット覆土
I-5	黒褐色	ローム粒子微量	21	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
I-6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	22	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(遺構覆土)
I-7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量	23	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
I-8	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	24	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
I-9	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	25	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
Ⅱ-1	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量(ローム質土)	25	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
Ⅱ-2	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量(ローム質土、Ⅱ-1よりしまり弱)	26	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
Ⅱ-3	暗褐色	土器片多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	27	暗褐色	土器片多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
Ⅱ-4	暗赤褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量	27	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量
Ⅱ-5	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	28	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
Ⅱ-6	暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子少量(ローム質土)	29	黒褐色	焼土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック・骨粉少量
1	暗褐色	ローム粒子・白色粒子少量(表土層)	30	黒褐色	土器片多量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子中量、骨粉少量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(I-1対応)	31	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・骨粉少量
3	黒色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子微量	32	暗褐色	土器片多量、ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(I-4対応)	33	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	34	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
6	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	35	暗赤褐色	焼土粒子多量、炭化物・ローム粒子・骨粉少量
7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ビット覆土)	36	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ビット覆土)	37	暗赤褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量
9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(ビット覆土)	38	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量(ローム漸移層に類似)
10	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量(ビット覆土)	38'	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量(41より暗)
11	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(ビット覆土)	39	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
12	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量(ビット覆土)	40	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量(ビット覆土)
13	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ビット覆土)	41	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
14	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量(ビット覆土)	42	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
15	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量(ビット覆土)	43	赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
			44	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
			45	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
			46	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量(ビット覆土)
			47	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量(ビット覆土)
			48	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量
			49	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
			50	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量(SD39覆土)





## 土層解説

51	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI35 覆土)	71	黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量 (SI6 覆土)
52	暗赤褐色	焼土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 (SI35 覆土)	72	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 (SI6 覆土)
53	極暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量 (SI20 覆土)	73	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI6 覆土)
54	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量 (SI20 覆土)	74	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (ビット覆土)
55	黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量 (SI20 覆土)	75	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (ビット覆土)
56	極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI20 覆土)	76	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (ビット覆土)
57	暗褐色	ロームブロック少量 (SI20 覆土)	77	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (土坑覆土)
58	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量 (遺構覆土)	78	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量 (土坑覆土)
59	黒褐色	ローム粒子ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SI31A 覆土)	79	極暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量 (土坑覆土)
60	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SI31A 覆土)	80	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量 (土坑覆土)
61	暗褐色	ロームブロック少量 (SI31A 覆土)	81	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量 (土坑覆土)
62	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SI31A 覆土)	82	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量 (土坑覆土)
63	黒褐色	土器片多量、ローム粒子・焼土粒子・骨粉少量、炭化粒子微量 (SI6 覆土)	83	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SI12 ビット覆土)
64	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量 (SI6 覆土)	84	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 (SI12 ビット覆土)
65	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・骨粉微量 (SI6 覆土)	85	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 (SI12 ビット覆土)
66	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化物・骨粉微量 (SI6 覆土)	86	暗褐色	ローム粒子中量 (SI12 ビット覆土)
67	暗褐色	ロームブロック少量 (SI6 覆土)	87	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量 (SI12 ビット覆土)
68	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 (SI6 覆土)	88	暗褐色	ロームブロック少量 (SI12 ビット覆土)
69	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量 (SI6 覆土)	89	暗褐色	ロームブロック少量 (SI12 ビット覆土)
70	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 (SI6 覆土)	90	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SI12 ビット覆土)
			91	極暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量 (SI12 ビット覆土)
			92	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 (SI12 ビット覆土)
			93	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SE2 覆土)
			94	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 (SE2 覆土)

**遺物出土状況と出土遺物** 本包含層からは、多量の人工遺物と自然遺物が出土している。調査は4m四方のグリッドを単位に、上位から約15cmの任意層位毎に1x、2x…として掘り下げを行い、遺物を取り上げた。以下の集計表に、対応層位と集計結果を示す。遺物包含層中の遺物は多量に出土するものの、完形土器や大形の破片が集中して、あるいは意図的に遺棄されるように出土するところは、B6h2・h3、I2・I3区の第1号遺物集中地点のみであった。なお、整理の関係上、土器は地点を限定して掲載することとした。

## (ア) 縄文土器

当遺跡出土の縄文土器については、すべての土器について以下のように分類し、集計した。

## 第1群 中期前半の土器

1類：阿玉台Ib式 2類：阿玉台II式 3類：阿玉台III式 4類：阿玉台IV式

## 第2群 中期後半の土器

1類：加曾利EⅠ式 2類：加曾利EⅡ式 3類：加曾利EⅢ式 4類：加曾利EⅣ式

第3群 称名寺式と加曾利E式系の土器 1類：加曾利E式系 2類：称名寺1式 3類：称名寺2式

第4群 堀之内式 1類：堀之内1式 2類：堀之内2式 3類：称名寺式から堀之内式に伴う素文土器

## 第5群 加曾利B式

1類：加曾利B1式 2類：加曾利B2式 3類：加曾利B3式 4類：いわゆる粗製土器

5類：細別型式が不明な土器 a：帯縄文系 b：斜線文系 c：格子目文系 d：磨消縄文

第6群 曾谷式 1類：帯縄文系 (曾谷式系) 2類：高井東式系 3類：桑線文系

第7群 後期安行式 1類：安行1式 2類：安行2式

3類：細別型式判断が困難なもの a：隆起帯縄文 b：条線文系の台付鉢 c：帯縄文系の台付鉢

第8群 晩期安行式 1類：安行3a式 2類：安行3b式 3類：安行3c式 4類：安行3d式

5類：棒状文施文の一群 a：縄文 b：無文 6類：無文 7類：刺突文 8類：沈線文

第9群 蛇山Ⅱ・Ⅲ式 1類：Ⅱ式 2類：Ⅲ式 3類：細密沈線文系

第10群 前浦式 1類：1式 2類：2式

第11群 後期の異系統土器群

第12群 晩期の異系統土器群

第13群 粗製土器 1類：地縄文 2類：無文 3類：紐線文系 4類：付点紐線文系

5類：条線文系 6類：付帯口縁系

第14群 時期が不明確な体部破片

1類：後期中業から晩期にかけての体部破片 a：磨消縄文 b：沈線文 c：刺突文

2類：上記以外の細別型式不明の体部破片 3類：底部破片 4類：製埴土器

縄文土器は、第1号遺物包含層から29,541点(478.1kg)、第2号遺物包含層から168,629点(2,787.5kg)が出土している。地点によって層厚が異なること、時期によって土器個体の大きさが異なることなどから、単純な数の比較では不十分であるが、大まかな傾向を把握し、遺物包含層の形成過程を考える一助とした。第Ⅰ・Ⅱ層とも、各時期の土器が一定量存在し、プライマリーな層としては捉えられなかった。第Ⅰ層では第1群(中期前半)から第8群(晩期)までが出土しているが、主体となるのは第7群(後期後葉)から第8群1・2類である。特にC6a2・a3・b2・b3、C6b8～b0、c9・c0区など、等高線園上で高まりがみられる部分は、第8群1・2類(晩期前葉)が多く出土している傾向がある。またB6j2・j5区やB7h1・j1区では第8群3・4類(晩期中業)が比較的多く出土しており、平面的には確認できなかったが、当期の遺構が存在した可能性や、本跡の最終段階の廃棄ブロックと捉えることもできる。第Ⅱ層は、多くが遺構に掘り込まれていたために捉えることが困難であったが、第1群から第8群までが出土し、主体となるのは第4群(堀之内式)、第5群(加曾利B式)、第7群である。第8群は少ない。斜面部ではあるが、比較的層厚がある部分を層位的に掘り下げができたB6g2・g3区付近を見ると、下層に行くほど第3群(称名寺式)や第4群が増加する傾向がある。調査区南部のC6d6・e5～e7、f2～f6区では、遺物包含層は確認できず、表土直下で晩期中業の遺構が確認できた。この部分の表土は、いわゆる腐植土層というよりも遺物を多く含んでいる黒褐色土で、第Ⅰ層に類似する層であった。土器は第1群から第8群までが出土しているが、第8群が多い傾向にある。一方、やや高まりのみられるC7d3・e3区付近では、第8群はほとんど確認できず、第1群から第4群、特に第3・4群が主体である。

#### (イ) 土製品

a 土偶 土偶は第1号遺物包含層から6点、第2号遺物包含層から90点出土している。完形のものではなく、一か所に集中するような出土状況は確認できなかった。形態と文様の特徴から、次のように分類し集計した。遺構の時期に比例するように、ミミズク土偶が多く出土している。また中空土偶も出土しているが、全体が捉えられるものはない。第1号遺物包含層のDP1は、遮光器土偶の頭部である。

1類：筒型 2類：山形 3類：ミミズク 4類：板状 5類：中空 6類：X字状 7類：その他

a：頭部 b：腕部 c：胴部 d：脚部 e：頭～胴部 f：胴～脚部 g：完形

表6 遺物包含層出土土偶集計表

(点)

2 類					3 類					4 類					5 類					6 類					7 類																
a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f	a	b	c	d	e	f						
3	12	1	13	0	2	19	4	3	8	6	2	0	1	4	0	0	1	0	3	6	4	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0

b 耳飾り 耳飾りは第1号遺物包含層から6点、第2号遺物包含層から63点出土している。完形で出土しているものも一定量あるが、一か所に集中したり対で出土するような状況は確認できなかった。設楽博己氏の分類案<sup>1)</sup>を参考に、形態から次のように分類集計した。DP102はⅢ類の透かし彫りが施されるもののブリッジ部分である。

I類 白型 1:耳栓タイプ 2:断面鼓状 3:断面臼状で内側が大きく削り込まれるもの

Ⅱ類 環状で断面が厚手のもの 1:断面直線状 2:断面三角形

Ⅲ類 環状で文様施文面がブリッジ状に内側にせりだすもの

Ⅳ類 環状で断面が薄手のもの 1:断面三角形

表7 遺物包含層出土耳飾り集計表 (点)

2:文様施文面が張り出すもの

I-1	I-2	I-3	Ⅱ-1	Ⅱ-2	Ⅲ	Ⅳ-1	Ⅳ-2	V
3	1	5	3	5	13	5	9	25

V類 環状で断面に稜を持たないもの

c 土版・有孔土版 土版は第1号遺物包含層から3点、第2号遺物包含層から12点出土している。有孔土版は第1号遺物包含層から2点、第2号遺物包含層から4点出土している。土版は形態や文様から晩期中葉のものと考えられる。有孔土版も遺構内から出土したものは、晩期中葉に伴うものが多い。

d 土錘・土器片錘 土錘は第2号遺物包含層から5点、土器片錘は第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から3点と、いずれも少量である。土錘は有溝で、中央部に穿孔のあるものもある。

e 土器片円盤 第1号遺物包含層から24点、第2号遺物包含層から241点出土しているが、今回は紙数の関係上図示できなかった。よって計測結果を記すことで傾向を示すこととした。土器片円盤は主に深鉢の体部片を円形あるいは楕円形に周縁を打ち欠き、研磨して製作されているが、研磨が著しいものは少なく、一部を研磨する程度のもが多かった。大きさでは最小が長径2.2cm、最大が長径7.8cmで、3.1cm～5.0cmのものが68.8%と半数以上を占める。また重量では最小が3.6g、最大が54.3gで、10.1g～20gまでのものが46.9%と約半数を占めている。

表8 土器片円盤計測表 (大きさ・重量)

(点)

大きさ (cm)	7.1～						重量 (g)	501～										
	22～30	31～40	41～50	51～60	61～70	7.1～		～50	51～100	101～150	151～200	201～250	251～300	301～350	351～400	401～450	451～500	501～
点数	8	82	94	52	17	3	1	45	60	60	34	28	14	13	6	3	1	

f その他の土製品 土製垂飾品が第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から3点、貝輪状土製品が第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から19点、棒状土製品が第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から5点、匙形土製品が第2号遺物包含層から3点、サメの歯形土製品が第1号遺物包含層から1点出土している。サメの歯形はホオジロザメあるいはその化石を模倣した可能性がある<sup>2)</sup>。そのほか発泡体としたものが第1号遺物包含層から1点、第2号遺物包含層から13点出土している(概要写真参照)。これは、焼成した粘土塊状の個体の表面が気泡状で、あたかも高温で発泡したかのように見えるものである。軽石にも似る部分があるが岩石ではなく、肉眼観察ではあるが窯壁の内部に付着する物質に似る部分があるとの指摘をいただいた<sup>3)</sup>。同様のものは第6号遺物跡や第22号遺物跡の覆土中からも出土している。また焼成粘土塊は、第1号遺物包含層から63点、第2号遺物包含層から21点出土して

いる。第1号遺物包含層から出土したものは、ほとんどが第22号建物跡の周囲から出土している。紐状、粘土板状、塊状のものなどがあるが、土器や土製品の製作工程の推測されるものは確認できなかった(概要写真参照)。第2号遺物包含層 DP71 は不明土製品としたが、形状から木蓋模倣の蓋の可能性がある。

(ウ) 石器・石製品

- a 剥片石器および石核・剥片類 剥片石器は全体的に少なく、石材はチャートを素材とするものが圧倒的である。石鏃は、第1号遺物包含層から4点、第2号遺物包含層から25点出土している。そのうちチャート製が23点、黒曜石製が3点、頁岩製が1点である。石鏃は第1号遺物包含層から3点、第2号遺物包含層から2点出土しており、第2号遺物包含層のQ2は黒曜石製であるが、それ以外はチャート製である。そのほか加工痕のある剥片8点と安山岩製の尖頭器1点が出土している。尖頭器は木葉形の端部で、おそらく遺物包含層が形成される前の、縄文時代草創期段階のものが混入したものである。石核や剥片類は、第1号遺物包含層で石核40点(チャート36、黒曜石4)、剥片205点(チャート134、黒曜石70、瑪瑙1)、第2号遺物包含層で石核146点(チャート120、黒曜石24、頁岩1、瑪瑙1)、剥片710点(チャート454、黒曜石240、瑪瑙9、頁岩7)出土している。石核は径が2~3cm程度の残骸が多いようである。なお黒曜石の産地同定の結果、和田・諏訪産、高原山産のほか、神津島産も確認できた(付章参照)。
- b 磨製石斧 第1号遺物包含層で11点、第2号遺物包含層で44点出土している。定角式がほとんどで、Q46~Q50など敲打痕を残す未成品もある。Q43は緑色岩製で、側縁部に擦り切り痕が見られる。Q32~Q36・Q41~Q44は小形の定角式で、Q32・Q42は蛇紋岩製である。
- c 打製石斧 第1号遺物包含層で10点、第2号遺物包含層で23点出土している。当遺跡全体でみても、打製石斧の出土率はほかの石器に比較すると低調である。形態はほぼすべて分銅形を呈するものである。
- d 磨石類 磨石、敲石は、一つの石器で複数の使用痕を有し、複合的に使用されるものが多いようである。よってこれらの石器を一つの類にまとめ、以下のように分類して集計した。全体では第1号遺物包含層で51点、第2号遺物包含層で395点出土している。

1類：磨石 2類：磨石+敲石 3類：敲石 4類：自然礫の上下・周縁部のみを研磨

a：柱状円・楕円形 b：柱状方形 c：扁平円形 d：扁平方形 e：その他

表9 磨石類分類集計表

(点)

分類	1類				2類				3類				4類				分類不可				
	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e						
個数	98	8	32	12	10	15	10	33	15	0	6	0	0	0	24	7	0	5	0	15	156

e 石皿類 石皿についても、磨石類と同様に、窪み石や砥石と複合的に使用痕が見られるものであることから、以下のように分類して集計した。第1号遺物包含層で15点、第2号遺物包含層で79点出土している。当遺跡全体でみても、石皿類の出土率は磨石類に比較すると低調 表10 石皿類分類集計表 (点) である。

1類：石皿 2類：石皿+窪み石 3類：石皿+砥面 4類：窪み石

分類	1類	2類	3類	4類	分類不可
点数	26	18	9	1	40

f 石錘 石鏃は、第1号遺物包含層で7点、第2号遺物包含層で47点出土している。長軸方向に溝を巡らせる有溝(1類)は4点、長軸方向の上下に切り目を入れるもの(2類)は8点、長軸および短軸方向に剥離による紐架け部を有するもの(3類)は42点である。

g 砥石 砥石は、第1号遺物包含層で16点、第2号遺物包含層で148点出土している。砂岩製で、被熱しているものが多い。形状と研磨痕から以下に分類し集計した。貝輪や骨角器、玉類を研磨するとされ

る1類が21点見られる。また扁平な4類が比較的安定的に組成している。表11 砥石分類集計表(点)の点数が特徴的である。

分類	1類	2類	3類	4類	分類 不可
点数	21	78	15	33	17

1類:筋砥石 2類:板状 3類:棒状 4類:扁平

h 石棒・石剣類 第1号遺物包含層では石棒8点、石剣4点、第2号遺物包含層では石棒45点、石剣24点が出土している。石棒は後期以降に主体となるいわゆる小形石棒で、中期に盛行する大形石棒は、第2号遺物包含層で2点確認されたのみである。すべて破片での出土で、頭部が確認できたものは5点のみである。このうちQ 133は東北系土器群との関係が指摘されている「成興野型」<sup>3)</sup>で、Q 143・Q 145などはこのタイプの端部の可能性がある。Q 135は緑色片岩製で亀頭状の頭部を有する「高井東型」で、被熱を受けている。このほかQ 134・Q 139・Q 143・Q 145等、41点に被熱痕が確認できた。

i その他の石器・石製品 第1号遺物包含層からは、礫器1点、垂飾品1点、軽石製品4点、第2号遺物包含層からは、礫器59点、垂飾品5点、独結石2点、軽石製品5点が出土している。垂飾品のうちQ 151は翡翠で、穿孔途中の未成品である。Q 157も成形途中で未穿孔の滑石片である。礫器は扁平な安山岩の周縁部を片面或いは両方向から剝離して刃部を作出しているもので、当遺跡では比較的多く確認できた器種の一つである。また特筆すべきものとして、第2号遺物包含層から出土した礫に、アスファルトが付着しているものが確認できた。数点の礫がアスファルトによって融着した状態のもので、これについては付着を参考されたい。Q 3の石礫基部にも、アスファルトと考えられる黒色付着物が確認されている。

**所見** 遺物包含層は、出土遺物から、主に後期後葉から晩期前葉にかけて形成されたものと考えられる。I層は出土土器や遺構の重複関係から後期後葉以降で、晩期が中心となる地点もある。B 6i3・j3区では安行2式の第6号建物跡がI-2層を掘り込んでいること、C 6b8・b9区付近では晩期安行3a式から安行3b式期の第35号建物跡の上位にI-6層が堆積していることなど、同じI層でも地点により時期に違いがあり、I層が長期にわたって形成されたことが伺える。II層は後期後葉までが主体で、遺構覆土と類似し覆土との判別が困難な部分もある。各グリッドや層位を概観すると、主体となる時期が明確な地点や層位があったり、下層ほど古い時期の土器の出土が増加するという傾向はあるものの、それぞれ各分類群を一定量含有しており、堆積層の時期の判断が困難である。また、出土状態でも完形土器や大形破片の残存率は低く、破片での出土が圧倒的である。包含層の層厚や分布をみると、第4・5・19・56号建物跡や第35・39・47号建物跡など、多重の建物跡が位置する部分に厚く堆積しているようで、表土除去後の包含層上面の等高線図でも周辺より高くなっている様子が伺えた。第35号建物跡の上位に分布するII-6層はローム質土で、建物の廃棄後、ローム粒子が多く含まれている土で整地されているようにも見える。また西壁や北壁の堆積状況からは、第43号建物跡を埋めるようにローム粒子が多く含まれている暗褐色土や黒褐色土が廃棄され、斜面部を整地するように上面に平坦面が作出されている様子が伺える。遺構の確認は、I層中で確認しえたものもあるが、多くは遺物が多く出土するI層を包含層として掘削したあとの、暗褐色土のII層上面で、遺物のまとまりや破片の大きさ、焼土の分布などから、おおよその遺構の範囲が確認できる状態であった。よってこのII層中ないしII層上面が、後期後葉段階の旧表土と捉えることができ、少なくとも第II層の一部は遺構の構築・廃棄・整地行為の繰り返しによって生成された可能性がある。I層及びII層中には後期中葉までの土器片が一定量出土しているが、この間の遺構はほとんど確認できなかった。後期前葉から中葉期の遺物量からすると、後期後葉以前に集落としての土地利用があったと考えられ、II層の一部は調査の不備から確認しえなかった後期後葉以前の遺構覆土の可能性もある。しかしII層中から完形土器や大形破片も含め、後期中葉以前の土器のまとまりや遺構が主体的に確認できないことから、II層自体がプライマリーな層ではないことが考えられ、後期後葉以前に遺構の痕

跡をとどめないほどの大きな土地改変行為が行われている可能性も考えられる。

註

- 1) 設楽博己「土製耳飾」『縄文文化の研究』9 雄山閣 1995年3月
- 2) ひたちなか市埋蔵文化財センターの鈴木素行氏にご教示いただいた。
- 3) (株)パレオ・ラボの藤根久氏にご教示いただいた。
- 4) 後藤信祐「刀剣形石製品」『縄文時代の考古学』11 同成社 2007年9月

第2号遺物包含層出土遺物観察表(第267～318図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	浅鉢	[21.2]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	黒 焼	普通	外面沈線→無筋L縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	30% PL28
2	縄文土器	深鉢	[37.8]	(10.1)	-	長石・石英・角閃石	明赤焼	普通	外面ナテ 縦面状工具による区画文 内面ナテ	5x-6x(27層)	5%
3	縄文土器	飯椀	[24.2]	(7.1)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄焼	普通	外面削り 淵縁 口縁部未調整 内面削り	6x (27層)	口縁部 5%
4	縄文土器	浅鉢	[12.1]	(5.2)	-	長石・石英	灰黄焼	普通	外・内面磨成のため調整未確認	3x (25層)	30%
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面隆起部上0段3条のRL縄文 内面磨き	5x (26層)	
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面削り突文→L縄文 内面磨き	5x (26層)	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈線→L縄文→区画線磨き 内面磨き	27層	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 焼	普通	外面L&R縄文→L縄文 内面磨き	4x (26層)	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄焼	普通	外面無筋L縄文→帯垂文 内面磨き	5x (26層)	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄焼	普通	外面無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面L&R縄文。内面磨き	5x (26層)	
12	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄焼	普通	外面C字状貼付文 内面磨き	27層	
13	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→L&R縄文→無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
14	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 焼	普通	外面沈線→L&R縄文→口縁部磨き 内面磨き	2x (2層)	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤焼	普通	外面斜線文→無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄焼	普通	外面沈線→L&R縄文→無文部磨き 内面磨き	2x (2層)	
17	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 焼	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	3x (25層)	
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 焼	普通	外面格子目文→帯位沈線→淵部磨き 内面磨き	4x (26層)	
19	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 焼	普通	外面格子目文 内面磨き	6x (27層)	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄焼	普通	口縁部外面刻み→斜線文 内面磨き	1x (2層)	
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	口縁部外面沈線→帯垂文→斜線文→淵部磨き 内面磨き	26層	
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい赤焼	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	5x (26層)	
23	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 焼	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	6x (27層)	
24	縄文土器	釣手	-	-	-	長石・石英	灰黄焼	普通	把手部 外面矢羽状沈線文 内面ナテ	3x (25層)	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線→淵部磨き 内面磨き	4x (26層)	
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄焼	普通	外面矢羽状沈線文 内面磨き	3x (25層)	
27	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 焼	普通	外面削り削り 内面磨き	3x (25層)	
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 焼	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	5x (26層)	
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	26層	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤焼	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	5x (26層)	
32	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面沈線→L&R縄文 内面ナテ	5x (26層)	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 焼	普通	淵部外面磨き 内面磨き	27層	
34	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文 内面磨き	2x (2層)	
35	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄焼	普通	外面沈線→L&R縄文→無文部磨き 内面ナテ	5x (26層)	
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰 焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	5x (26層)	
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	27層	
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤 焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	6x (27層)	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	5x (26層)	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄焼	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	5x (26層)	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面磨き	3x (25層)	
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい焼	普通	外面沈線→無筋&縄文 内面ナテ	27層	
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	1x (2層)	
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文 内面ナテ	6x (27層)	
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒 焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→帯位行→無文部磨き 内面磨き	5x (26層)	
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい焼	普通	外面隆起部沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	26層	
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナテ	25層	
49	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文→無文部磨き 内面ナテ	25x (12層)	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄焼	普通	外面隆起部沈線→L&R縄文→無文部磨き 内面ナテ	2層	
51	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい焼	普通	外面沈線→RL縄文 内面ナテ	6x (27層)	
52	縄文土器	壺	(3.2)	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄焼	普通	外面沈線間に斜交文北端 無文部ナテ 内面ナテ	27層	赤彩 10%
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい焼	普通	外面隆起部 内面ナテ	4x (26層)	
54	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面沈線→無筋&縄文 内面ナテ	27層	

表 12-1-1 第 2 号遺物包含層出土土器集計表 (1)

地区・層別 / 分類	数量 (No)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
地区	層別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200
地区	層別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200











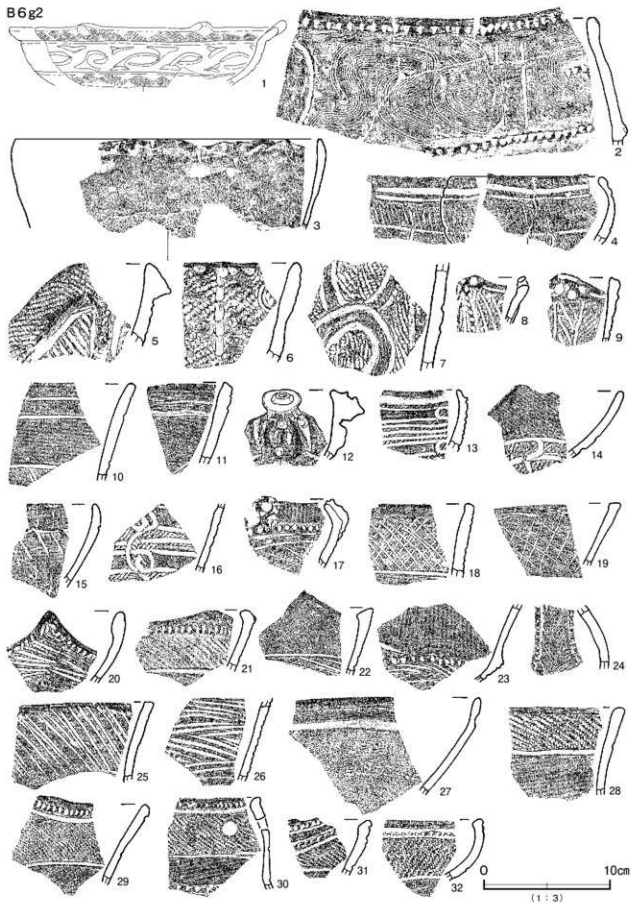
表 12-1-6 第2号遺物包含層出土土器集計表(6)

地点・層位/内容	数量 (No.)	1														2														3														4														5														6														7														8														9														10														11														12														13														14														数量	合計(点)	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196				197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459



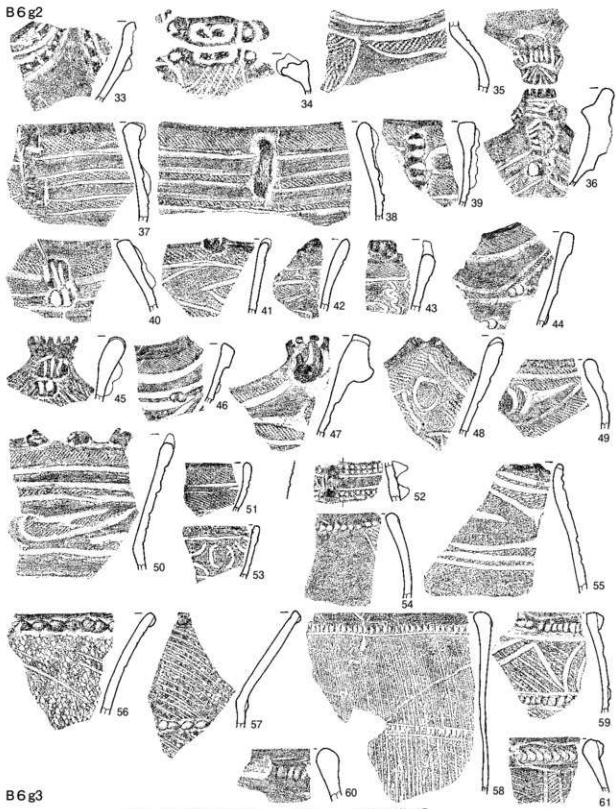


B6g2

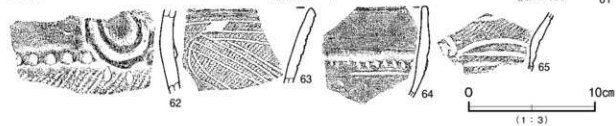


第267图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(1)

B6g2



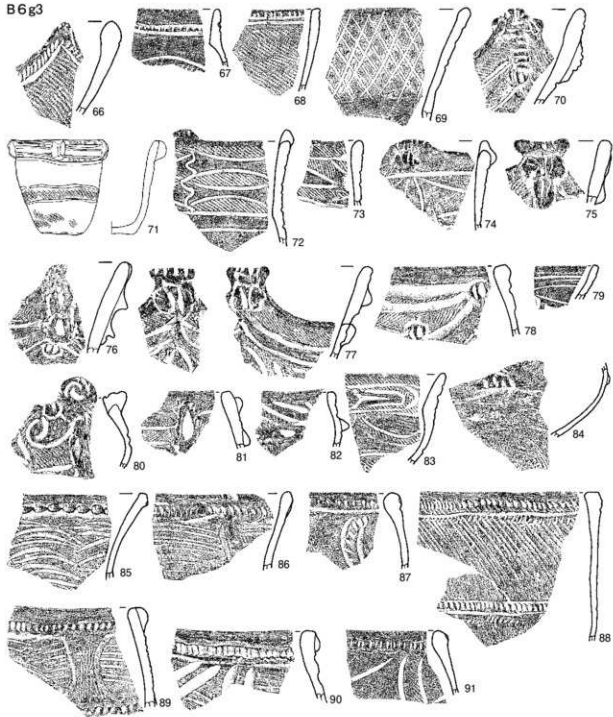
B6g3



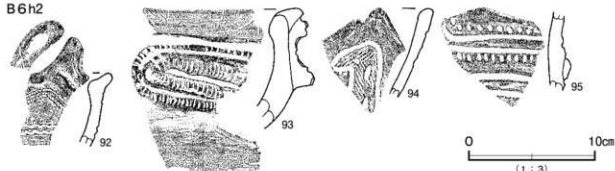
第 268 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(2)



B6g3

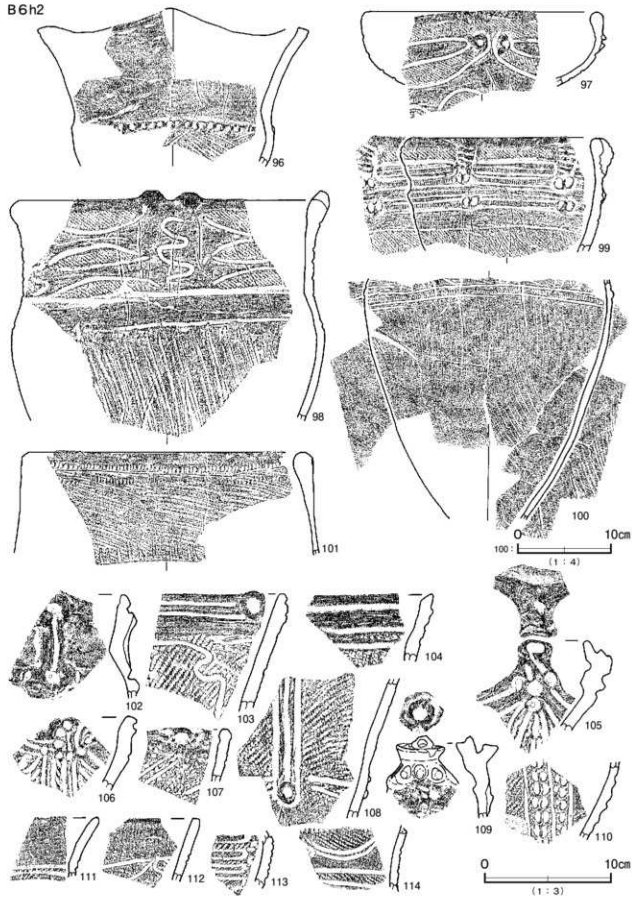


B6h2



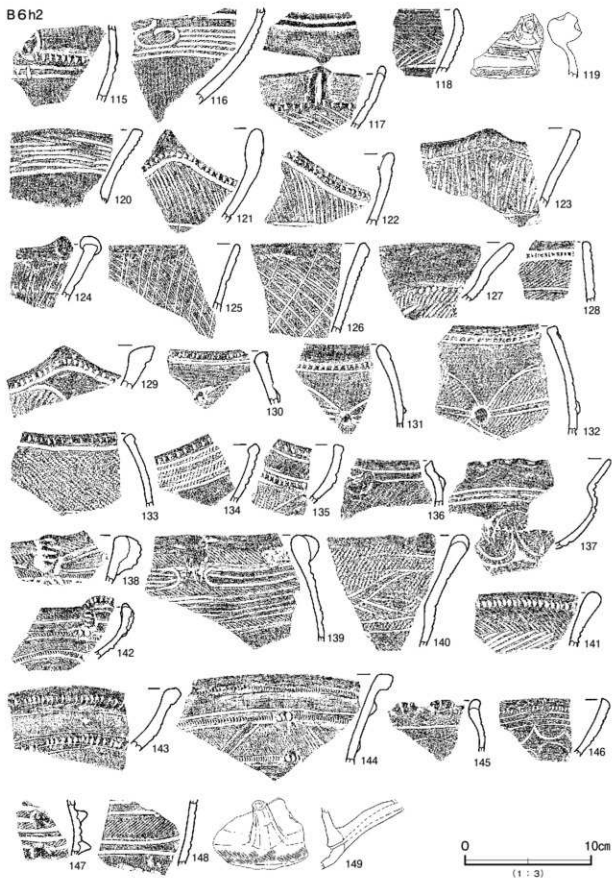
第 269 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(3)

B6h2



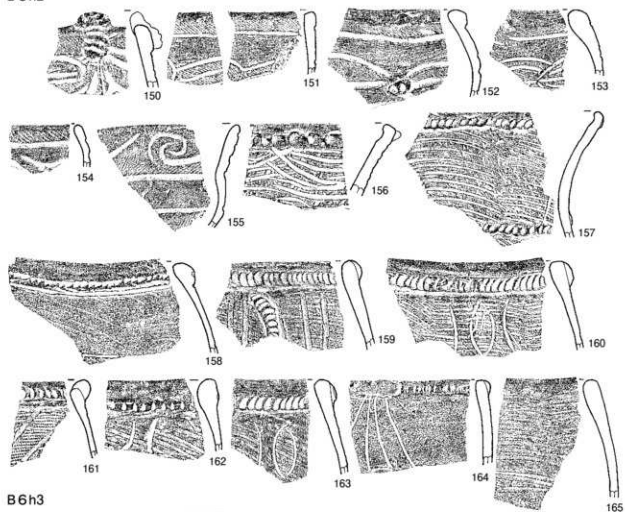
第270图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(4)

B6h2

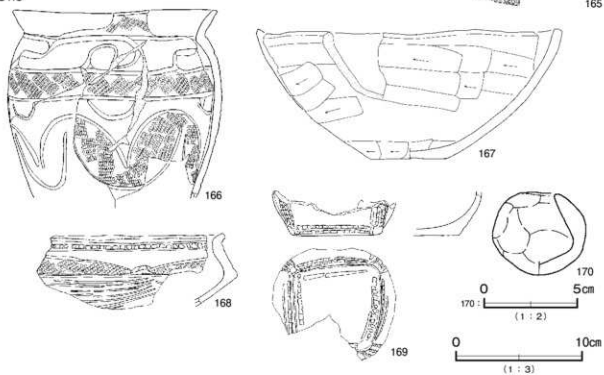


第 271 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (5)

B6h2

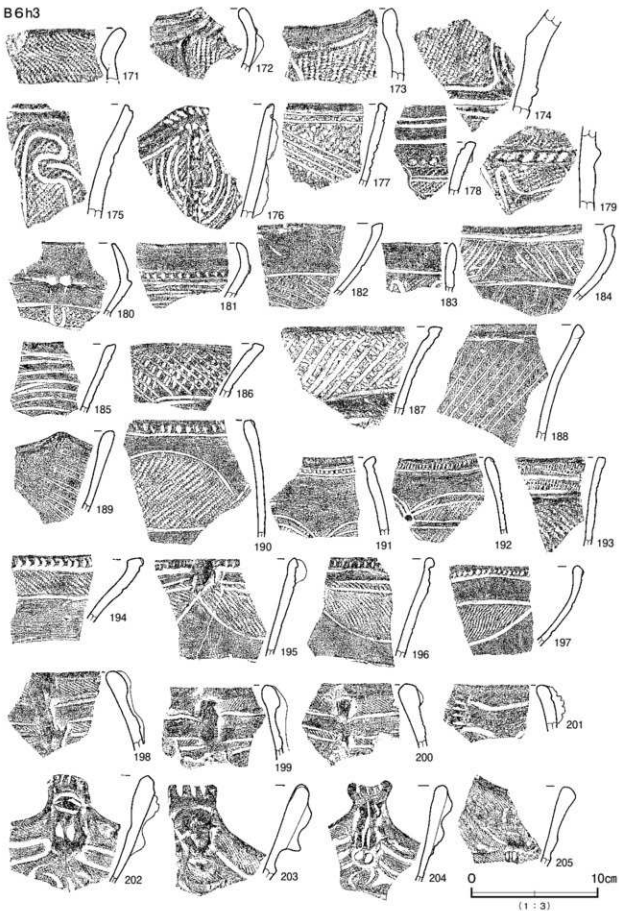


B6h3



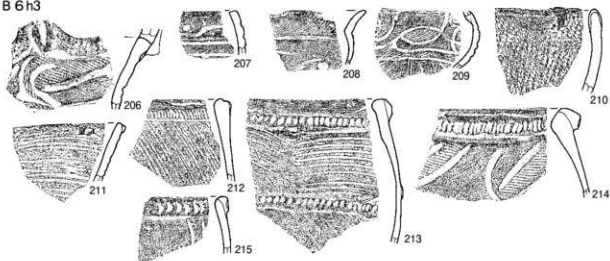
第 272 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (6)

B6h3

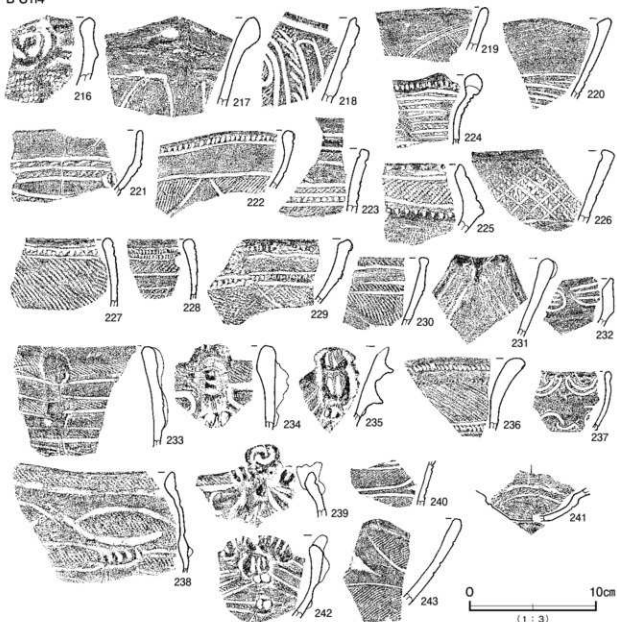


第 273 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (7)

B 6h3

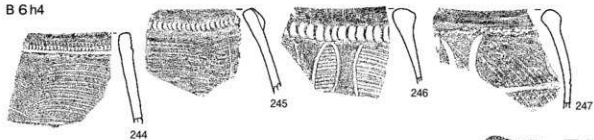


B 6h4

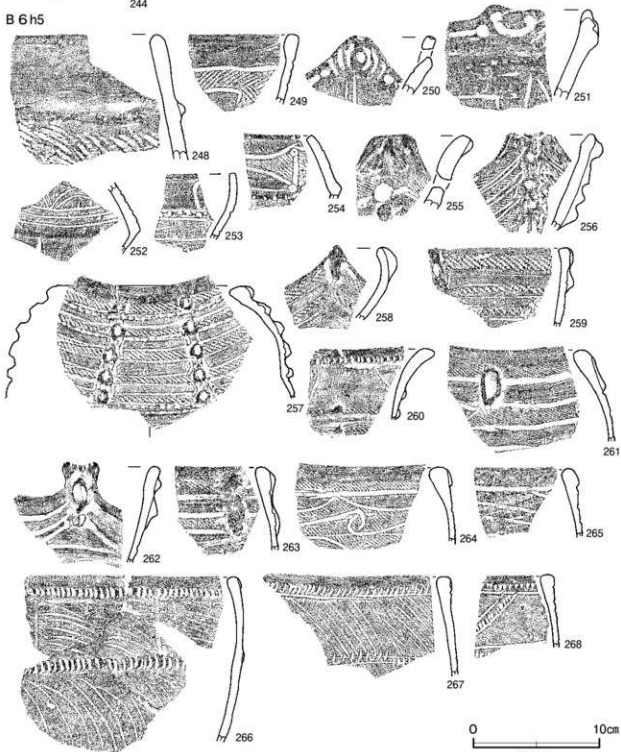


第 274 图 第 2 号道物包含層出土遺物実測図 (8)

B 6 h4



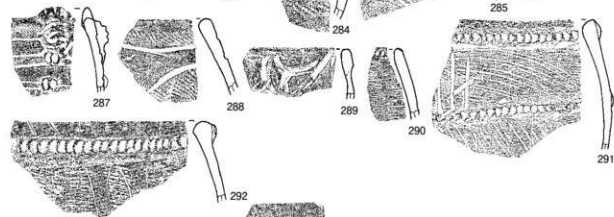
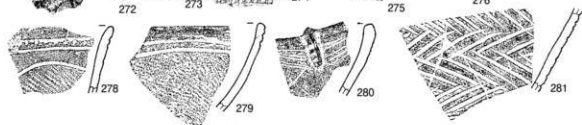
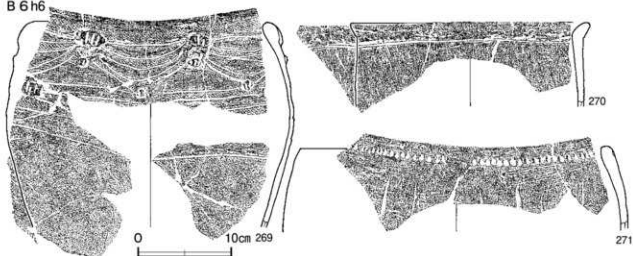
B 6 h5



0 10cm  
(1 : 3)

第 275 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (9)

B 6 h6

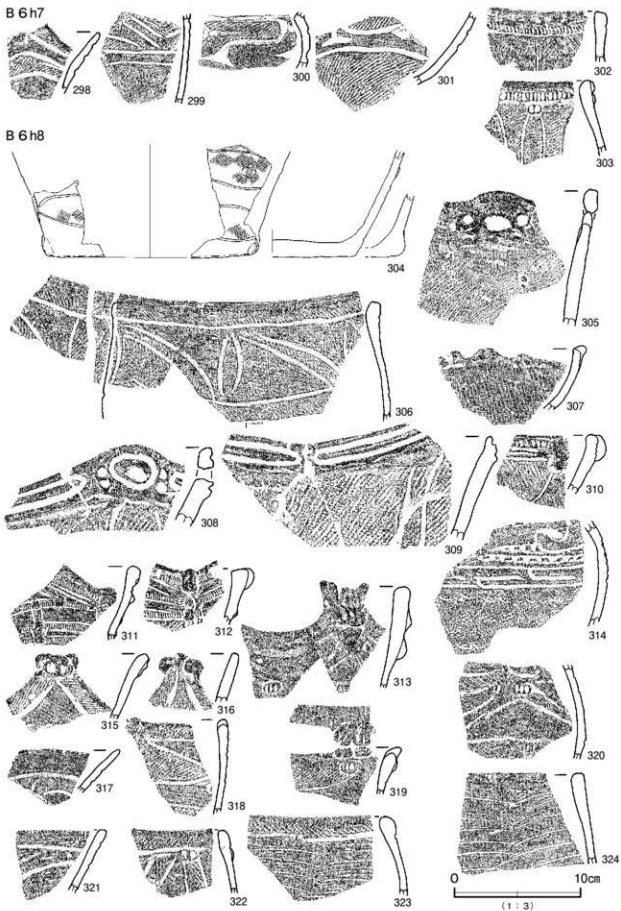


B 6 h7



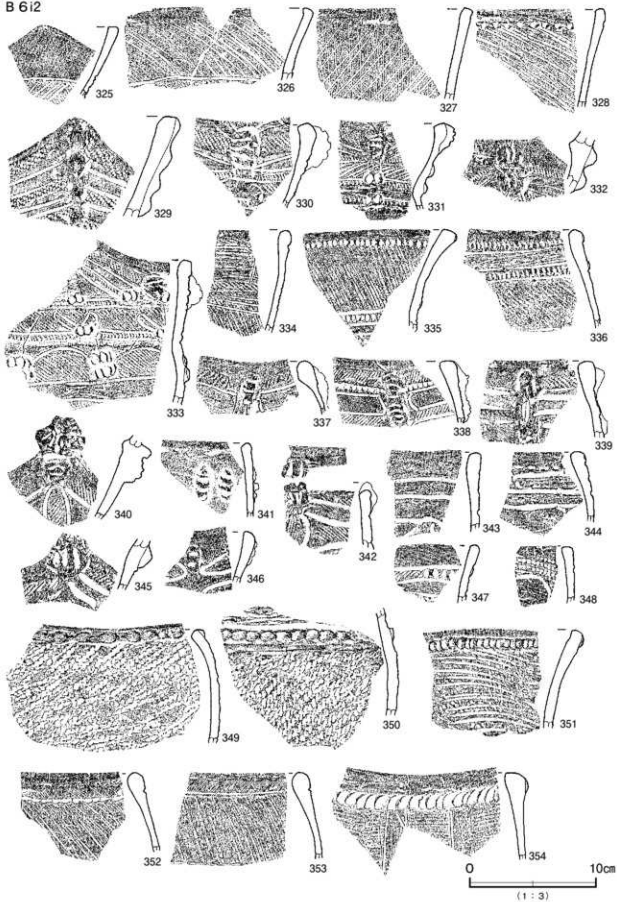
第 276 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (10)





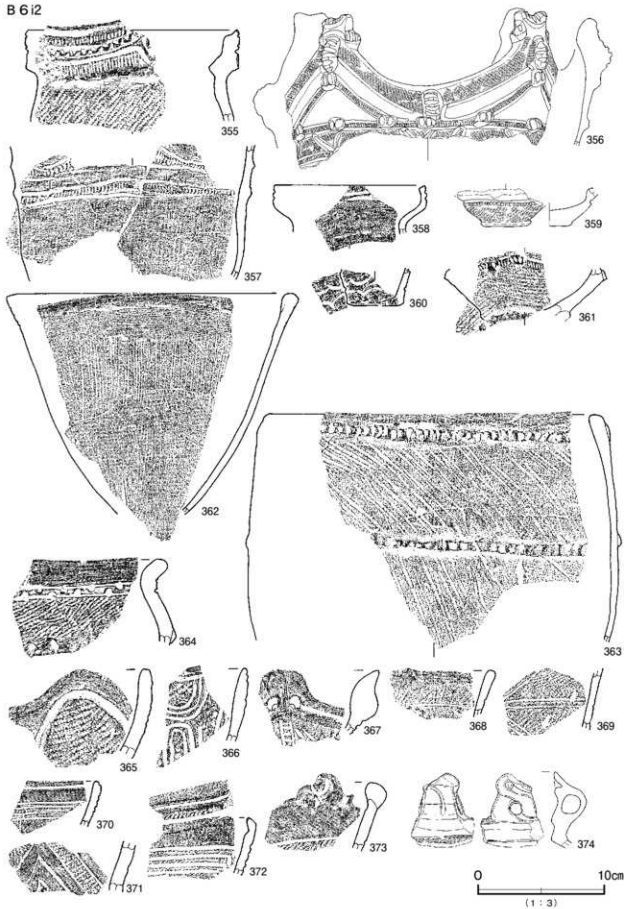
第 277 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (1)

B 612

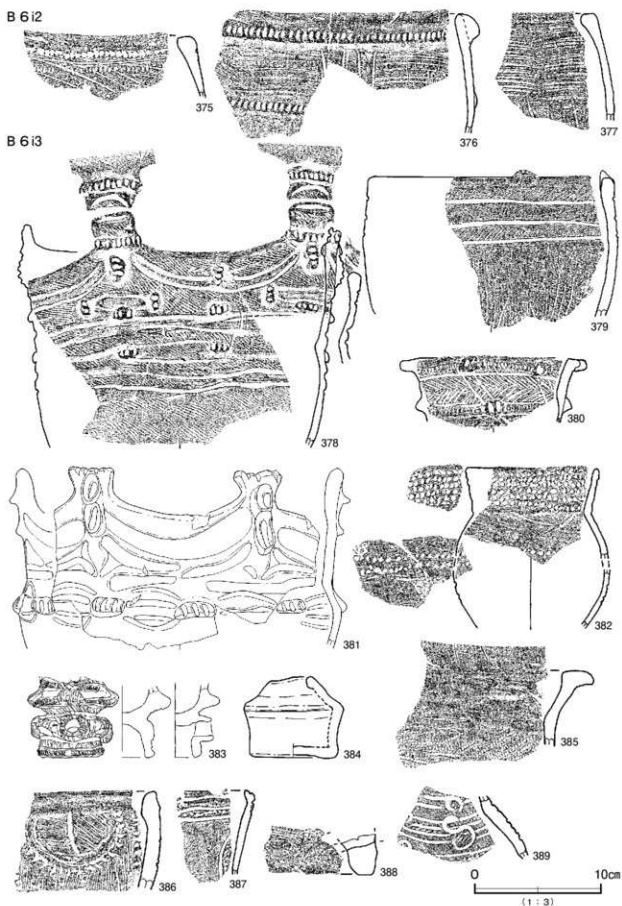


第 278 图 第 2 号道物包含層出土遺物実測図 02

B 612

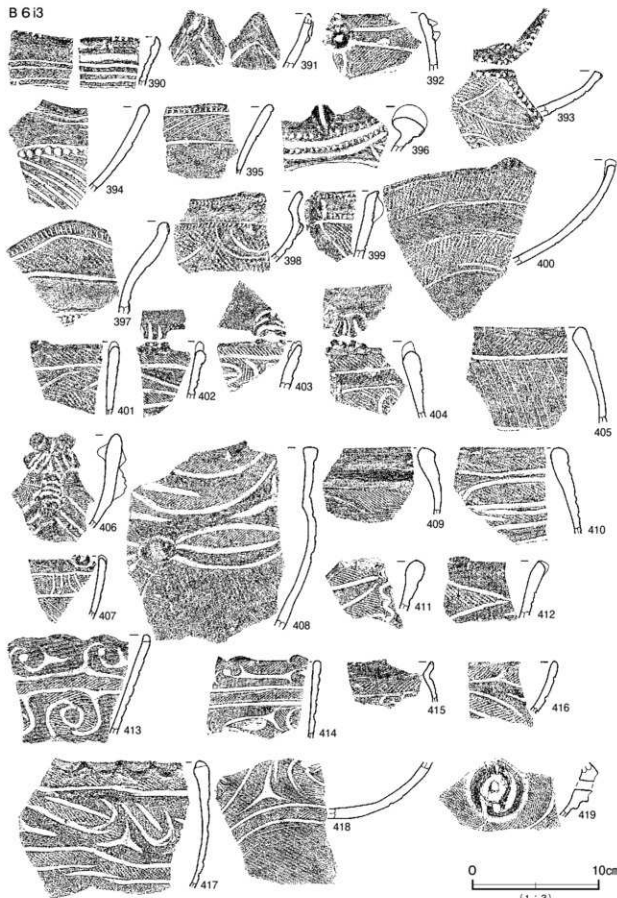


第 279 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)

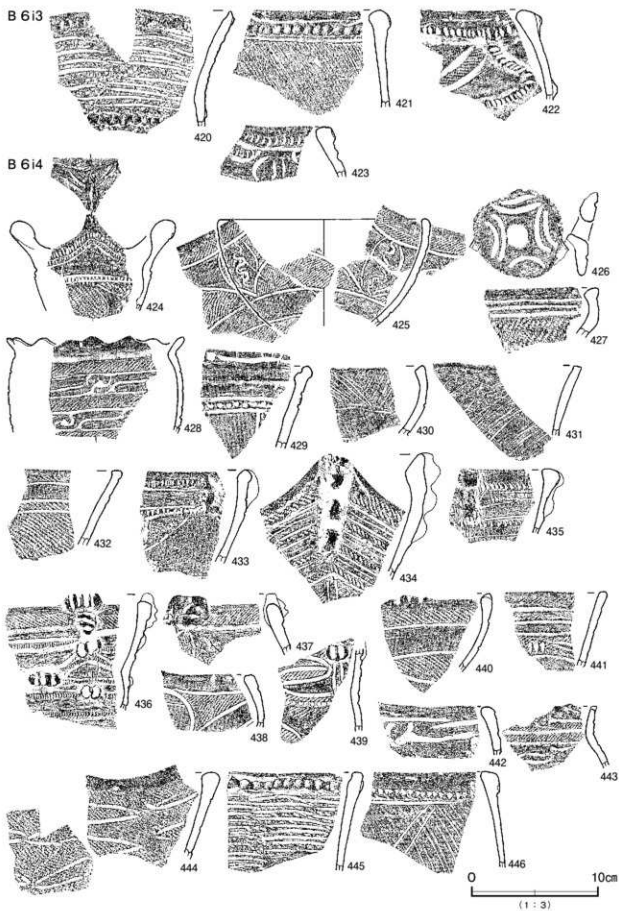


第 280 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图 04

B 613

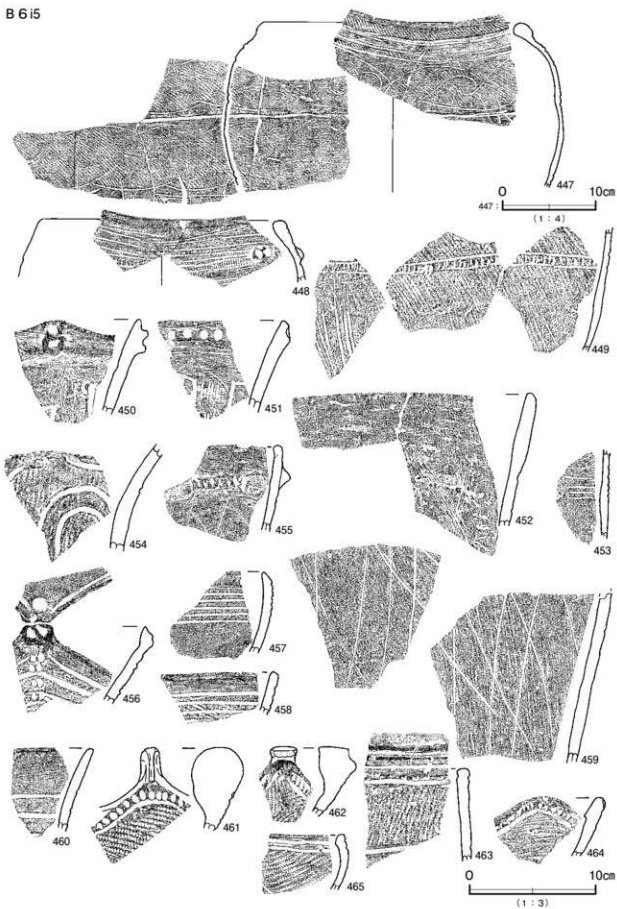


第 281 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (5)



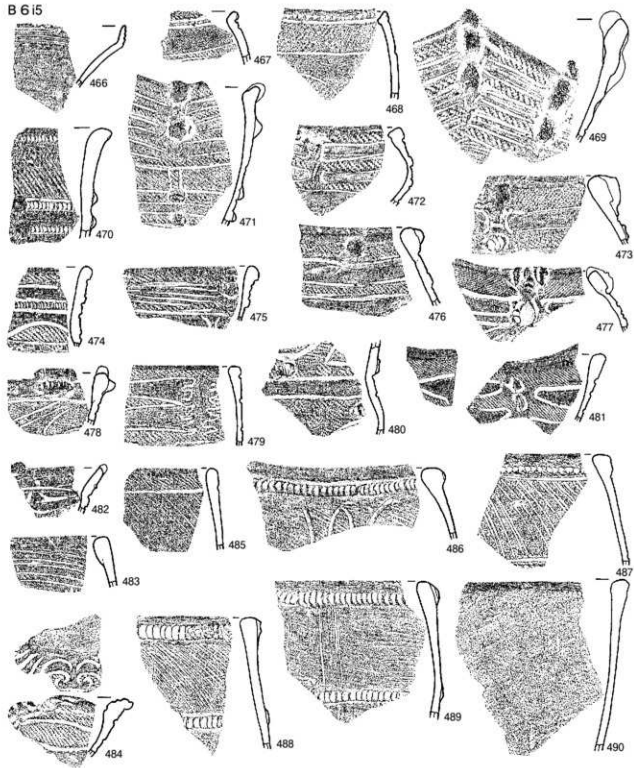
第 282 图 第 2 号道物包含层出土遗物实测图 06

B 615

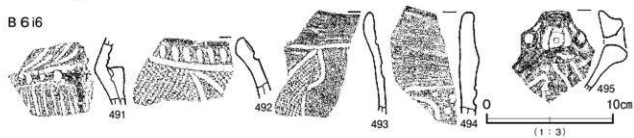


第 283 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (17)

B 6 i5



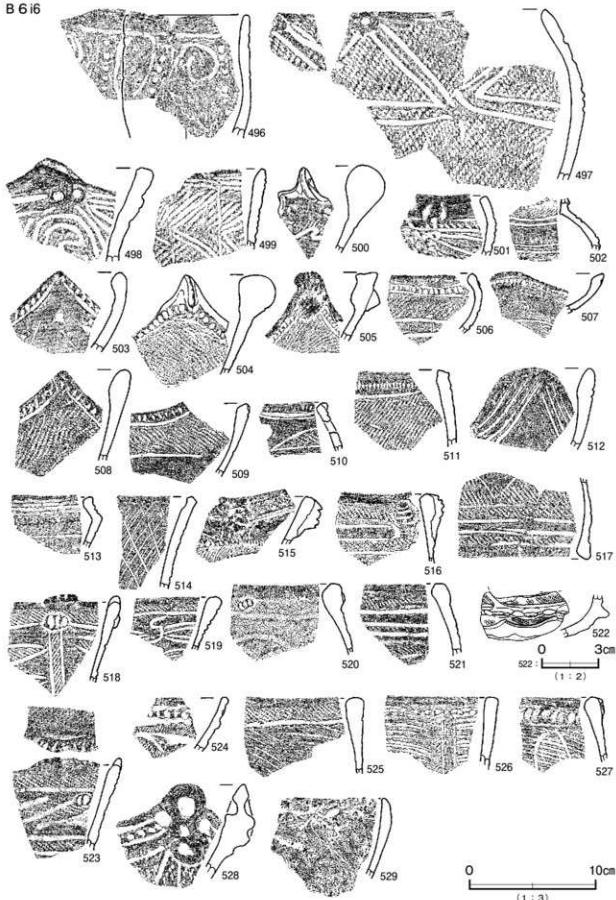
B 6 i6



第 284 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (18)

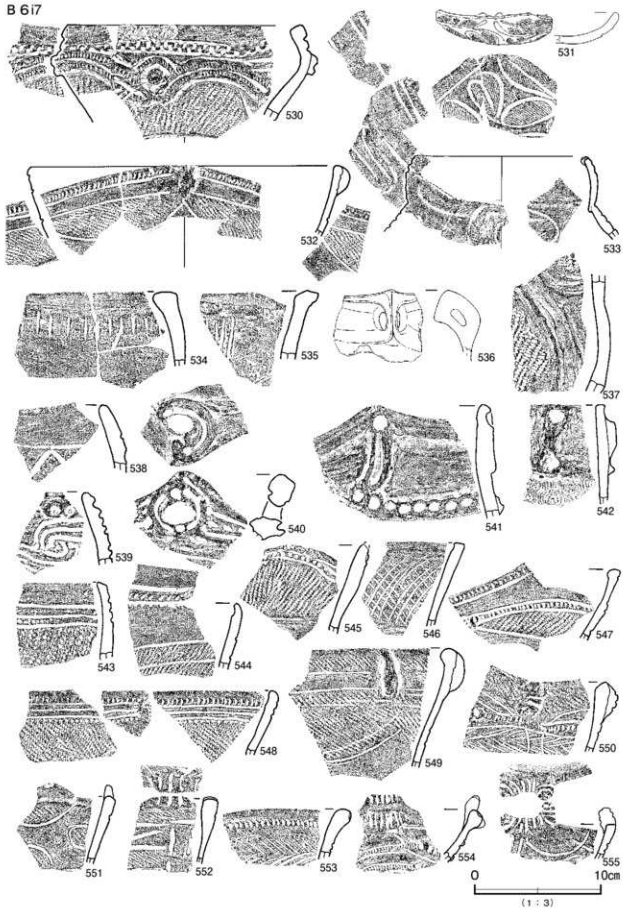


B 6 16



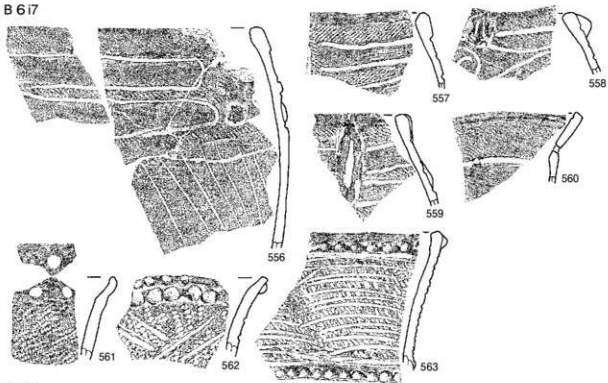
第 285 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (19)

B 617

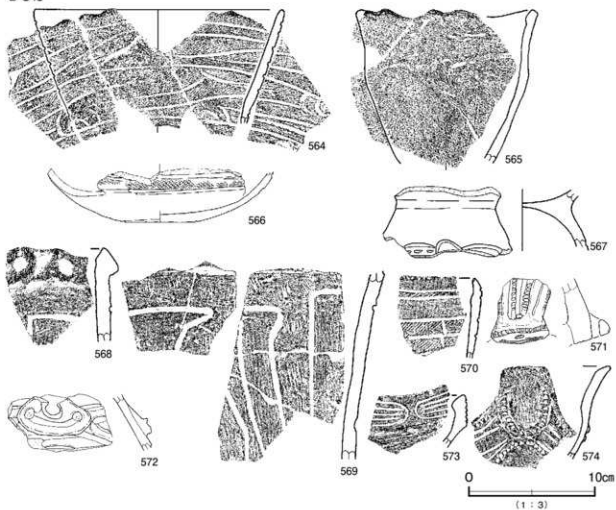


第 286 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图

B 6 i7

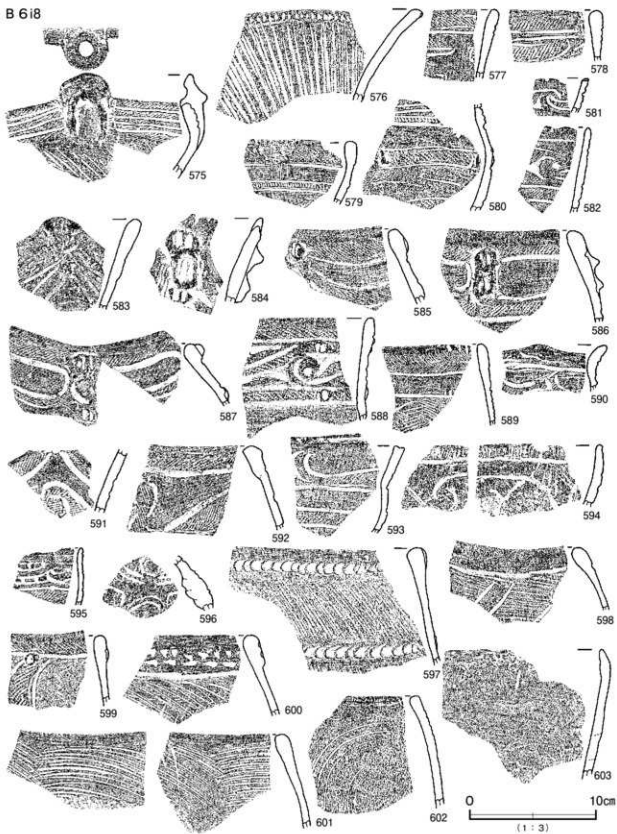


B 6 i8



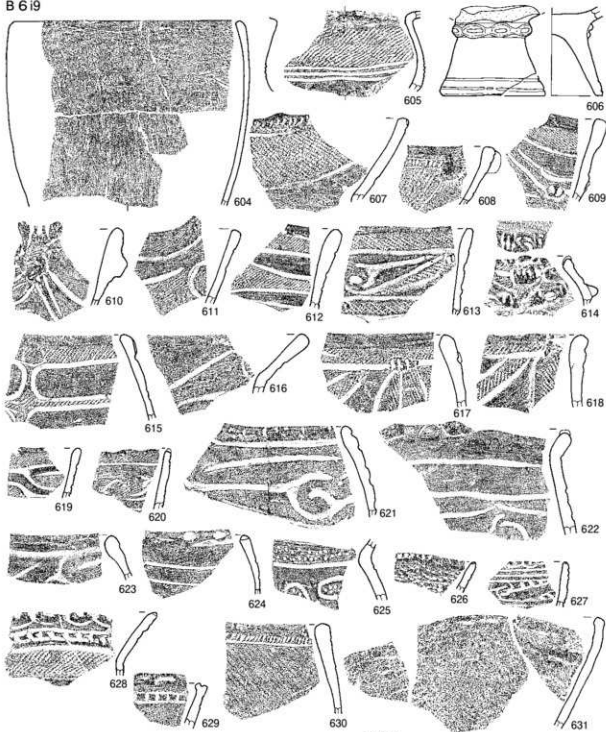
第 287 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 (2)

B 618

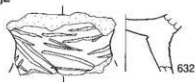


第 288 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 22

B 6 i9



B 6 j2



B 6 j5

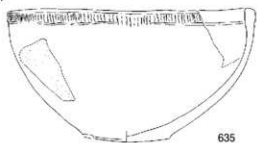


0 10cm  
604 : (1 : 4)

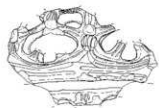
0 10cm  
(1 : 3)

第 289 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (23)

B 6j4



635

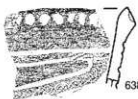


636

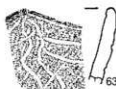
B 6j6



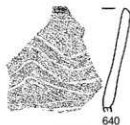
637



638



639



640



641



642



643



644



645



646



647



648



649



650



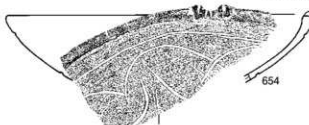
651



652



653



654



655



656



657



658



659

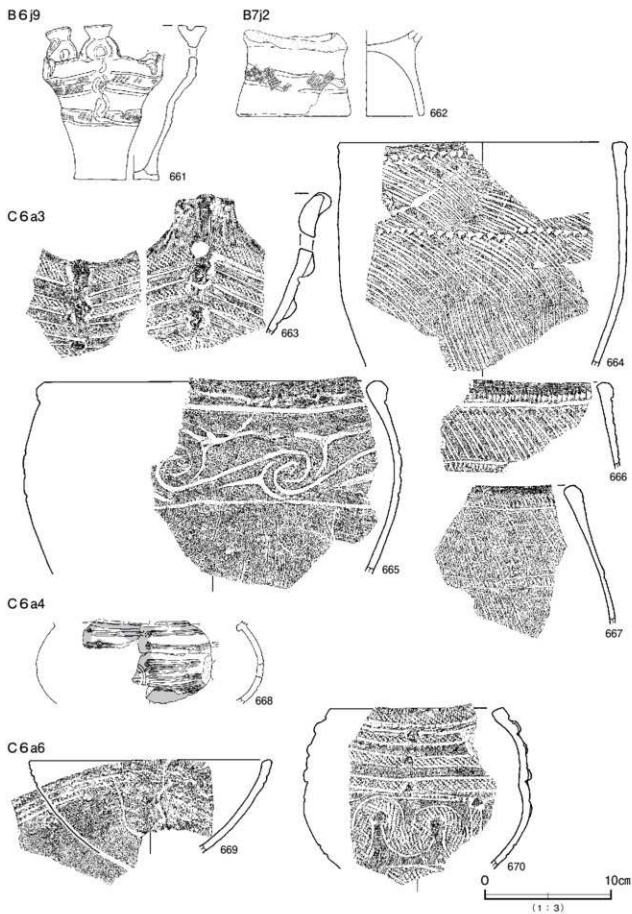


660

0 10cm

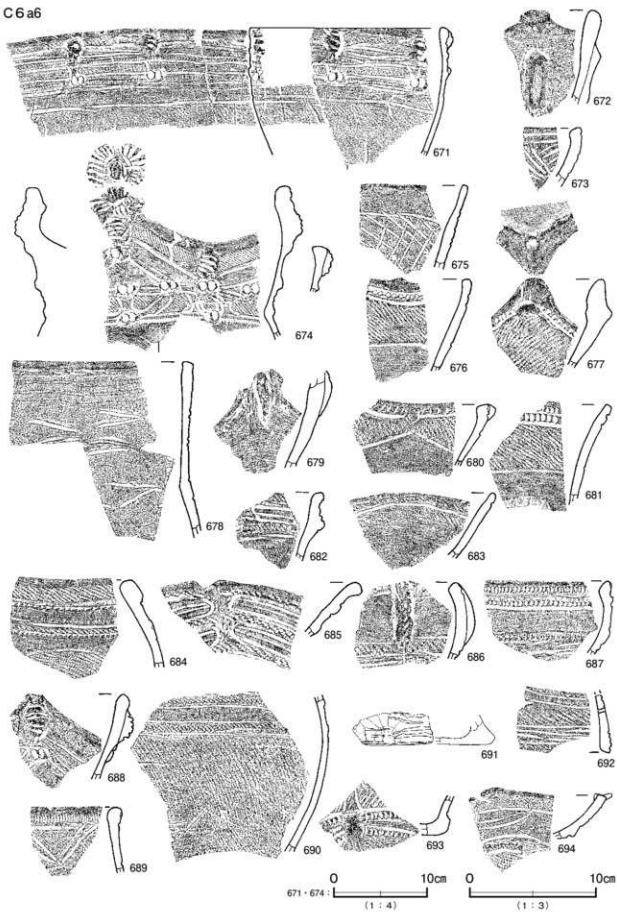
(1 : 3)

第 290 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 24



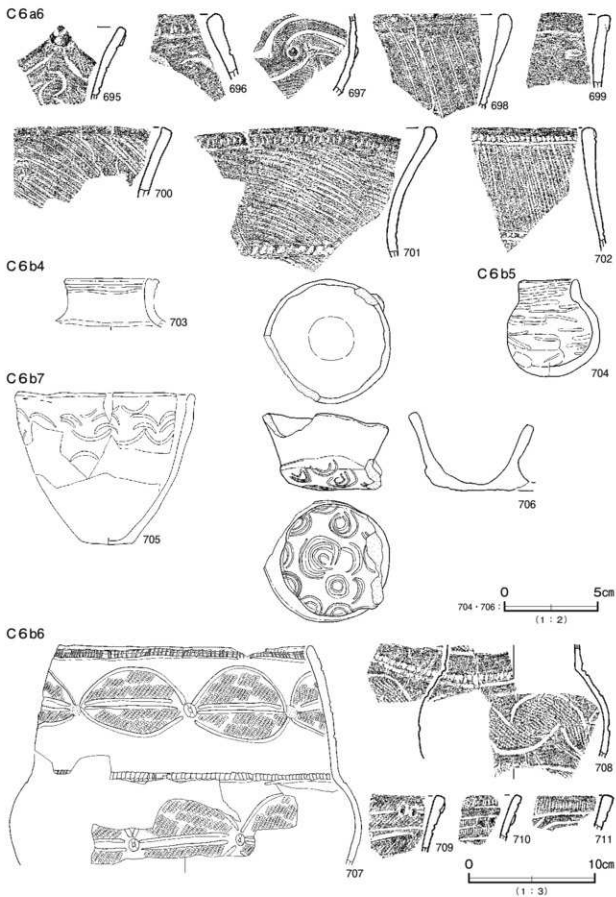
第291图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(5)

C6 a6



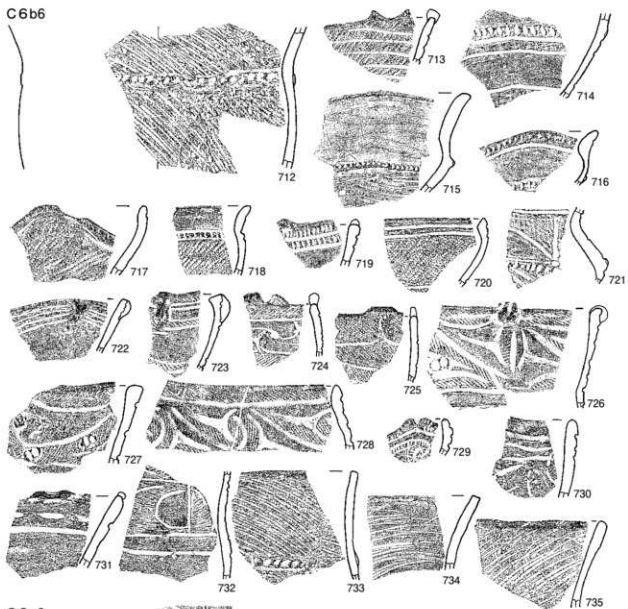
第 292 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図



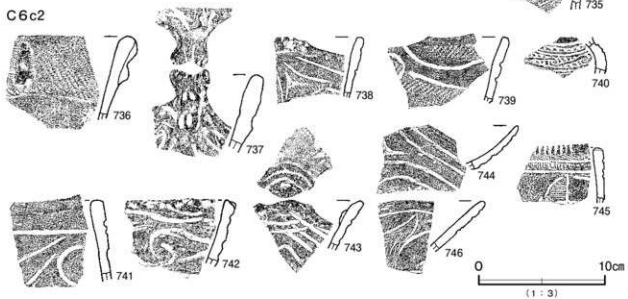


第 293 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図(2)

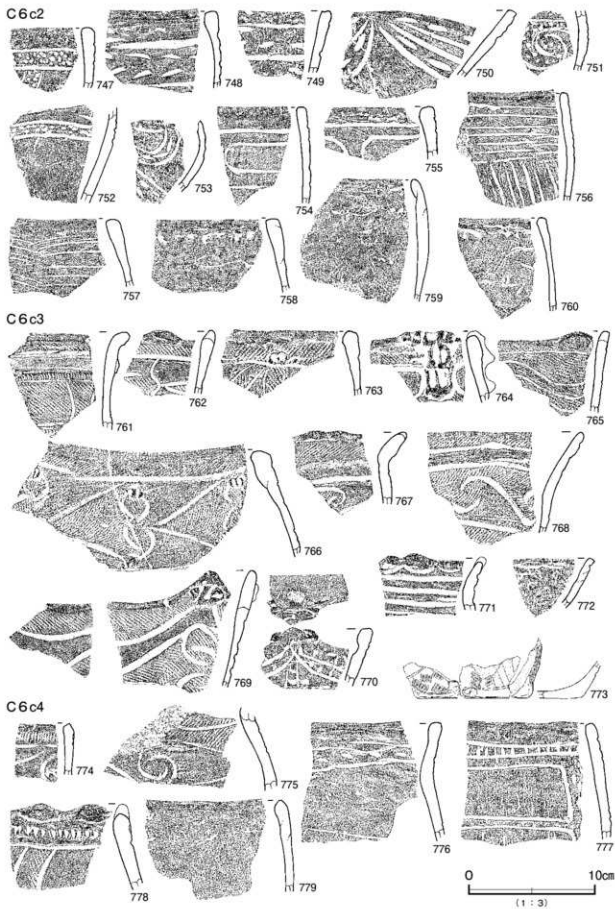
C6b6



C6c2

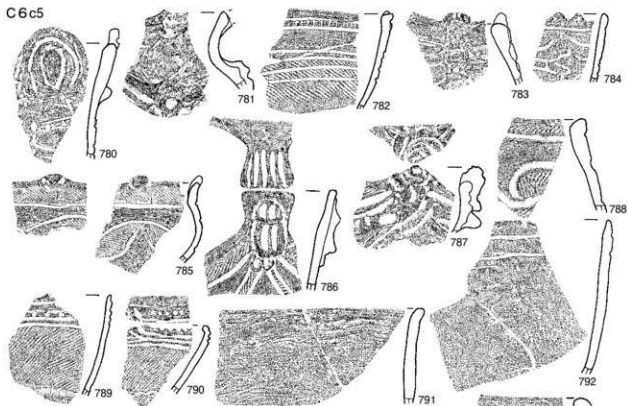


第294图 第2号遺物包含層出土遺物実測図

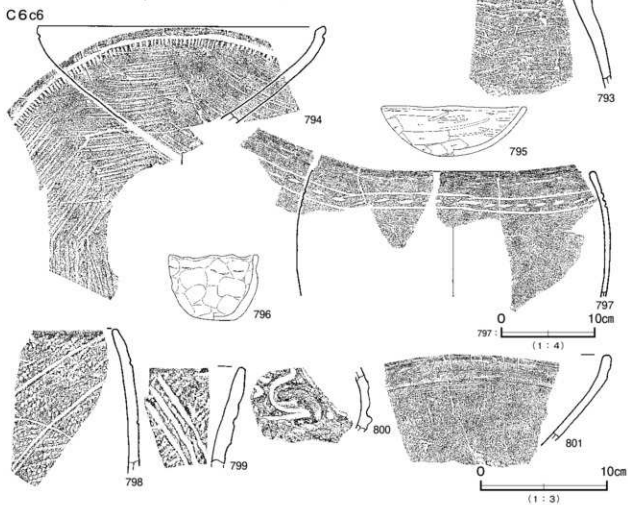


第 295 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)

C6c5

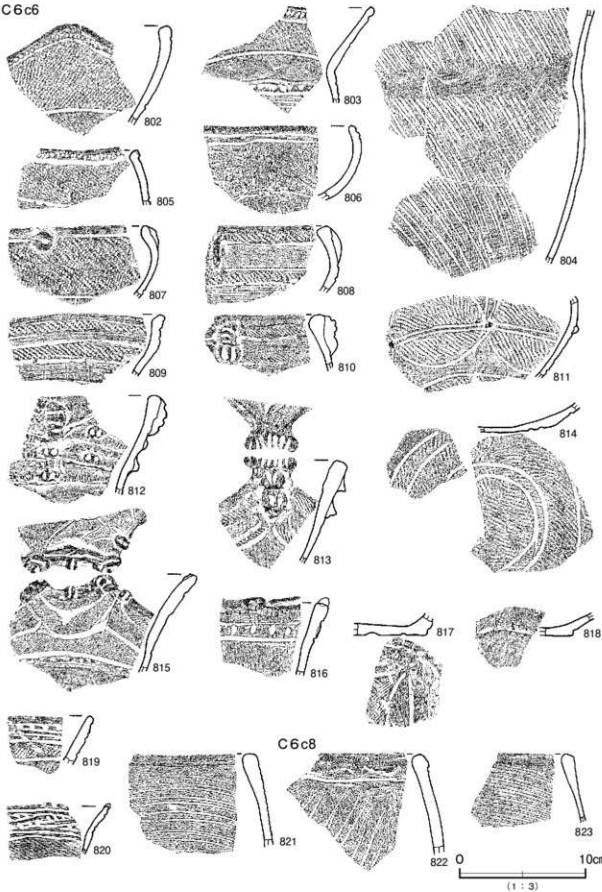


C6c6



第296图 第2号遗物包含层出土遗物实测图 30

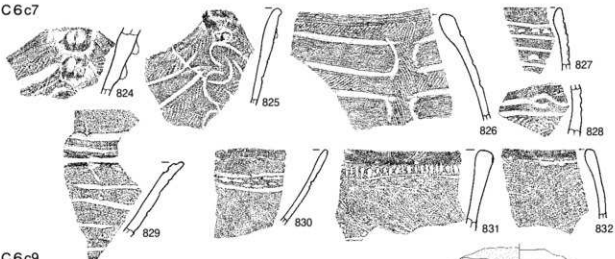
C6c6



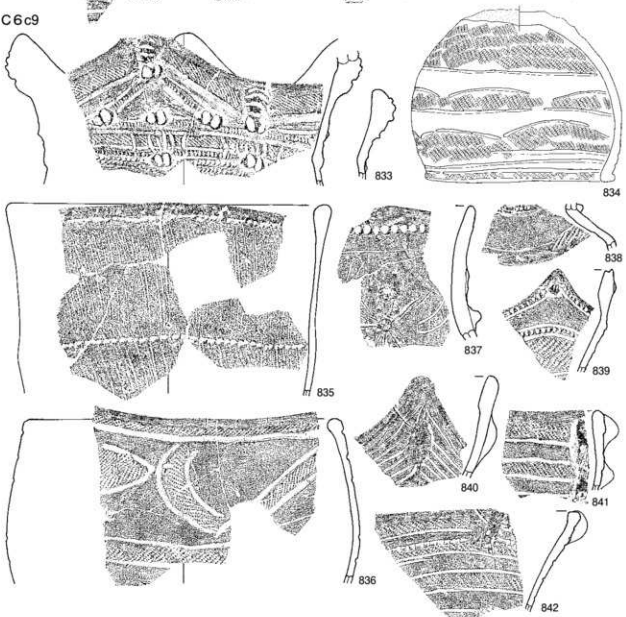
C6c8

第297图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(3)

C6c7



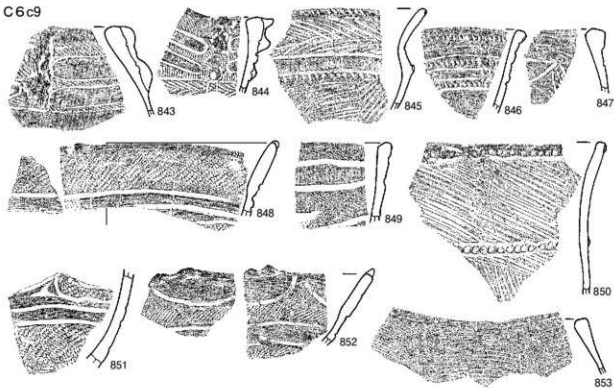
C6c9



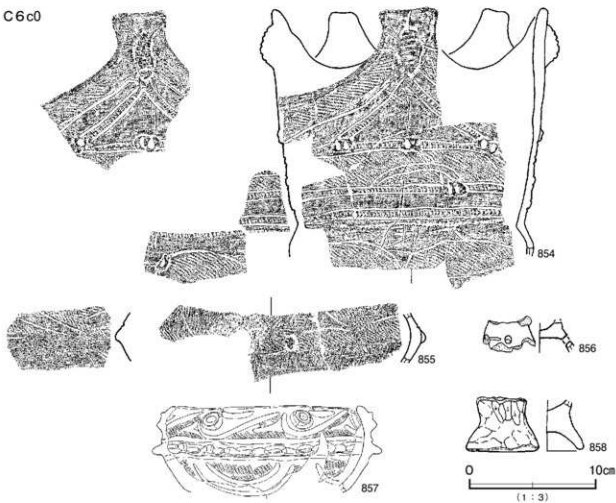
0 10cm  
(1:3)

第298图 第2号遺物包含層出土遺物実測図

C6c9

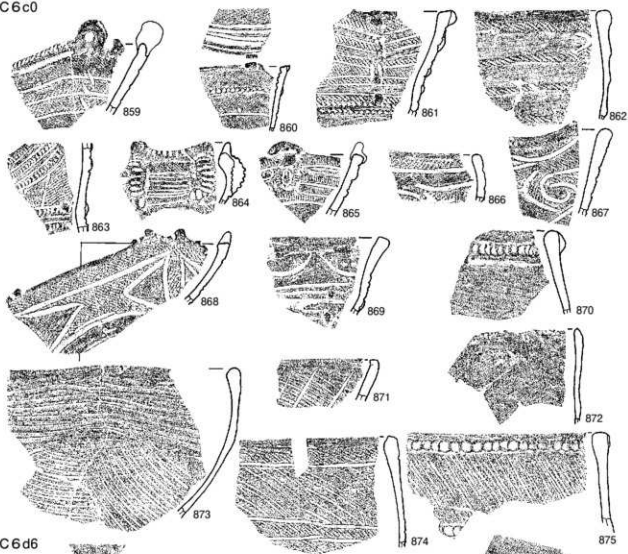


C6c0

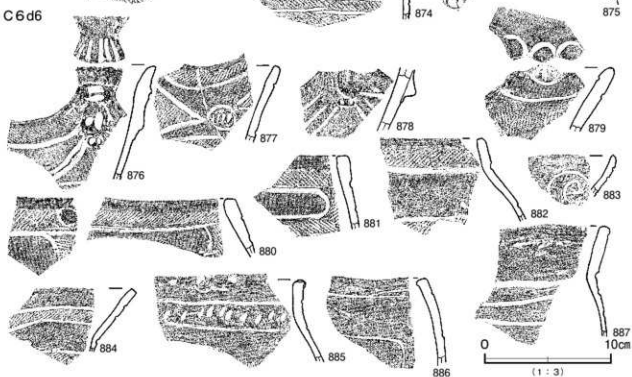


第 299 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)

C6c0

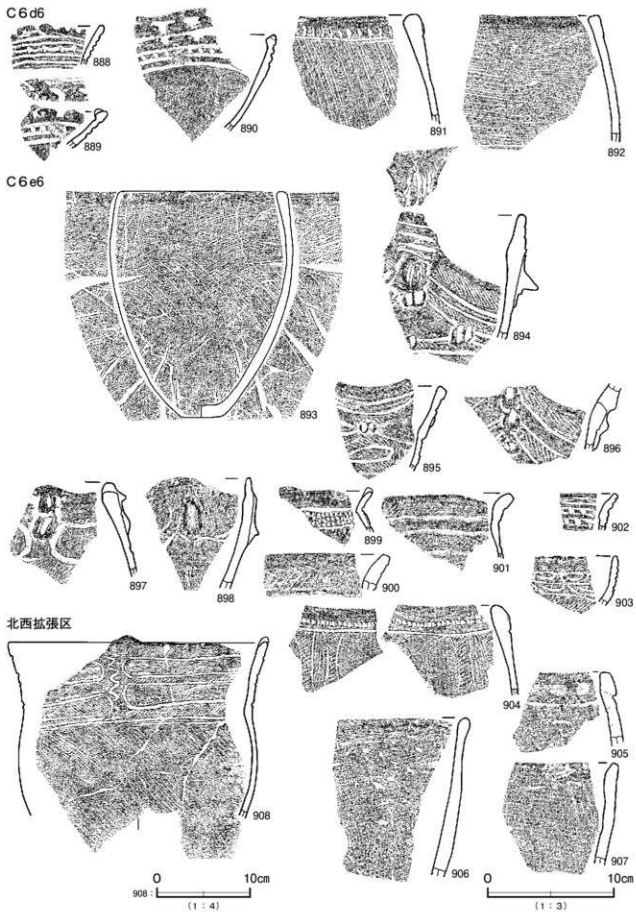


C6d6

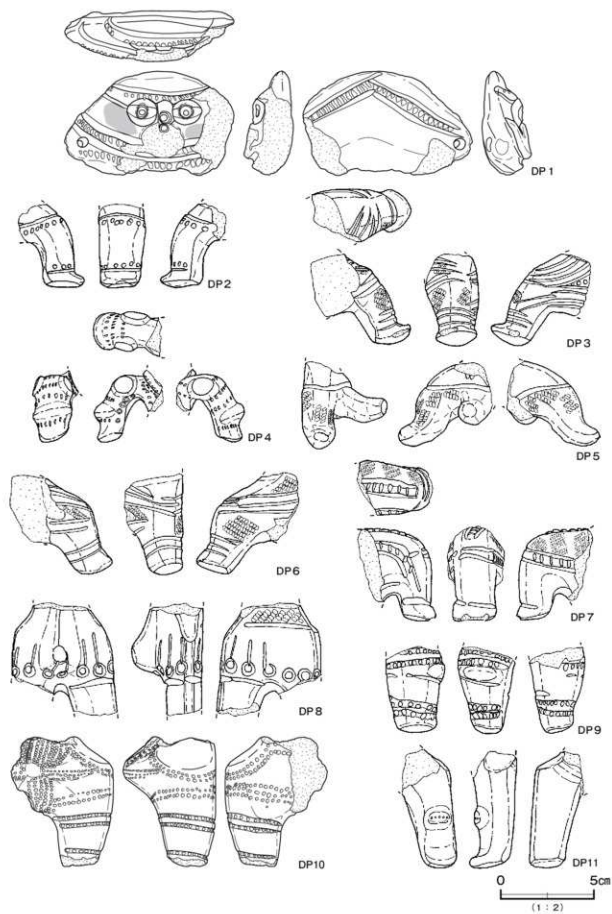


第300图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(34)

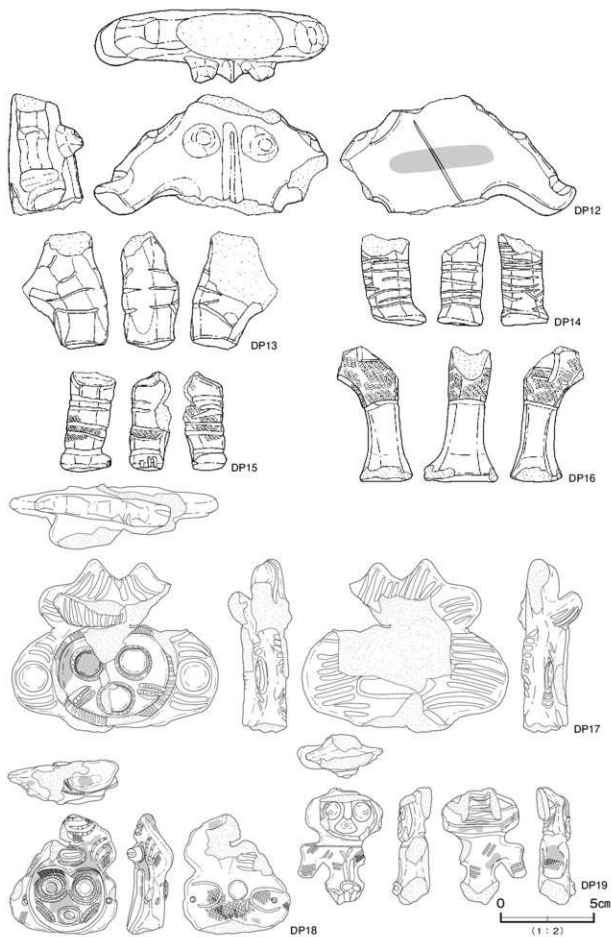




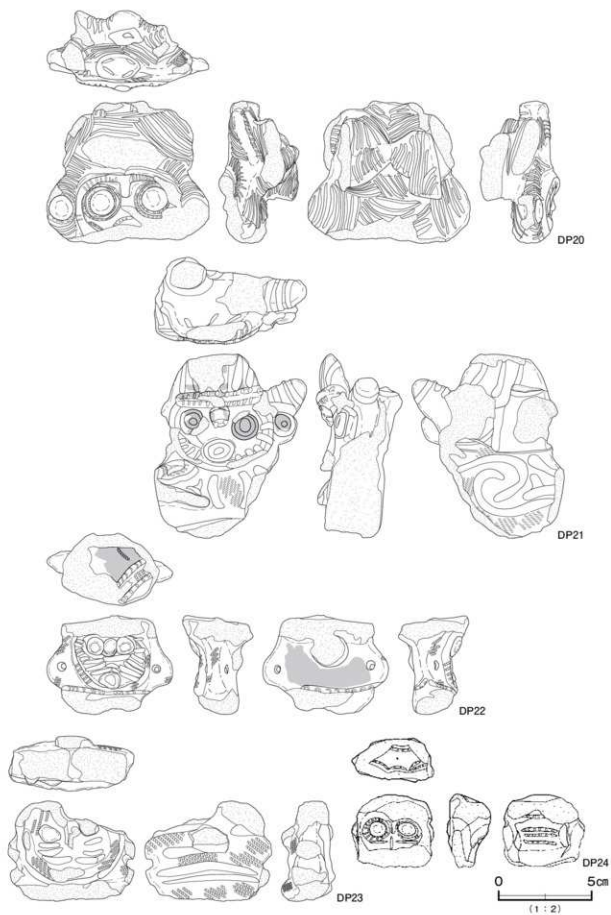
第301图 第2号遺物包含層出土遺物実測図 (35)



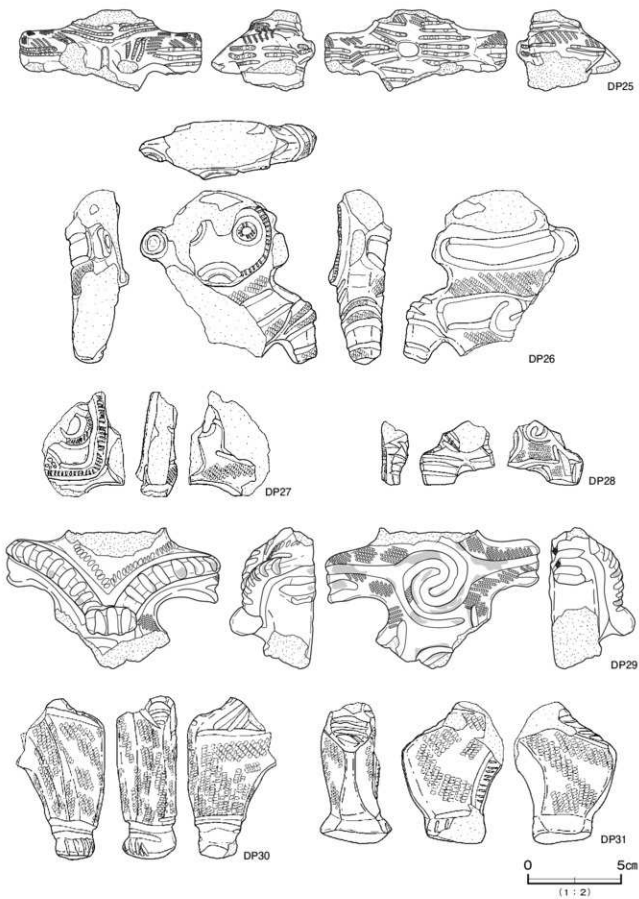
第 302 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (36)



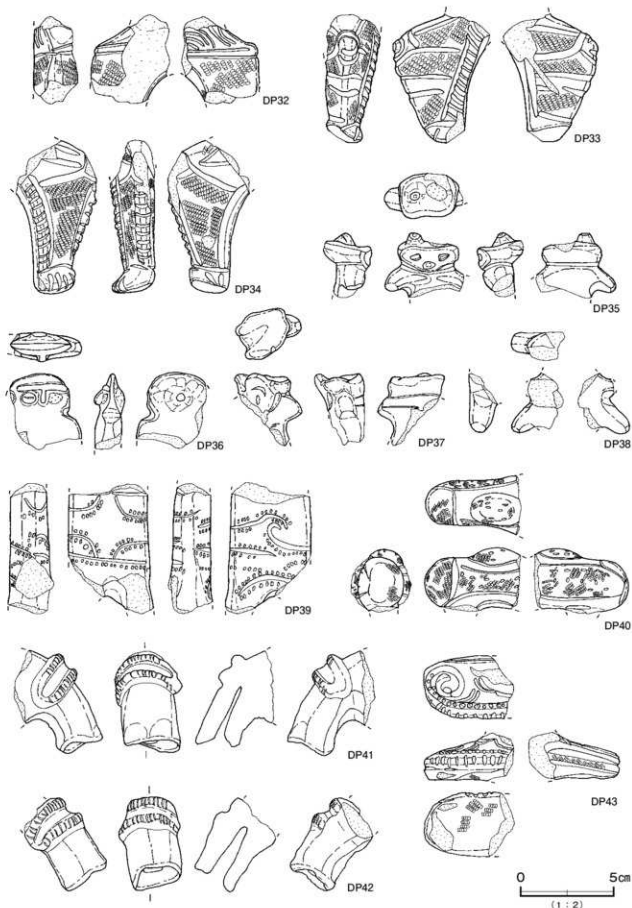
第303图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(3)



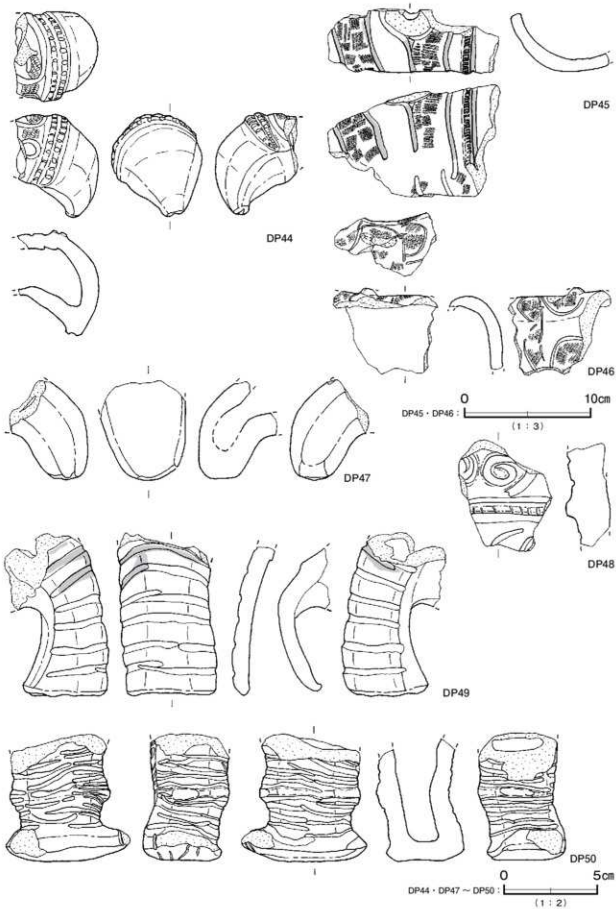
第304图 第2号遺物包含層出土遺物実測図 88



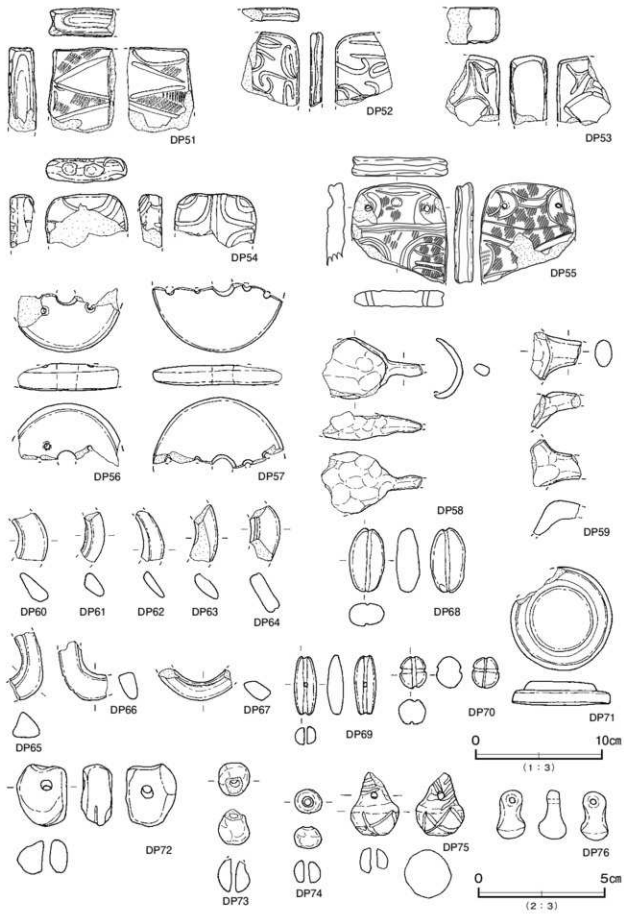
第 305 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (39)



第 306 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (40)

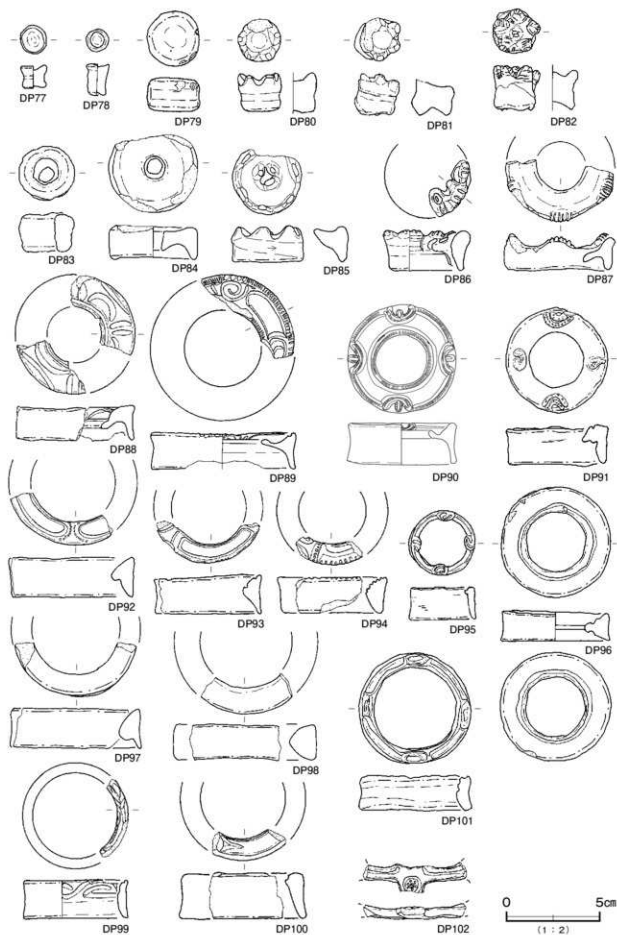


第 307 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (4)

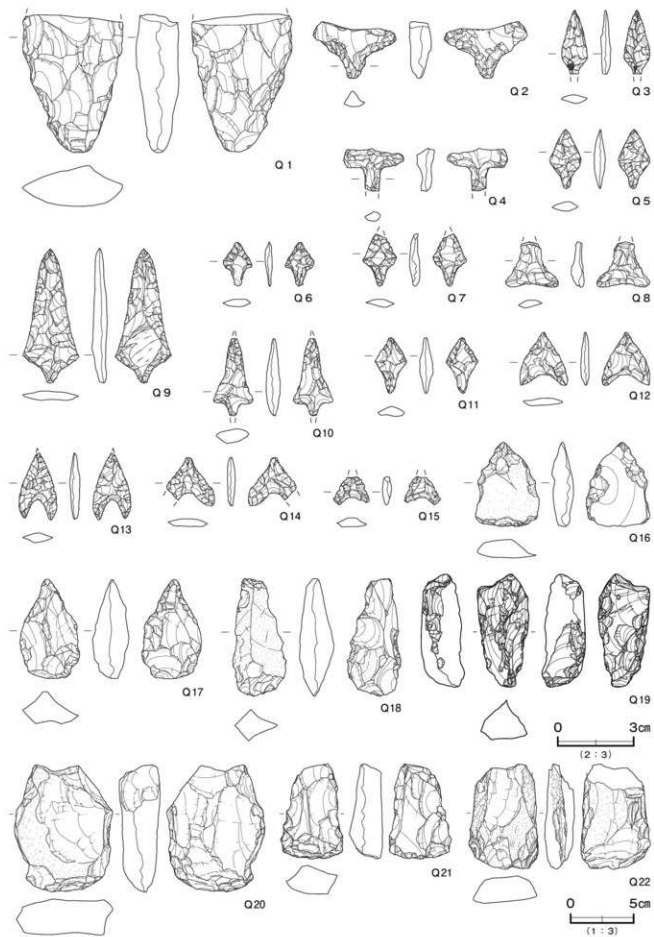


第 308 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图 (42)

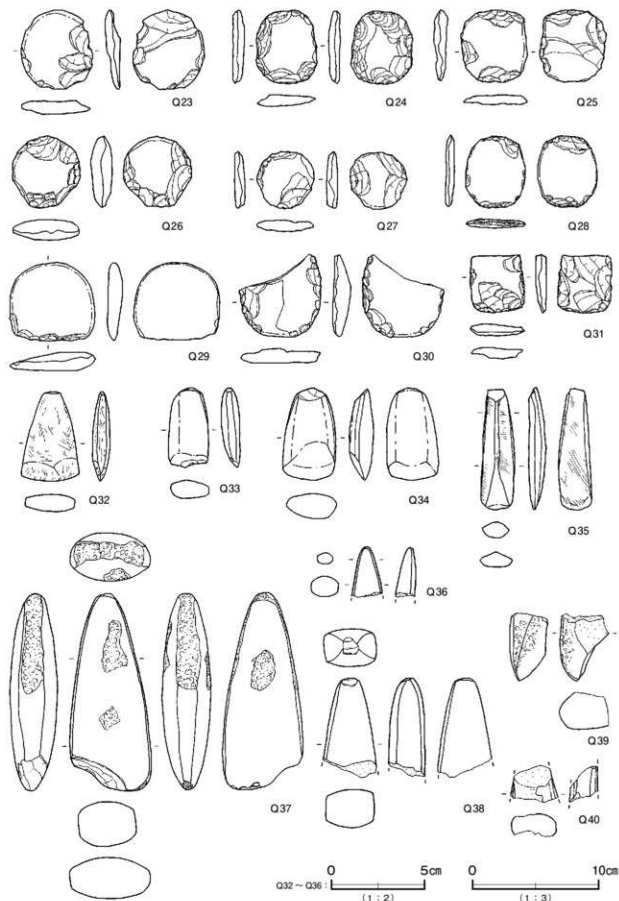




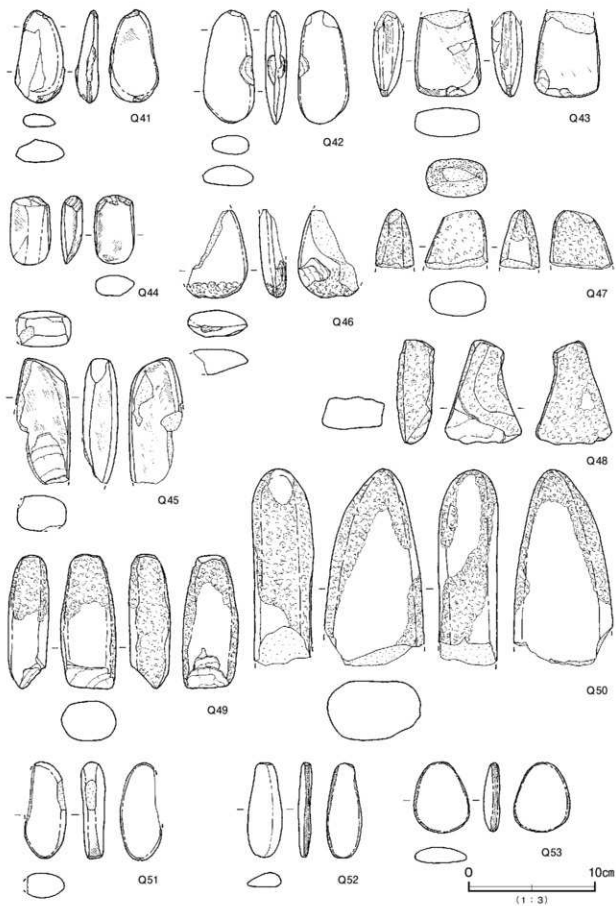
第309图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(43)



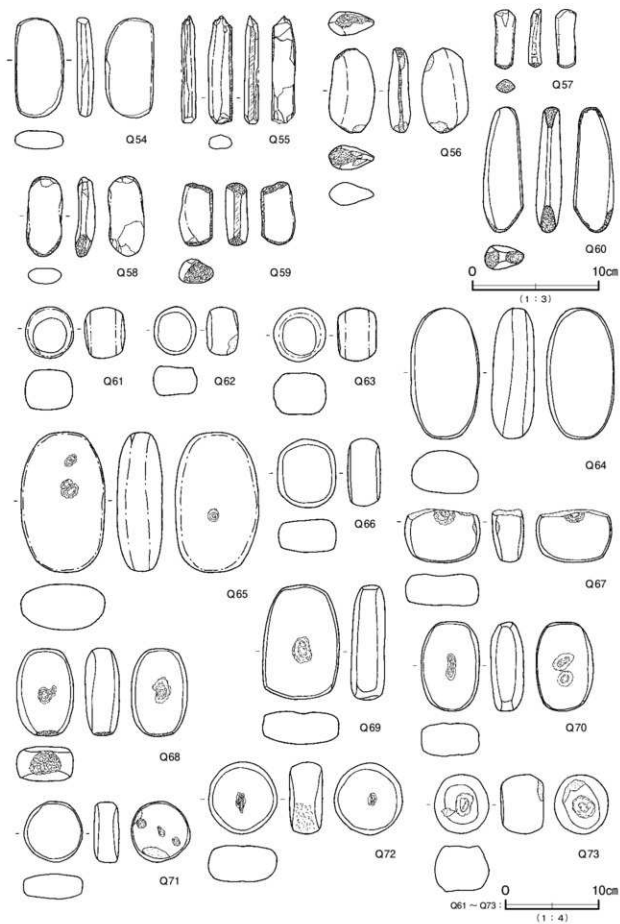
第 310 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (4)



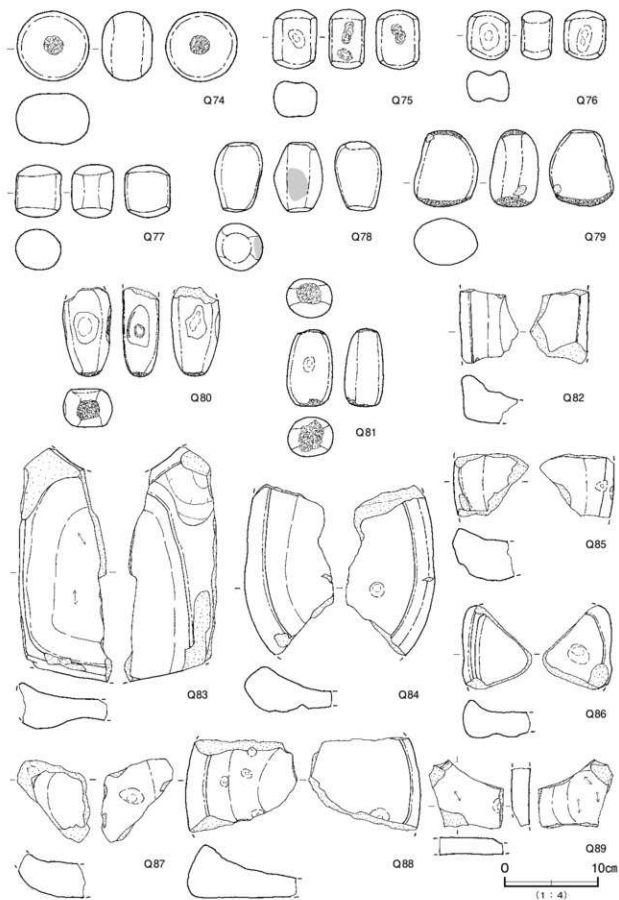
第311图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(45)



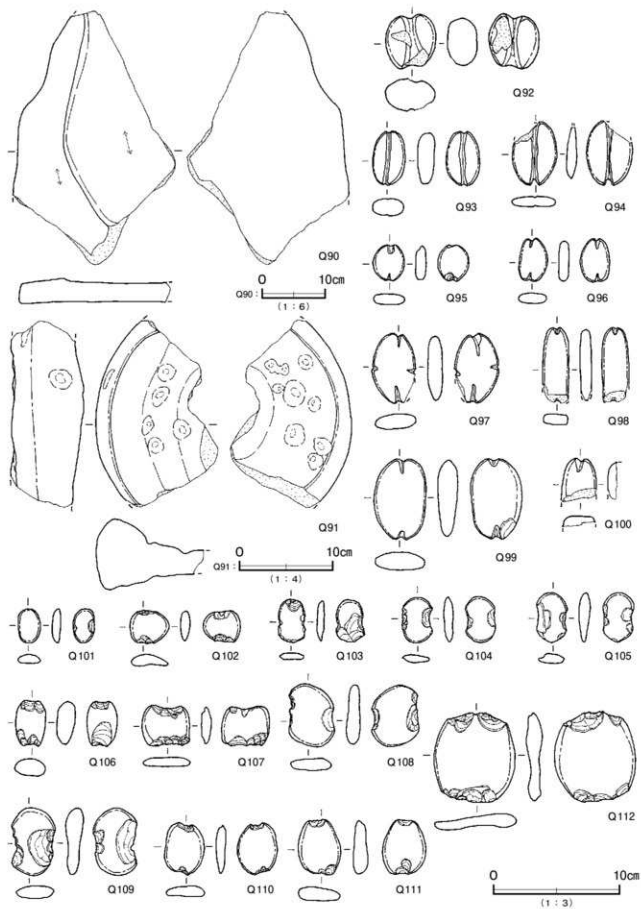
第 312 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 (6)



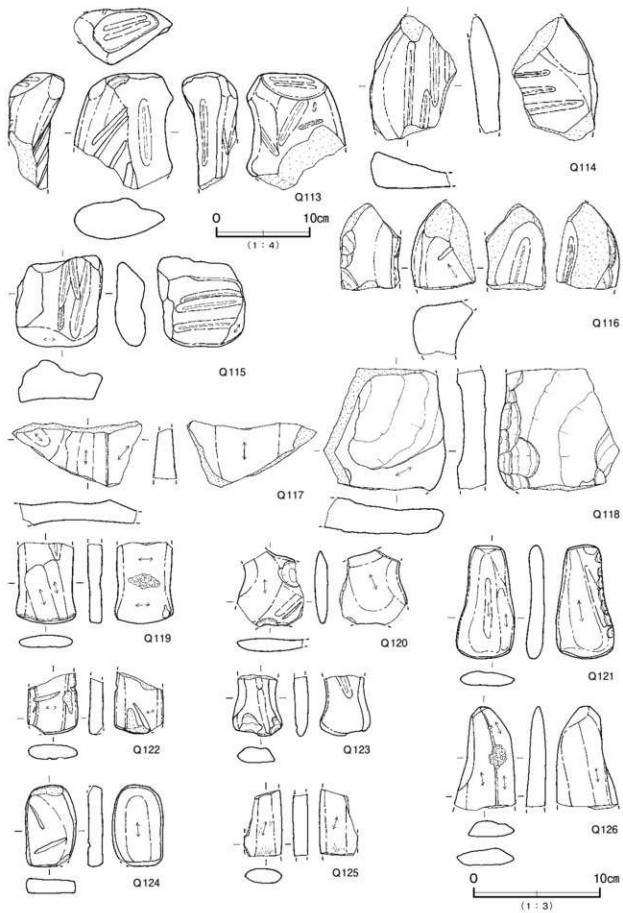
第313图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(7)



第 314 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图 (8)

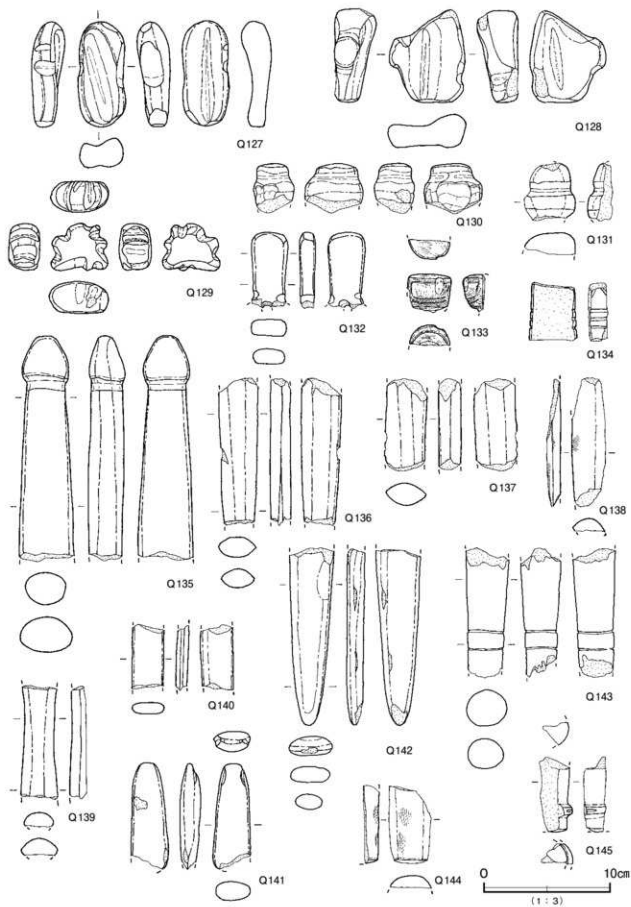


第315图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(89)

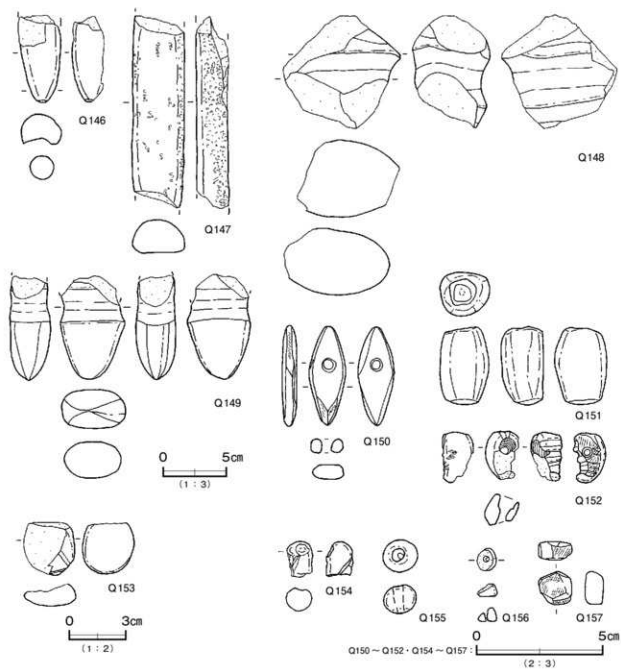


第 316 图 第 2 号遗物包含层出土遗物实测图(5)

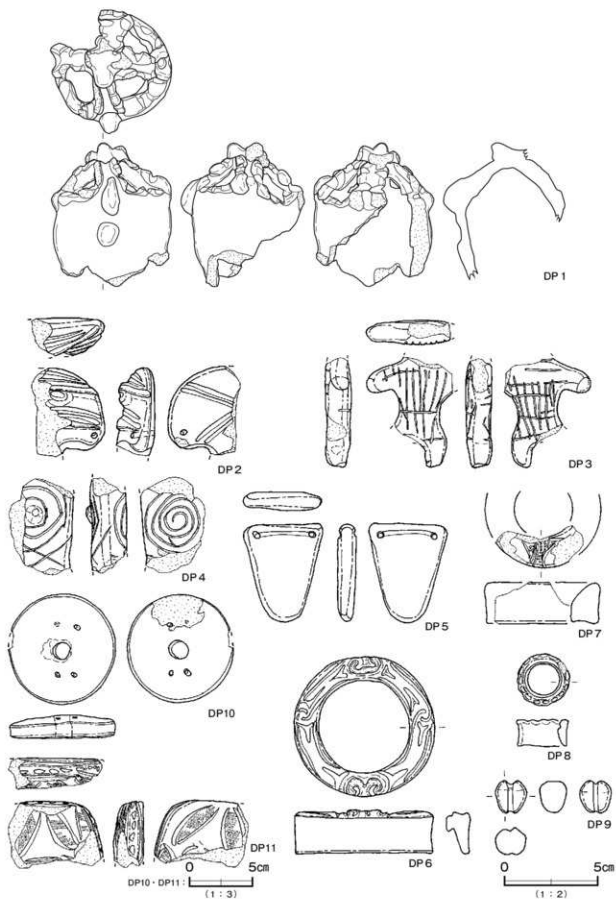




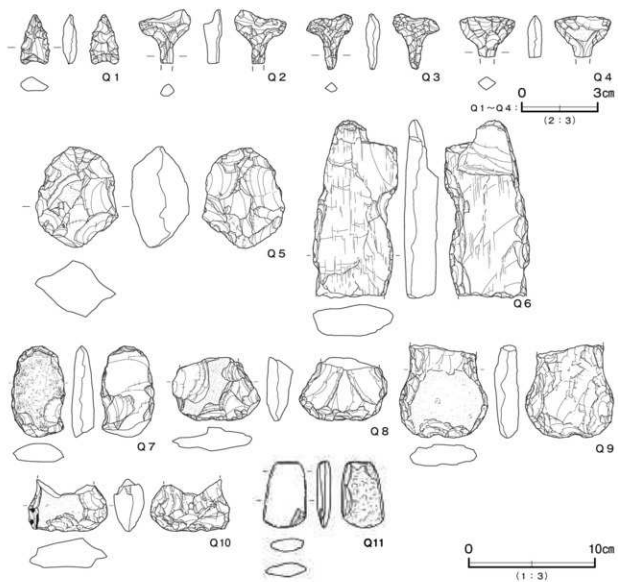
第317图 第2号遺物包含層出土遺物実測図(5)



第 318 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 52



第319图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第 320 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)

第2号遺物包含層出土遺物観察表(第267~318図) ※出土位置の数値は、出土標高を表す。

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
55	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	靑	普通	外面沈線→黒赤文土→無文部磨き	内面ナデ	1x (2層)	
56	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面LR縄文→縁線貼付→背割による沈線	内面磨き	3x (25層)	
64	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色鉄質	にぶい靑	普通	外面LR縄文→縁線貼付	内面磨き	6x (27層)	
58	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒靑	にぶい赤靑	普通	外面赤線→付点線文	内面磨き	5x (26層)	
59	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい靑	普通	外面赤線→縁線貼付→胴部区画文	内面ナデ	6x (27層)	
60	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面赤線→縁線貼付	内面ナデ	2x (2層)	
61	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい靑	普通	外面赤線→縁線貼付→胴部区画文	内面ナデ	4x (26層)	
62	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤靑	普通	外面LR縄文→縁線貼付	内面磨き	3x (25層)	
63	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい靑	普通	外面LR縄文→集合沈線文	内面磨き	3x (25層)	
64	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外・内面磨き		3x (25層)	
65	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	灰黄靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	2層	
66	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい靑	普通	外面沈線→LR縄文	内面ナデ	2層	
67	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	赤靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	2層	
68	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色鉄質	靑	普通	外面沈線→LR縄文	内面磨き	25層	
69	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤靑	普通	外面格子目文→胴部磨き	内面磨き	25層	
70	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文	内面ナデ	27層	
71	陶文土器	小笠鉢	7.2	7.5	3.0	長石・石英・雲母	黒靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	18.542 38層	
72	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	27層	
73	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	25層	
74	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤靑	普通	外面沈線→LR縄文	内面ナデ	2層	
75	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面隆起帯上LR縄文	内面ナデ	3x	
76	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	2 x	
77	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい靑	普通	外面隆起帯筋沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	25層	
78	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色鉄質	靑	普通	外面沈線→無筋LR縄文	内面ナデ	3 x	
79	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面沈線→LR縄文	内面磨き	27層	
80	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
81	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面隆起帯筋沈線→無筋LR縄文	内面ナデ	5 x	
82	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
83	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	黒靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	5 x	
84	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面胴部区画	内面ナデ	5 x	
85	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい靑	普通	外面赤線→縁線貼付	内面磨き	25層	
86	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄靑	普通	外面赤線→縁線貼付→胴部区画文	内面磨き	4 x	
87	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤靑	普通	外面付点線文	胴部区画文	内面ナデ	25層
88	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	靑	普通	外面赤線→付点線文	内面磨き	27層	
89	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面赤線→縁線貼付→胴部区画文	内面ナデ	25層	
90	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい靑	普通	外面赤線→縁線貼付→胴部区画文	内面ナデ	5 x	
91	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面縁線貼付→胴部区画文→無文部磨き	内面ナデ	2 x	
92	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	靑	普通	口縁部外面隆起帯筋2列の押印文		SI43.	
93	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤靑	普通	外面隆起帯上爪形文	胴部磨き	内面磨き	SI43.
94	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面沈線→LR縄文→斜交文	内面磨き	II層6 x	
95	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面胴部LR縄文	内面磨き	SI43.	
96	陶文土器	深鉢	[20.0]	[11.0]	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面口部磨き	内面磨き	19.280 27 50%	
97	陶文土器	浅鉢	[18.4]	[5.9]	-	長石・石英・黒色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	19.618 25 30%	
98	陶文土器	深鉢	[23.6]	[18.1]	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	胴部赤線	内面磨き	19.334 27 30%
99	陶文土器	深鉢	[14.3]	[9.1]	-	長石・石英	黒靑	普通	外面格子目文→胴部区画文	内面磨き	19.336 27 10%	
100	陶文土器	深鉢	-	[25.0]	-	長石・石英・赤色鉄質	灰靑	普通	外面赤線→付点線文→胴部区画文	内面ナデ	19.860 25 20%	
101	陶文土器	深鉢	[21.8]	[8.1]	-	長石・石英	にぶい靑	普通	外面赤線→付点線文	内面ナデ	19.330 II層7 x	
102	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	口縁部外面C字状筋付文	内面ナデ	II層6 x	
103	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面LR縄文→L字沈線	内面磨き	3 x	
104	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面LR縄文→L字沈線	内面磨き	2 x	
105	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	明赤靑	普通	外面LR縄文→原始文	内面磨き	20.040 2層	
106	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面地縄文→集合沈線文	内面磨き	1 x	
107	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい靑	普通	外面LR縄文→半鹿竹管文	内面磨き	3 x	
108	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤靑	普通	外面LR縄文→沈線	内面ナデ	II層6 x	
109	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面横線文	外・内面磨き	2層	
110	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面LR縄文→沈線	内面磨き	3 x	
111	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面沈線→LR縄文	口縁部磨き	内面磨き	19.330 II層7 x
112	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	にぶい赤靑	普通	外面LR縄文→L字沈線	内面磨き	II層5 x	
113	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	靑	普通	外面沈線→無筋LR縄文	内面磨き	II層6 x	
114	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄質	灰靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面磨き	19.330 II層7 x	
115	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤靑	普通	外面横帯文	内面磨き	3 x	
116	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤靑	普通	外面沈線→LR縄文	胴部磨き	内面磨き	SI43.
117	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面口部磨き	内面磨き	II層5 x	
118	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面胴部磨き	内面磨き	2 x	
119	陶文土器	注口	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面沈線→LR縄文→無文部磨き	内面ナデ	II層5 x	
120	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤靑	普通	外面赤線→斜交文	内面ナデ	2 x	
121	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒靑	普通	外面赤線→縁線貼付→無文部磨き	内面磨き	II層6 x	
122	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄靑	普通	外面赤線→縁線貼付	内面磨き	1 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
123	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 濁	普通	外面縦位沈線→横位沈線 内面磨き	2 x	
124	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面斜線文 内面磨き	3 x	
125	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 濁	普通	外面斜格子目文 内面磨き	3 x	
126	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面斜格子目文 内面磨き	3 x	
127	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	
128	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 濁	普通	外面口縁部沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	1930 Ⅱ層7 x	
129	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	
130	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面無文磨き 口唇部磨み 内面磨き	2 x	
131	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	
132	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面ナテ	3 x	
133	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	暗赤濁	普通	外面沈線→R.L.縦文 内面磨き	S43	
134	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文 内面磨き	Ⅱ層6 x	
135	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 濁	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	
136	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	
137	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縦文 内面磨き	2 x	
138	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面隆起帯形沈線→R.L.縦文・筋糸→無文磨き 内面ナテ	1 x	
139	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面隆起帯形沈線→R.L.縦文・筋糸→無文磨き 内面磨き	1930 Ⅱ層7 x	
140	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文 無文磨き 内面ナテ	1930 Ⅱ層7 x	
141	陶土型	付行鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面欠け状沈線文→口唇部磨み 内面磨き	3 x	
142	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面隆起帯形沈線→R.L.縦文・筋糸→無文磨き 内面磨き	Ⅱ層7 x	
143	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面隆起帯形沈線→R.L.縦文・筋糸→無文磨き 内面磨き	Ⅱ層5 x	
144	陶土型	付行鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面隆起帯形沈線→R.L.縦文・筋糸→無文磨き 内面磨き	1930 Ⅱ層7 x	
145	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→R.L.縦文 内面磨き	2 x	
146	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面縦線文 内面ナテ	1930 Ⅱ層7 x	
147	陶土型	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄濁	普通	外面沈線→縦貼付→L.R.縦文 内面ナテ	2 x	赤彩
148	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→L.R.縦文 内面磨き	1 x	
149	陶土型	注口	-	-	-	長石・石英・雲母	濁 灰	普通	外面R.L.縦文 無文磨き 内面ナテ	Ⅱ層5 x	
150	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隆起帯形沈線→R.L.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	
151	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面ナテ	3 x	
152	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面沈線→縦線無下沈文→縦貼付→無文磨き 内面ナテ	3 x	
153	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面沈線→R.L.縦文→無文磨き 内面ナテ	1 x	
154	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→R.L.縦文→無文磨き 内面磨き	2 x	
155	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文 内面磨き	3 x	
156	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面L.R.縦文→縦線貼付→沈線文 内面磨き	3 x	
157	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面地文→縦線→縦線貼付 口縁部内面磨き	Ⅱ層5 x	
158	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面条線→付立線文 口縁部内出止 内面ナテ	1930 Ⅱ層7 x	
159	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面条線→縦線貼付→区画内磨き 内面磨き	3 x	
160	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 濁	普通	外面条線→縦線貼付→区画内磨き 内面磨き	19422 32層	
161	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面条線→縦線貼付→無文磨き 内面ナテ	3 x	
162	陶土型	深鉢	-	-	-	石英・角閃石	にぶい	普通	外面縦線貼付 内面ナテ	1 x	
163	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面条線→縦線貼付→無文磨き 内面磨き	2 x	
164	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面縦線貼付→頭部縦線 内面ナテ	2 x	
165	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面条線 内面ナテ	1 x	
166	陶土型	深鉢	[160]	[149]	-	長石・石英・雲母	黒 濁	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	20% PL33
167	陶土型	浅鉢	[237]	10.3	6.0	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面削り 内面ナテ 底部削り	2 x	Ⅱ層6 x 40%
168	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面隆起帯形沈線→L.R.縦文→無文磨き 無文磨き	2 x	
169	陶土型	内底	-	(3.5)	7.0	長石・石英・雲母	黒 濁	普通	外面コーナー部、下部部2列の斜突出 内面磨き	1946 Ⅱ層5 x	10%
170	陶土型	ヒョウ	1.8	4.4	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面指輪ナテ 内面ナテ	1958 32層	100%
171	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面R.L.縦文 内面磨き	33層	
172	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面L.R.縦文光面 内面磨き	Ⅱ層6 x	
173	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面R.L.縦文→沈線文 内面磨き	2 x	
174	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→R.L.縦文 内面磨き	33層	
175	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面無筋L.縦文→筋糸文 内面磨き	2 x	
176	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面L.R.縦文→集合沈線 口唇部磨み 内面磨き	1 x	
177	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面L.R.縦文→非表竹管文 内面磨き	Ⅱ層6 x	
178	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縦文→縦線貼付→非表竹管文 内面磨き	1 x	
179	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縦文→縦線貼付→沈線文 内面ナテ	1 x	
180	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	25層	
181	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	2 x	
182	陶土型	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面L.R.縦文→斜線文 内面磨き	2 x	
183	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄濁	普通	外面L.R.縦文→沈線→口縁部磨き 内面磨き	33層	
184	陶土型	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面無筋L.縦文→筋糸文 内面磨き	19636 32層	
185	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	濁	普通	外面条線 内面磨き	2 x	
186	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面斜格子目文→横位沈線→頭部磨き 内面磨き	3 x	
187	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面L.R.縦文→横位沈線→斜線文→頭部磨き 内面磨き	19657 32層	
188	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面斜格子目文→頭部磨き 内面磨き	Ⅱ層6 x	
189	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい	普通	外面条線 内面ナテ	2 x	
190	陶土型	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰 濁	普通	外面沈線→L.R.縦文→無文磨き 内面磨き	3 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
191	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	3 x	
192	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 6 x	
193	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	暗赤褐	普通	外面R. 縄文→横位沈澱文→L. 縄部部	内面磨き	19.505 32層	
194	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	2 x	
195	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	33層	
196	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 6 x	
197	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面磨き	3 x	
198	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	2層	
199	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面ナデ	1 x	
200	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
201	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	2 x	
202	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→無筋R. 縄文→無文部器	内面ナデ	2層	
203	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	無 黒	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	3 x	
204	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	無 灰	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 6 x	
205	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5~1.6黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	6 x	
206	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	無 灰	普通	外面段帯輪付→沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	2 x	
207	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面磨き	2 x	
208	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	3 x	
209	陶文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面ナデ	3 x	
210	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面L.R. 縄文 突起1か所	内面磨き	1 x	
211	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	無 橙	普通	外面条線→横線貼付	内面磨き	II層 6 x	
212	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面条線→付点線織文	内面ナデ	II層 6 x	
213	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面条線→横線貼付	内面ナデ	25層	
214	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	口縁部縦線貼付	内面ナデ	R. 縄文→無文部器	3 x
215	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外、内面ナデ	頸部に縦文様	2 x	
216	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面L.R. 縄文	内面磨き	II層 2 x	
217	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段帯部部に突文	無文部器	内面磨き	II層 2 x
218	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面L.R. 縄文→沈澱磨き	内面磨き	II層 3 x	
219	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面磨炭状工具による条線	内面磨き	II層 3 x	
220	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	無 黒	普通	口縁部外面磨き	内面磨き	II層 1 x	
221	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	無 灰	普通	外面沈澱→無筋L. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 2 x	
222	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	無	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 2 x	
223	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文	内面磨き	1 x	
224	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	無 黒	普通	外面R. 縄文→横位沈澱文	内面磨き	2 x	
225	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→L.R. 縄文	内面磨き	1 x	
226	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面R. 縄文→付点・目文	無筋無文	内面ナデ	II層 1 x
227	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文	内面磨き	II層 2 x	
228	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→L.R. 縄文	内面磨き	2 x	
229	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	口縁部部	内面ナデ	1 x
230	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 3 x	
231	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文	内面磨き	II層 2 x	
232	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	無 灰	普通	口縁部外面に付状文	内面ナデ	II層 1 x	
233	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	II層 1 x	
234	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 3 x	
235	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面段帯輪沈澱→無筋L. 縄文	内面磨き	3 x	
236	陶文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 赤	普通	外面条線→区画沈澱→筋目	内面磨き	II層 3 x	
237	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段帯輪	内面ナデ	II層 2 x	
238	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明赤褐	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	3 x	
239	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面ナデ	2 x	
240	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	無	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面ナデ	1 x	
241	陶文土器	深鉢	-	-	(26)	長石・石英	無 黒	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 2 x 赤筋 20%	
242	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	II層 2 x	
243	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	無 黒	普通	外面沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	2 x	
244	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面条線→付点線織文	内面ナデ	II層 1 x	
245	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面条線→横線貼付	内面ナデ	II層 3 x	
246	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	1.5~1.6黄緑	普通	外面条線→横線貼付	内面ナデ	II層 2 x	
247	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	1.5~1.6黄緑	普通	外面条線→付点線織文	内面ナデ	2 x	
248	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒	1.5~1.6黄緑	普通	外面無筋R. 縄文	内面磨き	19.704 2層	
249	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→L.R. 縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
250	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	口縁部外面段帯輪沈澱文	内面磨き	1 x	
251	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	1.5~1.6黄緑	普通	口縁部外面段帯輪沈澱文	無文部器	内面磨き	2 x
252	陶文土器	注口	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面側部ナデ	内面磨き	1 x	
253	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	口縁部外面磨き	内面磨き	1 x	
254	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6黄緑	普通	外面沈澱→無筋R. 縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
255	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 黒	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	19.600 25層	
256	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	無 黒	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	2 x	
257	陶文土器	注口	[148]	(8.9)	-	長石・石英・角閃石	灰 黒	普通	外面段帯輪沈澱→無筋付→L.R. 縄文	内面ナデ	19.676 25層 20%	
258	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	無 黒	普通	外面段帯輪沈澱→R. 縄文→無文部器	内面磨き	19.786 25層	





番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
327	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・燧石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面斜格子目文 内面磨き	2 x	
328	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面糸縷→付点線縷文 内面ナデ	1982 1層7 x	
329	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	灰褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	II層 5 x	
330	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	灰褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	19709 6層	
331	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	黒褐色	普通	外面糸縷→段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	19835 6層	
332	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	19941 5層	
333	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	19963 5層	
334	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面糸縷→段起帯筋縷→丸・縄文 内面ナデ	II層 4 x	
335	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	褐色	普通	外面糸縷→丸縷部 内面磨き	19302 1層7 x	
336	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面糸縷→口縁部・丸縷部 内面ナデ	II層 6 x	
337	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	1.5-1.6黄褐色	普通	外面磨き→段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	2 x	
338	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	2 x	
339	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文 内面磨き	1 x	
340	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	1 x	
341	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	普通	普通	外面二対一の瘤貼付 内面ナデ	2 x	
342	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	1 x	
343	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面入組文 丸・縄文施文。内面ナデ	2 x	
344	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外・内面ナデ	2 x	
345	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→無筋丸・縄文 内面ナデ	2 x	
346	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粘土	オリーブ黒	普通	外面丸縷→丸・縄文 内面ナデ	2 x	
347	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	
348	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文 内面ナデ	1 x	
349	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	明赤褐色	普通	外面丸・縄文→線縷貼付 内面磨き	20118 2層	
350	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸・縄文→線縷貼付 内面磨き	20147 2層	
351	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸・縄文→線縷貼付 内面磨き	2 x	
352	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面糸縷→付点線縷文 内面ナデ	II層 4 x	
353	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐色	普通	外面糸縷→口縁部丸縷→無筋丸・縄文 内面ナデ	19781 6層	
354	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	外面糸縷→線縷貼付→無筋丸・縄文 内面ナデ	2層 5 x	
355	縄文土器	深鉢	166	73	-	長石・石英	褐色	普通	外面割部丸・縄文 内面磨き	19846 6層	5%
356	縄文土器	深鉢	253	1125	-	長石・石英・黒色粘土	1.5-1.6黄褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き (単位 内面磨き)	19910 5層	50% PL28
357	縄文土器	深鉢	-	1106	-	長石・燧石・粘石	黒褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 割部磨き 内面磨き	2 x	10%
358	縄文土器	壺	118	339	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→無筋丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	5%
359	縄文土器	鉢	-	30	36	長石・石英・角閃石	褐色	普通	外面丸・縄文 内面ナデ	II層 5 x	40%
360	縄文土器	鉢	-	330	38	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	外面丸・縄文 内面ナデ	1 x	20%
361	縄文土器	台付鉢	-	-	42	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面糸縷→段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	5%
362	縄文土器	深鉢	2181	174	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面段起帯筋縷→丸・縄文→無筋丸・縄文 内面ナデ	II層 20	20%
363	縄文土器	深鉢	2601	180	-	長石・石英・角閃石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面糸縷→線縷貼付 内面磨き	19961 5層	20%
364	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5-1.6黄褐色	普通	外面無筋丸・縄文→段起帯筋縷 内面磨き	II層 4 x	
365	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸・縄文 内面磨き	2 x	
366	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5-1.6黄褐色	普通	外面無筋丸・縄文→無文磨き 内面磨き	1 x	
367	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面磨き 内面ナデ	2 x	
368	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 付点丸・ナデ 内面磨き	2 x	赤彩
369	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	
370	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	
371	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	2 x	
372	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	
373	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	
374	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	突起部 外・内面磨き	1 x	
375	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	1.5-1.6黄褐色	普通	外面糸縷→付点線縷文 内面ナデ	19785 6層	
376	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面糸縷→線縷貼付→無筋丸・縄文 内面磨き	20125 2層	
377	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面口縁部糸縷→割部糸縷 内面ナデ	1 x	
378	縄文土器	深鉢	238	1177	-	長石・石英・黒色粘土	褐色	普通	5単位 外面段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	20083 2層	100%と割合 10%
379	縄文土器	深鉢	184	116	-	長石・燧石・粘石	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→無筋丸・縄文→無文磨き 割部糸縷 内面ナデ	20175 2層	25%
380	縄文土器	台付鉢	1220	350	-	長石・石英・角閃石	灰褐色	普通	外面段起帯筋縷→段起帯筋縷→丸・縄文→無文磨き 内面ナデ	20117 2層	10%
381	縄文土器	深鉢	2501	1144	-	長石・燧石・粘石	1.5-1.6黄褐色	普通	5単位 内面による三角形丸・縄文 内面ナデ	20034 2層	10% PL38
382	縄文土器	大口壺	100	71	-	長石・石英・角閃石	褐色	普通	口縁部外面・割部に刺突 無文磨き 内面ナデ	1-2層	10%
383	縄文土器	彫形台付	-	64	43	長石・石英・赤色粘土	明赤褐色	普通	受部ナデ	20174 2層	80%
384	縄文土器	壺	32	64	64	長石・石英・雲母	1.5-1.6黄褐色	普通	外面ナデ	20180 2層	99%
385	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸・縄文 内面磨き	20155 2層	
386	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面段起帯筋縷(彩文) 内面磨き	1 x	
387	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷間に細かな刺突文 内面磨き	1 x	
388	縄文土器	台台	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外・内面ナデ	1 x	
389	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→無筋丸・縄文 内面割ナデ	1 x	
390	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・燧石・粘石	黒褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	2 x	
391	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰褐色	普通	割部口ノの字状突起 内面磨き	2 x	
392	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 内面磨き	1 x	
393	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	1.5-1.6黄褐色	普通	外面丸縷→丸・縄文→無文磨き 口縁部に丸 内面磨き	2 x	
394	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部外面磨き 内面磨き	2 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
295	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・赤褐色	普通	外面斜線文→口縁部のみ 内面磨き		2 x
296	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き	20075 2層	1 x
297	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
298	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
299	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
400	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
401	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	灰 黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面ナデ		2 x
402	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
403	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
404	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面ナデ		1 x
405	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面条線→沈線→L.R.線文 内面ナデ		1 x
406	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→無文部磨き 内面ナデ		2 x
407	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	灰 黒	普通	外面刷文線系 内面ナデ		2 x
408	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 胴部のみ 内面ナデ	20106 2層	2層
409	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・赤褐色	普通	外面L.R.線文→胴部のみ 内面ナデ		2 x
410	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		1 x
411	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		1 x
412	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
413	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		3 x
414	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
415	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→無文部磨き→無文部磨き 内面磨き		1 x
416	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
417	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 胴部のみ 内面ナデ	20151 2層	2層
418	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き	20023 2層	2層
419	陶文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→L.R.線文 内面ナデ 東北系	19969 2層	2層
420	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・赤褐色	普通	外面L.R.線文→赤線→横線付付 内面磨き 口縁部のみ	1-2層	1層
421	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面条線→横線付付 内面ナデ	1946 1-1層	1層
422	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・赤褐色	普通	外面隆起帯輪沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面ナデ		2 x
423	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・赤褐色	普通	外面刷文線系 内面ナデ		1 x
424	陶文土器	深鉢	[117]	[71]	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		3 x 5%
425	陶文土器	鉢	[160]	[85]	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x 10%
426	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	次郎部 外、内面磨き		2層
427	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	黒 黒	普通	外面L.R.線文 内面磨き		2層
428	陶文土器	深鉢	[138]	[76]	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		x 5%
429	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外、内面磨き 内口縁部にL.R.線文		2層
430	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	黒 黒	普通	外面交互斜線文 胴部磨き 内面磨き		2 x
431	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面条線 内面ナデ		3 x
432	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2層
433	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	黒	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面ナデ		2層
434	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯輪沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き	20131 1-2層	2層
435	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面ナデ		2層
436	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	黒 黒	普通	外面隆起帯輪沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き	20134 1-2層	2層
437	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面隆起帯輪沈線→L.R.線文 内面ナデ		2 x
438	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		1 x
439	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面ナデ		2 x
440	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
441	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	浅黄褐色	普通	外面沈線→L.R.線文 内面磨き 東北系		1 x
442	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・橙	普通	外面入組三文文 外、内面磨き		1 x
443	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	浅黄褐色	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2 x
444	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→R.L.線文 内面磨き		2 x x
445	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面L.R.線文→条線→横線付付 内面磨き		1 x
446	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面条線→付点線系→胴部のみ 内面ナデ		2 x
447	陶文土器	深鉢	[270]	[171]	-	長石・石英・焼酎石	灰 黒	普通	外面隆起帯輪沈線→R.L.線文→無文部磨き 内面ナデ	20083 1-2層	15%
448	陶文土器	深鉢	[188]	[49]	-	長石・石英・雲母	灰赤褐色	普通	外面横位線→卵形→楕円付 内面磨き		1 x 5%
449	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面条線→付点線系 内面ナデ	20136 1-2層	2層
450	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁部に3の字状貼付文 外、内面磨き		2層 2 x
451	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き		1 x
452	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい・黒	普通	外面磨面工具による条線 口縁部磨き 内面磨き		2層 1 x
453	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2層 3 x
454	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黒	普通	外面無文部磨き→L.R.線文→無文部磨き 内面ナデ		2層 2 x
455	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	黒 黒	普通	外面口縁部磨き 内面ナデ		2層 1 x
456	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き 口部にL.R.線文		2層 2 x
457	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	にぶい・黒	普通	外面沈線→L.R.線文→無文部磨き 内面磨き		2層 3 x
458	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・赤褐色	普通	外面沈線→無文部磨き→無文部磨き 内面磨き		2層
459	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・焼酎石	黒 黒	普通	外面格子目文 内面ナデ		2層 1 x
460	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐色	普通	條帯文。外面無文部磨き 内面磨き		2層 2 x
461	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面沈線→R.L.線文→口縁部のみ 内面磨き		2層 2 x
462	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈線→L.R.線文→口縁部のみ 内面磨き		2層

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
463	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	灰黄緑	普通	外面糸織→L.縄文→無文部器	内面ナ	口縁部沈凹	2 x
464	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 灰	普通	外面糸織→口縁部沈凹、割み	内面ナ		Ⅱ層 3 x
465	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		2 x
466	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	口縁部縦位沈凹	無部ナ	内面ナ	1 x
467	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		2 x
468	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+赤黒	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		Ⅱ層 2 x
469	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文	内面磨き		Ⅱ層 1 Ⅱ-1層
470	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	外面糸織→隆起部上割み→隆起付	内面ナ		Ⅱ層 2 x
471	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+黄緑	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		2 x
472	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		2 x
473	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	黒 灰	普通	外面段起部帯沈凹→口縁部L.縄文、割部L.縄文	内面ナ		Ⅱ層 1 Ⅱ-1層
474	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 灰	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文、割部→無文部器	内面ナ		1 x
475	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文	内面ナ		1 x
476	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	灰 黒	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		Ⅱ層 1 Ⅱ-2層
477	縄文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		2 x
478	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文	内面ナ		2 x
479	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		Ⅱ層 1 Ⅱ-2層
480	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+黄緑	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		Ⅱ層 2 x
481	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・針状炭素	灰黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		Ⅱ層 2 x
482	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面ステッキ文→三叉文	内面ナ		1 x
483	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面糸織	内面ナ		2 x
484	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き	口縁部L.縄文	1 x
485	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+橙	普通	外面糸織→L.縄文	口縁部L.縄文	内面ナ	1 x
486	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面糸織→縦線貼付→頸部区画文	内面ナ		Ⅱ層 3 x
487	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	12.05+黄緑	普通	外面糸織→付点線織文	口縁部L.縄文	内面ナ	2 x
488	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+赤黒	普通	外面糸織→縦線貼付	内面磨き		2 x
489	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+黄緑	普通	外面糸織→縦線貼付→頸部区画文	内面ナ		Ⅱ層 1 Ⅱ-2層
490	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面磨り	内面ナ		Ⅱ層 1 Ⅱ-2層
491	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面縦位沈凹	内面ナ		2 x
492	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面沈凹→L.縄文の付点織文	内面磨き		2 x
493	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		2 x
494	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	12.05+橙	普通	外面口縁部無文部器	内面ナ		Ⅱ層 1 x
495	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	口縁部外面C字状貼付文	内面磨き		2 x
496	縄文土器	深鉢	9.9	9.7	-	長石・石英・角閃石類	黒 灰	普通	外面無文部ナ	内面ナ		1 x 20%
497	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面L.縄文→沈凹	内面ナ		Ⅱ層 1 Ⅱ-2層
498	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	12.05+黄緑	普通	外面地縄文	内面磨き		Ⅱ層 1 x
499	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面L.縄文→沈凹	内面ナ		2 x
500	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		2 x
501	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面口縁部磨き	内面磨き		1 x
502	縄文土器	壺	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		2 x
503	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	12.05+黄緑	普通	内、外面磨き			2 x
504	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文	内面磨き		1層 1 x
505	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+赤黒	普通	外面沈凹→L.縄文	内面磨き		1 Ⅱ-2層
506	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+橙	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		2 x
507	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄緑	普通	外面割部斜織文	無文部磨き	内面磨き	2 x
508	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		2 x
509	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		1 x
510	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		2 x
511	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	12.05+橙	普通	外面沈凹→L.縄文	内面ナ		2 x
512	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 黒	普通	歳状L.縁	内面磨き		1 Ⅱ-2層
513	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→無部L.縄文	内面ナ		2 x
514	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 橙	普通	外面斜部目字文	内面ナ		1 Ⅱ-2層
515	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 橙	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文、割部→無文部器	内面ナ		2 x
516	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		1層
517	縄文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	橙	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文→無文部器	内面ナ		1 x
518	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	角状。外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き		1 x
519	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+赤黒	普通	外面沈凹→L.縄文	内面ナ		1層
520	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文	内面ナ		2 x
521	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	12.05+黄緑	普通	外面段起部帯沈凹→L.縄文	内面磨き		1層
522	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	遺孔L.2箇所	内面磨き	x 赤彩
523	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	12.05+黄緑	普通	外面沈凹→L.縄文	内面磨き		1 x
524	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒 灰	普通	外面沈凹→L.縄文→無文部器	内面磨き	大割式	2 x
525	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-黒粘-粘結	12.05+橙	普通	外面糸織→沈凹→L.縄文	内面ナ		1層
526	縄文土器	深鉢	-	-	-	灰-紅-粘結-粘結	12.05+黄緑	普通	外面糸織→口縁部斜交文	割部区画文	内面磨き	1 Ⅱ-2層
527	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面糸織→縦線貼付→頸部区画文	内面磨き		Ⅱ層 1 Ⅱ-2層
528	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	12.05+黄緑	普通	外面L.縄文→割部文→沈凹磨き	内面磨き		4 x
529	縄文土器	割壺	-	-	-	長石・石英	12.05+黄緑	普通	外面磨り	口縁部半調整	内面ナ	x 口口類
530	縄文土器	深鉢	18.2	7.9	-	灰-紅-粘結-粘結	灰 黒	普通	外面L.縄文	内面磨き		Ⅱ層 10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
531	横文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
532	横文土器	深鉢	[24.2]	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面彫刻付→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x 5%	
533	横文土器	注口 [14.0]	(6.2)	-	-	長石・石英	黒	灰	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	1 x 5%
534	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部外面に爪彫文	内面磨き	II層	
535	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外・内面ナデ	-	II層	
536	横文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	突起部 外・内面磨き	-	1986E層6 x	
537	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面 R.L.縄文→突起部彫付	内面磨き	2 x	
538	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面ナデ	2 x	
539	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面磨き	-	2 x	
540	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部C字状彫付文	沈線彫刻突文	内面磨き	II層
541	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部無文帯にC字状彫付文	内面磨き	1986E層6 x	
542	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面彫刻状工具による条線	内面ナデ	2002E層5 x	
543	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面 L.R.縄文→沈線文	内面ナデ	1 x	
544	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
545	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
546	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黄褐	普通	外面磨き目文→頭部磨き	内面磨き	1 x	
547	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	x	
548	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面沈線→口縁部刻文→彫刻突文→R.L.縄文	内面ナデ	2002E層5 x	
549	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面彫刻帯形沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	x	
550	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面彫刻帯形沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	1 x	
551	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	1-5層	
552	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
553	横文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黄褐	普通	外面矢羽状沈線文→口縁部刻文	内面磨き	1 x	
554	横文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面彫刻付→突起部形沈線→無文部磨き	内面磨き	1 x	
555	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黄褐	普通	外面彫刻文	内面磨き	1 x	
556	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黄褐	普通	外面彫刻帯形沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	2002E層5 x	
557	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面彫刻帯形沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	1 x	
558	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	1 x	
559	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面彫刻帯形沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	1 x	
560	横文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面口縁部R.L.縄文	無文部磨き	内面磨き	1-5層
561	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面 L.R.縄文	内面ナデ	1 x	
562	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面 R.L.縄文→斜線文・線彫刻付	内面磨き	1 x	
563	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面 L.R.縄文→線彫刻付→条線	内面磨き	2 x	
564	横文土器	深鉢	[19.4]	(9.1)	-	長石・石英	灰 黄褐	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x 10% PL.8	
565	横文土器	深鉢	[13.4]	(12.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外面口頭部ナデ	胴部磨き	内面磨き	2010E-1層 10%
566	横文土器	浅鉢	-	(4.0)	3.5	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	2012E-1層 40%	
567	横文土器	台付鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面磨き	内面ナデ	2005E-1層 10%	
568	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	口縁部外面に縄文連結沈線文	内面ナデ	2 x	
569	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面J字文	裏面彫刻工具による彫刻突文	内面ナデ	2 x
570	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
571	横文土器	釣手	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	縁部突起部 縁部斜線文	内面ナデ	2 x	
572	横文土器	盃	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	縁部突起部	内面磨き	II層5 x	
573	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黄褐	普通	口縁部支脚部に準状文	外面無文部磨き	内面ナデ	2 x
574	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	口縁部隆起帯上刻み	内面磨き	2 x	
575	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面口縁部無文L.縄文→突起部彫刻	胴部磨き	内面磨き	2 x
576	横文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面条線→口縁部刻文	内面磨き	2008E-1層	
577	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 赤	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
578	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	2 x	
579	横文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰 黄褐	普通	外面彫刻帯形沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
580	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	2 x	
581	横文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
582	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
583	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面隆起帯上 R.L.縄文	内面ナデ	1 x	
584	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
585	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面彫刻帯形沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面ナデ	2 x	
586	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面彫刻帯形沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
587	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面彫刻帯形沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
588	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黄褐	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き	内面磨き	1 x	
589	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→細密沈線文	内面磨き	2 x	
590	横文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面ナデ	2 x	
591	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
592	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明 赤	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面ナデ	1 x	
593	横文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部磨き	内面磨き	2 x	
594	横文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	明 赤	普通	外面S字状入組文	無筋R.縄文	内面ナデ	II層5 x
595	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	平帯状文	外面彫刻L.R.縄文	内面磨き	1 x
596	横文土器	盃	-	-	-	長石・石英	灰 黄褐	普通	外面ナデ	内面磨き	II層5 x	
597	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面条線→縁部彫刻付	内面ナデ	2008E-1層	
598	横文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	外面条線→胴部刻文	口縁部磨き	内面ナデ	1 x

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
599	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文 内面ナテ	2 x	
600	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部付点線状の肥厚 裏面条線 内面磨き	1 x	
601	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面条線 内面磨き	1 x	
602	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面陶製杖工具の条線 内面ナテ	II層 5 x	
603	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外・内面ナテ	1 x	
604	陶文土器	深鉢	[23.4]	[19.3]	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外・内面ナテ	20234 II層	20%
605	陶文土器	壺	-	(6.5)	-	長石・石英・粘石	黒	普通	外面沈線→黒・縄文→無文部磨き 内面磨き	x	10%
606	陶文土器	台付鉢	-	(7.2)	[7.8]	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面磨き 内面ナテ	2 x	10%
607	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	x	
608	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
609	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	2 x	
610	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	明 黒	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	1 x	
611	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	20234 II層	
612	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	2 x	
613	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	20109 II層 5 x	
614	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
615	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面段状帯輪沈線→黒・縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
616	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面S字状入組文 内面ナテ	20234 II層	
617	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→粘付・無文部磨き 内面ナテ	2 x	
618	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文 内面ナテ	20109 II層 5 x	
619	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	II層 5 x	
620	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	II層 5 x	
621	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明 黒	普通	外面S字状入組文 内面ナテ	20109 II層 5 x	
622	陶文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・粘石	明 黒	普通	外面菱形状入組文 内面磨き	20109 II層 5 x	
623	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面磨き 口唇部に押文 内面ナテ	II層 5 x	
624	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒	普通	外面磨き 口唇部に押文 内面ナテ	II層 5 x	
625	陶文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面細かい刺突文 内面磨きのため調整不明瞭	1 x	
626	陶文土器	壺	-	-	-	長石・石英	明黄褐色	普通	外面細かい刺突文 口唇部磨き 内面ナテ	1 x	
627	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面平歯状文 内面磨きのため調整不明瞭	2 x	
628	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文 内面磨き	x	
629	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨きのため調整不明瞭 口唇部メゾット状刺突文	2 x	
630	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線状文 内面ナテ	1 x	
631	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明 黒	普通	外・内面ナテ	x	
632	陶文土器	台付鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面斜線文 内面ナテ	x	5%
633	陶文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰 黒	普通	外面段状帯輪沈線→黒・縄文→無文部磨き 内面ナテ	2 x	
634	陶文土器	鉢	[14.0]	7.9	-	長石・石英・角閃石	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	20059 2層	40%
635	陶文土器	鉢	19.0	10.8	6.9	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面付点線文 内面磨き	20186 1-2層	80%
636	陶文土器	香付型	-	(7.8)	-	長石・石英・角閃石	黒 黒	普通	外面磨き 内面ナテ	20264 1-2層	30% 量 PL30
637	陶文土器	注口	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面段状帯輪による文様 内面ナテ	2030 1-2層	
638	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	1-2層	
639	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面紅・縄文→沈線 内面磨き	1-2層	
640	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	外面沈線→紅・縄文→沈線磨き付し 内面磨き	1-2層	
641	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面斜線文→口縁部磨み・無文部磨き 内面磨き	2 x	
642	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	灰黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
643	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文 内面磨き	1 x	
644	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面紅・縄文→格子目文 内面磨き	1 x	
645	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	明 灰	普通	外面無文部磨き 内面磨き 口縁部に凹線	1 x	
646	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	1-2層	
647	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
648	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文 内面磨き	1 x	
649	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	2005 1-2層	
650	陶文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	2035 1-2層	
651	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明 黒	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	2 x	
652	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面ナテ	1 x	
653	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
654	陶文土器	浅鉢	[23.5]	(5.6)	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面凸縁文 内面磨き	1-2層	20%
655	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外面沈線→紅・縄文 内面ナテ	20165 1 x	
656	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線状文 内面ナテ	2 x	
657	陶文土器	浅鉢	[11.3]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい黄褐色	普通	外面口縁部付点線文 側部に弧線 内面磨き	2 x	内面磨き 20%
658	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 黒	普通	外・内面磨き	20195 1-2層	
659	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面条線→粘線付付→頭部区間磨き 内面ナテ	1 x	
660	陶文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰 赤	普通	外面陶製段状文 内面ナテ	1 x	外面赤彩
661	陶文土器	深鉢	9.0	12.3	4.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面3層付点線→紅・縄文→粘付 内面磨き	20115 1-2層	95% PL34
662	陶文土器	台付鉢	-	(6.8)	[9.1]	長石・石英・粘石	明 黒	普通	外面沈線→紅・縄文 無文部ナテ	2025 1-2層	20%
663	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	明 黒	普通	外面段状帯輪沈線→紅・縄文→無文部磨き 内面磨き	2017 1-2層	
664	陶文土器	深鉢	[22.4]	(17.8)	-	長石・石英・角閃石	灰 黒	普通	外面条線→付点線状文 内面ナテ	3006 1-2層	20%
665	陶文土器	深鉢	[20.6]	(13.2)	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面S字状入組文 内面ナテ	2030 1-2層	10%
666	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石	橙	普通	外面条線→付点線状文 口縁部付点状の肥厚 内面ナテ	20113 1-2層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
667	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面茶線→付点線縄文	20112 1-2層	
668	縄文土器	注口	-	(65)-	-	長石・石英・角閃石類	黒 艶	普通	外面磨き 内面ナ	II層	赤土 20% P.38
669	縄文土器	浅鉢	[190]	(73)-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 胴縁 内面磨き	2 x	10%
670	縄文土器	深鉢	[136]	(127)-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	1 x	20%
671	縄文土器	深鉢	200	(133)-	-	屈・屈・角閃石類	灰 艶	普通	外面R.L.縄文 内面ナ	19321 1-2層	40%
672	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋下→屈長の輪貼付 内面ナ	1 x	
673	縄文土器	浅鉢	-	-	-	屈・屈・角閃石類	黒 艶	普通	外面斜線文 内面磨き	1 x	
674	縄文土器	深鉢	[268]	(155)-	-	屈・屈・角閃石類	黒 艶	普通	外面隆起帯筋沈線→R.L.縄文→屈・屈・無文部磨き 内面磨き	1 x	20%
675	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面格子目文 口縁部磨き 内面磨き	1 x	
676	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
677	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文 内面磨き	2 x	
678	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	口縁部凹線 内面磨き	1957 1-2層	
679	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 艶	普通	波溝部に突起貼付 外面茶線 内面ナ	1 x	
680	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→口縁部筋糸→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
681	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→無筋糸 縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
682	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 艶	普通	外面隆起帯筋沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	x	
683	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒 艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
684	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 艶	普通	外面隆起帯筋沈線→屈・屈・無文部磨き 内面磨き	1 x	
685	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
686	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 胴部茶線 内面磨き	1 x	
687	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	暗赤灰	普通	外面口縁部隆起帯筋上層目 胴部茶線 内面磨き	1 x	
688	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→R.L.縄文 内面ナ	20109 1-2層	
689	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面R.L.縄文→胴部区画文 内面磨き	1 x	
690	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面茶線→隆起帯筋沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	1-2層	
691	縄文土器	角底	-	-	-	屈・屈・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外・内面磨き 底部磨り	1 x	
692	縄文土器	小付鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文 透かし孔2ヶ所 内面ナ	1 x	外面赤彩
693	縄文土器	角底	-	-	-	長石・石英	黒 艶	普通	外面隆起帯筋上層目 内面磨き	2 x	
694	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 底部R.L.縄文 内面磨き	2 x	
695	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰黄艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	1 x	
696	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 普通	普通	外面胴部区画文 内面ナ	1 x	
697	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英	黒 艶	普通	外面沈線→無筋糸 縄文→無文部磨き 内面ナ	2 x	
698	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 艶	普通	外面茶線 内面磨き	1 x	
699	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明 艶	普通	付帯口縁 外・内面ナ	1 x	
700	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	外面茶線 内面磨き	2 x	
701	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・角閃石類	橙	普通	外面茶線→付点線縄文 内面磨き	2 x	
702	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面茶線→付点線縄文 内面磨き	1957 1-8層	
703	縄文土器	壺	7.0	(38)-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	外面磨き 口頸部に沈線 内面ナ	19524 II層	10%
704	縄文土器	ニョブフ	27	(52)-	-	屈・屈・角閃石類	灰 艶	普通	外面磨き 内面ナ	19321 1-8層	100% P.134
705	縄文土器	深鉢	[136]	121	39	長石・石英	橙	普通	外面隆起帯筋 磨き 内面ナ	20051 x	90%
706	縄文土器	手嶋	5.8	41	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋文 内面ナ	20108 1-8層	40%
707	縄文土器	深鉢	[198]	(174)-	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	2 x	30%
708	縄文土器	深鉢	-	(90)-	-	屈・屈・角閃石類	灰 艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	x	20%
709	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→輪貼付・無文部磨き 内面磨き	1 x	
710	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→屈・屈→輪貼付・無文部磨き 内面磨き	1 x	
711	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒 艶	普通	口縁部外面に細かい筋目 内面磨き	20056 1-2層	10%
712	縄文土器	深鉢	-	(113)-	-	長石・石英	明赤艶	普通	外面地縄文→条線→経線貼付 内面磨き	20056 1-2層	10%
713	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒 艶	普通	外面L.R.縄文→横位沈線文 内面磨き	20100 1-2層	
714	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面無文部磨き 内面磨き	x	
715	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	赤 艶	普通	外面口縁部磨き 胴部茶線 内面磨き	1930 1-2層	
716	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	灰 艶	普通	外・内面磨き	x	
717	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文 口縁部削み 内面磨き	2 x	
718	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 艶	普通	外面胴部L.R.縄文 内面磨き	x	
719	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	外・内面磨き	2 x	
720	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	x	
721	縄文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 胴部茶線 内面ナ	2 x	外面赤彩
722	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	口縁部横帯文とノの字状筋 内面磨き	2 x	外面赤彩
723	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面隆起帯筋沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	2 x	
724	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	2 x	
725	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄艶	普通	外面沈線→R.L.縄文 内面ナ	1 x	
726	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	x	
727	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	1 x	
728	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤艶	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナ	2 x	
729	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面口縁部削み 内面磨き	1 x	
730	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外・内面ナ	x	
731	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	口縁部にB突起 外・内面磨き	1 x	
732	縄文土器	深鉢	-	-	-	屈・屈・角閃石類	灰黄艶	普通	外面沈線→横位沈線文とノ字状筋 内面ナ	x	
733	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤艶	普通	外面茶線→横線貼付 内面磨き	1930 1-2層	
734	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい赤褐色	普通	外面茶線 内面ナ	2 x	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
735	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面糸縷→面磨き 内面ナデ	x	
736	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	黒褐色	普通	外面磨削→口縁部L.R. 内面磨き	1 x	
737	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面磨削帯輪沈澱→磨き 内面ナデ	3 x	
738	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 口縁部突起 内面ナデ	1 x	
739	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
740	陶文土器	壺	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面半面杖文 内面ナデ	2 x	
741	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外・内面磨き	1 x	
742	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面入組瓦線文 内面磨き 口縁部押印文	2 x	
743	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外・内面ナデ 口縁部に鉢巻状の貼付文	3 x	
744	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	1.5~1.6	普通	外面瓦線文と波頭部に三叉文 内面磨き	II 磨	
745	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面沈澱→面磨き 内面ナデ	2 x	
746	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	1.5~1.6	普通	外面沈澱→面磨き 内面磨き	2 x	
747	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	沈澱面に細かな刺突文 外・内面ナデ	1	
748	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面無文部ナデ 内面ナデ 沈澱刺突文	x	
749	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	沈澱刺突文 外・内面ナデ	1 x	
750	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	沈澱刺突文 外面無文部磨き 内面磨き	1 x	
751	陶文土器	壺	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	沈澱刺突文 外面無文部磨き 内面磨き	3 x	
752	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	沈澱刺突文 外・内面ナデ	x	
753	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	沈澱刺突文 外面無文部ナデ 内面磨き	1 x	
754	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	棒状文 外・内面ナデ	x	
755	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	棒状文 外面磨き 内面磨き	1 x	
756	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面糸縷 内面ナデ	II 磨	
757	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面糸縷 内面ナデ	3 x	
758	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外・内面ナデ	x	
759	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒褐色	普通	外面粗い磨き 内面ナデ	x	
760	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	1.5~1.6	普通	外面磨削 内面ナデ	1 x	
761	陶文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面磨削帯輪沈澱→L.R. 内面→外瓦 内面磨き	2 x	
762	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	3 x	
763	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
764	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面磨削帯輪沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面磨き	2 x	
765	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面L.R. 内面→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
766	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→無筋L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
767	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面磨き	2 x	
768	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	2 x	
769	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面磨き	3 x	
770	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	内面磨き 口縁部凸点文	2 x	
771	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外・内面ナデ	2 x	
772	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外・内面ナデ	2 x	
773	陶文土器	角底	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面ナデ	2 x	
774	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	入組瓦線文。外面ナデ 内面磨き	x	
775	陶文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→無筋L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	19.531 E-5 磨	
776	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	胴部に棒状文 外・内面磨き	19.531 E-5 磨	
777	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	1.5~1.6	普通	棒状文 外・内面ナデ	19.531 E-5 磨	
778	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	19.531 E-5 磨	
779	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外・内面ナデ	19.531 E-5 磨	
780	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	口縁部突起 外面沈澱刺突文 内面磨き	19.531 E-5 磨	
781	陶文土器	壺	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面口縁部磨き 内面磨き	x	
782	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	1.5~1.6	普通	外面割部L.R. 内面→横位沈澱 内面磨き	2 x	
783	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面磨削帯輪沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面磨き	30.050 I-8 磨	
784	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面ナデ	2 x	
785	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	19.812 II 磨	
786	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面磨削帯輪沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	19.944 II 磨	
787	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面口縁部L.R. 内面磨き	2 x	
788	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面→無文部磨き 内面ナデ	19.997 II 磨	
789	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面沈澱→L.R. 内面ナデ	x	
790	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面L.R. 内面磨き	1 x	
791	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	1.5~1.6	普通	外面磨き 内面ナデ	19.996 II 磨	
792	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外・内面磨き	2 x	
793	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面糸縷 内面ナデ	19.948 II 磨	
794	陶文土器	台付鉢	[22.6]	[7.7]	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面糸縷→口縁部磨み 内面磨き	I 磨	30%
795	陶文土器	浅鉢	[11.2]	39	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面磨削 一部粗い磨き 内面ナデ一部磨き	19.868 II 磨	70%
796	陶文土器	手捏	6.7	5.2	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面指摺ナデ 内面ナデ	19.817 II 磨	100%
797	陶文土器	深鉢	[29.3]	[12.9]	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面沈澱刺突文 内面磨き	1 x	20%
798	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面L.R. 内面→沈澱 内面磨き	1 x	
799	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	1.5~1.6	普通	外面L.R. 内面→沈澱 内面磨き	1 x	
800	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	胴部 外面C字状貼付文が胴縁 内面ナデ	1 x	
801	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面口縁部磨き 胴部磨き 内面磨き	I 磨	
802	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色鉄子	1.5~1.6	普通	外面口縁部磨み・L.R. 内面→無文部磨き 内面磨き	I 磨	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	備考		
803	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
804	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→黒部器	内面磨き	1層	
805	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1層	
806	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1層	
807	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色	灰黄褐色	普通	外面条線付→沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	x	
808	陶土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1層	
809	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1層	
810	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面段帯形上R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	1層	
811	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1層	
812	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文・黒A・黒輪付	内面ナデ	1層	
813	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	1 x	
814	陶土器	浅鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→無筋L縄文	内面磨き	19899 2 x	
815	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	口縁部に赤色文	内面磨き	19899 2層
816	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線間刻突文	内面磨き	1 x	
817	陶土器	角底	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1層	
818	陶土器	角底	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面磨き	1層	
819	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面二溝間の段帯 沈線→L.R.縄文	内面磨き	2 x	
820	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面平歯状文	内面磨き	1 x	
821	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面条線	内面磨き	19846 2層	
822	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面条線	口縁部厚	内面ナデ	20236 2層
823	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面条線	内面ナデ	20245 2層	
824	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面段帯形内側→L.R.縄文	内面ナデ	1 x	
825	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	口縁部に赤色文	内面磨き	1 x
826	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
827	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線間刻突文	内面磨き	1 x	
828	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面L.R.縄文	内面磨き	東北系。	x
829	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外・内面磨き		1 x	
830	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線間刻突文	内面ナデ	x	
831	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	黒	普通	外面条線	付点線縁文	内面ナデ	1 x
832	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面条線	内面ナデ	1 x	
833	陶土器	深鉢	-	(106)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文・黒A・無文部器	内面磨き	2 x	
834	陶土器	台付鉢	-	(137)	149	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	2層 2 x	
835	陶土器	深鉢	[240]	(148)	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面条線	付点線縁文	内面ナデ	1 x
836	陶土器	深鉢	[244]	(130)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐色	普通	外面条線等	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	2 x
837	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面割部に把手	内面磨き	1 x	
838	陶土器	壺	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面條状沈線→斜線文	内面ナデ	1 x	
839	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線間刻突文→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	2層	
840	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面口縁部に多葉状沈線	内面磨き	3 x	
841	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	x	
842	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
843	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	3 x	
844	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
845	陶土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	外面条線文	口縁部・腹面に黒A	内面磨き	2 x
846	陶土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面段帯形上黒A	内面磨き	3 x	
847	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	口縁部厚	内面ナデ	2層
848	陶土器	鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
849	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	1 x	
850	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面条線	→黒輪付	内面磨き	1 x
851	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
852	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	2 x	
853	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面条線	内面ナデ	2層	
854	陶土器	深鉢	[215]	(195)	-	灰-白・黒色粒子	にぶい赤褐色	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文・黒A→無文部器	内面磨き	20352 2 x	
855	陶土器	注口	-	(34)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	2層 10層	
856	陶土器	台付鉢	-	(29)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	脚部	外・内面ナデ	透かし孔3ヶ所	2 x
857	陶土器	鉢	[48]	(68)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	20294 2層	
858	陶土器	台付鉢	-	(40)	[58]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面割部によるナデ	内面ナデ	20282 1層	
859	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	條文	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	2 x
860	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外・内面磨き	内面口縁部に沈線	1 x	
861	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面磨き	20325 1層	
862	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面段帯形上R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	20365 1層	
863	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	外面段帯形沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	2 x	
864	陶土器	鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	灰黄褐色	普通	外面段帯形上R.L.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
865	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面段帯形上黒A	無文部器	内面磨き	1 x
866	陶土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黒	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部器	内面磨き	1 x	
867	陶土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部器	内面ナデ	1 x	
868	陶土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	灰 黒	普通	外面R.L.縄文→沈線→無文部器	内面磨き	2層	
869	陶土器	鉢	-	-	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄褐色	普通	外・内面磨き	東北系。	2層	
870	陶土器	深鉢	-	-	-	灰-白・黒色粒子	明 黒	普通	外面条線	→黒輪付	内面磨き	20483 1層



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
871	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面糸縷 内面磨き	2 x	
872	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外面磨り 口縁部未調整 内面ナデ	20.42 1層	口日輪
873	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面糸縷 内面ナデ	20.41 1層	
874	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外面糸縷→R.L.縄文→横穴沈焼 内面ナデ	II層	
875	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外面糸縷→縦横貼付 内面ナデ	20.30 1層	
876	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 規	普通	外面段帯糸縷沈焼→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
877	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面沈焼→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	19.65 1層	
878	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面段帯糸縷沈焼→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
879	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈焼→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	19.89 II層	
880	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	棒状文 外面沈焼→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
881	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	赤 規	普通	外面沈焼→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	19.62 II層	
882	陶文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面沈焼→L.R.縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
883	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面細かい刺突文充填 内面磨き	1 x	
884	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外面沈焼→無節L.縄文→無文部磨き 内面磨き	1 x	
885	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外面沈焼→刺突文 無文部磨き 内面磨き	1 x	
886	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	棒状文 外面磨き 内面ナデ	1 x	
887	陶文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外、内面磨き	1 x	
888	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外、内面磨き 口唇部のみ 二道割の痕痕	1 x	
889	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄褐	普通	外、内面磨き 口唇部に三叉状筋 二道割の痕痕	1 x	
890	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐	普通	外、内面磨き 口唇部に三叉状筋 二道割の痕痕	19.82 II層	
891	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	明赤規	普通	外面糸縷→付点線紋 内面磨き	19.76 II層	
892	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面糸縷 内面ナデ	1 x	
893	陶文土器	深鉢	126	180	30	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面糸縷 内面ナデ	19.62 II層	90%, PL.33
894	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄規	普通	外面段帯糸縷沈焼→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
895	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 規	普通	外面段帯糸縷沈焼→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	1 x	
896	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面磨り付→沈焼→R.L.縄文→無文部磨き 内面磨き	II層	
897	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄規	普通	外面沈焼→L.R.縄文→無節付付点線紋 内面磨き	1 x	
898	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面磨り部下に精削彫痕 内面ナデ	1 x	
899	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面細かい刺突文 無文部磨き 内面磨き	1 x	
900	陶文土器	広口壺	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄規	普通	外面磨り糸縷文 内面磨き	1 x	
901	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	外面沈焼→L.R.縄文→無文部磨き 内面磨き	19.65 II層	
902	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄規	普通	外面平面状文 内面磨き	1 x	
903	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	赤 規	普通	外面沈焼→無節L.縄文 内面ナデ	19.65 II層	
904	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	灰 規	普通	外面沈焼→R.L.縄文→無文部磨き 内面ナデ	II層	
905	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	口縁部外面磨りナデ 胴部磨り 内面ナデ	1 x	
906	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外、内面磨き	19.80 II層	
907	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	普通	外面磨き 内面ナデ	19.25 II層	
908	陶文土器	深鉢	[27.2]	[19.2]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	普通	外面沈焼→L.R.縄文 胴部糸縷 内面ナデ	2層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 偶	(5.5)	(9.0)	(2.6)	(83.6)	長石・石英・純粘土	黒	山形胴部 赤形	B7b 1 x	2a 類 PL.41
DP 2	土 偶	(4.5)	(3.5)	(2.6)	(27.6)	長石・石英・赤色粒子	明赤規	山形胴部 磨き調整	B66 1 - 1	2b 類
DP 3	土 偶	(4.7)	(5.3)	(2.8)	(45.8)	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	山形胴部 L.R.縄文 赤形	B63.3 25 層	2b 類
DP 4	土 偶	(3.9)	(3.6)	(2.4)	(18.4)	長石・石英	灰 規	山形胴部 竹管による刺突文	B65 1 - 2	2b 類
DP 5	土 偶	(5.0)	(4.5)	(4.4)	(36.9)	長石・石英	にぶい・黄褐	山形胴部 胴部 R.L.縄文	C68 1 - 1	2c 類
DP 6	土 偶	(5.4)	(5.4)	(3.0)	(46.4)	長石・石英・赤色粒子	黒 灰	山形胴部 R.L.縄文	B64 1 x	2b 類
DP 7	土 偶	(4.9)	(4.1)	(3.0)	(48.4)	長石・石英・純粘土	黒 規	山形胴部 無節L.縄文	C64 1 層	2b 類
DP 8	土 偶	(6.0)	(5.6)	3.7	(84.2)	長石・石英・赤色粒子	灰 規	山形胴部 胴部 背面にL.R.縄文	B65 2 層	2f 類
DP 9	土 偶	(4.6)	3.1	(3.0)	(37.7)	長石・石英	黒 規	山形胴部 赤形	B62 2 32 層	2d 類
DP 10	土 偶	(6.9)	(5.4)	4.9	(123.6)	長石・石英・雲母	黒 規	ミズク胴部 胴部 刺突文	B62 32 層	2d 類
DP 11	土 偶	(6.2)	(2.9)	2.5	(37.8)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	山形胴部 磨き調整 赤形	B62 1 x	2d 類
DP 12	土 偶	(6.3)	(12.3)	(3.8)	(231.2)	長石・石英・赤色粒子	明赤規	山形胴部 ナデ調整 背面に帯状の赤形	C60 2 層	2c 類 PL.41
DP 13	土 偶	(6.2)	(4.6)	3.1	(61.6)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	板状。 胴部 ナデ調整	B69 1 x	4d 類
DP 14	土 偶	(4.9)	(2.6)	3.5	(34.0)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	山形胴部	C68 1 x	2d 類
DP 15	土 偶	(5.3)	(2.3)	3.0	(29.1)	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄褐	山形胴部 沈焼→R.L.縄文	B64 2 25 層	2d 類
DP 16	土 偶	(7.2)	(4.0)	(4.0)	(56.4)	長石・石英	灰黄規	ハート形胴部 R.L.縄文	B62 2 層	7d 類
DP 17	土 偶	(9.1)	10.9	(3.4)	(181.2)	長石・石英・雲母	黒	ミズク胴部 赤形	B68 1 層 5a 2a 類	PL.41
DP 18	土 偶	(6.3)	(5.7)	2.5	(57.5)	長石・石英・雲母	黒 規	ミズク胴部 赤形	C64 1 - 1	3a 類
DP 19	土 偶	(6.1)	(4.5)	(2.0)	(34.3)	長石・石英・雲母	黒 規	ミズク胴部 胴部 赤形	B62 2 層	3c 類
DP 20	土 偶	(7.5)	8.6	4.2	(161.7)	長石・石英・雲母	明 規	ミズク胴部	C60 x	3a 類 PL.41
DP 21	土 偶	(9.7)	(8.1)	4.6	(210.9)	長石・石英	黒 規	ミズク胴部 胴部 入組文 赤形	B63 2 層	3e 類 PL.41
DP 22	土 偶	(5.3)	6.2	(3.8)	(102.4)	長石・石英・雲母	黒	ミズク胴部 赤形	C69 1 - 3	3a 類
DP 23	土 偶	(5.3)	(6.2)	(2.9)	(94.4)	長石・石英・雲母	黒	ミズク胴部	B68 1 - 5	3a 類
DP 24	土 偶	(3.9)	(4.4)	2.3	(33.4)	長石・石英	明赤規	ミズク胴部 沈焼内刺突文	B66 1 - 2	3a 類
DP 25	土 偶	(4.3)	9.2	(5.5)	(116.9)	長石・石英・赤色粒子	黒 規	ミズク胴部 R.L.縄文	C69 1 - 1	3c 類
DP 26	土 偶	(9.1)	(9.3)	3.3	(161.2)	長石・石英	黒 灰	ミズク胴部 胴部 R.L.縄文 赤形	C63 1 層	2e 類
DP 27	土 偶	(5.5)	(4.4)	(2.2)	(35.3)	長石・石英	にぶい・黄褐	ミズク胴部 R.L.縄文 扁平・板状	C63 1 x	3a 類

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP28	土偶	(3.4)	(4.0)	1.5	(1.42)	灰石・石莖	にぶい赤褐	ミズク削一胴部 背面にL.R.縄文 赤彩	B6g2 2層	3a層 PL41
DP29	土偶	(7.5)	11.3	4.5	(20.9)	紅・黒・緑・粘けい	暗 褐	ミズク削部 入組三叉文 赤彩	B6g2 3層	3a層 PL41
DP30	土偶	(8.5)	(4.7)	3.1	(8.62)	灰 褐	ミズク脚部 L.R.縄文	B6g8 II - 1	3d層	
DP31	土偶	(7.5)	(5.3)	2.7	(9.18)	灰石・石莖	灰 褐	ミズク脚部 L.R.縄文	C6c0 2x	3d層
DP32	土偶	(4.7)	(4.1)	2.4	(3.81)	灰石・石莖・赤色粘土	灰 褐	ミズク削一胴部 L.R.縄文	C6a2 2x	3a層
DP33	土偶	(6.8)	(5.1)	2.9	(6.8)	灰石・石莖・赤色粘土	明赤褐	ミズク脚部 L.R.縄文	C6c0 2層	3d層
DP34	土偶	(8.1)	(4.3)	2.4	(9.67)	灰石・石莖・赤色粘土	灰 褐	ミズク脚部 L.R.縄文	x	3d層
DP35	土偶	(3.5)	(4.2)	2.5	(18.1)	灰石・石莖	灰 褐	ミズク削一胴部 ナメ調整	B6g6 1層1x	3e層 PL41
DP36	土偶	(4.0)	(3.7)	1.6	(14.4)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい橙	板状カ 頭一胴部 ナメ調整	B6g6 1x	4e層 PL41
DP37	土偶	(3.9)	(3.6)	2.6	(18.6)	灰石・石莖	にぶい赤褐	板状削一胴部 ナメ調整	C6a2 2x	4e層
DP38	土偶	(3.1)	(2.8)	(1.6)	(6.9)	灰石・石莖	浅黄褐	板状削一胴部 ナメ調整	B6g6 2x	4e層
DP39	土偶	(6.9)	(4.6)	2.3	(6.87)	紅・黒・粘けい・粘けい	にぶい黄褐	板状削部 入組文・細かい刺突文	C6a8 2層	4e層
DP40	土偶	(3.4)	(5.1)	(3.1)	(45.1)	灰石・石莖	にぶい橙	板状削部 L.R.縄文 無文部磨き	B6g9 2層6x	4b層
DP41	土偶	(5.4)	(4.6)	3.6	(5.45)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい橙	中空胴部 ナメ調整	B6a8 1x	5b層IIと同一
DP42	土偶	(4.9)	(4.3)	(3.3)	(39.8)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい橙	中空胴部 ナメ調整	B6a8 1x	5b層IIと同一
DP43	土偶	(2.5)	(4.8)	3.4	(33.4)	灰石・石莖	橙	中空胴部 胴部・背面にL.R.縄文	C6a2 1x	5b層
DP44	土偶	(5.4)	(4.4)	4.7	(6.68)	灰石・石莖	にぶい黄褐	中空胴部 透光型部 L.R.縄文	C6a6 II - 3	5b層 PL40
DP45	土偶	(5.1)	(3.16)	(8.8)	(9.57)	灰石・石莖	灰 褐	中空胴部 磨きなし 鳥形土製品の可能性あり 赤彩	B6g2 32層	5b層
DP46	土偶	(6.8)	(8.3)	(5.0)	(81.3)	紅・黒・粘けい・粘けい	灰黄褐	中空胴部 無磨し縄文	C6a3 x	5b層
DP47	土偶	(5.3)	(4.2)	4.4	(7.74)	灰石・石莖	にぶい黄褐	中空胴部 磨い磨き調整	C6a2 2層	5b層
DP48	土偶	(5.9)	(4.9)	(2.4)	(43.2)	灰石・石莖・赤色粘土	橙	中空胴部 透光型部 外面ナメ調整	C7b2 2x	5d層
DP49	土偶	(8.6)	(5.5)	5.2	(18.7)	灰石・石莖	にぶい橙	中空胴部 横穴沈線文 ナメ調整 赤彩	B6g3 2層	5d層
DP50	土偶	(6.7)	(4.6)	(6.5)	(3.03)	紅・黒・粘けい・粘けい	にぶい褐	中空胴部 横穴沈線文 ナメ調整	B6g2 2層	5d層 PL41
DP51	土版	(6.7)	(5.3)	2.2	(10.85)	灰石・石莖	褐 灰	扉面凹部・横穴L.R.・中央部 一部縦穴L.R.・上部部透	C6a2 1x	5b層
DP52	土版	(5.8)	(4.5)	1.0	(32.4)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい褐	入組文 横面に沈線文	C6a2 1x	5b層
DP53	土版	(5.5)	(4.2)	(2.9)	(7.65)	灰石・石莖・赤色粘土	灰黄褐	表裏面三叉文	C6a9 2x	5b層
DP54	土版	(4.3)	(6.5)	1.9	(55.2)	灰石・石莖	にぶい赤褐	縦線文 上部部に押圧文	B6g2 2x	5b層
DP55	土版	(8.0)	7.6	1.5	(97.5)	灰石・石莖	にぶい褐	縦線文 無磨し縄文 上部に2か所の貫通孔	C6a1 2層	PL43
DP56	有孔円盤	径(9.2)	-	21	(81.9)	灰石・石莖・丸型石莖	褐 灰	中央部と3か所に貫通孔 ナメ調整	C6g3 2層	5b層
DP57	有孔円盤	径(10.5)	-	17	(94.9)	灰石・石莖	にぶい赤褐	中央部と4か所に貫通孔 ナメ調整	x	5b層
DP58	彫形	(8.0)	(4.9)	(2.3)	(27.2)	灰石・石莖・赤色粘土	灰 褐	表面面彫によるナメ調整	C6a2 1x	PL44
DP59	彫形	(4.1)	(3.8)	(2.9)	(21.5)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい橙	表面面彫によるナメ調整	C6a2 2x	PL44
DP60	貝輪状	(3.9)	(2.8)	2.2	(14.4)	灰石・石莖	褐 灰	表裏面磨き調整	B6g5 2x	5b層
DP61	貝輪状	(4.0)	(1.9)	1.9	(11.3)	灰石・石莖	にぶい褐	ナメ調整	B6g3 2x	5b層
DP62	貝輪状	(4.0)	(2.3)	2.0	(8.1)	灰石・石莖	橙	表裏面ナメ調整	C7d2 1x	5b層
DP63	貝輪状	(4.6)	(2.2)	2.0	(12.3)	灰石・石莖・赤色粘土	橙	表裏面ナメ調整	B6g2 32層	5b層
DP64	貝輪状	(4.4)	(2.4)	3.1	(18.8)	灰石・石莖	にぶい橙	上下端面に沈線文 ナメ調整	B7d2 1x	5b層
DP65	貝輪状	(5.3)	(2.6)	2.1	(20.5)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい橙	表裏面ナメ調整	C6a9 2x	PL44
DP66	貝輪状	(4.6)	(3.9)	1.4	(16.9)	灰石・石莖・赤色粘土	灰 褐	表裏面ナメ調整	B6a2 32層	PL44
DP67	貝輪状	(2.5)	(5.9)	2.1	(17.0)	灰石・石莖	にぶい橙	表裏面ナメ調整	C6a2 1x	5b層
DP68	土埴	5.1	2.8	1.8	29.1	灰石・石莖	灰 褐	有溝 ナメ調整	C6a1 1層	5b層
DP69	土埴	4.2	4.7	1.3	11.0	灰石・石莖	褐 灰	有溝 中央部に貫通孔 ナメ調整	B6g2 2x	5b層
DP70	土埴	2.5	2.1	1.9	9.5	灰石・石莖	にぶい橙	有溝 十字に走る ナメ調整	C6c0 2層	PL44
DP71	円盤状	径8.1	-	1.9	(115.5)	灰石・石莖・雲母	にぶい褐	ナメ調整 上下逆さま。	C6e9 2層	5b層
DP72	垂飾品	2.5	2.0	1.3	4.1	灰石・石莖	にぶい褐	ナメ調整	C6a8 2x	PL44
DP73	垂飾品	径1.3	-	1.4	2.0	灰石・石莖	にぶい赤褐	小玉状 ナメ調整	B7d3 1 - 4	5b層
DP74	垂飾品	径1.1	-	0.9	0.8	灰石・石莖	浅黄褐	小玉状 ナメ調整	B6g2 32層	PL44
DP75	垂飾品	2.5	1.9	1.9	(6.5)	灰石・石莖	灰 褐	風箏状 沈線による格子目文	B6a3 2層	PL44
DP76	垂飾品	1.9	1.1	1.1	1.8	灰石・石莖	灰 褐	風箏状 ナメ調整	B6g7 2層6x	5b層
DP77	貝飾り	径1.5	-	1.2	2.4	灰石・石莖	橙	耳栓 ナメ調整	B6g7 II - 3	I - 1
DP78	貝飾り	径1.2	-	1.7	2.0	灰石・石莖	にぶい褐	耳栓 ナメ調整	B6g5 2層1x	I - 1
DP79	貝飾り	径2.8	-	1.8	(14.4)	灰石・石莖・赤色粘土	橙	白型 ナメ調整	B7d2 2x	I - 2
DP80	貝飾り	径2.4	-	2.1	(10.0)	灰石・石莖	明赤褐	白型 ナメ調整	C6a3 3x	I - 3, PL42
DP81	貝飾り	径2.3	-	2.2	(10.4)	灰石・石莖	にぶい赤褐	白型 無磨しナメ調整	C6a2 2層	I - 3, PL42
DP82	貝飾り	径2.6	-	2.4	13.0	灰石・石莖	にぶい赤褐	白型 細かい割みによる施文 側面ナメ調整	B6g5 1 - 2	I - 3
DP83	貝飾り	径3.0	-	2.1	15.1	灰石・石莖	明赤褐	扇状 ナメ調整	C6a0 1 - 6	II - 1
DP84	貝飾り	径4.8	-	1.9	(27.7)	灰石・石莖・丸型石莖	灰黄褐	滑車型 磨き調整	B6g2 4層	5b層
DP85	貝飾り	径3.7	-	1.9	(16.4)	灰石・石莖・赤色粘土	褐 灰	滑車型 側面彫り	B6a8 1 - 5	5b層
DP86	貝飾り	径(4.6)	-	2.1	(6.8)	灰石・石莖	灰黄褐	滑車型 ナメ調整	C6c0 2x	5b層
DP87	貝飾り	径(5.8)	-	2.0	(15.1)	灰石・石莖	橙	滑車型 周縁部に瘤 ナメ調整	C6c0 1層	5b層
DP88	貝飾り	径(6.2)	-	1.8	(23.0)	灰石・石莖	褐 灰	滑車型 縦線文 表裏面磨き	C6a8 1x	5b層
DP89	貝飾り	径(7.6)	-	1.9	(13.9)	灰石・石莖・丸型石莖	橙	滑車型 表面磨き調整 内面ナメ調整	B6a6 2x	5b層
DP90	貝飾り	径5.8	-	2.2	33.9	灰石・石莖	明 褐	滑車型 細かい割み	B6a6 II - 3	5b層 PL42
DP91	貝飾り	径5.4	-	2.1	(34.1)	灰石・石莖・丸型石莖	橙	滑車型 ナメ調整	B6g3 2層	PL42
DP92	貝飾り	径(6.8)	-	2.1	(13.0)	灰石・石莖・赤色粘土	にぶい橙	滑車型 表面磨き 裏面ナメ	B6a2 2層5x	IV - 2
DP93	貝飾り	径(5.8)	-	2.1	(13.3)	灰石・石莖・丸型石莖	にぶい黄褐	滑車型 磨き調整	B6a4 2層2x	IV - 2
DP94	貝飾り	径(5.8)	-	1.9	(6.2)	灰石・石莖	黒 褐	滑車型 三叉文 磨き調整	C6a0 2x	IV - 2
DP95	貝飾り	径3.4	-	1.7	9.4	灰石・石莖	明赤褐	滑車型 磨き調整	B6a2 2層	V, PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 96	耳飾り	径 5.8	-	1.7	(32.4)	長石・石英・赤色胎土	明赤焼	滑車型 表面比較文 磨き	B66 E-3	N-1 PL42
DP 97	耳飾り	径(6.9)	-	2.1	(19.9)	長石・石英	灰青焼	滑車型 全面黒漆塗布。	B69 4x	N-2
DP 98	耳飾り	径(7.6)	-	1.9	(16.6)	長石・石英	灰白赤焼	滑車型 表面磨き	C62 2x	N-2
DP 99	耳飾り	径(5.6)	-	2.0	(5.8)	長石・石英	黒焼	滑車型 大組文 磨き調整	C7c 1x	V
DP100	耳飾り	径(6.8)	-	2.4	(9.8)	長石・石英	灰白赤焼	滑車型 三叉文 表面磨き 表面ナデ	B62 2x	V
DP101	耳飾り	径(6.0)	-	1.9	31.1	長石・石英・赤色胎土	黒焼	滑車型 三叉文 磨き調整	C7b 1 x	V PL42
DP102	耳飾り	(5.5)	(1.6)	(0.7)	(4.3)	長石・石英	灰 焼	透かし彫り形のブリッジ部分 中央部に深い貫通孔	C7b 2 層	Ⅱ
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
Q 1	尖頭器	(5.48)	4.01	1.71	(34.8)	安山岩	上部欠損	C66 1x	PL47	
Q 2	石 鏝	2.27	3.34	0.89	4.1	黒曜石	横長割片の 2 個縁を調整	C60 1x		
Q 3	石 鏝	(2.54)	1.05	0.42	0.8	チャート	有茎 基部に付着物	B69 Ⅱ層	PL47	
Q 4	石 鏝	(1.71)	2.40	0.72	1.60	チャート	下部部欠損	B62 2x	PL47	
Q 5	石 鏝	2.36	1.26	0.46	0.9	馬 嶮	有茎	C62 2x		
Q 6	石 鏝	1.75	1.16	0.30	0.4	黒曜石	有茎 表面に古い磨痕あり	C65 2x	PL47	
Q 7	石 鏝	(2.09)	1.35	0.43	(0.8)	チャート	有茎 先端部欠損	C67 1x		
Q 8	石 鏝	(1.81)	2.12	0.53	1.2	チャート	平基 先端部欠損	B63 1x		
Q 9	石 鏝	5.4	2.2	0.6	4.4	チャート	大形 有茎	C63 3x	PL47	
Q 10	石 鏝	(3.08)	1.58	0.59	1.6	チャート	有茎	B62 2x	PL47	
Q 11	石 鏝	2.23	1.27	0.55	1.0	チャート	有茎	B65 1x		
Q 12	石 鏝	2.12	1.91	0.34	1.0	チャート	円基	C64 2x		
Q 13	石 鏝	(2.68)	1.53	0.42	(1.1)	チャート	円基 先端部欠損	C68 1x	PL47	
Q 14	石 鏝	1.93	(1.91)	0.33	(0.8)	チャート	円基 下部部欠損	B62 6 層		
Q 15	石 鏝	(1.23)	1.44	0.38	(0.4)	黒曜石	円基 先端部欠損	C7b Ⅱ層		
Q 16	石 鏝	3.36	0.54	0.88	7.3	チャート	未成品	C68 2x		
Q 17	石 鏝	3.95	2.39	1.46	11.5	チャート	未成品	B68 1x	PL47	
Q 18	石 鏝	4.69	2.17	1.39	10.3	チャート	未成品	C68 2x		
Q 19	R 字	44.9	20.5	17.3	13.4	黒曜石	704 の意の中から出土	C65 1-1	PL47	
Q 20	打製石斧	10.2	7.8	3.3	33.5	ホルンフェルス	分銅形	B68 2x		
Q 21	打製石斧	7.7	5.0	2.7	9.1	ホルンフェルス	楕円形	C69 1x		
Q 22	打製石斧	(8.4)	5.5	2.4	(13.7)	頁 岩	未成品 楕円形。	C74 1x		
Q 23	磨 器	6.3	5.6	1.3	4.29	輝石安山岩	自然磨の粗縁を調整	B62 2x		
Q 24	磨 器	5.8	4.8	0.9	3.81	輝石安山岩	自然磨の粗縁を調整	B69 2x	PL45	
Q 25	磨 器	5.8	5.4	1.2	3.44	溶結凝灰岩	自然磨の粗縁を調整	B69 2x		
Q 26	磨 器	5.7	5.4	1.7	61.8	角閃石輝石安山岩	自然磨の粗縁を調整	B63 1x		
Q 27	磨 器	4.5	4.6	0.9	21.4	輝石安山岩	自然磨の粗縁を調整	B63 3x		
Q 28	磨 器	5.7	4.7	0.6	24.4	輝石安山岩	自然磨の粗縁を調整	B68 1x	PL45	
Q 29	磨 器	6.2	6.8	1.5	83.1	安山岩	自然磨の粗縁を調整	B71 2x		
Q 30	磨 器	(6.5)	6.5	1.4	(51.2)	安山岩	自然磨の粗縁を調整	C64 1x		
Q 31	磨 器	4.5	4.3	0.9	25.4	安山岩	自然磨の粗縁を調整 下部部に使用痕。	C65 2x	被熱	
Q 32	磨製石斧	4.7	3.0	0.9	21.6	蛇紋岩	小形定角式	C66 E-3	PL46	
Q 33	磨製石斧	4.2	2.2	1.0	12.5	輝石安山岩	小形定角式 刃部に調整痕	C63 2x	被熱	
Q 34	磨製石斧	4.9	2.8	1.3	24.2	ホルンフェルス	小形定角式 基部に調整痕	B62 26 層		
Q 35	磨製石斧	6.5	1.8	0.9	16.7	粘板岩	小形定角式 正面中央部の縁が明瞭	C74 Ⅱ層	PL46	
Q 36	磨製石斧	(2.7)	(1.6)	(1.1)	(5.2)	緑色岩	小形定角式 基部の断面が丸みを帯びる	C67 E-3		
Q 37	磨製石斧	15.7	6.4	3.9	50.96	砂 岩	定角式 刃部欠損 表面の一部・側面に敲打痕	C66 E-3	被熱	
Q 38	磨製石斧	(7.8)	(4.2)	3.0	(13.20)	輝緑岩	定角式 刃部欠損	B63 1x		
Q 39	磨製石斧	(5.4)	(3.9)	(3.1)	(86.4)	輝緑岩	定角式 側面に敲打痕	B65 1x		
Q 40	磨製石斧	(2.9)	(3.7)	(2.3)	(26.8)	蛇紋岩	定角式 基部・刃部欠損	C64 2x		
Q 41	磨製石斧	7.2	3.9	1.7	68.2	緑色岩	研ぎ整形 刃部に磨り痕	B67 1x		
Q 42	磨製石斧	8.9	4.0	1.7	99.3	蛇紋岩	定角式 研ぎ整形	C67 1x		
Q 43	磨製石斧	(6.8)	5.2	2.5	(32.2)	緑色岩	定角式 基部欠損 側面に磨り切り痕 刃部に研ぎ痕	C7b 3 1x	PL46	
Q 44	磨製石斧	(5.4)	3.1	1.7	(47.3)	緑色片岩	定角式 基部欠損後研ぎ 再利用。	C62 2x		
Q 45	磨製石斧	(10.0)	(4.4)	(2.8)	(30.1)	輝緑岩	定角式 刃部欠損	x		
Q 46	磨製石斧	(7.0)	(4.8)	(2.2)	(60.4)	輝石安山岩	基部欠損 自然磨の下部部のみ敲打・研ぎして刃部作出	C64 2x		
Q 47	磨製石斧	(4.7)	(4.9)	(3.1)	(10.0)	ドレイイト	定角式未成品 敲打成形 刃部欠損	C68 1x		
Q 48	磨製石斧	8.2	6.1	2.9	17.20	緑色岩	未成品 調整成形→敲打整形	C63 2 層		
Q 49	磨製石斧	10.7	4.5	3.3	26.1	緑色片岩	定角式未成品 敲打成形 刃部欠損	C60 2x	PL46	
Q 50	磨製石斧	(15.6)	(7.8)	4.8	(90.1)	頁レイ岩	未成品 敲打成形	C63 2x	PL46	
Q 51	磨石類	7.6	3.3	2.0	(69.6)	輝緑岩	自然磨の下部部に磨り痕	B69 Ⅱ層	PL46	
Q 52	磨石類	7.5	2.8	1.1	29.8	ホルンフェルス	自然磨の粗縁部に磨り痕	C62 2x	1e Ⅱ	
Q 53	磨石類	5.5	4.4	1.2	45.2	安山岩	自然磨の粗縁部に磨り痕	C63 1x	1e Ⅱ	
Q 54	磨石類	7.9	3.8	1.9	70.2	砂 岩	自然磨の上下・一側縁部に磨り痕	C65 1x	1e Ⅱ	
Q 55	磨石類	(8.5)	1.8	1.1	(26.7)	粘板岩	自然磨の粗縁部に磨り痕	C65 2x	1e Ⅱ	
Q 56	磨石類	6.7	3.7	1.8	(53.8)	砂 岩	自然磨の上下端部に敲打痕 一側縁に磨り痕	B69 1x	2e Ⅱ	
Q 57	磨石類	4.6	1.7	1.1	11.5	千枚岩	衣表・側縁に磨り痕 下部部に敲打痕	C66 1x	2a Ⅱ	
Q 58	磨石類	6.4	2.9	1.5	33.7	頁 岩	自然磨の上下端部に敲打痕	B62 2x	3e Ⅱ	
Q 59	磨石類	5.0	2.7	1.8	(34.5)	輝石アイサイト	自然磨の上下端部に敲打痕 一側縁に磨り痕	C67 Ⅱ層 2x	2e Ⅱ	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出上位置	備考
Q 60	磨石類	9.9	3.2	2.0	87.8	ドレライト	自然礫の上下端部に敲打痕	C649 I層 1x	3e類
Q 61	磨石類	5.4	5.0	4.2	165.0	角閃石輝石(ヤイト)	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	B62 2x	1e類
Q 62	磨石類	5.0	4.5	3.2	189.5	輝石安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	B603 2x	1e類
Q 63	磨石類	5.6	5.4	4.1	187.0	多孔質安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	C69 1x	1e類
Q 64	磨石類	13.7	7.1	4.6	735.2	角閃石輝石安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	C649 2x	1a類 塚付着
Q 65	磨石類	14.6	8.8	4.9	270.1	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	B65 4層	2a類 塚付着
Q 66	磨石類	7.2	6.0	2.5	271.1	輝石安山岩	表裏研磨面 側面密な敲打痕を含む磨り面	C69 1x	1a類
Q 67	磨石類	5.6	7.9	3.5	255.5	珉イ岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C66 1層	2a類
Q 68	磨石類	9.1	5.9	3.6	303.0	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面 下層部に敲打痕	B68 2x	2a類
Q 69	磨石類	12.0	8.2	3.1	608.8	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C73 2層	2a類 塚付着
Q 70	磨石類	9.2	6.0	3.5	295.9	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	B64 2層	2a類
Q 71	磨石類	6.3	6.2	2.6	153.3	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C643 2x	2a類 塚付着
Q 72	磨石類	7.6	7.2	3.4	307.1	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C64 2層	2c類
Q 73	磨石類	6.3	5.7	4.5	219.5	輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	C65 2層	2c類
Q 74	磨石類	7.8	7.1	5.4	424.7	角閃石輝石安山岩	表裏研磨面・凹痕 側面密な敲打痕を含む磨り面	B64 1 - 2	2a類
Q 75	磨石類	6.2	4.6	3.8	192.5	角閃石輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 3面に凹痕	B65 2層 2x	2a類
Q 76	磨石類	5.1	4.3	3.3	122.4	輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 表裏面に凹痕	B62 6x	2a類
Q 77	磨石類	5.4	4.7	4.3	189.2	輝石安山岩	表裏・側面に磨り面	B68 1 - 2	1a類
Q 78	磨石類	7.2	5.0	5.0	367.4	砂 岩	表裏・側面に磨り面 一部に赤色顔料付着。	C76 1x	1a類 塚付着
Q 79	磨石類	8.0	6.7	5.0	365.0	角閃石輝石安山岩	表裏・側面に磨り面 上下端部に敲打痕	B72 1x	2a類
Q 80	磨石類	9.4	5.1	3.9	230.3	輝石(ヤイト)	表裏・側面に磨り面 表裏面・下層部に敲打痕	C63 1x	2a類
Q 81	磨石類	8.1	4.8	4.1	223.5	凝灰岩	自然礫の両端・表面に敲打痕	B64 1 - 2	3e類
Q 82	石皿類	7.8	(6.1)	5.0	(197.0)	安山岩	有縁 使用面一面	x	被熱 1b類
Q 83	石皿類	(24.7)	(9.9)	4.9	(110.2)	砂 岩	表裏面に磨り面 底面状に研磨	B66 1 - 2	被熱 1b類
Q 84	石皿類	(17.7)	(9.4)	4.8	(72.2)	安山岩	表裏面に磨り面 裏面に凹痕	B74 1x	2b類 汚丸
Q 85	石皿類	(6.0)	(7.8)	(5.3)	(288.9)	安山岩	表面磨り面 裏面・側面に凹痕	C63 2x	2b類
Q 86	石皿類	(8.6)	(7.2)	(3.8)	(232.1)	安山岩	表面磨り面 裏面に凹痕	B66 1層	2b類
Q 87	石皿類	(8.5)	(7.5)	(4.7)	(174.7)	安山岩	表面磨り面 裏面に凹痕	c69 2x	2b類
Q 88	石皿類	(9.7)	(11.7)	(5.6)	(431.1)	安山岩	表裏面に磨り面・凹痕	B69 2層 6x	2b類
Q 89	石皿類	(7.1)	(7.8)	1.9	146.8	砂 岩	表裏面底面状に研磨 裏面に敲痕	B68 2x	3b類
Q 90	石皿類	(40.8)	(25.8)	4.1	(89.5)	安山岩	表裏面に磨り面	B66 4x	被熱 5a類 塚付着
Q 91	石皿類	(19.5)	(12.8)	7.3	(115.7)	安山岩	表裏面に磨り面・敲打痕 縁部に凹痕	B64 1 - 2	2b類
Q 92	石 鉢	4.3	4.0	2.4	54.6	角閃石輝石(ヤイト)	長軸方向に有溝	C65 5 x	1 類
Q 93	石 鉢	4.4	2.6	1.5	19.7	安山岩	長軸方向に有溝	B63 1x	1 類
Q 94	石 鉢	(5.1)	3.5	0.7	(19.0)	千枚岩	長軸方向に有溝	C68 5 x	1 類
Q 95	石 鉢	2.9	2.5	0.8	9.8	安山岩	長軸方向上下端部に切目	C60 2層	2 類
Q 96	石 鉢	3.4	2.3	0.8	11.0	輝石安山岩	長軸方向上下端部に切目	C62 2x	2 類
Q 97	石 鉢	5.5	3.5	1.2	30.7	ホルンフェルス	長軸・短軸方向に切目	B62 1x	2 類
Q 98	石 鉢	6.0	2.1	0.9	20.8	頁 岩	長軸上下端部に切目	C63 1x	2 類
Q 99	石 鉢	6.4	4.1	1.6	51.5	ドレライト	長軸上下端部に切目	B67 4層 5x	2 類
Q 100	石 鉢	(3.5)	2.8	(0.8)	(9.2)	凝灰片岩	長軸上端部に切目	B62 3x	2 類
Q 101	石 鉢	2.7	1.8	0.7	4.3	無味品質安山岩	短軸側に打ち欠き痕 一方からの研磨のみ	C69 2x	3 類
Q 102	石 鉢	2.5	3.0	0.8	8.3	角閃石輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	B62 2層	3 類
Q 103	石 鉢	3.3	2.2	0.6	5.3	安山岩	長軸上・短軸側に打ち欠き痕 長軸下部に研磨	B62 2x	3 類
Q 104	石 鉢	3.6	2.4	0.8	5.2	輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	B63 3x	3 類
Q 105	石 鉢	3.9	2.5	0.9	10.1	頁 岩	短軸側に打ち欠き痕	C68 2層 3x	3 類
Q 106	石 鉢	3.7	2.4	1.5	17.9	安山岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B65 2x	3 類
Q 107	石 鉢	3.2	3.8	0.7	13.7	安山岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B63 2x	3 類
Q 108	石 鉢	4.9	3.6	1.2	24.0	輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	B62 26層	3 類
Q 109	石 鉢	5.3	3.5	1.3	29.6	角閃石輝石安山岩	短軸側に打ち欠き痕	C68 2x	3 類
Q 110	石 鉢	4.1	3.2	0.8	14.4	砂 岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B63 2x	3 類
Q 111	石 鉢	4.5	3.5	1.1	21.5	輝石安山岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B67 2x	3 類
Q 112	石 鉢	7.1	6.5	1.3	72.1	凝結凝灰岩	長軸側上下端部に打ち欠き痕	B69 2x	3 類
Q 113	底 石	(12.2)	(10.4)	5.9	(58.5)	砂 岩	表裏上・一側縁に筋状の研磨痕	B66 1 - 2	被熱 5a類 汚丸
Q 114	底 石	(9.8)	(7.0)	2.9	(80.3)	砂 岩	表裏面に底面 筋状の研磨痕	C69 1x	被熱 2b類
Q 115	底 石	(7.3)	(6.9)	2.5	(23.5)	安山岩	表裏面・下層部に底面 表裏面筋状の研磨痕	B68 1x	被熱 2b類
Q 116	底 石	(6.9)	5.0	4.7	(82.3)	砂 岩	表裏・側面底面	C65 1x	被熱 2b類
Q 117	底 石	(5.3)	(10.3)	2.1	(102.6)	砂 岩	表裏面に底面	B62 2層	被熱 2b類
Q 118	底 石	(9.7)	(9.6)	(2.9)	(296.6)	砂 岩	表面の一部に研磨痕	C6c 21層	2b類
Q 119	底 石	(6.4)	4.8	1.1	(51.9)	砂 岩	表裏面・下層部に底面	B66 1x	被熱 4b類
Q 120	底 石	(6.0)	(5.3)	1.1	(35.8)	砂 岩	表裏面に底面	B67 2x	被熱 4b類
Q 121	底 石	9.0	4.7	1.4	54.8	砂 岩	表裏面・下層部に底面 表裏面筋状の研磨痕 左側面に一方からの研磨痕	B63 1x	被熱 4a類 汚丸
Q 122	底 石	(4.9)	3.9	1.1	(31.8)	砂 岩	表裏面・下層部に底面	B63 x	被熱 4b類
Q 123	底 石	(4.9)	4.0	1.2	(24.7)	砂 岩	表裏面に底面 筋状の研磨痕	B66 1x	被熱 4b類
Q 124	底 石	6.4	4.0	1.2	(50.5)	砂 岩	表裏・側面に底面	C62 2x	被熱 4a類
Q 125	底 石	(5.3)	3.0	1.2	(24.2)	砂 岩	表裏面に底面	x	被熱 4b類
Q 126	底 石	(8.2)	(4.9)	1.5	(53.0)	砂 岩	表裏面に底面 表面に凹痕	C69 1x	4b類
Q 127	底 石	8.4	3.8	2.7	100.7	砂 岩	表裏・側面に底面 筋状の研磨痕	C65 2x	被熱 1a類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 128	砥石	7.3	6.0	3.3	(131.3)	砂岩	表裏・側面に砥面 筋状の研磨痕	C6e5 1x	被熱 1a類
Q 129	砥石	3.8	4.6	2.5	(53.8)	砂岩	全面が砥面 筋状の研磨痕	B63 2x	1a類 PL48
Q 130	石棒	3.9	4.5	3.1	(45.1)	砂岩	幅広い沈線による柄頭文様	B64 2層	
Q 131	石棒	4.6	4.1	2.1	(47.4)	緑色片岩	幅広い沈線による柄頭文様	B66 1x	
Q 132	石剣	6.0	2.9	1.4	(46.0)	緑色片岩	扁平状の柄頭 沈線文と貫通孔を有する	B69 2x	PL45
Q 133	石棒	2.9	3.3	1.8	(22.2)	粘板岩	円柱状の柄頭 成熱野型。	C6a 8 2層 2x	
Q 134	石棒	4.7	3.8	1.5	(43.4)	泥岩	逆行沈線文 文字文。	C6a 8 2層 3x	被熱
Q 135	石剣	(17.9)	(4.4)	(3.0)	(382.5)	緑色片岩	龜頭状の柄頭 高井東型	C7c3 2層	被熱 PL45
Q 136	石剣	(11.7)	3.2	1.6	(132.2)	緑色片岩	研磨整形	C66 1x	
Q 137	石剣	(7.3)	3.4	1.9	(78.1)	緑色片岩	研磨整形	C6a2 2x	
Q 138	石剣	(10.2)	(2.7)	(1.1)	(37.7)	粘板岩	研磨整形	C6G 2層	
Q 139	石剣	(9.0)	3.0	1.4	(61.8)	緑色片岩	研磨整形	B67 1 - 2	被熱
Q 140	石剣	(5.2)	2.6	1.0	(23.6)	緑色粘板岩	研磨整形	B6g2 6x	
Q 141	磨製石斧	8.4	3.0	1.6	(63.2)	角閃石片岩	尖角式 刃部欠損	C6a 8 1x	
Q 142	石剣	(14.1)	3.5	1.4	(121.8)	緑色片岩	研磨整形	C6b 7 2層	
Q 143	石棒	(10.3)	3.5	3.3	(141.3)	粘板岩	端部が有段 成熱野型。	C6a 1 - 2	被熱 PL45
Q 144	石棒	(6.1)	(3.3)	(1.1)	(35.1)	粘板岩	研磨整形	C6a 2x	被熱
Q 145	石棒	(6.0)	(2.6)	(1.8)	(26.0)	粘板岩	端部に尖突 成熱野型。	C6a 9 1x	被熱
Q 146	石棒	(6.9)	3.4	(2.5)	(63.8)	泥岩	研磨整形	C7b1 2x	被熱
Q 147	石剣	(15.3)	4.2	(2.6)	(285.4)	ホルンフェルス	表面に敲打痕 未成品。	B62 2層	
Q 148	換石	(9.0)	(9.3)	(6.2)	(641.6)	斑レイ岩	研磨整形	B63 2x	PL45
Q 149	換石	(8.2)	5.1	3.2	(396.6)	斑レイ岩	研磨整形	B62 2x	表裏保 PL45
Q 150	垂輪品	4.0	1.5	0.6	3.1	角閃石片岩	研磨整形	C7c2 1x	PL46
Q 151	垂輪品	3.1	2.0	1.7	21.3	燧 華	穿孔未貫通 未成品	B72 2層	PL46
Q 152	垂輪品	2.0	1.3	1.2	(3.2)	蛇紋岩	勾玉状 腹面に4本の沈線文 片面穿孔	C6a 1 1層	PL46
Q 153	磨製石	2.7	2.7	(1.1)	(9.7)	無輝品貫安山岩	表面に格子目状の沈線文	B66 1x	
Q 154	垂輪品	(1.4)	1.0	1.1	(21.1)	玉 髓	勾玉状。穿孔未貫通 未成品	B6a3 25層	
Q 155	垂輪品	径 1.3	-	1.1	2.0	蛇紋岩	小玉状 研磨整形 片面穿孔	B6a2 26層	PL46
Q 156	垂輪品	径 0.9	-	0.6	(0.5)	蛇紋岩	白玉状 研磨整形 片面穿孔	C6e3 1x	PL46
Q 157	垂輪品	径 1.4	-	0.7	2.3	滑 石	表裏・周縁研磨整形 未穿孔 未成品	B6a2 32層	PL46

## 第1号遺物包含層出土遺物観察表(第319・320図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土 甕	(7.6)	6.4	6.5	(94.8)	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	中空 透光彫形 頸部	C4e5 1x	5a類 PL41
DP 2	土 甕	(4.7)	(3.9)	2.0	(33.0)	長石・石英	にぶい青黒	山形頸部 沈線文施文	C4e3 1x	2a類
DP 3	土 甕	(5.8)	4.5	1.4	(23.5)	長石・石英・赤色粒子	橙	板状 胴部格子目文	C4e4 1x	4f類
DP 4	土 甕	(5.0)	(3.4)	2.2	(31.4)	長石・石英	にぶい橙	板状 胴部 渦巻文	C4e1 1x	4b類
DP 5	キノの磨石	5.3	4.2	1.0	23.5	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	ホオジロサメの歯模倣	C4e3 1x	PL44
DP 6	耳飾り	径 7.4	-	2.3	67.5	長石・石英・雲母	黒 褐	滑車型 入組三叉文施文、ミガキ成形	x	N 2類 PL42
DP 7	耳飾り	径 (6.2)	-	2.2	(15.8)	長石・石英	にぶい褐	三叉文間に細かい刺突文光沢 側面ナデ 表面磨き	C4f4 1x	II 1類
DP 8	耳飾り	径 2.8	-	1.5	6.2	長石・石英・角閃石	明赤褐	板状 刺突文	C3g1 1x	IV 3類 PL42
DP 9	土 鉢	1.8	1.7	1.4	3.7	長石・石英	にぶい橙	有蓋 ナデ調整	C4e1 1x	
DP 10	有孔円盤	径 8.6	-	1.9	(136.4)	長石・石英	褐 灰	表裏面ナデ 中央・3か所に貫通孔 1か所未貫通	C4e4 1x	
DP 11	土 瓶	(5.3)	(7.4)	2.4	(103.0)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	沈線→無筋 L 縄文→無文部磨き 側面に刺突文	C4e5 1x	PL43

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏡	1.97	1.17	0.57	1.06	閃輝石	円蓋	C3g8 1x	
Q 2	石 鏡	(21.4)	207	0.74	(1.29)	チャート	先端部欠損	C4g13 1x	PL47
Q 3	石 鏡	2.22	1.87	0.57	1.32	チャート	T字形	C4f4 1x	PL47
Q 4	石 鏡	(1.73)	2.21	0.57	(1.67)	チャート	先端部欠損	C4f4 1x	
Q 5	石 鏡	4.00	3.31	2.32	27.04	チャート	未成品	C4c3 1x	
Q 6	打製石斧	(14.2)	6.8	2.7	(329.9)	紅崖石片岩	分銅形	C4d5 1x	
Q 7	打製石斧	7.2	4.3	1.8	75.6	ホルンフェルス	未成品	C3g1 1x	
Q 8	打製石斧	(5.2)	7.1	2.1	(63.4)	輝石安山岩	分銅形	C4e1 1x	
Q 9	打製石斧	(7.4)	7.0	2.0	(122.30)	輝石安山岩	分銅形	C4d2 1x	
Q 10	打製石斧	(4.2)	6.3	2.4	(57.0)	輝石安山岩	分銅形	C4f1 1x	
Q 11	磨製石斧	5.2	3.3	1.1	27.5	ホルンフェルス	小形尖角式 表面敲打痕研磨整形 表面敲打のみ	C4f2 1x	

(6) 遺物集中地点

第1号遺物集中地点 (第42・43・321～324図 PL25)

位置 調査A区北西部のB6h2・h3区、標高20mほどの台地上から台地斜面部に位置している。

重複関係 第2号遺物包含層の第1層下層から第2層上面で確認した。第6号竪穴建物、第45号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号遺物包含層中で、復元可能な個体を含めた大形土器片などの遺物が多量に出土する地点を確認した。当初竪穴建物跡の存在を考へ第10号竪穴建物跡としたが、床面と考えられる位置で硬化面や炉跡、ピットなどが確認できなかったことから、遺物集中地点とした。遺物が集中する範囲は、東西約6m、南北約4.5mで、層厚は20～40cmである。

覆土 10層に分層できる。各層ともロームブロックやローム粒子、骨粉、遺物が多量に含まれている。なお本跡付近に位置する第2号遺物包含層については、当地点で個別に発番した。概ね第2層に相当するものと考えられるが、第5・6層は遺物が多量に含まれている。またローム粒子や骨粉が含まれている層も多く、第1～6層、第22～25層は不整合な堆積状況を示していることから、建物跡などの遺構の覆土が攪乱された可能性もある。第19～21層はローム層に近い土である。

土層解説

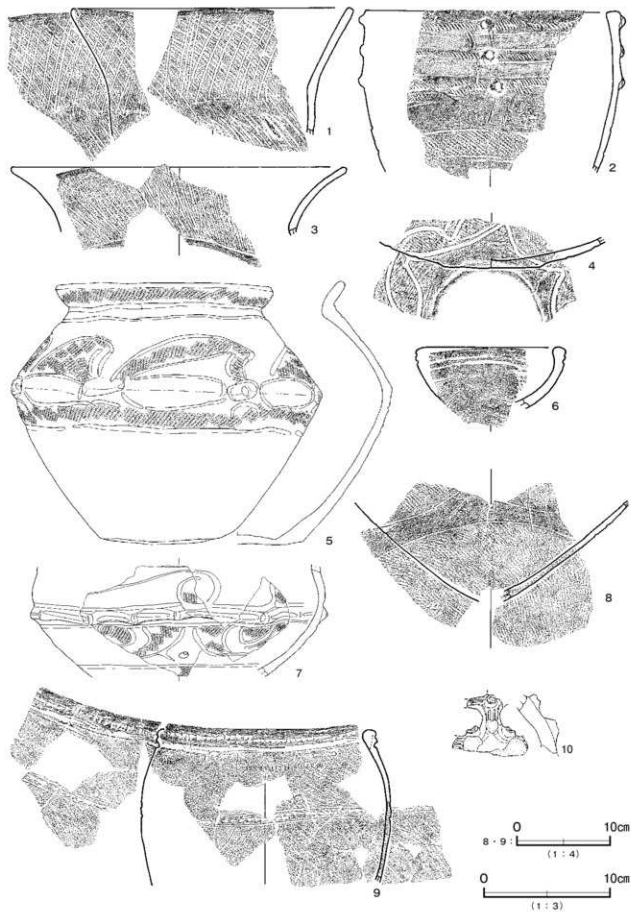
1 暗褐色	ローム粒子少量	5 暗褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子中量、骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量	7 黒色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量、骨粉微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
		9 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
		10 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・骨粉少量

土層解説 (HG2)

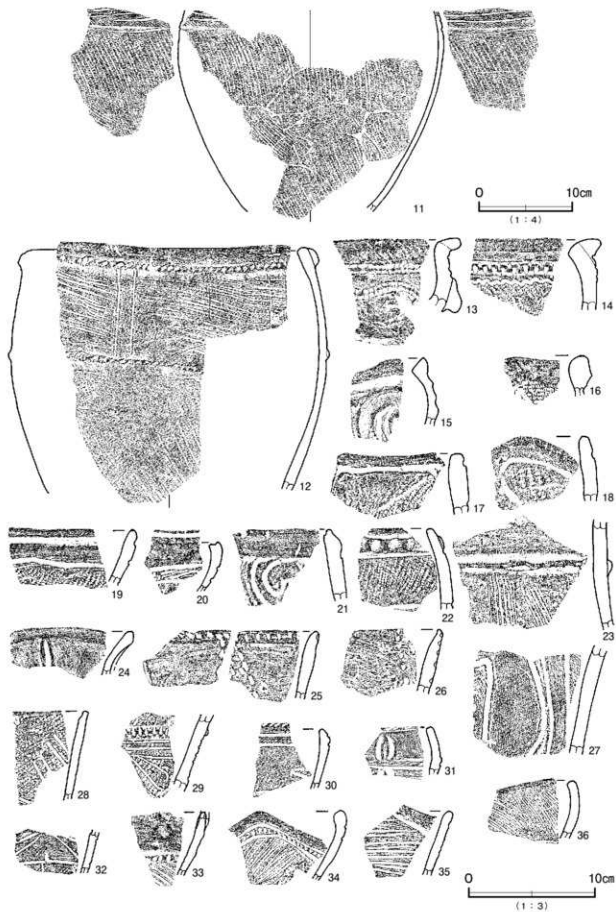
1 暗褐色	ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒暗褐色	ロームブロック・骨粉少量、焼土粒子・炭化粒子微量	15 黒暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量	16 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 黒暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量	17 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・骨粉少量
5 黒暗褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子・骨粉少量	18 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量	19 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量
7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、骨粉微量	20 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、骨粉微量	21 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	22 黒暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
10 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	23 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
11 黒暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・骨粉少量	24 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	25 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉少量
13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・骨粉微量		

遺物出土状況 縄文土器片5242点(88.41kg)、土製品17点(土器片円盤9、耳飾り2、土偶6)、石器・石製品17点(磨製石斧2、打製石斧3、石皿類5、磨石類1、石錘3、砥石1、礫器1、加工痕のある剥片1)のほか、焼成粘土塊1点、石核3点(チャート2、瑪瑙1)、剥片15点(チャート9、黒曜石6)が出土している。土器は中期前半から晩期中葉までのものが見られるが、主体となるのは第5群(加曾利B式)29.2%、第7群(安行1・2式)25.5%で、特に安行1式が多く出土している。また晩期前葉までのものが比較的多くまとまって確認でき、ほぼ完形の5は安行3b式の広口壺である。

所見 時期は、出土遺物から後期後葉の安行1式期と考えられる。復元可能な個体や大形破片が多いものの、意図的な配置などは確認できなかった。床面や施設は確認できなかったが、本来は竪穴建物跡の一部で、廃棄後の整地などによって壁や床面等が不明瞭になったものと考えられる。晩期前葉の遺物は、建物廃棄後の整地の際に混入したが、整地後に廃棄されたものと考えられる。当遺構が位置する付近の第2号遺物包含層は、色調や含有物、堆積状況など、遺構の覆土に近い様相を呈していることから、本跡以外にもさらにいくつかの建物跡が存在した可能性がある。

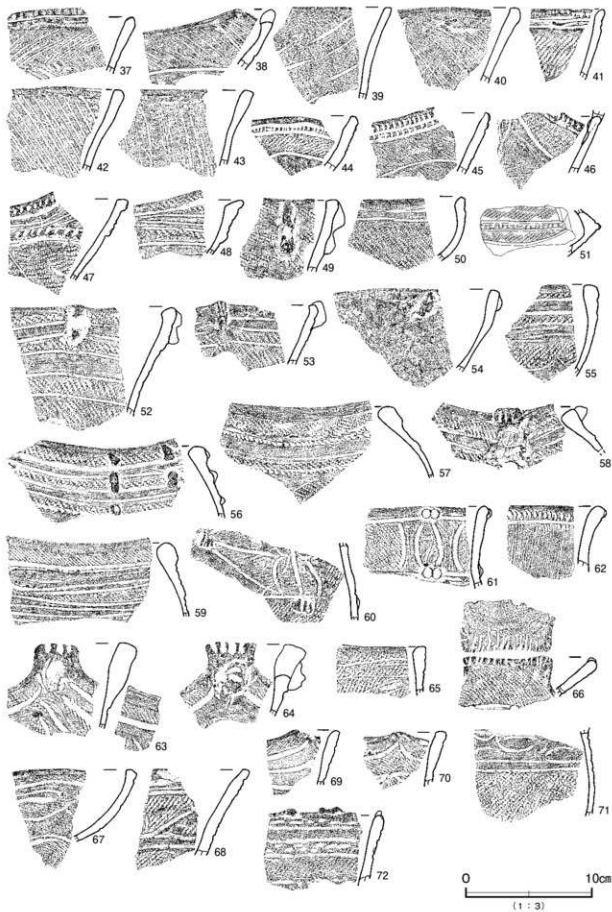


第 321 図 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図(1)

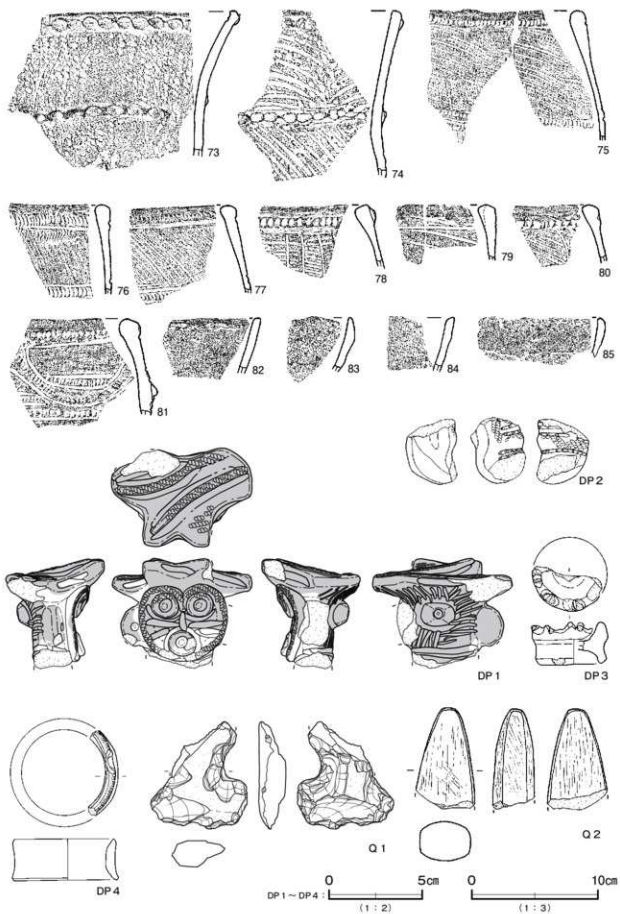


第 322 图 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図 (2)





第 323 图 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図(3)



第 324 图 第 1 号遺物集中地点出土遺物実測図 (4)

第1号遺物集中地点出土遺物観察表 (第321～324図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	陶文土器	深鉢	[21.6]	(100)	-	長石・石英・赤色胎子	黒	普通	外面口部斜格子目文 胴部条線 内面磨き	覆土下層	20%
2	陶文土器	深鉢	[19.8]	(128)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面斜帯輪沈線→胎A→彫削付 沈線→肌 縄文 内面ナデ	覆土上層	10%
3	陶文土器	台付鉢	[20.4]	(54)	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→条線→胴部磨き 内面磨き	覆土上層	10%
4	陶文土器	浅鉢	-	(25)	8.0	長石・石英・赤褐色胎子	赤褐色	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	40%
5	陶文土器	底口穿	[17.0]	20.8	10.4	長石・石英・赤色胎子	明赤褐	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面(胴部)磨き 胴部ナデ	覆土下層	60% PL.31
6	陶文土器	浅鉢	[11.9]	(4.8)	-	長石・石英・赤色胎子	灰黄緑	普通	内、外面磨き	覆土上層	20%
7	陶文土器	鉢	-	8.9	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	30%
8	陶文土器	深鉢	-	(10.2)	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	30%
9	陶文土器	深鉢	[21.0]	(16.1)	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄緑	普通	外面条線→付点條線文 口部細部出しに彫削 内面ナデ	覆土中	30% PL.31
10	陶文土器	香炉型	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒	普通	丸舟部 ナデ彫削	覆土下層	
11	陶文土器	深鉢	-	(20.9)	-	長石・石英・赤色胎子	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→肌 縄文→条線 内面磨き	覆土下層	20%
12	陶文土器	深鉢	[22.4]	(19.0)	-	長石・石英・粘石	橙	普通	外面条線→條線彫削付→胴部区画文 内面ナデ	覆土下層	5%
13	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	口縁部外面隆起帯付 肌 縄文 内面磨き	覆土中	
14	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	黒	普通	外面 肌 縄文→流状文 内面磨き	覆土中	
15	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄緑	普通	外面隆起帯線文 内面ナデ	覆土上層	保存付
16	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→肌 縄文 内面磨き	覆土下層	
17	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面 肌 縄文→沈線 内面ナデ	覆土下層	
18	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	橙	普通	外面沈線→肌 縄文 内面ナデ	覆土上層	
19	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
20	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→無筋土縄文→無文部磨き 口部隆起帯 内面磨き	覆土下層	
21	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面 肌 縄文→筋条文 内面磨き	覆土中	
22	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文 内面磨き	覆土上層	
23	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面輪状付工具による条線文 内面ナデ	覆土中	
24	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面C字状彫削付 外、内面磨き	覆土中	
25	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面口縁部・胴部に刺突文 内面磨き	覆土上層	
26	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面刺突文 ナデ 内面磨き	覆土中	
27	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	外面輪状付工具による条線文光輪 内面ナデ	覆土中	
28	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面 肌 縄文→手掘竹管による条線文 内面ナデ 口部隆起帯	覆土上層	
29	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面 肌 縄文→條線文→沈線文 内面磨き	覆土下層	
30	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	灰黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 口部彫削付 内面磨き	覆土中	
31	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英	灰 灰	普通	外面口部部に筋目 内面磨き	覆土中	
32	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文 内面磨き	覆土下層	
33	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面胴部斜線文 口縁部に彫削付 内面磨き	覆土上層	
34	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色胎子	橙	普通	外面沈線→胎A→斜線文 輪修孔 内面磨き	覆土下層	
35	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面口部斜線文 内面磨き	覆土下層	
36	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・黒色胎子	灰 黒	普通	外面斜線文 内面磨き	覆土中	
37	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面矢羽状沈線文 口部部押圧文 内面ナデ	覆土下層	
38	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	灰黄緑	普通	外面沈線→斜線文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
39	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	黒	普通	外面条線 内面磨き	覆土中	
40	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	橙	普通	外面条線 格子目状 内面磨き	覆土下層	
41	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	明赤褐	普通	外面沈線→肌 縄文 口部彫削付 内面磨き	覆土中	
42	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	橙	普通	外面条線 内面磨き	覆土下層	
43	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
44	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
45	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文 口部筋部→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	二次焼成
46	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文 口部筋部→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
47	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→肌 縄文 内面磨き	覆土中	
48	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰 灰	普通	外面隆起帯輪沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
49	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面 肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
50	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
51	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英	黒	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
52	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・粘石	橙	普通	外面隆起帯輪沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
53	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	暗赤褐	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面(胴部)磨き 磨き	覆土中	
54	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄緑	普通	内、外面ナデ 口部隆起帯1本所	覆土上層	
55	陶文土器	鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄緑	普通	外面隆起帯輪沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	内面赤彫
56	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	黒	普通	外面隆起帯輪沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
57	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面隆起帯輪沈線→胎A→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
58	陶文土器	注口	-	-	-	長石・石英・粘石	にぶい黄緑	普通	外面隆起帯輪沈線→胎A→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
59	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面隆起帯輪沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
60	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	明黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
61	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・角閃石類	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
62	陶文土器	台付鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	灰 黒	普通	外面条線→口縁部沈線→胎A 内面磨き	覆土中	
63	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
64	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
65	陶文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面沈線→肌 縄文 内面ナデ	覆土下層	
66	陶文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・赤色胎子	にぶい黄緑	普通	外面沈線→肌 縄文 内面ナデ	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
67	縄文土器	浅鉢	-	-	-	紅・白・赤・黒・灰	黒	普通	外面沈線→R.L.縄文→無文部置き	内面磨き	覆土下層		
68	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・黒色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→無筋L縄文	内面磨き	覆土上層		
69	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	黒褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部置き	内面磨き	覆土上層		
70	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面沈線→R.L.縄文	内面ナデ	覆土中		
71	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文→無文部置き	内面磨き	覆土下層		
72	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面沈線→L.R.縄文	内面磨き	覆土上層		
73	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面L.R.縄文→無文部置き	内面磨き	覆土上層		
74	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐色	普通	外面R.L.縄文→無筋貼付	内面磨き	覆土中		
75	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線縄文	内面ナデ	覆土下層		
76	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線縄文	内面磨き	覆土中		
77	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐色	普通	外面条線→付点線縄文	内面磨き	覆土下層		
78	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・白・赤・黒・灰	にぶい黄褐色	普通	外面条線→無筋貼付	頸部区画文	内面ナデ		
79	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線縄文	内面ナデ	覆土中		
80	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面条線→付点線縄文→頸部区画文	内面ナデ	覆土中		
81	縄文土器	深鉢	-	-	-	紅・白・赤・黒・灰	暗赤褐色	普通	外面隆起帯貼付→沈線文→筋み	内面ナデ	覆土上層		
82	縄文土器	製塚	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削り	口縁部へら切り	内面ナデ	覆土上層	□C1類
83	縄文土器	製塚	-	-	-	長石・石英	橙	普通	外面削線	口縁部未調整	内面ナデ	覆土上層	□B類
84	縄文土器	製塚	-	-	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面削り	口縁部打ち削ぎ状	内面ナデ	覆土上層	□C2類
85	縄文土器	製塚	-	-	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	外面削り	口縁部未調整	内面ナデ	覆土上層	□B類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土鍋	(58)	(74)	5.2	(116.6)	紅・白・赤・黒・灰	黒褐色	ミズク頸部 R.L.縄文	覆土上層	3号 非DP 凡8
DP 2	土鍋	(34)	(29)	2.8	(25.2)	長石・石英	灰褐色	山形頸部 L.R.縄文→沈線内刺突文	覆土中	2b類
DP 3	耳飾り	径(4.0)	-	2.2	(10.6)	長石・石英	にぶい黄褐色	白型 豚鼻状の突筋	覆土下層	1.3類
DP 4	耳飾り	径(5.8)	-	2.1	(7.5)	長石・石英	黒褐色	環状 口唇部に細い筋み	覆土上層	V類

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打割石斧	(8.5)	7.7	2.2	(102.9)	熱硬品質安山岩	分銅形 上縁部欠損	覆土上層	
Q 2	磨製石斧	(8.0)	(4.6)	3.3	(167.7)	ドレイト	定角式 刃部欠損 研磨整形	覆土中	

## 2 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、地下式坑6基、土坑11基、堀跡1条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 地下式坑

#### 第1号地下式坑 (第325図 PL25)

**位置** 調査A区北西部のB 6i5区、標高20mほどの台地縁辺部に位置している。

**重複関係** 第3・13・58号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**軸長・軸方向** 軸長は2.78mで、軸方向はN-5°-Eである。

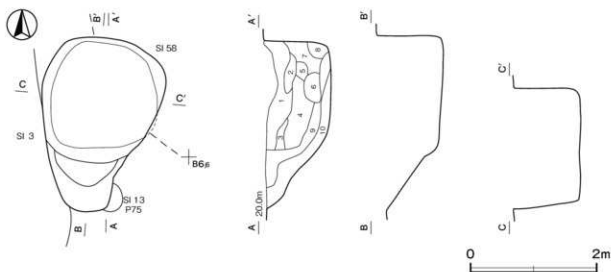
**竪坑** 主室の南側に位置し、奥行き0.78m、横幅0.98mの半円形である。降口は外傾し、確認面から0.60mで壁は外傾し、昇降部は50度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は0.24mである。  
**主室** 奥行き1.68m、横幅1.68mの隅丸方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは0.98mで、ローム層を掘り込んでいる。壁は直立している。

**覆土** 10層に分層できる。第1～3・7・8層は、各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。竪坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は第10層で、天井部の崩落土は、第4～6・9層である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量	7	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)、焼土粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)	10	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

所見 出土土器がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第325図 第1号地下式坑実測図

#### 第2号地下式坑 (第326・327図 PL26)

位置 調査A区南西部のC 6e3区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14・16号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は4.06mで、軸方向はN-2°-Wである。

堅坑 主室の南側に位置し、奥行き1.60m、横幅2.86mの半円形である。降口は外傾し、確認面から0.80mで、壁はほぼ直立する。昇降部は31度の傾斜で、主室の底面に到達する。なお、底面まで2.50m以上あることから、底面までの掘り込みは断念した。

主室 奥行き2.50m、横幅3.32mの楕円形である。深さは2.50m以上あることから、崩落の危険性があり、安全のため底面は確認できなかった。壁は高さ2.30mまで内彎し、それより上位は外傾している。

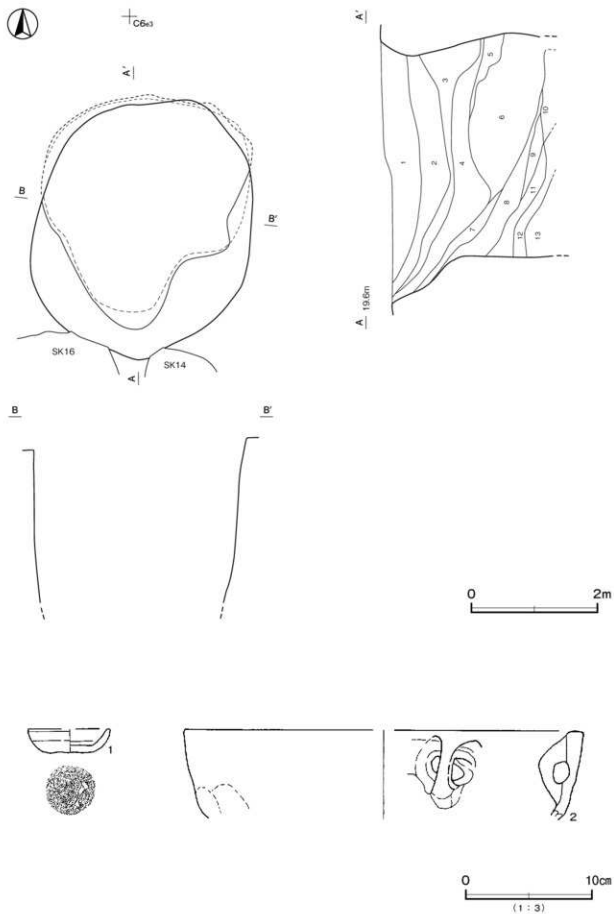
覆土 13層に分層できる。第1～5、7～13層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。なお、堅坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は確認できなかった。天井部の崩落土は第6層である。

#### 土層解説

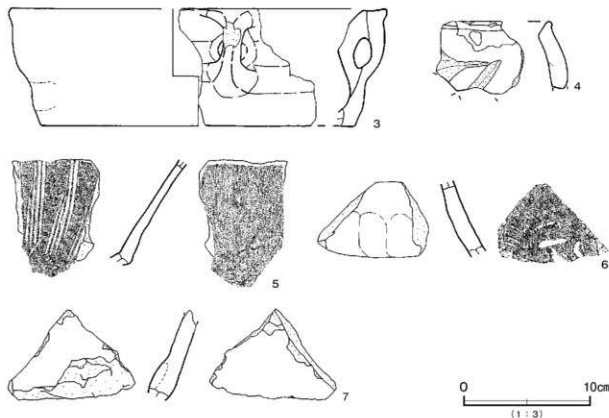
1 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量
2 褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ロームブロック多量、白色粘土ブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック少量、白色粘土ブロック微量	11 褐色	ロームブロック中量、白色粘土ブロック微量
5 暗褐色	ロームブロック多量	12 褐色	ロームブロック多量(粘性・締まり強)
6 褐色	ロームブロック主体(天井部崩落土)	13 褐色	ロームブロック多量(粘性弱、締まり強)
7 褐色	ロームブロック・白色粘土ブロック少量		

遺物出土状況 土師質土器片5点(小皿1、内耳鍋2、播鉢1、火鉢1)、瓦質土器片2点(甕)、陶器2点(甕)が覆土から出土している。1・5は南東部の覆土下層、2は北東部の覆土下層、3は北西部の覆土下層、4・6・7は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第 326 图 第 2 号地下式坑·出土遗物实测图



第327図 第2号地下式坑出土遺物実測図

第2号地下式坑出土遺物観察表(第326・327図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
1	土師質土器	小皿	[6.6]	1.9	3.5	長石	橙	普通	基部ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	50%
2	土師質土器	内耳罎	[32.0]	(7.1)	-	長石・石英・雲母	外黒黄 内橙	普通	基部貼り付け様外・内面ヘラナデ 外面下指指 胎土によるナデ	覆土下層	20% PL35 外面に保存
3	土師質土器	内耳罎	[30.0]	(9.3)	[25.0]	長石・石英・雲母	外黒黄 内橙	普通	基部貼り付け様外・内面ヘラナデ	覆土下層	10% PL35 外面に保存
4	土師質土器	火鉢	-	(5.5)	-	長石・雲母	内赤	普通	外・内面ヘラナデ 外面に瓦物で引いた直線あり。底石敷用。	覆土中	外面に保存者 5%
5	土師質土器	椀鉢	-	(8.4)	-	長石・雲母	外黒黄 内赤	普通	外面縦位の輪毛目 内面4本単位の横目	覆土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸索	産地	出土位置	備考
6	陶器	壺	-	(3.5)	-	長石・赤い黄砂	外面横位のヘラナデ 内面指頭によるナデ	自然軸	瀬美	覆土中	5%
7	陶器	壺	-	(7.2)	-	長石・灰	外・内面 ロクロナデ	自然軸	瀬美	覆土中	5%

## 第3号地下式坑(第328・329図 PL10)

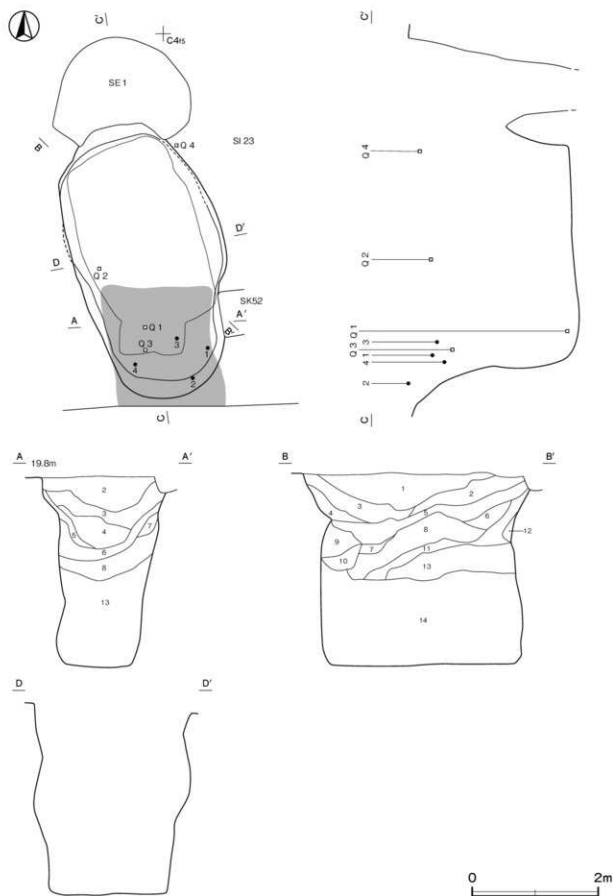
位置 調査B区南東部のC44区、標高19mほどの台地縁部に位置している。

重複関係 第22・23号堅穴建物跡を掘り込み、第1号井戸跡、第52号土坑に掘り込まれている。

軸長・軸方向 軸長は4.42mで、軸方向はN-8°-Wである。

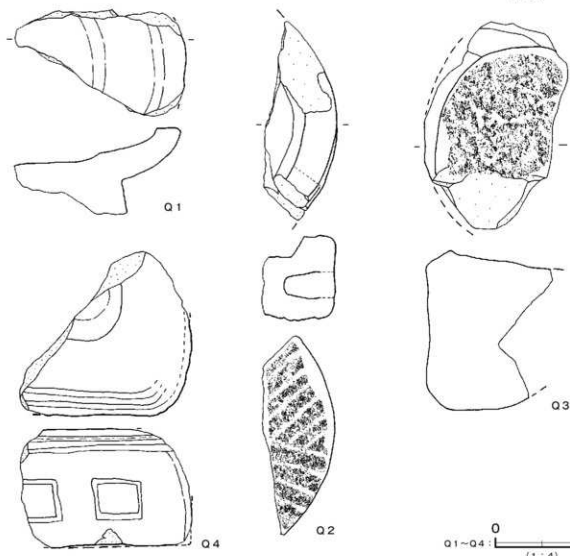
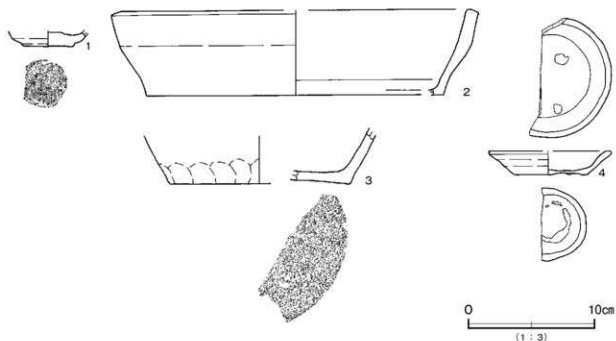
堅穴 主室の南側に位置し、奥行き1.20m、横幅1.88mの半円形である。降口は外傾し、確認面から1.20mで壁はほぼ直立し、昇降部は45度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部の底面はほぼ平坦である。

主室 奥行き2.85m、横幅1.92mの隅丸長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは3.05mで、ローム層下の白色粘土層を掘り込んでいる。壁は高さ2.22mまで内押し、それより上位は外傾している。



第 328 图 第 3 号地下式坑实测图





第 329 図 第 3 号地下式坑出土遺物実測図

**覆土** 14層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。また堅坑部は、上層に灰白色粘土を主体とした埋土を用いて入口を塞いでいる。天井部崩落土は第14層である。

**土層解説**

1 黒褐色	ロームブロック少量、粘性・締まり弱	8 灰白色	灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 灰白色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量	9 暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック多量
4 黒褐色	ロームブロック中量	11 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量	12 明褐色	ロームブロック多量
6 黒褐色	ロームブロック少量、粘性・締まり強	13 黒色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック少量	14 黄褐色	ロームブロック主体（天井部崩落土）、黒褐色土混入

**遺物出土状況** 土師質土器片2点（小皿、内耳鍋）、瓦質土器片1点（鉢）、陶器片1点（小皿）、石器3点（石臼2、茶臼1）、石製品1点（石塔）が、全域に散在して覆土上層と下層から出土している。Q1は堅坑部の覆土下層、1～4・Q3は堅坑部の覆土上層、Q2・Q4は主室部の覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。

**第3号地下式坑出土遺物観察表（第329図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	—	(1.3)	3.8	長石・雲母	灰白	普通	底部ロクロ回転糸切り痕ナシ消し 部移白ナリラケ京都産。	堅坑覆土上層	10%
2	土師質土器	内耳鍋	(27.4)	6.8	(23.6)	長石・石英・雲母	外黒内白	普通	外・内面横ナデ	堅坑覆土上層	外周覆行者 5%
3	瓦質土器	鉢	—	(4.4)	(3.4)	長石・石英・雲母	外黒内白	普通	外・内面横ナデ 下端部顔によるナデ	堅坑覆土上層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸差	産地	出土位置	備考
4	陶器	小皿	(9.7)	1.9	(5.6)	細密・橙	外・内面ロクロナデ 全面輪掛け	見込みトチン	京都	堅坑覆土上層	46% 16 C後半

番号	器種	長さ・径	幅・高さ	厚さ	重量(kg)	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	茶臼	(11.2)	(18.0)	9.2	(0.90)	安山岩	下臼 使用面摩擦	堅坑覆土下層	使用面に覆行者
Q2	石臼	(21.0)	(7.7)	9.1	(1.91)	安山岩	上臼 6本単位の榫目 使用面摩擦 側面に挽木穴	主室覆土上層	
Q3	石臼	(22.0)	(15.3)	17.0	(6.40)	凝灰岩	下臼 使用面摩擦 摩耗著しく榫目の単位不明	堅坑覆土上層	
Q4	宝篋印塔	(17.5)	(18.1)	(12.8)	(4.62)	安山岩	基壇部係狭間（方形区画）2区 風化著しい	主室覆土上層	

**第4号地下式坑（第330図 PL26）**

**位置** 調査A区南部のC6e7区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

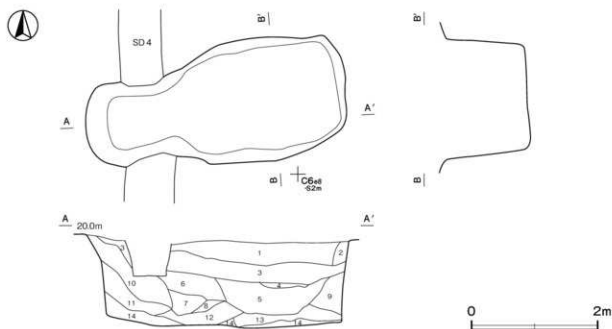
**重複関係** 第16号堅穴建物跡を掘り込み、第4号溝に掘り込まれている。

**軸長・軸方向** 軸長は4.20mで、軸方向はN-81°-Eである。

**堅坑** 主室の西側に位置し、奥行き1.40m、横幅1.32mの隅丸方形である。開口は外傾し、確認面から0.40mで壁はほぼ直立し、昇降部は60度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は0.20mである。

**主室** 奥行き2.50m、横幅1.65mの隅丸長方形である。底面は平坦で、底面までの深さは1.39mである。壁は直立している。

**覆土** 14層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、天井部崩落後に堅坑から主室に至るまで埋め戻している。天井部崩落土は第4・5・7～9・12～14層である。



第330図 第4号地下式坑実測図

## 土層解説

- |       |                               |        |                                 |
|-------|-------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量         | 8 褐色   | ロームブロック主体（天井部崩落土）               |
| 2 褐色  | ロームブロック多量                     | 9 褐色   | ロームブロック主体（天井部崩落土）               |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、灰白色粘土ブロック・焼土粒子微量    | 10 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量         |
| 4 褐色  | ロームブロック主体（天井部崩落土）             | 11 暗褐色 | ロームブロック・白色粒子少量                  |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量、灰白色粘土ブロック微量（天井部崩落土） | 12 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量、白色粒子微量（天井部崩落土） |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、白色粒子微量              | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量（天井部崩落土）        |
| 7 黒褐色 | ロームブロック中量、白色粒子微量（天井部崩落土）      | 14 褐色  | ロームブロック主体（天井部崩落土）               |

所見 出土土器がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。

## 第6号地下式坑（第331図 PL26）

位置 調査A区南部のC6e0区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第31号竈穴建物跡、第134号土坑を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は250mで、軸方向はN-73°-Wである。

竈坑 主室の西側に位置し、奥行き0.92m、横幅1.02mの隅丸長方形である。降口は外傾し、確認面から1.27mで壁はほぼ直立し、昇降部は底面と段差がなくほぼ平坦である。

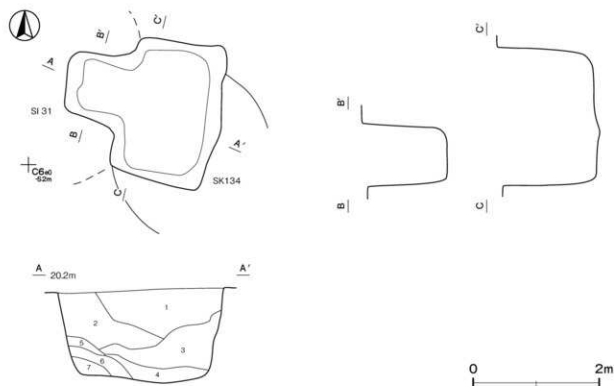
主室 奥行き1.16m、横幅1.98mの隅丸長方形である。底面は平坦で、確認面からの深さは1.54mで、ローム層下の白色粘土層を掘り込んでいる。壁は外傾している。

覆土 7層に分層できる。第7層は竈坑内壁の崩落土で、第5・6層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3・4層は天井部の崩落土で、第1・2層は、含有物の少ない周囲からの流れこんだ状況から自然堆積土である。

## 土層解説

- |        |                       |       |                  |
|--------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色  | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量      | 7 褐色  | ロームブロック多量        |
| 4 黒暗褐色 | ロームブロック多量             |       |                  |

所見 出土土器がないため、詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第331図 第6号地下式坑実測図

### 第7号地下式坑（第332図 PL26）

**位置** 調査A区中央部のC6a9区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第39・47号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**軸長・軸方向** 軸長は2.44mで、軸方向はN-22°-Eである。

**竪坑** 主室の南側に位置し、奥行き1.08m、横幅1.20mの隅丸長方形である。降口は外傾し、確認面から0.56mである。昇降部は60度の傾斜で、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は0.40mである。

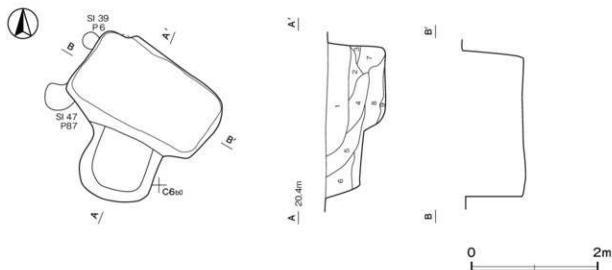
**主室** 奥行き1.20m、横幅2.20mの隅丸長方形である。底面は平坦で、底面までの深さは0.91mである。壁はほぼ直立している。

**覆土** 9層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。なお、竪坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土や天井部崩落土は確認できなかった。

#### 土層解説

- |       |                            |       |                            |
|-------|----------------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・白色粒子少量、炭化粒子微量      | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量      |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量      | 7 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 褐色  | ロームブロック多量                  | 8 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量      |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子少量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量           |
| 5 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量      |       |                            |

**所見** 出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第332図 第7号地下式坑実測図

表13 室町時代地下式坑一覧表

番号	位置	軸方向	平面形		軸長 (m)	堅坑規模			主室規模			覆土	主な出土遺物	備考
			堅坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (m)			
1	B 6i5	N-5°-E	半円形	隅丸方形	2.78	0.78	0.98	0.60	1.68	1.68	0.98	自然 人土	-	S 13・13・15・ 58→本跡
2	C 6e3	N-2°-W	半円形	楕円形	4.06	1.60	2.86	0.80	2.50	3.32	(2.50)	人土	土師質土器、陶器	本跡→S K 14・ 16
3	C 4f4	N-8°-W	半円形	隅丸正方形	4.42	1.20	1.88	1.20	2.85	1.92	3.05	人土	土師質土器、瓦質土器、陶 器、石跡、石製品	S 122・23→本 跡→S F 1・S K 32
4	C 6e7	N-81°-E	隅丸方形	隅丸正方形	4.29	1.40	1.32	0.40	2.50	1.65	1.29	人土	-	S 116→本跡 →SD 4
6	C 6e0	N-73°-W	隅丸正方形	隅丸正方形	2.50	0.92	1.02	1.27	1.16	1.98	1.54	自然 人土	-	S 131・S K 134→本跡
7	C 6a9	N-22°-E	隅丸正方形	隅丸正方形	2.44	1.08	1.20	0.56	1.20	2.20	0.91	人土	-	S 139・47→本跡

## (2) 土坑

土坑は、11基確認した。以下、特徴的な遺構について解説し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で記述する。

## 第21号土坑 (第333図)

位置 調査A区南西部のC 6 f6区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号堅穴建物跡、第22号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、東西径は2.08mで、南北径は0.83mしか確認できなかった。

平面形は円形または楕円形と推測でき、北部が東西0.55m、南北0.60mほど溝状に延びている。深さは137cmで、底面はほぼ平坦である。壁は中位まで直立し、上位で外傾している。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量(表土)	4 暗褐色	ロームブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量		

所見 出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の位置と形状から室町時代と考えられる。

### 第22号土坑（第333図）

**位置** 調査A区南西部のC 65区、標高20 mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第11号竪穴建物跡を掘り込み、第21号土坑に掘り込まれている。

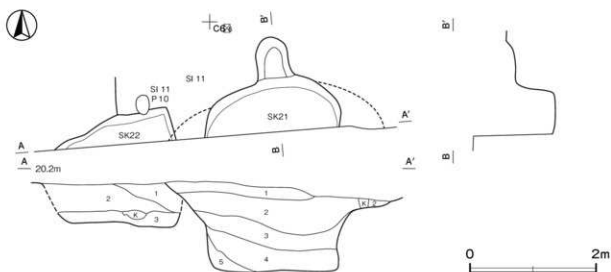
**規模と形状** 南部が調査区域外へ延びているため、東西軸は1.95 mで、南北軸は0.62 mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推測でき、東西軸方向はN-73°-Eである。深さは70 cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

#### 土層解説

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量        |                      |

**所見** 出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の位置と形状から室町時代と考えられる。



第333図 第21・22号土坑実測図

### 第81号土坑（第334図）

**位置** 調査B区北西部のC 39区、標高18 mほどの台地斜面部に位置している。

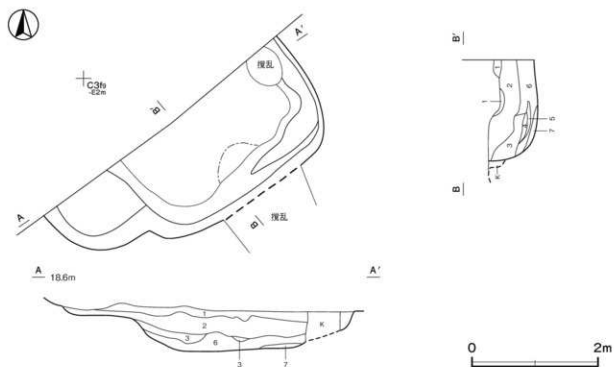
**規模と形状** 北西側は調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は4.86 mで、北西・南東軸は1.73 mしか確認できなかった。平面形は凸形と推定できる。北東・南西軸方向はN-52°-Eである。深さは64 cmで、底面はほぼ平坦である。遺構は、ローム層下の灰白色粘土層まで掘り込まれている。壁は外傾し、南東コーナー一部の壁下は、溝状に掘り込まれている。南西壁際には、北東・南西軸1.35 m、北西・南東軸1.15 m、深さ0.12 mの出入口施設状の張り出し部が付設されている。

**覆土** 7層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

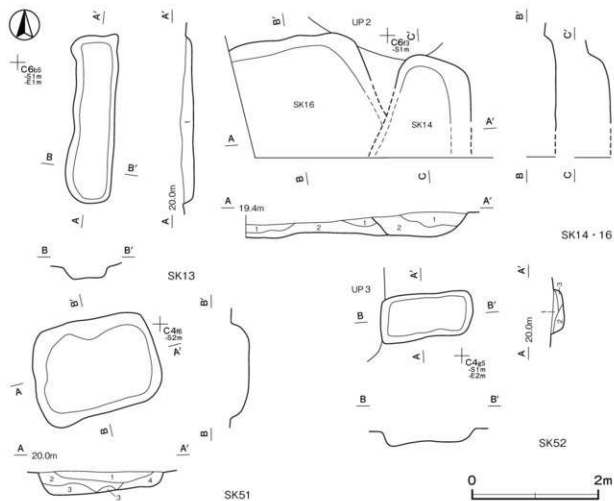
#### 土層解説

- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック多量             | 5 黄褐色 ロームブロック多量             |
| 2 黄褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック多量             | 7 黒褐色 ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量 |
| 4 黒色 ロームブロック多量              |                             |

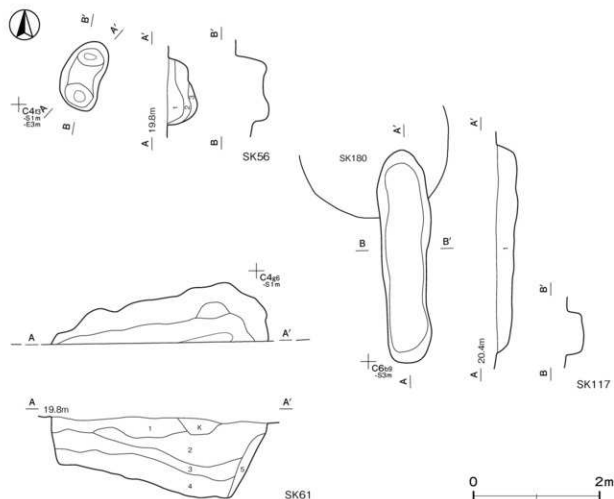
**所見** 北西部は調査区域外へ延びているが、形状から方形竪穴の可能性はある。出土土器がないため詳細な時期は不明であるが、遺構の形状から室町時代と考えられる。



第334図 第81号土坑実測図



第335図 室町時代土坑実測図(1)



第 336 図 室町時代土坑実測図 (2)

第 13 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

第 14 号土坑土層解説

- 1 明黄褐色 明黄褐色粘土ブロック多量  
 2 暗褐色 ロームブロック・明黄褐色粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

第 16 号土坑土層解説

- 1 に近い黄褐色 明黄褐色粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量  
 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第 51 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量  
 2 黒褐色 ロームブロック少量  
 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 52 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量  
 3 黒褐色 ロームブロック多量

第 61 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量  
 2 暗褐色 ロームブロック多量  
 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量  
 4 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量  
 5 褐色 ロームブロック多量

第 117 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量



表 14 室町時代土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形状	規 模		横 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ・幅×奥行・幅 (m)	深さ (cm)					
13	C 6b5	N-6°-E	楕丸長方形	2.68 × 0.78	19	外傾	平坦	人為	-	S 1 9、S K 12 → 本跡
14	C 6c3	N-17°-E	[楕円形]	(1.60 × 1.30)	38	外傾	平坦	人為	-	U P 2、S K 16 → 本跡
16	C 6e2	-	[楕丸長方形]	(2.14 × 1.90)	18	外傾	平坦	人為	-	U P 2 → 本跡 → S K 14
21	C 6e6	-	[内形・楕円形]	2.08 × (0.83)	137	外傾	平坦	自然	-	S 1 11、S K 22 → 本跡
22	C 6c5	N-73°-E	[方形・長方形]	(1.95 × 0.62)	70	外傾	平坦	自然	-	S 1 11 → 本跡 → S K 21
51	C 4c5	N-77°-E	楕丸長方形	1.99 × 1.48	36	外傾	平坦	人為	陶器	S 1 23 → 本跡
52	C 4g5	N-81°-E	楕丸長方形	1.48 × 0.69	18	外傾	平坦	人為	-	S 1 23 → U P 3 → 本跡
56	C 4c3	N-17°-E	楕円形	1.12 × 0.61	49	外傾	凸凹	人為	-	S 1 22 → 本跡
61	C 4g5	N-80°-E	[楕円形]	(3.42 × 0.90)	120	直立 外傾	凸凹	人為	-	
81	C 3f9	N-52°-E	[凸形]	4.86 × (1.73)	64	外傾	平坦	人為	-	方形竈穴
117	C 6b9	N-1°-W	楕丸長方形	3.39 × 0.82	28	外傾	平坦	人為	-	S 1 35、47、S K 180 → 本跡

## (3) 堀跡

## 第 1 号堀跡 (第 337 ~ 339 図 PL26)

**位置** 調査 A 区西部の B 6h4 ~ C 6f4 区、標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第 1 ~ 3・7・9・14・37 号堅穴建物跡、第 26・38 号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** C 6f4 区から北方向 (N-1°-W) に直線状に延び、B 6h4 区で調査区域外の北側へ延びている。南方向も調査区域外へ延びているため、確認できた長さは 33.80 m で、上幅 2.72 ~ 3.17 m、下幅 0.30 ~ 0.60 m である。深さは 2.11 ~ 2.49 m で、北部から南部に向かって 0.38 m ほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

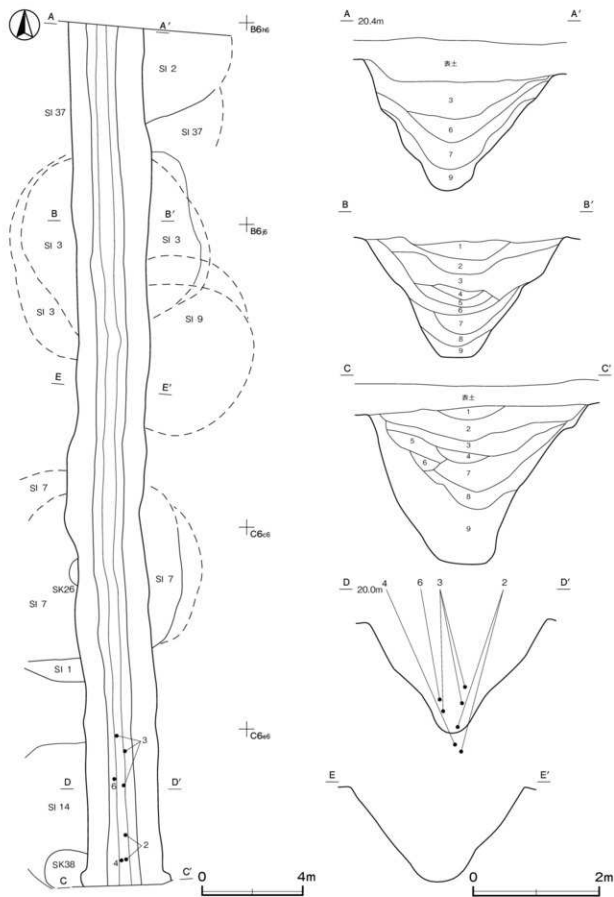
**覆土** 9 層に分層できる。いずれの層にもロームブロックが多く含まれている。第 1 ~ 3 層と第 4 層、第 6 層と第 7 層、第 8 層と第 9 層の間が不整合であり、数回の掘り返しがある可能性がある。

## 土層解説

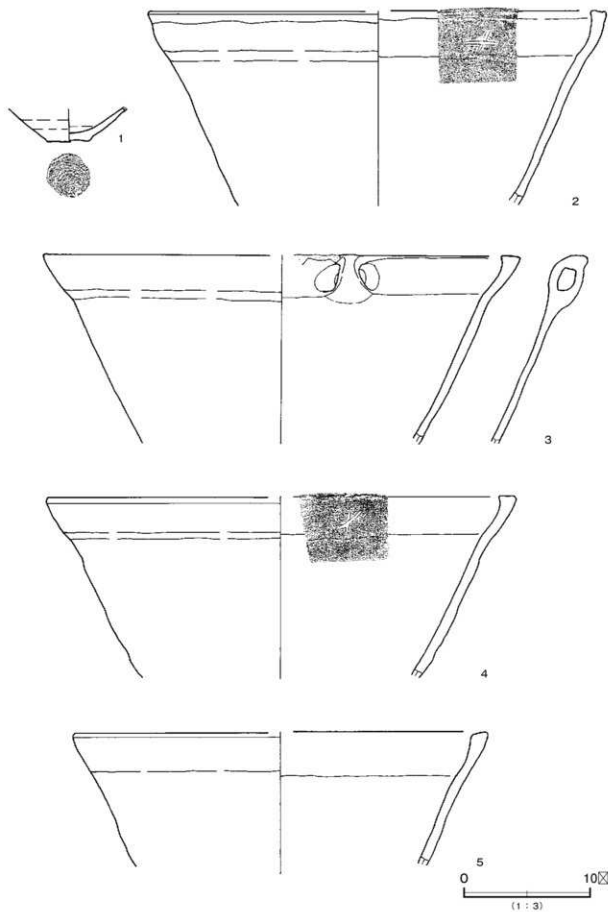
1 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量
4 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	9 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

**遺物出土状況** 土師質土器片 7 点 (小皿 1、内耳鍋 6)、陶器片 5 点 (天目茶碗 1、筒形香炉 1、瓶子 2、甕 1) が、覆土上層と下層から出土している。2・4 は C 6f4 区の覆土第 9 層、1 は B 6j4 区、3・6 は C 6e4 区 8 は C 6b4 区、9 は C 6c4 区の覆土第 8 層からそれぞれ出土している。5 は C 6e4 区の覆土第 2 層から第 3 層にかけてのものと、C 6f4 区の覆土第 8 層からそれぞれ出土したものが接合している。11 は B 6i4 区の覆土第 3 層、7・10・12 は覆土中からそれぞれ出土している。

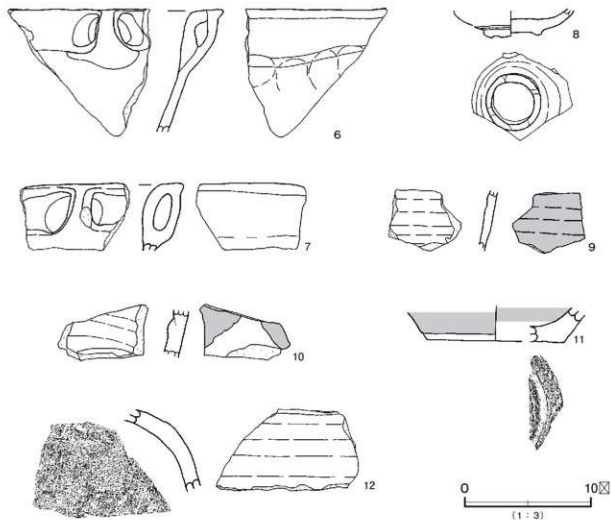
**所見** 時期は、出土土器から 16 世紀前半には築造され、17 世紀初頭には廃絶したものと考えられる。性格は、台地を分断していることから、館に伴う防御施設と考えられる。



第 337 图 第 1 号掘迹实测图



第338图 第1号掘跡出土遺物実測図(1)



第 339 図 第 1 号堀跡出土遺物実測図 (2)

第 1 号堀跡出土遺物観察表 (第 338・339 図)

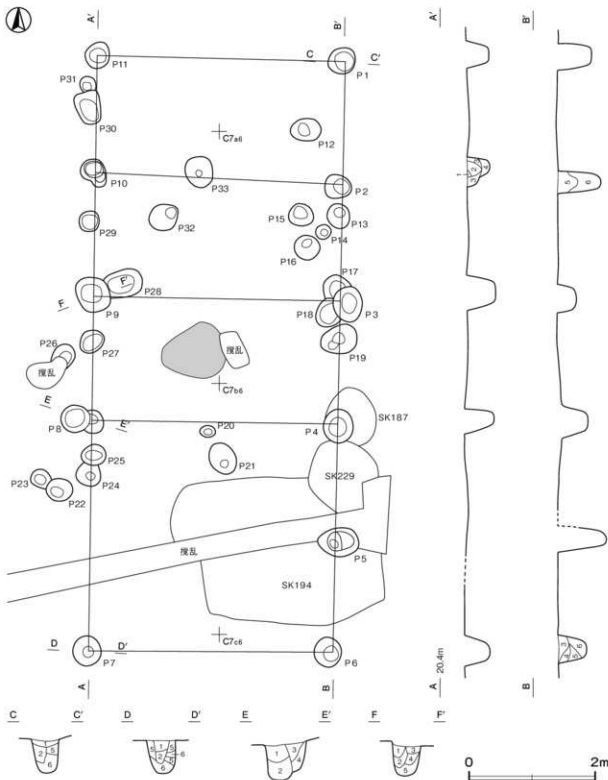
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器土器	小皿	-	(27)	3.5	長石・雲母	浅黄橙	普通	体外外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土第 8 層	30%
2	土師器土器	内耳罎	[36.4]	(15.5)	-	長石・石英・雲母	外耳部 内面 内面	普通	外・内面ヘラナデ 口縁部内面十字の刻書	覆土第 9 層	外面腐付着 20%
3	土師器土器	内耳罎	[37.8]	(15.0)	-	長石・石英・雲母	外耳部 内面	普通	耳部貼り付け後、外・内面ヘラナデ	覆土第 9 層	外面腐付着 30%
4	土師器土器	内耳罎	[37.0]	(14.4)	-	長石・石英・雲母	外耳部 内面	普通	外・内面ヘラナデ 口縁部内面十字の刻書	覆土第 9 層	外面腐付着 20%
5	土師器土器	内耳罎	[33.0]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	外耳部 内面	普通	外・内面ヘラナデ	覆土第 2・3・5 層	外面腐付着 30%
6	土師器土器	内耳罎	-	(9.6)	-	長石・石英・雲母	外耳部 内面	普通	耳部貼り付け後、外・内面ヘラナデ	覆土第 7 層	外面腐付着 10%
7	土師器土器	内耳罎	-	(5.3)	-	長石・石英・雲母	外耳部 内面	普通	耳部貼り付け後、外・内面ヘラナデ 体外外面部にヒビによるナデ	覆土中	外面腐付着 5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
8	陶器	天目茶碗	-	(2.3)	4.2	観音・にぶい橙	白天井 ロクロナデ 傾り出し高台高台部に研ぎ痕あり 砥石転用	白濁釉	瀬戸・美濃	覆土第 7 層	10%
9	陶器	長形香炉	-	(4.8)	-	観音・にぶい橙	ロクロナデ	灰釉	瀬戸・美濃	覆土第 7 層	5%
10	陶器	椀子	-	(4.4)	-	長石・焼灰	ロクロナデ 外面輪掛け体下部露体	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	5%
11	陶器	椀子	-	(1.7)	[11.0]	長石・黒色粒子・焼灰	ロクロナデ 外・内面輪掛け	灰釉	瀬戸・美濃	覆土第 3 層	5%
12	陶器	甕	-	(6.4)	-	長石・石英	ロクロナデ 焼締	自然釉	常滑	覆土中	5%

## 3 江戸時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、粘土貼土坑2基、土坑5基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

## (1) 掘立柱建物跡



第340図 第1号掘立柱建物跡実測図

### 第1号掘立柱建物跡（第340図 PL25）

位置 調査A区東部のC7a5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第187・194・229号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 桁行5間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-0°の南北棟である。規模は桁行9.30m、梁行3.90mで、面積は36.27㎡である。柱間寸法は、桁行が北妻から1.9m（6尺）、1.8m（6尺）、1.8m（6尺）、1.8m（6尺）で、梁行は3.9m（13尺）である。柱筋はほぼ揃っている。

囲炉裏跡 遺構のはほぼ中央部に位置している地床炉である。東部を後世の掘乱坑に掘り込まれているため、短径は90cmで、長径は98cmしか確認できなかった。平面形は楕円形と推定できる。火床部は、火熱を受け赤変硬化している。地面を掘り込んでいる地床炉と想定できるが、遺構確認面からは、掘り込みは確認できなかった。

柱穴 11か所。平面形は円形ないし、楕円形で長径は58～98cmで、短径は48～72cmである。深さは30～77cmで、掘方の断面はU字状または箱型である。堆積状況から、第1・2層は柱抜き取り後の覆土で、第3～6層は埋土である。P12～P33は、径20～50cm、深さ15～59cmで、軸線上にあるP13・P19・P24・P25・P27・P29～P32などは、本跡の補助柱穴となる可能性がある。

#### P1・P6土層解説

- |       |                       |
|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量             |
| 6 褐色  | ロームブロック多量             |

#### P2・P7～P10土層解説

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 4 褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量        |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量        |

所見 出土土器がないため、詳細な時期が不明であるが、18世紀前半の土坑を掘り込んでいることから、18世紀前半以降の江戸時代と考えられる。性格は、形状や規模から母屋と考えられる。

### (2) 井戸跡

#### 第1号井戸跡（第341図 PL10）

位置 調査B区東部のC4f4区、標高20mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第22号堅穴建物跡、第3号地下式坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.10m、短径1.98mの円形で、確認面からの深さ1.98mまでは漏斗状で、それより下部は、径0.82mの円筒状に掘り込まれている。安全のため、確認面から深さ2.70mほど掘り下げた段階で以下の調査を断念した。

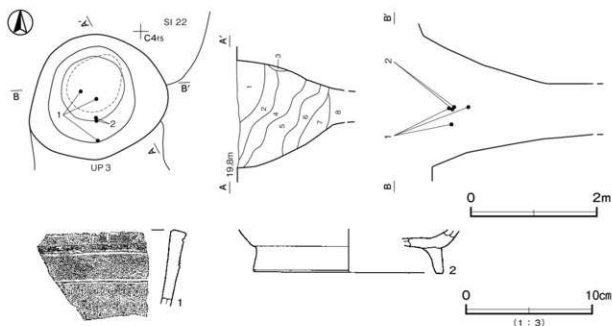
覆土 確認できた覆土は、8層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                       |       |                       |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 5 暗褐色 | ロームブロック多量             |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック中量             | 7 明褐色 | ロームブロック多量             |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黄褐色 | ロームブロック多量             |

遺物出土状況 土師質土器片2点（焔炉）が、覆土第2層と第5層から出土している。1は覆土第2層と第5層から出土している破片が接合したものである。2は覆土第5層から出土している。

所見 時期は、出土土器から18世紀後半と考えられる。



第341図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表(第341図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	甕罎	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	外周灰内緑	普通	ロクロナデ 回転印刷文(亀甲文)	覆土第2・5層	2と同一個体、10%
2	土師質土器	甕罎	-	(3.4)	[150]	長石・石英・雲母	外周灰内青	普通	ロクロナデ 駝付高台	覆土第5層	1と同一個体、10%

## (3) 粘土貼土坑

## 第1号粘土貼土坑(第342図 PL17)

**位置** 調査A区南東部のC7e5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第202号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 長径1.50m、短径1.44mの円形で、深さは18cmで、底面は皿状である。堀方の底面と壁面に厚さ4～13cmの粘土を貼り付けている。

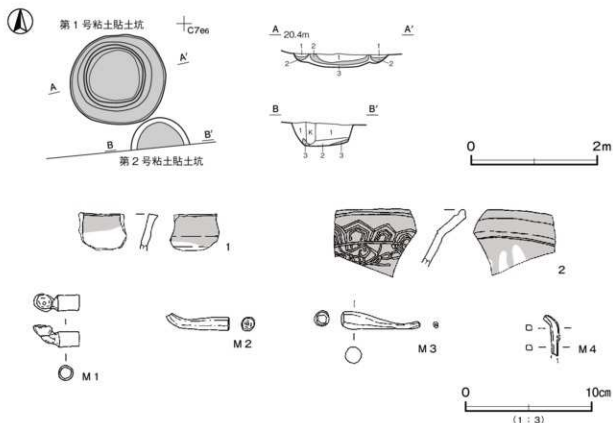
**覆土** 単一層。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- 1 粘 褐色 ロームブロック少量  
2 灰 褐色 灰白色粘土ブロック少量、ロームブロック微量  
3 灰 白色 灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師質土器1点(小皿)、陶器片8点(碗1、皿1、鉢2、徳利3、甕1)、磁器片3点(碗、染付皿、徳利)、銅製品6点(煙管)、鉄製品11点(釘7、留金4)が、覆土中から出土している。

**所見** 遺物の出土状況から18世紀前半には廃絶したものと考えられる。性格は粘土が貼られ、釘などの出土から、水桶等の容器を据え置くための基礎部分と考えられる。



第342図 第1・2号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第1号粘土貼土坑出土遺物観察表(第342図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	-	(3.0)	-	緻密・灰白	軸葉掛け分け	白濁種 緑釉	瀬戸・美濃	覆土中	5% 18 C前半
2	陶器	大鉢	-	(4.6)	-	緻密・黒灰	外面結唐津指図文 内面三島手象嵌	鉄釉	肥前唐津系	覆土中	5% 18 C前半

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	煙管	(3.6)	1.8	1.5	(7.19)	銅	煙首部 鍛造→伸ばした金属板を丸め幅付け	覆土中	古泉編年V期
M 2	煙管	(5.0)	(1.3)	1.0	(5.80)	銅	首部煙首欠損 鍛造→伸ばした金属板を丸め幅付け	覆土中	古泉編年V期
M 3	煙管	(6.3)	1.3	1.4	(8.27)	銅	吸口部 鍛造→伸ばした金属板を丸め幅付け	覆土中	古泉編年V期
M 4	釘	(3.3)	1.5	0.4	(1.88)	鉄	煙筒先端部欠損 鍛造	覆土中	

### 第2号粘土貼土坑(第342図)

**位置** 調査A区南東部のC7e5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 調査区域外の南側へ延びているため、長径0.96m、短径は0.48mしか確認できなかったが、ほぼ円形と推測できる。深さは35cmで、底面は平坦である。掘方の底面と壁面に厚さ6～10cmの粘土を貼り付けている。

**覆土** 確認できた覆土は、2層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 灰白色 灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量  
2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量



所見 遺物の出土は見られなかったが、第1号粘土貼土坑と形状が似ていることからほぼ同時期で、18世紀前半には廃絶したものと考えられる。性格は粘土貼りの土坑であることから、水甕や水桶を据え置くための基礎部分と考えられる。

表15 江戸時代粘土貼土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径・幅×短径・幅 (m)	深さ (cm)					
1	C7e5	-	円形	1.50 × 1.44	18 粘土厚4-17	外傾	重状	人為	土師甕土器、陶器、磁器、金銀製品	SK202→本跡
2	C7e5	-	[円形]	0.96 × (0.48)	35 粘土厚6-10	外傾	平坦	人為	-	-

## (4) 土坑

土坑は、5基確認した。以下、特徴的な遺構について解説し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で記述する。

## 第194号土坑 (第343図 PL22)

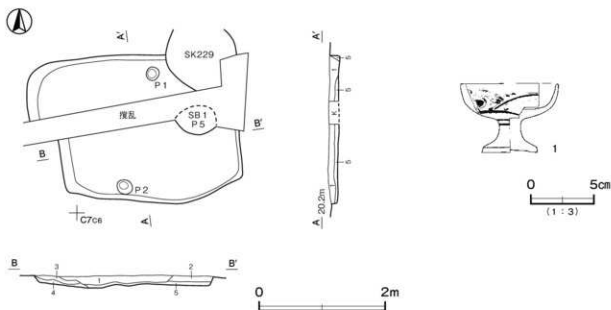
位置 調査A区東部のC7b6区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物、第229号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.24m、短軸2.32mの不整長方形で、長軸方向はN-85°-Eである。深さは20cmで、底面はほぼ平坦である。壁は南及び北が直立し、東及び西は外傾している。

ピット 2か所。P1は北壁際に位置している。径20cmの円形で、深さは17cmである。P2は南壁際に位置している。径22cmの円形で、深さは21cmである。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。



第343図 第194号土坑・出土遺物実測図

## 土層解説

- |       |                  |      |                  |
|-------|------------------|------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   | 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量        |
| 3 褐色  | ロームブロック少量        |      |                  |

遺物出土状況 染付磁器片1点(仏飯器)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土磁器から18世紀前半と考えられる。性格は、覆土の状況や仏飯器が出土していることから墓坑とも考えられるが、形状が不整形であることと、掘立柱建物に掘り込まれていることからゴミ穴で、ピットは仕切り板を支える杭穴の可能性もある。

## 第194号土坑出土遺物観察表(第343図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸差	産地	出土位置	備考
1	染付磁器	仏飯器	[78]	5.4	4.4	精細・灰白	手摺 体部外面赤花文 脚部外面二重垂線文	透明軸	肥前	覆土中	70% 18世紀前半 JRS

## 第202号土坑(第344図)

位置 調査A区南東部のC7d5区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第248～250号土坑を掘り込み、第192・193号土坑、第1号粘土貼土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.78m、短径2.48mの楕円形で、長径方向はN-88°-Eである。深さは26cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

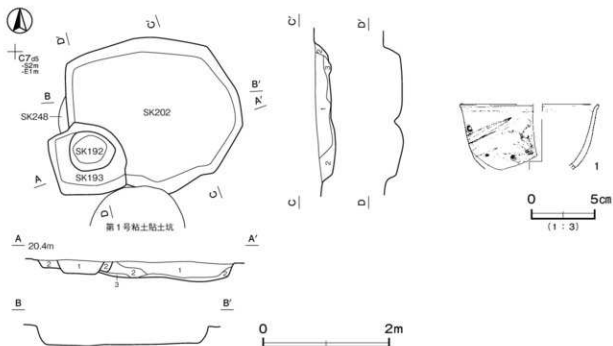
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                       |      |           |
|-------|-----------------------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量        | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |      |           |

遺物出土状況 染付磁器片1点(碗)が、覆土中から出土している。

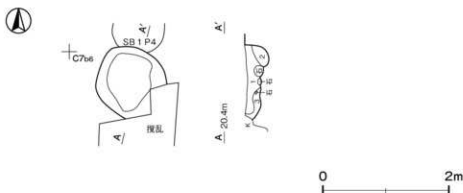
所見 時期は、出土磁器から18世紀前半と考えられる。性格は、覆土の状況や形状からゴミ穴の可能性もある。



第344図 第192・193・202号土坑・第202号土坑出土遺物実測図

第202号土坑出土遺物観察表(第344図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	胎染	産地	出土位置	備考
1	染付磁器	碗	[10.8]	(5.1)	—	精緻・灰白	筆道、口縁部外、内面二重帯緋文 体部外面折り枝竹文	透明釉	肥前	覆土中	10% 18 C前半



第345図 江戸時代の土坑実測図

## 第192・193号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

## 第229号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

表16 江戸時代土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径・幅×短径・幅 (m)	深さ (cm)					
192	C 7 d5	—	円形	0.72 × 0.68	24	外傾	平坦	人為	—	S K 202・248 → S K 193 → 本跡
193	C 7 d5	N-80°-E	不整形方形	1.19 × 1.18	12	外傾	平坦	人為	—	S K 202・248 → 本跡 → S K 192
194	C 7 b6	N-85°-E	不整形長方形	3.24 × 2.32	30	直立 外傾	11.1°平坦	人為	磁器	本跡 → SB 1. S K 229
302	C 7 d5	N-88°-E	楕円形	2.78 × 2.48	26	外傾	11.1°平坦	人為	磁器	S K 248 ~ 250 → 本跡 → 第1号粘土 土層土坑, S K 192・193
229	C 7 b6	—	[円形]	1.12 × 1.08	35	11.1°直立	西凸	人為	—	S K 194 → 本跡 → SB 1 P 4

## 4 その他の遺構と遺物

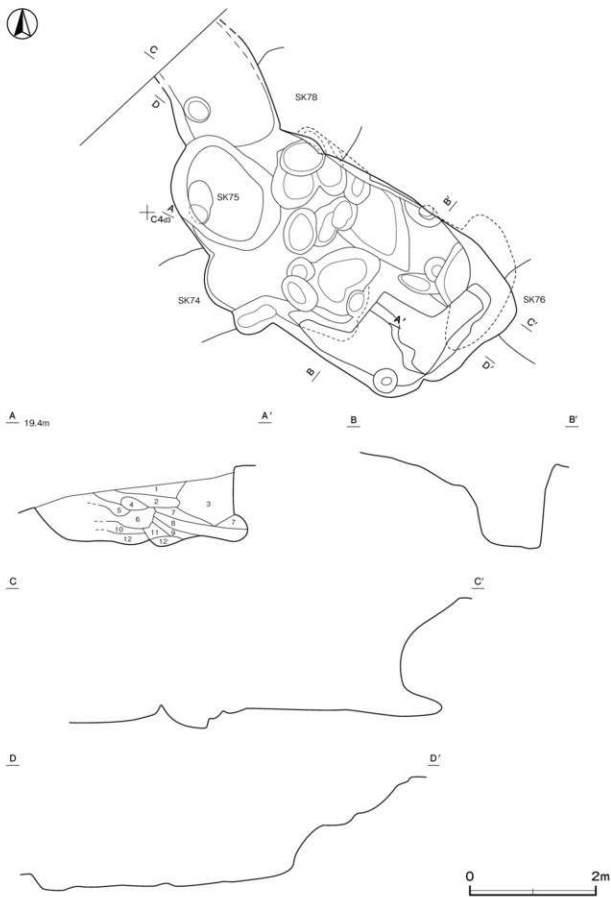
今回の調査で時期が明らかでない粘土探掘坑1基、土坑4基、溝跡3条を確認した。また、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、遺構及び遺物について記述する。なお、第248～250号土坑は、江戸時代の第202号土坑に掘り込まれていることから、18世紀前半以前である。

## (1) 粘土探掘坑

## 第1号粘土探掘坑(第346図 PL26)

位置 調査B区北東部のC 4 c3～C 4 d4区、標高17～19mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第74～76・78号土坑を掘り込んでいる。



第 346 图 第 1 号粘土探掘坑实测图

**規模と形状** 北西部は調査区域外に延びているため、確認できた長さは6.40mで、幅2.92mの不整形長方形である。北西部の台地斜面の崖下から、南東方向(N-128°-E)へ向かって、ローム層下の常総粘土層に相当する灰白色粘土層を楕円形の土坑状に連続して掘り込んでいる。深さは142~201cmで、底面は凸凹である。壁は確認面からの深さ1.10mで外傾し、それより下位は70cmほどでほぼ直立し、それ以下は内彎している。

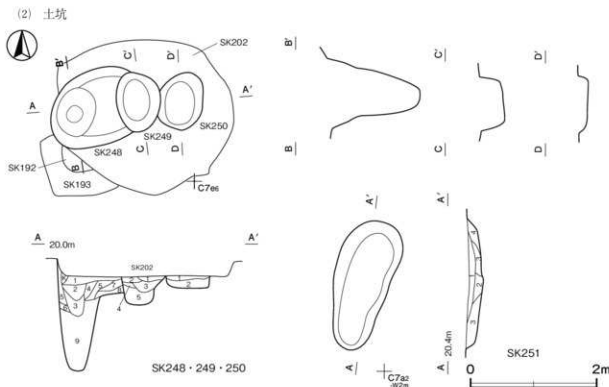
**覆土** 12層に分層できる。第1・2・4~10・12層は、ロームブロックや灰白色粘土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第3・11層は地山の崩落土である。

## 土層解説

- |       |                                  |        |                                    |
|-------|----------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量            | 7 黒褐色  | ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量            | 8 黄褐色  | ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 3 黄褐色 | ローム主体(地山崩落土)                     | 9 黒褐色  | 灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子微量 |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量                        | 10 黄褐色 | ロームブロック多量                          |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量  | 11 黄褐色 | 3層と同一 ローム主体(地山崩落土)                 |
| 6 黄褐色 | ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・灰黄褐色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量   |

**遺物出土状況** 縄文土器片1,158点(深鉢)、剥片6点(チャート5、黒曜石1)、自然礫24点が覆土中から出土している。

**所見** 縄文土器片が覆土中から多量に出土しているが、細片が多く、異なる時期の土器片が混在していることから平坦部に位置する竪穴建物跡や土坑からの混入と考えられ、時期は不明である。



第347図 その他の土坑実測図

## 第248号土坑土層解説

- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック中量             |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 7 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量  | 8 褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量  | 9 暗褐色 | ロームブロック少量             |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量       |       |                       |

第249号土坑土層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 2 極暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第250号土坑土層解説

- 1 灰 白色 灰白色粘土ブロック多量、ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック少量

第251号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量
- 2 暗 褐色 ローム粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 褐 色 ロームブロック中量

表17 その他の土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ・幅×奥行・幅 (m)	深さ (cm)					
248	C 7d5	N-20°-E	[階内形]	[1.09] × [1.17]	(32) ピット上部112	外傾	平坦	人為	-	本跡→S K 192・193・202・249
249	C 7d5	N-10°-W	階内形	0.98 × 0.72	(48)	外傾	平坦	人為	-	S K 248・250 → 本跡→S K 202
250	C 7d5	N-8°-E	[階内形]	0.98 × (0.68)	(22)	直立	平坦	人為	-	本跡→S K 202・249
251	B 7j1	N-18°-E	階内形	2.09 × 0.90	21	外傾	ほぼ平坦	人為	-	S 1・54・59 上の新田不明

(3) 溝跡

第2号溝跡 (第348図 PL26)

位置 調査A区西部のB 6h6～C 6f6区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8・12・13・15・32・56～58号竪穴建物跡、第32号土坑を掘り込み、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南端部と北端部が、調査区域外に延びている為、長さは3290mしか確認できなかった。B 6h6区から南方向(N-3°-E)に直線状に延びている。規模は上幅0.58～0.90m、下幅0.23～0.44mである。深さは18～30cmで北部から南部に向かって12cmほど深くなっている。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、第1号堀跡と並行して走行していることから、伴うものと考えられる。性格は、堀と当遺構の間に15mほどの空間があり、その形状から土塁が存在していたことが推測でき、その土塁に伴う排水施設の可能性がある。

第3号溝跡 (第348図 PL26)

位置 調査A区西部のB 6h6～C 6f6区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

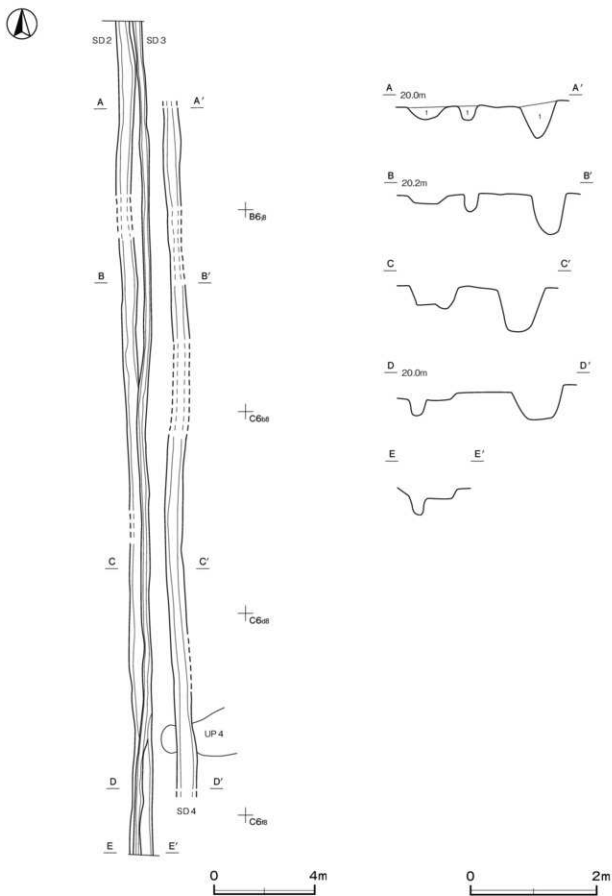
重複関係 第8・12・13・15・32・56・57号竪穴建物跡、第9・10号土坑、第2号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南端部と北端部が、調査区域外に延びている為、長さは3290mしか確認できなかった。B 6h6区から南方向(N-4°-E)にやや蛇行しながら延びている。規模は上幅0.28～0.32m、下幅0.16～0.18mである。深さは26～32cmで、北部から南部に向かって6cmほど深くなっている。断面形はU字状で、底面はほぼ平坦である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 極暗 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量



第 348 図 第 2～4号溝跡実測図

**所見** 遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、第2号溝跡と同様に、第1号掘跡と並行していることから、伴うものと考えられる。付随する土塁に伴う排水施設の可能性があり、土塁等の拡張に伴い、第2号溝跡の後の作り替えの溝と考えられる。

#### 第4号溝跡 (第348図 PL26)

**位置** 調査A区西部のB 617～C 6e7区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第12・13・16・32・35 B・44・56・57号堅穴建物跡、第4号地下式坑、第28・269号土坑を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南端部と北端部が、後世の削平を受け掘り込みが消滅しているため、長さは26.70mしか確認できなかった。B 617区から南方向(N-4°-E)にはほぼ直線状に延びている。規模は上幅0.58～0.80m、下幅0.20～0.50mである。深さは55～65cmで、北部から南部に向かって10cmほど深くなっている。断面形は北部がU字状で、南部にかけて逆台形になっている。底面はほぼ平坦である。

**覆土** 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

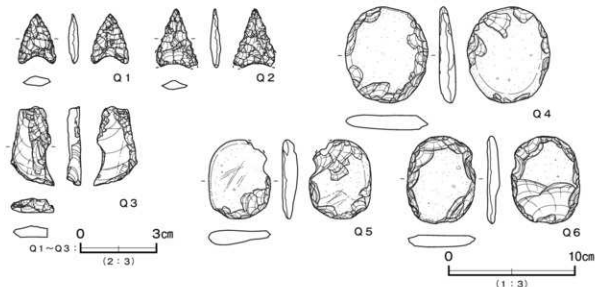
1 暗褐色 ロームブロック多量

**所見** 遺物が出土していないため、詳細な時期は不明であるが、第2・3号溝跡同様、第1号掘跡と並行していることから、伴うものと考えられる。付随する土塁に伴う排水施設の可能性がある。

表18 その他の溝跡一覧表

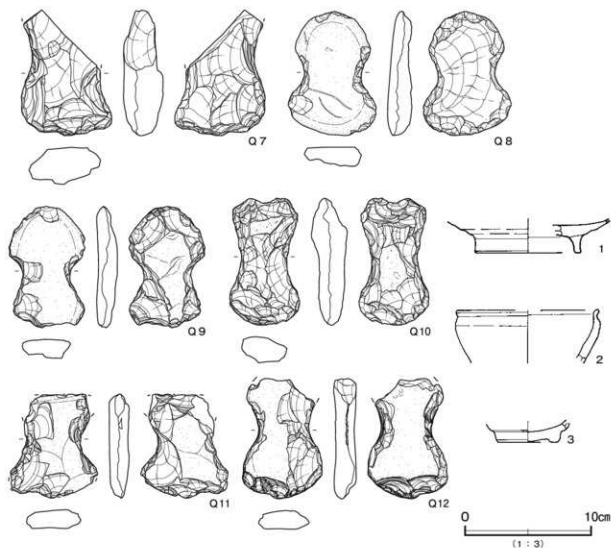
番号	位置	方向	形状	規模				断面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
2	B616～C616	N-3°-E	直線	(3290)	0.58～0.90	0.23～0.44	18～30	逆台形	外堀	人為	-	S28・12・11・15・32・35・56・58・59・32・35・56・57・SK 9・10・SD 2・3・4
3	B 616～C 616	N-4°-E	やや曲線	(3290)	0.28～0.32	0.16～0.18	26～32	U字状	外堀	人為	-	S18・12・13・15・32・35・56・57・SK 9・10・SD 2・3・4
4	B 617～C 617	N-4°-E	直線	(2670)	0.58～0.80	0.20～0.50	55～65	U字状逆台形	外堀	人為	-	S112・13・16・32・33・44・56・57・UP 4・SK 9・30→31

#### (4) 遺構外出土遺物



第349図 遺構外出土遺物実測図(1)





第350図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第350図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石 鏝	1.97	1.49	0.39	1.0	チャート	円蓋	表土	
Q 2	石 鏝	2.34	1.64	0.41	(1.1)	チャート	円蓋	表土	
Q 3	R F	3.14	1.72	0.57	3.3	チャート	石鏝半成品	表土	
Q 4	鏝 部	7.66	6.57	1.31	86.0	安山岩	自然産の周縁を剥離 表裏面に擦痕	表土	二次焼成
Q 5	鏝 部	6.28	4.93	1.23	(41.4)	ホルンフェルス	自然産の周縁を剥離	S D 1	
Q 6	鏝 部	6.96	5.46	1.00	43.9	安山岩	自然産の周縁部を剥離	表土	
Q 7	打製石斧 (9.98)	7.21	3.17	(22.5)		安山岩	分銅形	S D 1	
Q 8	打製石斧	9.85	7.90	1.94	148.5	安山岩	分銅形	表採	
Q 9	打製石斧	9.65	6.05	1.67	104.5	安山岩	分銅形	表採	二次焼成
Q 10	打製石斧	10.09	5.57	2.85	148.0	安山岩	分銅形	U P 4	
Q 11	打製石斧	8.29	(6.93)	1.61	(103.1)	ホルンフェルス	分銅形	S D 1	
Q 12	打製石斧 (9.56)	6.36	1.80	(13.0)		砂 岩	分銅形	U P 6	二次焼成

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴	備考
1	須恵器	高台付杯	-	(2.7)	[8.2]	長石・石英・雲母	灰黄陶	普通 ロタロナテ 付け高台	出土位置 S R 187 新治遺 10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様の特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
2	陶 器	灰白基陶	[11.4]	(4.2)	-	緻密・にじい黄橙	ロタロ成形 外・内面施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	S R 241	5%
3	陶 器	灰白基陶	-	(1.7)	4.8	緻密・灰白	ロタロ成形 削り出し高台 底部高	鉄軸	瀬戸・美濃	S R 187	10%

## 第4節 ま と め

### 1 はじめに

今回の調査では、縄文時代、室町時代、江戸時代の遺構を確認した。ここではそれぞれの時代の遺構と遺物について概観し、まとめとしたい。

### 2 縄文時代

今回確認した縄文時代の遺構は、竪穴建物跡 69 棟、土坑 193 基、炉跡 3 か所、ピット群 10 か所、遺物包含層 2 か所、遺物集中地点 1 か所である。時期は中期前半の阿玉台Ⅱ式から晩期中葉の安行 3 d 式期までで、特に竪穴建物跡と土坑については比較的まとまった数が確認できたことから、以下でその形状や出土位置等を確認し、周辺地域の様相と対比しながら当遺跡の特徴を明らかにしたい。また遺物包含層は集落研究の上で課題の多い遺構であり、今回の調査成果をまとめることで、遺物包含層の遺跡における在り方を検討する一助としたい。

#### (1) 竪穴建物跡について

今回の調査では、中期前半の阿玉台Ⅱ式期から晩期中葉の安行 3 d 式期までの建物跡が確認できた。中期前半から後半の竪穴建物跡は 12 棟確認できたが、遺物包含層が厚く分布する調査 A 区中央部から西部では、後期以降の遺構との重複が著しく、形状が部分的にしか捉えられていないものも多い。形状は円形あるいは楕円形で、平面形と同心円状に配置される主柱穴と、補助柱穴的な小ピットが不規則に確認できる。第 51 号竪穴建物跡は加曾利 E Ⅰ式期の有段建物跡である。楕円形の平面形で、下段は長方形に掘り込まれている。主柱穴は下段のコーナー部に位置し、炉は確認できない。第 34 号竪穴建物跡は、長径約 4 m の楕円形であるが、主柱穴が壁際に寄っており、あるいは有段建物の下段部分のみを捉えたのかもしれない。当期の竪穴建物跡は、まばらではあるが A 区および B 区全体に分布している。

後期初頭から晩期前葉の建物跡は、調査 A 区の全体と B 区の西部から中央部にかけて多く確認できたが、いくつかの事例を除いて、重複が著しいため壁が確認できず、出入口ピットと壁柱穴、炉跡の配置から形状を把握したものが多く、まずは壁の確認できた事例から、当該期の建物跡を確認してみたい。第 20 号竪穴建物跡、第 41 号竪穴建物跡は、曾谷式期から安行 1 式期のもので、出入口部側が広がる D 字型の平面形で、規模が 4 m 前後とやや小形である。外に張り出す出入口ピットを有し、壁際に径が 20 ～ 30 cm 前後の小ピットが巡っている。第 20 号竪穴建物跡は主柱穴が 3 か所、いずれも重複していることから、立て替えが想定される。出入口部は南壁側にあり、炉跡は石囲炉である。第 41 号竪穴建物跡は、ハの字あるいは T 字状に張り出す出入口部が、南壁及び東壁の 2 か所を確認できることから、建て替えが想定できる。主柱穴は炉を挟んで 3 か所にあり、第 20 号竪穴建物跡と共通する。

安行 2 式期の第 6 号竪穴建物跡は、壁が確認できたわけではないが、確認面で長方形に焼土が分布する範囲を掘り下げたところ、ピットと炉跡が確認でき、建物跡が把握できた。出入口部は捉えられなかったが、壁柱穴が壁際に巡り、灰を多量に有する炉跡が確認できた。主柱穴は他の遺構との重複のため一部しか確認できなかったが、おそらく 4 か所である。このように焼土跡が方形に巡っている建物跡は、ほかに第 15 号竪穴建物跡、第 43 号竪穴建物跡があり、いずれも安行 2 式期と考えられる。第 15 号竪穴建物跡は炉跡が 3 か所確認されたが、出入口ピットと壁柱穴の配置、及び主柱穴もはっきりとえられな

った。第43号竪穴建物跡は調査A区の北西端部に位置するため、南東部の一部しか確認できなかったが、北部を一部拡張し、焼土が方形に巡っていることを確認した。方形の掘方と壁際に巡っている壁柱穴のほか、主柱穴が1か所確認されている。焼土は主柱穴と壁柱穴の間を帯状に巡るように確認され、厚さは5～15cmで、床面に接して堆積している。P5からは炭化した材の一部が出土している。第6号竪穴建物跡からも、焼土跡の外側に沿うように炭化物層が確認でき、これは第43号竪穴建物跡の例から考えると壁柱穴に関わる施設が炭化したものと考えられる。

第1・4・11・14・22号竪穴建物跡はいずれも晩期中業のもので、第22号竪穴建物跡は調査B区の台地平坦面から斜面部にかけて、それ以外は調査A区の緩やかに南に下がる南西部に位置している。第1・4号竪穴建物跡は重複が著しく、特に第1号竪穴建物跡は東側を中世の堀に掘り込まれている。いずれも不整な方形で、第4号竪穴建物跡は南側に張り出す出入口部を有する。壁際にはまばらに壁柱穴が巡っており、主柱穴は5～6か所が方形の平面形に散らるように方形に配置される。出土土器から第1号竪穴建物跡が新しく、安行3d式と並行する土器群も出土している。第11号竪穴建物跡は、南部が調査区域外に延びるため、方形の掘方の一部が確認できたのみである。主柱穴は4か所、壁柱穴は壁際に疎らに位置している。時期は出土土器から安行3c式期である。

第14号建物跡は重複のため、西部の約2分の1しか確認できなかったが、円形の平面形で、主柱穴が炉跡を囲むように6～7か所確認できる。壁柱穴は壁からやや内側に入るが、疎らに巡っている。出土した土器は多くはないが、安行3d式や前浦式を主体としている。第22号竪穴建物跡は、少なくとも3棟以上が重複しているもので、円形或いは楕円形の平面形である。やや密に壁際に巡っている壁柱穴と多数確認できた炉跡が特徴的で、主柱穴は5～6か所が同心円状に巡っている。時期は安行3d式期である。

以上、後期後葉以降の壁が確認できた建物跡について概観した。曾谷式から安行1式期では、平面形がD字形で壁柱穴が密に巡っているものが2棟確認できた。主柱穴は3か所である点が特徴的である。安行2式期は方形或いは長方形の平面形で、焼土の堆積を伴っている。晩期中業では円形の平面形と方形の平面形の2種類が確認できた。方形の平面形は壁柱穴があまり密ではなく、主柱穴は平面形になって方形に4～6か所が配置される。円形の平面形は、壁柱穴と同心円状の主柱穴の配置が特徴的である。

竪穴建物跡は平面形と柱穴の配置から「型」を捉え、その変化の方向性を確認することで、周辺地域との関係性や集落の特性を導き出すことが可能である。筆者は以前、県内及び周辺地域の当該期の竪穴建物跡を集成し、その特徴と変化の方向性を示したことがある<sup>1)</sup>。それによると本県の後期前葉から後期中業期は、円形の平面形で壁柱穴構造であり、加曾利B2式期あたりから主柱穴が出現する。本県域の竪穴建物跡は、千葉県域をはじめとする東関東地域の建物形態とほぼ同様の変化をたどるが、曾谷式期から安行1式期には、方形の平面形を基調とした千葉県や埼玉県事例と異なり、円形の平面形が基調となることを確認した。これは前段階の形態を踏襲したものとも捉えられるが、栃木県域や東北地方などの建物跡と類似する部分があり、これらの「北関東的な」建物跡との関係性を考えた。当遺跡においても同様の様相が確認できる。安行2式期から後期中業にかけては円形と方形が混在するようであり、方形の平面形は東～西関東地域的な在り方で、当遺跡でも方形が主体となる。またこの時期は、焼土を有する建物跡が千葉県域や埼玉県域で多く確認でき、壁際に巡っているものだけではなく、床面に焼土や灰を貼床するものも見られる。当遺跡の焼土跡では、床面直上に分布するものの、硬化した貼床状の平坦面は見られなかった。また壁柱穴が炭化した例や焼土脇に位置する帯状の炭化物層は、壁柱穴に関連する施設を想定させるとともに、これらの建物跡が焼失建物跡で、焼土は土屋根等の建物跡に関連する施設の一部であることを推測

させる。晩期中業にも「汎関東的」な方形と「北関東的」な円形基調の建物跡が見られる。特に当地域において、安行3c式から安行3d式期の様相は不明瞭であったことから、当遺跡でこれらの例が確認できたことは重要である。また円形基調の建物跡では、前浦式が比較的多く出土し、「前浦式」の建物形態と捉えることができる。

## (2) 土坑について

土坑は193基を確認した。重複が著しいため、すべてについては困難であるが、平面形及び断面形状が明らかなものについて次の4つに分類した。

第1類：平面形が楕円形で、土坑の断面形状がV字状に近い形状のもの

第2類：平面形が円形あるいは楕円形で、断面形状が袋状を呈するもの

第3類：平面形が円形あるいは楕円形で、断面形状が深い円筒状を呈するもの

第4類：平面形が円形あるいは楕円形で、断面形状が逆台形状を呈するもの

第1類は第133・268号土坑が該当する。平面形は不整な楕円形で、いずれも深さが1m前後とやや浅いが、陥し穴の可能性がある。第2類はいわゆる袋状土坑で、第4・159・166・180・232・233号土坑などが該当する。時期は中期前半の阿玉台Ⅲ式から後半の加曾利EⅠ式段階で、完形や完形に近い土器が出土している。第3類は第2・26・28・34・39・45・105・126・127・135・138・150・163・168・179・196・218・223・224・228・246・247・254・272号土坑などが該当する。径が1～1.5m前後、深さは1.2～2.0m前後で、底面は平坦のものもあるが、中央部がビット状に下がっているものもある。時期は後期後葉から晩期前葉のものが多い。覆土は第28・34号土坑のように、下層に貝片や骨片が多量に含まれている層が堆積しているものがあり、土坑の機能停止後、廃棄土坑として利用されているようである。第34号土坑では、貝類を含む層の上面が不整合面で、その位置から完形に近い2つの個体が、口を合わせて組み合うように出土している。第45・127・168号土坑は、底面がビット状に下がった部分から、完形に近い土器が出土している。特に第127号土坑では、覆土が再度ビット状に掘り込まれたような堆積状況を示している。他にも不整合な堆積状況を示すものや、ビット状に掘り込まれたような堆積状況を示すものがあり、その面から完形に近い個体や大形破片が出土するものがある。第179・272号土坑も覆土が再度掘り込まれたような堆積状況で、その底部近く、あるいは覆土中から完形に近い個体が出土している。これらはその埋設状態から墓坑あるいは何らかの埋納遺構の可能性が考えられる。これらの遺構が確認できる位置はある特定の範囲に集中するようなことはなく、建物跡と混在し、居住域で確認されている。このような大形土坑は、県内ではつくばみらい市前田村遺跡、境町本田遺跡、つくば市上境旭台貝塚、土浦市上高津貝塚、小松貝塚、日立市大近平遺跡など、当該期の拠点的な遺跡であれば数の多寡はあるが出土する傾向がある。県内に留まらず、千葉県域や埼玉県域など関東地域で比較的普遍的に確認できる。これらの遺構については、鈴木正博氏は埼玉県大宮市馬場小室山遺跡の例を挙げ、時間差のある遺物が比較的高い完形率で含まれていることなどから「多世代土器群多埋設深堀大土壘」と称し、数世代にわたって土坑が意識され、土器を含む遺物が埋納される土坑で「収納施設埋設型」の「ムロ」して墓坑の可能性を含む埋納遺構と捉えている<sup>2)</sup>。

第4類のうち第122号土坑は、第34号土坑と同様に、深鉢2個体が合わせ口になるように、一方が正位で、もう一方が逆位で出土している。第3群と同様に何らかの埋納遺構の可能性が有る。第106号土坑は、覆土中層から台付鉢の鉢部が斜位で確認できた。第8号土坑は、長径が大きい楕円形で、耳飾りが1点出土している。これらについては、土坑の形状や、完形率の高い土器と土製品が組み合う遺物の出土状況か

ら、栃木県小山市乙女不動原北浦遺跡の例<sup>3)</sup>のように、墓坑の可能性も考えられる。遺物の出土はないが、形状から第119号土坑も同様の性格の可能性もある。これらも特に出土位置の偏在等は確認できない。また第54号土坑では、中空土偶の顔面部と胴部の一部が、底面付近から出土している。本遺構はほぼ同時期の第22号堅穴建物跡を掘り込んでおり、晩期中葉の建物と土偶の廃棄についての何らかの関係を示唆しているものとも考えられる。

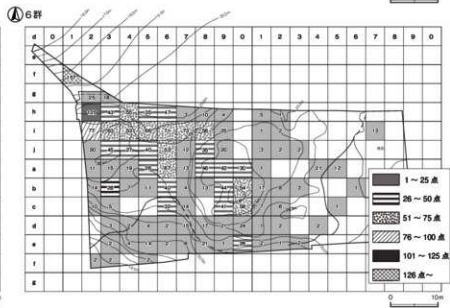
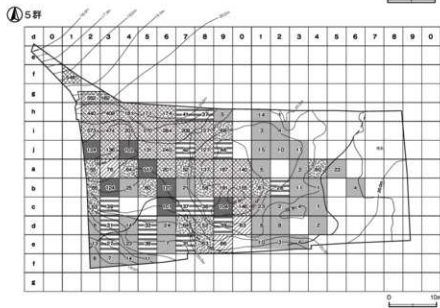
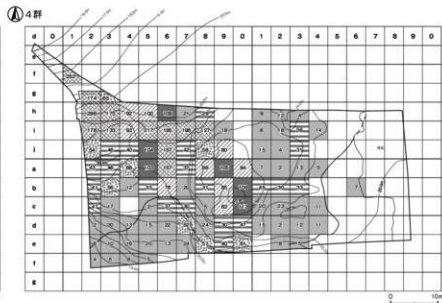
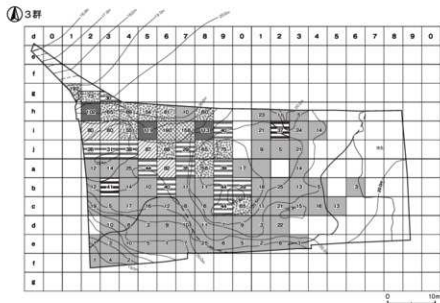
### (3) 遺物包含層について

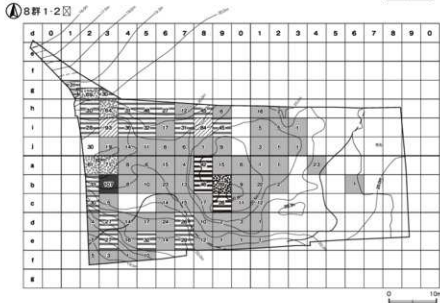
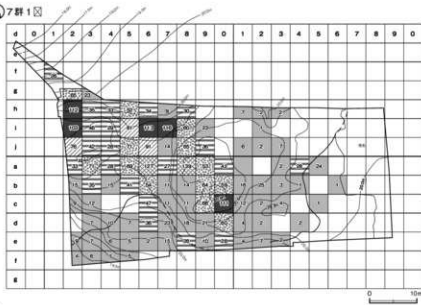
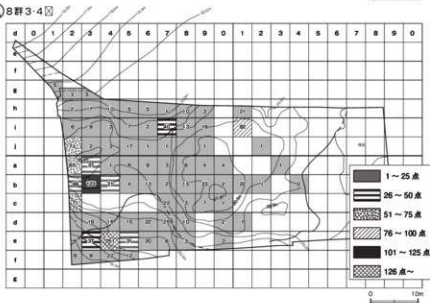
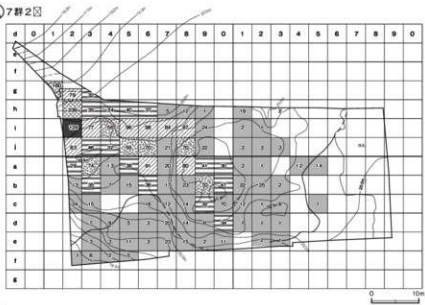
今回の調査で、調査A・B区からそれぞれ遺物包含層が確認できた。調査区の関係上、それぞれに別名の遺構名を付したが、本来的には一連のものとする。また調査B区の第1号遺物包含層は斜面部のため堆積土の流出が著しく、表土層及びローム面までの堆積が薄い。また斜面部は中世以降の掘削が著しいため、今回の報告では調査A区にある第2号遺物包含層について詳述することで、当遺跡の遺物包含層の生成過程について整理することとした。

第2号遺物包含層は、調査A区の西部からほぼ中央部付近までが分布の中心で、それより東部では堆積層が薄くなり遺物も少なくなる傾向にある。表土除去後の遺物包含層上面の等高線図(10cmコンタ)を見ると、わずかな差ではあるが、3か所の高まりを捉えることができた。遺物包含層は、その高まり部分を頂部に北部と南西部に向かって緩やかに傾斜している。遺物包含層は、主に堆積層の色調などから大きく2層に分層でき、さらに含有物や堆積状況から細分した。第Ⅰ層は黒褐色土を主体とする層で、多量の遺物が含まれている。台地平坦部では20～50cmの層厚であるが、東部では確認できない。この層の上部、及び層中では遺構は確認できるものの顕著ではなく、多くの遺構は第Ⅰ層調査後の第Ⅱ層上面で確認できた。第Ⅱ層は暗褐色土を主体とするもので、ローム粒子が多く含まれている層もあり、第Ⅰ層と明確に区別できた。第2層の上面を精査すると、覆土の違いや遺物の集中状況などから建物跡等の範囲が捉えられたため、その部分に遺構名を付し掘り下げを行った。土層断面図を見ると、Ⅱ層上面及びⅡ層中で多くの遺構が重複している様子が捉えられる。また第Ⅱ層は遺構覆土にも類似する部分があり、他にも確認することができなかった多くの遺構が存在したのもと考えられる。確認できた建物跡からは、複数回の建て替え(第8・22号建物跡など)や、場所をずらして再構築している様子(第15・35号建物跡など)も見られる。第35号建物跡では、上面にローム粒子が多く含まれている黄褐色土層の堆積が見られ、建物廃絶時にローム質土で埋め戻し、整地している可能性がある。これらのことから当遺跡の遺物包含層のうち、少なくとも第Ⅱ層は、比較的短期間の中で建物の構築、廃棄、一部整地行為を繰り返すうちに生成したものと考えられる。遺物包含層の上面で確認できた等高線の高まり部分が、特に遺構の多重する地点であることも、これを証左すると考える。

このように、最終段階の遺構の覆土がある程度捉えることが可能であったこと、安行2式期の建物跡では覆土中の焼土層の分布が捉えられることなどから、遺物包含層は必ずしもプライマリーとは言いが、包含層Ⅱ層の形成時及びそれ以降に大きな土地改変などを伴っていないかのようにも見える。ただし第15・43号建物跡では、遺構覆土と包含層の区別がはっきりせず、建物の壁も確認することが困難であった。また第43号建物跡上の遺物包含層では、断面図C-C'ラインに表れているように、斜面部にもかかわらず堆積層の上面が不整合で平坦面が作出している点などからは、斜面部を埋め戻し、台地の平坦面を拡大するような整地行為が行われているとも解釈することができる。また調査区南部のC6d5・d6、e5・e6区付近では、ローム層上面に漸移層がなく、ローム面上に直接表土層が堆積している(B-B'ラインなど)。この表土層は、上層は締まりのない腐植土層と化しているが、下層は締まりがある黒褐色土で遺

第 351 图 第 2 号遺物包含層出土土器分布图(1)





第352図 第2号遺物包含層出土土器分布図(2)

物を多量に含んでおり、I層に近い部分がある。この付近にはローム面を掘り込んで晩期中葉の遺構が確認できることから、南部では晩期中葉以前にローム面上の削平が行われた可能性も考えられる。

遺物包含層から出土する遺物は多量で、中期前半から晩期中葉までが見られるが、主体となるのは遺構が盛行する後期後葉から晩期前葉である。第351・352図は、遺構解説中の表12をグリッドごとに集計して図化したものである。層厚の違いや遺物の大きさの違いなどから、本来的には破片数での比較は適切ではないが、大まかな傾向を示すことはできると考える。集計表と分布図を見ると、下層のII層や東部に分布するII層ほど古い時期のものが多く、晩期はほとんど含まれないなどの傾向がある。しかし、各層とも複数時期の遺物が含まれており、また地点によっても量の差異があり、単純に層の時期を決定することは困難である。これについては一つには分層の問題があり、さらに細かく分層が可能であったこと、遺物の取り上げについても任意層位ではなく、堆積層位毎に記録するべきであったなどの調査上の反省点があるが、それ以上に遺構の多重複によって遺物が攪拌され、各層、各地点の時期や廃棄単位を捉えることが困難であると考えられる。全体の分布をみると、調査区中央部から台地斜面部にかけて特に出土量が多く、緩やかに傾斜する南西部では少ない傾向がある。また遺構が多重複する地点（高まりの部分）では、それぞれの時期のものが多量に出土しているが、特に安行2式から晩期安行式前半の土器が多く出土する傾向があり、各遺構の比定される時期とも合致している。

晩期中葉の第8群3・4類については、調査区南西部付近にややまとまって見られる。またB7il区で突出して多く出土しており、確認できなかった遺構が存在した可能性や、晩期中葉の廃棄ブロックの存在が示唆される。

また、第3群から第5群など、遺構の主体となる時期以前の土器が一定量存在することも注意される点である。型式の時間幅の差異などもあるが、第6群以降と同じような分布をしており、特に第5群は北西斜面部で多く出土している。時期比定できなかったピットや土坑、あるいは時期比定したものの中にも、後期初頭から中葉期の遺構が存在している可能性がある。また後期後葉以降の遺構の重複によって捉えきれなかった遺構が数多く存在すると考えられるが、遺物包含層の堆積層からは、中期を除いた後期中葉以前の遺物包含層や遺構覆土を捉えることはできなかった。このことから、後期後半以前に台地上の大規模な整地や土地の改変行為があったことも考えられる。

#### (4) 出土遺物について

今回の調査では、多量の人工遺物と自然遺物が出土している。各遺構から出土した遺物の個数と分類については、各遺構の中で記述している。ここでは特徴的な遺物や当遺跡の特徴を表すと考えられる遺物について記述する。また当遺跡では、台地上の集落跡にもかかわらず、遺構の覆土中から獣骨類や貝類が出土している。種が同定可能な獣骨類ではシカ・イノシシが多く、これについてつくば市上境旭台貝塚など、周辺地域の当該期の様相と一致する。また貝類や魚骨類については淡水産が主体である。これらについては付章の中で詳述する。

縄文土器では、今回の調査で、特に晩期前葉から中葉の姥山Ⅱ・Ⅲ式の出土が期待された。これは当遺跡の土器が姥山Ⅱ式の標識的な土器として鈴木公雄氏によって取り上げられ、型式設定に大きく寄与した経緯があり、今回の調査では姥山Ⅱ・Ⅲ式の型式内容を補完し、かつ時間的位置付けや型式内組成をさらに精査できるものと考えられた。しかし調査の結果、姥山Ⅱ・Ⅲ式、及びそれに伴うと考えられる細密沈線文系の土器群は、出土した晩期土器群全体の中でも約10%に過ぎず、全体が把握できる完形個体や、時期細分や型式組成がわかるような一括出土の土器群も確認できなかった。これは姥山式期の



遺構の分布範囲が今回の調査区よりさらに南西部にあることが予想されることから十分な資料が得られなかったものとするが、一方で姥山Ⅱ式の型式としての在り方が、晩期前葉の安行3b式の中にあつて、それのみで地域の土器組成を構成するものではなく、安行3b式と補完的な関係性の上で成り立っている型式の可能性を考慮することができるかもしれない。姥山Ⅲ式を含む晩期中葉期では、第1・11・14・22号竪穴建物跡出土土器に見ることができたが、前段階同様完形個体が少なく、また遺跡の性格上、一括性に乏しく、当該期の土器様相を部分的にしか確認できなかった。当地域の晩期中葉の土器様相については不明瞭な部分が多く、いわゆる「安行3c式」が主体と考えるが、大宮台地で見られるような典型的な文様構成のものは少ない。例えば安行3c式は沈線間に刺突文が充填されるモチーフで文様が構成されるが、いわゆる副文様帯系の深鉢はほとんど見られず、姥山Ⅲ式系の菱形構成の文様を描くものが多い。姥山Ⅲ式については、安行3c式の一部との型的な差異が不明瞭な部分もあり、その型式内容や型式の存在自体についても、整理しなければならないと考えている。安行3d式についても、第1号竪穴建物跡出土の4・97・98のように大宮台地で見られるような入組三叉文系の文様も見られるが、2や92など、いわゆる「縄文のない前浦式」といわれるような土器群が一定量存在する点は、当遺跡の特徴といえる。また前浦式も一定量存在しており、第1号竪穴建物跡の104・105のように前浦式の文様を、刺突文を充填する安行3d式の施文手法で描くものなどが見られる。このように複数型式が共存して一つの地域の土器組成を完成させる状況は、北関東地域の当該期の特徴の一つと考えられるが、今回の資料ではその内容について深めることはできなかった。周辺地域の土器群を合わせて検討し、今後の課題としたい。

製塩土器は、非常に薄手で、二次焼成により器面の剥落等が確認できる無文土器である。霞ヶ浦周辺の遺跡から多量に出土することなどから、製塩に特化した土器と捉えられ、縄文時代後半期の社会組織を考察しうる遺物として、研究が深化している。当遺跡では遺構内から277点、第2号遺物包含層から4,864点出土しており、内陸部に立地する遺跡としては比較的多く出土しているといえる。製塩土器は主に口縁部の形態に時期差などの製作上の特徴が表れることから、口縁部破片を中心に分類し特徴を把握することとした。分類と遺構ごとの個数については以下の通りである。

口縁部A類：口縁部がナデあるいは磨きにより調整されるもので、断面が丸みをおびているもの。無文粗製土器の口縁部に類似する。

口縁部B類：口縁部の調整が見られず、尖唇状や不整なもの。

口縁部C類：口唇部がへら切りにより平坦にカットされるもの。口唇部が外傾するものをC1類、内傾するものをC2類とする。

	A	B	C1	C2	時期		A	B	C1	C2	時期
S11	5			2	安行3c-3d式	S116		1			中期中葉～後期前葉
S12	1			1	中期中葉	S118		6		1	後期～晩期
S13	1			1	安行1-2式	S120	1	5			曾谷式-安行1式
S14	4	2		8	安行3b-3c式	S122	2	6	2	3	晩期中葉
S15	3	1		1	安行1-3c式	S124		2		1	加曽利EⅡ～EⅢ式
S16	6	30	7	10	安行2式	S125		2			前浦式
S17				1	晩期前葉～中葉	S132				1	後期前葉～後葉
S19		1			安行1式	S135		3		4	後期前半～晩期前葉
S111	1	1	1	4	安行3b-3c式	S129		1	2	1	後期後葉
S113	4	2		1	曾谷式-安行2式	S141	4	1	1	1	曾谷式-安行1式
S115		1		1	安行2式	S147	2	8			Ⅱ之内1式/安行1-2式
						HG2	30	188	22	34	

表19 築地遺跡から出土した製塩土器(点数)



## (2) 築地遺跡の調査略史と集落形態についての子察

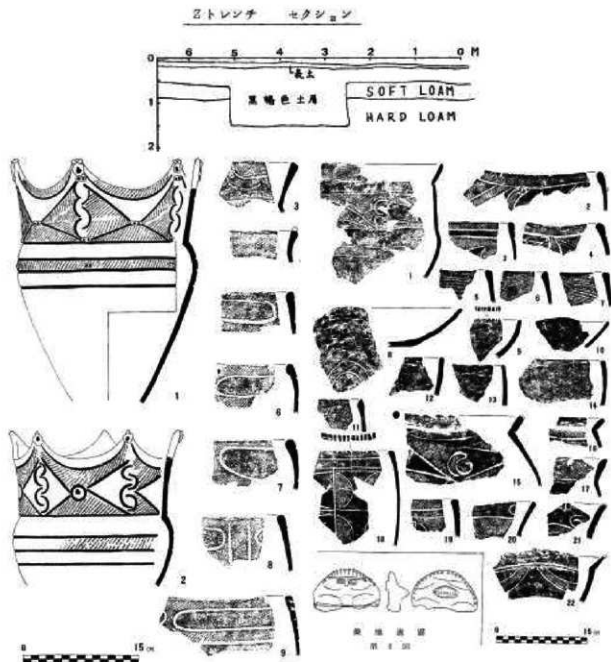
当遺跡は、歴史的環境でもふれたように、縄文土器や貝類が散布するところとして古くから知られていた。戦前には大山史前学研究所が発掘調査を行っているが、縄文土器の研究上でも特に注目されるのは、昭和38年に清水潤三氏のもと慶應義塾高校が行った発掘調査及び報告である<sup>4)</sup>。A・Y・Zの3か所のトレンチ調査で、そのうちのZトレンチからは、晩期前葉を中心に良好な資料が出土し、「姥山Ⅱ式」の設定に寄与している。調査報告を精読すると、Aトレンチは斜面の中腹に設けられた1m×12mの東西トレンチで、ローム面まで浅く、耕作による攪乱が著しかったようである。土器は小破片で、加曾利B式から安行1・2式が中心に出土した。Zトレンチは、Aトレンチの東北50mの位置に設定された東西2m、南北3mの調査区で、一部竹藪にかかるが、深さ約1mの黒褐色土を覆土とする掘り込みが確認できたようである。焼土やピットも確認できていることから、姥山Ⅱ式期の堅穴建物跡の一部を調査したものと考えられる。その西隣を東西2m、南北3mほど拡張した部分にかけて、径2.5mの隅丸長方形状で、深さが150cm以上のピットが確認されている。黒褐色土を覆土としており、形状から円筒形土坑と考えられる。またZトレンチから西北50mの地点に設定された東西4m、南北2mのYトレンチからは加曾利B式を主体とした淡水貝の貝層を伴う包含層が確認されている。貝層はタニシ、アカニシ、オオノガイを含んだ混土貝層で、山形土偶の頭部も出土している。これについては、斜面貝層ではなく、恐らく建物内に廃棄されたいわゆる「住居内貝層」と考えられる。以上の慶應義塾高校調査区の位置について、報告には調査地点の詳細な位置の記述はなく、今回の調査区との関係は不明である<sup>5)</sup>。

以上の過去の調査から読み取れる内容と今回の調査成果を踏まえ、築地遺跡の集落形態について概観してみたい。調査A区では中期前半から晩期中葉の建物跡が確認できた。中期の遺構は、調査区東部で多く確認できたが、土器は全体から出土していること、西部にも第2・42号建物跡や第4・5号土坑が位置することなどから、後期以降の遺構に掘り込まれて確認できなくなっているものの、本来は台地全体に位置していたと考えられる。調査B区も同様である。中期の遺構の重複はほとんどなく、台地全体に広く展開している。このような在り方は、谷を挟んで北西部の台地上にある天王原遺跡<sup>6)</sup>と同様であり、関係性が示唆される。後期から晩期前葉期の遺構は、北側の斜面部にかかる北西部から中央部にかけて、弧状に帯状に配置しているように見える。時期による遺構の占地の違いはみられないが、緩やかに下がる南西部側に晩期中葉期の遺構が多く確認できる。第2号遺物包含層の範囲もおおよそ後期から晩期前葉期の遺構の配置と一致する。縄文後期・晩期に関東地方に見られる層厚のある遺物包含層が集落の一形態であることは、これまでの阿部芳郎氏や江原英氏<sup>7)</sup>の研究、及び多くの当該期の調査事例<sup>8)</sup>で明らかである。今回の調査でも、遺物包含層の生成の一因が、遺構の構架や廃棄の痕跡の累積であることが明らかとなった。

それでは、周辺の地形等を含めて、集落の全体像を推測してみたい。調査A区と調査B区の間は、後世の土取りによって削平され幅60mほどの間隔があり、標高は北側の低地部よりはやや高いものの、台地上との比高は約6mである。1947年10月に米軍が撮影した空中写真(第354図)を見てみると、築地遺跡は鬼怒川からの支谷により複雑に開析された、舌状台地状に張り出した台地の先端部に位置している。当時の地目は山林であるが、遺跡の中央部は樹木がなく開かれて耕作地となっているようである。この開けた部分がほぼ現在のA区とB区の間削平部分にあたるようで、平成20年度に作成された公共測量図を見ると、この部分には標高16mほどの支谷が入り込み、台地上から緩やかに傾斜している様子が伺える。検証は得られないが記述の内容をたどると、慶應義塾高校の調査Aトレンチは、この斜面部に、

斜面下の道路に平行するように東西に設けられたと考えられる。以上のことから調査A・B区間の削平は、平成20年以降に行われ、現在のような形状に至ったものと考えられる。

当遺跡の立地する台地は、北部と南部が支谷により開析されているため、幅約200mと幅狭い。調査区より南側では、遺跡すぐ南側の民家や畑の辺りまで、非常に多くの遺物が採集できるが、南側を東西に走る県道までいくと、遺物はほとんど確認できなくなる。遺構の位置や遺物の散布、および地形などから総合的に考えると、当遺跡は東西約150m、南北約120mの大きさで、北側から入り込む谷津を中央窪地とする環状集落である可能性がある。中央窪地部分の削平が行われているかどうかは、今回の調査では確認できなかったが、自然の窪地を利用して窪地の周辺に集落を継続的に構築していく様子が伺えよう。(江原美奈子)



第353図 慶應義塾高校の調査トレンチと出土遺物 (『Archaeology』28・29より抜粋)



第 354 図 築地遺跡の集落範囲（上：遠景 下：近景 国土地理院ウェブサイトから引用・一部加筆）

### 3 室町時代

当時代の遺構は、地下式坑6基、土坑11基、堀1条を確認した。出土遺物は、土師質土器（小皿、内耳鍋、鐏鉢、火鉢）、瓦質土器（鉢）、陶器（天目茶碗、小皿、筒形香炉、瓶子、甕）、石器（砥石、石臼）、石製品（宝篋印塔）である。

地下式坑は、調査区域の東部に位置する第1号堀跡を挟んで、西部に2基、東部に4基確認できた。形状別に分類すると、堅坑の位置が、西向きと南向きの2タイプに分かれる。西向きが第4・6号地下式坑、南向きが第1・2・3・7号地下式坑である。主室の形状は、隅丸方形と楕円形及び、隅丸長方形のものに分けられる。隅丸方形が第1号地下式坑、楕円形が第2号地下式坑、隅丸長方形が第3・4・6・7号地下式坑で、隅丸長方形のものが多い。さらに堅坑が南向きで、主室が隅丸方形と隅丸長方形、楕円形のものに分けられる。堅坑が西向きのものは、主室は隅丸長方形で、堅坑が短辺に付設される第4号地下式坑と長辺に付設される第6号地下式坑の2タイプに分かれる。

断面形は、堅坑が主室に向かってスロープ状に落ち込んでいく第1号地下式坑、堅坑と主室に差が無い無段の第2・3・4・6号地下式坑、堅坑が段差を有する第7号地下式坑に分類できる。

遺物の出土しているものは、第2・3号地下式坑で、時期は出土土器からともに16世紀後半に比定できる。そのほかの地下式坑は、遺物の出土がないため、詳細な時期は不明である。

次に性格については、これまでの地下式坑の研究では、貯蔵穴説と墓坑説がある。遺物の出土している第2・3号地下式坑は、ほぼ形状が似ており、土師質土器（小皿・内耳鍋）、石塔（宝篋印塔）の出土から、墓坑と考えられる。また、特筆すべきことは、第3号地下式坑の堅坑の入り口を粘土で閉塞していることである。閉塞された状態で検出される例は全国的にみても少ない。これについて齋藤弘氏は「堅坑の埋土を観察すると、そのほとんどが、自然埋没である。一般に地下式坑では、閉塞の後、再掘削しているとしたか考えられないだろう」<sup>9)</sup>と述べられているように、古墳の石室の閉塞石の例のように、盗掘等や移設の際に再度掘り返されたものと考えられる。また、埋め戻されていない覆土が自然堆積のものは、堅坑が開口されたまま放置されたものと考えられる。

閉塞された状態で検出した類例は、県内では現在のところ見られない。県外では栃木県小山市金山遺跡Ⅱ区SX-083<sup>10)</sup>、群馬県前橋市大友屋敷Ⅱ遺跡D-1<sup>11)</sup>がある。そのほか、完形の板碑を堅坑の入り口部に横位で差し込んでいる東京都多摩市多摩ニュータウンNO.513遺跡の4号地下式横穴<sup>12)</sup>や、石で閉塞している東京都北区御殿前遺跡<sup>13)</sup>があるが、閉塞された状態で検出される例は全国的にみても少ない。

土坑は形状が長方形で、覆土の状況が人為堆積であることから墓坑の可能性はあるが、根拠となる遺物の出土がないことから、性格不明である。

最後に第1号堀跡と地下式坑との関係をみていく。堀を境に西部の第2・3号地下式坑と東部の第1・4・6・7号地下式坑がある。

東部の第1・4・6・7号地下式坑は、出土遺物がないため、時期は不明であるが、第1号地下式坑は、第1号堀跡と第2号溝跡との間に位置していることから、第1号堀跡が機能している時期には、土塁の下にあったことが考えられる。また、堀と伴う可能性がある第4号溝に第4号地下式坑が掘り込まれていることから、第1・4号地下式坑は、堀構築以前の遺構と考えられる。第6・7号地下式坑については、遺構の重複や出土遺物がなく明確な時期が不明であるが、遺構の配置状況から、第1・4号地下式坑と共存していた可能性があり、第1・4号地下式坑同様、第1号堀跡の構築以前のものと考えられる。西部の第2・3号地下式坑からは、遺物が出土しており、時期は出土土器の特徴から16世紀後半に比定できる。このことから第

1号堀跡と第2・3号地下式坑は、16世紀後半に共存していた可能性がある。

#### 4 江戸時代

当時代の遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1基、粘土貼土坑2基、土坑5基を確認した。遺構は調査A区の東部に集中し、調査B区の南東部に井戸跡が1基確認できた。遺物は、土師質土器（焔炉）、陶器（碗・大鉢）、染付磁器（碗・仏飯器）が出土している。

掘立柱建物跡は、調査A区の東部に位置する南北棟の桁行5間、梁行1間の側柱建物が1棟確認できた。出土遺物がないため詳細な時期は不明であるが、18世紀前半の第194号土坑を掘り込んでいること、掘立柱建物は、地方でも19世紀後半には礎石建物に移行する<sup>10)</sup>様相から、当遺構は、18世紀前半以降から19世紀後半と考えられる。性格は、囲が裏跡が伴うことと、規模や形状から母屋と考えられる。

井戸跡は、調査B区北東部の台地縁辺部に位置している。円筒状の素掘りの井戸である。第3号地下式坑の掘り込みを利用して掘り込んでいる。時期は、出土土器から18世紀後半と考えられ、調査A区東部に位置する土坑群よりやや時期が新しくなる。当遺構と伴う建物は、調査B区内では確認できなかった。伴う建物は調査区域外の南側に展開するものと考えられる。

土坑は、調査A区の東部に集中している。遺物の出土しているものは、第1号粘土貼土坑及び第194・202号土坑で、陶磁器が出土しており、いずれも18世紀前半に比定できる。性格は、第1号粘土貼土坑は、形状や釘などの出土から、水桶等の容器を据え置くための基礎部分と考えられる。第2号粘土貼土坑は、出土遺物がなかったが、第1号粘土貼土坑と形状が似ていることからほぼ同時期と考えられ、性格も水甕や水桶等を置いた基礎遺構と考えられる。第194・202号土坑は、覆土の状況、仏飯器等の出土から、墓坑の可能性もあるが、形状が不整形であることから性格不明である。（近江屋成陽）

#### 5 おわりに

以上、今回の調査成果を時代ごとに概観した。築地遺跡では縄文時代早期の惣糸文期から遺物の散布が見られるが、本格的に台地上を利用し始めるのは早期後半の貝殻条痕文系土器群の時期からである。『水海道市史』によると、昭和38年の慶應義塾高校調査地点の東方、鬼怒川に面して延びる台地先端部斜面に、2か所の小貝塚が確認されている<sup>15)</sup>。今回の調査では、比較的多くの土器と、数基の土坑を確認したに過ぎないが、中期以降の集落により多くの遺構が破壊されたと考えられることができる。中期前半以降は断続的に集落が営まれる。今回は台地上から斜面部の一部を調査したに過ぎないが、地形や遺構の配置などから、中央に窪地を有する環状集落と考えた。層厚のある遺物包含層は、いわゆる「環状盛土遺構」で、建物跡などの遺構の構築・廃棄・整地行為などの反復的な土地利用の結果、多重複の遺構の確認と多量の遺物が出土する様相が捉えられたことは、これまで多くの研究者が指摘してきたことを追認する結果となった。斜面部など一部に意図的な盛土行為も認められたが、窪地部分の削平等は可能性はあるものの明らかにはできなかった。遺物は多量に出土しているが、特に何かが突出しているような様相や分布の偏在等は確認できない。また東北系の土器群も含め異系統の土器群は少量であり、他地域から搬入された遺物も、黒曜石や翡翠の垂飾品等を除けばほとんど認められない。当地域の拠点的な集落であると思われるが、後晩期という時代においては、環状盛土遺構を有する集落は、ごく一般的な集落形態であったのであろう。その中でアスファルト付着の礫や石礫を確認できたこと、骨角製品や木製品の出土は、縄文時代後期・晩期の一般的な集落の保有形態から社会システムを考える資料として、今後注目されよう。

室町時代の遺構では堀跡と地下式坑が確認されたのみである。また江戸時代の遺構も掘立柱建物跡や土坑などが確認されたのみで、どのような土地利用が行われたのかを考察する資料に乏しい。しかし、台地の縁を縦断する深い堀跡は、現在の宅地の境界や宅地から公道に延びる私道と方角を同じくしており、また江戸時代の遺構は、農村の屋敷地を示す事例として、以後の土地利用との関連も伺えよう。

今回は調査で得られたことをまとめ、そこから推察される事柄について指摘したに過ぎない。本来ならば類型を上げて土器様相や集落景観を示すべきであったが、今回はなしえなかった。また遺物包含層の構築過程について、堆積層と出土遺物の相関関係を十分に示しえなかったことも反省点の一つである。築地遺跡から得られた成果を発展的に昇華させるための今後の課題としては、後期後半から晩期中葉の当地域の土器様相を明らかにすること、そして遺物包含層を集落遺構として捉えるための調査方法及び整理方法のさらなる整備が挙げられよう。今後の課題としたい。(江原美奈子)

註

- 1) 江原美奈子「茨城県における縄文時代後期前葉から晩期中葉の竪穴建物跡について」『研究ノート』第14号 公益財団法人 茨城県教育財団 2017年6月
- 2) 鈴木正博「第3節『環壕土塚』と馬場小室山遺蹟、そして「見沼文化」への眼差し」『環状盛土遺構』研究の現段階 馬場小室山遺蹟に学ぶ市民フォーラム実行委員会 2007年
- 3) 三澤正善ほか「乙女不動原北浦遺跡発掘調査報告書」小山市教育委員会 1982年3月
- 4) 慶應義塾高等学校歴史研究会「茨城県水海道市大輪町築地遺跡発掘報告」『Archaeology』28・29 1965年10月
- 5) 今回の報告にあたり、慶應義塾大学の安藤広道教授、神奈川県立歴史博物館の千葉鋭氏には、資料の確認・見学などを通じて、多くのご指導とご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。
- 6) 小川貴行「天王原遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第371集 2013年3月
- 7) 多くの研究があるが、代表的なものとして次の2つを挙げておきたい。  
阿部芳郎「縄文時代における地域社会と遺跡形成に関する構造研究」明治大学史学地理学科考古学研究室 2007年3月  
江原英「集落の分析法⑤環状盛土遺構」『縄文時代の考古学8 生活空間』同成社 2009年3月
- 8) 近年調査・報告されたものを挙げると、埼玉県大宮市永川神社遺跡や同加須市長竹遺跡などがある。
- 9) 斎藤弘「地下式塚と葬送儀礼」『研究紀要』第4号 財団法人 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1997年3月
- 10) 岩上照明・津野仁・本田剛弘・三沢京子「金山遺跡1 - 一般国道4号(新国道4号)改築に伴う埋蔵文化財発掘調査 -」『栃木県埋蔵文化財調査報告』第135集 1993年3月
- 11) 金子正人・白石光男「大友塚敷Ⅱ遺跡」前橋市早教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987年3月
- 12) 加藤修「NO.513遺跡」『多摩ニュータウン遺跡 昭和61年度(第2分冊)』財団法人東京都埋蔵文化財センター 1989年3月
- 13) 黒沼和彦「御殿前遺跡Ⅱ」東京都北区教育委員会 1989年3月
- 14) 服部実喜「第1章 東日本の中近世掘立柱建物」浅川滋男・箱崎和久編『奈良国立文化財研究所シンポジウム報告 埋もれた中近世の住まい』同成社 2001年5月
- 15) 水海道市史編さん委員会「水海道市史 上巻」水海道市 1983年3月



## 第4章 宮原前遺跡

### 第1節 調査の概要

宮原前遺跡は、常総市の東部に位置し、鬼怒川と飯沼川に挟まれた標高約16～20mの台地上に立地している。本遺跡は、平成21年度に16,216㎡を調査し、「当財団文化財調査報告」第335集として報告している。今回は平成26年度に調査した6,436㎡、平成27年度に調査した4,010㎡の計10,446㎡について報告する。調査前の現況は畑地である。

調査の結果、堅穴建物跡17棟（縄文時代3、古墳時代2、奈良時代5、平安時代7）、掘立柱建物跡5棟（室町時代2、時期不明3）、井戸跡6基（奈良時代1、平安時代2、室町時代1、江戸時代2）、陥し穴2基（縄文時代）、土坑120基（縄文時代4、奈良時代1、平安時代8、室町時代2、江戸時代3、時期不明102）、粘土貼土坑1基（室町時代）、溝跡9条（江戸時代5、時期不明4）、ピット群10か所（時期不明）、道路跡2条（江戸時代）、墓坑1基（江戸時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に20箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(坏・甕・甗)、須恵器(坏・高台付坏・蓋・鉢・甕・甗)、土師質土器(内耳鍋・焙烙)、陶器(碗・天目茶碗・片口鉢)、土製品(土玉・管状土錐・泥面子・羽口)、石器(石鏃・砥石)、金属製品(刀子・門・煙管・銭貨)などである。

### 第2節 基本層序

調査区の北東端(D1a2区)にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った(第355図)。土層は10層に分層でき、観察結果は以下のとおりである。

第1層は、暗褐色土層である。ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子を微量含み、粘性・締まりは普通で、層厚はおよそ40cmである。

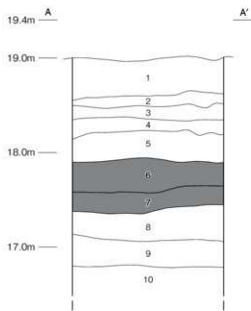
第2層は、褐色を呈するローム漸移層である。ローム粒子多量、炭化粒子・黒色粒子を微量含み、粘性・締まりは普通で、層厚は10～20cmである。

第3層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりは普通で、層厚は15～20cmである。

第4層は、橙色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は15～20cmである。

第5層は、橙色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりはやや強く、層厚は20～30cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を少量、白色粒子や赤色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりはやや強く、層厚は25～30cmである。第II黒色帯に相当すると考えられる。



第355図 基本土層図

第7層は、明褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子・白色粒子・赤色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は20～25cmである。第Ⅱ黒色帯の下部に相当すると考えられる。

第8層は、明褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性は普通で締まりは強く、層厚は20～33cmである。

第9層は、黄橙色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は20～30cmである。

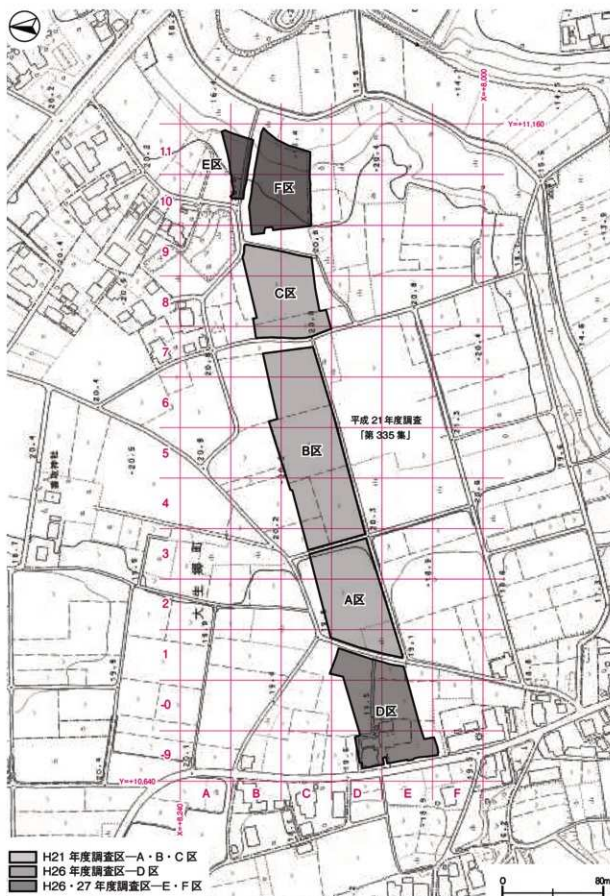
第10層は、浅黄橙色を呈するハードローム層である。炭化粒子・赤色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強い。

下部は未掘のため、層厚は不明である。

遺構は第3層の上面で確認した。







第 358 図 宮原前遺跡調査区設定図 (常総市都市計画図 2,500 分の 1 から作成)

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡3棟、陥し穴2基、土坑4基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

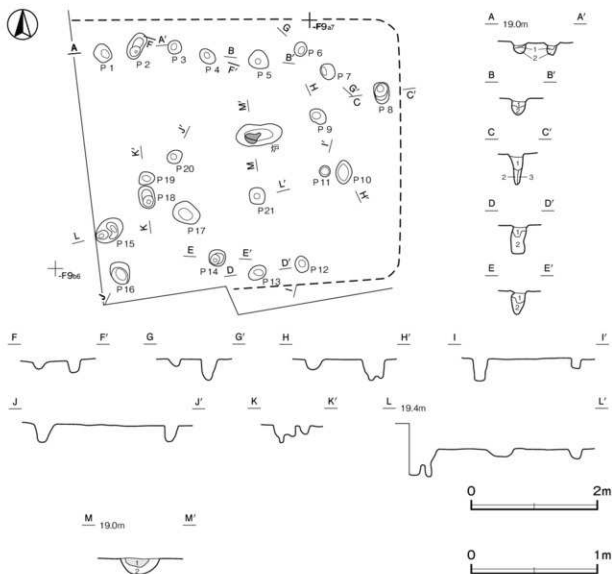
##### (1) 竪穴建物跡

##### 第33号竪穴建物跡(第359図)

調査年度 平成26年度

位置 D区南西部の-F 9a6区、標高19mほどの台地上に位置している。

規模と形状 炉跡とピットを確認した。覆土は削平されている。南西部が調査区域外に延びており、炉跡とピットの配置から、南北軸4.30m、東西軸5.20mしか確認できなかった。確認した柱穴の配置から隅丸長方形と推定される。



第359図 第33号竪穴建物跡実測図

床 削平されている。

炉 中央部に付設されている。残存しているのは長径80cm、短径35cmの不整楕円形で、深さ12cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量      2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量

ピット 21か所。P1～P21は深さ10～50cmで、柱穴と考えられる。

#### ピット土層解説 (P1・P2・P5・P8・P13・P14共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック中量      3 黒褐色 ロームブロック多量  
2 暗褐色 ロームブロック多量

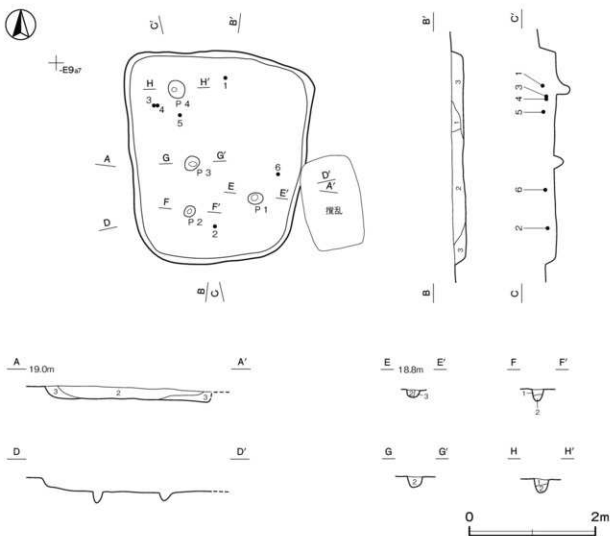
遺物出土状況 出土していない。

所見 時期を決定する遺物はないが、ピットや炉の配置から縄文時代と考えられる。

### 第35号竪穴建物跡 (第360・361図)

調査年度 平成26年度

位置 D区西部の-E9a7区、標高19mほどの台地上に位置している。



第360図 第35号竪穴建物跡実測図





炉跡とピットの配置から、長軸 5.50 m の長方形と推定される。

床 削平されている。

炉 中央部に付設されている。残存部は一辺 45cm の楕円形で、地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック微量

2 褐色 ロームブロック多量

ピット 12 か所。配置から P1・P6・P9 は支柱穴と推定される。他のピットの性格は不明である。

#### ピット土層解説 (各ピット共通)

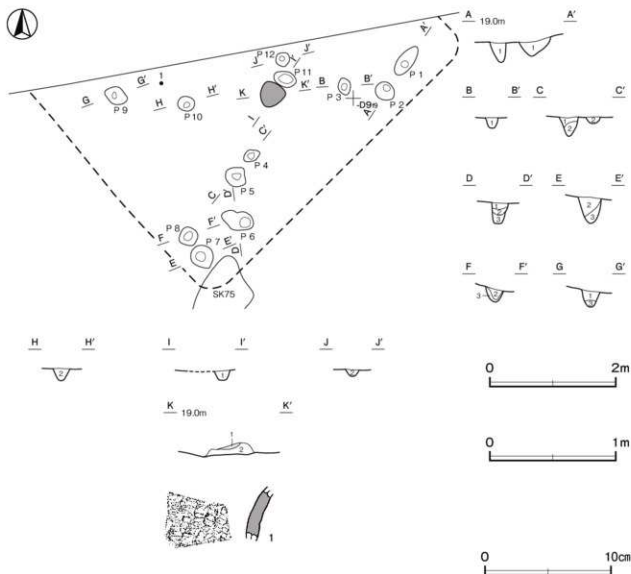
1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 確認面から縄文土器片 3 点 (深鉢)、土師器片 2 点 (甕) が出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代前期中葉と考えられる。



第 362 図 第 36 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第36号竪穴建物跡出土遺物観察表（第362図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.3)	-	長石・石英・磁鉄	にひい赤褐色	普通	単筋LR	縄文面	PL53

表21 縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径(m)	(cm)				柱穴	土口	ピット	貯・量				
33	F9a	-	[楕円形]	4.30×5.20	-	-	-	-	-	21	1	-	-	-	縄文時代	
35	E9a	N-6°-E	[楕円形]	3.40×3.04	20-24	平坦	-	4	-	-	-	-	人骨	縄文土器	前期中葉	
36	D9a	-	[長方形]	5.50×4.00	-	-	-	3	-	7	1	-	-	縄文土器	前期中葉	本跡→SK75

(2) 陥し穴

第3号陥し穴（第363図）

調査年度 平成26年度

位置 D区北東部のD1f2区、標高18mほどの台地上に位置している。

重複関係 第12号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.62m、短径1.42mの楕円形で、長径方向はN-71°-Eである。深さは81cmで、底面は幅45cmと狭く平坦である。長径方向の断面形は逆台形状で、壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

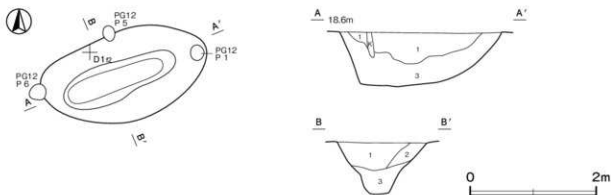
土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

遺物出土状況 出土していない。

所見 時期は、遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第363図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴（第364図）

調査年度 平成26年度

位置 D区南東部の-E0d9区、標高19mほどの台地上に位置している。

規模と形状 長径2.30m、短径1.08mの楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。底面に2か所のピットを有している。深さは80cmで、底面は幅30cmと狭く、平坦である。短径方向の断面形は逆台形状で、壁は外

傾している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

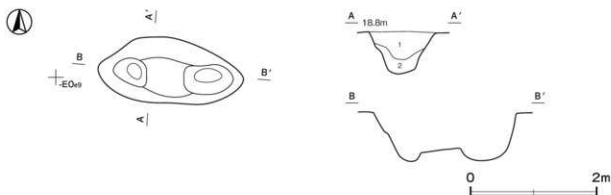
**土層解説**

1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 出土していない。

**所見** 時期は、遺構の形状から縄文時代と考えられる。底面のピットは逆茂木を埋設した跡と考えられる。



第364図 第4号陥し穴実測図

表22 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	傾 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
3	D1f2	N-71°-E	楕円形	2.62×1.42	81	平坦	外傾	人為		本跡→PG12
4	-E0d9	N-85°-W	楕円形	2.30×1.08	80	平坦	外傾	人為		

(3) 土坑

第88号土坑(第365図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区西部の-E9a6区、標高19mほどの台地上に位置している。

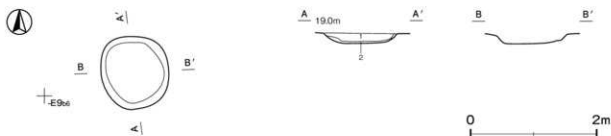
**規模と形状** 径1.16mの円形で、底面は平坦である。深さは11cmで、壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒 色 炭化物中量、ロームブロック微量

2 暗 褐色 ロームブロック少量



第365図 第88号土坑実測図

**遺物出土状況** 縄土器片1点(深鉢)が出土しているが、細片のため図示できなかった。

**所見** 時期は、出土土器から縄文時代前期中葉と考えられる。性格は不明である。

#### 第124号土坑(第366図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** E区東部のB11b7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.16m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。深さは24cmで、底面は皿状である。壁は外傾している。

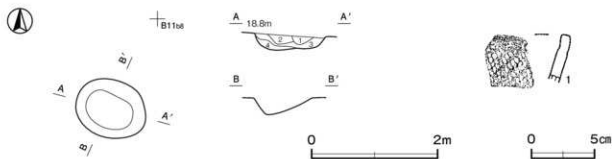
**覆土** 4層に分層できる。不規則な堆積状況や各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |                |       |                  |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量     |

**遺物出土状況** 縄土器片1点(深鉢)が出土している。

**所見** 時期は、出土した土器片から縄文時代後期と考えられる。性格は不明である。



第366図 第124号土坑・出土遺物実測図

#### 第124号土坑出土遺物観察表(第366図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄土器	深鉢	-	(38)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単純縄文LR	覆土中	PL53

#### 第150号土坑(第367図)

**調査年度** 平成27年度

**位置** F区北部のB10e7区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.80m、短径1.40mの楕円形で、長径方向はN-52°-Eである。深さは64cmで、断面形は漏斗状を呈している。

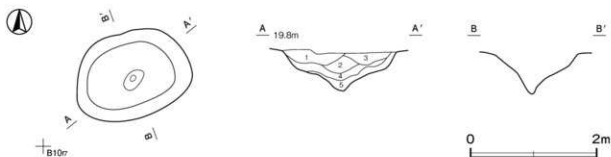
**覆土** 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |                  |         |                  |
|-------|------------------|---------|------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 暗褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   | 5 にぶい褐色 | ロームブロック中量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |         |                  |

**遺物出土状況** 縄土器片4点(深鉢)が出土している。覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から縄文時代と考えられる。性格は不明である。



第367図 第150号土坑実測図

### 第151号土坑(第368図)

調査年度 平成27年度

位置 F区北部のB109区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.60mの円形である。深さは48cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

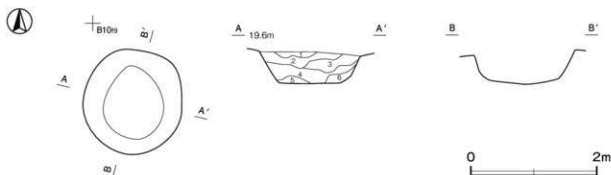
覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |                  |       |                  |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 明褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   | 5 褐色  | ロームブロック中量        |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量        | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   |

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から縄文時代と考えられる。性格は不明である。



第368図 第151号土坑実測図

表23 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
88	- E 9a6	-	円形	1.16 × 1.16	11	平坦	外傾	人為	縄文土器	
121	B 11b7	N - 60° - W	精円形	1.16 × 0.90	21	皿状	外傾	人為	縄文土器	
130	B 10e7	N - 52° - E	精円形	1.80 × 1.40	64	V字状	外傾	人為	縄文土器	
151	B 109	-	円形	1.60 × 1.60	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### 竪穴建物跡

#### 第42号竪穴建物跡（第369・370図）

調査年度 平成26年度

位置 E区西部のB10b8区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.25m、短軸4.02mの方形で、主軸方向はN-28°-Wである。壁は高さ34～40cmで、直立している。

床 はほぼ平坦な貼床で、コーナー部を除き踏み固められている。貼床は、ロームブロックを多量に含む第7層を埋土して構築されている。壁下には、壁溝が全周している。床面の南部を中心に焼土及び炭化物が出土している。中央部の床面に楕円形の焼土の広がりを確認したが、床面と同様に硬化していることから、本跡が廃棄される時点では使用されていなかったものと考えられる。

竪 北壁の中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は65cmである。袖部は床面と同じ高さの地山の上にローム粒子や炭化粒子を含んだ第8～11層を積み上げて構築されている。火床面は床面を5cmほど掘り込み、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

#### 埋土層解説

1 褐 色	炭化物中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	8 灰 褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量
2 極暗褐色	焼土ブロック・焼土粒子微量	9 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 極暗赤褐色	焼土ブロック・焼土粒子微量	10 に近い褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
4 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗赤褐色	焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 赤 褐色	焼土ブロック・焼土粒子多量、炭化粒子微量
6 に近い褐色	ロームブロック中量	13 黒 褐色	炭化粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量
7 暗 褐色	焼土ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量		

ピット 6か所。配置からP1～P3は主柱穴、P4は出入り口施設に伴うピットと考えられる。P5・P6は不明である。

#### ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	5 黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック微量	7 褐色	ロームブロック少量
4 黒 褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量		

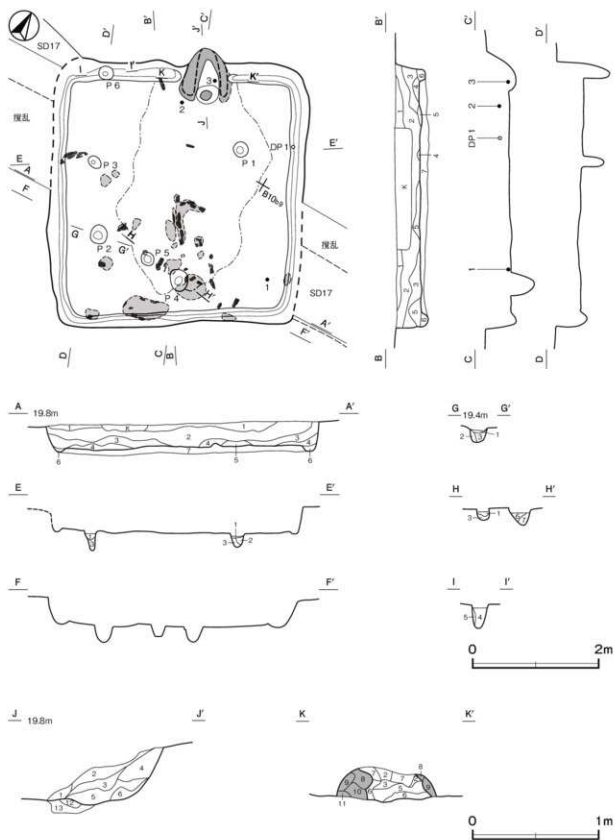
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

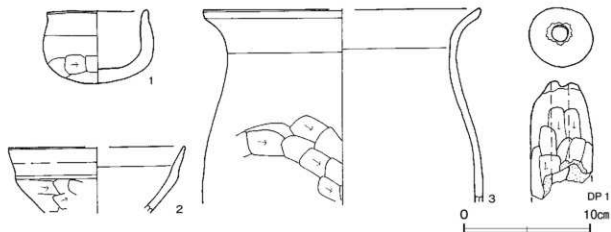
1 黒 褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	5 極暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量
2 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 極暗褐色	炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量	7 明 褐色	ロームブロック多量
4 黒 褐色	炭化材少量、ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片23点（坏1、碗3、甕19）、須恵器片1点（坏）、縄文土器片10点、陶器片4点（碗）、土製品1点（羽口）が出土している。2は竪手前の覆土下層から、1は南東コーナーの床面から出土している。3は、竪の火床部に高さ調節に安定させる土を盛った上から、逆位の状態で出土している。火を受けて赤色変化していることや出土位置から支脚として利用されていたと推定される。DP1は東壁下の覆土下層から出土している。縄文土器片及び陶器片は複乱部からの出土である。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉と考えられる。焼土や炭化材が多量に出土しているが、残存率の良い土器がほとんどないことから、廃絶後に建物の部材等を焼却したものと考えられる。



第369図 第42号竪穴建物跡実測図



第370図 第42号竪穴建物跡出土遺物実測図

第42号竪穴建物跡出土遺物観察表(第370図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
1	土師器	碗	8.0	5.9	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面持ちへう張り		床面	95% PL53
2	土師器	碗	[13.8]	(5.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面持ちへう張り	内面ナデ 外・内面黒色処理	覆土下層	20%
3	土師器	甕	[21.8]	(15.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ナデ	体部外面へう張り	内面	竈火床部 30% PL53

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	竈口	5.0	(9.4)	1.33	(189.7)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	外面へう張り		覆土下層

### 第43号竪穴建物跡(第371・372図)

調査年度 平成27年度

位置 F区東部のC11a4区、標高17mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸は5.08mで、短軸はP2の位置から4.56mと推定される。主軸方向は竈の位置から、N-20°-Wと推定できる。遺構が南東に向けて下る斜面に位置し、南西部は削平されている。また、南部は掘乱により壊されている。確認できる壁は高さ8~12cmで、外傾している。

床 北東部はほぼ平坦な貼床で、北壁下が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第6層を10~15cm埋土して構築されている。壁が確認出来る範囲では壁下に幅15cm、深さ15cmほどの溝が走っている。

竈 北壁中央部に付設されている。削平のため本来の規模は明確でないが、確認できるのは焚き口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は44cmである。左袖部内面は火熱により赤変硬化している。袖部は地山をわずかに掘り下げ、粘土ブロックを含む第10~12層を積み上げて構築している。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ、火床面から緩やかに外傾している。

#### 覆土層解説

- |        |                      |           |                     |
|--------|----------------------|-----------|---------------------|
| 1 黒褐色  | 焼土粒子少量、炭化粒子微量        | 8 黒褐色     | 焼土粒子少量、粘土粒子微量       |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、炭化物微量         | 9 褐色      | 粘土粒子中量、焼土粒子微量       |
| 3 黒褐色  | 炭化粒子少量、焼土粒子微量        | 10 褐色     | 粘土ブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色  | 焼土ブロック少量、炭化物微量       | 11 にぶい黄褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 5 黒褐色  | 炭化粒子・粘土粒子微量          | 12 褐色     | 粘土ブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 |
| 6 褐色   | 粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量  | 13 黒褐色    | 粘土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量 |
| 7 褐色   | 粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |           |                     |

ピット 3か所。P1は深さ53cm、P2は深さ18cm、P3は深さ36cmで、配置からいずれも主柱穴と考えられる。



## ビッド土層解説 (各ビッド共通)

- |       |                               |       |                  |
|-------|-------------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物微量        | 5 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量         |       |                  |

**貯蔵穴** 北東コーナーに付設されている。長径70cm、短径55cmの楕円形で、深さは35cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

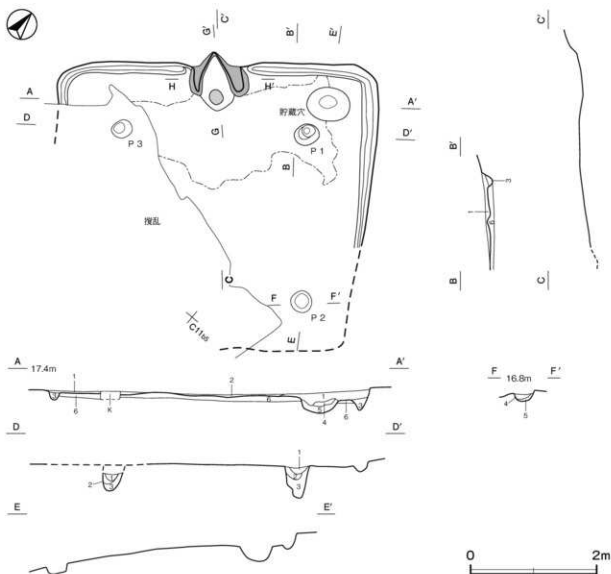
**覆土** 3層に分層できる。堆積状況から自然堆積である。第4・5層は貯蔵穴の土層である。第6層は貼床の構築土である。

## 土層解説

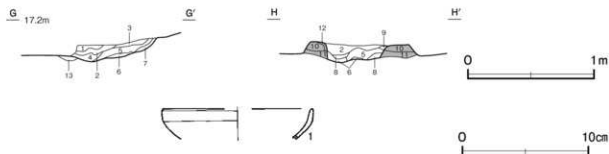
- |       |                     |       |                       |
|-------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量      |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子・炭化物少量、焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 6 明褐色 | ロームブロック多量             |

**遺物出土状況** 土師器片17点(坏4, 甕13), 須恵器片4点(坏3, 甕1)が覆土から出土している。1は覆土中から出土している。埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉と考えられる。



第371図 第43号壜穴建物跡実測図



第 372 図 第 43 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 43 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 372 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須恵器	杯	φ120	25	-	長石・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	10%

表 24 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m)	面積 (㎡)				3坑穴	土間口	ピット	砂・土				
42	B 106b	N-28°-W	方形	4.25 × 4.02	34 ~ 40	平坦	全周	3	1	2	北壁	-	人為 土師器、須恵器、 土製品	6世紀後半	本跡→SD7	
43	C 114a	N-20°-W	[此方形]	5.08 × 4.56	8 ~ 12	平坦	全周	3	-	-	北西壁	-	自然 土師器、須恵器	7世紀前半		

### 3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴建物跡 5 棟、井戸跡 1 基、土坑 1 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 竪穴建物跡

##### 第 25 号竪穴建物跡 (第 373・374 図)

**調査年度** 西部の大半は平成 21 年度に調査し、「第 335 集」にて報告している。

**床** 今回調査した南東部はほぼ平坦な貼床で、壁際を除き踏み固められている。壁下には幅 15cm、深さ 10cm ほどの壁溝が巡っている。貼床は 4 ~ 9cm ほどの厚さに、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土を埋め戻して構築している。南東部の床面を中心に焼土塊や粘土塊が点在している。

**覆土・覆土層** 平成 21 年度調査、第 335 集参照。

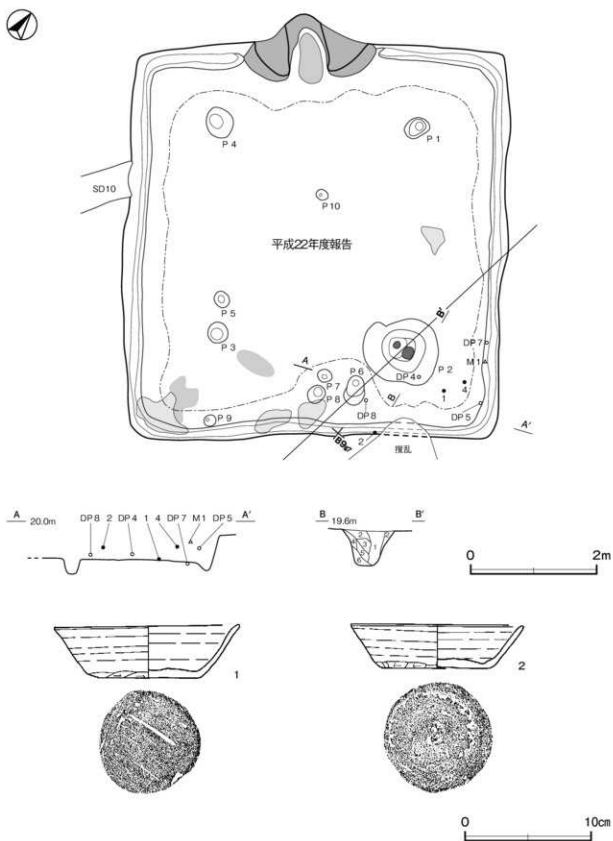
**ピット** 10 か所。平成 21 年度調査、第 335 集参照。P 2 は配置から支柱穴と考えられる。

#### P 2 土層解説

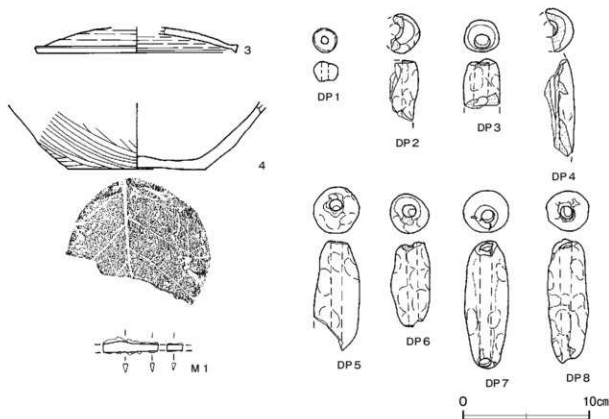
- |         |                     |         |                  |
|---------|---------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色   | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色   | ロームブロック少量           | 5 褐色    | ロームブロック中量        |
| 3 にい黄褐色 | ロームブロック中量           | 6 にい黄褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 今回の調査からは、土師器片 126 点 (甕)、須恵器片 54 点 (杯 38、蓋 7、甕 9)、土製品 9 点 (土玉 1、管状土鍾 8)、金属製品 1 点 (刀子) が出土している。平成 21 年度調査時でも遺物が多く出土しているが、今回の調査でも土師器片・須恵器片が多数出土している。1 及び DP 7 は床面から出土している。2 は南壁下覆土下層から、DP 4・DP 8 はいずれも南東コーナーの覆土下層から出土している。4 及び DP 5 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第 373 図 第 25 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図



第374図 第25号竪穴建物跡出土遺物実測図

第25号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第373・374図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.6	4.2	8.0	長石・石英・雲母	灰黄	普通	体部外・内面ナデ 体部外面下端手持ちヘウ割り 底部多方向のヘウ割り	床面	70% PL54
2	須恵器	坏	13.6	3.5	8.6	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	体部外・内面ナデ 体部外面下端手持ちヘウ割り 底部ヘウ割り後ナデ	覆土中層	80% PL54
3	須恵器	蓋	[16.0]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい	良好	天岸部回転ヘウ割り	覆土中	10%
4	土師器	甕	(5.4)	11.0	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	体部外面ヘウ磨き 底部木葉痕	覆土中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	2.0	1.6	0.6	5.47	長石・石英・赤色粒子	にぶい	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	
DP 2	管状土師	3.1	(4.8)	[1.0]	(22.77)	長石・石英・赤色粒子	橙	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中	
DP 3	管状土師	2.8	(3.9)	1.3	(20.65)	長石	明褐	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中	
DP 4	管状土師	3.5	(7.8)	1.3	(41.78)	長石・雲母	橙	ナデ 一部欠損	覆土下層	
DP 5	管状土師	3.6	(8.7)	1.0	(87.32)	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中層	PL57
DP 6	管状土師	3.1	6.7	1.0	(49.46)	長石・石英・赤色粒子	にぶい	ナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土中	PL57
DP 7	管状土師	3.5	10.2	1.0	106.71	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕	床面	PL57
DP 8	管状土師	3.5	9.8	0.9	81.18	長石・石英	橙	ナデ 指頭圧痕	覆土下層	PL57

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(6.5)	0.5~1.2	0.3	(4.08)	鉄	断面三角形 両端欠損	覆土中層	

第32号竪穴建物跡 (第375・376図)

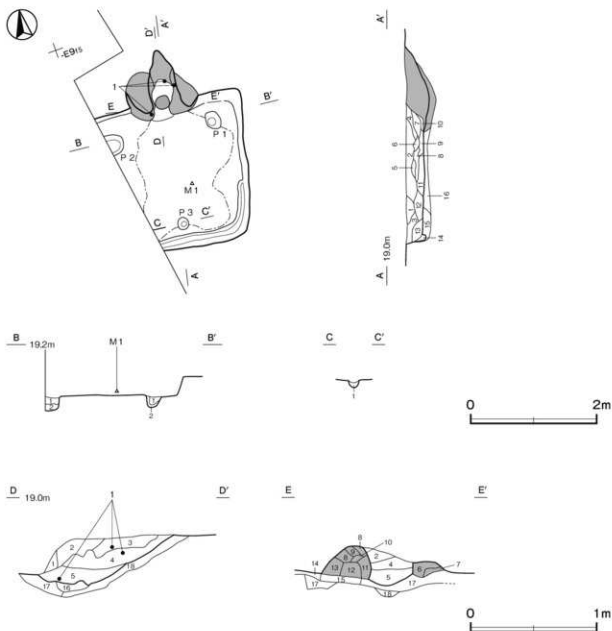
調査年度 平成26年度

**位置** D区西部の-E 9f5区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 西部が調査区域外に延びているため、長軸は2.36mで、短軸は2.20mしか確認できなかった。主軸方向はN-7-Eである。壁は高さ25~30cmで、直立している。

**床** ほほ平坦な貼床で、P3付近から竈前にかけての中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを多く含む第15・16層を埋土して構築されている。南壁から東壁中央部まで壁溝が巡っている。

**竈** 北壁に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は焼土ブロックや粘土ブロックを含む第6~13層で構築され、左袖部には補強材として土師器の甕片が使われている。火床面は床面を10cmほど掘り込み、ロームブロックを多量に含む第15~18層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ、火床面から傾斜して立ち上がっている。



第375図 第32号竈穴建物跡実測図

**覆土層解説**

- |       |                           |        |                           |
|-------|---------------------------|--------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子少量                    | 10 黒褐色 | ロームブロック多量、粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック中量、粘土ブロック微量         | 11 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子少量    |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量           | 12 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子少量          |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量                 |
| 5 暗褐色 | 焼土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量      | 14 黒褐色 | ロームブロック中量                 |
| 6 暗褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物・ロームブロック少量    | 15 暗褐色 | ロームブロック多量                 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量          | 16 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量     |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量          | 17 褐色  | ロームブロック多量、焼土粒子少量          |
| 9 黒褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子少量           | 18 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子少量   |

**ピット** 3か所。P1・P2は深さ20cmで、配置から支柱穴、P3は深さ10cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|-------|-----------|

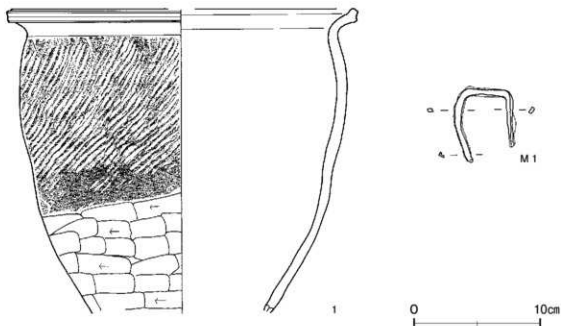
**覆土** 14層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから、埋め戻されている。第15・16層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                     |        |                       |
|-------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量           | 9 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量        |
| 2 褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量      | 10 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量           | 11 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量      |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量   | 12 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量             | 13 黒褐色 | ロームブロック少量             |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量           | 14 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 15 灰褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |
| 8 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量    | 16 褐色  | ロームブロック多量             |

**遺物出土状況** 土師器片10点(坏3, 甕7), 須恵器片4点(坏1, 甕3), 金属製品1点(門)が出土している。1は甕左袖の上部から連位で出土しており、甕袖の補強材として使用されたものと考えられる。M1は南東部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第376図 第32号竪穴建物跡出土遺物実測図

## 第 32 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 376 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	須臾部	罍	[27.0]	[24.3]	-	長石・石英	にぶい青黒	普通	体部外面斜位の平行押し 下位顔位のヘラ削り 内面ナデ	竈始部	40% PL53
番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備考
M 1	門	(5.9)	(4.7)	0.5	(8.83)	鉄	断面長方形	端部欠損		覆土下層	PL58

## 第 38 号竪穴建物跡 (第 377・378 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D 区南東部の - E 0d7 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.00 m、短軸 3.88 m の方形で、主軸方向は N - 5° - W である。壁は高さ 48 ~ 58 cm で、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、東壁下・西壁下を除き踏み固められている。壁下には壁溝が全周している。壁溝が竈 1 の右袖下まで続いていることから、竈 1 は壁溝の構築後に作られたものと考えられる。

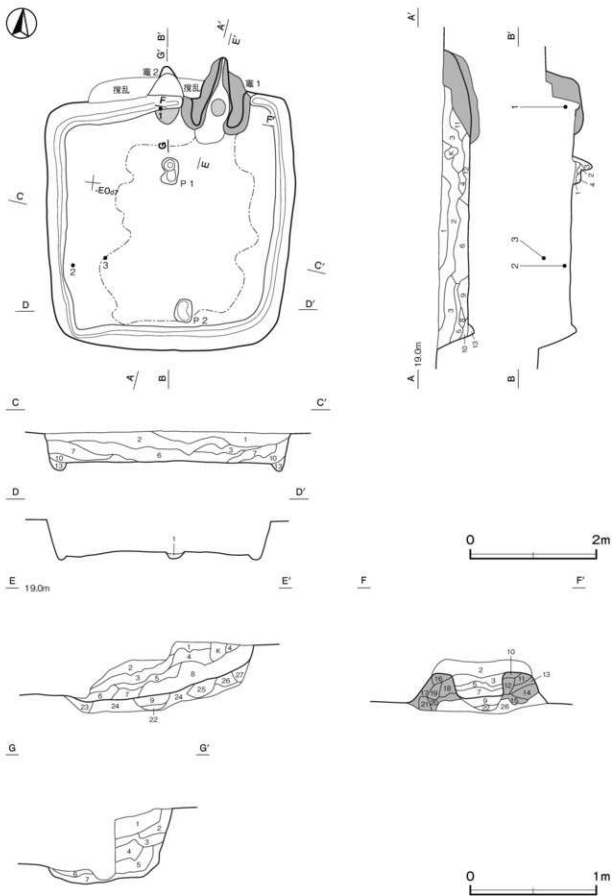
竈 竈 1 は北壁や東寄りにつ設されている。北壁中央部の竈 2 を廃絶した後に竈 1 を構築している。竈 1 の規模は焚口部から煙道部まで 140 cm で、燃焼部幅は 35 cm である。袖部は、粘土ブロック混じりの黒褐色土で構築されている。火床部は床面を 8 cm ほど掘り込み、第 9・22 ~ 27 層を埋土して構築されており、火床面は埋土した上に右袖は第 10 ~ 15 層を、左袖は第 16 ~ 21 層を積み上げて構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 80 cm 掘り込まれ、火床面から外傾している。竈 2 は北壁中央部に付設されている。土層の状況から、放棄時に、袖を外し、燃焼部に粘土粒子を含む褐色、黒褐色土を第 1 ~ 7 層に積み上げて壁を再構築している。

## 竈 1 土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	14	灰褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量	3	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
3	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	4	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
4	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量	5	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
5	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量	6	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量
6	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック少量	7	黒褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量
7	黒褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量	8	暗褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
8	暗褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量	9	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量
9	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量	10	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
10	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	11	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
11	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	12	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土ブロック少量
12	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土ブロック少量	13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量
13	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量、粘土ブロック微量	14	灰褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・焼土ブロック少量
			15	黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土ブロック微量
			16	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
			17	灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
			18	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量
			19	黒褐色	粘土ブロック少量
			20	黒褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
			21	暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック中量、ロームブロック少量
			22	黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
			23	黒褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量
			24	暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量
			25	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
			26	黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
			27	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量

## 竈 2 土層解説

1	褐灰色	粘土粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子微量	5	褐灰色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量
2	褐灰色	炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	6	黒暗褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量
3	黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
4	黒褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック微量			



第 377 图 第 38 号竖穴建物跡实测图



ピット 2か所。P 1は深さ10cmで柱穴、P 2は深さ10cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

## P 1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

## P 2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

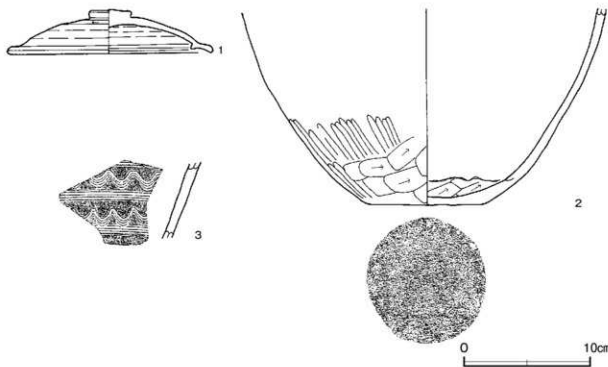
覆土 13層に分層できる。各層にロームブロックや焼土・炭化粒子等が含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |           |        |                       |
|-------|-----------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 9 暗褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 黒褐色 | ロームブロック多量             |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量   | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量 | 12 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量      |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量      |
| 7 黒褐色 | ロームブロック中量 |        |                       |

遺物出土状況 土師器片30点(坏3, 甕27), 須恵器片4(坏1, 蓋2, 甕1)が出土している。1はほぼ完形で、北壁際中央部の覆土下層から逆位の状態で出土している。2は南西コーナーの覆土下層から、正位の状態で出土している。3は覆土中層からの出土である。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。



第378図 第38号竪穴建物跡出土遺物実測図

第38号竪穴建物跡出土遺物観察表(第378図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	160	3.5	-	長石・石英・雲母	明黄褐色	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	100% PLS3
2	土師器	甕	-	(15.5)	9.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ磨き 外・内面ヘラ削り	覆土下層	約7% 埋付着
3	須恵器	甕	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母	灰黄	良好	胴部外面4条1単位の波状文と沈線	覆土中層	

第 40 号竪穴建物跡 (第 379・380 図 PL51)

調査年度 平成 26 年度

位置 D 区南東部の E1e1 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 5.70 m、短軸 5.58 m の方形で、主軸方向は N - 10° - W である。壁は高さ 30 ~ 44 cm で、直立している。

床 ほは平坦で、南壁下から竈前にかけて中央部が踏み固められている。壁下には、壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120 cm で、燃焼部幅は 35 cm である。袖部は床面と同じ高さの地山の上に、粘土混じりの第 9 ~ 14 層を積み上げて構築されている。両袖内部には切石が垂直に据え付けられ、左袖内の切石の上部は L 字形に加工されている。焚口部前の床面からは同じく端部に L 字形の加工部をもつ切石が出土していることから、竈の焚口部は 2 本の切石を柱として立て、上に切石を渡して構築されていたものと推察される。火床面は床面を 8 cm ほど掘り込み、第 8・15 ~ 19 層を埋土して構築されており、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 45 cm 掘り込まれ、火床面から外傾している。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量	11 黒褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子微量	12 灰褐色	粘土粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量	13 暗赤褐色	焼土ブロック少量、炭化物・粘土粒子微量
4 褐灰色	粘土粒子中量、焼土ブロック微量	14 明褐色	粘土粒子多量、炭化物・焼土粒子微量
5 暗赤褐色	焼土ブロック少量、粘土粒子微量	15 暗赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック微量
6 褐灰色	粘土ブロック多量、焼土粒子少量	16 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック微量
7 暗赤褐色	焼土ブロック中量、粘土粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック少量
8 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子少量	18 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量
9 褐灰色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	19 灰褐色	粘土粒子少量、ローム粒子微量
10 灰褐色	粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量		

ピット 12 か所。配置から P 1 ~ P 4 は深さ 42 ~ 80 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 18 cm、P 6 は深さ 24 cm で、南壁際中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8 ~ P 12 は深さ 15 ~ 36 cm で、壁柱穴と考えられる。P 7 は性格不明である。

P 1 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 2 土層解説

1 黒色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量

P 3 土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック少量

P 4 土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量

P 5 土層解説

1 極暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

P 6 土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
--------	--------------

P 7 土層解説

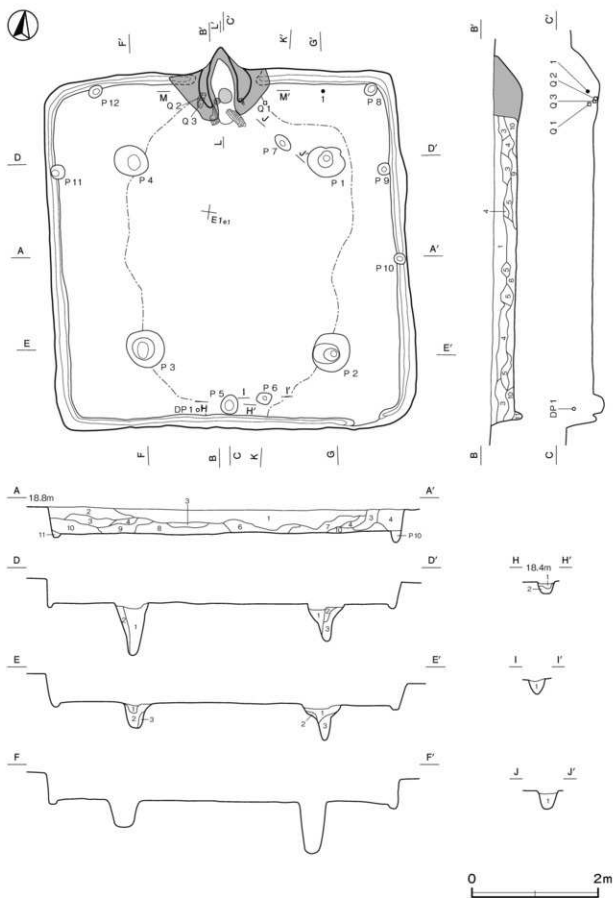
1 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量
-------	----------------

覆土 11 層に分层できる。ロームブロックが各層に含まれ、不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

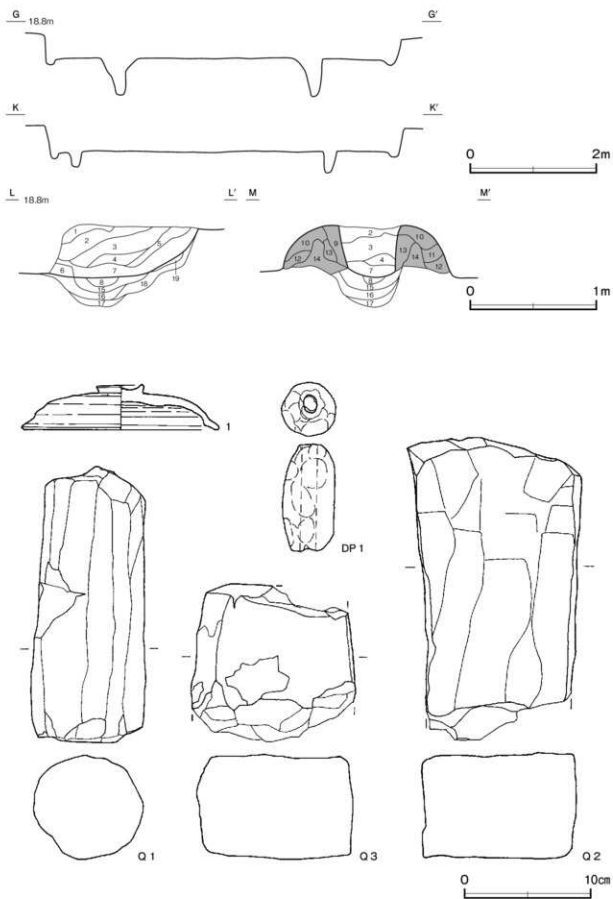
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	7 極暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
4 極暗褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック少量	11 褐色	ロームブロック少量
6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 62 点 (環 16, 甕 46)、須恵器片 7 点 (環 2, 蓋 1, 甕 4)、竈の構築材の切石 6 点が出土している。Q 1 は竈袖外側の床面から、Q 2・Q 3 は竈袖部付近の床面から出土している。1 は竈袖東側の北壁際覆土下層から逆位の状態で出土している。DP 1 は南壁下の覆土中層から出土している。



第 379 图 第 40 号竖穴建物跡实测图



第 380 图 第 40 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。本跡は竈焚口を切石で構築した竪穴建物跡で、同じような構造の竈が、本跡の平成21年度調査第25号竪穴建物跡で確認されている。

#### 第40号竪穴建物跡出土遺物観察表（第380図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	15.8	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	天井部回転へう削り	竈土下層	90% PL53

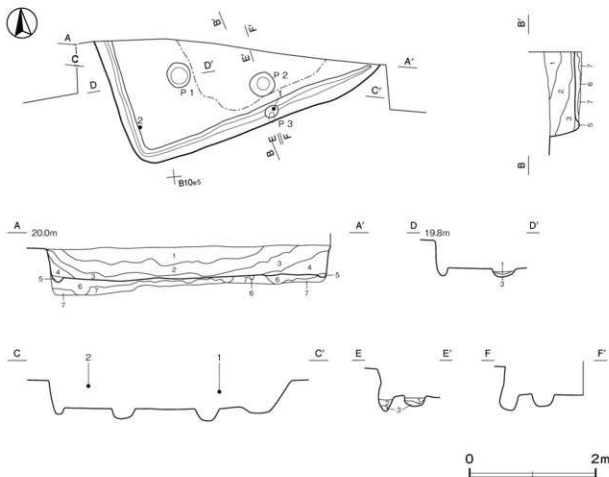
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	竪穴土網	4.3	8.4	1.4	137.63	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐色	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	竈土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	21.8	9.1	8.4	(1060)	砂岩	ナデ 断面円形に加工	床面	大熱直 PL 56
Q 2	切石	(24.0)	(13.9)	(8.4)	(2518)	砂岩	断面長方形に加工 一部欠損	竈輪部	大熱直 PL 56
Q 3	切石	(12.5)	(13.2)	8.3	(968)	砂岩	断面長方形に加工 一部欠損	竈輪部	大熱直 PL 56

#### 第44号竪穴建物跡（第381・382図）

調査年度 平成27年度

位置 F区北西部のB 10d5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。



第381図 第44号竪穴建物跡実測図



## (2) 井戸跡

## 第9号井戸跡 (第383図)

調査年度 平成27年度

位置 F区南西部のC1013区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径2.50mほどの円形で、深さは4.34mである。確認面から1mまでは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径1.2mの円筒状に掘り込まれている。

ビット 10か所。深さ25～40cmのビットが上端を回っている。上端の周辺に不規則に存在している。井戸に関わる施設に伴うビットと考えられるが、性格は不明である。

## P9土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

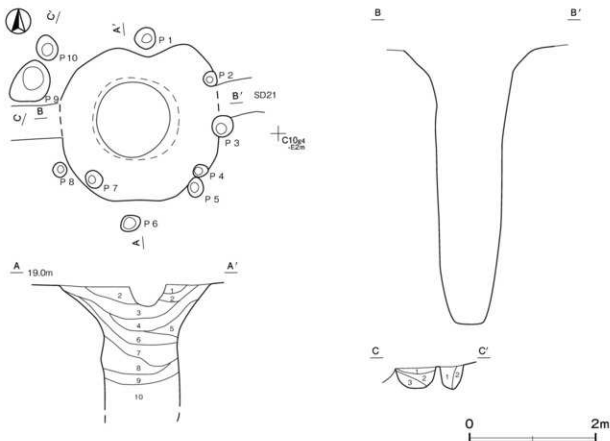
## P10土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                                 |        |                              |
|-------|---------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量           | 6 黒褐色  | ロームブロック・粘土粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒少量 | 7 黒褐色  | ロームブロック中量、粘土ブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子・砂粒少量      | 8 明褐色  | ロームブロック多量、炭化粒子・粘土粒子少量        |
| 4 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・砂粒中量             | 9 黒褐色  | ロームブロック・粘土粒子・砂粒少量            |
| 5 黒褐色 | 砂粒中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量           | 10 明褐色 | ローム粒子・炭化粒子多量、粘土粒子・砂粒微量       |



第383図 第9号井戸跡実測図

**遺物出土状況** 土師器片8点(坏7, 甕1), 須恵器片2点(甕), 石器2点(砥石, 石臼), 鉄製品1点(刀子)が覆土中層から出土している。いずれも細片で図示できなかった。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀代と考えられる。

### (3) 土坑

#### 第112号土坑(第384図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区東部のD13区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.84m, 短径0.60mの楕円形で, 長径方向はN-41°-Wである。深さは35cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

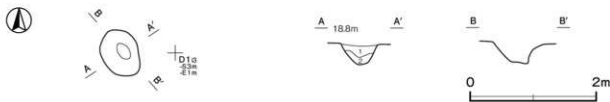
#### 土層解説

1 黒色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片1点(甕)が覆土中から出土している。土器は細片のため図示できなかった。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀代と考えられる。



第384図 第112号土坑実測図

## 4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は堅穴建物跡7棟, 井戸跡2基, 土坑8基を確認した。以下, 遺構及び遺物について記述する。

### (1) 堅穴建物跡

#### 第30号堅穴建物跡(第385～387図 PL50)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区北西部の-D9h9区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.33m, 短軸3.31mの方形で, 主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ32～36cmで, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦な貼床で, 出入り口付近から北西部にかけて踏み固められている。貼床は, ロームブロックを含む第6・7層で埋土して構築されている。北壁下の一部を除き, 幅10～20cm, 深さ5～18cmほどの壁溝が巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで97cm, 燃焼部幅は38cmである。袖部は地山をわずかに残し, 粘土粒子を少量含む黒褐色土を積み上げた第8～12層で構築されている。火床部は床面をわずかに掘り込み, ロームブロックを含む第7・13・14層を埋土して構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がる。



## 甕土層解説

- |         |                    |        |                   |
|---------|--------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量   | 8 暗赤褐色 | 焼土粒子中量            |
| 2 黒色    | 粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量、炭化物微量       | 10 黒褐色 | 粘土粒子少量、炭化粒子微量     |
| 4 暗赤褐色  | 焼土粒子少量             | 11 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量    |
| 5 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量    | 12 陶灰色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量    |
| 6 赤褐色   | ローム粒子・炭化粒子少量       | 13 赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量   |
| 7 極暗褐色  | 焼土粒子少量、炭化粒子微量      | 14 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子微量  |

ピット 2か所。P1は深さ15cmで配置から主柱穴、P2は深さ30cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

## P1土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

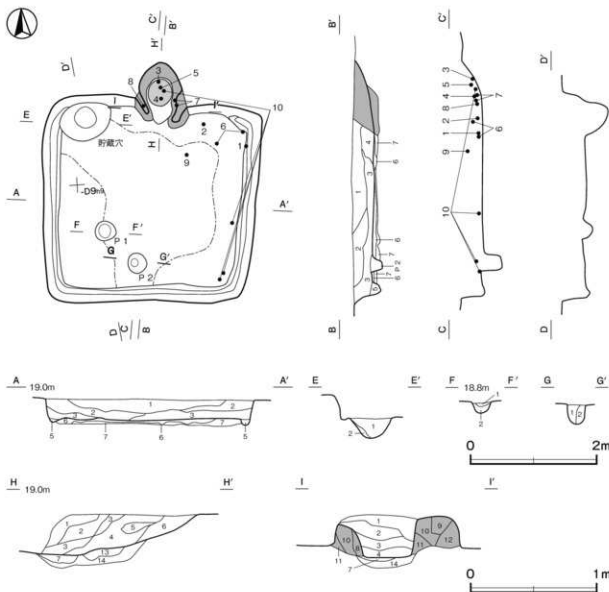
## P2土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

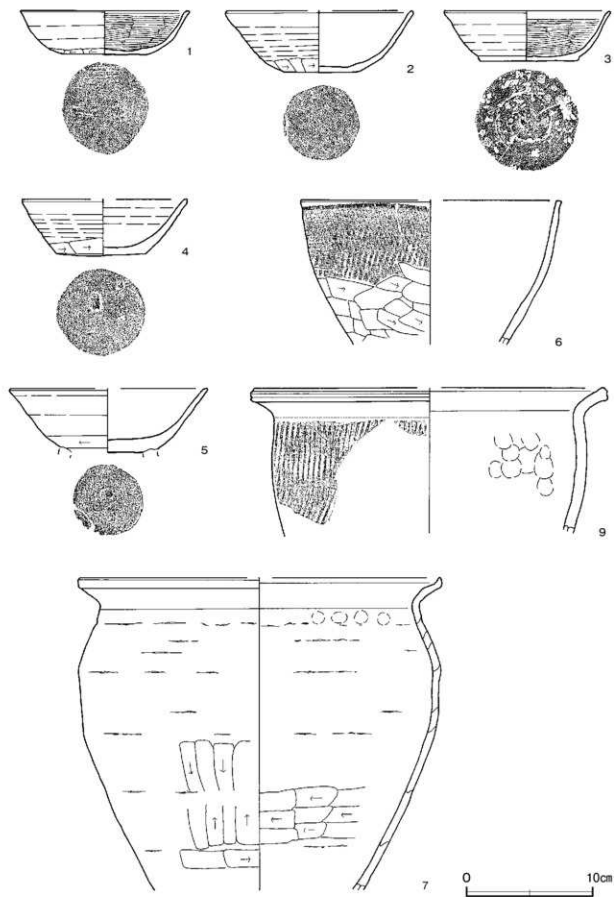
貯蔵穴 北西コーナー部に設けられている。長径87cm、短径60cmの楕円形で、深さは30cmである。底面は皿状で、壁は傾斜している。各層にロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

## 貯蔵穴土層解説

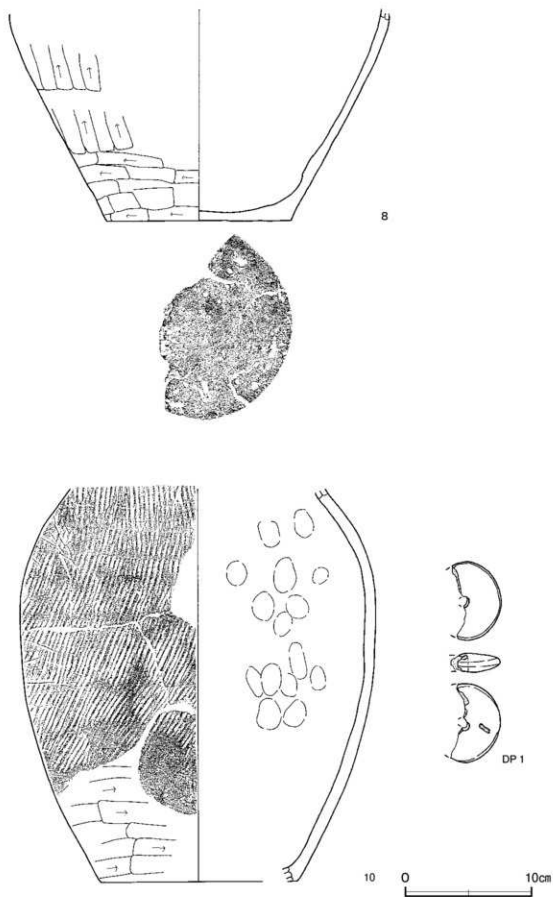
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量



第385図 第30号竪穴建物跡実測図



第 386 图 第 30 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 387 図 第 30 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

**覆土** 5層に分層できる。各層ともブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第6・7層は、貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                       |       |                           |
|-------|-----------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量               | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量       |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 6 灰褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 明褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量          |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子微量        |       |                           |

**遺物出土状況** 土師器片59点（坏8、高台付坏1、甕50）、須恵器片9点（坏1、鉢1、甕6、瓶1）、縄文土器片9点（深鉢）が出土している。2は竈右袖東側の覆土下層から出土している。6は北東コーナー寄りの覆土下層から、1は東壁下の覆土下層から横位で出土している。3～5及び10の一部は竈の燃焼部中央から逆位あるいは横位で重なった状態で出土しており、火を受けていることと位置から、支脚として使用されたものと考えられる。7は竈右袖内から、8は左袖内からそれぞれ出土している。1・2・6・7は埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉から後葉と考えられる。

**第30号竈穴建物跡出土遺物観察表（第386・387図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	133	3.5	6.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下層持ちヘウ張り 上半部ナデ 内面ヘウ磨き 黒色処理	覆土下層	90% PL54
2	土師器	坏	[150]	4.8	6.0	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面下層を持ちヘウ張り 底部一方のヘウ磨き 内外面潤滑肌	覆土下層	50%
3	土師器	坏	131	4.0	7.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面クロナデ 内面ヘウ磨き 底部回転ヘウ切り後ナデ	竈火床部	50%
4	須恵器	坏	132	4.5	7.0	長石・石英	橙	普通	体部外面下層を持ちヘウ張り 底部一方のヘウ張り	竈下層	100% PL54
5	土師器	高台付坏	[156]	(5.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面下層回転ヘウ張り 高台部潤滑	竈下層	60%
6	須恵器	鉢	[207]	(11.5)	-	長石・石英	灰黄褐	普通	体部外面ヘウ張り 上半部位の平行叩き 内面ナデ	覆土下層	30%
7	土師器	甕	[286]	(24.7)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ヘウ張り 指頭圧痕 輪轆肌	竈袖部	40%
8	土師器	甕	-	(16.8)	14.6	長石・石英	赤褐	普通	体部外面ヘウ張り 内面ナデ	竈袖部	20%
9	須恵器	甕	[280]	(11.5)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面ナデ 指頭圧痕	覆土中層	50%
10	須恵器	甕	-	(40.0)	[15.8]	長石・石英	灰	普通	体部外面縦位の平行叩き 下層横位のヘウ張り 内面ナデ 指頭圧痕	竈下層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	刺刷	6.2	1.5	(0.8)	(27.0)	長石・細糠	明褐	表面丁寧なナデ 1/2欠損	覆土中	50% PL57

**第31号竈穴建物跡（第388・389図 PL50）**

**調査年度** 平成26年度

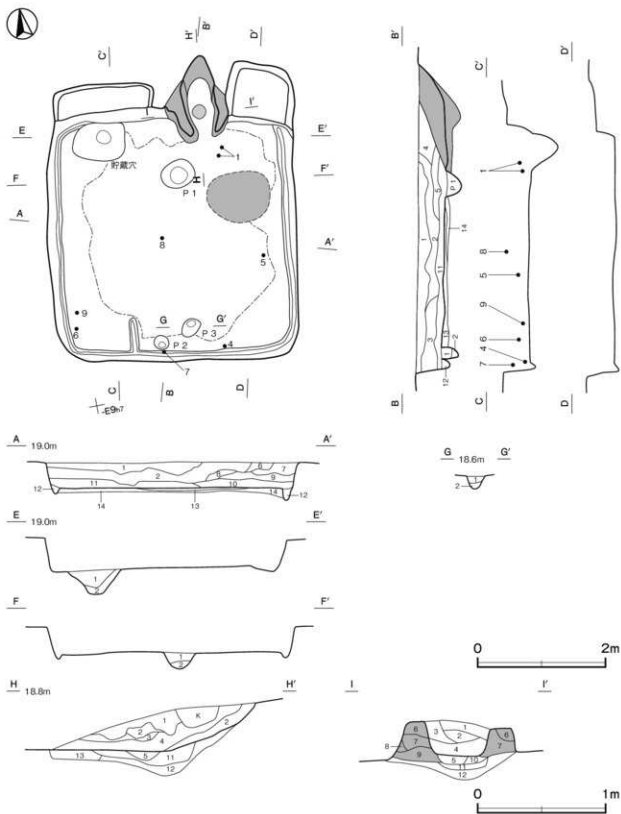
**位置** D区南西部の-E9g7区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸4.80m、短軸3.90mの長方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁は高さ38～50cmで、ほぼ直立している。竈の左右の北壁が棚状に掘り込まれている。

**床** はほぼ平坦な貼床で、コーナー部を除き踏み固められている。貼床は、粘土ブロックやロームブロックを含む第13・14層を5～10cm埋土して構築されている。北東コーナー寄りの貼床下から長径100cm、短径80cmほどの楕円形に厚さ4～5cmの粘土の塊が出土した。北壁下の一部を除き、幅10cm、深さ10cmほどの壁溝が巡っている。南壁下や西壁下に中央部に向かい掘り込まれた幅10cm、長さ50cmの溝があり、間仕切り溝と考えられる。

**竈** 北壁中央部に付設されている。焚き口から煙道部まで130cm、燃焼部幅は40cmである。袖部は埋土の上に、粘土ブロック・ロームブロックを含む黒褐色土を、右袖は第6・7層、左袖は第6～9層を積み上げて構築し

ている。火床部は地山を掘り込み、ロームブロックを多量に含む第5・10～13層を埋土して構築している。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第388図 第31号竪穴建物跡実測図

竈土層解説

1 黒 褐色	粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	8 黒 褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
2 黒 褐色	粘土ブロック多量・焼土粒子・炭化粒子少量	9 褐色	ロームブロック中量・炭化粒子・粘土粒子少量
3 暗 褐色	粘土ブロック・焼土ブロック中量・炭化粒子少量	10 褐色	ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子少量
4 赤 褐色	粘土ブロック・焼土ブロック多量・炭化粒子少量	11 褐色	ロームブロック多量・焼土粒子少量
5 に黒や褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	12 褐色	ロームブロック多量・焼土粒子微量
6 黒 褐色	粘土ブロック中量・焼土粒子少量	13 褐色	ロームブロック多量
7 褐色	粘土粒子多量・焼土ブロック・炭化粒子少量		

**棚状施設** 竈の両側、北壁を北に掘り込んで平坦面を作り出している。規模は東側が幅 105cm、奥行 90cm の長方形で、確認面からの深さ 10cm、床面からの高さ 32cm である。西側は幅 155cm、奥行 45cm の長方形で、確認面からの深さ 10cm、床面からの高さ 40cm である。底面は平坦である。

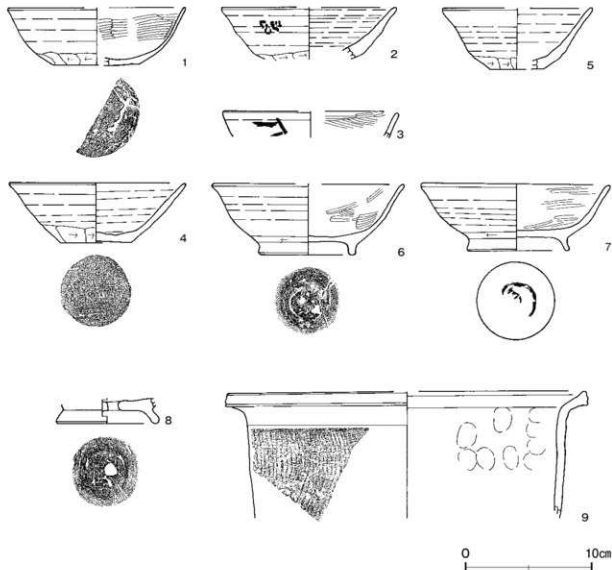
**ピット** 3か所。P 1 は深さ 24cm で配置から支柱穴、P 2 は深さ 24cm、P 3 は深さ 20cm で、ともに入出口施設に伴うピットと考えられる。

P 2 土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量

P 3 土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量



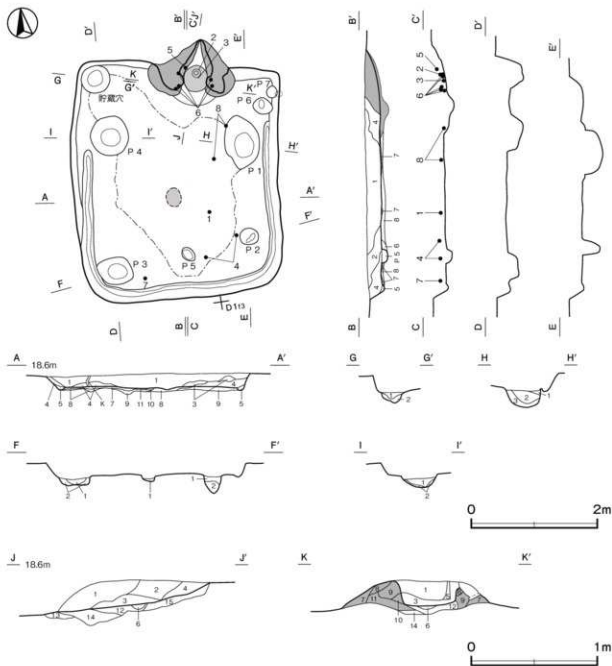
第 389 図 第 31 号竪穴建物跡出土遺物実測図



土混じりのローム土で第7～11層を積み上げて構築している。火床部は床面を30cmほど掘り下げ、ロームブロックやローム粒子を含む第6・13～15層を埋土して構築されていて、火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ、火床面から傾斜して立ち上っている。

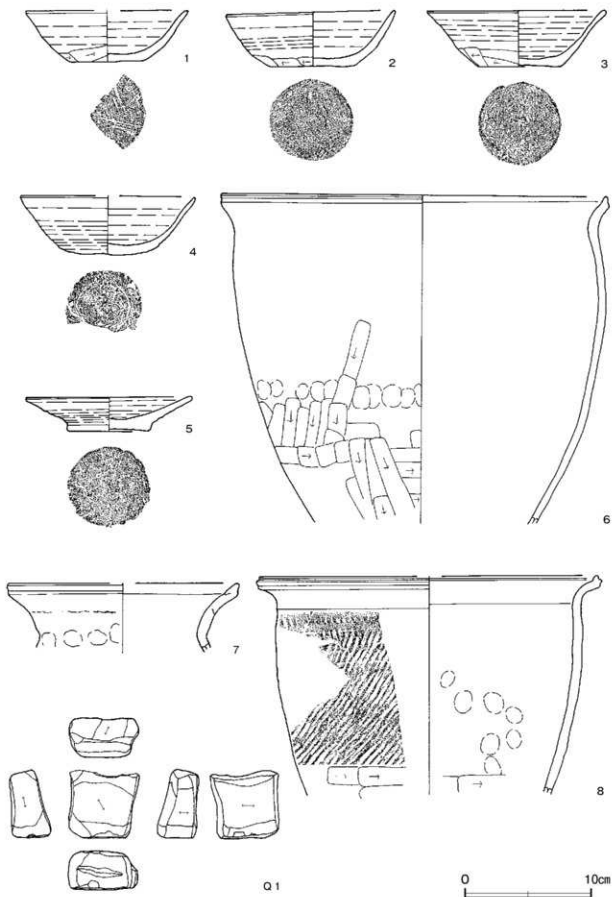
竈土層解説

- |         |                       |         |                       |
|---------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒 褐色  | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量   | 9 濃い赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量    |
| 3 にじみ褐色 | 焼土粒子中量、焼土ブロック少量       | 11 灰 褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子微量         |
| 4 黒 褐色  | ローム粒子・焼土粒子微量          | 12 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、粘土粒子微量       |
| 5 暗赤褐色  | 焼土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量  | 13 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量      |
| 6 極暗赤褐色 | 焼土粒子中量、ロームブロック少量      | 14 暗 褐色 | ローム粒子少量               |
| 7 灰 褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量   | 15 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量   |
| 8 灰 褐色  | 粘土粒子少量                |         |                       |



第390図 第34号竈穴建物跡実測図





第391图 第34号竖穴建物跡出土遺物実測図

ピット 7か所。P1～P4は深さ10cm～30cmで配置から主柱穴、P5は深さ12cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7は不明である。

**P1土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**P2土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

**P3土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**P4土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**P5土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**貯蔵穴** 北西コーナーに設けられている。径約45cmの円形で底面は西から東に傾斜して深くなる。壁は外傾している。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

**覆土及び焼土塊** 5層に分層できる。覆土にロームブロックや焼土・炭化物等を含むことから埋め戻されている。第10・11層は焼土塊の、第6～9層は粘土の構築土である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック中量
- 8 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 9 明褐色 ロームブロック多量
- 10 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量
- 11 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片147点(坏33, 高台付坏4, 皿1, 甕109), 須恵器片35点(坏28, 甕7), 砥石1点のほか、石鏝2点が出土している。8は北東部の柱穴付近の床面から、4は出入り口付近の覆土下層から、7は南壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。6は1つの個体を縦に2つに割って、竈の補強材として両袖の内面につけた状態で、火を受けて赤く焼けて出土している。3・2は竈内火床部に盛り上げた土塊の上から、ともに逆位で3の上に2が重なる状態で出土していることから、支脚として転用されている。5は3・2の西側から出土している。

**所見** 時期は、出土した土器から9世紀後葉と考えられる。

第34号竈穴建物跡出土遺物観察表(第391図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考			
1	土師器	坏	[128]	4.0	[60]	長石・石英・赤母	にぶ黄褐色	普通	体部下端手持ちへう割り	底部へう割り	覆土下層	20%		
2	須恵器	坏	13.4	4.5	6.6	長石・石英・赤母	にぶ黄褐色	普通	体部外面ロクロナデ一部一方向のへう割り	下端手持ちへう割り	或 竈火床部	90% PL54		
3	須恵器	坏	14.1	4.5	6.5	長石・石英・赤母	橙	普通	体部外面ロクロナデ一部一方向のへう割り	下端手持ちへう割り	底 竈火床部	80% PL54		
4	須恵器	坏	[140]	4.7	6.0	長石・石英	にぶ黄褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	体部外面へう割り後ナデ	内面ナデ	底部回転へう割り後ナデ	覆土下層	40% PL54
5	土師器	皿	13.2	2.7	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶ黄褐色	普通	体部外面ロクロナデ	底部一方向のへう割り	竈中層	60% PL55		
6	土師器	甕	30.7	[26.2]	-	長石・石英	にぶ黄褐色	普通	外面へう割り後ナデ	器頸圧痕	竈袖部	20% PL55		
7	土師器	甕	[18.3]	(5.5)	-	長石・石英・赤母	灰褐色	普通	頸部外面指痕	輪轆痕	覆土下層	10%		
8	須恵器	甕	[26.8]	(17.3)	-	長石・石英	にぶ黄褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	体部外面斜位の平行叩き	床面	10%		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	5.4	5.6	3.3	115.48	安山岩	研面5面 条溝1か所	覆土中	PL58

## 第 37 号竪穴建物跡 (第 392・393 図 PL51)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区北部の-E 0e4 区、標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.16 m、短軸 3.09 m の方形で、主軸方向は N-3°-W である。壁は高さ 38 ~ 42 cm で、外傾している。竈の左右は北壁が棚状に掘り込まれている。

床 (ほぼ平坦な貼床で、西壁下を除き踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第 14 ~ 16 層を 6 ~ 10 cm 埋土して構築されている。北壁下を除き壁溝が巡っている。北壁下やや西寄りから壁中部に向かって長さ 95 cm、幅 10 cm、長さ 95 cm、深さ 10 cm ほどの溝があり、配置から間仕切り溝と考えられる。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚き口部から煙道部まで 134 cm、燃焼部幅は 25 cm である。袖部は地山を掘り込んで、ロームブロック混じりの黒褐色土を右袖は第 8 ~ 10 層、左袖は第 11 ~ 13 層に積み上げて構築している。火床部は地山をわずかに掘り込み、ロームブロックを含む第 7・14 層を埋土して構築している。さらに、土を盛り上げて固め、坏を逆位で伏せ置きして支脚として用いている。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 80 cm 掘り込まれ、火床面から傾斜して立ち上がっている。

## 竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	7 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3 赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	9 黒褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量
4 黒褐色	焼土中量、ロームブロック・炭化粒子少量	10 黒褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量
5 赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量	11 黒褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック微量
6 赤褐色	焼土ブロック多量	12 黒褐色	焼土ブロック・粘土粒子微量
		13 黒褐色	焼土粒子中量、ロームブロック少量
		14 黒褐色	ロームブロック多量

棚状施設 竈の両側に付設されている。規模は東側が幅 98 cm、奥行 40 cm の長方形で、確認面からの深さ 10 cm、床面からの高さ 20 cm である。西側は幅 90 cm、奥行 45 の長方形で、確認面からの深さ 10 cm、床面からの高さ 20 cm である。底面はともに平坦で、東側の棚には東端部にビットが 1 か所確認できる。

ビット 2 か所。P 1 は深さ 15 cm で配置から主柱穴、P 2 は深さ 20 cm で性格は不明である。

## P 1 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量

## P 2 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック中量

覆土 13 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第 14 ~ 16 層は貼床の構築土である。

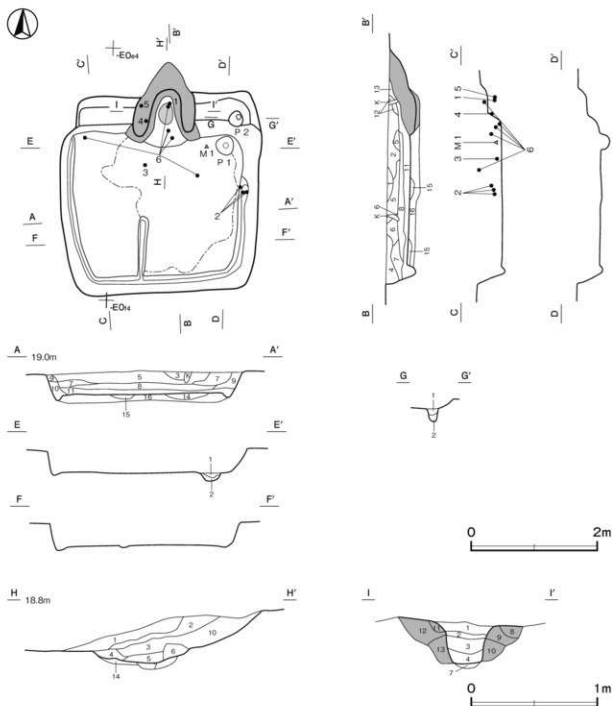
## 土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック少量	9 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量	10 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量	11 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4 暗褐色	ロームブロック少量	12 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
5 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	13 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	14 暗褐色	ロームブロック中量
7 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	15 褐色	ロームブロック中量
8 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	16 褐色	ロームブロック多量

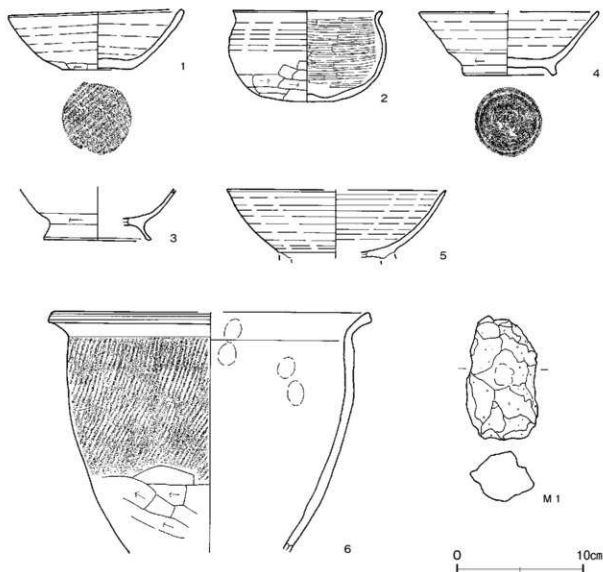
遺物出土状況 土師器片 70 点 (坏 26、高台付坏 2、椀 3、甕 38、甌 1)、須恵器片 16 点 (坏 12、高台付坏 1、甕 3)、鉄滓 1 点が、覆土から出土している。1 は竈火床面の赤褐色土の上に逆位に置かれた状態で出土して

いる。火を受けて赤褐色に変色していることから支脚として使われていたものと考えられる。2は東壁際の覆土下層から出土した3片が接合している。5は竈左袖の中から、4は左袖上面から出土している。いずれも竈袖の補強材である。3は竈焚き口部手前の覆土下層から、6は北西コーナー覆土下層と竈焚き口部側の覆土中層から出土した破片が接合している。いずれもの埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第392図 第37号竪穴建物跡実測図



第393図 第37号竪穴建物跡出土遺物実測図

第37号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第393図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	137	4.8	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部ヘラ削り後ナデ	竈火床部	70% PL.54 内外面穴蒸痕
2	土師器	碗	[118]	7.2	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラ磨き	黒色処理	覆土下層 60%
3	土師器	高台付坏	-	(4.2)	[8.4]	長石・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ 体部下端回転ヘラ削り	覆土下層	10%
4	土師器	高台付坏	[14.1]	5.1	7.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外・内面クロナデ 体部下端回転ヘラ削り	竈袖部	60% PL.55
5	須恵器	高台付坏	[17.4]	(5.4)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面クロナデ 高台部欠損	竈袖部	20%
6	須恵器	甕	[25.0]	[19.0]	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の平行叩き 内面指頭圧痕	竈中層	20% PL.55
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質		特徴	出土位置	備考	
M 1	鉄滓	98	58	39	243.18	鉄		磁性なし	覆土中		

第 39 号竪穴建物跡 (第 394・395 図 PL51)

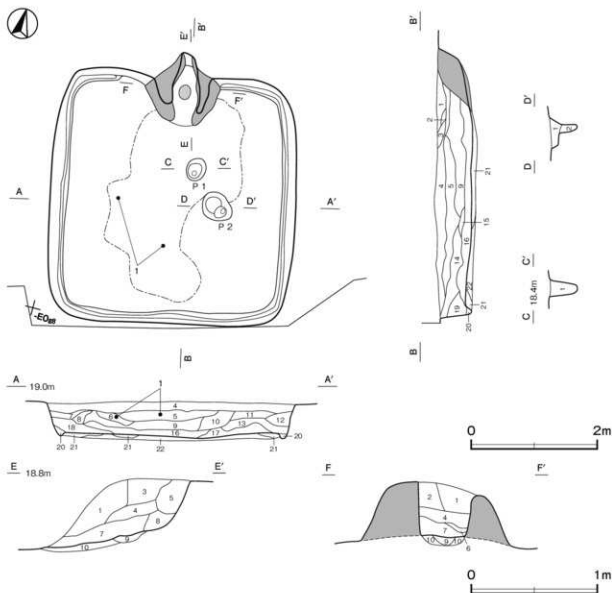
調査年度 平成 26 年度

位置 D区南東部の-E08区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸4.02m、短軸3.94mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁は高さ56cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、ロームブロックを多量に含む第21・22層を5cmほど埋土して構築されている。壁下を幅10cm、深さ10cmほどの壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで113cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は粘土ブロックを含む黒褐色土で構築している。火床部は地山をわずかに掘り込んで、ロームブロックを含む第9・10層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に80cm掘り込まれ、火床面から外傾している。



第 394 図 第 39 号竪穴建物跡実測図

## 覆土層解説

- |       |                 |         |                    |
|-------|-----------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子微量   | 6 濃い赤褐色 | 焼土ブロック中量           |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量     | 7 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量    |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 8 黒褐色   | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量    |
| 4 黒褐色 | 焼土ブロック中量        | 9 暗褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量 | 10 褐色   | ロームブロック多量、焼土ブロック微量 |

ピット 2か所。P 1は深さ44cm、P 2は深さ40cmでいずれも性格不明である。

## P 1土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量

## P 2土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

覆土 20層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第21～22層は貼床の構築土である。

## 土層解説

- |        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色  | 焼土粒子少量                | 12 黒褐色 | ロームブロック多量             |
| 2 黒褐色  | 焼土粒子少量                | 13 暗褐色 | ローム粒子少量               |
| 3 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子少量        | 14 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量   | 15 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量          |
| 5 黒褐色  | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 6 暗褐色  | ロームブロック多量             | 17 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子少量      |
| 7 黒褐色  | ローム粒子中量               | 18 暗褐色 | ロームブロック中量             |
| 8 黒褐色  | ローム粒子少量               | 19 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量      |
| 9 黒褐色  | ロームブロック中量             | 20 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量      |
| 10 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子少量      | 21 褐色  | ロームブロック多量             |
| 11 黒褐色 | ローム粒子少量               | 22 明褐色 | ロームブロック多量             |

遺物出土状況 土師器片24点(坏2、高台付坏1、甕21)、須恵器片1点(甕)のほか、土師質土器(耳付き小形甕)1点が出土している。1は中央部やや南寄りの覆土中層から出土している。2は混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第395図 第39号竪穴建物跡出土遺物実測図

第39号竪穴建物跡出土遺物観察表(第395図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏 [144]	(4.9)	7.4	長石・石英	濃い赤	普通	口縁部・体部内外面ナデ 体部下縁凹縁ヘラ削り 底面凹縁ヘラ切り後ナデ	覆土中層	50%	
2	土師質土器	耳付き小形甕 [114]	(4.6)	-	長石・石英・雲母	濃い赤	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 器部内面指掘し肌	覆土中	10%	外面縦行着

## 第41号竪穴建物跡(第396・397 PL52)

調査年度 平成26年度

位置 D区南東部のE1b2区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.48m、短軸3.18mの方形で、主軸方向はN-A-Eである。壁は高さ18～26cmで、外傾している。

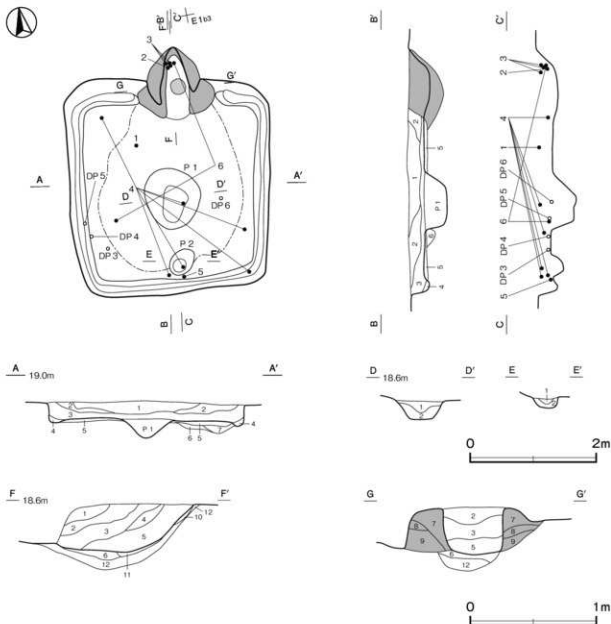
床 ほぼ平坦な貼床で、コーナー部及び壁下を除き、踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第5～7層を3～5cm埋土して構築されている。壁下を幅15cm、深さ10cmほどの壁溝がほぼ全周している。床

面中央部に長径100cm、短径90cm、深さ30cmの掘り込み（P1）が確認できる。性格は不明である。

**竈** 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで118cmで、燃焼部幅は39cmである。袖部は、地山の上に粘土を含む第7～9層を積み上げて構築し、補強材として土師器片を利用している。火床部は地山をわずかに掘り込んで、焼土・炭化粒子混じりの黒褐色土の第6・10～12層を埋土して構築されている。火床面は床面とはほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に55cm掘り込まれ、火床面から外傾している。

**竈土層解説**

- |         |                            |          |                     |
|---------|----------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色   | 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量           | 7 灰褐色    | 粘土粒子少量、炭化粒子微量       |
| 2 黒褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 褐灰色    | 粘土粒子中量、炭化粒子微量       |
| 3 黒褐色   | 焼土ブロック・ローム粒子微量             | 9 褐色     | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色   | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量            | 10 灰褐色   | 粘土粒子少量、焼土ブロック微量     |
| 5 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量         | 11 濃い赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化粒子微量     |
| 6 黒褐色   | 炭化粒子少量、焼土ブロック微量            | 12 黒褐色   | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |



第396図 第41号竈穴建物跡実測図



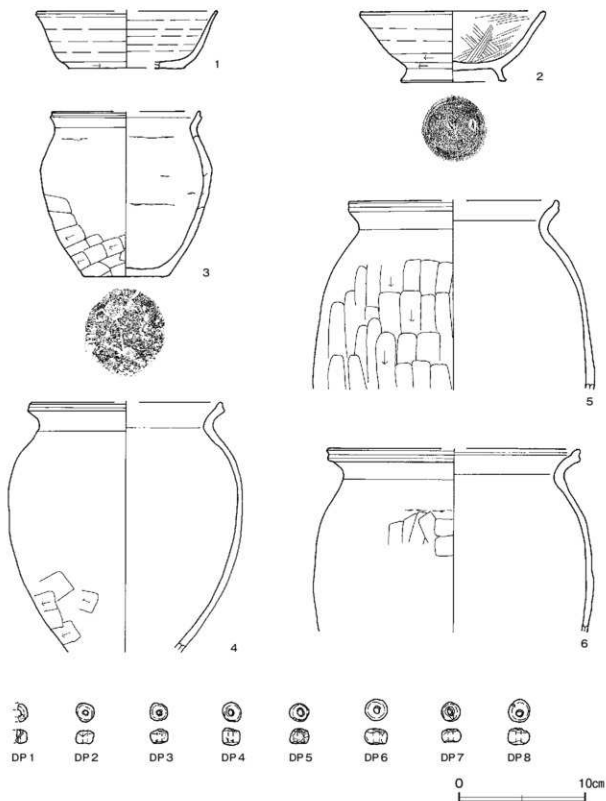
ピット 2か所。P 1は深さ30cmで配置から柱穴、P 2は深さ20cmで出入り口施設に伴うピットと考えられる。

## P 1土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

## P 2土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量  
2 極暗褐色 ロームブロック少量



第397図 第41号竪穴建物跡出土遺物実測図

**覆土** 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。第5～7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                         |       |                  |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量          | 5 褐色  | ロームブロック中量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量        | 6 明褐色 | ロームブロック多量        |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量               |       |                  |

**遺物出土状況** 土師器片302点(坏16, 高台付坏3, 甕283), 須恵器片26点(坏13, 蓋1, 甕12), 土製品8点(土玉)のほか、縄文土器片60点(深鉢)が出土している。2・3・6は竈内から盛った土の上に3・6を逆位に重ね、更に2を逆位にし高台部を上に向け、かぶせた状態で出土している。土器が火を受けていることから支脚転用と見られる。5は出入り口付近の覆土下層から、1は竈左袖手前の覆土上層からそれぞれ出土している。4は中央部から南東コーナー部にかけての覆土下層から出土した4片が接合している。DP 1～DP 8の土玉は南西部コーナー付近から南東部壁下にかけて、床面の比較的硬化していない部分から出土している。縄文土器はいずれも細片で流れ込みと考えられる。1は流れ込みと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。

**第41号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第397図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[142]	(45)	[91]	長石・石英・細礫	褐色	普通	口縁部・体部内外面ナデ 体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り残ナデ	覆土下層	20%
2	土師器	高台付坏	14.6	3.6	8.1	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き	竈中層	90% 体部内面 火熱痕 PL55
3	土師器	小形甕	[116]	13.1	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面横位のヘラ削り 輪横磨	竈中層	40%
4	土師器	小形甕	[150]	(198)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り・内面ナデ	覆土下層	40%
5	土師器	甕	[166]	(15.1)	-	長石・石英・雷母	褐色	普通	口縁部から外・内面ナデ 体部外面縦位のヘラ削り	覆土下層	20%
6	土師器	甕	[198]	(14.5)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部外面ヘラ削り残ナデ	竈中層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	(1.4)	(1.1)	(0.3)	(0.85)	長石	にぶい橙	1/2欠損 ナデ 一方からの穿孔	床面	
DP 2	土玉	1.5	1.2	0.4	2.01	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL57
DP 3	土玉	1.4	1.0	0.4	1.63	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL57
DP 4	土玉	1.4	1.2	0.4-0.5	2.14	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL57
DP 5	土玉	1.5	1.4	0.6-0.7	(2.06)	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL57
DP 6	土玉	1.8	1.2	0.4-0.5	3.82	長石・黒色粒子	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	床面	PL57
DP 7	土玉	1.5	1.0	0.4-0.5	2.20	長石・石英	黄褐色	ナデ 一方からの穿孔	床面	火熱痕 PL57
DP 8	土玉	1.7	1.3	0.5	3.96	長石	黄褐色	ナデ 一方からの穿孔	床面	火熱痕 PL57

**第45号竪穴建物跡 (第398・399図)**

**調査年度** 平成27年度

**位置** F区西部のC9a0区、標高20mほどの台地斜面部に位置している。

**規模と形状** 長軸3.14m、短軸2.70mの長方形で、主軸方向はN-36°-Wである。壁は高さ28～38cmで、ほぼ直立している。

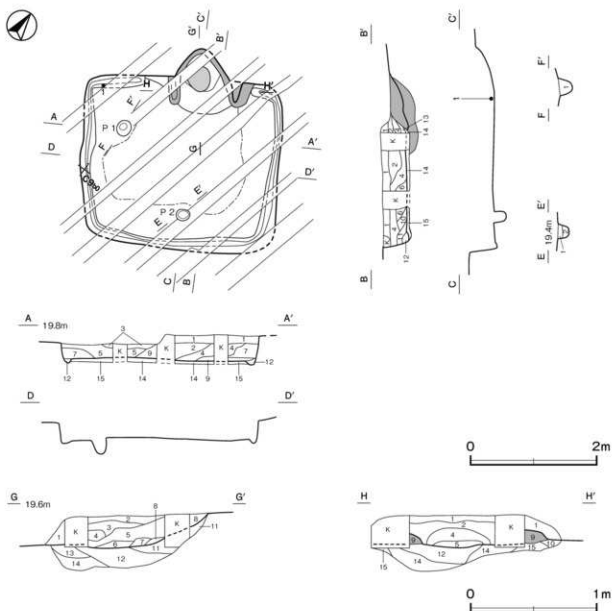
**床** はほぼ平坦な貼床で、コーナー付近及び壁下を除き踏み固められている。貼床は、ロームブロックを含む第14・15層を埋土して構築されている。壁下には幅10cm、深さ5cmほどの壁溝が全周している。

**竈** 北壁中央部に付設されている。トレンチにより一部壊されているが、焚き口から煙道部まで95cm、燃

焼部幅は70cmである。袖部は地山の上に粘土粒子を多量に含む第9層を積んで構築している。左袖内面は火熱による赤変硬化が認められる。右袖内面は攪乱により崩落している。火床部は地山を40cmほど掘り下げて、ロームブロックを含む第10～15層を埋土して構築されている。火床面は床面とほぼ同じ高さで、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ、表面は強く赤変硬化し、火床面から緩やかに外傾している。

#### 電土層解説

- |        |                           |         |                           |
|--------|---------------------------|---------|---------------------------|
| 1 黒 色  | ロームブロック中量                 | 9 濃い褐色  | 粘土粒子多量、焼土粒子中量、炭化物・ローム粒子少量 |
| 2 黒 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量 | 10 黒 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量          |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量        | 11 橙 色  | 焼土粒子多量、ロームブロック・粘土粒子少量     |
| 4 明褐色  | 粘土ブロック多量                  | 12 褐色   | ローム粒子多量、焼土ブロック・炭化粒子少量     |
| 5 黒 褐色 | ロームブロック少量                 | 13 褐色   | ローム粒子多量、粘土粒子少量、炭化粒子微量     |
| 6 褐色   | ロームブロック多量、焼土粒子中量          | 14 暗褐色  | ロームブロック中量                 |
| 7 明褐色  | 粘土ブロック多量                  | 15 暗褐色  | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子極微量      |
| 8 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量        |         |                           |



第398図 第45号竪穴建物跡実測図

ピット 2か所。P1は深さ28cm、P2は深さ20cmで、配置からP1は柱穴、P2は出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**P1土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

**P2土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量  
2 暗褐色 ロームブロック中量

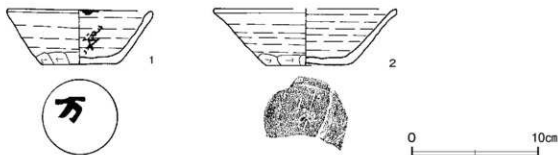
**覆土** 13層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。第14・15層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量  
2 灰褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック少量  
4 褐色 ロームブロック多量  
5 褐色 ロームブロック中量  
6 暗褐色 ロームブロック中量  
7 灰褐色 ロームブロック多量  
8 黒褐色 ロームブロック微量  
9 明褐色 ロームブロック多量  
10 褐色 ロームブロック微量  
11 暗褐色 ロームブロック多量  
12 黒褐色 ロームブロック中量  
13 褐色 ロームブロック中量  
14 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量  
15 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片12点(坏2, 甕10)、須恵器片11点(坏5, 甕6)のほか、縄文土器片60点(深鉢)が覆土から出土している。1は北西コーナー付近の壁溝上、覆土下層から出土している。埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀中葉と考えられる。



第399図 第45号竪穴建物跡出土遺物実測図

第45号竪穴建物跡出土遺物観察表(第399図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	11.6	4.4	6.0	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部から体部外・内面ロクロナア 体部下層 手持ちヘラ削り 底面筆書「万」	覆土下層	80%
2	須恵器	坏	14.4	4.5	6.5	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部から体部外・内面ロクロナア 体部下層 手持ちヘラ削り 底面一方向のヘラ削り	覆土中	40%

表26 平安時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	塀溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								柱穴	土間	ピット	炉	竈				
30	D-919	N-5°-E	方形	3.33×3.31	32-36	平坦	全周	1	1	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器	9世紀中葉	
31	E-917	N-7°-E	長方形	4.80×3.90	38-50	平坦	全周	1	2	-	北壁	1	人為	土師器、須恵器	9世紀後葉	棚状施設あり
34	D142	N-5°-E	長方形	3.84×3.30	10-20	平坦	ほぼ全周	4	1	2	北壁	1	人為	土師器、須恵器、 灰石、石礫	9世紀後葉	
37	E-045	N-3°-W	方形	3.16×3.09	38-42	平坦	ほぼ全周	1	-	1	北壁	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後葉	棚状施設あり
39	E-038	N-15°-W	方形	4.02×3.94	56	平坦	全周	-	2	-	-	-	人為	土師器、須恵器	9世紀後葉	
41	E142	N-7°-E	方形	3.48×3.18	18-26	平坦	ほぼ全周	-	1	1	北壁	-	自然	土師器、須恵器、 製品	9世紀後葉	
45	C-948	N-36°-W	長方形	3.14×2.70	28-38	平坦	全周	1	1	-	-	-	人為	土師器、須恵器	9世紀中葉	

## (2) 井戸跡

## 第6号井戸跡 (第400図)

調査年度 平成26年度

位置 D区中央部の-D08区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面は径1.50mほどの円形である。ほぼ円筒形に掘り込まれ、深さ2mほど掘り下げた段階で、湧水と崩落の危険があるためそれより下部の調査を断念した。

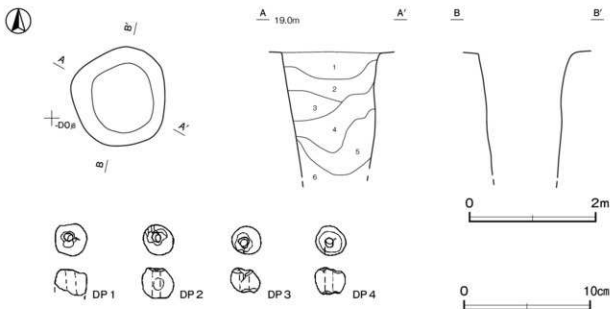
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から埋戻されている。

## 土層解説

- |         |                  |         |                    |
|---------|------------------|---------|--------------------|
| 1 黒褐色   | ロームブロック微量        | 4 にぶい褐色 | ロームブロック中量          |
| 2 黒褐色   | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 極暗褐色  | ロームブロック少量          |
| 3 にぶい褐色 | ロームブロック少量        | 6 黒褐色   | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片1点(甕)、須恵器片5点(甕)、土製品4点(土玉)が、覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。



第400図 第6号井戸跡・出土遺物実測図

## 第6号井戸跡出土遺物観察表 (第400図)

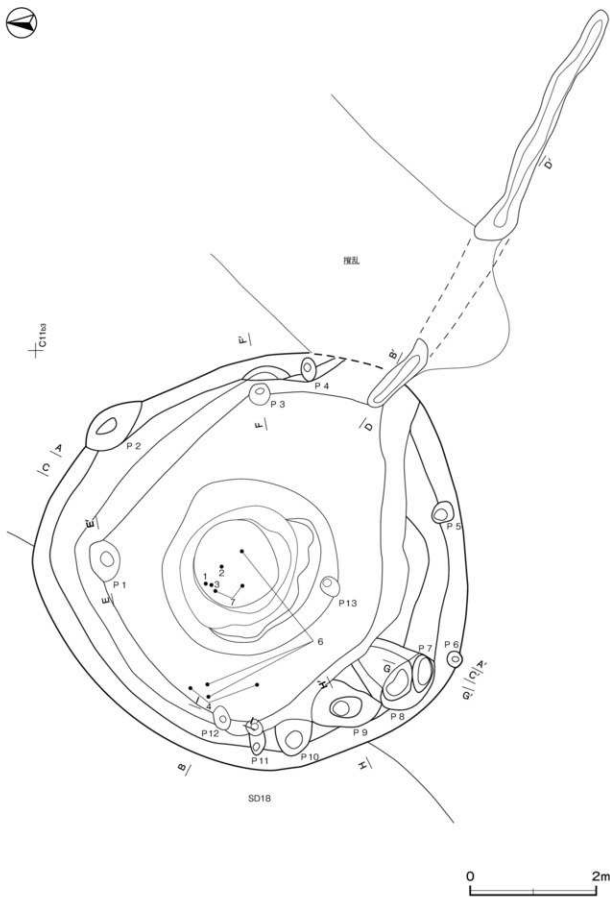
番号	部種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	2.5	0.21	0.7-0.8	9.02	長石	にぶい橙	1/2欠損 ナデ 一方からの穿孔	覆土中	PL57
DP 2	土玉	2.5	2.5	0.7-0.8	10.81	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	覆土中	PL57
DP 3	土玉	2.3	2.0	0.7-0.8	7.55	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	覆土中	PL57
DP 4	土玉	2.4	2.0	0.6	9.08	長石	にぶい橙	ナデ 一方からの穿孔	覆土中	PL57

## 第10号井戸跡 (第401～403図 PL52)

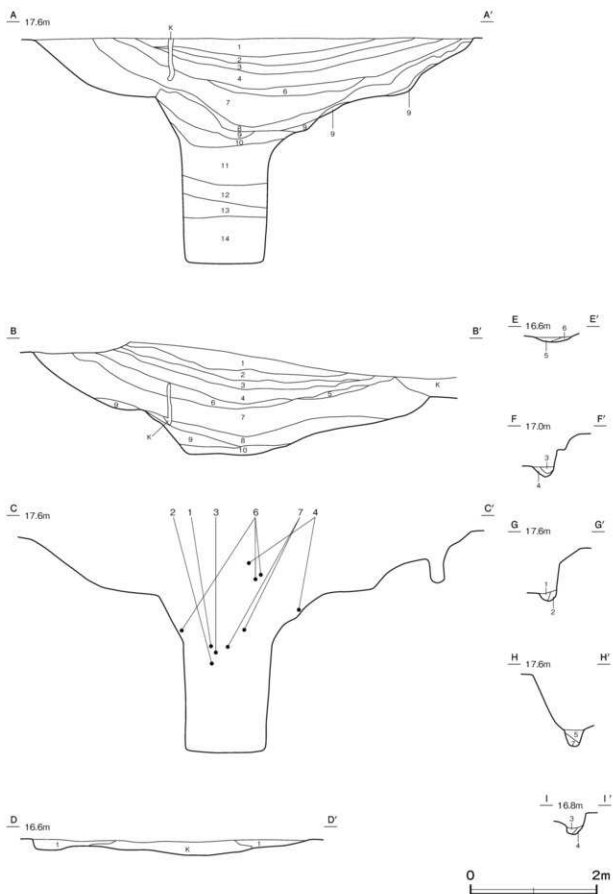
調査年度 平成27年度

位置 F区南東部のC11b2区、標高17mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。



第401图 第10号井戸跡实测图(1)



第402図 第10号井戸跡実測図(2)

**規模と形状** 径6.80mほどの円形で、深さは3.52mである。確認面から1mまでは漏斗状で、それより下位は径1.35mの円筒状である。幅40cm、深さ10cmほどの溝が南東部に確認できる。本跡に伴う溝と思われるが、性格は不明である。

**ピット** 13か所。肩部の平坦面に径30～40cmの円形で、深さ20～40cmのピットが不規則に巡っている。井戸に関わる施設に伴うピットと考えられるが、性格は不明である。

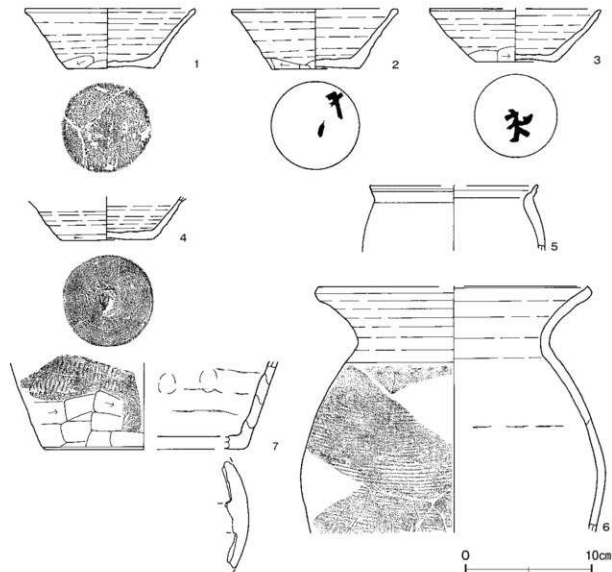
**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |                     |                               |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子・粘土粒子少量   | 5 暗褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子・粘土粒子・鉄分微量 |
| 2 黒褐色 粘土粒子中量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック微量                |
| 3 暗褐色 粘土粒子、鉄分少量     | 7 灰白色 粘土ブロック多量、鉄分少量           |
| 4 黒褐色 粘土粒子・鉄分少量     |                               |

**覆土** 14層に分層できる。第8～10層はロームブロックが混入していることから埋め戻されている。他の層はレンズ状に堆積していることから自然堆積である。

**土層解説**

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒色 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量   | 5 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量  | 6 黒色 炭化物少量、焼土粒子微量        |
| 3 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量、焼土粒子微量 | 7 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒色 炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |



第403図 第10号井戸跡出土遺物実測図



9	にぶい黄褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量	12	浅黄褐色	粘土粒子・鉄分多量
10	黄褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量	13	灰白色	粘土粒子多量
11	にぶい褐色	砂粒多量、炭化粒子・粘土粒子中量	14	明青灰色	砂粒多量、粘土粒子少量

**遺物出土状況** 土師器 56 点 (坏 18, 甕 38), 須恵器 91 点 (坏 34, 高台付皿 1, 甕 56), 鉄滓 1 点, 粘土塊 1 点が出土している。4 は壁に接して覆土中層から、1～3・7 は壁際の覆土中層から、6 は覆土上層・中層から出土した破片が接合している。

**所見** 時期は、出土土器から 9 世紀中葉と考えられる。

第 10 号井戸跡出土遺物観察表 (第 403 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	13.5	4.8	6.8	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持りへつ削り、底部へつ削り	覆土中層	90% PL54
2	須恵器	坏	13.1	4.7	7.0	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持りへつ削り、底部回転へつ削り後ナデ 底部磨き [浅] ♪	覆土中層	80% PL55
3	須恵器	坏	[13.6]	4.2	6.4	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持りへつ削り、底部回転へつ削り後へつ削り 底部磨き [浅] ♪	覆土中層	40%
4	須恵器	坏	-	(3.4)	7.4	長石・白色粒子	灰	良好	体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転へつ削り、底部磨き [浅] ♪	覆土中層	50%
5	土師器	甕	[13.4]	(5.2)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面ナデ	覆土中	10%
6	須恵器	甕	[21.4]	(19.5)	-	長石・石英・雲母	灰黄	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面磨位の平行叩き	覆土中層	30%
7	須恵器	瓶	-	(6.9)	[15.6]	長石・石英	褐色	普通	体部外面磨位の平行叩き、下縁へつ削り 内面へつ削り後ナデ 底部平直 輪軸前	覆土中層	10%

表 27 平安時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6	-D 08	-	円形	1.50×1.50	(200)	不明	円筒形	人為	土師器、須恵器、土製品	
10	C 11b2	-	円形	6.80×6.70	352	不明	漏斗状	自然	土師器、須恵器、鉄滓	本跡→SD18

### (3) 土坑

#### 第 75 号土坑 (第 404 図)

**調査年度** 平成 26 年度

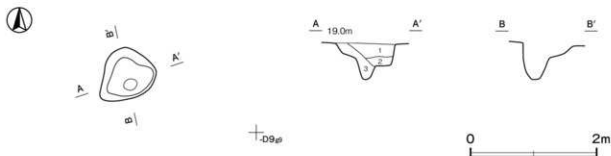
**位置** D 区北西部の -D 9 区, 標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 0.95 m, 短径 0.85 m の不整形円形で、長径方向は N-60°-E である。深さは 53 cm で、底面は U 字状である。壁は外傾している。

**覆土** 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- |       |           |      |           |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 黒色  | ロームブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |      |           |



第 404 図 第 75 号土坑実測図

**遺物出土状況** 土師器片1点(澁)が出土しているが、細片のため図示できなかった。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。

### 第90号土坑(第405図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区中央部の-D0i4区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径0.75m、短径0.45mの不整楕円形で、長径方向はN-62°-Wである。底面は2か所のピット状に掘り込まれており、深さは50cmと45cmである。壁は外傾している。

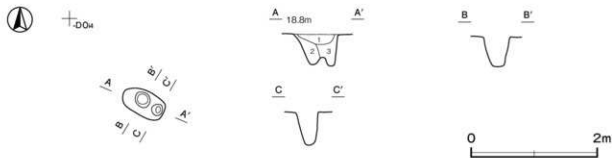
**覆土** 3層に分層できる。不規則な堆積状況やロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片3点(澁)が出土しているが、いずれも細片のため図示できなかった。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



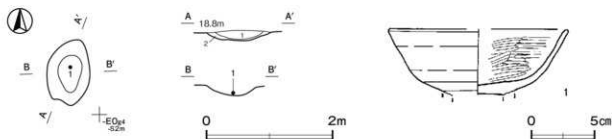
第405図 第90号土坑実測図

### 第93号土坑(第406図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区南部の-E0g3区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径1.00m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-20°-Eである。深さは15cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに傾斜している。



第406図 第93号土坑・出土遺物実測図

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 土 ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

**遺物出土状況** 土師器1点（高台付坏）が覆土下層から出土している。埋め戻す際に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀後葉と考えられる。性格は不明である。

第93号土坑出土遺物観察表（第406図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高台付坏	142	52	—	長石・石灰	にじい橙	普通	体部外面すずり 内面へう磨き 下縁回転へう磨 黒色処理	覆土下層	10%

第104号土坑（第407図）

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区北部の-D03区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径約120mの円形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

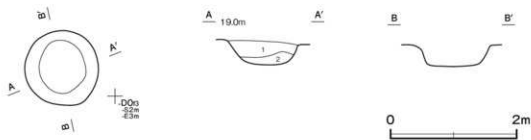
**土層解説**

- 1 黒褐色 土 炭化物少量、ロームブロック微量

2 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量

**遺物出土状況** 須恵器片1点（坏）が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。そのほか縄文土器片1点（深鉢）が覆土中から出土している。須恵器坏は埋土と共に投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第407図 第104号土坑実測図

第118号土坑（第408図）

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区北東部のD1c4区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第117号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径約1.20m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。深さは27cmで、底面はほぼ平坦で、西側に向かって緩やかに傾斜している。壁は外傾している。

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 土 炭化粒子少量、ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

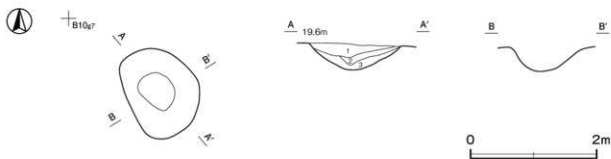


## 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量  
3 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片1点(壺)、須恵器片1点(甕)が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。いずれも埋土と共に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第410図 第136号土坑実測図

## 第153号土坑(第411図)

**調査年度** 平成27年度

**位置** F区北部のB11f区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸1.20m、短軸1.00mの隅丸長方形で、長軸方向はN-34°-Eである。深さは40cmで、底部は東から西に緩やかに傾斜している。底面は皿状で、壁は外傾している。

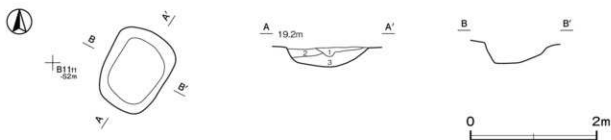
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量  
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量  
3 暗褐色 ロームブロック多量

**遺物出土状況** 土師器片2点(壺)が覆土中から出土しているが、細片のため図示できなかった。いずれも埋土と共に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。性格は不明である。



第411図 第153号土坑実測図

表28 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
75	-D98	N-60°-E	不整形四角形	0.95 × 0.85	53	U字状	外傾	人為	土師器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
90	-D 04	N-62°-W	不整形円形	0.75 × 0.45	45・50	U字状	外傾	人為	土師器	
93	-E 0g3	N-29°-E	楕円形	1.00 × 0.75	15	皿状	縦斜	自然	土師器	
104	-D 03	-	円形	1.20 × 1.20	30	平坦	外傾	人為	須恵器	
118	D 1 c4	N-38°-W	楕円形	[1.20] × 0.84	27	平坦	外傾	自然	土師器、須恵器	本跡→SK117
133	B 1060	-	円形	1.30 × 1.30	40	皿状	縦斜	人為	土師器	
136	B 10g7	N-47°-W	不整形円形	1.50 × 1.10	45	皿状	外傾	人為	土師器、須恵器	
153	B 11f1	N-34°-E	楕丸長方形	1.20 × 1.00	40	皿状	縦斜	人為	土師器	

## 5 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴建物跡8棟、井戸跡1基、土坑8基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 掘立柱建物跡

#### 第12号掘立柱建物跡 (第412・413図)

調査年度 平成26年度

位置 D区中央部の-D 0j2区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第86号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 桁行5間、梁行1間の副柱建物跡で、桁行方向がN-86°-Eの東西棟である。規模は桁行10.2m、梁行4.7mで、面積は47.94㎡である。柱間寸法は、桁行が18～2.5m、梁行は4.6～4.7mである。柱筋は桁行・梁行ともにはは揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形または楕円形で、長径46～70cm、短径44～60cmである。深さは40～65cmで、掘方の壁は直立または外傾している。第1～3層は柱抜き取り後の堆積土、第4～6層は埋土と考えられる。P1～P4・P6・P7・P9・P10・P12では底面から柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は10～18cmと推定される。

#### 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

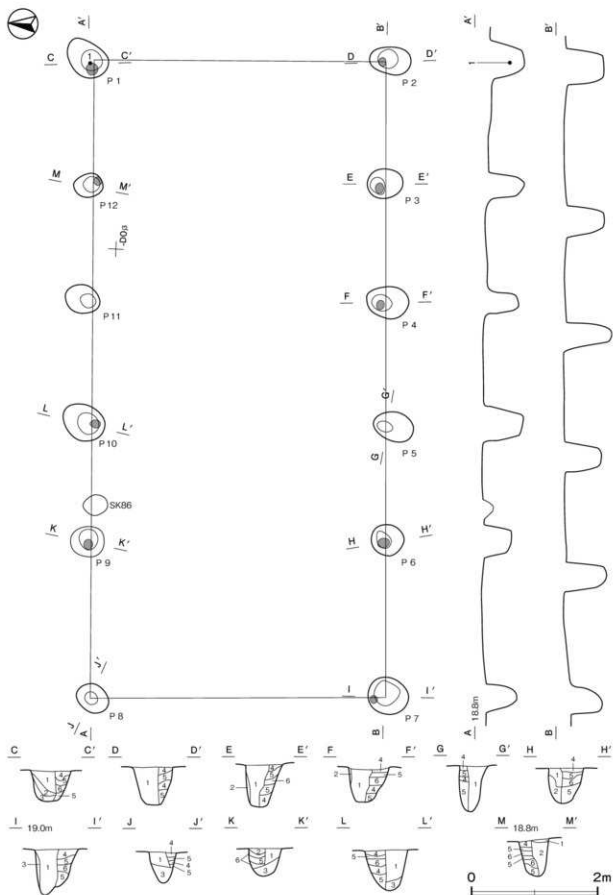
1 黒 褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	4 黒 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 黒 褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	5 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 暗 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量

遺物出土状況 須恵器片6点(甕)、陶器1点(碗)が出土している。1はP1内の覆土中層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第412図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図



第413图 第12号掘立柱建物跡实测图

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表(第412図)

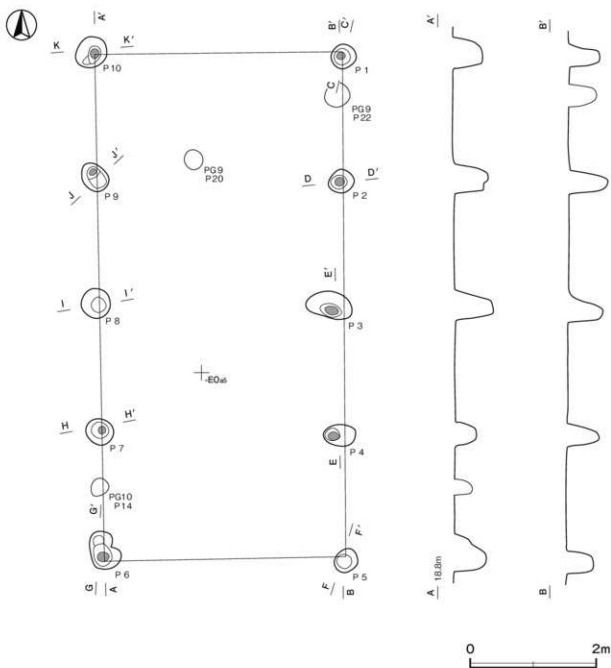
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	天目茶碗	[111]	6.7	4.0	緻密 灰白	割り出し輪高台 腰から高台部露胎	鉄釉	瀬戸	覆土中層	80% PL56

第13号掘立柱建物跡(第414・415図)

調査年度 平成26年度

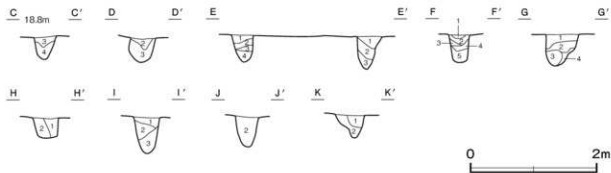
位置 D区中央部の-D05区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9・10号ピット群に掘り込まれている。



第414図 第13号掘立柱建物跡実測図(1)





第415図 第13号掘立柱建物跡実測図(2)

**規模と構造** 桁行4間、梁行1間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-1°-Wの南北棟である。規模は桁行8.0m、梁行3.9mで、面積は31.20m<sup>2</sup>である。柱間寸法は、桁行が1.9～2.1m、梁行は3.7～3.9mである。柱筋は桁行・梁行ともにほぼ揃っている。

**柱穴** 10か所。平面形は円形または楕円形で、長径38～75cm、短径34～48cmである。深さは35～60cmで、壁は直立または外傾している。第1・2層は柱抜き取り後の堆積土。第3～5層は埋土である。柱のあたりはP5・P8を除く底面で確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は14～20cmと推定できる。

## 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量   | 5 褐色 ロームブロック中量         |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量      |                        |

**遺物出土状況** 遺物は出土していない。

**所見** 時期は、確定できる遺物は無いが、室町時代と考えられる東西棟の第12号掘立柱建物跡に隣接し、軸線が直交し、北辺が揃うことから、同時代と考えられる。

表29 室町時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱穴			主な出土遺物	時期	備考	
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形				深さ(cm)
12	D-0②	N-86°-E	5×1	10.2×4.7	47.94	1.8～2.5	4.6～4.7	欄柱	12	円形・楕円形	40～65	須恵器、陶器	室町時代	本跡→SK86
13	D-0⑤	N-1°-W	4×1	8.0×3.9	31.20	1.9～2.1	3.7～3.9	欄柱	10	円形・楕円形	35～60		室町時代	本跡→PG9-10

## (2) 井戸跡

## 第5号井戸跡 (第416図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区中央部の-D0⑦区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 確認面は径1.30mほどの円形で、上部が若干漏斗状を呈し、中位以下は径約0.9mの円筒形である。深さ1.9mほど掘り下げた段階で、湧水と崩落の危険があるためそれより下部の調査を断念した。

**覆土** 9層に分層できる。不規則な堆積状況やロームブロックが混入していることから埋め戻されている。

## 土層解説

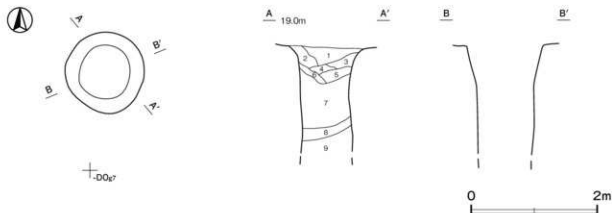
- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック微量           | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 4 灰褐色 粘土ブロック多量         |

- 5 黒褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量  
 6 明褐色 粘土ブロック多量  
 7 黒色 ロームブロック少量

- 8 黒色 ロームブロック少量、粘土粒子微量  
 9 黒褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(内耳鍋), 土師器片16点(甕), 須恵器2点(坏, 甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかつた。

**所見** 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第416図 第5号井戸跡実測図

### (3) 粘土貼土坑

#### 第1号粘土貼土坑(第417図)

**調査年度** 平成26年度

**位置** D区南部の-E0e6区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 径1.2mの円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。底面から壁の下部にかけて、白色粘土が5cmほどの厚さで貼り付けられている。

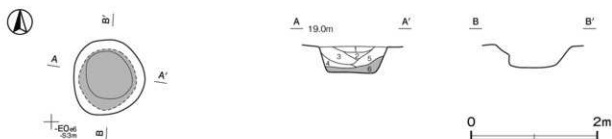
**覆土** 6層に分層できる。ロームや粘土のブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子微量  
 2 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量  
 3 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量  
 4 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量  
 5 にぶい褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量  
 6 明褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(内耳鍋), 土師器片2点(甕), 須恵器片2点(甕), 粘土塊1点が出土している。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器や形状から室町時代と考えられる。性格は不明である。



第417図 第1号粘土貼土坑実測図

## (4) 土坑

## 第 80 号土坑 (第 418 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区南部の-E 0 f5 区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.30 m、短軸 1.12 mの隅丸方形で、長軸方向はN-5°-Wである。深さは 10cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに傾斜している。

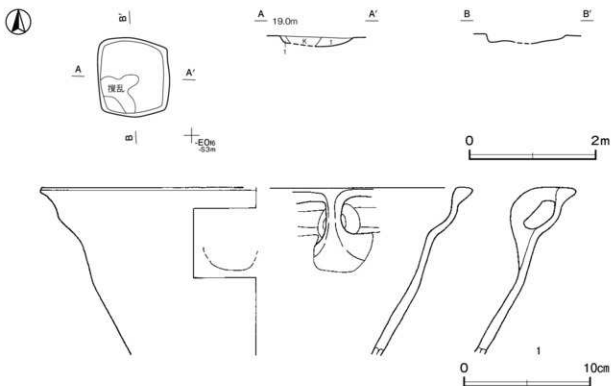
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

## 土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (内耳鍋) が出土している。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。性格は不明である。



第 418 図 第 80 号土坑・出土遺物実測図

## 第 80 号土坑出土遺物観察表 (第 418 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	[13.3]	-	長石・石英	灰褐色	普通	3耳 口縁部外・内面横ナデ 外面保付着	覆土中	30%

## 第 92 号土坑 (第 419 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 D区中央部の-D 0 h5 区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径 1.62 m、短径 0.86 m の不整楕円形で、長径方向は N - 80° - W である。深さは 28cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾している。

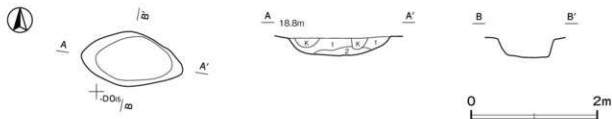
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 褐色 ロームブロック少量 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**遺物出土状況** 土師質土器片 2 点（内耳鍋）が出土しているが、細片のため図示できなかった。埋土と共に投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。



第 419 図 第 92 号土坑実測図

表 30 室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
80	E 015	N - 5° - W	隅丸方形	1.30 × 1.12	10	皿状	外傾	人為	土師質土器	
92	D 015	N - 80° - W	不整楕円形	1.62 × 0.86	28	平坦	外傾	人為	土師質土器	

## 6 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は井戸 2 基、墓坑 1 基、土坑 3 基、溝跡 5 条、道路跡 2 条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### (1) 井戸跡

#### 第 7 号井戸跡（第 420 図）

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** E 区北部の B 10a0 区、標高 20 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と構造** 確認面は長径 1.20 m、短径 1.05 m の楕円形である。長径方向は N - 20° - W である。確認面から 80cm までは漏斗状に掘り込まれ、それより下部は径 85cm の円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ 170cm ほど掘り下げた段階で、崩落が想定されたため、以下の調査を断念した。

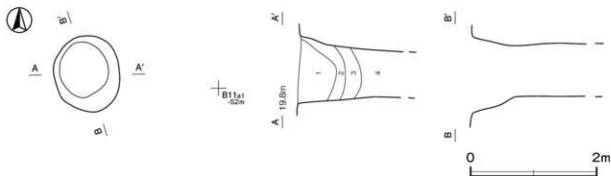
**覆土** 4層に分層できる。第 1 層は含有物の状況から自然堆積である。第 2～4 層はロームブロック等の混入状況から埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒色 ローム粒子微量 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
2 にぶい褐色 砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子微量 4 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片1点(甕), 土師質土器片1点(焙烙), 陶器片3点(碗, 播鉢, 甕)が出土しているが, いずれも細片のため図示できなかった。

**所見** 時期は, 第8号井戸跡とほぼ同時期の江戸時代(17世紀前半)と考えられる。



第420図 第7号井戸跡実測図

### 第8号井戸跡 (第421・422図)

**調査年度** 平成27年度

**位置** F区南部のC10d6区, 標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第146号土坑に掘り込まれている。

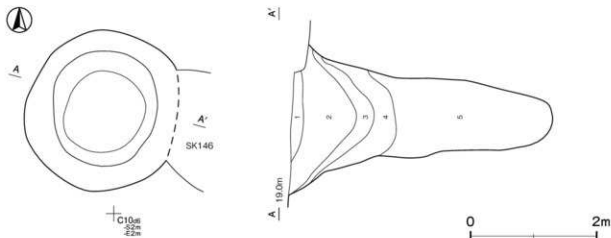
**規模と形状** 径2.70mの円形で, 深さは4.16mある。確認面から深さ145cmまでは漏斗状に掘り込まれ, それより下部は径135cmの円筒状に掘り込まれている。

**覆土** 5層に分層できる。第1層はロームブロックが含まれることから粘土を含む土で埋め戻されている。第2～5層は, 均質な土がレンズ状に流れ込んでいることから, 自然堆積である。

#### 土層解説

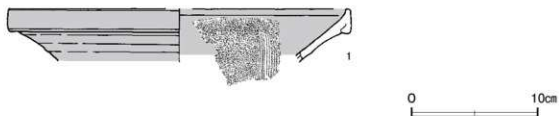
- |                          |                      |
|--------------------------|----------------------|
| 1 灰青褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量       | 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量   |
| 3 濃い青褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量  |                      |

**遺物出土状況** 陶器片1点(播鉢)のほか, 土師器片10点(坏3, 甕7), 須恵器片7点(坏1, 蓋1, 甕5), 礫4点が覆土中層から出土している。1は覆土中からの出土である。土師器や須恵器は混入と考えられる。



第421図 第8号井戸跡実測図

所見 時期は、出土土器から江戸時代（17世紀前半）と考えられる。



第422図 第8号井戸跡出土遺物実測図

第8号井戸跡出土遺物観察表（第422図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪索	産地	出土位置	備考
1	陶器	磁鉢	[27.0]	(4.3)	—	細密 橙	内面縁に10本単位の襷目	鉄輪	瀬戸	覆土中	5%

表31 江戸時代井戸跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
7	B 10a	N-37°-W	楕円形	1.20×1.05	(170)	漏斗状	不明	人為	土師器、土師質土器、陶器	
8	C 10a6	—	円形	2.70×2.70	(416)	漏斗状	不明	自然	土師器、須恵器、陶器	本跡→SK146

(2) 墓坑

第1号墓坑（第423図）

調査年度 平成27年度

位置 F区中央部のB 10a9区、標高19mほどの台地上の緩やかな傾斜地に位置している。

規模と形状 長軸0.95m、短軸0.75mの隅丸長方形で、長軸方向はN-70°-Wである。確認面からの深さは15cmほどである。底面は凹凸がある。壁は緩やかに外傾している。

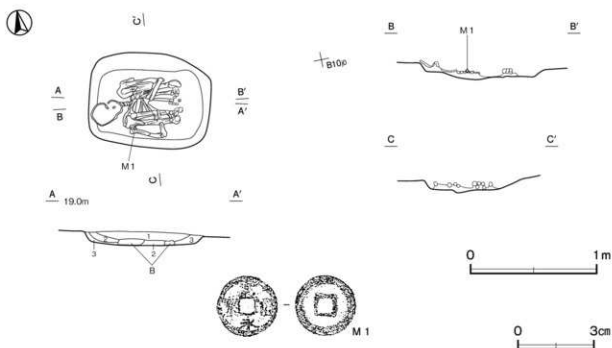
覆土 第3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物中量 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 人骨と銭貨が出土している。遺骸は顔が下方を向き、上から肋骨、胸骨、腕、足の順で折り重なっている。座位屈葬状態で棺に取められ、埋葬された被葬者が時間の経過とともに前に倒れた状態になったものと考えられる。銭貨は副葬品で、摩耗が激しいが、「水」が読み取れることから「寛永通寶」とみられる。人骨は腐朽が進んでいて明確ではないが、大腿骨や上腕骨が太くしっかりしていることから性別は男性と思われる。年齢は、親知らずが萌出し、虫歯になった後に歯茎に埋まっていること、右下の小臼歯と大白歯はすべて抜け落ち歯茎に閉塞していること、下顎の前歯や犬歯の摩耗が著しいこと、歯の遺存状態や頭骨の縫合状態から熟年程度と思われる。詳細は付添6「宮原前遺跡の出土人骨について」を参照されたい。

所見 時期は、埋葬形態や副葬品から江戸時代と考えられる。



第 423 図 第 1 号墓坑・出土遺物実測図

第 1 号墓坑出土遺物観察表 (第 423 図)

番号	種別	銭名	径	口径	重量	材質	初周年	特徴	出土位置	備考
M 1	銭貨	寛永通寶	2.4	0.6	3.03	銅	不明	無背	覆土中	PL58

## (3) 土坑

## 第 129 号土坑 (第 424 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 F 区中央部の B 11h1 区, 標高 19 m ほどの台地平坦部に位置している。

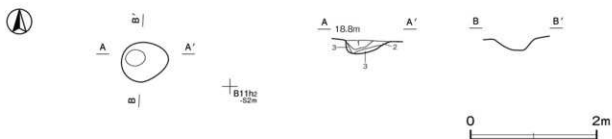
規模と形状 長径 0.75 m, 短径 0.60 m の楕円形で, 長径方向は N - 88° - E である。深さは 20cm である。底面は皿状で, 壁は緩やかに外傾している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

## 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量  
2 黒色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック少量



第 424 図 第 129 号土坑実測図

**遺物出土状況** 土師質土器片1点(焙烙)、陶器3点(碗)のほか土師器片4点(甕)、須恵器片1点(甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

**所見** 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。

#### 第147号土坑(第425図)

**調査年度** 平成27年度

**位置** F区南部のC10f6区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第21号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が、第21号溝に掘り込まれているが、径1.10mほどの円形である。深さは40cmである。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

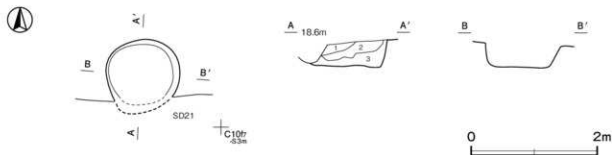
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

##### 土層解説

- |       |                  |       |                  |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量   |       |                  |

**遺物出土状況** 陶器片1点(碗)のほか、土師器片3点(甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

**所見** 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第425図 第147号土坑実測図

#### 第149号土坑(第426図)

**調査年度** 平成27年度

**位置** F区北部のB10e5区、標高20mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長径2.52m、短径1.78mの不整形円形で、長径方向はN-7'-Eである。深さは68cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

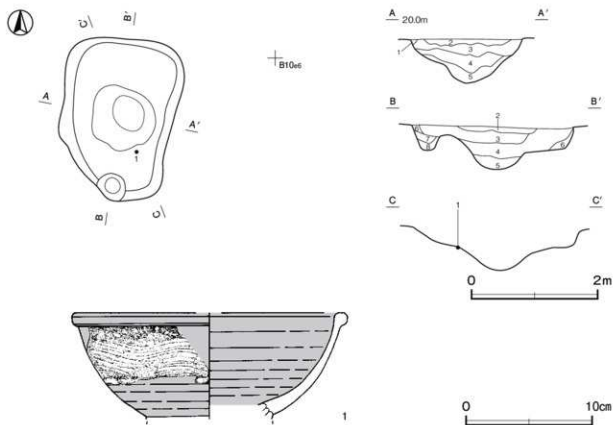
##### 土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量        | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量        | 7 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色  | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 8 褐色  | ロームブロック中量 |

**遺物出土状況** 陶器片1点(碗)のほか、土師器片3点(甕)が出土している。1は覆土中層の壁に接して出土している。

**所見** 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。





第426図 第149号土坑・出土遺物実測図

第149号土坑出土遺物観察表(第426図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	[21.5]	(8.4)	-	緻密 濃い赤褐色	褐色の素地に鉄粒を施しその上に横位に刷毛で波線や流状の線を掻く	鉄粒	肥前	覆土中層	

表32 江戸時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
129	B 11h1	N-88°-E	楕円形	0.75 × 0.60	29	緩斜	直状	人為	土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器	
147	C 3096	-	円形	1.10 × [1.10]	40	直立	平坦	人為	土師器, 陶器	本跡→SD21
149	B 10e5	N-7°-E	不整楕円形	2.52 × 1.78	68	外傾	風状	人為	土師器, 陶器	

## (4) 溝跡

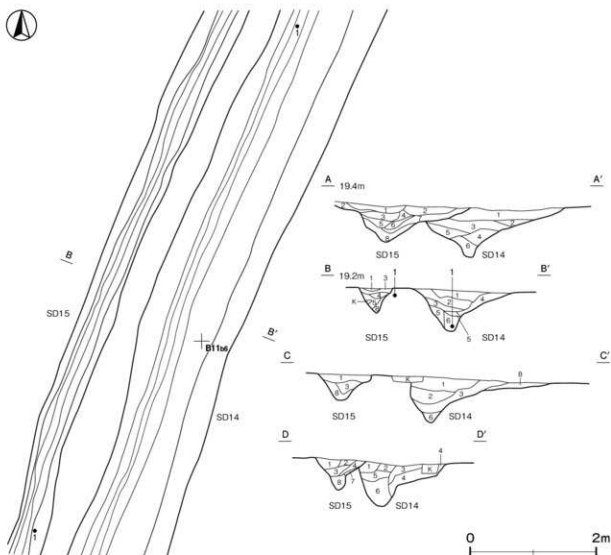
## 第14号溝跡(第427・428図)

調査年度 平成26年度

位置 E区東部のA 11i6～B 11d4区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路跡を掘り込み、第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 A 11i6区から南方向(N-160°-W)に直線的に延びて、B 11d4区で調査区外へ延びている。確認できた長さは23.6mで、上幅1.24～1.80m、下幅0.36～0.52mで、深さは65～80cmである。断面形はV字状である。



第427図 第14・15号溝跡実測図

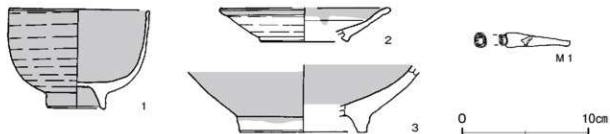
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

**土層解説**

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量       | 4 にぶい褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量  | 5 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量    |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 | 6 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量    |

**遺物出土状況** 土師質土器片2点(焙烙), 陶器片5点(碗1, 皿1, 鉢1, 瓶2), 磁器片3点(碗), 金属製品1点(煙管)のほか, 縄文土器片2点(深鉢), 土師器片22点(甕), 須恵器片22点(坏1, 蓋2, 瓶1, 甕18)が出土している。1は覆土下層から出土している。2・3, M1はいずれも覆土中からの出土である。

**所見** 時期は, 出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第428図 第14号溝跡出土遺物実測図

## 第14号溝跡出土遺物観察表(第428図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	碗	11.5	7.9	4.7	緻密 浅黄橙	外器子縁、外・内面施釉 全体に貫入、底辺内面トコナ重	灰軸	肥前IV期	覆土下層	85% PL56
2	陶器	皿	[132]	27	[7.0]	緻密 浅黄橙	輪軸部、口縁部外・内面施釉 底部内面施釉 高台部欠損	灰軸	瀬戸・美濃 津辺庄～豊前	覆土中	13%
3	陶器	鉢	-	(5.3)	(10.0)	長石 明赤褐	外・内面施釉 内面刷毛目	外：鉄軸 内：白漆	肥前	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	煙管	(5.1)	1.1	1.0	(3.81)	銅	吸口部 羅字遺存	覆土中	PL58

## 第15号溝跡(第427図)

調査年度 平成26年度

位置 E区東部のA116～B11d4区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号溝跡及び第1号道路跡を掘り込んでいる。第14号溝が埋め戻されたあと、本溝跡が構築されている。

規模と形状 A116区から南方向(N-160°-W)に直線的に延びて、B11d4区で調査区外へと続いている。確認できた長さは21.16mで、上幅0.40～0.72m、下幅0.21～0.40mで、深さは40～55cmである。断面形はV字状である。

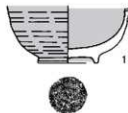
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

## 土層解説

- |        |                  |       |                  |
|--------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色  | 炭化粒子少量、ローム粒子微量   | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量   |
| 3 黒暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量   |
| 4 黒暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量  | 8 褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 陶器片8点(碗5、鉢2、摺鉢1)のほか、須恵器片3点(甕)が出土している。1は覆土中層の壁際から出土している。

所見 時期は、出土土器から江戸時代(17世紀後半)と考えられる。性格は不明である。



第429図 第15号溝跡出土遺物実測図

## 第15号溝跡出土遺物観察表(第429図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
1	陶器	皿	-	(4.5)	4.7	緻密 褐灰	摺鉢溝存 内面貫入	外：鉄軸 内：灰軸	瀬戸・美濃 津原V期	覆土中層	30%

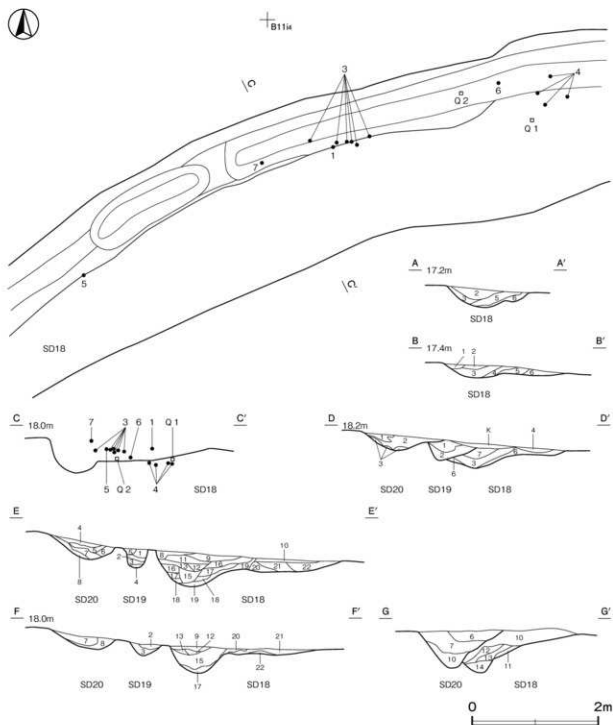
## 第18号溝跡(第430～432図)

調査年度 平成27年度

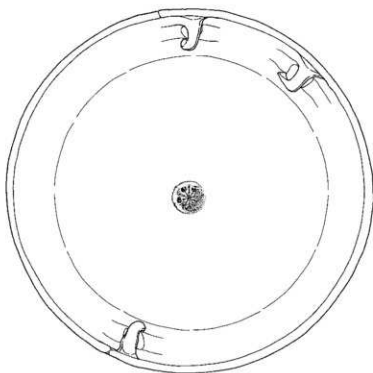
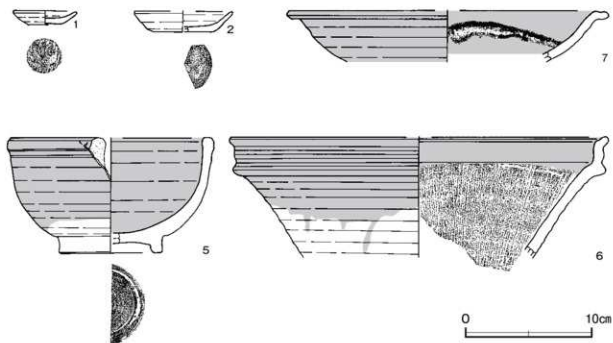
**位置** F区東部のB 11h8～C 10f8区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第10号井戸、第148号土坑、第19・20号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** B 11h8区から西方向(N - 103° - W)に直線的に延び、B 11j3区で南西方向(N - 145° - W)に屈曲して直線的に延びている。さらに、C 10e8区で屈曲して南下(N - 172° - E)し、C 10f8区で調査区外へと続いている。確認できた長さは55.28m、上幅0.64～2.92m、下幅0.20～0.96mで、深さは20～65cmである。断面形は浅いU字状である。



第430図 第18・19・20号溝跡実測図



第 431 図 第 18 号溝跡出土遺物実測図(1)

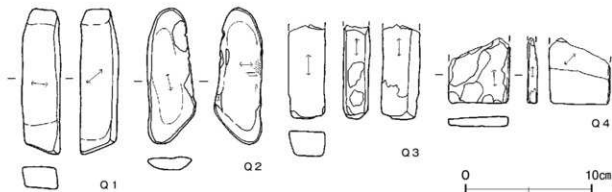
覆土 22層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	12 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・白色粘土ブロック微量	13 にふい黄褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	14 黄褐色	ロームブロック多量
4 極暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	15 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16 黒褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック微量
6 極暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック微量	17 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
7 黄褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量	18 黒褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	19 黒褐色	ロームブロック、粘土粒子少量
9 黒褐色	ロームブロック少量	20 暗褐色	炭化物少量、ロームブロック微量
10 黒褐色	ロームブロック微量	21 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
11 にふい黄褐色	ロームブロック中量	22 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片71点(焙烙65、小皿3、甕3)、陶器片11点(碗6、瓶2、播鉢1、仏飯器2)、磁器片19点(碗14、瓶2、皿3)、石器5点(砥石)のほか、縄文土器片1点(深鉢)、土師器片37点(碗13、甕24)、須恵器片12点(坏3、甕2、甕7)が覆土中から出土している。1・3・5は、覆土中層から出土している。6・Q1・Q2は覆土下層から、4は床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第432図 第18号溝跡出土遺物実測図(2)

第18号溝跡出土遺物観察表(第431・432図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師質土器	小皿	5.0	1.1	2.5	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 底部回転糸切り	覆土中層	90% PL56
2	土師質土器	小皿	[7.6]	[1.6]	[4.6]	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナデ 底部切り摩し後ナデ	覆土中	40%
3	土師質土器	焙烙	36.8	5.4	29.3	長石・石英・雲母	にふい黄褐色	普通	外・内面ナデ 外面窪付着 補修孔2穴	覆土中層	90% PL56
4	土師質土器	焙烙	38.2	5.2	31.8	長石・石英・雲母	明褐色	普通	外・内面ナデ 外面窪付着 底部内面印花紋	床面	95% PL56

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
5	陶器	片口鉢	[16.0]	[9.2]	[8.0]	長石 灰黄	内面底部トナシ直	長石軸	瀬戸・美濃系 濃務瓦製	覆土中層	40% PL56
6	陶器	播鉢	[30.0]	[9.6]	-	長石・石英 明赤褐色	外面へつ張り後へつナデ 内面7本 単位の條目	鉄軸	丹波	覆土下層	10%
7	陶器	甕	[25.0]	(4.1)	-	緻密 にふい黄褐色	口縁部から体部外・内面施軸 口縁 底部緑軸の直し削け	緑軸	瀬戸・美濃系 濃務瓦製	覆土上層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	11.5	3.0	2.5	127.26	凝灰岩	研面2面	覆土下層	PL58
Q2	砥石	10.8	3.8	1.0	59.82	頁岩	研面2面	覆土下層	PL58
Q3	砥石 (7.4)	2.9	2.0	(80.54)	凝灰岩	研面3面		覆土中	
Q4	砥石 (5.2)	(4.8)	(0.8)	(26.09)	頁岩	研面4面		覆土中	

## 第19号溝跡 (第430・433図)

調査年度 平成27年度

位置 F区東部のB1113～C1018区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第18号溝跡を掘り込み、第148号土坑、第20号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B1113区から西方向(N-145°-W)にC10e8区まで直線的に延びている。確認できた長さは27.28mで、上幅0.20～0.56m、下幅0.10～0.20mで、深さは18～30cmである。断面形は浅いU字状である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

## 土層解説

- |          |                  |       |                  |
|----------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量        |
| 2 にいり黄褐色 | ロームブロック中量        | 5 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色    | ロームブロック・炭化粒子少量   |       |                  |

遺物出土状況 陶器片2点(碗、摺鉢)、金属製品1点(煙管)

のほか、土師器片3点(甕)、須恵器片5点(甕)が出土している。

M1は覆土中からの出土である。

所見 時期は、出土遺物から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第433図 第19号溝跡出土遺物実測図

## 第19号溝跡出土遺物観察表 (第433図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	煙管	(3.4)	(1.6)	(1.7)	(3.61)	銅	煙管部 真鍮風	覆土中	PL58

## 第20号溝跡 (第430・434図)

調査年度 平成27年度

位置 F区東部のB1113～C1018区、標高18mほどの台地上の緩やかな傾斜部に位置している。

重複関係 第18・19号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 B1113区から南西方向(N-145°-W)に直線的に延び、C10e8区で屈曲して直線的に南下(N-172°-E)し、C1018区で調査区外へと続いている。確認できた長さは35.60mで、上幅0.64～1.32m、下幅約0.16～0.28mで、深さは18～58cmである。断面形は浅いU字状である。

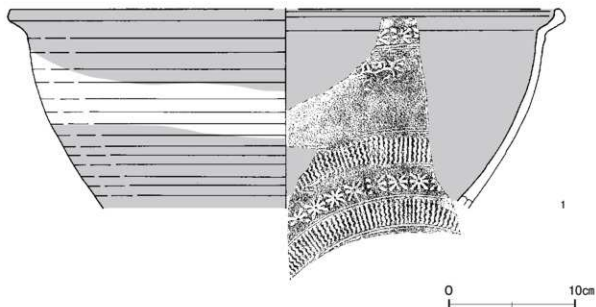
覆土 8層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

## 土層解説

- |       |                  |         |                  |
|-------|------------------|---------|------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 5 黒褐色   | 炭化粒子少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐色    | ロームブロック少量        |
| 3 黄褐色 | ロームブロック多量        | 7 にいり褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量        | 8 黒褐色   | ロームブロック少量        |

遺物出土状況 陶器片1点(鉢)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した土器から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第434図 第20号溝跡出土遺物実測図

第20号溝跡出土遺物観察表(第434図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪美	産地	出土位置	備考
1	陶器	鉢	(25.0)	(15.8)	—	長石・赤色砂子 明褐色	三島手 褐色の表地に線彫りや印文文印彫 →その上に白化粧土施す→色地後状と見ら	鉄軸	肥前方面	覆土中	10%

表33 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模			断面	積面	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
14	A 116 ~ B 114	N - 167° - W	直線状	(23.60)	1.24 ~ 1.80	0.36 ~ 0.32	65 ~ 80	V字状	外種	人為	土師質土器、陶器、磁器、 金属製品	SF1 → 本跡 → SD15
15	A 116 ~ B 114	N - 167° - W	直線状	(21.16)	0.40 ~ 0.72	0.21 ~ 0.40	40 ~ 55	V字状	外種	人為	陶器	SF1, SD14 → 本跡
18	B 111c ~ C 108	N - 172° - E N - 145° - W N - 107° - W	L字状	(55.28)	0.64 ~ 2.92	0.20 ~ 0.96	20 ~ 65	浅い L字状	外種	人為	土師質土器、陶器、磁器	本跡 → SE 10, SK148, SD19・ 20
19	B 111c ~ C 108	N - 145° - W	直線状	(27.28)	0.30 ~ 0.56	0.10 ~ 0.20	18 ~ 30	浅い L字状	外種	人為	陶器、金属製品	SD18 → 本跡 → SK148, SD20
20	B 111c ~ C 108	N - 172° - E N - 145° - W	L字状	(35.60)	0.61 ~ 1.32	0.16 ~ 0.28	18 ~ 58	浅い L字状	外種	人為	陶器	SD18・19 → 本跡

#### (5) 道路跡

##### 第1号道路跡(第435図)

調査年度 平成26年度

位置 E区南東部のB 11d8区から、B 11c5区にかけて確認した。標高19mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14・15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B 11d8区から北西方向(N - 72° - W)に直線的に延びて、B 11c5区で第14号溝に掘り込まれたところで途絶えている。確認できた長さは10.08mで、幅は1.35 ~ 1.58mである。全長に渡って幅0.30 ~ 0.50mの硬化面が確認できる。



**覆土** 4層に分層できる。第1・2層は遺構廃絶後の堆積土である。第2層の下面が硬化し、路面を成している。第3・4層は修復痕である。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

**土層解説**

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量   | 4 褐色 ロームブロック中量     |

**遺物出土状況** 陶器片1点(碗)のほか、土師器片1点(甕)、須恵器片1点(坏)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

**所見** 本跡を掘り込んでいる第14・15号溝の時期が江戸時代と考えられるので、本跡も江戸時代まで使用されていたものと考えられる。

**第2号道路跡 (第435図)**

**調査年度** 平成26年度

**位置** E区南東部のB11d7区から、B11d5区にかけて確認した。標高19mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第14・15号溝に掘り込まれている。

**規模と形状** B11d7区から北西方向(N-72°-W)に直線的に延びて、B11d5区で第14・15号溝に掘り込まれたところで途絶えている。確認できた長さは10.20mで、幅は0.70～1.40mである。全長に渡って幅0.25～0.40mの硬化面が確認できる。

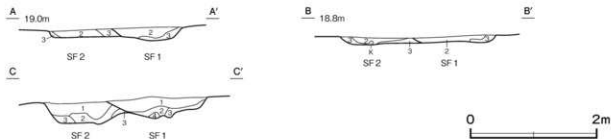
**覆土** 3層に分層できる。第1～3層は遺構廃絶後の堆積土である。第2層の下面が硬化していることから、道路面である。第2号道路跡を埋め戻して、第1号道路跡を構築している。

**土層解説**

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック微量 | 3 暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量   |                      |

**遺物出土状況** 陶器片1点(碗)のほか、土師器片1点(坏)、須恵器片1点(甕)が出土しているが、いずれも細片で図示できなかった。

**所見** 本跡を掘り込んでいる第14・15号溝の時期が江戸時代と考えられるので、本跡も江戸時代まで使用されていたものと考えられる。



第435図 第1・2号道路跡実測図

表34 江戸時代道路跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模			断面形状	築造	覆土	主な出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(cm)
1	B11d8～B11d5	N-72°-W	直線	(10.08)	1.35～1.58	1.00～1.20	10～30	浅いU字状	縦斜	自然	土師器、須恵器、陶器	本跡→SD14・15
2	B11d7～B11d5	N-72°-W	直線	(10.20)	0.70～1.20	0.65～1.05	10～30	浅いU字状	縦斜	人為	土師器、須恵器、陶器	本跡→SD14・15

## 7 その他の遺構と遺物

今回の調査で、伴う遺物が出土していないことから、時期が明らかでない遺構及び遺物について記述する。遺構は掘立柱建物跡3棟、土坑102基、溝跡4条、ピット群10か所を確認した。

### (1) 掘立柱建物跡

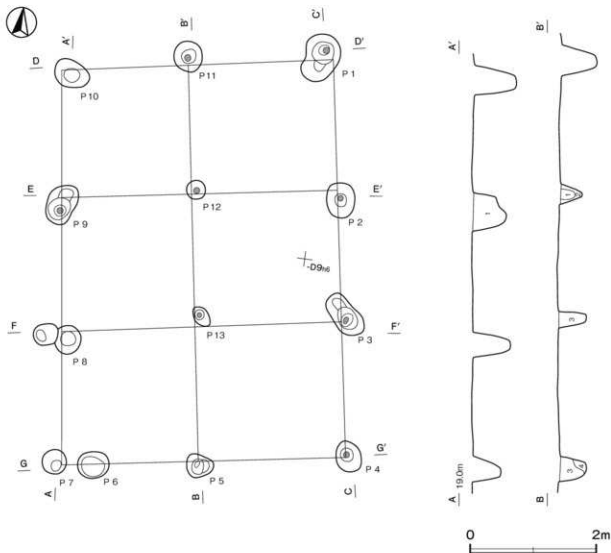
#### 第11号掘立柱建物跡 (第436・437図)

調査年度 平成26年度

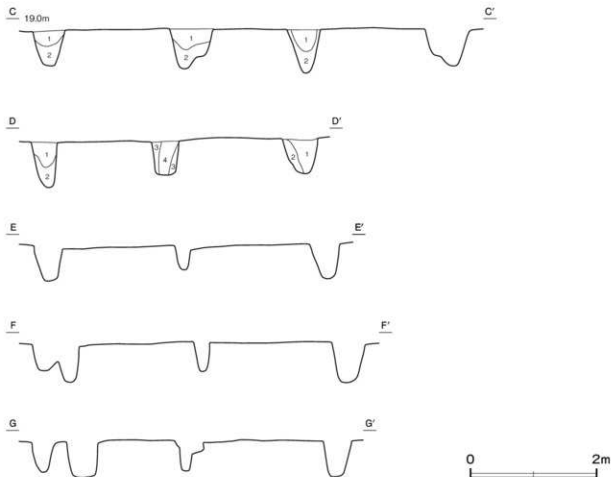
位置 D区北西部の-D9b5区、標高19mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-9°-Wの南北棟である。規模は、桁行6.30m、梁行4.60mで、面積は28.98㎡である。柱間寸法は、桁行が2.00m、梁行が2.35mである。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 13か所。平面形は円形または楕円形で、長径33~78cm、短径は28~58cmである。深さは35~70cmで、掘り方の壁は直立または外傾している。第1~4層は柱抜き取り後の堆積土である。P1~P4・P9・P11~P13で柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から柱の直径は8~12cmと推定できる。



第436図 第11号掘立柱建物跡実測図(1)



第 437 図 第 11 号掘立柱建物跡実測図(2)

## 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1 黒 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 3 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 暗 褐 色 ローム粒子微量      | 4 褐 色 ロームブロック少量          |

所見 遺物が出土していないことなどから、時期や性格は不明である。

## 第 14 号掘立柱建物跡 (第 438 図)

調査年度 平成 26 年度

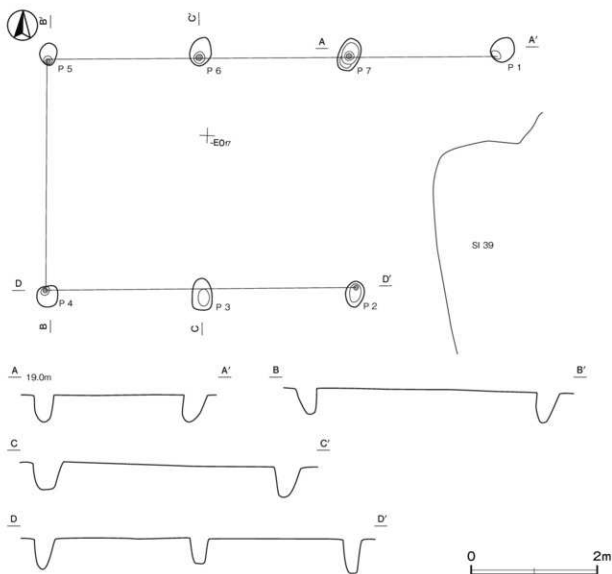
位置 D区南部の-E 0f7区、標高 19 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 南東端を第 39 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と構造 桁行 3 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、桁行方向 N - 87° - E の東西棟である。規模は、桁行 7.15 m、梁行 3.65 m で、面積は約 26.10 m<sup>2</sup> である。柱間寸法は、桁行が 2.35 m ~ 2.50 m、梁行が 3.65 ~ 3.70 m である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 7 か所。平面形は円形・方形または楕円形で、長径・長軸は 36 ~ 53 cm、短径・短軸は 30 ~ 36 cm である。深さは 40 ~ 51 cm で、掘り方の壁は直立または外傾している。P 2・P 4・P 5 ~ P 7 の底面で柱のあたりを確認した。柱のあたりから柱の直径は 12 ~ 18 cm と推定できる。

所見 遺物が出土していないことなどから、時期や性格は不明である。



第438図 第14号掘立柱建物跡実測図

### 第15号掘立柱建物跡 (第439図)

調査年度 平成26年度

位置 D区北部の-D 064区、標高18mほどの台地平坦部に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の竪柱建物跡で、桁行方向 $N-7^{\circ}-W$ の南北棟である。規模は、桁行7.40m、梁行3.90mで、面積は28.86 $m^2$ である。柱間寸法は、桁行が2.35m～2.50m、梁行が3.80～3.90mである。柱筋はほぼ揃っている。

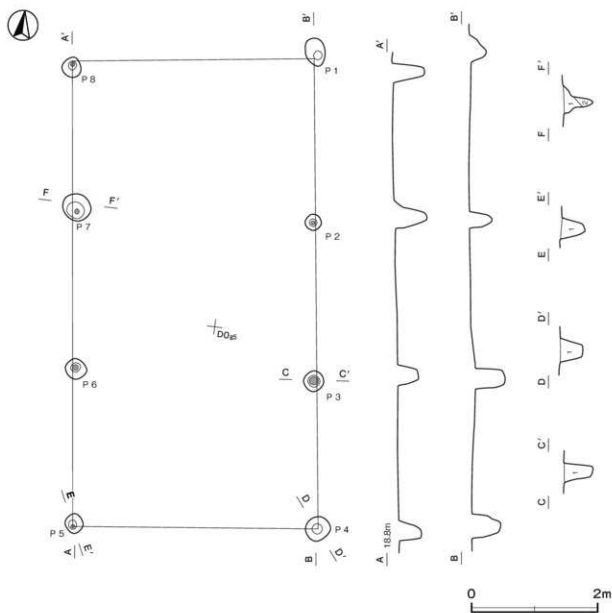
柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径28～46cm、短径28～44cmである。深さは26～50cmで、掘り方の壁は直立または外傾している。P2・P3・P5～P8の底面で柱のあたりを確認した。柱のあたりから柱の直径は12～16cmと推定できる。

#### 柱穴土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

所見 遺物が出土していないことなどから、時期や性格は不明である。



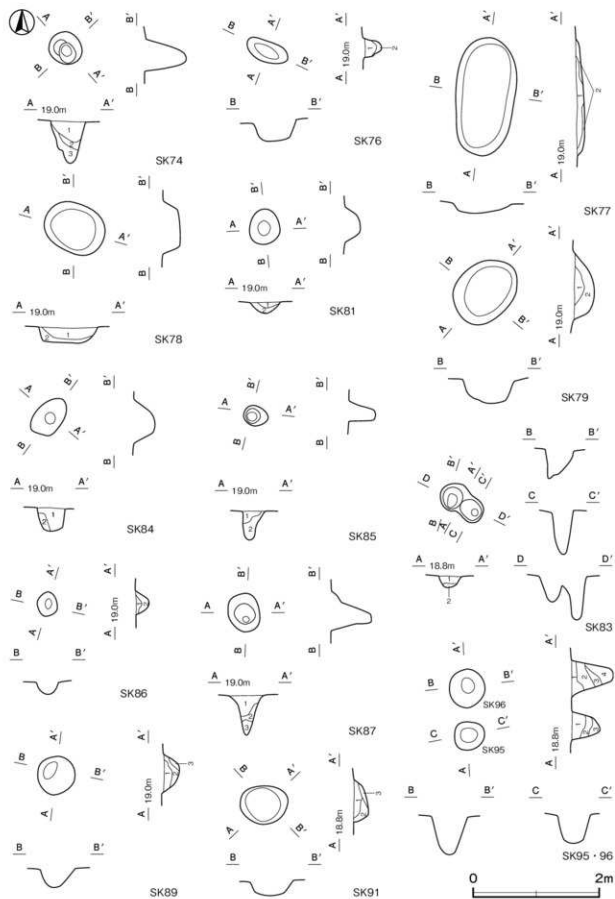
第 439 図 第 15 号掘立柱建物跡実測図

表 35 掘立柱建物跡一覧表

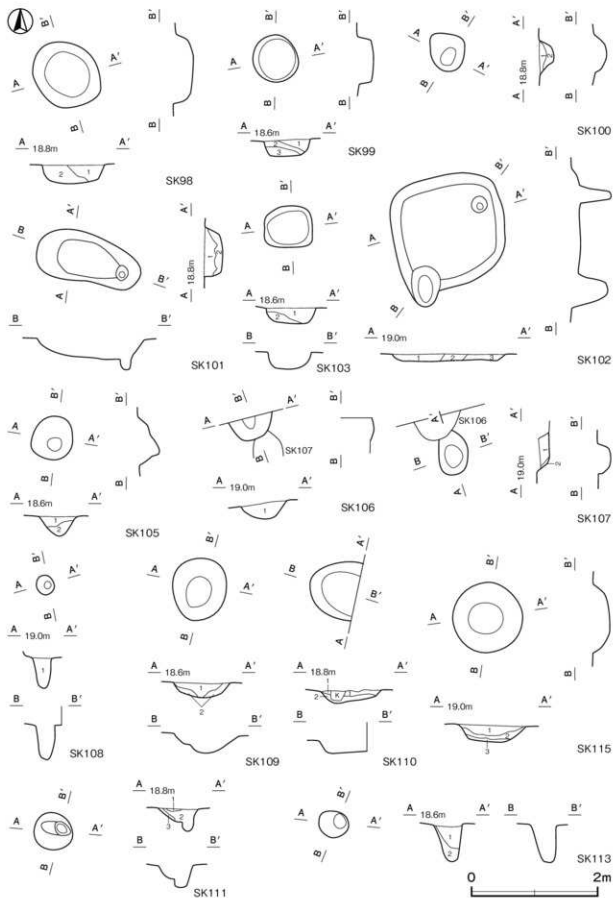
番号	位置	桁行方向	柱間数	規模	面積	柱間寸法		柱 穴		主な出土遺物	時期	備考	
						桁 × 梁間 (m)	梁間 (m)	構造	柱穴数				平面形
11	D9h5	N-9'-W	3 × 2	6.30 × 4.60	28.98	200 ~ 215	200 ~ 235	総柱	13	円形・楕円形	35 ~ 70	不明	
14	E0f	N-87'-E	3 × 1	(7.15) × (3.65)	26.10	235 ~ 250	365 ~ 370	鋼柱	7	円形・楕円形	40 ~ 51	不明	本跡→SE39
15	D0h	N-7'-W	3 × 1	7.40 × 3.90	28.86	235 ~ 250	380 ~ 390	鋼柱	8	円形・楕円形	26 ~ 50	不明	

## (2) 土坑 (第 440 ~ 447 図)

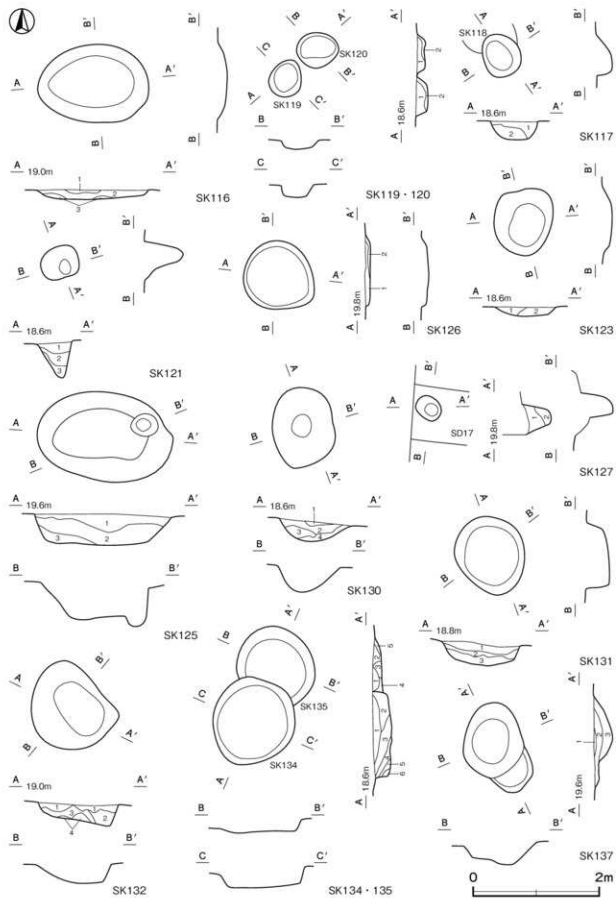
今回の調査で性格や時期がともに不明な土坑 102 基が確認されている。これらの土坑については規模と形状について実測図 (第 440 ~ 447 図) と土層解説, 一覧表を記載する。



第440図 その他の土坑実測図(1)

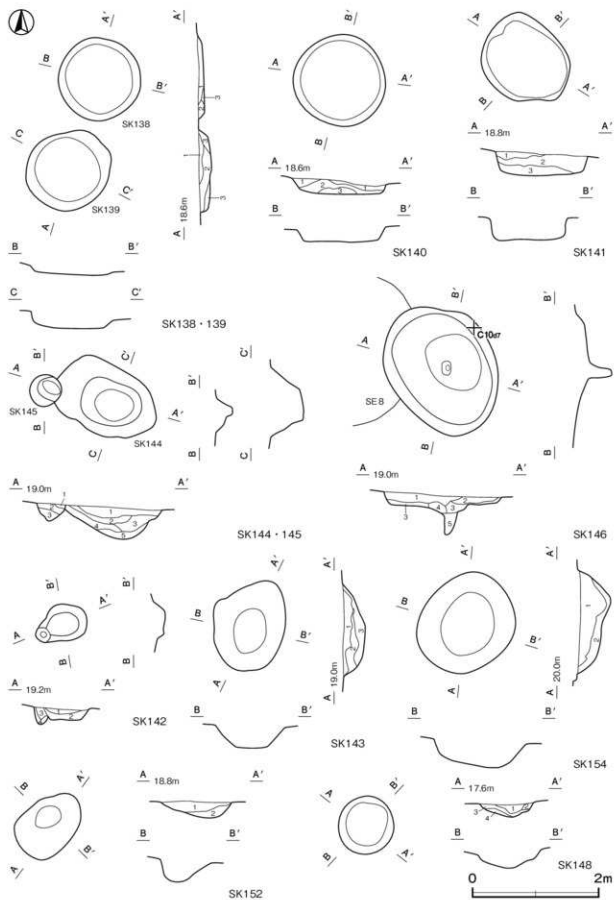


第441図 その他の土坑実測図(2)

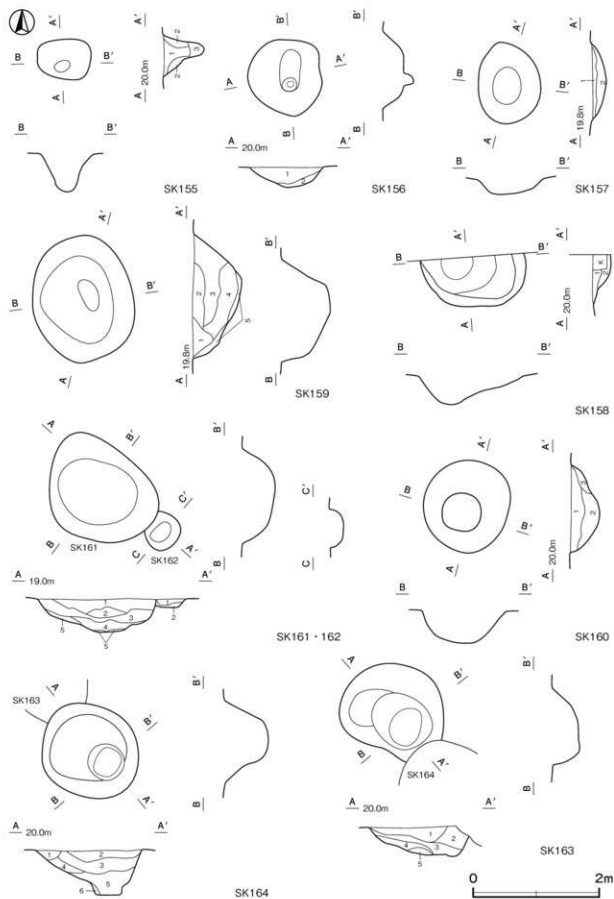


第442図 その他の土坑実測図3

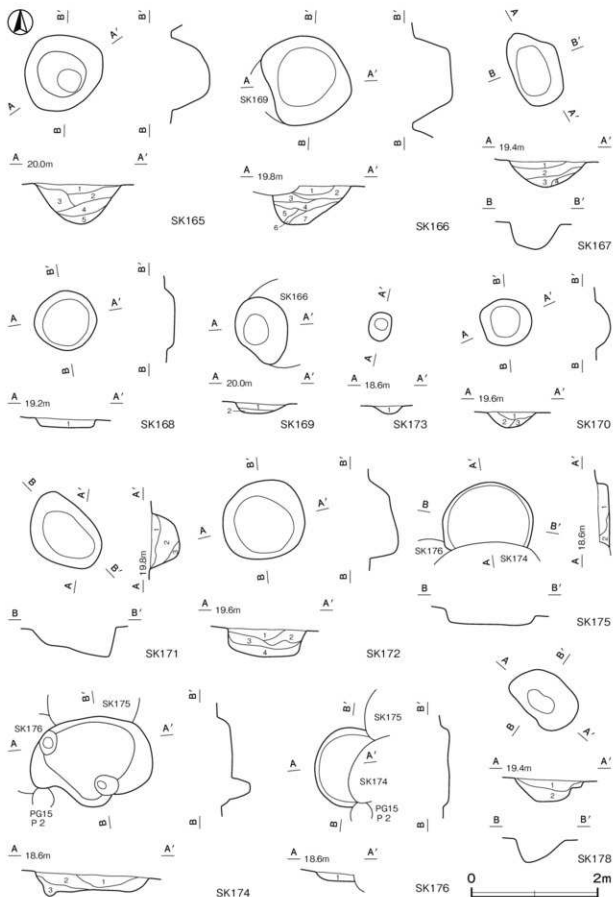




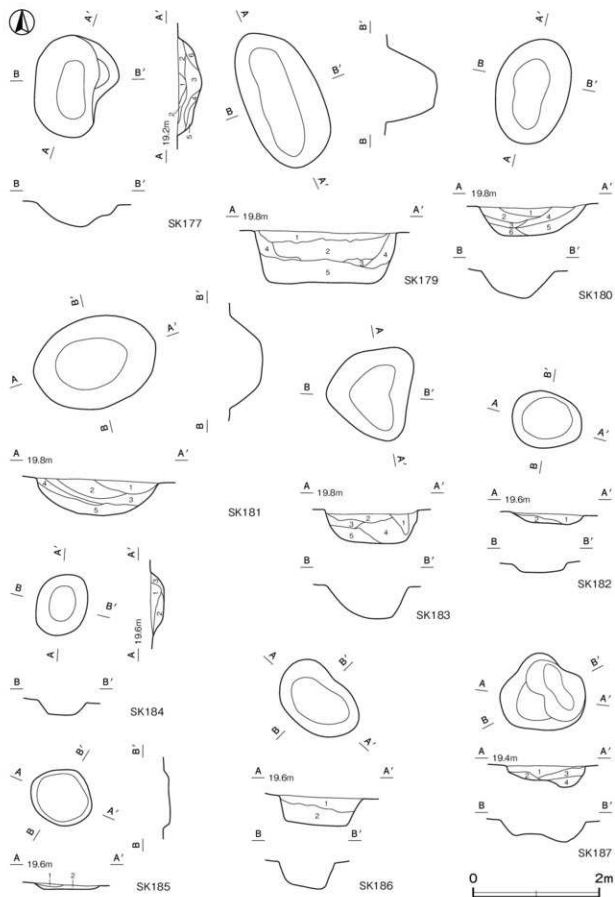
第 443 図 その他の土坑実測図(4)



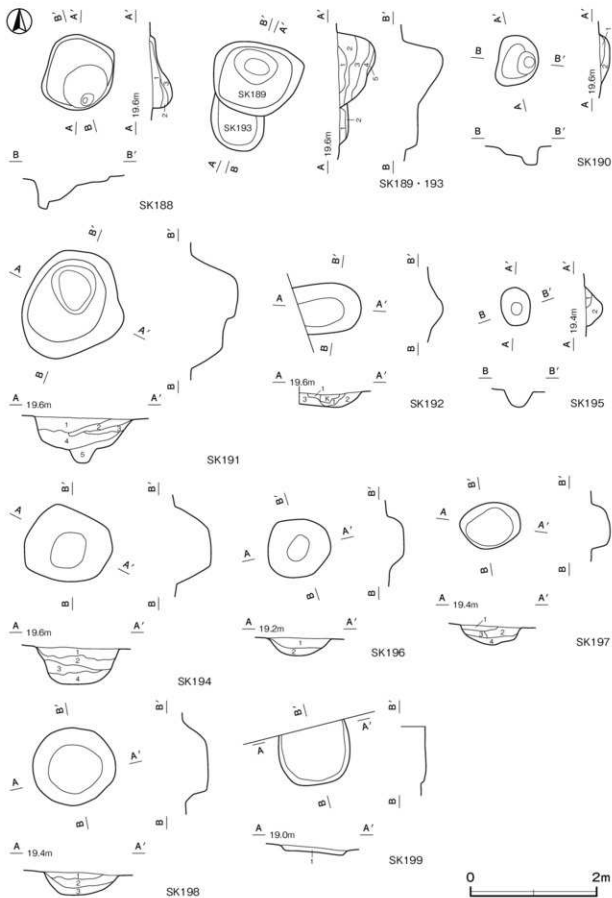
第444図 その他の土坑実測図5)



第 445 図 その他の土坑実測図(6)



第446図 その他の土坑実測図(7)



第447図 その他の土坑実測図(8)

**第74号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第76号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

**第77号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

**第78号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

**第79号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第81号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第83号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第84号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第85号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第86号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 頁少量、ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第87号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第89号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

**第91号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 に近い褐色 ローム粒子少量

**第95号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

**第96号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

**第98号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第99号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

**第100号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

**第101号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

**第102号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

**第103号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第105号土坑 土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

**第106号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

**第107号土坑 土層解説**

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第108号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量

**第109号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**第110号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

**第111号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

**第113号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

**第115号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック少量

**第116号土坑 土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック多量

**第117号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第119号土坑 土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第120号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

## 第121号土坑 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

## 第123号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

## 第125号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

## 第126号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック微量

## 第127号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子微量

## 第130号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量

## 第131号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第132号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

## 第134号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 4 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量

## 第135号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量

## 第137号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

## 第138号土坑 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第139号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

## 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

- 3 極暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

## 第140号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 炭化粒子・ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

## 第141号土坑 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック、炭化物少量

## 第142号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

## 第143号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

## 第144号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

## 第145号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック、炭化物少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

## 第146号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量

## 第148号土坑 土層解説

- 1 黒色 炭化粒子中量、ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 2 に近い黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 に近い黄褐色 ロームブロック中量、粘土粒子微量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量

## 第152号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック、炭化粒子少量

## 第154号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

## 第155号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

## 第156号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

## 第157号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**第158号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**第159号土坑 土層解説**

- 1 明 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**第160号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

**第161号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック中量

**第162号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**第163号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ロームブロック多量

**第164号土坑 土層解説**

- 1 明 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック少量
- 5 におい褐色 ロームブロック多量
- 6 黒 褐色 ロームブロック少量

**第165号土坑 土層解説**

- 1 明 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 明 褐色 ロームブロック多量

**第166号土坑 土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 5 明 褐色 ロームブロック多量
- 6 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ロームブロック多量

**第167号土坑 土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 明 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

**第168号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

**第169号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ローム粒子中量
- 2 明 褐色 ロームブロック多量

**第170号土坑 土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量

**第171号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子少量

**第172号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック多量
- 2 黄 褐色 ロームブロック多量
- 3 黒 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量

**第173号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量

**第174号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量
- 3 灰 褐色 ロームブロック中量

**第175号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量

**第176号土坑 土層解説**

- 1 におい褐色 ロームブロック多量

**第177号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック中量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック少量
- 6 黒 褐色 ロームブロック少量

**第178号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 明 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

**第179号土坑 土層解説**

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 明 褐色 ローム粒子多量
- 5 におい褐色 ローム粒子多量

**第180号土坑 土層解説**

- 1 明 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ロームブロック多量
- 3 明 褐色 ロームブロック多量
- 4 暗 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗 褐色 ロームブロック中量
- 6 黒 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**第181号土坑 土層解説**

- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量
- 4 におい褐色 ロームブロック多量
- 5 におい褐色 ロームブロック多量

**第182号土坑 土層解説**

- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 明 褐色 ローム粒子多量



## 第183号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 明褐色 ローム粒子多量

## 第184号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

## 第185号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック多量

## 第186号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

## 第187号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量

## 第188号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 にぶい褐色 ロームブロック多量

## 第189号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 橙褐色 ローム粒子多量

## 第190号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

## 第191号土坑 土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量

- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 明褐色 ロームブロック多量

## 第192号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

## 第193号土坑 土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

## 第194号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 にぶい褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 黒褐色 ロームブロック多量

## 第195号土坑 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック多量

## 第196号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック多量

## 第197号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

## 第198号土坑 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

## 第199号土坑 土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量

表36 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
74	-D9a8	N-50°-W	精円形	0.56 × 0.50	66	U字状	ほぼ直立	自然		
76	-E9j7	N-60°-W	精円形	0.70 × 0.30	30	平坦	外傾	人為		
77	-D9a8	N-8°-E	精円形	1.85 × 0.93	20	平坦	縦斜	自然		
78	-D9a8	N-74°-W	精円形	0.98 × 0.76	26	平坦	外傾	人為		
79	-D9a6	N-37°-E	精円形	1.12 × 0.84	38	平坦	外傾	自然		
81	-D9a5	-	円形	0.54 × 0.48	24	平坦	外傾 縦斜	自然	土脚部	
83	-D0i1	N-65°-W	精円形	0.75 × 0.45	70	U字状	ほぼ直立	人為		
84	-D0a2	N-35°-E	精円形	0.68 × 0.44	34	皿状	縦斜	人為		
85	-D0a2	N-76°-W	精円形	0.40 × 0.30	44	U字状	直立 外傾	人為		
86	-D0i2	N-18°-E	精円形	0.40 × 0.34	20	皿状	外傾	人為	土脚部・貝	
87	-E9a5	N-27°-W	精円形	0.60 × 0.40	63	U字状	ほぼ直立 外傾	人為		
89	-E9a7	-	円形	0.58 × 0.58	26	平坦	外傾 縦斜	自然		
91	-D0a4	N-88°-W	精円形	0.76 × 0.62	24	平坦	外傾	自然		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	高さ (cm)					
95	E 0 a4	-	円形	0.66 × 0.66	44	U字状	ほぼ直立	人為		
96	D 0 j4	-	円形	0.60 × 0.58	60	U字状	ほぼ直立	人為		
98	D 0 i8	N-65°-W	楕円形	1.18 × 1.00	28	平坦	外傾	人為		
99	D 0 07	-	円形	0.74 × 0.72	24	平坦	直立	人為		
100	D 0 e9	N-50°-W	楕円形	0.68 × 0.60	18	平坦	縦斜	自然		
101	D 1 j2	N-64°-W	楕円形	1.70 × 0.84	30	平坦	外傾 縦斜	人為		
102	E 9 e9	N-78°-E	方形	1.82 × 1.76	12	平坦	縦斜	人為		
103	D 0 i0	N-84°-E	長方形	0.78 × 0.64	24	平坦	外傾	人為		
105	D 1 d3	-	円形	0.68 × 0.62	30	皿状	外傾	人為		
106	D 0 f2	N-70°-E	[楕円形]	0.70 × (0.36)	26	平坦	縦斜	人為		SK107→本跡
107	D 0 d2	N-1°-E	楕円形	0.68 × 0.48	20	平坦	外傾	人為		本跡→SK106
108	D 0 f1	-	円形	0.30 × 0.30	52	U字状	ほぼ直立	自然		
109	D 1 i4	N-20°-E	楕円形	1.00 × 0.88	30	皿状	縦斜	自然		
110	D 1 i4	N-72°-W	[楕円形]	0.90 × (0.78)	20	平坦	縦斜	人為		
111	D 1 j4	N-43°-W	楕円形	0.65 × 0.60	20	皿状	直立 外傾	人為		
113	D 1 i3	N-78°-W	楕円形	0.48 × 0.40	58	U字状	ほぼ直立	自然		
115	E 0 d7	-	円形	1.10 × 1.08	28	平坦	縦斜	自然		
116	E 0 e6	N-85°-E	楕円形	1.76 × 1.22	16	平坦	縦斜	人為		
117	D 1 c4	N-32°-W	楕円形	0.72 × 0.64	12	平坦	外傾 縦斜	人為		SK118→本跡
119	D 1 d4	N-30°-E	楕円形	0.60 × 0.50	20	平坦	縦斜	自然		本跡→SK117
120	D 1 d5	N-82°-E	楕円形	0.68 × 0.52	14	皿状	外傾 縦斜	自然		
121	D 1 c2	N-72°-E	楕円形	0.60 × 0.50	50	U字状	ほぼ直立	自然		
123	D 0 j7	-	円形	1.02 × 0.96	16	平坦	縦斜	人為		
125	B 1 i a1	N-80°-W	楕円形	2.20 × 1.40	56	平坦	直立 縦斜	自然		
126	B 10 a8	N-55°-W	楕円形	1.18 × 1.08	14	平坦	外傾 縦斜	自然		
127	B 10 a6	N-47°-W	楕円形	0.44 × 0.34	48	U字状	ほぼ直立	人為		本跡→SD17
130	B 1 i i3	-	円形	1.20 × 1.98	40	皿状	外傾	人為		
131	B 1 i g3	N-28°-W	楕円形	1.28 × 1.08	38	平坦	ほぼ直立	人為		
132	B 1 i i1	N-50°-W	楕円形	1.36 × 1.18	31	平坦	外傾 縦斜	人為		
134	C 10 e6	N-22°-E	楕円形	1.44 × 1.30	26	平坦	直立 外傾	人為		SK135→本跡
135	C 10 e7	N-62°-W	[楕円形]	1.30 × (0.70)	16	平坦	外傾 縦斜	自然		本跡→SK134
137	B 10 g7	N-24°-W	楕円形	1.46 × 0.98	32	皿状	外傾 縦斜	人為		
138	C 10 c8	-	円形	1.30 × 1.30	8	平坦	外傾 縦斜	人為		
139	C 10 d8	N-48°-E	楕円形	1.32 × 1.22	20	平坦	ほぼ直立 縦斜	人為		
140	C 10 e7	-	円形	1.50 × 1.48	21	平坦	外傾	人為		
141	C 10 e6	N-60°-W	楕円形	1.48 × 1.21	36	平坦	ほぼ直立	人為		
142	C 10 d5	N-63°-E	楕円形	0.88 × 0.60	16	平坦	外傾 縦斜	人為		
143	C 10 e5	N-24°-E	楕円形	1.50 × 1.20	30	皿状	縦斜	人為		
144	C 10 e5	N-62°-W	楕円形	1.68 × 1.10	52	平坦	外傾	人為		
145	C 10 e5	-	円形	0.50 × 0.50	26	皿状	外傾 縦斜	人為		
146	C 10 d7	N-33°-W	楕円形	2.14 × 1.90	24	皿状	外傾	人為		
148	C 10 d0	-	円形	0.92 × 0.90	26	皿状	外傾 縦斜	人為		本跡→SD18
152	B 1 i g3	N-41°-E	楕円形	1.15 × 0.85	34	皿状	外傾 縦斜	人為		
154	B 10 c3	N-45°-E	楕円形	1.66 × 1.38	38	皿状	外傾 縦斜	人為		
155	B 10 d4	N-88°-E	楕円形	0.72 × 0.64	58	皿状	外傾	人為		
156	B 10 e3	-	円形	1.20 × 1.18	32	平坦	外傾 縦斜	人為		
157	B 10 e2	N-10°-W	楕円形	1.30 × 0.98	20	皿状	縦斜	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
138	B 10d2	N-80°-E	[精円形]	1.65 × 0.78	48	皿状	縦斜	人為		
139	B 10e1	N-7°-E	精円形	2.00 × 1.60	78	皿状	外植 縦斜	人為		
140	B 10e1	-	円形	1.44 × 1.32	52	皿状	外植	人為		
161	B 10g2	N-50°-W	精円形	1.90 × 1.52	50	皿状	外植	人為		
162	B 10g2	-	[円形]	0.58 × 0.48	22	平底	外植	自然		
163	B 10j2	N-50°-E	[精円形]	1.50 × 1.42	38	平底	外植 縦斜	人為	本跡→SK164	
164	B 10j2	-	円形	1.50 × 1.46	68	平底	外植	人為	SK163→本跡	
165	B 10j2	N-50°-E	精円形	1.36 × 1.14	60	皿状	11:12直立 外植	人為		
166	B 10j2	N-67°-W	方形	1.50 × 1.46	74	平底	外植	人為	本跡→SK169	
167	C 10c1	N-30°-W	精円形	1.24 × 0.78	42	皿状	11:12直立 外植	人為		
168	C 10e4	-	円形	1.00 × 0.94	16	平底	外植 縦斜	人為		
169	B 10j2	N-23°-W	[精円形]	1.12 × 0.82	16	平底	外植 縦斜	人為	本跡→SK166	
170	B 10j5	-	円形	0.80 × 0.76	24	皿状	外植	人為		
171	B 10j1	N-44°-W	精円形	1.30 × 0.82	48	皿状	11:12直立 外植	人為		
172	B 10j5	N-42°-E	精円形	1.38 × 1.24	38	皿状	11:12直立 外植	人為		
173	C 10e8	N-13°-E	精円形	0.46 × 0.36	12	皿状	縦斜	人為		
174	C 10a8	N-80°-E	不整精円形	1.96 × 1.40	22	平底	外植	人為	SK175・176、 PG15P2→本跡	
175	C 10a8	N-58°-E	[精円形]	1.49 × 0.95	20	平底	外植	人為	SK176→本跡 →SK174	
176	C 10e7	N-7°-E	[精円形]	1.26 × 0.58	14	平底	外植 縦斜	人為	本跡→SK174・ SK175→PG15P2	
177	C 10e4	N-15°-E	精円形	1.59 × 1.26	36	皿状	縦斜	人為		
178	C 10a3	N-52°-W	精円形	1.10 × 0.72	34	皿状	11:12直立 縦斜	人為		
179	B 10f4	N-26°-W	精円形	2.26 × 1.20	78	平底	外植	人為		
180	C 10a1	N-12°-E	精円形	1.70 × 1.14	44	平底	外植 縦斜	人為		
181	B 10j5	N-72°-E	精円形	2.00 × 1.44	54	平底	外植	人為		
182	C 10e2	N-59°-W	精円形	1.16 × 0.90	14	平底	外植	人為		
183	C 10a3	N-38°-E	不整形	1.46 × 1.41	48	平底	外植 縦斜	人為		
184	C 10c3	N-37°-E	精円形	1.10 × 0.80	20	平底	外植	人為		
185	C 10c3	N-68°-W	精円形	1.04 × 0.90	12	平底	外植	人為		
186	C 10e2	N-51°-W	精円形	1.42 × 0.92	42	平底	外植	人為		
187	C 10e2	-	不整形	1.36 × 1.28	36	平底	外植	人為		
188	C 10e1	N-63°-E	精円形	1.30 × 1.18	44	段状	直立 外植	人為		
189	C 10d1	N-76°-E	精円形	1.48 × 1.20	60	皿状	11:12直立 縦斜	人為	SK190→本跡	
190	C 10c1	N-35°-E	精円形	0.84 × 0.66	28	段状	直立 外植	人為		
191	C 10d1	N-20°-E	精円形	1.80 × 1.56	74	段状	外植	人為		
192	C 9d0	N-84°-E	[精円形]	1.00 × 0.74	20	皿状	縦斜	人為		
193	C 10c1	N-32°-W	[精円形]	0.85 × 0.55	20	平底	外植	人為	本跡→SK189	
194	C 10f1	N-64°-W	精円形	1.50 × 1.14	56	平底	外植	人為		
195	C 10c3	-	円形	0.52 × 0.49	24	平底	外植	人為		
196	C 10e3	-	円形	1.06 × 0.98	22	平底	外植	人為		
197	B 10j7	N-83°-W	精円形	0.98 × 0.76	30	皿状	外植	人為		
198	B 10j7	-	円形	1.30 × 1.22	36	平底	外植	人為		
199	B 11f0	-	[円形]	1.14 × 0.92	10	平底	外植	人為		

(3) 溝跡 (第448図)

その他の溝跡4条については、土層断面図と土層解説を掲載する。

第13号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  
2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第16号溝土層解説

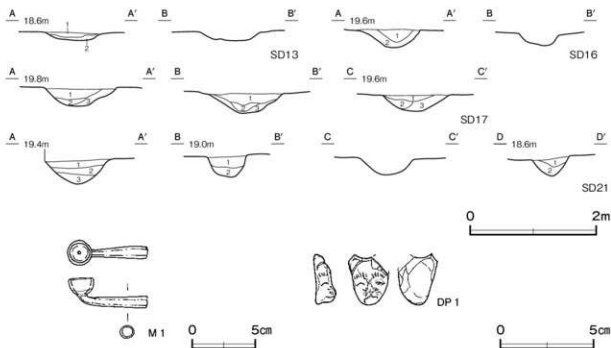
- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量  
2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック微量

第21号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量  
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量  
3 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第17号溝土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量



第448図 第13・16・17・21号溝跡・出土遺物実測図

第17号溝跡出土遺物観察表 (第448図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鎌首	6.4	2.0	2.4	10.71	鋼	鎌首部 箱蓋し部直線的	覆土中	PL58

第21号溝跡出土遺物観察表 (第448図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	泥団子	(27)	(20)	1.1	(3.77)	長石	にぶい黄橙	風蝕 右目を用いている	覆土中	PL57

表37 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	傾斜	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
13	D1c1-D1a5	N-72°-E	直線状	(14.60)	0.64-1.04	0.21-0.64	12-18	扇状	緩斜	自然		
16	B11a2-A11j2	N-31°-E	直線状	(2.60)	0.60-0.70	0.30-0.36	28-30	扇状	緩斜	自然		
17	B10a6-B11c3	N-76°-W	直線状	(31.60)	0.80-1.20	0.36-0.44	24-32	扇状	緩斜	自然	金属製品(煙管)	
21	C10g1-C10f	N-88°-E	直線状	(23.00)	0.50-0.80	0.08-0.38	28-40	扇状	緩斜	自然	土製品(泥団子)	

## (3) ビット群 (第 449 図)

今回の調査で、ビット群 10 か所を確認した。いずれも建物跡を想定できるような配置ではない。時期は不明である。ここではビット群ごとに計測表を掲載する。なお、各ビット群の平面図は第 356・357 図に掲載する。

表 38 第 6 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-F 9a7	円形	16	16	10	6	-F 9a7	楕円形	30	25	46	11	-E 9j6	楕円形	30	20	17
2	-F 9a7	楕円形	19	17	20	7	-E 9j7	楕円形	30	25	22	12	-E 9j6	円形	26	25	22
3	-F 9a7	楕円形	21	17	19	8	-E 9j6	円形	25	23	16	13	-E 9j7	楕円形	41	28	15
4	-F 9a7	楕円形	29	25	17	9	-E 9j6	楕円形	32	19	23	14	-E 9j7	円形	27	26	14
5	-F 9a7	楕円形	31	24	12	10	-E 9j6	楕円形	30	23	24	15	-E 9j7	楕円形	30	25	9

表 39 第 7 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-D 9g7	円形	37	35	43	10	-D 9g8	円形	31	30	50	19	-D 9h4	楕円形	58	34	57
2	-D 9g7	円形	42	40	68	11	-D 9g8	楕円形	48	29	34	20	-D 9h4	円形	40	38	63
3	-D 9g8	楕円形	50	35	40	12	-D 9h7	楕円形	45	40	37	21	-E 9a0	楕円形	40	30	42
4	-D 9g8	楕円形	47	37	30	13	-D 9e0	円形	25	24	38	22	-D 9j0	円形	34	28	33
5	-D 9g8	円形	33	31	24	14	-D 9e0	円形	30	30	51	23	-D 9j0	楕円形	30	30	37
6	-D 9g8	円形	35	34	58	15	-D 9j9	楕円形	39	35	50	24	-D 9j0	円形	31	30	34
7	-D 9j7	楕円形	35	29	39	16	-D 9j9	楕円形	35	29	49	25	-D 9j0	円形	35	33	43
8	-D 9g0	楕円形	53	40	24	17	-D 9j5	円形	33	30	45	26	-D 9h0	楕円形	35	30	57
9	-D 9g0	楕円形	51	35	38	18	-D 9h4	円形	26	26	45	27	-D 0h1	楕円形	48	28	67

表 40 第 8 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-E 9j6	円形	78	74	54	15	-E 9j5	円形	27	27	44	29	-E 9g9	楕円形	35	30	33
2	-E 9j7	楕円形	47	34	30	16	-E 9j5	楕円形	58	50	67	30	-E 0f1	円形	29	38	56
3	-E 9j7	楕円形	26	20	16	17	-E 9j5	円形	35	33	71	31	-E 0g1	円形	53	50	27
4	-E 9j7	円形	23	22	21	18	-E 9j5	楕円形	34	29	43	32	-E 0f2	円形	30	29	32
5	-E 9j7	楕円形	48	37	55	19	-E 9j5	楕円形	32	25	48	33	-E 0f2	楕円形	30	23	38
6	-E 9j7	楕円形	30	25	45	20	-E 9j5	円形	37	35	64	34	-E 0c1	楕円形	40	31	34
7	-E 9j8	楕円形	37	32	29	21	-E 9j8	楕円形	34	30	33	35	-E 0b2	円形	29	30	37
8	-E 9j6	楕円形	50	43	24	22	-E 9j0	円形	36	37	30	36	-E 0b2	楕円形	35	26	29
9	-E 9j5	楕円形	48	31	63	23	-E 9j0	楕円形	30	27	34	37	-E 0b1	楕円形	34	26	29
10	-E 9j5	楕円形	57	50	49	24	-E 9j0	楕円形	47	28	29	38	-E 0b1	円形	29	27	45
11	-E 9j5	楕円形	67	30	46	25	-E 0e1	楕円形	38	30	46	39	-E 0a1	楕円形	26	23	27
12	-E 9j7	円形	30	29	36	26	-E 9j8	楕円形	112	81	57	40	-E 0b2	円形	30	28	55
13	-E 9j6	楕円形	40	34	65	27	-E 9j0	円形	35	34	37						
14	-E 9j6	円形	35	34	45	28	-E 9j0	円形	35	34	28						

表 41 第 9 号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	-D 0i1	楕円形	47	28	37	9	-D 0i3	方形	25	34	35	17	-D 0i4	楕円形	48	42	50
2	-D 0i2	円形	34	30	25	10	-D 0i3	楕円形	34	34	27	18	-D 0j4	楕円形	34	30	38
3	-D 0h1	方形	35	32	48	11	-D 0i2	楕円形	34	34	30	21	-D 0i5	円形	46	44	55
4	-D 0j1	楕円形	30	27	57	12	-D 0i2	楕円形	54	54	30	22	-D 0i5	円形	38	40	46
5	-E 0a2	円形	34	34	54	13	-D 0i2	円形	25	24	56	25	-D 0i4	楕円形	38	34	70
6	-E 0a1	円形	38	35	44	14	-D 0i2	楕円形	38	34	34	27	-D 0i4	楕円形	44	34	65
7	-E 0a2	長方形	32	25	40	15	-D 0i2	楕円形	42	28	60	29	-D 0g5	楕円形	47	44	52
8	-D 0i2	楕円形	48	30	30	16	-D 0i3	楕円形	38	30	84	32	-D 0i5	円形	35	33	62

表42 第10号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	- E 0 d3	楕円形	28	25	45	9	- E 0 b4	楕円形	35	30	54	22	- E 0 e5	楕円形	24	20	44
2	- E 0 d4	楕円形	31	27	39	11	- E 0 a5	楕円形	37	32	27	23	- E 0 e4	楕円形	50	37	56
3	- E 0 e5	円形	30	29	54	13	- E 0 a5	楕円形	35	31	60	24	- E 0 b5	円形	44	40	42
4	- E 0 c3	円形	38	36	42	18	- E 0 a4	楕円形	29	25	28	25	- E 0 d4	円形	22	21	35
5	- E 0 d4	円形	26	25	61	16	- E 0 e4	円形	29	28	65	26	- E 0 d6	円形	25	25	46
6	- E 0 e5	円形	29	27	39	17	- E 0 b3	楕円形	31	26	39	27	- E 0 b6	円形	33	32	72
7	- E 0 e5	楕円形	28	25	35	20	- E 0 d5	円形	27	26	38	28	- E 0 g6	楕円形	54	48	45
8	- E 0 b4	楕円形	26	23	48	21	- E 0 e5	円形	31	30	32						

表43 第11号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	- D 0 b9	楕円形	34	25	39	4	- D 0 b9	楕円形	25	21	30	7	- D 0 b9	円形	34	32	54
2	- D 0 b9	円形	28	26	57	5	- D 0 b9	円形	24	25	53	8	- D 0 b9	円形	35	34	51
3	- D 0 b9	楕円形	34	24	31	6	- D 0 b9	楕円形	38	27	52	9	- D 0 g9	円形	35	34	49

表44 第12号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 1 e2	円形	25	23	56	10	D 1 d2	楕円形	30	25	25	19	D 1 g5	円形	36	34	56
2	D 1 f1	楕円形	28	23	51	11	D 1 d2	楕円形	43	30	32	20	D 1 b4	円形	42	40	53
3	D 1 f1	楕円形	24	20	12	12	D 1 d2	楕円形	37	32	38	21	D 1 g4	楕円形	30	26	46
4	E 1 j1	楕円形	22	20	32	13	D 1 c3	長方形	40	34	63	22	D 1 g5	円形	31	29	35
5	E 1 j2	楕円形	25	21	25	14	D 1 e4	楕円形	42	32	38	23	D 1 j4	楕円形	37	28	50
6	D 1 f1	楕円形	26	23	50	15	D 1 e4	楕円形	51	46	47	24	D 1 g3	円形	26	25	60
7	D 1 d1	円形	23	22	30	16	D 1 e5	円形	38	36	57	25	D 1 e5	円形	30	29	42
8	D 1 d1	楕円形	35	28	40	17	D 1 e5	楕円形	37	24	34	26	D 1 e5	楕円形	28	21	62
9	D 1 d2	楕円形	35	28	43	18	D 1 e5	円形	38	35	54	27	D 1 d5	円形	30	30	47

表45 第13号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 1 i7	円形	20	20	35	3	B 1 i7	楕円形	26	18	23
2	B 1 i7	楕円形	19	16	16	4	B 1 i7	円形	30	28	20

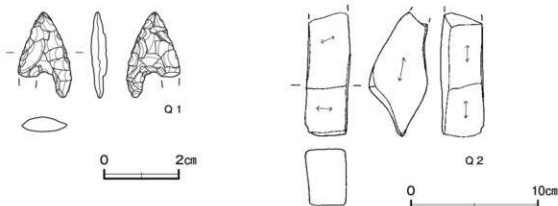
表46 第14号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 1 o3	楕円形	73	47	32	6	B 1 o2g	楕円形	65	48	15	11	B 1 o2g	楕円形	55	40	15
2	B 1 o3	[楕円形]	35	28	15	7	B 1 o2g	円形	52	45	42	12	B 1 o2g	円形	25	25	33
3	B 1 o3	円形	35	33	43	8	B 1 o2g	円形	32	30	10	13	B 1 o2g	楕円形	40	30	56
4	B 1 o3	[楕円形]	46	32	12	9	B 9 g0	楕円形	40	25	44	14	B 1 o2g	方形	24	23	10
5	B 1 o3	楕円形	30	26	36	10	B 1 o1	楕円形	62	42	14	15	B 1 o2g	楕円形	50	25	4

表47 第15号ビット群ビット計測表

番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)			番号	位置	形状	規 規 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C 1 o4	楕円形	56	38	52	7	C 1 o3g	楕円形	30	27	56	13	C 1 o3	円形	35	33	45
2	C 1 o7	楕円形	34	25	20	8	C 1 o4	円形	19	18	15	14	C 1 o2g	楕円形	33	30	22
3	C 1 o4	楕円形	25	20	20	9	C 1 o4	円形	25	23	26	15	C 1 o2g	楕円形	35	27	19
4	C 1 o4	円形	24	24	88	10	C 1 o3g	円形	20	20	20	16	C 1 o2g	楕円形	30	25	10
5	C 1 o5	楕円形	48	26	30	11	C 1 o3g	楕円形	30	27	37	17	C 1 o3g	円形	24	23	14
6	C 1 o4	楕円形	25	19	13	12	C 1 o3g	楕円形	48	28	23	18	C 1 o3g	楕円形	38	34	16

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
19	C 10c3	楕円形	30	27	35	25	C 10e2	楕円形	37	32	30	31	C 10a4	楕円形	25	22	10
20	C 10d3	円形	28	28	27	26	C 10e2	円形	33	32	10	32	C 10a4	楕円形	30	30	10
21	C 10c3	円形	25	23	30	27	C 10e2	円形	26	23	43	33	C 10c3	楕円形	31	25	15
22	C 10c3	楕円形	31	23	41	28	C 10e2	円形	43	40	14	34	C 10c3	[楕円形]	(24)	17	3
23	C 10e2	楕円形	45	33	27	29	C 10e1	円形	40	38	30						
24	C 10e2	楕円形	30	23	23	30	C 10e1	楕円形	30	25	8						



第 449 図 第 9号ピット群出土遺物実測図

第 9号ピット群出土遺物観察表 (第 449 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃	(2.26)	(1.42)	0.44	(0.84)	安山岩	凹基無基線 端部欠損	P20	PL57
Q 2	砥石	(9.3)	(3.5)	(4.7)	(17.96)	凝灰岩	普通 鑿面6面	P 6	PL58

## (3) 遺構外出土遺物 (第 450 図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、実測図と観察表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表 (第 450 図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須臾器	坏	(9.8)	3.1	(6.2)	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	体部外面下端回転ヘラ削り	表土	10% 新出産

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
2	陶器	鉢	(15.6)	(10.0)	(9.8)	長石・石英・赤色粒子・硝子(黒)	体部外面下端回転ヘラ削り・内面口クラナツ	-	不明	表土	30%
3	陶器	襷鉢	-	(4.5)	(13.0)	長石・石英・赤色粒子	17条1単位の様子目	既軸	瀬戸・美濃	表土	10%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	管状土練	(3.3)	(8.8)	0.9-1.0	(64.5)	長石・石英・赤色粒子	橙	外面に指跡痕 一部欠損	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃	2.49	1.18	0.39	0.80	瑪瑙	凹基有基線 両面押圧剥離	表土	PL57
Q 2	石鏃	1.61	1.10	0.30	0.47	安山岩	凹基無基線 両面押圧剥離	表土	PL57
Q 3	石鏃	2.48	2.00	0.46	1.33	安山岩	凹基無基線 両面押圧剥離	表土	PL57





## 第4節 ま と め

### 1 はじめに

当遺跡は、平成21年度に発掘調査を実施し、その成果は平成22年度に『茨城県教育財団文化財調査報告』第335集として報告している<sup>1)</sup>。今回の調査で、新たに縄文時代の堅穴建物跡3棟、陥し穴2基、土坑4基、古墳時代の堅穴建物跡2棟、奈良時代の堅穴建物跡5棟、井戸跡1基、土坑1基、平安時代の堅穴建物跡7棟、井戸跡2基、土坑8基、室町時代の掘立柱建物跡2棟、井戸跡1基、粘土貼土坑1基、土坑2基、江戸時代の井戸跡2基、墓坑1基、土坑3基、溝跡5条、道路跡2条を確認し、土師器や須恵器、土師質土器、陶磁器、石器、石製品、土製品、金属製品などが出土している。前回の調査と同様に、本跡が縄文時代から江戸時代までの複合遺跡であることが確認された。ここでは、前回の報告文に今回の調査結果を付け加える形で集落の様相を概観し、特徴的な遺構について触れてまとめたい。

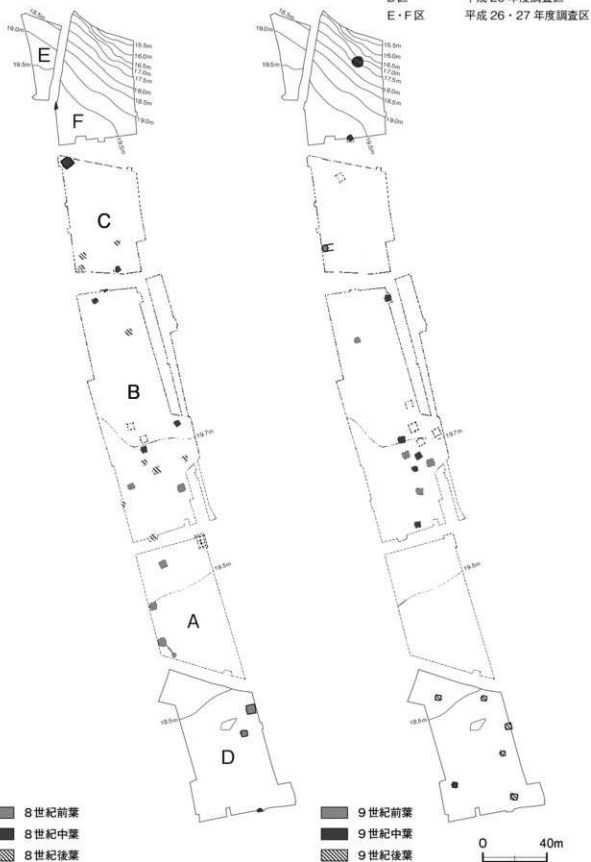
### 2 集落の様相について

前回報告分と合わせると、縄文時代の堅穴建物跡3棟、陥し穴4基、土坑4基、古墳時代の堅穴建物跡2棟、奈良時代の堅穴建物跡24棟、掘立柱建物跡3棟、連結堅穴遺構1基、井戸跡1基、土坑7基、平安時代の堅穴建物跡17棟、掘立柱建物跡5棟、井戸跡2基、土坑11基、室町時代の掘立柱建物跡4棟、方形堅穴遺構1基、井戸跡2基、土坑3基、江戸時代の井戸跡2基、墓坑1基、土坑3基、溝跡5条、道路跡2条、時期不明掘立柱建物跡3棟、井戸跡3基、土坑147基、溝跡16条、ピット群15か所である。

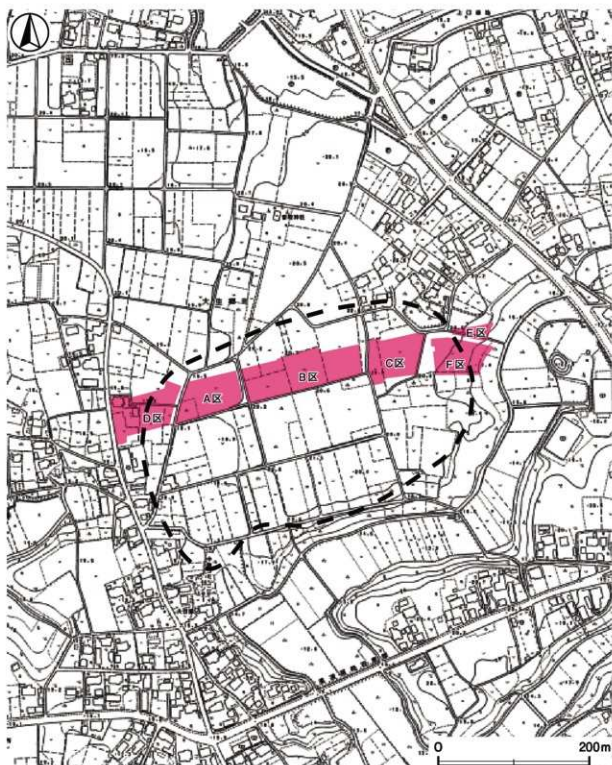
縄文時代の堅穴建物跡3棟は調査区西端の台地端部に位置している。表面採集の遺物として石礫などが出土し、周辺で陥し穴が確認されていることから、集落の端部で、狩場として利用されていたものと考えられる。

古墳時代の堅穴建物跡は2棟と少なく、一時的なものか、集落の端部と考えられる。

奈良・平安時代の集落変遷図を第451図に示した。また、調査区と遺跡の範囲及び谷部や低地のわかる地形図を第452図に示した。調査区の中央部に堅穴建物跡が集まっており、ここは周辺に比べて標高が高い場所である(第451図)。遺構の重複も少ないことから、遺跡の中心部分から少し離れた場所と考えられる。また、堅穴建物の配置を見ると、奈良時代の堅穴建物跡が東西方向に広がっているのに対して、平安時代の堅穴建物跡は南北方向に広がっている。当時の堅穴建物跡の様相は、調査区を東から見ると、奈良時代の堅穴建物跡が緩やかな傾斜地に傾斜を利用して段々に、平安時代の堅穴建物跡は同じ高さ広がってまばらに建てられている。また、調査区の西部は、中央部に比べてわずかに標高は低くなるものの、調査区の中でも平坦な場所である。ここには奈良・平安時代の堅穴建物跡が散在する。西部の標高は18～19mで、それを取り巻くように標高12～14mの谷が入り込んでいて、水田耕作に利用されたことが想像される。ここには掘立柱建物跡が集中して確認され、倉庫として最適な立地となっている。総柱の掘立柱建物跡が1棟確認され、墨書土器も出土していることから、管理者の存在とともに台地端部に倉庫群が広がっていたものと考えられる。調査区の東部は東に向かって急傾斜で低くなっていて、標高12～14mの谷が入り込んでいる。その谷の東側は再び標高20mほどの台地になっていることから、この谷もまた、水田耕作に適した地形であると考えられる。



第451図 宮原前遺跡集落変遷図



第452図 宮原前遺跡範囲と地形図

以上のことから、奈良・平安時代の集落は、鬼怒川と飯沼川に挟まれた、標高20mほどの台地上の集落の北端に位置し、東、西、南に比較的大い水田をもち、総柱建物の第1号掘立柱建物跡を中央にして、台地平坦部に住居を構え、端部に倉庫群を整えていたと特徴づけることができる。

### 3 特徴的な遺構について

前回報告分と合わせると、井戸跡は全部で10基確認された。その中で、調査区東端の標高17mほどの台地斜面部に位置している第10号井戸跡は、他の井戸跡と規模、形状や出土遺物に違いが認められる。確認面は径6.20mほどの円形で、断面形は漏斗状を呈している。そして漏斗の上半部と下半部の基部に平坦面を有し、そこに13か所のピットが巡っている。さらに、南東部には溝が掘られていて、台地東に入り込んでいる谷に向かって延びている。溝は井戸との位置関係から、排水のための掘り込みと考えられる。また、覆土中から、9世紀中葉に比定できる「ネ」と記された須恵器坏の墨書土器がほぼ完形で出土している。「祝」の一部と考えられることから、第10号井戸跡を中心に墨書土器を完形で投げ込む祭事が行われたと考えられる。同じような例が、つくば市鳥名熊の山遺跡の第204号井戸跡でも報告されている<sup>2)</sup>。

### 4 おわりに

宮原前遺跡は、第451図・452図からもわかるように、明らかにできたことは全体のごく一部にすぎない。しかし、標高20mの平坦面の範囲から、集落は南北に広がっていたことが想定される。

#### 註

- 1) 齋藤和浩「宮原前遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第335集 2011年3月
- 2) 清水哲「鳥名熊の山遺跡 鳥名・福田坪一体型特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第380集 2013年3月

# 付 章 1

## 築地遺跡出土石器・石製品の岩石肉眼鑑定

バリノ・サーヴェイ株式会社

### 1 はじめに

茨城県常総市の築地遺跡は、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地縁辺部に位置する。発掘調査によって縄文時代中期から晩期の集落跡および室町時代の遺構が確認されている。本分析調査では縄文時代の遺構内および包含層から出土した石器・石製品について岩石肉眼鑑定を実施し、利用された岩石の産地について検討した。以下にその結果を報告する。

### 2 試料

鑑定の対象とした試料は、遺構内出土が 201 点、遺物包含層出土が 114 点の計 315 点である。

遺構内出土は、礫器 8 点、石皿類 26 点、石錘 27 点、磨石類 52 点、打製石斧 17 点、磨製石斧 41 点、砥石 4 点、独鈷石 1 点、石棒・石剣類 17 点、玉類 8 点の計 201 点、遺物包含層は、石鏃 2 点、石鏃未成品 1 点、尖頭礫 1 点、礫器 10 点、石錘 21 点、磨石類 34 点、打製石斧 7 点、磨製石斧 18 点、砥石 1 点、独鈷石 2 点、線刻礫 1 点、石棒類 8 点、石剣 1 点、玉類 7 点、の計 114 点である。

器種別に見ると、石錘、磨石類、打製石斧、磨製石斧、石棒類が中心であり、それぞれ番号が付されている。各石器・石製品の詳細は岩石肉眼鑑定結果とともに、表 1 および表 2 に示す。

### 3 分析方法

岩石肉眼鑑定は野外用ルーペを用いて石製品表面の鉱物や組織の観察を行い、五十嵐（2006）の分類基準に基づき肉眼で鑑定できる範囲の岩石名を付した。なお、正確な岩石名の決定には岩石薄片作成観察、蛍光 X 線分析、X 線回折分析などを併用するが、今回は実施していないため、鑑定された岩石名は概査的な岩石名である点に留意されたい。

### 4 分析結果

鑑定結果は各遺構の遺物観察表に示した。表 1 に遺構内出土の器種別石質組成を、表 2 に遺物包含層の器種別石質組成を示した。第四紀もしくは新第三紀としたものは、岩相から第四紀や新第三紀の地質由来と判断できるものを示している。

遺構内出土の石器・石製品は、深成岩類として角閃石黒雲母花崗岩 3 点、黒雲母花崗岩 5 点、閃緑岩 1 点、細粒はんれい岩 1 点、はんれい岩 1 点、半深成岩類として、閃緑斑岩 1 点、ドレライト 8 点、花崗斑岩 2 点、火山岩類として、流紋岩 2 点、角閃石デイサイト 1 点、角閃石デイサイト（第四紀）1 点、輝石デイサイト 2 点、輝石デイサイト（第四紀）1 点、輝石角閃石安山岩 1 点、輝石安山岩 13 点、輝石安山岩（新第三紀）8 点、輝石安山岩（第四紀）28 点、安山岩 8 点、安山岩（新第三紀）5 点、安山岩（第四紀）3 点、角閃石輝石

安山岩 2点、角閃石輝石安山岩（第四紀）1点、多孔質安山岩（第四紀）2点、多孔質輝石安山岩（第四紀）3点、緻密質安山岩 1点、緻密質輝石安山岩 1点、無斑晶質安山岩 2点、スコリア質安山岩 1点、玄武岩 2点、火山砕屑岩類として、結晶質凝灰岩 2点、火山礫凝灰岩 3点、凝灰岩（新第三紀）1点、凝灰質砂岩（新第三紀）1点、堆積岩類として、砂岩 10点、砂岩（新第三紀）2点、砂質頁岩 1点、頁岩 8点、変成岩類として、董青石ホルンフェルス 1点、ホルンフェルス 6点、千枚岩 2点、砂質片岩 1点、黒雲母片岩 5点、角閃石片岩 6点、緑色片岩 8点、緑色片岩（三波川帯）1点、角閃岩 4点、変質岩類として、輝緑岩 2点、変質凝灰岩 1点、緑色岩 10点、蛇紋岩 12点、風化蛇紋岩 1点、鉱物として滑石 1点、ネフライト 1点、翡翠 1点、に鑑定された。

遺物包含層の石器・石製品は、深成岩類として、はんれい岩 4点、半深成岩類として、ドレライト 3点、火山岩類として、流紋岩（新第三紀）1点、角閃石デイサイト 1点、角閃石輝石デイサイト（第四紀）2点、輝石デイサイト 2点、角閃石輝石安山岩 2点、角閃石輝石安山岩（新第三紀）1点、角閃石輝石安山岩（第四紀）6点、無斑晶質安山岩（第四紀）2点、多孔質輝石安山岩（第四紀）1点、輝石安山岩 5点、輝石安山岩（新第三紀）4点、輝石安山岩（第四紀）13点、安山岩 6点、安山岩（第四紀）3点、火山砕屑岩類として、溶結凝灰岩 3点、凝灰岩 2点、堆積岩類として、砂岩 6点、頁岩 5点、泥質チャート 1点、変成岩類として、董青石ホルンフェルス 1点、ホルンフェルス 6点、粘板岩 3点、千枚岩 2点、泥質片岩 1点、角閃石片岩 2点、緑色粘板岩 1点、緑色片岩 7点、変質岩類として、緑色岩 4点、輝緑岩 3点、蛇紋岩 7点、鉱物として、玉髄 2点、滑石 1点、翡翠 1点、に鑑定された。

## 5 考察

築地遺跡周辺の地質について、日本の地質「関東地方」編集委員会編（1986）、須藤ほか（1991）、山元ほか（2000）、吉岡ほか（2001）に基づき述べる。築地遺跡が立地するのは鬼怒川右岸の台地緑地部上であり、今回の出土した石器・石製品には、鬼怒川水系の地質に由来する礫が使用されていると考えられる。

鬼怒川流域には、白亜系～古第三紀、新第三紀、第四紀火山などの地質が分布している。上流域では、前期白亜紀～古第三紀にかけて活動した珪長質火砕岩類が分布する。後期白亜紀末から古第三紀前半の珪長質火成岩類は、中禅寺湖周辺から南東部の栃木県塩谷町周辺に分布する奥日光流紋岩類と各地に分布する花崗岩、花崗閃緑岩、花崗斑岩および花崗閃緑斑岩などの貫入岩からなる。奥日光流紋岩類は膨大な流紋岩・デイサイト溶結火砕流堆積物からなり、流紋岩溶岩、礫岩および砂岩を伴っている。このほか、花崗岩や花崗閃緑岩からなる沢入型花崗岩が分布している。足尾山地には中・古生層の年代を示す足尾帯が分布し、足尾帯を構成する地質は足尾層群であり、堅硬な頁岩、砂岩、チャートなどの堆積岩類を主要岩とし、石灰岩や緑色岩類を伴う。また、花崗岩類の貫入によって泥岩を源岩とするホルンフェルスが生じている。

また、鬼怒川左岸に位置する筑波山周辺にはジュラ紀の砂岩、泥岩、チャートなどから構成される八溝層群、後期白亜紀～前期新第三紀の花崗岩、はんれい岩が分布する。花崗岩の貫入に伴って、八溝層群にホルンフェルスが生じている。

新第三紀の地質としては下部中新統が認められ、栃木県塩原町周辺から宇都宮市周辺に分布する。珪長質の溶岩・火砕岩を主体とし、少量の玄武岩・安山岩火砕岩と非火山性の礫岩、砂岩および泥岩を伴っている。第四紀火山は、鬼怒川流域に女峰赤嶺火山、男体火山などの日光火山群のほか、高原山が分布している。これらの火山は、玄武岩・安山岩・デイサイト溶岩・火砕岩を構成物としている。他方、群馬県下では、赤城火山や武蔵山の活動が知られている。赤城火山は、輝石安山岩およびデイサイトからなり、武蔵山は前期更

表1 遺構内出土石製品器種別石質組成

	輝石	石炭	石綿	磨石	砥石	打製 石斧	磨製 石斧	類結 石	石棒	玉類	玉	合計
深成岩類												
角閃石黒雲母花崗岩	2		1									3
黒雲母花崗岩	5											5
閃緑岩							1					1
細粒はんれい岩			1									1
はんれい岩							1					1
半深成岩類												
花崗斑岩							2					2
閃緑斑岩							1					1
ドレクタイト						1	7					8
火山岩類												
流紋岩			2									2
角閃石デイサイト	1											1
角閃石デイサイト(第四紀)			1									1
輝石デイサイト			1	1								2
輝石デイサイト(第四紀)			1									1
輝石角閃石安山岩							1					1
輝石安山岩	1	4	7		1							13
輝石安山岩(新第三紀)	1	1	3		2	1						8
輝石安山岩(第四紀)	2	4	3	18				1				28
安山岩	2	4	1		1							8
安山岩(新第三紀)	1		2		1	1						5
安山岩(第四紀)			2	1								3
角閃石輝石安山岩			1	1								2
角閃石輝石安山岩(第四紀)			1									1
多孔貫輝石安山岩(第四紀)			2									2
多孔貫輝石安山岩(第四紀)			3									3
細密貫輝石安山岩	1											1
細密貫輝石安山岩					1							1
無塵品貫安山岩(第四紀)					1							1
無塵品貫安山岩			1									1
スコリア貫安山岩	1											1
玄武岩							2					2
火山砕屑岩類												
結晶貫輝岩		2										2
火山碎屑岩	1	1	1									3
輝岩(新第三紀)			1									1
輝岩質砂岩(新第三紀)	1											1
堆積岩類												
砂岩		3	5	2								10
砂岩(新第三紀)	1			1								2
砂質頁岩		1										1
頁岩		2				2	4					8
変成岩類												
黒雲石ホルンフェルス					1							1
ホルンフェルス			2		3	1						6
千枚岩									2			2
砂質片岩					1							1
黒雲母片岩		5										5
角閃石片岩						1		5				6
緑色片岩				1				7				8
緑色片岩(三渡川帯)								1				1
角閃岩							2		2			4
変質岩類												
輝緑岩			1			1						2
変質緑岩									1			1
緑色岩	1	3				5		1				10
風化蛇紋岩						1						1
蛇紋岩						9			3			12
鉱物												
滑石									1			1
ネフタイト										1		1
翡翠									1			1
合計	8	26	27	52	4	17	41	1	17	7	1	203

表2 遺物包含層出土石製品器種別石質組成

	石鏃	石鏃 未成 品	矢頭 器	礮器	打製 石斧	磨製 石斧	磨石 類	石鏢	砥石	掘削 石	線刷 礮	石 製?	石棒 類	玉類	合計
深成岩類															
はんれい岩					1	1				2					4
半深成岩類															
ドレライト					1	1	1								3
火山岩類															
流紋岩(新第三紀)			1												1
角閃石アイサイト						1									1
角閃石輝石アイサイト(第四紀)						1	1								2
輝石アイサイト							2								2
角閃石輝石安山岩				1		1									2
角閃石輝石安山岩(新第三紀)							1								1
角閃石輝石安山岩(第四紀)			1			4	1								6
無極品質安山岩(第四紀)								1			1				2
多孔質輝石安山岩(第四紀)							1								1
輝石安山岩			2		1	1	1								5
輝石安山岩(新第三紀)					1	1	2								4
輝石安山岩(第四紀)			2			10	1								13
安山岩			3	1			2								6
安山岩(第四紀)						1	2								3
火山砕屑岩類															
溶結凝灰岩			2				1								3
凝灰岩						1	1								2
堆積岩類															
砂岩					1	3	1	1							6
頁岩	1			1		1	2								5
泥質チャート		1													1
変成岩類															
菅青石ホルンフェルス						1									1
ホルンフェルス				3		1	1						1		6
粘板岩				1	1	1									3
千枚岩						1	1								2
泥質片岩							1								1
角閃石片岩												1	1		2
緑色粘板岩												1			1
緑色片岩					1						1	4			6
緑色片岩(三波川帯)												1			1
変質岩類															
輝緑岩					2	1									3
緑色岩					4										4
蛇紋岩					4								3		7
鉱物															
玉髄	1													1	2
滑石														1	1
翡翠														1	1
合計	2	1	1	10	7	18	34	21	1	2	1	1	8	7	114

新世の安山岩溶岩・火砕岩からなる。

上述の築地遺跡周辺の地質概要に基づき、本分析調査で鑑定された石材について述べる。

深成岩類の角閃石黒雲母花崗岩、黒雲母花崗岩、閃緑岩、はんれい岩は、石皿類、磨石類、磨製石斧などに使用されている。筑波山周辺に分布する筑波花崗岩、稲田花崗岩、はんれい岩類に由来すると考えられる。半深成岩類の花崗斑岩、閃緑岩、ドレライトは、打製石斧、磨製石斧に使用されており、上記の深成岩類と同様の地質に由来すると考えられる。第45号竪穴建物跡Q1の磨製石斧に使用されている花崗斑岩は、奥日光流紋岩類を構成する珪長質火山岩類に由来する可能性が指摘される。

火山岩類の流紋岩は、奥日光流紋岩類に由来すると考えられるほか、新第三紀の地質に由来すると考えられる。アイサイト、輝石安山岩を主体とする安山岩類は、礮器、石皿類、石鏢、磨石類、打製石斧、磨製石斧などに使用されている。女峰赤嶺火山、男体火山などの日光火山群のほか、高原山、赤城山などの第四紀火山の噴出物に由来するものと、新第三紀の地質に由来するものが混在している。新第三紀の地質に由来するものは、基質が緑色を帯びる。



無斑晶質安山岩、無斑晶緻密質安山岩は、森嶋ほか（2006）によれば、鬼怒川、姿川、田川などの栃木県下の河川の河床礫や露頭する礫層から発見されている。このような河床礫や礫層中の礫を利用した可能性が指摘できる。

火山砕屑岩類の凝灰岩類は、礫器、石皿類、石鍾、磨石類などに使用されており、新第三紀の地質に由来するものと、奥日光流紋岩類に由来する堅硬緻密質のものが認められる。奥日光流紋岩類に由来する岩石は溶結組織を示し、石英や長石類の鉱物片に富み、基質は脱ガラス化している岩相を示す。

堆積岩類の砂岩、頁岩は、足尾層群や八溝層群に由来すると考えられる。新第三紀の岩相を示す砂岩類は、鬼怒川水系に分布する新第三系に由来すると考えられる。

変成岩類のホルンフェルス、粘板岩、黒雲母片岩、角閃石片岩、緑色片岩などは、石皿類、打製石斧、磨石類、石棒などに使用されている。粘板岩は、泥岩や頁岩の熱変成により生じている岩石で、足尾山地や八溝山地に分布する頁岩に伴って分布する岩石である。緑色片岩や黒雲母片岩は、茨城県高貫地域に分布する日立変成岩や、荒川上流域の埼玉県秩父郡長瀬に分布する三波川変成岩類に由来すると考えられる。角閃石片岩は、角閃石斑晶が定向配列を示す岩相を示し、茨城県高貫地域に分布する日立変成岩類に由来すると考えられる。

変質岩類の輝緑岩、緑色岩、蛇紋岩は、石鍾、磨製石斧、玉類などに使用されている。輝緑岩は、ドレライトが変質して生じた岩石で、ドレライトと同様の産地が推定される。緑色岩は、軟質岩のため、下流域では礫として採取することは困難である。そのため、原産地の付近で採取され持ち込まれたと考えるのが自然である。埼玉県長瀬地区、茨城県常陸太田市に分布するため、これらの地域から搬入された可能性が高い。蛇紋岩は緑色を帯びており、蛇紋岩の源岩となるかんらん石の組織の残存が観察される。緑色岩と同様の産地が推定される。

鉱物の玉髄は石鉄に使用されている。一般的には花崗岩や流紋岩などの細脈や晶洞部に充填して生じる鉱物であり、産地の特定は困難である。ネフライト、滑石、ヒスイは、玉類や玉に使用されている。滑石は、蛇紋岩が変質して生じた岩石で、蛇紋岩の産地からの移入が推測される。本遺跡周辺の産地としては、埼玉県長瀬地区、茨城県常陸太田市が挙げられる。ネフライトは、アクチノ閃石-透閃石を主成分鉱物とする鉱物であり、緑色片岩などに伴って産するため、緑色片岩と同様の産地が推定される。翡翠は、新潟県糸魚川市姫川や青海川の流域に多産する。本遺跡周辺には分布しないため、これらの産地から本遺跡に持ち込まれたと判断できる。

#### 引用文献

- 五十嵐俊雄、2006、考古資料の岩石学、パブリコ・サーヴェイ株式会社、194p
- 森嶋秀一・布川嘉英・竹下欣宏、2006、栃木県域における黒色安山岩の産地に関する諸問題、栃木県立博物館研究紀要・人文-23、29-52
- 日本の地質「関東地方」編集委員会編、1986、日本の地質3 関東地方、共立出版株式会社、335p
- 須藤定久・教本 博・秦 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男、1991、20万分の1地質図幅「宇都宮」、地質調査所
- 山元孝広・滝沢文教・高橋 浩・久保和也・駒澤正夫・広島俊男・須藤定久、2000、20万分の1地質図幅「日光」、産業技術総合研究所地質調査総合研究センター
- 吉岡敏和・滝沢文教・高橋雅紀・宮崎一博・坂野靖行・柳沢幸夫・高橋 浩・久保和也・関 陽児・駒澤正夫・広島俊男、2001、20万分の1地質図幅「水戸」、産業技術総合研究所地質調査総合研究センター

図版1 岩石



1. SI004 Q3 磨製石斧 ドレライト



2. SI006 Q6 磨製石斧 蛇紋岩



3. SI005 Q4 打製石斧 ホルンフェルス



4. C6d8 3 石棒類 角閃石片岩



5. SI004 Q2 磨製石斧 蛇紋岩



6. SI047 Q5 玉類 翡翠

# 付 章 2

## 築地遺跡出土黒曜石の産地同定

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

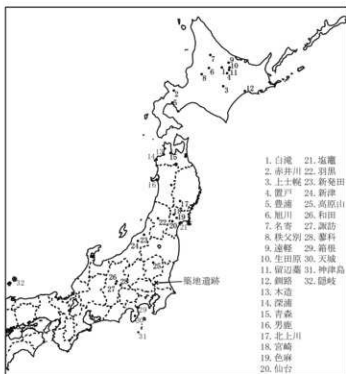
### 1 はじめに

常総市大輪町字築地に所在する築地遺跡から出土した縄文時代後期～晩期の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

### 2 試料と方法

築地遺跡内で黒曜石製の素材・製品の出土は少なく、遺構内出土の製品類は10数点程度である。そのうち、確実に出土位置や時期が把握できる石器を中心に、分析対象試料が選択された。また、石核や剥片も少なく、分析には時期の明らかなもの、見た目では含有物に違いがありそうなものが選択された。分析対象試料は、黒曜石製の石鏃6点、加工痕のある剥片1点、石核5点の、計12点である(表1)。試料は、測定前にメラミンフォーム製スポンジと精製水を用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検



第1図 黒曜石産地分布図(東日本)

表1 分析対象となる黒曜石製石器

分析No.	出土遺構	図表番号	器種	質量 (mm, g)				時期	備考
				長さ	幅	厚さ	重量		
1	S I 33 2区1 x	Q 3	石鏃	167	129	3.6	0.7	縄文時代後期前期～前期中葉～後葉	2割重製
2	S I 36	Q 1	石鏃	216	130	5.1	1.3	縄文時代後期後葉安行1式	
3	S I 41 1区2 x	Q 11	石鏃	181	139	4.1	0.6	縄文時代後期後葉安行1式	
4	S R 55	Q 1	石鏃	149	164	4.6	0.8	縄文時代後期後葉中葉	詳細不明
5	S R 57 x 4	Q 1	石鏃	118	21.6	5.4	1.2	縄文時代後期中葉～後葉	
6	S I 6	Q 1	石鏃	17.0	14.0	3.0	0.7	縄文時代後期後葉安行2式	
7	H G 2	Q 19	加工痕のある剥片	44.9	20.5	17.3	13.4	縄文時代後期後葉～晩期前葉主俵	
8	S I 4	掲載外	石核	22.1	18.5	13.5	7.5	縄文時代晩期前葉～中期安行2式～3式	
9	S R 2 x	掲載外	石核	36.5	26.5	18.5	17.7	縄文時代後期後葉安行1式	
10	S I 41	掲載外	石核	29.5	22.0	21.5	17.6	縄文時代後期後葉安行1式	
11	S I 41 2 x	掲載外	石核	18.5	41.5	14.0	17.6	縄文時代後期後葉安行1式	
12	S I 20 2区2 x	掲載外	石核	21.0	29.5	18.5	13.4	縄文時代後期後葉安行1式	

出器である。測定条件は、測定時間 100sec、照射径 8mm、電圧 50kV、電流 1000  $\mu$ A、試料室内雰囲気は真空中に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光 X 線分析による X 線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月, 1999 年など)。本方法では、まず各試料を蛍光 X 線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計 7 元素の X 線強度 (cps: count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb 分率 = Rb 強度  $\times$  100 / (Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度)
- 2) Sr 分率 = Sr 強度  $\times$  100 / (Rb 強度 + Sr 強度 + Y 強度 + Zr 強度)
- 3) Mn 強度  $\times$  100 / Fe 強度
- 4)  $\log$  (Fe 強度 / K 強度)

次に、これらの指標値を用いた 2 つの判別図 (横軸 Rb 分率 - 縦軸 Mn 強度  $\times$  100 / Fe 強度の判別図と横軸 Sr 分率 - 縦軸  $\log$  (Fe 強度 / K 強度) の判別図) を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。この方法は、できる限り蛍光 X 線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合は、 $\log$  (Fe 強度 / K 強度) の値が減少する点に注意が必要である(望月, 1999)。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表 2 に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図 1 に各原石の採取地の分布図を示す。

### 3 分析結果

表 3 に石器の測定値および算出した指標値を、図 2 と図 3 には黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んである。

分析の結果、3 点が甘湯沢群 (栃木県、高原山エリア)、1 点が西餅屋群と鷹山群と小深沢群の重複域 (ともに長野県、和田エリア)、3 点が屋ヶ台群 (長野県、諏訪エリア)、4 点が恩馳島群 (東京都、神津島エリア) の範囲にプロットされた。分析 No.10 は、図 2 では甘湯沢群の範囲にプロットされ、図 3 では甘湯沢群の下方にあたる位置にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ(望月,

表 2 東日本黒曜石産地の判別群

産地判別群	エリア	判別群名	産地採取地	
北海道	内陸	内陸 1	本谷山遺跡(2)、八雲沢遺跡(1)	
		内陸 2	7 の沢(1)、大森(2)、秋田遺跡(10)、(1) 帯の沢遺跡、下河原(1)、アツサイの滝遺跡(10)、(2) 沢、観地遺跡(10)	
	海岸	海岸	高田、上本町(2)	
	土佐	土佐	十勝三股(4)、タラシヤ(1)、タラシヤ(1)、タラシヤ(1)、タラシヤ(1)	
	釧路	釧路	釧路(1)	
		釧路	釧路(1)	
		釧路	釧路(1)	
		釧路	釧路(1)	
	青森	内陸	内陸	内陸(1)
			内陸	内陸(1)
海岸		海岸	海岸(1)	
		海岸	海岸(1)	
秋田		秋田	秋田(1)	
		秋田	秋田(1)	
		秋田	秋田(1)	
		秋田	秋田(1)	
岩手		北上山	北上山(1)	
		北上山	北上山(1)	
	北上山	北上山(1)		
	北上山	北上山(1)		
宮城	宮城	宮城(1)		
	宮城	宮城(1)		
	宮城	宮城(1)		
	宮城	宮城(1)		
山形	山形	山形(1)		
	山形	山形(1)		
	山形	山形(1)		
	山形	山形(1)		
福島	福島	福島(1)		
	福島	福島(1)		
	福島	福島(1)		
	福島	福島(1)		
長野	北山	北山	北山(1)	
		北山	北山(1)	
	東山	東山	東山(1)	
		東山	東山(1)	
	南山	南山	南山(1)	
		南山	南山(1)	
	西山	西山	西山(1)	
		西山	西山(1)	
	東山	東山	東山(1)	
		東山	東山(1)	
神奈川	神奈川	神奈川(1)		
	神奈川	神奈川(1)		
	神奈川	神奈川(1)		
	神奈川	神奈川(1)		
群馬	群馬	群馬(1)		
	群馬	群馬(1)		
	群馬	群馬(1)		
	群馬	群馬(1)		
東京	東京	東京(1)		
	東京	東京(1)		
	東京	東京(1)		
	東京	東京(1)		
栃木	栃木	栃木(1)		
	栃木	栃木(1)		
	栃木	栃木(1)		
	栃木	栃木(1)		

表3 測定値および産地推定結果

分析 No.	Al 含量	Mn 含量	Fe 含量	Sb 含量	Sr 含量	Zn 含量	U 含量	Mo/100 Fe	Sr 分析	log Fe K	判別群	エリア	分析 No.
1	286.1	114.4	1405.7	755.7	267.7	374.7	734.7	35.10	10.34	13.57	尾ヶ台	諏訪	1
2	271.7	119.3	1486.1	362.6	484.3	377.2	761.7	30.18	7.96	24.69	高尾山	神津島	2
3	135.4	82.1	1091.7	252.5	399.4	193.7	558.4	19.07	7.77	27.14	高尾山	神津島	3
4	294.7	117.9	1125.3	725.9	273.7	363.6	699.4	35.29	10.47	13.30	尾ヶ台	諏訪	4
5	304.8	90.9	1025.4	271.4	339.6	210.7	329.4	31.22	7.89	24.63	高尾山	神津島	5
6	353.3	53.0	446.5	503.1	30.5	207.1	262.1	30.17	14.82	3.04	高尾山 or 小坂沢	諏訪	6
7	233.2	121.1	1515.5	383.8	495.3	308.4	772.6	19.56	7.99	25.27	高尾山	神津島	7
8	216.6	110.9	3612.8	524.4	620.8	493.9	1260.2	16.65	3.07	22.08	甘湯沢	高尾山	8
9	179.9	72.1	659.7	456.7	181.7	242.8	470.3	33.79	10.93	13.44	尾ヶ台	諏訪	9
10	457.3	596.1	2392.2	661.6	467.8	1373.8	194.1	3.25	22.02	0.89	甘湯沢	高尾山	10
11	154.5	71.8	2129.5	491.4	498.5	311.9	921.1	16.72	3.27	23.30	甘湯沢	高尾山	11
12	298.1	113.5	3270.0	410.0	712.9	456.1	1415.8	19.00	3.18	22.31	甘湯沢	高尾山	12

1999), 甘湯沢群である可能性が高い。表3に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

表4に器種別の、表5に時期および器種別の黒曜石の産地を示す。今回選択した石器では、石核は、高原山産が5点中4点を占め、残り1点は諏訪産であった。一方、石鏃は6点のうち神津島産が3点、諏訪産が2点、和田産が1点であった。加工痕のある剥片1点は、神津島産であった。

#### 4 おわりに

築地遺跡より出土した縄文時代後期～晩期の黒曜石製石器12点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、4点が高原山エリア、1点が和田エリア、3点が諏訪エリア、4点が神津島エリア産の黒曜石と推定された。

#### 引用文献

望月明彦 (1999) 上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定. 大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」: 172-179. 大和市教育委員会

表4 器種別の黒曜石産地

器種	高原山	和田	諏訪	神津島	計
石鏃	1	2	3	6	
加工痕のある剥片			1	1	
石核	4	1	1	5	
計	4	1	3	4	12

表5 時期・器種別の黒曜石産地

時期	器種	高原山	和田	諏訪	神津島	計	
縄文時代	後期前期～前期	石鏃		1		1	
	後期中期～後期	小片	0	0	1	0	1
	前期	石鏃				1	1
		小片	0	0	0	1	1
	中期	石鏃				1	1
		小片	3				3
	後期	小片	3	0	0	1	4
		石鏃				1	1
	実行1式	石核			1		1
		小片	0	0	1	1	2
	代	石鏃		1			1
		小片	0	1	0	0	1
後期	後期前期～中期	加工痕のある剥片			1	1	
	後期前期～中期	小片	0	0	0	1	1
	後期前期～中期	石核	1				1
	実行3b～3c式	小片	1	0	0	0	1
	不明	石鏃			1		1
	小片	0	0	1	0	1	
計		4	1	3	4	12	



# 付 章 3

## 築地遺跡出土アスファルト付着礫塊

藤根 久 (パレオ・ラボ)

### 1 はじめに

築地遺跡は、茨城県常総市大輪町字築地754-1ほかに所在する縄文時代と室町時代の遺跡である。遺跡は、常総市の中央部、鬼怒川右岸の標高約20mの台地縁辺部に立地する。調査では、黒色物が付着した礫の集合塊が出土し、この黒色付着物がアスファルトである可能性が考えられた。ここでは、この黒色付着物の材質について検討した。

### 2 試料と方法

分析試料は、礫塊に付着した黒色物1点である(表1、図版1)。分析は、赤外分光分析とアスファルトを判定するクロロホルム溶融試験を行った。

分析No.	試料	調査区	遺構名	層位	時期	特徴	備考
1	礫塊の黒色付着物	C6e5区	第2号遺物包含層	2x(第1層)	後期縄文～ 晩期前手	黒色の多い 新圃光沢あり	砂粒物含む 重量53.36g

試料は、礫表面に付着する黒色物から手術用メスを用いて小片を採取した。小片の一部を厚さ1mm程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に押しつぶし、油圧プレス器を用いて約7トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計(日本分光(株)製FT/IR-410, IRT-30-16)を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定し、天然アスファルトの吸収スペクトルと比較した。

クロロホルム溶融試験(高妻ほか, 2011)は、クロロホルム(chloroform:純正一級, 純正化学株式会社製, CHCl<sub>3</sub>)を用いた。方法は、採取した小片を蒸発皿に入れ、クロロホルム試薬を数滴加え、30分程度放置した。

### 3 結果及び考察

以下に、クロロホルム溶融試験と赤外分光分析の結果について述べる。赤外吸収スペクトル図(図版1-4)は、縦軸が透過率(%R)、横軸が波数(Wavenumber (cm<sup>-1</sup>);カイザー)を示す。なお、スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は天然アスファルトの主な赤外吸収位置(表2)を示す。

[分析No.1(礫塊の黒色付着物)]

黒色物は、礫塊のほぼ全体に付着し砂粒物を含む。表面は光沢がないが、破断面には光沢がある。構成する礫は、最大17mm程度の亜角礫～亜円礫である(図版1-1a～2b)。

表1 天然アスファルトの赤外吸収位置とその強度

吸収No.	天然アスファルト(新潟市鎌倉新田)		
	位置	強度	成分
1	3428.81	95.216	OH基
2	3046.98	93.274	
3	2950.55	78.901	メチル基(CH <sub>3</sub> )または
4	2923.56	74.875	
5	2863.77	84.925	メチレン基(CH <sub>2</sub> )
6	1691.27	97.445	カルボニル基(C=O)
7	1602.56	89.497	
8	1452.14	82.347	δ CH <sub>2</sub> 基
9	1376.93	88.265	δ sCH <sub>3</sub> 基
10	1033.66	96.933	S=O基またはC-O基
11	873.60	94.069	芳香族または多核芳香族のδ CH
12	811.88	94.382	
13	748.25	92.843	

小片のクロロホルム溶融試験では、クロロホルムを滴下した瞬間に溶融した（図版1-3a・3b）。

赤外分光分析では、ヒドロキシル基（OH；吸収No. 1）やメチル基またはメチレン基（CH 3またはCH 2；吸収No. 2～4）の吸収が確認された。また、カルボニル基（吸収No. 6）、 $\delta$  CH 2基（吸収No. 8）や $\delta$  sCH 3基（吸収No. 9）などの天然アスファルトを特徴づける吸収が確認された。なお、芳香族または多核芳香族の $\delta$  CH（吸収No.11～13）の吸収は明瞭ではなかった（図版-4）。

以上のクロロホルム溶融試験と赤外分光分析の結果から、この黒色付着物はアスファルトと同定される。このアスファルトは、隙間を埋めて接着剤として礫塊を形成していると考えられる。

#### 引用文献

高妻洋成・赤田昌倫・本多貴之「津関遺物の調査」『漆下遺跡 第4分冊 自然科学分析・まとめ編』pp112-120 秋田県教育委員会 2011年



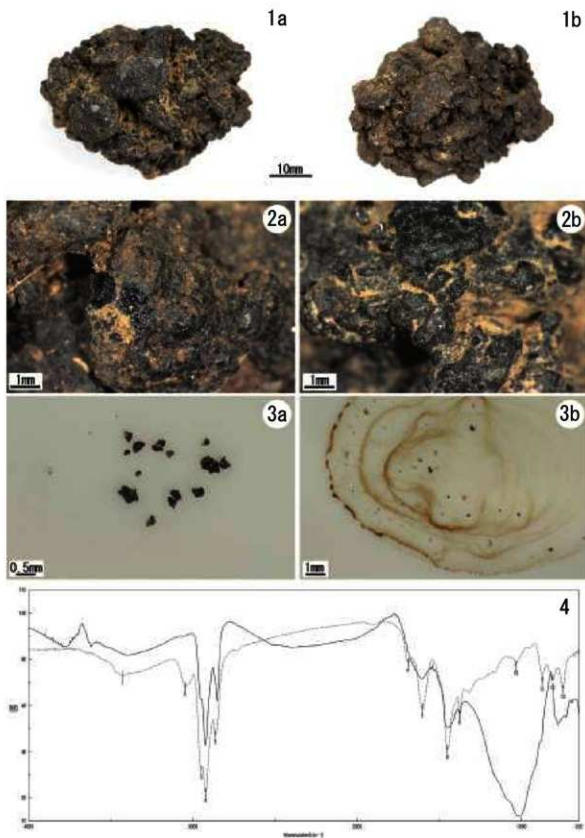


図1 黒色付着アスファルトとクロロホルム溶解試験および赤外分光スペクトル図

1a・1b.黒色付着アスファルト 2a・2b.同拡大写真 3a・3b.クロロホルム溶解試験の前後 4.赤外分光スペクトル図（実線：黒色付着物、点線と数字：天然アスファルトとその吸収位置）

# 付 章 4

## 築地遺跡出土土器の胎土分析

藤根 久 米田恭子 (パレオ・ラボ)

### 1 はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかし例えば胎土中に含まれる岩石片の鉱物組成から、その砂粒物が示す地域がいずれであるかを推定するのは容易ではない。

土器などの焼物は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材で構成されるが、粘土材料は比較的良質と思える粘土層から採取されたことが、粘土採掘坑の調査から推察される(藤根・今村, 2001)。また、粘土自体に珪藻化石やプラント・オパール、放散虫化石が混在している場合があり、材料として使用した粘土が生成された時の環境を示す。

一方、混和材としての砂粒物は、このような粘土層からの粘土採取の際に、粘土層の上下層や周辺に分布する砂層などから採取したと予想される。東海地域では、弥生時代後期の赤彩されたパレススタイル土器が知られているが、パレススタイル土器のうち3分の1程度は、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれている(藤根, 1998; 車崎ほか, 1996)。これらの火山ガラスは、粘土採取場所の上下層や周辺に分布するテフラ層と考えられる。このように胎土分析においては、粘土や混和材について、微化石やテフラなどの鉱物を含めての検討が必要であり、粘土や砂粒物、混和物の特徴について調べたうえで、周辺地質と比較・検討する必要がある。

築地遺跡は、茨城県常総市大輪町字築地 754-1 ほかにある、縄文時代および室町時代の遺跡である。遺跡は、常総市の中央部、鬼怒川右岸の標高約 20 m の台地縁部に立地する。発掘調査では、堅穴建物跡、掘立柱建物跡、粘土採掘坑、土坑などが検出された。ここでは、縄文時代後晩期の深鉢や壺、製塩土器について、薄片の偏光顕微鏡観察を行い、粘土の種類と砂粒組成等の特徴を調べ、土器の胎土材料について検討した。

### 2 試料と方法

試料は、築地遺跡から出土した深鉢 8 点、浅鉢 1 点、壺 4 点、注口 1 点、製塩土器 2 点、粘土塊 1 点の、合計 17 点である(表 1)。

試料は、薄片を作るために、まず岩石カッターを用いて整形し、恒温乾燥機により乾燥させた。次に、全体にエポキシ系樹脂を含浸させて固化処理を行い、スライドガラスに接着した。薄片作製面は、平滑にしてエポキシ系樹脂で固化処理を行い、精密岩石薄片作製機およびガラス板を用いて研磨した。その後、厚さ 0.1mm 程度に切斷した後、さらに研磨して、厚さ 0.02mm 前後の薄片を作製した。最後に、仕上げとしてコーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡を用いて薄片全面に含まれる微化石類(放散虫化石、珪藻化石、骨針化石など)、鉱物、大型砂粒の特徴、その他の混和物等について、観察と記載を行った。なお、ここで採用した微化石類や岩石、鉱物の各分類群の特徴は、以下の通りである。

[放散虫化石] 放散虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムま

表1 築地遺跡の土器試料とその詳細

分析No.	出土地点	種類/器種	土器型式	備考	薄片作製時の切断面の特徴
1	HG2-1515	深鉢	甗付土器第3段階		にぶい黄褐色 (10YR 5/4)
2	HG2-178	壺	甗付土器第3段階	第2段階の可能性あり	黄褐色 (10YR 5/6)
3	HG2-379	深鉢	甗付土器第4段階		黒色 (10YR 1.7/1)
4	HG2-1511/1516	深鉢	甗付土器第4段階	晩期初頭の可能性あり	黒色 (10YR 4/6)
5	HG2-1356	壺	大割B 2式	安行3a式の様相が見られる	黄褐色 (10YR 5/6)
6	HG2-54	壺	大割B C式		黒褐色 (10YR 2/2)
7	HG2-1151	壺	大割B 2式	安行3a式の様相が見られる	黒褐色 (10YR 2/2)
8	HG2-381	洗鉢	大割C 1式	安行3a式の様相が見られる	黒色 (10YR 2/1)
9	HG2-1516	注口	安行2式		にぶい黄褐色 (10YR 5/4)
10	HG2-57	深鉢	雄山II式		褐色 (10YR 4/4)
11	HG2-1527	深鉢	安行3c式		黒褐色 (2.5Y 3/2) ~ 黄褐色 (2.5Y 5/6)
12	HG2-1511/1516	深鉢	粗製 付点継文系		明褐色 (7.5YR 5/6)
13	HG2-1397	深鉢	粗製 継文系		黄褐色 (10YR 5/8)
14	HG2-1125	深鉢	粗製 条線文系		黄褐色 (10YR 5/8)
15	S16-23	製瓦 深鉢		安行2式期の住居跡から出土	明褐色 (7.5YR 4/6)
16	S16-163	製瓦 深鉢		安行2式期の住居跡から出土	黒色 (10YR 1.7/1) ~ 黄褐色 (10YR 4/6)
17	粘土採取坑	粘土塊		遺跡内の粘土採取坑から採取した粘土塊	明褐色 (10YR 5/6)、部分的に赤色

たは珪酸からなる。放射虫化石は、海生浮遊性珪藻化石とともに外洋性堆積物中に含まれる。

〔珪藻化石〕珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、大きさは10～数百 $\mu$ m程度である。珪藻は、海水域から淡水域に広く分布する。小杉(1988)や安藤(1990)は、現生珪藻に基づいて環境指標種群を設定し、具体的な環境復原を行っている。ここでは、種あるいは属が同定できる珪藻化石(海水種、淡水種)を分類した。

〔骨針化石〕海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状である。海綿動物の多くは海水産であるが、淡水産も23種ほどが知られ、湖や池、川の底に横たわる木や貝殻などに附着して生育する。したがって、骨針化石は水成環境を指標する。

〔植物珪酸体化石〕主にイネ科植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、長径約10～50 $\mu$ m前後である。一般にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本やスゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在する。

〔胞子化石〕胞子は、直径約10～30 $\mu$ m程度の珪酸質の球状粒子である。胞子は、水成堆積物中に多く見られるが、土壌にも含まれる。

〔石英・長石類〕石英および長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち、後述する双晶などのように、光学的特徴をもたないものは石英と区別するのが困難な場合が多く、一括して扱う。

〔長石類〕長石は、大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)に見られることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石は、花崗岩などケイ酸分の多い深成岩などに産出する。

〔雲母類〕一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で、風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状に剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。花崗岩などケイ酸分の多い火成岩に普遍的に産し、変成岩類や堆積岩類にも産出する。

〔輝石類〕主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石(主に紫蘇輝石)は、肉眼ではビールのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。ケイ酸分の少ない深成岩類や火山岩類、ホル

ンフェルスなどのような高温で生じた変成岩類に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼では緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてケイ酸分の少ない火山岩類や、ケイ酸分の最も少ない火成岩類や変成岩類中にも産出する。

〔角閃石類〕主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は、細長く平たい長柱状である。閃緑岩のような、ケイ酸分が中間的な深成岩類や変成岩類、火山岩類に産出する。

〔ガラス質〕透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄く湾曲したガラス（バブル・ウォール型：記載ではバブル型と略す）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山噴火により噴出した噴出物（テフラ）である。

〔片理複合石英類〕石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、片理構造を示す岩石である。雲母片岩や結晶片岩、片麻岩や粘板岩などと考えられる。

〔砂岩質・泥岩質〕石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、基質部分をもつ。構成粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質、約0.06mm未満のものを泥岩質とした。

〔複合石英類〕複合石英類は、石英が集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は、粗粒から細粒までさまざまである。ここでは便宜的に、粒径が0.01mm未満の粒子を微細、0.01～0.05mmの粒子を小型、0.05～0.10mmの粒子を中型、0.10mm以上の粒子を大型と分類した。微細結晶の集合体である場合には、堆積岩類のチャートなどに見られる特徴がある。

〔斑晶質・完晶質〕斜長石や輝石・角閃石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなる岩石である。直交ニコルの観察において結晶度が高い岩石片である。

〔流紋岩質〕石英や長石などの結晶からなる斑晶構造を示し、基質は微細な鉱物やガラス質物からなり主に流理構造を示す岩石である。

〔凝灰岩質〕ガラス質で斑晶質あるいは完晶質構造を持つ粒子のうち、直交ニコルの観察において結晶度が低く、全体的に暗い岩石片である。

〔不明粒子〕下方ボーラーのみ、直交ボーラーのいずれにおいても不透明な粒子や、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明粒子とした。

### 3 結果および考察

以下に、土器薄片の偏光顕微鏡観察による結果を述べる。粒子組成は、微化石類や岩石片、鉱物を記載するために、プレバラート全面を精査した。以下では、粒度組成や、0.1mm前後以上の岩石片・鉱物の砂粒組成、微化石類などの記載を示す。なお、表2における不等号は、量比の概略を示す。また、表3の記号は、●は極めて多い、◎は非常に多い、○は多い、△は検出、□は未検出を示す。

#### 3.1. 微化石類による粘土材料の分類

土器薄片の全面を観察した結果、微化石類（放射虫化石、珪藻化石、骨針化石）が検出された。微化石類の大きさは、放射虫化石が数100 μm、珪藻化石が10～数100 μm、骨針化石が10～100 μm前後である（植物珪酸体化石は10～50 μm前後）。一方、砕屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm以下、シルトが約3.9～62.5 μm、砂が62.5 μm～2mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。主な堆積物の粒度分布と微化石類の大きさの関係から、微化石類は粘土材料中に含まれていたと考えられ、植物珪酸体化石以外の微化石類は、粘土の起源（粘土層の堆積環境）を知るのに有効な指標になるとと思われる。植物珪酸体化石については、土器製作の場で灰質に伴って多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類の

ように粘土の起源を必ずしも指標しないと思われる。

今回の試料の土器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 海成粘土、b) 淡水成粘土、c) 水成粘土、d) その他粘土、の4種類に分類された(表3)。海水種珪藻化石と淡水種珪藻化石の両方が含まれている場合は、淡水種を優先した。以下では、それぞれの粘土の特徴について述べる。

a) 海成粘土(注口1試料)

この土器胎土中には、放射虫化石が含まれていた。また、海綿動物の骨格の一部である骨針化石も多く含まれていた。

b) 淡水成粘土(深鉢2試料、浅鉢1試料、壺2試料)

これらの土器胎土中には、淡水種の珪藻化石が特徴的に含まれていた。また、海綿動物の骨格の一部

表2 胎土中の微化石と砂粒物の特徴

No.	種類/器種	粒度	最大粒度	微化石の種類	砂粒物・鉱物組成
1	深鉢	120 μm - 600 μm	1.04mm	骨針化石(1)、植物繊維化石、胎子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、複合石英類(中型)、斜長石(双晶・葉晶)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、完晶質、細粒石英、珪晶質、複合石英類(大型)、斜方輝石、ジルコン、火山ガラス(バブル型)、流紋岩質
2	壺	170 μm - 700 μm	1.10mm	骨針化石(2)、植物繊維化石、胎子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、珪晶質、細粒石英、複合石英類(大型)、流紋岩質、角閃石類
3	深鉢	200 μm - 370 μm	1.42mm	珪藻化石(淡水種 <i>Chaetoceros undulata</i> , <i>Pinnularia</i> 属、不明種)、植物繊維化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、流紋岩質、複合石英類(中型)、複合石英類(大型)、カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶・葉晶)、複合石英類(小型)、角閃石類、珪晶質、完晶質、雲母類、ジルコン
4	深鉢	130 μm - 430 μm	0.90mm	植物繊維化石、植物細胞片	石英・長石類、複合石英類(微細) 細粒石英、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(中型)、流紋岩質、珪晶質、角閃石類、複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型)、斜方輝石、ジルコン、斜輝石、雲母類
5	壺	150 μm - 600 μm	0.87mm	植物繊維化石	石英・長石類、複合石英類(微細) 斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、細粒石英、複合石英類(中型)、複合石英類(大型)、流紋岩質、斜方輝石、角閃石類、ジルコン、火山ガラス(バブル型)
6	壺	160 μm - 350 μm	0.80mm	珪藻化石(淡水種 <i>Chaetoceros undulata</i> , <i>Pinnularia</i> 属、 <i>Fantasia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Diploneis</i> 属、 <i>Achnanthes</i> 属、不明種多量)、骨針化石(2)、植物繊維化石多い(15~20個)、胎子化石多い、植物細胞片	複合石英類(微細) 石英・長石類、珪晶質、完晶質、カリ長石(パーサイト)、流紋岩質、細粒石英、複合石英類(大型)、火山ガラス(バブル型)、角閃石類、斜方輝石、雲母類
7	壺	180 μm - 650 μm	1.05mm	珪藻化石(淡水種 <i>Pinnularia</i> 属)、骨針化石(1)、植物繊維化石、胎子化石	石英・長石類、複合石英類(微細) 細粒石英、斜長石(双晶・葉晶)、複合石英類(大型)、複合石英類(小型)、珪晶質、カリ長石(パーサイト)、斜方輝石、角閃石類、火山ガラス(バブル型)、流紋岩質、雲母類
8	浅鉢	180 μm - 720 μm	1.73mm	珪藻化石(淡水種 <i>Chaetoceros undulata</i> 属、 <i>Thalassiosira</i> 属、淡水種 <i>Pinnularia</i> 属、 <i>Cymbella</i> 属、 <i>Diploneis</i> 属、 <i>Fantasia</i> 属、不明種)、骨針化石(2)、植物繊維化石、胎子化石、植物細胞片	石英・長石類、複合石英類(微細) 複合石英類(大型)、珪晶質、完晶質、複合石英類(大型)、細粒石英、斜長石(双晶)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、流紋岩質、砂岩質、ジルコン
9	注口	180 μm - 420 μm	1.14mm	珪藻化石(1)、骨針化石(16)、植物繊維化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、角閃石類、斜長石(双晶・葉晶)、カリ長石(パーサイト)、複合石英類(大型)、珪晶質、雲母類、斜方輝石、ジルコン
10	深鉢	130 μm - 330 μm	0.67mm	植物繊維化石	石英・長石類、複合石英類(微細) カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、複合石英類(中型)、細粒石英、斜方輝石、角閃石類、複合石英類(大型)、斜輝石、ジルコン、雲母類
11	深鉢	250 μm - 350 μm	1.10mm	珪藻化石(淡水種 <i>Epithemia adusta</i> )、骨針化石(1)、植物繊維化石、植物細胞片多い	石英・長石類、斜長石(双晶・葉晶)、角閃石類、複合石英類(微細) 細粒石英、カリ長石(パーサイト)、珪晶質、完晶質、斜方輝石、流紋岩質、複合石英類(大型)、斜輝石、ジルコン
12	深鉢	160 μm - 320 μm	0.71mm	骨針化石(1)、植物繊維化石、胎子化石	石英・長石類、斜長石(双晶・葉晶)、複合石英類(微細) カリ長石(パーサイト)、角閃石類、流紋岩質、複合石英類(大型)、珪晶質、斜方輝石、ジルコン
13	深鉢	250 μm - 850 μm	1.10mm	植物繊維化石、胎子化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、流紋岩質、複合石英類(小型)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、複合石英類(大型)、斜長石(双晶)、細粒石英、斜方輝石、片理複合石英類、ジルコン、雲母類
14	深鉢	220 μm - 700 μm	1.13mm	骨針化石(10)、植物繊維化石、胎子化石多い	石英・長石類、複合石英類(微細) 珪晶質、斜長石(双晶)、細粒石英、流紋岩質、複合石英類(大型)、カリ長石(パーサイト)、角閃石類、斜方輝石、雲母類、ジルコン
15	製塩土器 深鉢	120 μm - 600 μm	0.80mm	珪藻化石(製塩土器付着土に伴う <i>Rhopodia</i> 属、 <i>Chaetoceros</i> 属)、骨針化石(2)、植物繊維化石、胎子化石、植物細胞片	石英・長石類、複合石英類(微細)、複合石英類(小型)、カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶・葉晶)、角閃石類、複合石英類(中型)、珪晶質、細粒石英、完晶質、複合石英類(大型)、ジルコン、火山ガラス(バブル型)、斜輝石
16	製塩土器 深鉢	120 μm - 400 μm	0.92mm	骨針化石(2)、植物繊維化石	石英・長石類、複合石英類(微細)、カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、角閃石類、ジルコン、複合石英類(中型)、細粒石英、複合石英類(大型)、斜方輝石、片理複合石英類
17	粘土塊	150 μm - 480 μm	1.20mm	植物繊維化石	石英・長石類、複合石英類(微細) カリ長石(パーサイト)、斜長石(双晶)、複合石英類(小型)、複合石英類(中型)、流紋岩質、複合石英類(大型) 斜方輝石、角閃石類、細粒石英、ジルコン、雲母類

である骨針化石も含まれていた。特に、分析 No. 6 の壺や分析 No. 8 の浅鉢には、多くの淡水種珪藻化石が含まれ、分析 No. 6 の壺の粘土材料は、沼沢湿地成粘土と推定される。

c) 水成粘土 (深鉢3試料, 壺1試料, 製塩土器2試料)

これらの土器胎土中には、海綿動物の骨格の一部である骨針化石あるいは不明種珪藻化石が僅かに含まれていた。なお、分析 No.15の製塩土器胎土中の隙間には、製塩土器付着土中に見られるような完形殻 *Rhopalodia musculus* が密集して検出された。

d) その他粘土 (深鉢3点, 壺1点, 粘土塊1点)

これらの土器胎土中には、水成環境を指標する微化石類が含まれていなかった。

表3 土器胎土中の粘土および砂粒組成の特徴

分析No.	種類/器種	粘土の特徴										砂粒の特徴							植物化石類	その他の特徴							
		分類	珪質粘土質	珪質粘土質	珪質粘土質	珪質粘土質	骨針化石	骨針化石	骨針化石	骨針化石	骨針化石	骨針化石	A/a	B/b	C/c	D/d	E/e	F/f			G/g	石英	長石	輝石	雲母	植物化石類	
																											片岩類
1	深鉢	水成	-	-	-	-	△	△	△	DF	-	△	○	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	○		
2	壺	水成	-	-	-	-	△	△	△	DF	-	△	○	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	○		
3	深鉢	淡水成	-	-	△	△	-	-	Fc	-	△	○	△	○	-	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△		
4	深鉢	その他	-	-	-	-	-	-	Fd	-	△	○	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△		
5	壺	その他	-	-	-	-	-	-	Fc	-	△	○	-	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△		
6	壺	淡水成	-	-	-	◎	△	◎	Fd	-	△	○	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	◎	ヨシ属の植物性残体が多い
7	壺	淡水成	-	-	△	-	△	△	Fc	-	△	○	△	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
8	浅鉢	淡水成	-	△	○	○	△	△	Fd	-	△	○	△	△	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
9	注口	薄成	△	-	-	-	○	-	Ce	-	△	○	△	○	-	◎	○	○	○	△	△	△	△	△	△		
10	深鉢	その他	-	-	-	-	-	-	Ce	-	△	○	-	○	-	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	砂粒組成は No.9 に似る
11	深鉢	淡水成	-	△	-	△	-	-	DF	-	△	○	△	○	-	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△		
12	深鉢	水成	-	-	-	-	△	○	Cf	-	△	○	△	△	-	○	△	◎	△	△	△	△	△	△	△		
13	深鉢	その他	-	-	-	-	△	△	Cf	△	△	○	△	△	-	◎	△	◎	△	△	△	△	△	△	△		
14	深鉢	水成	-	-	-	-	△	◎	Cf	△	△	○	△	△	-	◎	△	◎	△	△	△	△	△	△	△		
15	製塩	深鉢	水成	-	-	(L)	-	△	Cf	-	△	○	△	△	○	◎	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	非色微細粒子(陶器類)が密に入る
16	製塩	深鉢	水成	-	-	-	△	-	Cf	-	△	○	△	△	-	◎	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	赤色・褐色粒子(陶器類)が多い
17	粘土塊	その他	-	-	-	-	-	-	Cf	-	△	○	△	△	-	◎	△	◎	△	△	△	△	△	△	△	△	

3.2. 砂粒組成による分類

本稿で設定した分類群は、構成される鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。したがって、胎土中の鉱物と岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。特に、深成岩類を構成する鉱物は粒度が大きいため、細粒質の砂粒からなる胎土の場合には、深成岩類の推定が困難な場合が多い。

ここでは、比較的大型の砂粒と鉱物群の特徴により、起源岩石の推定を行った(表3)。岩石の推定では、片理複合石英類が片岩類(A/a)、複合石英類(大型)が深成岩類(B/b)、複合石英類(微細)などが堆積岩類(C/c)、斑晶質・完晶質が火山岩類(D/d)、凝灰岩質や結晶度の低い火山岩が凝灰岩類(E/e)、流紋岩質が流紋岩類(F/f)、ガラス質がテフラ(G/g)である。

今回の試料の土器胎土中の砂粒組成は、表4の組み合わせに従って、Ce群、Cf群およびFc群、Df群お

および Fd 群の、大きく 3 群に分類された。ただし、Fc 群と Cf 群は同じ組成として扱った。以下に、分類された 3 群の砂粒物の特徴について述べる。

1) 主に堆積岩類と凝灰岩類からなる Ce 群 (深鉢 1 試料, 注口 1 試料)

これらの胎土中には、複合石英類 (微細) や砂岩質などの堆積岩類、凝灰岩類が特徴的に含まれていた。深成岩類を含むが、流紋岩類は含まれていなかった。

2) 主に堆積岩類と流紋岩類からなる Cf 群および Fc 群 (深鉢 4 試料, 壺 2 試料, 製塩土器 2 試料, 粘土塊 1 試料)

これらの胎土中には、複合石英類 (微細) や砂岩質などの堆積岩類、流紋岩類が含まれていた。その他には、深成岩類が含まれ、火山岩類を含む胎土もあった。

3) 主に火山岩類と流紋岩類からなる Df 群および Fd 群 (深鉢 3 試料, 浅鉢 1 試料, 壺 2 試料)

これらの胎土中には、斑晶質や完晶質の火山岩類、流紋岩類からなる。なお、その他、深成岩類、堆積岩類、凝灰岩類を含む。

### 3. 3. 土器胎土の材料の特徴

土器胎土は、粘土中に含まれていた微化石類により、a) 海成粘土 (1 試料), b) 淡水成粘土 (5 試料), c) 水成粘土 (6 試料), d) その他粘土 (5 試料), の 4 種類に分類された。また、土器胎土中の砂粒組成は、1) 主に堆積岩類と凝灰岩類からなる Ce 群 (2 試料), 主に堆積岩類と流紋岩類からなる Cf 群および Fc 群 (9 試料), 3) 主に火山岩類と流紋岩類からなる Df 群および Fd 群 (6 試料), の 3 群に分類された。

器種別に見ると、深鉢は、淡水成、水成粘土、その他粘土が用いられ、砂粒組成が Ce 群 (1 試料), Cf 群および Fc 群 (4 試料), Df 群および Fd 群 (3 試料) からなる。浅鉢は、淡水成粘土が用いられ、砂粒組成が Fd 群 (1 試料) である。壺は、淡水成粘土、水成粘土、その他粘土が用いられ、砂粒組成が Fc 群 (2 試料), Df 群および Fd 群 (2 試料) である。注口は、海成粘土が用いられ、砂粒組成が Ce 群 (1 試料) である。製塩土器の 2 試料は、いずれも水成粘土が用いられ、砂粒組成が Cf 群である。粘土塊は、その他粘土であり、砂粒組成が Cf 群である。

築地遺跡は、結城台地南側の縁辺部に立地するが、そこには第四紀更新世後期の礫・砂および泥からなる龍ヶ崎層 (図 2 の凡例 O<sub>3</sub>) が分布する。やや上流域の宝木段丘礫層相当層 (今市扇状地礫層: 南関東の武蔵野段丘礫層に対比) は、層厚約 25m で、

礫は安山岩・流紋岩・石英斑岩および古期岩からなり、径 10 ~ 80cm におよぶ大小の円礫・亜円礫が、砂質の膠結部で軟弱に固結している (国土庁土地局, 1998)。こうした砂礫層の特徴は、かつて鬼怒川によってもたらされた礫の特徴と考えられる。

鬼怒川の上流域の小山付近には、新第三紀中新世の主に海成の泥岩層・凝灰岩層・

表 4 岩石片の起源と組み合わせ

		第 1 出現群						
		A	B	C	D	E	F	G
片岩類	深成岩類							
	堆積岩類							
火山岩類	凝灰岩類							
	流紋岩類							
テフラ	深成岩類							
	堆積岩類							
凝灰岩類	深成岩類							
	堆積岩類							
流紋岩類	深成岩類							
	堆積岩類							
テフラ	深成岩類							
	堆積岩類							

胎土分類	砂粒分類	深鉢	浅鉢	壺	注口	製塩土器	粘土塊	総計
海成	Ce				1			1
	Df	1						1
淡水成	Fc	1		1				2
	Fd		1	1				2
水成	Cf	2				2		4
	Df	1		1				2
その他	Ce	1						1
	Cf	1					1	2
	Fc			1				1
	Fd	1						1
総計	B	1	1	1	1	2	1	17

砂岩層からなるⅢ層群、同鮮新世の浅海成の泥層・砂礫層・礫岩層からなるⅡ層群、淡水成～浅海成の砂礫層・泥層などからなるⅠ層群が分布するが、石橋-真岡以南では、厚い第四系が堆積し、基盤は深い(阿久津ほか、1984;日本の地質「関東地方」編集委員会編、1988:図1)。

今回のNo.17は、粘土採掘坑の粘土塊であるが、粘土材料の分類では、d)その他粘土であり、砂粒組成は主に堆積岩類と流紋岩類からなるCf群であった。その他の砂粒としては、深成岩類や凝灰岩類を含む。No.17の粘土塊の粘土および付随する砂粒組成は、遺跡周辺で採取できる材料であるため、水成環境を指標する微化石類を含まないその他粘土で、流紋岩類を伴うCf群、Fc群、Fd群などは、比較的近接地域で採取できる材料が用いられたと考えられる。一方、No.9の注口やNo.8の浅鉢のように、放散虫化石や海水種珪藻化石を含む粘土は、海成層が分布する上流域で採取された可能性が高い。その他の土器のうち、淡水成粘土や水成粘土を用い、砂粒組成がCf群、Fc群、Fd群、Df群を示す胎

土の材料は、淡水成堆積物が分布する上流域で採取された可(ほか1984)能性が考えられる。ただし、砂粒組成がCe群を示すNo.9は放散虫化石を含むため、海成層が分布する上流域の特徴と推定したが、同じように砂粒組成がCe群を示すNo.10の深鉢も、同様の地域が想定される。

なお、No.15の製塩土器胎土中の隙間には、製塩土器附着土中に見られるような完形殻 *Rhopalodia musculus* が密集して検出されたことから(図版5-15e)、製塩土器として利用された証拠である。

今後の土器材料に関する検討は、基盤層の調査・分析を行えば、より具体的な土器材料について検討できると考える。なお、土器胎土中のテフラ起源の火山ガラスは、火山ガラスを抽出して屈折率の測定を行えば、起源テフラの同定が可能である(菅野ほか、2010)。

#### 引用文献

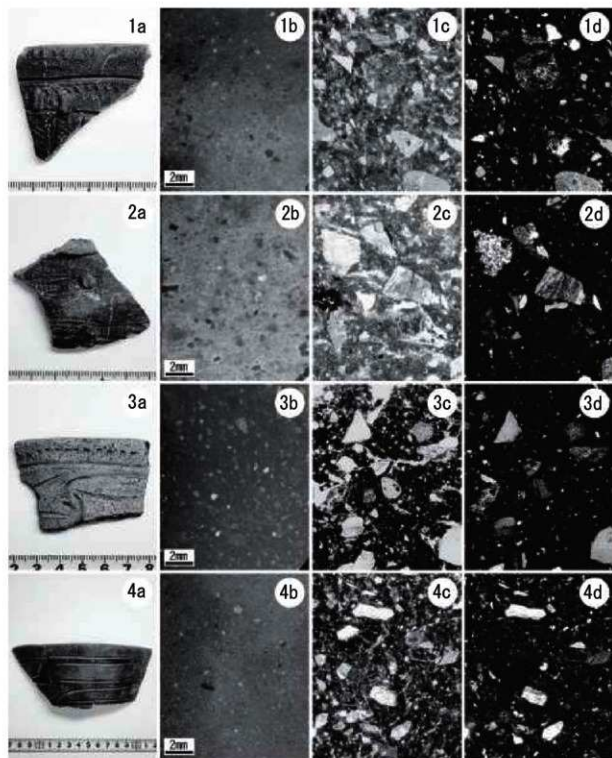
- 阿久津 純・金森定敏・町田康二・舞坂康一(1984) 小山市史、通史編1、自然、1-137  
 安藤一男(1990) 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用、東北地理、42(2)、73-88  
 地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981) 増補改訂 地学事典、1612p、平凡社  
 藤根 久(1998) 東海地域(伊勢-三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料、東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会編「土器・墓が語る：美濃の独自性 弥生から古墳へ」:108-117、東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会  
 藤根 久・今村美智子(2001) 第3節 土器の胎土材料と粘土採掘坑対象堆積物の特徴、群馬県埋蔵文化財調査事業団編「渡志江中宿遺跡」:262-277、日本道路公団・伊勢崎市・群馬県埋蔵文化財調査事業団  
 日本の地質「関東地方」編集委員会編(1988) 日本の地質3「関東地方」、共立出版、335p  
 国土庁土地局(1998) 地下水マップ付属説明書、183p  
 小杉正人(1988) 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用、第四紀研究、27、1-20  
 車崎正彦・松本 完・藤根 久・栗田 量・古橋美智子(1996) 土器胎土の材料-粘土の起源を中心に-、日本考古学協会編「日本考古学協会第62回大会研究発表要旨」:153-156、日本考古学協会  
 須藤定久・牧本 博・藜 光男・宇野沢 昭・滝沢文教・坂本 亨・駒澤正夫・広島俊男(1991) 20万分の1地質図幅「宇都宮」, 地質調査所



第1図 小山付近における模式層序(阿久津土の材料は、淡水成堆積物が分布する上流域で採取された可(ほか1984))



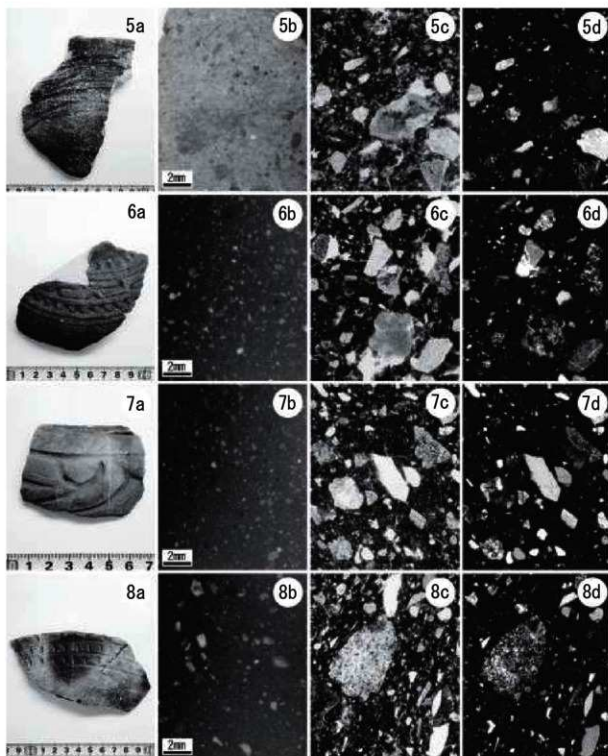




図版1 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(1)

1. 分析No. 1, 2. 分析No. 2, 3. 分析No. 3, 4. 分析No. 4

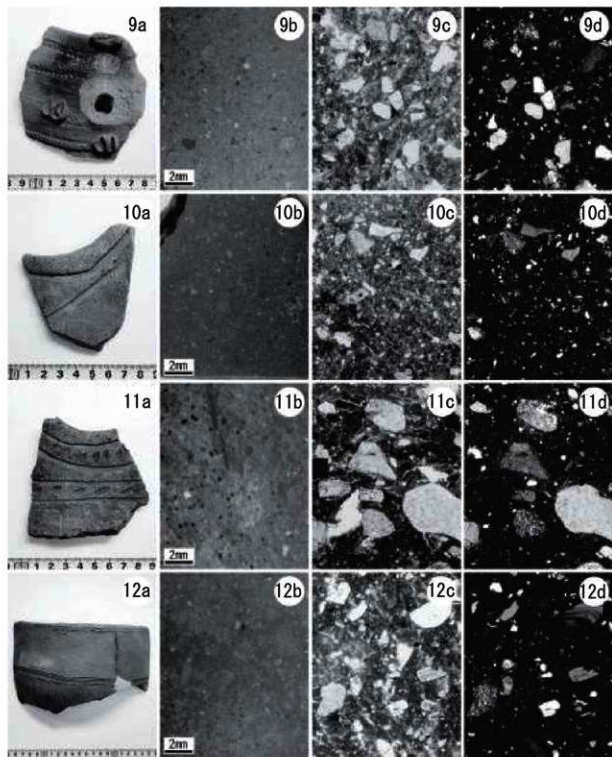
a: 土器, b: 土器断面, c: 解放ニコル (スケール: 500  $\mu$  m), d: 直交ニコル (スケール: 500  $\mu$  m)



図版2 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(2)

5. 分析 No 5, 6. 分析 No 6, 7. 分析 No. 7, 8. 分析 No. 8

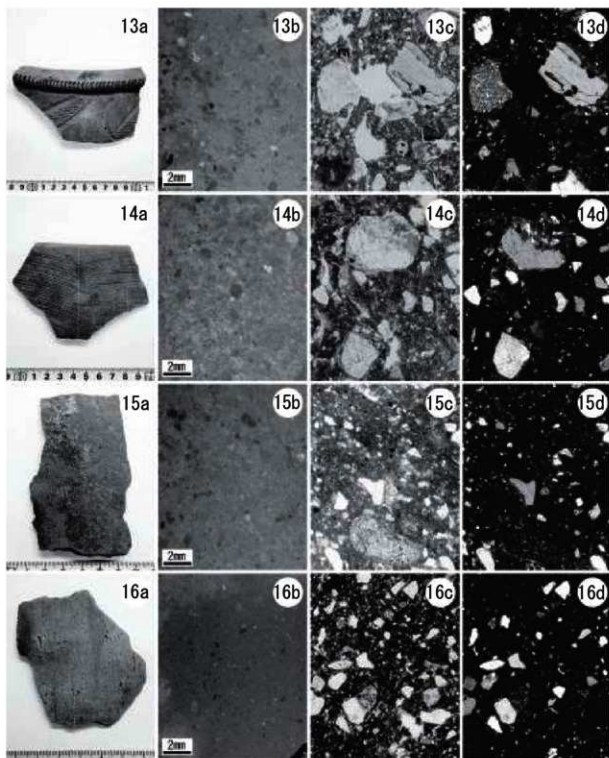
a 土器, b 土器断面, c 解放ニコル (スケール: 500  $\mu$  m), d 直交ニコル (スケール: 500  $\mu$  m)



図版3 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(3)

9. 分析No.9, 10. 分析No.10, 11. 分析No.11, 12. 分析No.12

a:土器, b:土器断面, c:解放ニコル(スケール:500 $\mu$ m), d:直交ニコル(スケール:500 $\mu$ m)

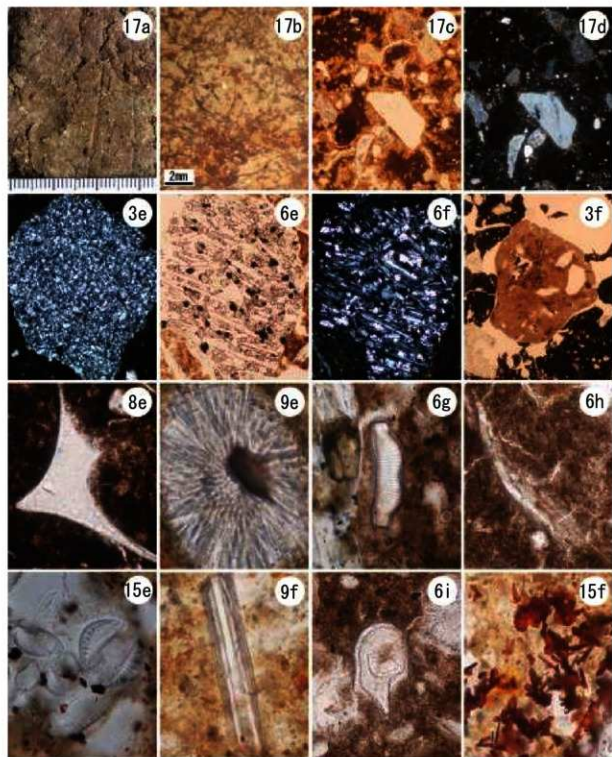


図版4 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(4)

13. 分析No.13, 14. 分析No.14, 15. 分析No.15, 16. 分析No.16

a 土器, b 土器断面, c 解放ニコル(スケール:500 $\mu$ m), d 直交ニコル(スケール:500 $\mu$ m)





図版5 分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真(5)

(スケール:17c,17d, 3f500  $\mu$ m, 3e, 6e 6f, 8e:100  $\mu$ m, 6h, 6i:50  $\mu$ m, 9e, 6g,15e, 9f,15f:20  $\mu$ m)

17a. 分析No.17 (粘土塊), 17b. 試料断面, 17c. 解放ニコル, 17d. 直交ニコル

3e. 複合石英類(微細), 6e. 完晶質(解放ニコル), 6f. 完晶質(直交ニコル), 3f. 流紋岩質

8e. 火山ガラス(バブル型), 9e. 放射虫化石, 6g. 珪藻化石 *Eunotia praerupta* v. *bidens*

6h. 珪藻化石 *Cymbella* 属, 15e. 珪藻化石 *Rhopalodia musculus* 密集, 9f. 骨針化石

6i. 植物珪酸体化石(ヨシ属), 15f. 赤色粒子の密集(褐鉄鉱)

## 付 章 5

### 築地遺跡出土獣骨類・魚骨類の同定

(株) イビソク

#### 1 はじめに

茨城県常総市に位置する築地遺跡では、発掘調査によって縄文時代の遺構・遺物が検出されている。ここでは、築地遺跡の発掘調査で出土した動物遺体の同定結果を報告する。調査で取り上げた動物遺体は83地点388点であるが、種が同定できる程度に残存するものは限られている。このうち同定可能な24点について、同定作業を委託した。それ以外の動物遺体、及び合わせて出土している貝類については、(公財)茨城県教育財団調査員の江原美奈子が分類集計し、一覧表(表2)に示した。その際、動物遺体については、同調査員盛野浩一氏の助言を得た。また同遺跡では、竪穴建物跡や土坑の覆土中から動物遺体や貝類が多く出土することから、52地点について堆積土をサンプリングし、3ミリ・1ミリメッシュのフルイを用いて水洗洗浄を行った。そのうちの状態の良い2地点を選び、同定作業を委託した。対象試料については表1のとおりである。なお、合わせて出土している貝類については、江原が分類集計した。分析した第8号竪穴建物跡、及び第143号土坑からは、淡水産のオオタニシやマツカサガイなどが多く確認でき、内陸における水産資源の利用の一端をうかがうことができた。また第8号竪穴建物跡ではキセルガイなどの陸生微小巻貝類が多く確認できたが、第143号土坑ではほとんど見られなかった。また第143号土坑では細かい焼骨や炭化物が多く出土しており、水産資源の利用と廃棄後の状態に差があることが想定できる。(江原美奈子)

#### 2 試料と方法

試料は、発掘調査現場で取り上げられた試料と水洗選別試料からなる。現場取り上げ試料は、骨角製品3点、獣骨類24点である。水洗選別試料は、2点である。動物遺体が採取された遺構・地点は、SI 3、SI 8、SI 9、SI22、SI24、SK28、SK57、SK70、SK105、SK143、HG 2、トレンチ3である。これらのうち、SI 8とSK143で水洗選別が行われた。

試料の観察は肉眼および実体顕微鏡下で行い、現生標本との比較により同定した。

#### 3 結果(表3)

同定されたのは、魚類がウナギ属、ニシン科、コイ、フナ属、コイ科、ナマズ、サケ科、硬骨魚綱の8分類群、哺乳類がネズミ類、イヌ、イノシシ、ニホンジカ、食肉目、哺乳綱の6分類群、鳥類が鳥綱の1分類群、爬虫類がヘビ類の1分類群、計16分類群である。表1に同定結果を示す。

遺構ごとに同定された分類群を記す。

SI 3では、ニホンジカと哺乳綱が同定された。

SI 8では、ウナギ属、ニシン科、コイ、フナ属、コイ科、ナマズ、サケ科、硬骨魚綱、食肉目、イノシシ、ニホンジカ、哺乳綱、鳥綱、ヘビ類が同定された。なお、骨角製品のうち、ゆはず2点はニホンジカ角の可能性があると断定できず、かんざしはニホンジカ角と同定された。

SI 9では、鳥綱が同定された。

SI22では、イノシシが同定された。

SI24では、ニホンジカが同定された。

SK28では、イノシシ、ニホンジカ、哺乳綱が同定された。

SK57では、ニホンジカと哺乳綱が同定された。

SK70では、イノシシが同定された。

SK105では、イヌの可能性があると断定できなかった。

SK143では、ウナギ属、フナ属、コイ科、ナマズ、硬骨魚綱、ネズミ類、哺乳綱、ヘビ類が同定された。

HG 2では、イヌと哺乳綱が同定された。

トレンチ3では、イノシシが同定された。

#### 4 考察

築地遺跡から出土した動物遺体は、コイ科の多産が特徴である。コイ科のうち、コイ、フナ属（キンブナなど）が同定された他、咽頭菌の特徴からコイとフナ属を除くコイ科、つまりカマツカ亜科（ニゴイヤカマツカなど）やウグイ亜科（ウグイなど）などの可能性がある試料もある。築地遺跡における動物利用を考えると、コイやフナ属など河川や池沼といった淡水域に生息するコイ科魚類を盛んに捕獲して利用していた点を指摘できる。また、同様に河川や池沼に生息するウナギ属（ウナギ、オオウナギ）、ナマズ、サケ科（サケ、ヤマメ）も捕獲して利用していたと考えられる。一方で、ニシン科（マイワシ、ウルメイワシなど）海産魚類も少ないながら利用していた様子が窺える。

陸域では、イノシシやニホンジカを対象とした狩猟も行われ、それらが利用されていたと考えられる。

#### 参考文献

松井章（2008）動物考古学。312p。京都大学学術出版会

日本第四紀学会編（1993）第四紀試料分析法。664p。東京大学出版会

山崎京美・土野輝彌（2008）硬骨魚類の顎と歯。322p。アート&サイエンス工房 TALAI

表1 水洗選別試料計測表

遺構名	洗浄前容量 (L)	土器 (g)	炭化物 (g)	動物遺体 (g)	貝類 (点数・g)							備考						
					オキタニシ	マツカサガイ	ヤマトシジミ	カワニナ	イシガイ	ハマグリ	その他		微細 (g)					
S18 P19	33.86	190.16	-	414	13281	321	右 42	58.83	右 8	10.30								
							左 40	61.44	左 5	4.73								
SK143 x	22	179.77	0.54	2204	9673	-	右 14	14.57			右 2	1.96						
							左 10	7.97			左 1	1.53						

※貝類の集計については、二枚貝の場合は殻番部分を残す左右殻をカウントし、それ以外は重量を示した。巻貝は殻口が残るもの個体数をカウントし、それ以外は重量を示した。



表2 現地取り上げ試料一覧表

試料名	検量			別添(点数-g)						備考			
	分析 %	量 (g)	検量 (g)	イオキシシ	マツルササイ	ヤマトシシ	ホフウシ	イシガイ	ハマグリ		その他	総量 (g)	
S1.1 1区3x			1242									一部に軟熱炭	
S1.1			62.28									うち 55.84 gに軟熱炭	
S1.2			15.09										
S1.3 P6												4-6層 (P)	
S1.4 4区2x												採り切り 軟熱炭	
S1.4 1x			6.52										
S1.4			7.17									うち 1.17 gに軟熱炭	
S1.5 1層													
S1.5 7層													
S1.5 4区1x													
S1.5 P9				0.21	右7	左7	1.72	右1	1.82				
S1.5			15.01										
S1.6													
S1.6 2区3x													
S1.6			98.53									軟熱炭	
S1.8 成層	1	20.3										うち 20.02 gに軟熱炭	
S1.8 成層	9	91.31	10.13										
S1.8 成層	19	25.62											
S1.8 成層	21	45.47	10.52										
S1.8 成層	23	138.82	5.61										
S1.8 成層	24	59.01	19.95										
S1.8 1x												1.89	
S1.8			14.51										
S1.8 7層			29.73							右1	3.44	軟熱炭	
S1.8 P 15													
S1.8 P 15							1.13						
S1.8 P 15			2.96									2.22	
S1.8 P 18												1.20	
S1.8 P 18												0.97	
S1.8 P 19	13	10.38	36.55									2.30	
S1.8 P 19			10.34	4	10.83	右10	左8	38.88	右1	左1	1.63	9.36	
S1.8 P 20			7.39	2	8.92	右6	左3	42.06	右10	左5	20.83	6.38	
S1.8 P 25			30.88	6.28		右1	3		右2	左2	5.55		
S1.8 P 25											左1	1.79	
S1.8 P 26													
S1.8 P 26													
S1.8 P 41			1.37	4	19.52	右6	左12	37.32	右2	左2	16.11	2.99	
S1.8 P 42	40	11.83										6.50	
S1.8 P 46	2	15.91	25.84										
S1.8 P 47				9.19									
S1.8 P 47													
S1.8 P 48	8	35.58	11.02										
S1.8 P 48			9.49										
S1.8 P 48				4	13.05	右2	5.65		右3	左1	9.22		
S1.8 P 48													
S1.8 P 49	4	4.1											
S1.8 P 52			0.57										
S1.8 P 56			2.17			6	25.4	0.20				5.68	
S1.8 P 56						7	25.18	右7	左4	25.05		7.74	
S1.8 P 60	10	9.73										1.11	
S1.8 P 61				5	22.68	右9	左13	49.04	右3	左3	10.9	1	0.83
S1.8 P 61			8.69			16	36.40	右33	左5	41	右10	左8	36.59
S1.8			123.42										
S1.9 P 15												5.75	
S1.9 P 15												4.63	
S1.9 P 8													
S1.9 P 17			5.94								0.75		
S1.9 P 17			2.96										
S1.9 P 20	15	1.00	0.39										
S1.9 成層													
S1.9			15.22										
S1.12			29.68										
S1.13 2x			18.61										
S1.13 P 37			6.55										
S1.13			37.28										
S1.14 2区1x			0.93										
S1.15 P 46			5.14										
S1.15			10.70										
S1.16			1.56										
S1.18			5.21										
S1.19			7.34										
S1.20 ~Aト4													
S1.20			5.30										
S1.22 P 81 x	43	13.14											
S1.22 P 85 x													
S1.22 P 97 x			3.96									軟熱炭	
S1.22 2区2x												採り切り	
S1.22 2区x												加工有 軟熱炭	
S1.22 4区1x			11.47									加工有 軟熱炭	
S1.22 4区2x													

遺体名	総量				別類 (点数・g)							備考
	分析 缶	量 (g)	検体 枚数	部位・測定可能部位 (点数・g)	イオキシ ン	マフカサ イ	ママトシ ジ	オキ ム	イシ ゴ	ハマ ドリ	その他	
S 1 22 中 4 x			275									
S 1 22 殿土下層			342									骨髄不明 加工有 既 燃前
S 1 22			10250									加工前ありか
S 1 23			249									うち 25.21 g に既燃前
S 1 24	34	451										
S 1 24 1 区 1 x				イノシシ 焼 1・362								
S 1 24 2 区 2 x			199									盛り取りか
S 1 24			241									
S 1 25 1 区 1 x								左 1 063				
S 1 25			1838									うち 8.36 g に既燃前
S 1 27			2059									
S 1 28			712									既燃前あり
S 1 29			472									うち 2.60 g に既燃前
S 1 31 ア 12			2104									既燃前
S 1 34			906									既燃前
S 1 35			3293									
S 1 36			4239									うち 14.51 g に既燃前
S 1 39			2365									うち 1.28 g に既燃前
S 1 41			131									うち 0.43 g に既燃前
S 1 43			1643									
S 1 47			1725									うち 6.69 g に既燃前
S 1 53			367									うち 1.84 g に既燃前
S K 4			228									
S K 8			489									
S K 28 x	32 33	32 29 83	8126		2 933	右 2 34		右 1 左 1 239				1 42
S K 28 x		33 313										
S K 28 x			232									
S K 28 殿土中層	30	6405										
S K 32			975									既燃前
S K 33			949									うち 7.99 g に既燃前
S K 37 1 x	26	1174										
S K 57			185									
S K 58			1248									
S K 70 x	42	1492										
S K 70			464									
S K 83 x			680									
S K 84 x			131									
S K 86			940									
S K 91 x			179									既燃前
S K 92			529									既燃前
S K 96				シカ 焼 182								
S K 105 10 x	26	1362	1844									小動物骨
S K 105			5439									
S K 107			201									
S K 115 1 x			628									
S K 121			497									
S K 122			270									
S K 125				鹿角 1・3535								
S K 126 x			505	イノシシ 焼 1・170								
S K 126 x			497	イノシシ 焼 1・142								
S K 140 x								右 1 左 1 254				
S K 140 x			2632	イノシシ 焼 1・491								
S K 143 x					1097	右 4 左 4 1128		右 1 左 1 441				1030
S K 143 x			2648									うち 6.31 g に既燃前
S K 151			107									
S K 179			1040									
S K 223			470									
S K 228			201									
S K 246			651									既燃前
S K 247			261									
S K 247 x			180		2 236							1 49
S K 254			490									
第 1 号遺物発中地点			900									
H G 1 - 10			189									参加工前あり 焼不明
H G 1 - 13										アサリ 左 1 481		
H G 1 - 15			311					右 1 106				
H G 1 - 15				小動物 上層骨 1・247								
H G 1 - 20								左 1 046				
H G 1 - 26								右 1 133				
H G 1			3248									うち 40.52g に既燃前
H G 2 C 6 4 3								右 2 18				
H G 2 C 6 4 4	41	231										
H G 2 C 6 4 5 3 x	44	5934										
H G 2			11040									うち 27.33 g に既燃前
トコナリ 1 x	39	4504										

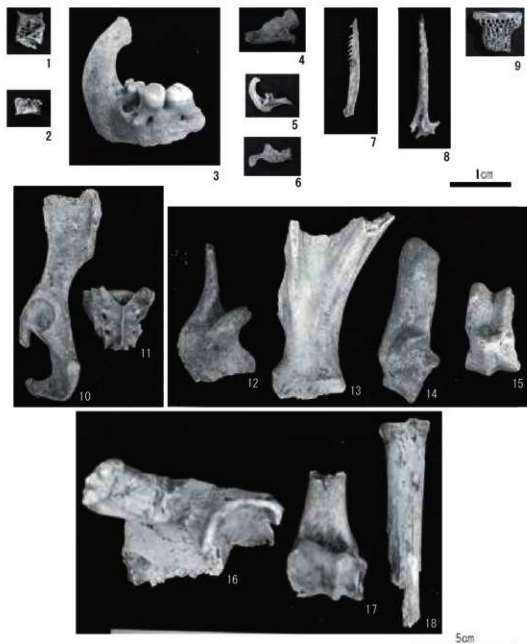
※検体については、検体の測定可能な部位は遺体ごとにまとめ、重量で示した。

※日数については、遺体部の残存数とから検体数のわかるものについては数も併記し、それ以外のについては重量を示した。

表3 動物遺体同定結果

遺体 由来	その他	資料種別	No.	分類名	部位	左右	部分・状態	数量	備考				
S21	—	現場取上	9	ニホンジキ	鼻骨	不明	ほぼ完全・破片	3	破け				
				哺乳綱	不明	不明	破片	3	破け				
S26	—	衣洗産物	196	ウナギ属	鱗骨	不明	破片	1					
				椎骨	—	椎体	125						
				ニホンサメ	椎骨	—	椎体	39					
				コイ	咽頭骨	左	破片	3					
					右	破片	2						
					方骨	右	破片	1					
				コイ?	主髁蓋骨	左	破片	1					
				フナ属	咽頭骨	左	ほぼ完全	2					
					主髁蓋骨	右	ほぼ完全・破片	8					
					左	破片	1						
				コイ科	咽頭骨	不明	破片	11					
					右	破片	1	コイトワノ属は既					
					主上蓋骨	左	ほぼ完全	2					
					第1椎骨	—	椎体	7					
					第2椎骨	—	椎体	4					
					椎骨	—	椎体	1-300					
					鱗骨	不明	ほぼ完全・破片	18					
				コイ科(フナ属?)	咽頭骨	左	破片	19					
					右	破片	14						
				コイ科(小型)	咽頭骨	左	ほぼ完全	2					
				ナマズ	胸肋骨	不明	ほぼ完全・破片	10					
				サナギ	椎骨	—	破片	18					
				硬骨魚綱	歯上蓋骨	左	破片	1					
					主髁蓋骨	右	破片	1	破け、コイ科ではない				
					椎骨	—	椎体	1					
				魚目	末節骨	不明	完全	1					
				哺乳綱	歯	不明	完全	1	歯磨				
					椎骨	—	破片	3	破けあり				
					椎骨	不明	破片	4					
					尺骨	左	完全	1					
				ヘビ類	椎骨	—	椎体	12					
				現場取上	—	F13	13	イナシ	歯蓋骨(後歯骨)	—	破片	1	
									肩甲骨	左	破片	1	
	肩	左	ほぼ完全					1					
	腕骨	左	骨幹					1					
	ニホンジキ	歯蓋骨	破片化					1	オス、再検査に加工の可能性				
	肩甲骨	右	ほぼ完全					1					
	上腕骨	左	ほぼ完全					1					
	ニホンジキ?	胸骨	—					ほぼ完全	1				
	哺乳綱	歯蓋骨	—					破片化	1				
		肩骨	—					破片	19				
		尺骨	—					椎体	1				
		尾骨	—					完全	1				
P23	—	—	23	四趾骨	不明	破片	1						
					四趾骨	不明	破片	1					
					不明	不明	破片	2					
					椎骨	左	骨幹	1					
P26	—	—	26	ニホンジキ?	角?	不明	骨角製品	1					
					ニホンジキ?	角?	不明	骨角製品	1				
S20	—	現場取上	17	ニホンジキ	四趾骨	不明	骨幹	1					
					四趾骨	不明	骨幹	1					
S22	—	現場取上	43	イナシ	椎骨	右	ほぼ完全	1	破け				
					鼻骨	不明	ほぼ完全	1					
S24	—	現場取上	34	ニホンジキ	鼻骨	不明	ほぼ完全	1					
					イナシ	椎骨	左	完全	1				
S28	—	現場取上	32	ニホンジキ	肋骨	左	ほぼ完全	1					
					哺乳綱	鼻骨	左	ほぼ完全	1				
						鼻骨	左	ほぼ完全	2				
						尺骨	左	ほぼ完全	1				
						椎骨	右	ほぼ完全	1				
						四趾骨	不明	破片	1				
S27	北1s	現場取上	36	ニホンジキ	中節骨	不明	完全	1					
					哺乳綱	四趾骨	不明	破片	1				
S270	—	現場取上	42	イナシ	肋骨	不明	ほぼ完全	1					
					椎骨	—	椎体	1					
S2105	—	現場取上	26	イナシ	椎骨	—	椎体	1					
					椎骨	—	椎体	15					
S2143	—	衣洗産物	39	ウナギ属	咽頭骨	左	ほぼ完全	32					
						右	ほぼ完全	19					
					主髁蓋骨	左	ほぼ完全	12					
						右	ほぼ完全	18					
				コイ科	咽頭骨	左	ほぼ完全・破片	130					
						右	ほぼ完全・破片	134					
					咽頭骨	不明	破片	18					
					第1椎骨	—	椎体	2					
					第2椎骨	—	椎体	6					
					椎骨	—	椎体	1-500					
					鱗骨	不明	ほぼ完全・破片	119					
				ナマズ	胸肋骨	不明	ほぼ完全	121					
				硬骨魚綱	歯上蓋骨	右	ほぼ完全	1					
					椎骨	左	ほぼ完全	1					
						右	ほぼ完全	2					
	椎骨	—	椎体	20									

遺跡・遺集	その他	試料番号	Sh.	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
SK143				ネズミ類	臼歯	不明	歯磨	1	
					上腕骨	右	完存	2	
					大腿骨	右	完存	1	
					四肢骨	不明	破片	1	焼け
					肋骨	不明	破片	3	
					椎骨	---	焼焦	10	
HG2	C963, 2c	遺集取上	44	イヌ	寛骨	左	ほぼ完存	1	
						右	ほぼ完存	1	
					胸椎	---	破体	2	
					腰椎	---	破体	10	
					肋骨	---	破体	1	
					椎体	---	破片	1	
C668			41	猫科類	腕骨	---	破片	1	
					短中骨	左	破片状	1	
3.トレンチ3	---	遺集取上	39	イノシシ	短中骨	左	破片状	1	



図版1 築地遺跡から出土した動物遺体

1. ウナギ属椎骨 (SI 8) 2. ニシン科椎骨 (SI 8) 3. コイ左咽頭骨 (SI 8) 4. コイ右方骨 (SI 8) 5. フナ属左咽頭骨 (SK143)  
 6. フナ属左主総蓋骨 (SK143) 7. コイ科鱭鱗 (SI 8) 8. ナマズ胸鱭鱗 (SI 8) 9. サケ科椎骨 (SI 8) 10. イヌ左寛骨 (HG2)  
 11. イヌ仙骨 (HG2) 12. イノシシ頭蓋骨 (SI 8) 13. イノシシ左肩甲骨 (トレンチ3) 14. イノシシ左踵骨 (SK28) 15. イノシシ右距骨 (SK70) 16. ニホンジカ頭蓋骨 (SI 8) 17. ニホンジカ左上腕骨 (SI 8) 18. ニホンジカ右手中手骨 (SI 8)

# 付 章 6

## 宮原前遺跡の出土人骨について

バリノ・サーヴェイ株式会社

### 1 はじめに

宮原前遺跡（茨城県常総市大生郷町に所在）は、鬼怒川と飯沼川に挟まれた標高約 20 m の台地上に位置する。これまでの発掘調査により本遺跡は、縄文時代の陥し穴、縄文時代前期・古墳時代・奈良時代の堅穴建物跡、平安時代の堅穴建物跡、室町時代の掘立柱建物跡などが確認されており、縄文時代から江戸時代までの複合遺跡であると考えられている。本分析調査では、江戸時代の墓坑から出土した人骨 1 体について、性別・年齢等に関する情報を得ることとした。

### 2 試料

分析対象資料は、江戸時代の墓坑から、屈葬の状態でも出土した人骨 1 体分であり、23 の部位に分けて取り上げられている。便宜的に分析№1～23 の通し番号を付した。いずれの試料も乾燥した状態にある。なお、試料の詳細については結果とともに表示する。

### 3 分析方法

試料に砂・泥分が付着する場合は、乾いた筆等で静かに除去する。試料を肉眼で観察し、形態的特徴から種・部位を同定する。また、計測が可能な場合はデジタルノギスを用いて測定し、歯牙計測値は藤田（1949）に従う。なお、骨格各部位の名称を図 1 に示す。

### 4 結果

同定結果を表 1 に、確認された歯牙の歯式を表 2、歯牙計測値を表 3 に示す。

確認される部位は、前頭骨・左右頭頂骨、前頭骨、右側頭骨、左右鼻骨、脳頭蓋、頭蓋、左上上顎骨、左上顎第 1 大臼歯、左上顎第 2 大臼歯、右上顎第 3 大臼、左右下顎骨、歯牙、第 1 頸椎、肩甲骨？、左右上腕骨、桡骨 / 尺骨、左尺骨、尺骨、右橈骨、右尺骨、左第 2 中手骨、中手骨、指骨（第 1 指基節骨？・基節骨・

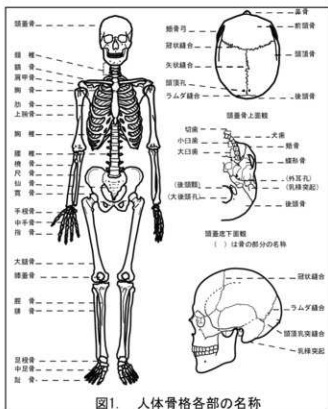


図1. 人体骨格各部位の名称

表1. 骨同定結果

遺体	No	種類	部位	左	右	状態等	数量	備考
SK128	1	ヒト	前頭骨 - 左右頭頂骨			破片	1	
			前頭骨			破片	1	
			側頭骨		右	破片	1	
			鼻骨	左	右	破片	1	
			脳頭蓋			破片	11	
			頭蓋			破片	1	
			不明			破片	18	
		残渣					293.89	g
	2	ヒト	上顎骨	左	右	破片	1	I1-P2 植立
			上顎第1大臼歯	左	右	破片	1	I1-M1 植立
			上顎第2大臼歯	左		歯根	1	歯冠部断端により欠如
				左		略定	1	
					右	略定	1	
			上顎第3大臼歯		右	略定	1	
			下顎骨	左	右	破片	1	左 M1 - 右 C 植立
			歯牙			歯根	1	
		残渣					13.14	g
	3	ヒト?	不明			破片	38.33	g 土塊状含む
	4	ヒト	上腕骨	左		両端欠	1	+
	5	ヒト	上腕骨		右	両端欠	1	+
	6	ヒト	橈骨/尺骨			破片	1	+
	7	ヒト	尺骨	左		近位端	1	
			尺骨			破片	1	+
	8	ヒト	橈骨		右	両端欠	1	+
	9	ヒト	尺骨		右	両端欠	1	+
	10	ヒト	第2中手骨	左		遠位端欠	1	近位端破損
			中手骨			両端欠	1	
						遠位端片	1	
			指骨(第1指基節骨?)			両端欠	1	
			指骨(基節骨?)			略定	1	
						遠位端欠	1	
			指骨(基節骨?)			近位端欠	2	
			指骨(基節骨/中節骨)			近位端欠	2	
			手部?			破片	425.55	g 土塊状
	11	ヒト	大頰骨	左		近位端片	1	
			大頰骨/脛骨	左		両端欠	1	
	12	ヒト	大頰骨		右	近位端片	1	
				右		両端欠	1	
			大頰骨遠位端 - 脛骨近位端		右	破片	1	+
			大頰骨/脛骨			破片	148.61	g 土塊状含む
	13	ヒト	脛骨	左		近位端	1	
				左		破片	1	+
				左		遠位端	1	
			腓骨?			破片	1	
	14	ヒト	脛骨		右	両端欠	1	+
	15	ヒト	腓骨?	左?		破片	1	+
		残渣					10.33	g
	16	ヒト	腓骨		右	破片	1	+
		残渣					10.68	g
	17	ヒト	胫骨	左		破損	1	
			足根骨(舟状骨)	左		破片	1	
			不明			破片	16	+
	18	ヒト	踵骨		右	破片	1	
			腓骨		右	略定	1	
			足根骨(舟状骨)		右	破片	1	
			足根骨(立方骨?)		右	破片	1	
			足根骨(中間楔状骨)		右	破片	1	
			第4中足骨		右	遠位端欠	1	
			中足骨			遠位端欠	2	近位端破損
			不明			破片	172.91	g 土塊状含む
	19	ヒト	第1跗骨			破片	1	
			跗甲骨?			跗骨?	1	
			中足骨?			近位端片?	1	
			中手骨/中足骨			両端欠	1	
			不明			破片	138	+
		釘等					17	
		残渣					730.72	g
	20	ヒト	不明			破片	10	+
	21	ヒト	不明			破片	22	+
		釘等					24	
		残渣					18.36	g

遺構	No.	種類	部位	左	右	状態等	数量	備考
	22	ヒト	不明			破片	37	+ 土塊を含む
		土器				破片	1	
		釘等					13	
		瓦片					67/65	g
	23	瓦片					184/99	g

凡例) I: 切歯 C: 犬歯 P: 小臼歯 M: 大臼歯

基節骨?・基節骨/中節骨, 手部?, 左右大腿骨, 右大腿骨遠位端・脛骨近位端, 左右脛骨, 大腿骨/脛骨, 左右腓骨, 左右距骨, 右踵骨, 左足根骨(舟状骨), 右足根骨(舟状骨・立方骨?・中間楔状骨), 右第4中足骨, 中足骨, 中足骨?, 中手骨/中足骨, 部位不明破片である。この他, 木片に付着する釘(表中では釘等と表記する)が検出される。

表2. 歯式

SK128	右									左								
	M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3		
上顎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○		
下顎					-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

凡例) I: 切歯 C: 犬歯 P: 小臼歯 M: 大臼歯 △: 歯根のみ -: 歯槽吸収

#### 4 考察

出土した人骨は, 出土時の状況を見ると, 膝を曲げて上肢で抱え込み, 手部を胸部の前に持ってきている。また, 試料中から釘等がみられることから, 本人骨は座位屈葬状態で木棺に埋葬されたと推測される。性差を反映しやすい部位, 寛骨や頭蓋の乳様突起・後頭骨隆起が欠損し, また前頭骨も前頭隆起や眉上隆起が破損するため, これらの部位から性差判定が難しい。一方, 四肢骨をみると, 比較的しっかりする印象があり, 上肢では尺骨長母指外転筋・長母指伸筋付近がやや発達し, 下肢骨では大腿骨殿筋粗面がやや発達, 脛骨のヒラメ筋線が発達する。また, 歯牙計測値を権田(1959)と比較すると, 男性的である。これらのことから, 本人骨は男性の可能性がある。年齢は, 右上顎第3大臼歯が確認されることから成人に達していたと判断され, 頭蓋において冠状縫合・矢状縫合の癒合

表3. 歯牙計測値

単位: mm

SK128	歯冠幅	歯冠厚				
		左	右			
上顎	第1切歯	I1	9.35	9.61	8.11	8.07
	第2切歯	I2	7.57	7.81	6.81	6.86
	犬歯	C	7.84	8.37	9.82	9.72
	第1小臼歯	P1	8.02	7.56	11.04	10.76
	第2小臼歯	P2	6.77	7.32	10.78	10.37
	第1大臼歯	M1	-	11.71	-	12.72
	第2大臼歯	M2	10.49	10.24	12.63	12.63
	第3大臼歯	M3		9.16		12.84
下顎	第1切歯	I1	5.75	5.43	6.86	6.85
	第2切歯	I2	6.35	6.01	7.63	7.57
	犬歯	C	6.91	7.38	8.97	8.82
	第1小臼歯	P1	7.24		9.55	
	第2小臼歯	P2	8.13		9.53	
	第1大臼歯	M1	11.53		11.77	
	第2大臼歯	M2				
	第3大臼歯	M3				

凡例) -: 計測不可

状態を観察すると, 内側が閉じており, 外側が開いていないことから, 熟年程度と判断される。なお, 歯牙の状況を見ると, 右下顎第1小臼歯部の歯槽が閉じかけており, 左上顎第1大臼歯の歯冠部は触れにより欠損するなど口腔内の衛生状況が悪いが, これらは加齢に伴うものと推測される。ただし, 全体的に歯牙の咬耗状態が弱く, 大臼歯でみると, 左下顎第1大臼歯において象牙質が僅かに露出する程度であり, 右上顎第1大臼歯・左上顎第2大臼歯・右上顎第3大臼歯はエナメル質が咬耗する程度にとどまり, 象牙質が露出しない。歯の咬耗すなわち歯の歯冠部分の咬合面の摩耗は, 食物の種類や調理内容に強く関係している(片山

1990)。おそらく、埋葬者は、比較的軟らかい食材を主に食していた可能性がある。

引用文献

藤田 和良. 1969. 歯の大きさの性差について. 人類学雑誌. 67,151-163

藤田 恒太郎. 1949. 歯の計測基準について. 人類学雑誌. 61,27-32

片山 一道. 1990. 古人骨は語る—骨考古学ことはじめ—, 株式会社同朋舎出版, 210p

図版1 出土人骨



1. ヒト前頭骨—左右頭頂骨 (SK128; No. 1)
3. ヒト前歯 (SK128; No. 1)
5. ヒト右上顎骨 (SK128; No. 2)
7. ヒト左上顎骨 (SK128; No. 2)
9. ヒト右上顎第2大臼歯 (SK128; No. 2)
11. ヒト右上顎第3大臼歯 (SK128; No. 2)
13. ヒト肩甲骨 (SK128; No. 19)
15. ヒト右腕骨 (SK128; No. 8)
17. ヒト左尺骨 (SK128; No. 7)
19. ヒト左上腕骨 (SK128; No. 4)
21. ヒト左第2中手骨 (SK128; No. 10)
23. ヒト中手骨 (SK128; No. 10)
25. ヒト指骨 (基節骨) (SK128; No. 10)
27. ヒト指骨 (基節骨?) (SK128; No. 10)
29. ヒト右大腿骨近位端 (SK128; No. 12)
31. ヒト右脛骨 (SK128; No. 14)
33. ヒト左?脛骨? (SK128; No. 15)
35. ヒト左脛骨近位端 (SK128; No. 13)
37. ヒト左脛骨近位端 (SK128; No. 13)
39. ヒト左大腿骨 (SK128; No. 11)
41. ヒト右趾骨 (SK128; No. 18)
43. ヒト右足根骨 (立方骨?) (SK128; No. 18)
45. ヒト右第4中足骨 (SK128; No. 18)
47. ヒト左距骨 (SK128; No. 17)
49. ヒト中足骨? (SK128; No. 19)

2. ヒト右側頭骨 (SK128; No. 1)
4. ヒト左右鼻骨 (SK128; No. 1)
6. ヒト左上顎骨 (SK128; No. 2)
8. ヒト左上顎第1大臼歯 (SK128; No. 2)
10. ヒト右上顎第2大臼歯 (SK128; No. 2)
12. ヒト第1頰骨 (SK128; No. 19)
14. ヒト右上腕骨 (SK128; No. 5)
16. ヒト右尺骨 (SK128; No. 9)
18. ヒト左上腕骨 (SK128; No. 4)
20. ヒト左上腕骨 (SK128; No. 4)
22. ヒト中手骨 (SK128; No. 10)
24. ヒト指骨 (第1指基節骨?) (SK128; No. 10)
26. ヒト指骨 (基節骨) (SK128; No. 10)
28. ヒト指骨 (基節骨 / 中節骨) (SK128; No. 10)
30. ヒト右大腿骨 (SK128; No. 12)
32. ヒト右脛骨 (SK128; No. 16)
34. ヒト脛骨? (SK128; No. 13)
36. ヒト左脛骨 (SK128; No. 13)
38. ヒト左大腿骨近位端 (SK128; No. 11)
40. ヒト右趾骨 (SK128; No. 18)
42. ヒト右足根骨 (舟状骨) (SK128; No. 18)
44. ヒト右足根骨 (中間楔状骨) (SK128; No. 18)
46. ヒト左足根骨 (舟状骨) (SK128; No. 17)
48. ヒト中足骨 (SK128; No. 18)
50. ヒト中手骨 / 中足骨 (SK128; No. 19)



写 真 图 版

築 地 遺 跡  
宮 原 前 遺 跡 2



PL1

遺跡全景  
(北西から)



遺跡全景  
(東から)



調査A区全景  
(北から)



PL2



調査 A 区 東側  
( 南 から )



調査 B 区 全景  
( 北 東 から )



調査 B 区 全景  
( 北 から )



調査前現況 (西から)



調査A区完掘状況① (北西から)



調査A区完掘状況② (北東から)



調査A区完掘状況③ (南西から)



調査A区完掘状況④ (南西から)



調査A区完掘状況⑤ (東から)



調査B区完掘状況① (北東から)



調査B区完掘状況② (北西から)

PL4



第1・4・7号竪穴  
建物跡（南から）



第4・55号竪穴  
建物跡（南から）



第5・19号竪穴  
建物跡（南から）

第1・7・12号  
竪穴建物跡(南から)



第8号竪穴建物跡  
(南から)



第9・13号竪穴  
建物跡(南から)





第1号豎穴建物跡遺物出土状況



第1号豎穴建物跡（南から）



第3号豎穴建物跡（南から）



第3号豎穴建物跡遺物出土状況（南西から）



第5号豎穴建物跡P4遺物出土状況



第8号豎穴建物跡（北西から）



第6号豎穴建物跡炉（西から）



第8号豎穴建物跡遺物出土状況①（北東から）





第8号竪穴建物跡遺物出土状況② (北から)



第8号竪穴建物跡P53・54遺物出土状況 (北東から)



第8号竪穴建物跡 (南から)



第9号竪穴建物跡P20遺物出土状況 (北東から)



第11号竪穴建物跡 (南から)



第13号竪穴建物跡P49遺物出土状況 (北から)



第14号竪穴建物跡 (北から)



第15号竪穴建物跡 (南から)



第15号竪穴建物跡P40遺物出土状況（南から）



第19号竪穴建物跡遺物出土状況①（南から）



第19号竪穴建物跡遺物出土状況②（南から）



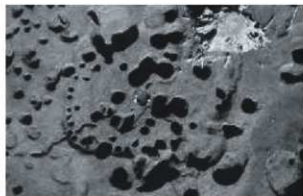
第19号竪穴建物跡遺物出土状況③（南から）



第20号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）



第20号竪穴建物跡炉（北から）



第20号竪穴建物跡（南から）



第24・27号竪穴建物跡（南から）



第25号竖穴建物跡遺物出土状況



第29号竖穴建物跡P 8 遺物出土状況 (北から)



第22・25号竖穴建物跡土層断面 (北から)



第31号竖穴建物跡遺物出土状況 (南から)



第35号竖穴建物跡遺物出土状況① (南から)



第35号竖穴建物跡遺物出土状況②



第35号竖穴建物跡遺物出土状況③



第35号竖穴建物跡P110遺物出土状況 (南東から)

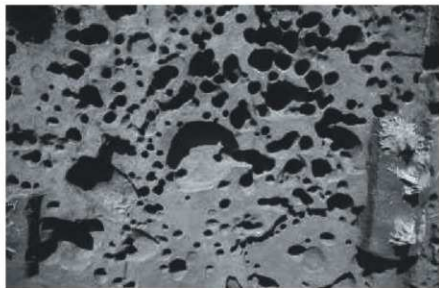
PL10



第 22・23・25・28  
～30号竖穴建物跡、  
第 3 号地下式坑、  
第 1 号井戸跡  
(南から)



第24・27・29号竖穴  
建物跡(北から)



第35・39・47号竖穴  
建物跡(北から)

第 34・54・59 号  
竪穴建物跡 (南から)



第 44・46号 竪穴  
建物跡 (南から)



第 48・49号 竪穴  
建物跡 (南から)





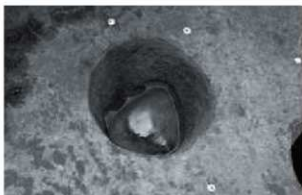
第35号竪穴建物跡P122遺物出土状況（北から）



第35号竪穴建物跡P122・123土層断面（北から）



第36号竪穴建物跡P4遺物出土状況（南東から）



第36号竪穴建物跡P56遺物出土状況（南東から）



第37号竪穴建物跡P22・23（南から）



第39号竪穴建物跡遺物出土状況①（北から）

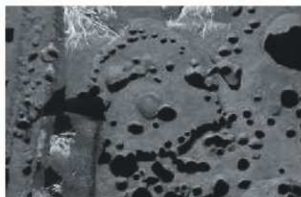


第39号竪穴建物跡遺物出土状況②（北西から）



第41号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）





第41号竪穴建物跡（南から）



第43号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）



第43号竪穴建物跡遺物・焼土出土状況（南から）



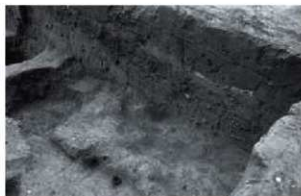
第43号竪穴建物跡炭化材・焼土出土状況（南から）



第43号竪穴建物跡土層断面①（南から）



第43号竪穴建物跡土層断面②（東から）



第43号竪穴建物跡土層断面③（北から）



第43号竪穴建物跡焼土出土状況（北から）



第45号竪穴建物跡遺物出土状況①（南から）



第45号竪穴建物跡遺物出土状況②（南東から）



第45号竪穴建物跡（南から）



第46号竪穴建物跡（南から）



第48号竪穴建物跡遺物出土状況①（西から）



第48号竪穴建物跡遺物出土状況②（西から）



第51号竪穴建物跡（南から）



第53号竪穴建物跡遺物出土状況（北東から）





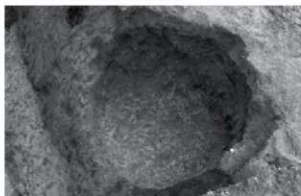
第53号竪穴建物跡P17遺物出土状況（北東から）



第4・168号土坑（北から）



第5号土坑（北から）



第26号土坑（北東から）



第28号土坑遺物出土状況①（東から）



第28号土坑遺物出土状況②（東から）



第28号土坑（北東から）



第29号土坑（北東から）



第32号土坑（南から）



第33号土坑（北から）



第33号土坑南部（北から）



第34号土坑（北東から）



第34号土坑遺物出土状況（北東から）



第39号土坑遺物出土状況（南西から）



第45号土坑遺物出土状況（南西から）



第45号土坑（南から）



第54号土坑遺物出土状況（東から）



第75・78・79号土坑（北西から）



第99号土坑（南から）



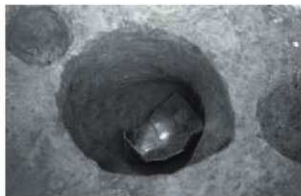
第102号土坑（東から）



第103・104号土坑（北西から）



第105号土坑遺物出土状況（南から）



第272号土坑遺物出土状況（南東から）



第1号粘土貼土坑（北から）



第105号土坑（北西から）



第106号土坑遺物出土状況（南東から）



第106～111号土坑（東から）



第113号土坑（南西から）



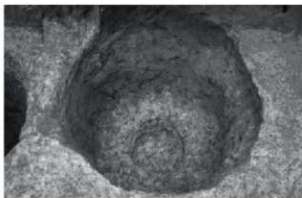
第121号土坑遺物出土状況（南東から）



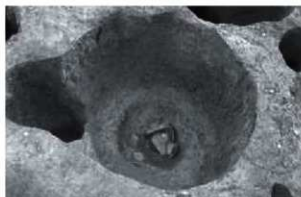
第122号土坑遺物出土状況（西から）



第122号土坑（南から）



第126号土坑（東から）



第127号土坑遺物出土状況（北東から）



第127号土坑（北東から）



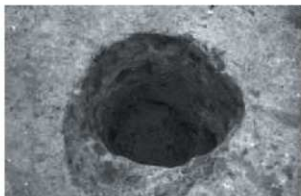
第129号土坑・第16号竪穴建物跡P15（東から）



第134号土坑（北西から）



第135号土坑土層断面（南東から）



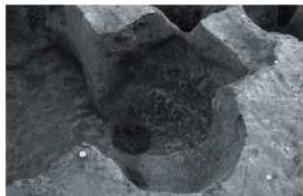
第140号土坑（東から）



第141・142号土坑（南東から）



第143号土坑遺物出土状況（東から）



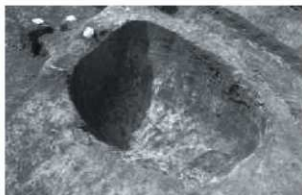
第143号土坑（北から）



第144号土坑（東から）



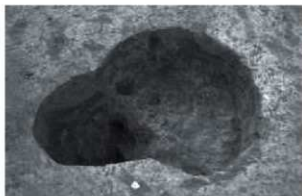
第146号土坑（北から）



第147号土坑（北東から）



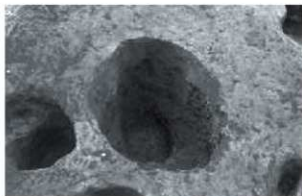
第148・158号土坑（南から）



第149号土坑（東から）



第150号土坑（北東から）



第153号土坑（北から）





第157号土坑（西から）



第159号土坑（東から）



第163号土坑遺物出土状況①（北東から）



第163号土坑遺物出土状況②（北東から）



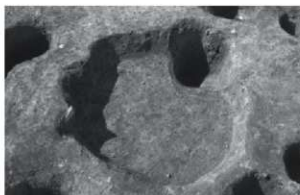
第166号土坑遺物出土状況（南西から）



第166号土坑（南から）



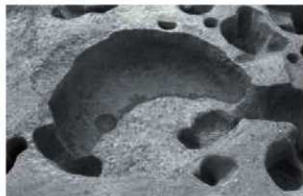
第168号土坑遺物出土状況（西から）



第178号土坑（東から）



第179号土坑遺物出土状況（北東から）



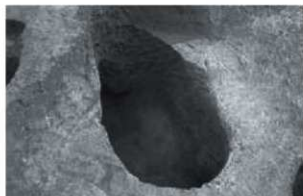
第180号土坑（北から）



第190号土坑（西から）



第229号土坑（南東から）



第198号土坑（北から）



第199・200号土坑（南から）



第204号土坑（北から）



第208号土坑（南から）





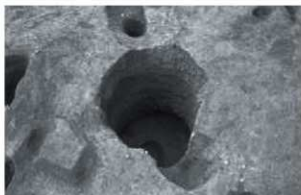
第223・243号土坑（東から）



第223号土坑上面遺物出土状況（南から）



第224号土坑（北から）



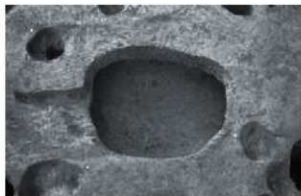
第228号土坑（北東から）



第231号土坑（北東から）



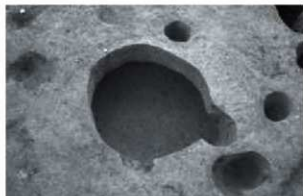
第232号土坑遺物出土状況（南西から）



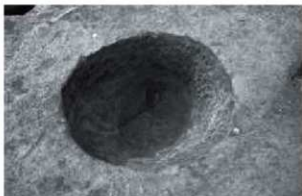
第232号土坑（南から）



第233号土坑遺物出土状況（北から）



第233号土坑（北東から）



第235号土坑（北東から）



第246号土坑（南から）



第247号土坑（南から）



第253～255・270号土坑（東から）



第2号遺物包含層Aベルト土層断面（西から）



第2号遺物包含層遺物出土状況（耳飾り）



第2号遺物包含層Dベルト東土層断面①（北から）



第2号遺物包含層Dベルト東土層断面②（北から）



第2号遺物包含層Dベルト西土層断面（北東から）



第1号遺物包含層遺物出土状況



第1号遺物集中地点遺物出土状況①



第1号遺物集中地点遺物出土状況②



第1号遺物集中地点遺物出土状況③



第1号掘立柱建物跡（南から）



第1号地下式坑（南から）



第2号地下式坑（北東から）



第4号地下式坑（東から）



第6号地下式坑（北東から）



第7号地下式坑（南から）



第1号粘土探掘坑（北から）



第1号粘土探掘坑、第74～79号土坑（南から）



第1号掘跡（南から）



第2～4号溝跡（北から）

PL27



第1・5・6・8・9・11号竪穴建物跡出土土器



第1·4·5·9·11号竖穴建物跡出土土器

PL29







PL31



第36・48・53号竪穴建物跡，第272号土坑，第1号遺物集中地点出土土器



SI 53-16



SK127-2



SK168-4



SK122-3



SK179-2



SK34-3



SK34-1



SK254-1

PL33



SK253-1



HG2-166



HG2-893



HG1



SK218-1



SK223-5



SK166-1



SK233-1

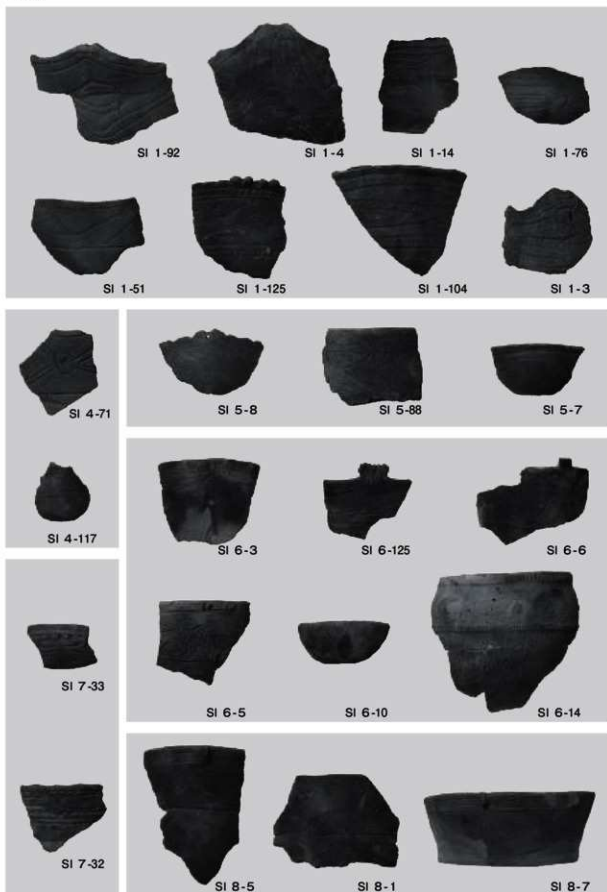
第166・218・223・233・253号土坑，第1・2号遺物包含層出土土器



第35·43号竖穴建物跡，第29·106·122·135号土坑，第2号包含層出土土器



第22・25・29・35・39号竪穴建物跡，第223号土坑，第2号地下式土坑出土土器，第194号土坑出土土磁器

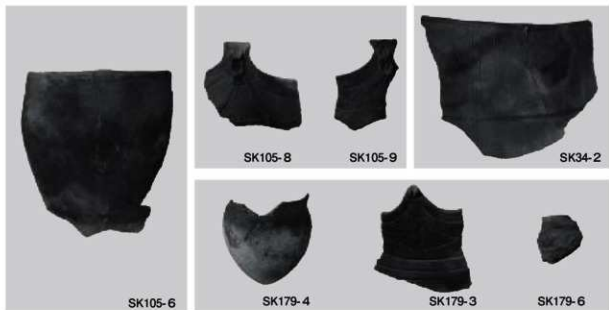


第1·4·5·6·7·8号竖穴建物跡出土土器

PL37



第11・13・20・22・23・24・41・43・45・47号竪穴建物跡，第29・39号土坑出土土器



第6号竖穴建物跡，第34・105・179号土坑，第2号遺物包含層出土土器





第1・4・5・6・8・19号竪穴建物跡出土土偶



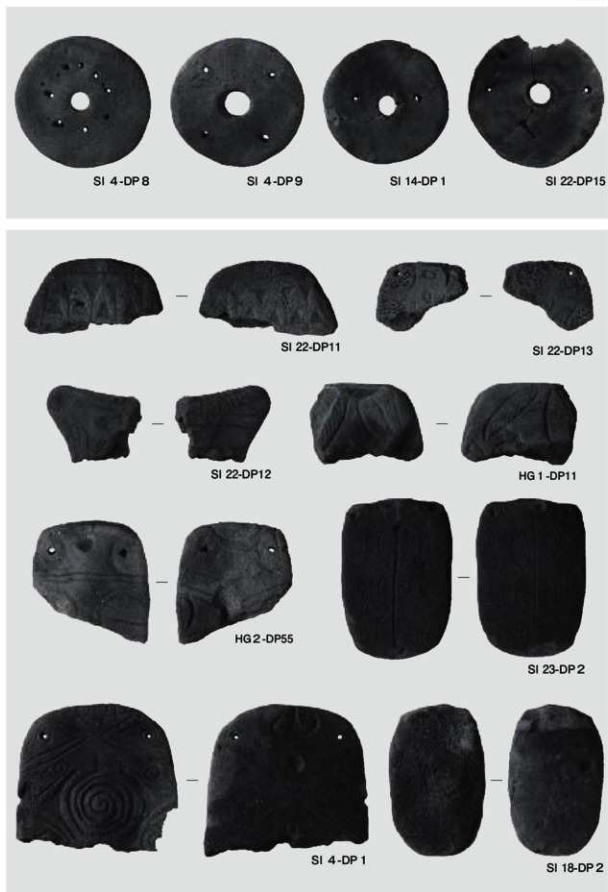
第12・15・22・25・39・47号竖穴建物跡，第54号土坑，第1号遺物集中地点，第2号遺物包含層出土土偶



第1・2号遺物包含層出土土偶

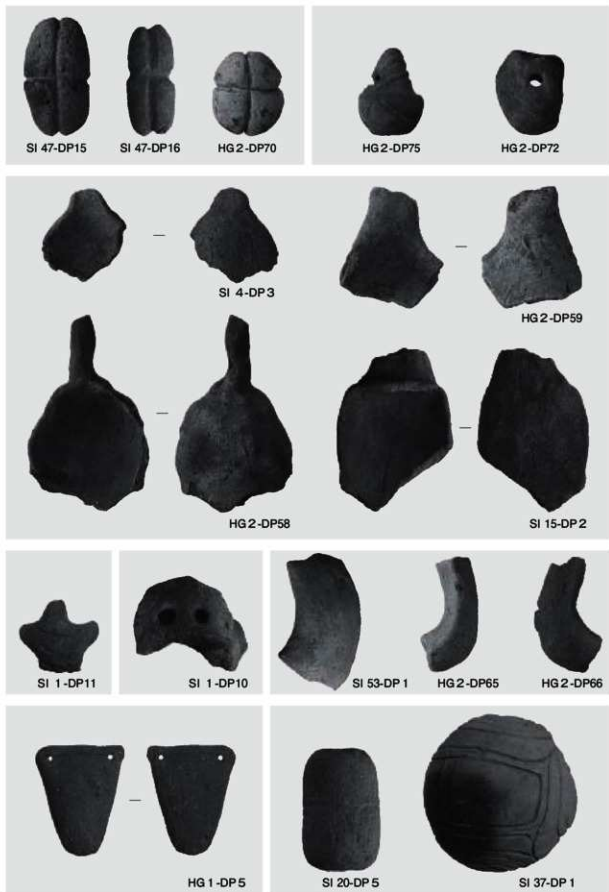


第 1・20・22・34・35・39・47号竖穴建物跡，第 8・223号土坑，第 1・2号遺物包含層出土耳飾り



第4・14・18・22・23号竖穴建物跡，第1・2号遺物包含層出土土製品

PL44



第1・4・15・20・37・47・53号竖穴建物跡，第1・2号遺物包含層出土土製品

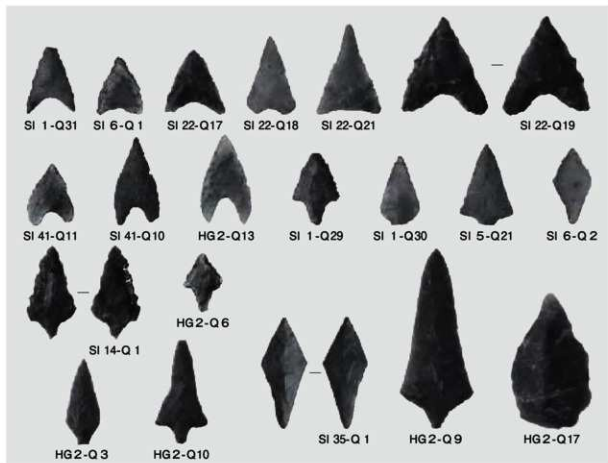


第1・2・5・6・12・14・15・18・19・22・25・35・45・47号竪穴建物跡，第2号遺物包含層出土石器・石製品



第 1 · 4 · 6 · 9 · 20 · 22 · 23 · 35 · 41 · 47 · 53号竖穴建物跡, 第33 · 273号土坑, 第2号遺物包含層出土石器 · 石製品





第1・3・5・6・22・14・35・41号竪穴建物跡，第272号土坑，第1・2号遺物包含層出土石器



第 1 · 3 · 4 · 5 · 22 · 23 · 28 · 35 · 36 · 39 · 47号竖穴建物跡，第41 · 105 · 143号土坑，第2号遺物包含層出土石器，骨角器，木製品

PL49



D区全景



E・F区全景

PL50



第30号竖穴建物跡



第31号竖穴建物跡  
遺物出土状況



第31号竖穴建物跡

PL51



第37号竖穴建物跡



第39号竖穴建物跡



第40号竖穴建物跡  
竈切石出土状況



第41号竖穴建物跡



第34号竖穴建物跡



第10号井戸跡



SI 42-3



SI 42-1



SI 32-1



SI 38-1



SI 40-1

第32・35・36・38・40・42号竪穴建物跡、第124号土坑出土土器

PL54



第25・30・31・34・37・44号竖穴建物跡，第10号井戸跡出土土器



PL55



SI 31-6



SE10-2



SI 37-4



SI 41-2



SI 34-5



SI 37-6



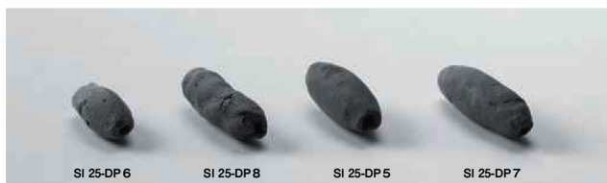
SI 34-6

第31・34・37・41号竖穴建物跡，第10号井戸跡出土土器

PL56



第12号掘立柱建物跡出土陶器，第14・18号溝跡出土土器，陶器



第25・30・41号竪穴建物跡，第6号井戸跡，第21号溝跡，第9号ビット群，遺構外出土土製品，石器



SI 34-Q 1



SD18-Q 1



SD18-Q 2



PG9-Q 2



SI 40-Q 1



SI 32-M 1



SD19-M 1



SI 40-Q 2



SD17-M 1



SD14-M 1



SI 40-Q 3



第1号墓坑-M 1

第32・34・40号竖穴建物跡，第1号墓坑，第14・17・18・19号溝跡，第9号ピット群出土石器，鉄製品，銅製品，銭貨

## 抄 録

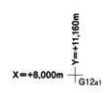
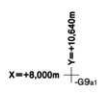
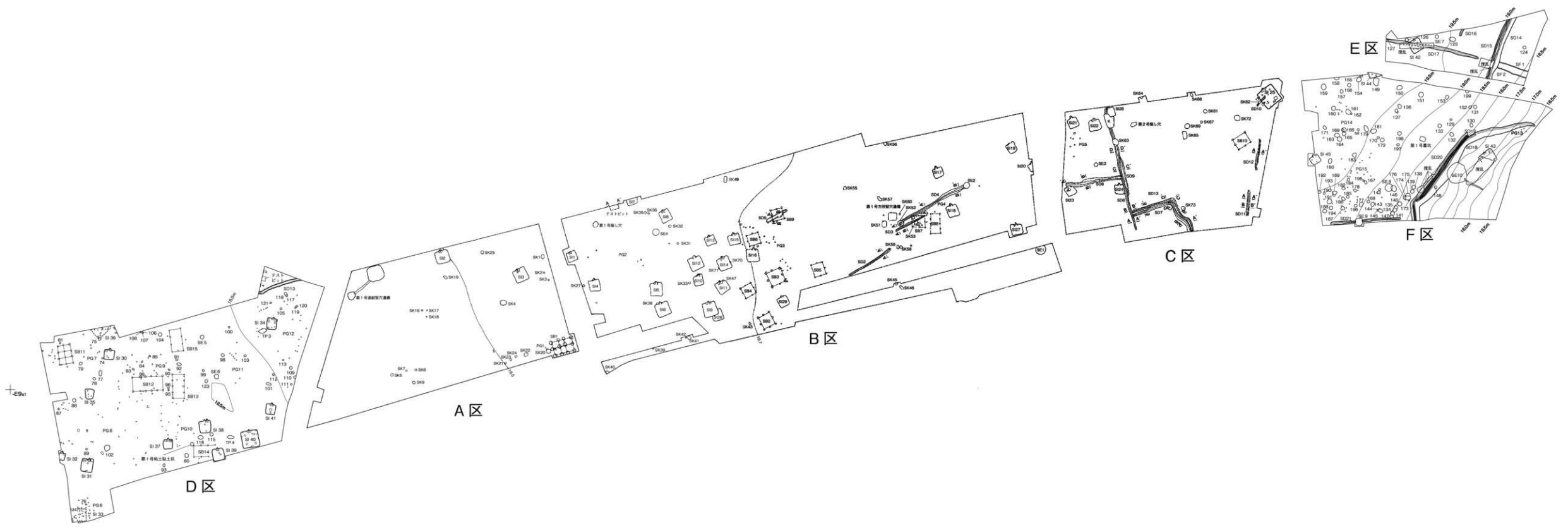
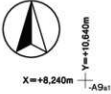
ふりがな	ついでいせき みやはらまえていせき2								
書名	築地遺跡 宮原前遺跡2								
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第427集								
著者名	江原美奈子 近江屋成陽 矢ノ倉正男								
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587								
発行日	2018(平成30)年3月16日								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
築地遺跡	茨城県常総市 大輪町字築地 754番地の1ほか	08211 - 020	36度 04分 24秒	139度 57分 54秒	18 ~ 20m	20140401 ~ 20141031	2,908㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う事前調査	
宮原前遺跡	茨城県常総市 大生郷町字宮原前 3448番地ほか	08211 - 014	36度 04分 21秒	139度 57分 06秒	19 ~ 20m	20140401 ~ 20141031 20150201 ~ 20150331 20150409 ~ 20150430	4,795㎡  1,641㎡  4,010㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
築地遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡	69棟	縄文土器、土製品(土鍾・土器片・土器片・土版・土版・有孔円盤・動物形・匙形・棒状・貝輪状・土器片円盤・垂飾品)、石器・石製品(石鏃・石鏃・磨製石斧・打製石斧・石皿類・磨石類・石鍾・砥石・礫器・垂飾品・石剣・石棒類・鉄結石)、骨角製品(骨鏃・骨鏃・骨鏃・骨鏃・骨鏃・骨鏃)				
			土坑	193基					
			炉跡	3か所					
	ピット群	10か所							
			遺物包含層	2か所					
			遺物集中地点	1か所					
	室町		地下式坑	6基	土師質土器(小皿・内耳鍋・播鉢・火鉢)、陶器(小皿・天目茶碗・香炉・瓶子・甕)、石器・石製品(石臼・茶臼・宝篋印塔)				
	江戸		掘立柱建物跡	1棟	土師質土器(甗・甗)、陶器(碗・大鉢)、磁器(仏飯器・碗)、金属製品(煙管・釘)				
			井戸跡	1基					
			粘土貼土坑	2基					
			土坑	5基					
	その他	時期不明	粘土採掘坑	1基					
			土坑	4基					
			溝跡	3条					

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宮原前遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡	3棟	縄文土器(深鉢)
			陥し穴	2基	
			土坑	4基	
		古墳	竪穴建物跡	2棟	土師器(坏・椀・甕)、須恵器(坏・甕)、土製品(管状土鍾・羽口)
			奈良	竪穴建物跡	5棟
		井戸跡		1基	
		平安	土坑	1基	
竪穴建物跡	7棟		土師器(坏・椀・高台付坏・皿・甕・小形甕)、須恵器(坏・鉢・甕・甗)、土製品(土玉・紡錘車)、石器(砥石)		
室町	井戸跡	2棟	土師質土器(内耳鍋)、陶器(天目茶碗)		
	井戸跡	1基			
	粘土貼土坑	1基			
江戸	土坑	1基			
	井戸跡	2基	土師質土器(小皿・焙烙)、陶器(碗・皿・小皿・鉢・播鉢・片口鉢)、石器(砥石)、金属製品(煙管、銭貨)		
	墓坑	1基			
	土坑	3基			
	溝跡	5条			
その他	時期不明	道路跡	2条		
		掘立柱建物跡	3棟	須恵器(坏)、陶器(鉢・播鉢)、土製品(管状土鍾・泥面子)、石器(石鏝・砥石)、金属製品(刀子・煙管)	
		土坑	102基		
溝跡	4条				
ピット群	10か所				
要約	<p>築地遺跡は、縄文時代中期前半から晩期中葉の集落跡で、後期以降は層厚のある遺物包含層が堆積し、多量の遺物が出土している。反復的に多数の建物や土坑が構築されている様子が捉えられ、関東地方の後・晩期に見られる、いわゆる「環状盛土遺構」と類似する遺跡である。</p> <p>宮原前遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合集落遺跡である。竪穴建物跡や掘立柱建物跡が確認され、黒書土器が出土していることから、律令体制下の農村集落として機能していたと考えられる。また中・近世においては、瀬戸・美濃系の陶器類が出土していることから、当地においても陶器の流通が広く伝わっていることがわかる。</p>				



付図 築地遺跡全体図（『茨城県教育財団文化財調査報告』第427集）

0 20m



付図 宮原前遺跡全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第427集)





## 印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Home
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS4
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
	図面類	EPSON ES-1000G RICOH imagio MPW4001
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第427集

## 築地遺跡 宮原前遺跡 2

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道  
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成30（2018）年 3月15日 印刷

平成30（2018）年 3月16日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587  
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけぼの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号  
TEL 029-227-5505